

危険物に係る事故事例（令和5年）流出編

消
防
庁

危険物に係る事故事例 （令和5年） 流 出 編

消 防 庁

これは、令和5年1月1日から令和5年12月31日までの間に全国で発生した危険物に係る事故について、各都道府県から報告された「危険物に係る事故報告」を基に取りまとめたものである。

目 次

I 令和5年中の危険物に係る事故の概要	1
1 概 況	3
2 火災事故	7
（1）火災事故の発生及び被害の状況	7
（2）出火の原因に関係した物質	7
（3）火災事故の発生原因及び着火原因	8
3 流出事故	19
（1）流出事故の発生及び被害の状況	19
（2）流出した危険物	20
（3）流出事故の発生原因	20
4 コンタミ事故	30
5 令和5年中に発生した重大事故	31
（1）火災事故	31
（2）流出事故	33
II 令和5年中の危険物に係る事故	35
流出事故	39
1. 製造所	41
2. 屋内貯蔵所	189
3. 屋外タンク貯蔵所	199
4. 地下タンク貯蔵所	405
5. 移動タンク貯蔵所	479
6. 屋内タンク貯蔵所	583
7. 屋外貯蔵所	591
8. 給油取扱所	597
9. 移送取扱所	739
10. 一般取扱所	781
11. 無許可施設	995
12. 運搬	1003

I 令和 5 年中の危険物に係る事故の概要

1 概 況

危険物施設における火災事故及び流出事故の件数は平成6年の287件（火災事故113件、流出事故174件）から増加に転じ、平成19年以降は、高い水準で横ばいの状況が続いている。（第1図、第2図、第3図参照）

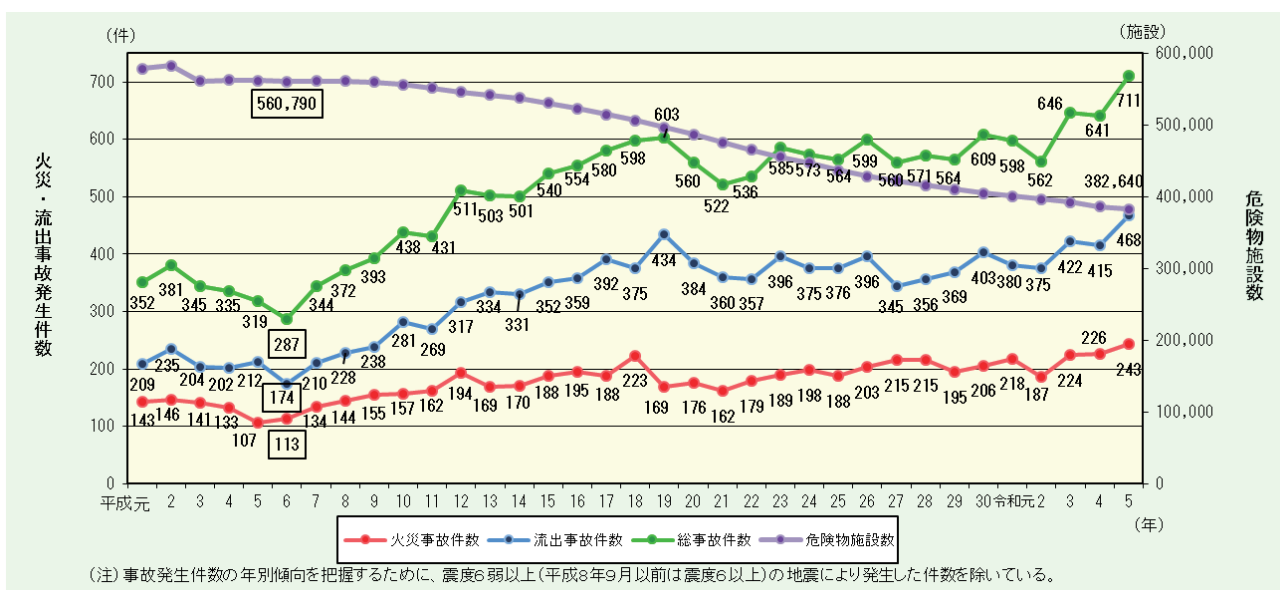
令和5年中（令和5年1月1日～令和5年12月31日）の事故件数については、火災事故が243件（前年226件）、流出事故が468件（前年415件）となっており、重大事故については、火災事故が10件（前年10件）、流出事故が12件（前年11件）となっている。（第1表、第4図、第5図参照）

また、無許可施設、危険物運搬中等の危険物施設以外での事故は19件（前年19件）であり、その内訳は、火災事故が5件（前年6件）、流出事故が14件（前年13件）となっている。（第1表参照）

火災事故による被害は、死者1人（前年2人）、負傷者30人（前年39人）、損害額78億4056万円（前年32億7,153万円）となっており、流出事故による被害は、死者0人（前年0人）、負傷者11人（前年20人）、損害額8億8589万円（前年5億6,731万円）となっている。（第2表参照）

なお、本概要においては、被害場所地点における震度6弱以上の地震による被害（事故件数、死傷者数、損害額等全て）を除外している。

第1図 危険物施設における火災事故・流出事故の発生件数及び危険物施設数の推移



- ・ 損害額等については、調査中のものがあり、変動することがある。
- ・ 合計欄の値が四捨五入により各値の合計と一致しない場合がある。

第 1 表 令和 5 年中に発生した危険物に係る事故の概要

区分		事故の態様		火 災 事 故			流 出 事 故			
		発生件数等	火災及び 流出事故 発生件数 (A)+(B)	発生件数 (A)	被 害		発生件数 (B)	被 害		
					死者数	負傷者数		損害額 (万円)	死者数	負傷者数
危険物施設		711	243 (10)	1	29	780,267.0	468 (12)	0	11	88,539.0
危険物施設以外	無許可施設	7	4	0	1	3,553.0	3	0	0	5.0
	危険物運搬中	12	1	0	0	236.0	11	0	0	45.0
	仮貯蔵・仮取扱い	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	小 計	19	5	0	1	3,789.0	14	0	0	50.0
合 計		730	248	1	30	784,056.0	482	0	11	88,589.0

(注) 1 () 内の数値は重大事故の件数を示す。

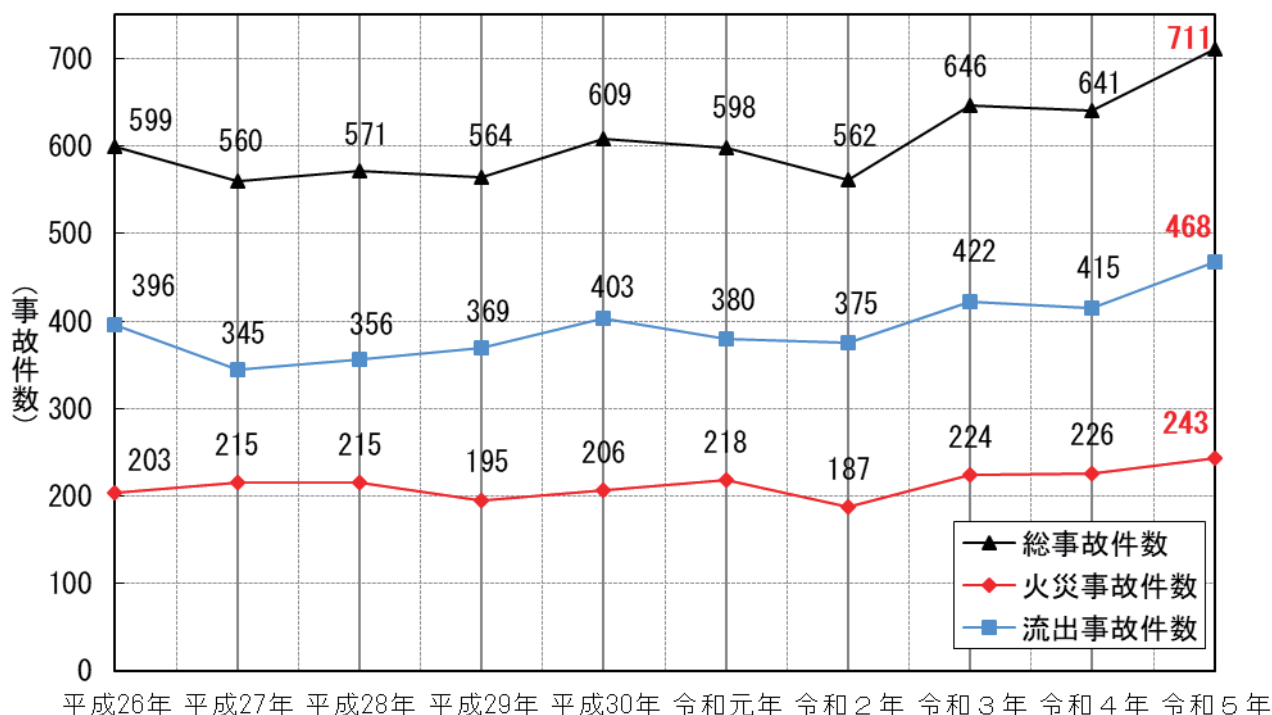
2 火災事故に係る重大事故は、危険物施設で発生した火災事故のうち、①死者が発生した事故（人的被害指標）、②事業所外に物的被害が発生した事故（影響範囲指標）、③収束時間（事故発生から鎮圧までの時間）が4時間以上要した事故（収束時間指標）のいずれかに該当する事故をいう。また、流出事故に係る重大事故は、危険物施設で発生した流出事故のうち、①死者が発生した事故（人的被害指標）、②河川や海域など事業所外へ広範囲に流出し、かつ、流出した危険物量が指定数量の1倍以上の事故（流出被害指標）、③事業所周辺のみ流出し、かつ、流出した危険物量が指定数量の10倍以上の事故（流出被害指標）のいずれかに該当する事故をいう（「危険物施設における火災・流出事故に係る深刻度評価指標の一部改正について」（令和2年12月7日付け消防危第287号））。

第 2 表 危険物に係る事故の発生件数等の推移（最近の10年間）

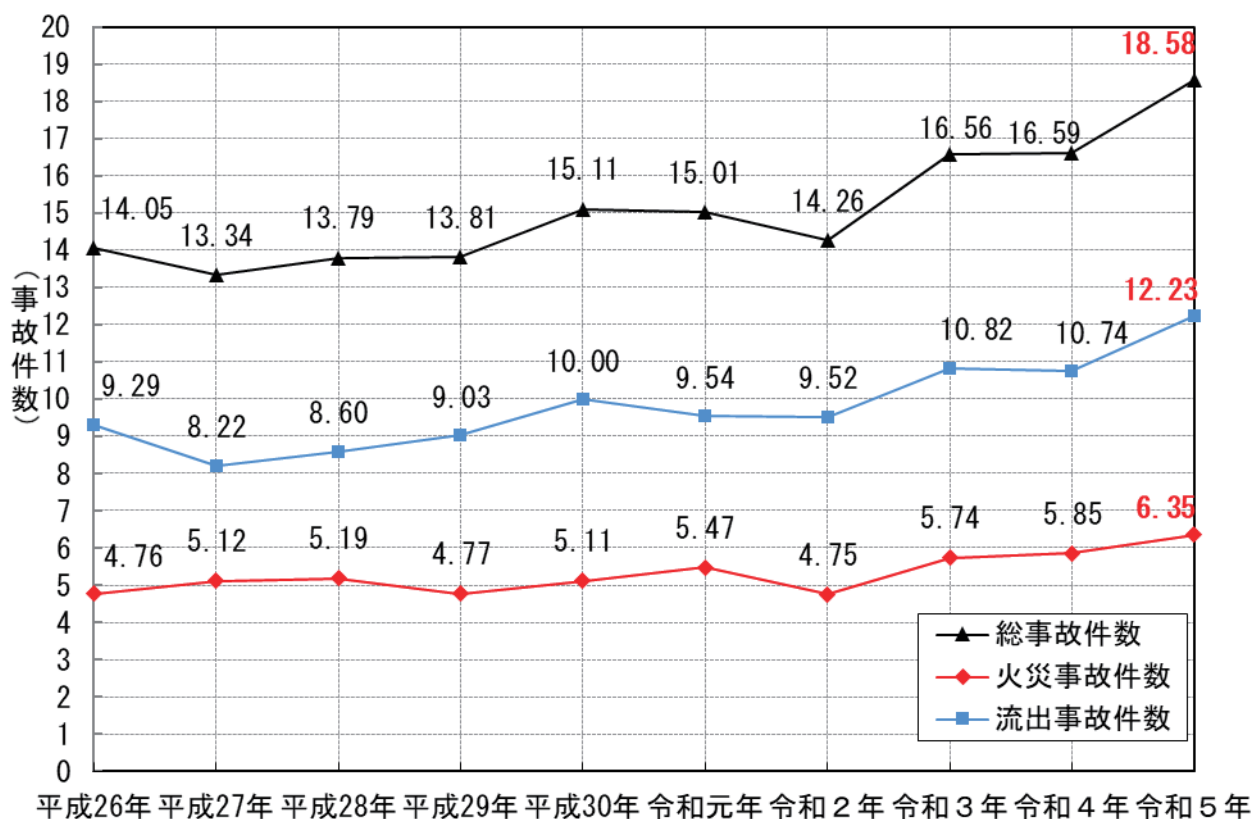
年	事故の態様 発生件数等	火災及び 流出事故 発生件数 (A) + (B)	火 災 事 故			流 出 事 故				
			発生件数 (A)	被害			発生件数 (B)	被害		
				死者数	負傷者数	損害額 (万円)		死者数	負傷者数	損害額 (万円)
	平成26年	621	209	2	69	218, 622. 0	412	0	30	42, 421. 0
	平成27年	589	226	2	45	813, 688. 0	363	2	11	38, 624. 0
	平成28年	598	225	2	57	130, 682. 0	373	0	30	28, 308. 0
	平成29年	582	197	2	51	267, 320. 0	385	0	34	44, 247. 0
	平成30年	633	211	2	122	247, 860. 0	422	0	28	49, 482. 0
	令和元年	619	222	4	40	561, 299. 0	397	0	27	105, 756. 0
	令和 2 年	576	190	2	35	113, 090. 0	386	0	23	23, 036. 0
	令和 3 年	667	232	0	39	710, 747. 0	435	1	32	47, 712. 0
	令和 4 年	660	232	2	39	327, 153. 0	428	0	20	56, 731. 0
	令和 5 年	730	248	1	30	784, 056. 0	482	0	11	88, 589. 0

(注) 危険物施設、無許可施設、危険物運搬中及び仮貯蔵・仮取扱い中の火災事故及び流出事故について掲載した。

第2図 危険物施設における火災事故及び流出事故の件数の推移（最近の10年間）

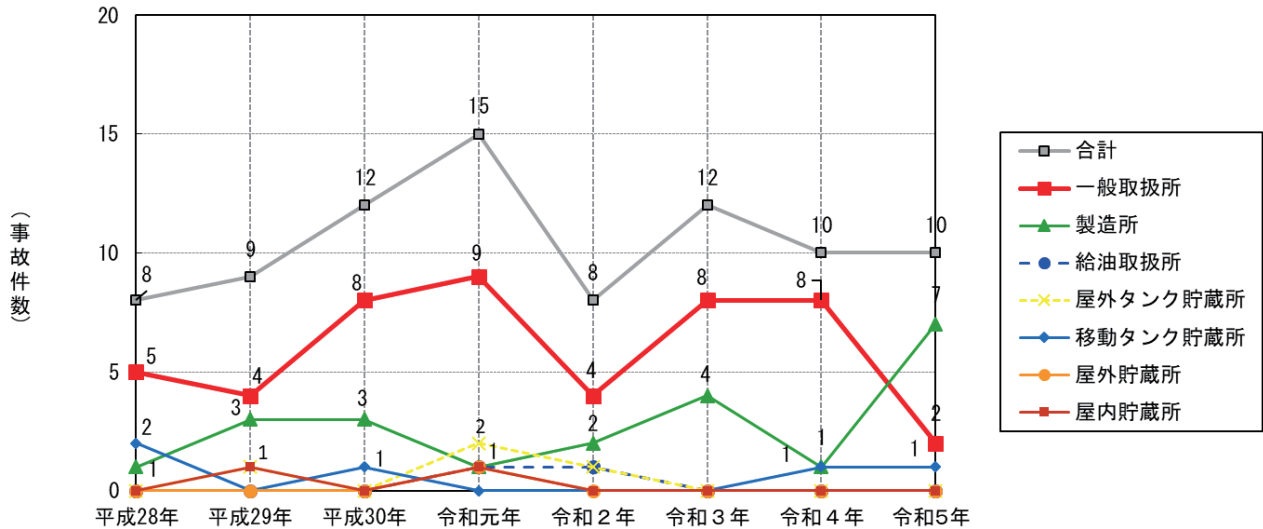


第3図 危険物施設1万施設当たりの火災事故及び流出事故の件数の推移（最近の10年間）



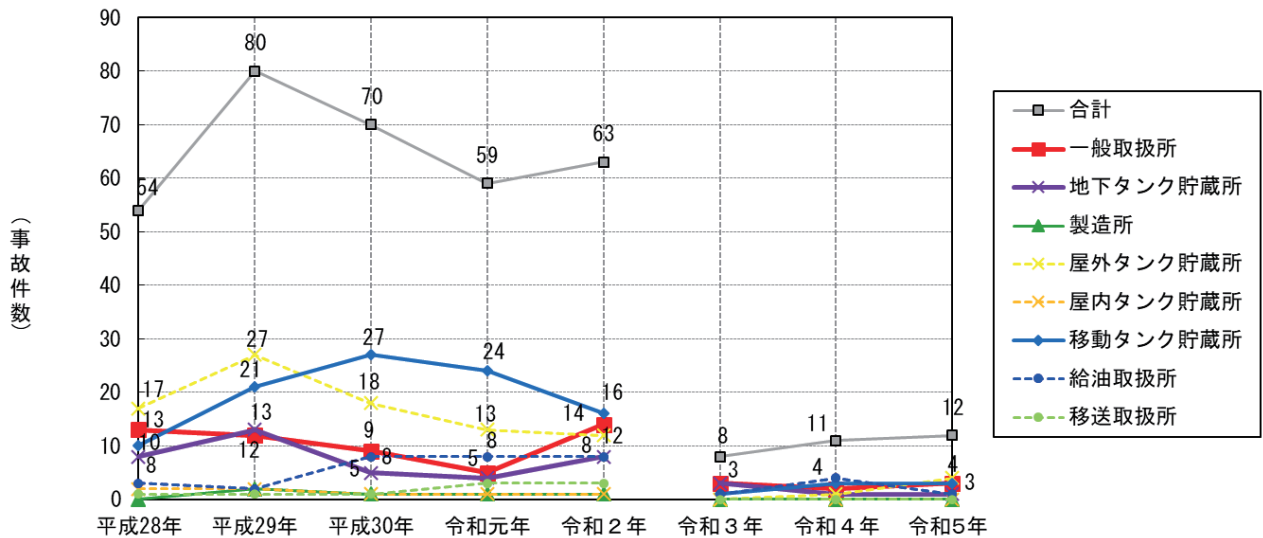
（注）1万施設当たりの発生件数における施設数は各年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。

第4図 危険物施設における火災事故に係る重大事故の件数の推移（最近の8年間）



- (注) 1 過去5年間の件数は第5表を参照。
 2 屋内タンク貯蔵所、地下タンク貯蔵所、簡易タンク貯蔵所、第一種販売取扱所、第二種販売取扱所及び移送取扱所の火災による重大事故は統計をとり始めてからの8年間発生していない。
 3 重大事故の件数については、第1表(注)2による。

第5図 危険物施設における流出事故に係る重大事故の件数の推移（最近の8年間）



- (注) 1 過去5年間の件数は第16表を参照。
 2 屋内貯蔵所、簡易タンク貯蔵所、屋外貯蔵所、第一種販売取扱所及び第二種販売取扱所の流出による重大事故は統計をとり始めてからの8年間発生していない。
 3 令和2年以前の重大事故の件数については、①死者が発生した事故（人的評価指標）、②河川や海域など事業所外へ広範囲に流出した事故（流出範囲指標）、③流出した危険物量が指定数量の10倍以上の事故（流出量指標）のいずれかに該当するもの（「危険物施設における火災・流出事故に係る深刻度評価指標について」（平成28年11月2日付け消防危第203号））を計上している。
 4 令和3年以降の重大事故の件数については、第1表(注)2による。

2 火災事故

(1) 火災事故の発生及び被害の状況

令和5年中に発生した危険物に係る火災事故248件の内訳は、危険物施設におけるものが243件、無許可施設におけるものが4件、危険物運搬中のものが1件、仮貯蔵・仮取扱い中のものが0件となっており、それぞれの状況は次のとおりである。（第1表参照）

ア 令和5年中に危険物施設において発生した火災事故の件数は、243件（前年226件）であり、その被害は、死者1人（前年2人）、負傷者29人（前年36人）、損害額78億267万円（前年27億5,094万円）となっている。前年に比べ、火災事故の件数は17件増加、死者は1人減少、負傷者は7人減少、損害額は50億5,173万円増加している。（第3表参照）

また、火災事故1件当たりの損害額は3,211万円であった。（第3表参照）

これを製造所等の別にみると、火災事故の件数は、一般取扱所で発生したものが141件で最も多く、次いで、製造所で50件、給油取扱所で39件となっており、1件当たりの損害額は、屋外タンク貯蔵所に係るものが1億502万円で最も高く、次いで、一般取扱所に係るものが4,961万円となっている。（第4-1表参照）

危険物施設1万施設当たりの火災事故の件数は、危険物施設全体では6.35件となっている。（第4-1表参照）

危険物施設における火災事故のうち、重大事故は10件（前年10件）発生しており、その被害は、死者1人（前年2人）、負傷者4人（前年7人）、損害額は8,070万円（前年1億5,013万円）となっている。前年に比べ、重大事故の件数は同数、死者は1人減少、負傷者は3人減少、損害額は6,943万円減少している。（第4-2表参照）

また、重大事故1件当たりの損害額は807万円であった。（第4-2表参照）

これを製造所等の別にみると、重大事故の件数は、製造所で発生したものが7件で最も多く、次いで、一般取扱所で2件、移動タンク貯蔵所で1件となっており、1件当たりの損害額は、製造所に係るものが3,958万円で最も高く、次いで、移動タンク貯蔵所に係るものが3,628万円、一般取扱所に係るものが484万円となっている。（第4-2表参照）

危険物施設における火災事故の件数の推移を製造所等の別にみると、一般取扱所、製造所、給油取扱所におけるものが上位を占める状況が続いている。（第5表、第7図参照）

イ 令和5年中の無許可施設における火災事故は4件（前年5件）発生しており、その被害は死者0人（前年0人）、負傷者0人（前年3人）、損害額は3,553万円（前年5億1,518万円）となっている。前年に比べ、火災事故の件数は1件減少、死者は同数、負傷者は3人減少、損害額は4億7965万円減少している。（第6表参照）

ウ 令和5年中の危険物運搬中の火災事故は1件（前年1件）となっている。（第7表参照）

エ 令和5年中の仮貯蔵・仮取扱い中の火災事故は0件（前年0件）となっている。（第9表参照）

(2) 出火原因に関係した物質

ア 令和5年中に発生した危険物施設における火災事故の出火原因に関係した物質（以下「出火原因物質」という。）についてみると、243件の火災事故のうち、危険物が出火原因物質となるものが115件（47.3%）発生している。また、このうち110件（95.7%）が第4類の危険物が出火原因物質となるもので占められている。さらに、第4類の危険物について品名別にみると、第1石油類が出火原因物質となるものが59件（53.6%）で最も多く、次いで、第3石油類が出

火原因物質となるものが19件（17.3％）、第4石油類が出火原因物質となるものが17件（15.5％）、第2石油類が出火原因物質となるものが8件（7.3％）となっている。（第8表、第8図参照）

イ 令和5年中に発生した無許可施設、危険物運搬中等の危険物施設以外の場所における火災事故は5件発生しており、その内訳は、第4類第1石油類が出火原因物質となるものが2件（40.0％）、第2石油類及び第3石油類が出火原因物質となるものがそれぞれ1件（20.0％）、その他（危険物以外が出火原因物質となるもの）が1件（20.0％）になっている。（第9表参照）

(3) 火災事故の発生原因及び着火原因

ア 令和5年中に発生した危険物施設における火災事故の発生原因を、人的要因、物的要因及びその他の要因に区分してみると、人的要因が142件（58.4％）で最も高く、次いで、物的要因が75件（30.9％）、その他の要因（不明及び調査中を含む。）が26件（10.7％）となっている。人的要因では、操作確認不十分の49件（20.2％）、維持管理不十分の38件（15.6％）、物的要因では、腐食疲労等劣化の33件（13.6％）が高い数値となっている。（第10表、第9図、第10図参照）

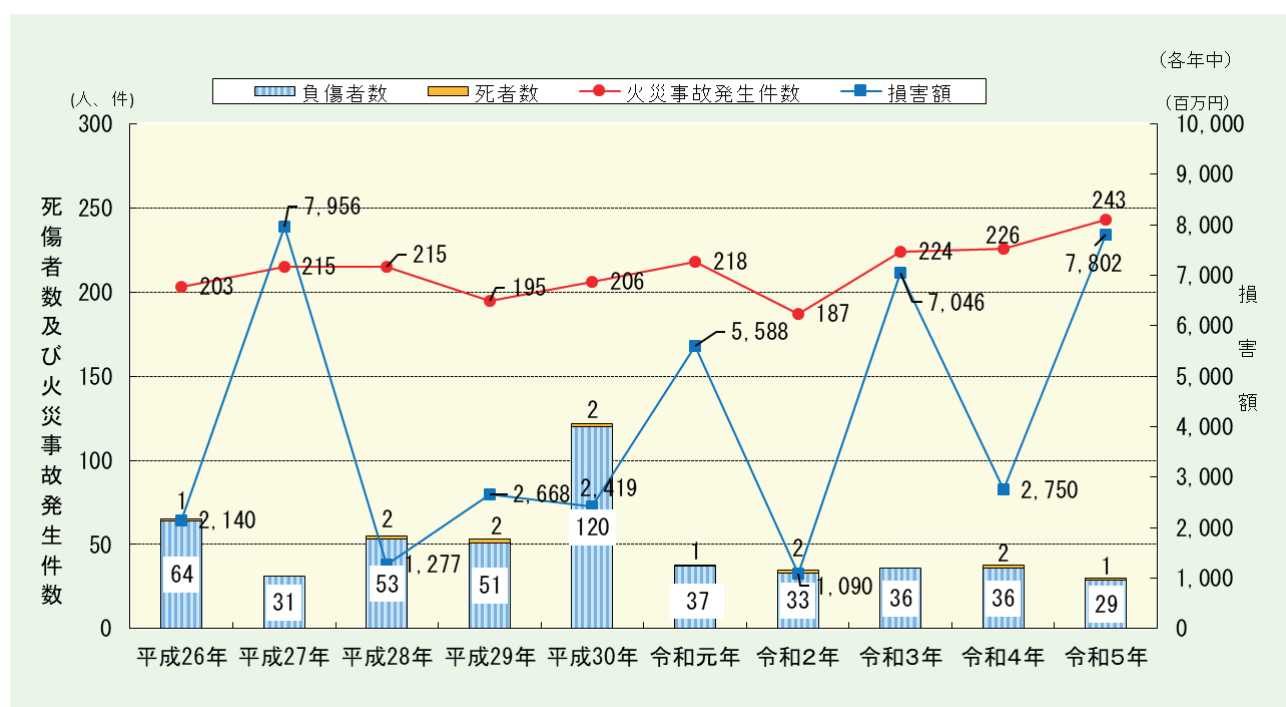
また、主な着火原因は、静電気火花が51件（21.0％）で最も高く、次いで、高温表面熱が35件（14.4％）、電気火花が24件（9.9％）、過熱着火が21件（8.6％）となっている。（第11表参照）

イ 令和5年中に発生した無許可施設、危険物運搬中等の危険物施設以外の場所における火災事故の発生原因は第12表、火災事故の着火原因は第13表のとおりとなっている。

第3表 危険物施設における火災事故の発生件数と被害状況の推移（最近の10年間）

年	発生件数等	発生件数 (ア)	被害			
			死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たり の損害額 (イ) / (ア) (万円)
平成26年		203	1	64	214,007.0	1,054
平成27年		215	0	31	795,606.0	3,700
平成28年		215	2	53	127,662.0	594
平成29年		195	2	51	266,780.0	1,368
平成30年		206	2	120	241,852.0	1,174
令和元年		218	1	37	558,763.0	2,563
令和2年		187	2	33	109,035.0	583
令和3年		224	0	36	704,692.0	3,146
令和4年		226	2	36	275,094.0	1,217
令和5年		243	1	29	780,267.0	3,211

第6図 危険物施設における火災事故の発生件数と被害状況（最近の10年間）



第4-1表 危険物施設における火災事故の概要（令和5年中）

発生件数等 製造所等の別		発生件数 (ア)	1万施設 当たりの 発生件数	被 害				被害の状況			
				死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たり の損害額 (イ) / (ア) (万円)	A	B	C	D
製 造 所		50	100.04	1	11	34,222.0	684	48	0	2	0
貯 蔵 所	屋内貯蔵所	4	0.81	0	1	8,766.0	2,192	4	0	0	0
	屋外タンク貯蔵所	3	0.53	0	0	31,505.0	10,502	3	0	0	0
	屋内タンク貯蔵所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	地下タンク貯蔵所	1	0.14	0	0	0.0	0	0	1	0	0
	簡易タンク貯蔵所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	移動タンク貯蔵所	4	0.62	0	0	3,811.0	953	3	0	1	0
	屋外貯蔵所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	小 計	12	0.46	0	1	44,082.0	3,674	10	1	1	0
取 扱 所	給油取扱所	39	6.96	0	4	2,316.0	59	39	0	0	0
	第一種販売取扱所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	第二種販売取扱所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	移送取扱所	1	9.79	0	0	96.0	96	1	0	0	0
	一般取扱所	141	24.35	0	13	699,551.0	4,961	141	0	0	0
	小 計	181	15.56	0	17	701,963.0	3,878	181	0	0	0
合 計／平 均		243	6.35	1	29	780,267.0	3,211	239	1	3	0

(注) 1 被害の状況は、危険物施設から出火し、当該危険物施設の火災でとどまったものを「A」、他の施設からの類焼により危険物施設が火災となったものを「B」、当該危険物施設の火災により他の施設にまで延焼したものを「C」、危険物の流出に起因して施設外から火災となったものを「D」とした。

なお、「B」には、危険物施設又は無許可施設の火災からの類焼は含まない。

2 1万施設当たりの発生件数における施設数は、令和5年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。

第4-2表 危険物施設における火災事故に係る重大事故の概要（令和5年中）

発生件数等 製造所等の別		重大事故 発生件数 (ア)	重大事故の内訳			1万施設 当たりの 重大事故 発生件数	被 害			
			人的被害 指標	影響範囲 指標	収束時間 指標		死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たり の損害額 (イ) / (ア) (万円)
製 造 所		7	1	3	4	14.01	1	3	3,958.0	565
貯 蔵 所	屋内貯蔵所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	屋外タンク貯蔵所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	屋内タンク貯蔵所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	地下タンク貯蔵所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	簡易タンク貯蔵所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	移動タンク貯蔵所	1	0	1	1	0.16	0	0	3,628.0	3,628
	屋外貯蔵所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	小 計	1	0	1	1	0.04	0	0	3,628.0	3,628
取 扱 所	給油取扱所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	第一種販売取扱所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	第二種販売取扱所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	移送取扱所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	一般取扱所	2	0	0	2	0.35	0	1	484.0	242
	小 計	2	0	0	2	0.17	0	1	484.0	242
合 計／平 均		10	1	4	7	0.26	1	4	8,070.0	807

(注) 1 1万施設当たりの発生件数における施設数は、令和5年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。

2 「重大事故の内訳」欄は、第1表（注）2の各指標に係る事故件数を計上しており、合計値が「重大事故発生件数」欄の数値と一致しない場合がある。

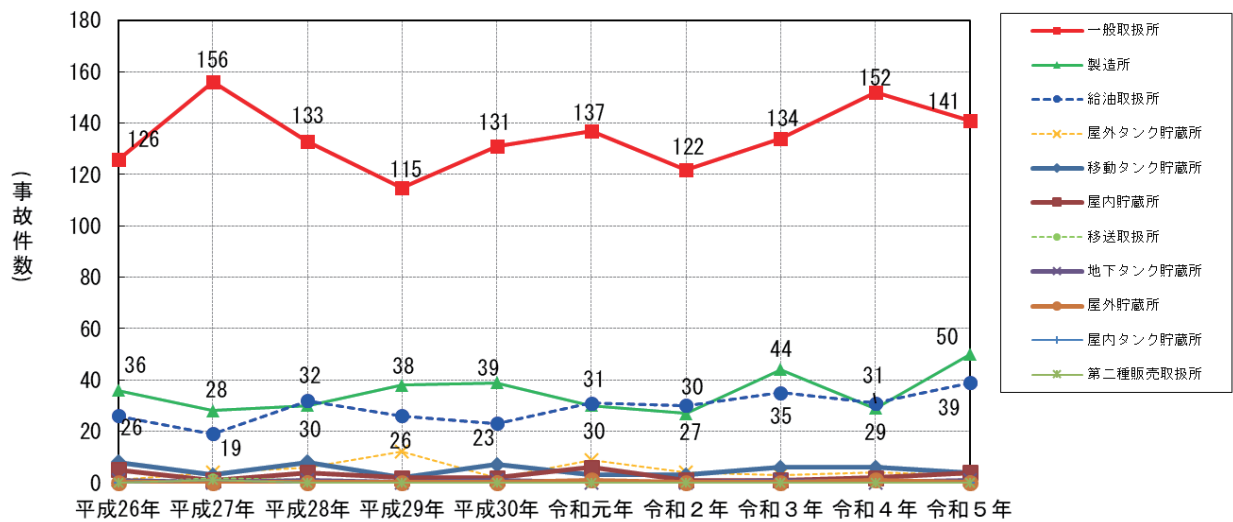
第5表 危険物施設における火災事故の危険性の推移（最近の5年間）

発生件数等 製造所等の別		令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		令和5年	
		件数	1万施設 当たりの 発生件数	件数	1万施設 当たりの 発生件数	件数	1万施設 当たりの 発生件数	件数	1万施設 当たりの 発生件数	件数	1万施設 当たりの 発生件数
製 造 所		30 (1)	59.48 (1.98)	27 (2)	53.70 (3.98)	44 (4)	88.14 (8.01)	29 (1)	58.00 (2.00)	50 (7)	100.04 (14.01)
貯 蔵 所	屋内貯蔵所	6 (1)	1.22 (0.20)	1	0.20	1	0.20	2	0.41	4	0.81
	屋外タンク貯蔵所	9 (2)	1.52 (0.34)	4 (1)	0.68 (0.17)	3	0.52	4	0.70	3	0.53
	屋内タンク貯蔵所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	地下タンク貯蔵所	0	0.00	0	0.00	1	0.13	0	0.00	1	0.14
	簡易タンク貯蔵所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	移動タンク貯蔵所	3	0.46	3	0.46	6	0.93	6 (1)	0.93 (0.16)	4 (1)	0.62 (0.16)
	屋外貯蔵所	1 (1)	1.04 (1.04)	0	0.00	0	0.00	1	1.06	0	0.00
	小 計	19 (4)	0.70 (0.15)	8 (1)	0.30 (0.04)	11	0.41	13 (1)	0.49 (0.04)	12 (1)	0.46 (0.04)
取 扱 所	給油取扱所	31 (1)	5.29 (0.17)	30 (1)	5.18 (0.17)	35	6.11	31	5.47	39	6.96
	第一種販売取扱所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	第二種販売取扱所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	移送取扱所	1	9.30	0	0.00	0	0.00	1	9.68	1	9.79
	一般取扱所	137 (9)	22.90 (1.50)	122 (4)	20.56 (0.67)	134 (8)	22.78 (1.36)	152 (8)	26.05 (1.37)	141 (2)	24.35 (0.35)
	小 計	169 (10)	13.96 (0.83)	152 (5)	12.68 (0.42)	169 (8)	14.25 (0.67)	184 (8)	15.56 (0.68)	181 (2)	15.56 (0.17)
合 計／平 均		218 (15)	5.47 (0.38)	187 (8)	4.75 (0.20)	224 (12)	5.74 (0.31)	226 (10)	5.85 (0.26)	243 (10)	6.35 (0.26)

（注） 1 1万施設当たりの発生件数における施設数は、各年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。

2 （ ）内の数値は重大事故に係る数値を示す。

第7図 危険物施設における火災事故の発生件数の推移（最近の10年間）



(注) 1 過去5年間の件数は第5表を参照。

2 簡易タンク貯蔵所、第一種販売取扱所の火災事故は過去10年間発生していない。

第6表 無許可施設における火災事故の概要（最近の5年間）

年	発生件数等	発生件数 (ア)	被害				被害の状況			
			死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たりの損害額 (イ) / (ア) (万円)	A	B	C	D
令和元年		4	3	3	2,536.0	634	3	0	1	0
令和2年		3	0	2	4,055.0	1,352	3	0	0	0
令和3年		7	0	3	5,472.0	782	5	0	2	0
令和4年		5	0	3	51,518.0	10,304	2	0	3	0
令和5年		4	0	0	3,553.0	888	4	0	0	0

(注) 被害の状況は第4-1表の(注)1による。

第7表 危険物運搬中における火災事故の概要（最近の5年間）

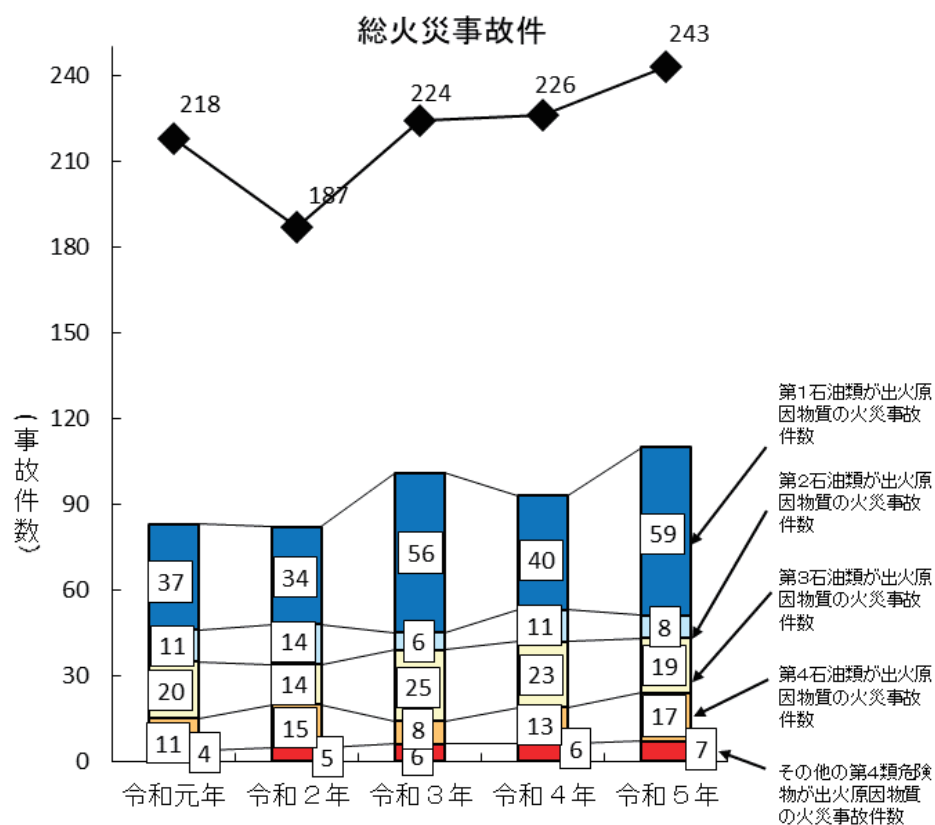
年	発生件数等	発生件数 (ア)	被害			
			死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たりの損害額 (イ) / (ア) (万円)
令和元年		0	0	0	0.0	0
令和2年		0	0	0	0.0	0
令和3年		1	0	0	583.0	583
令和4年		1	0	0	541.0	541
令和5年		1	0	0	236.0	236

第8表 危険物施設における火災事故の出火原因物質及び推移（最近の5年間）

年・施設区分 出火原因物質等			令和元年 令和2年 令和3年 令和4年				令和5年																
							製造所	貯蔵所							取扱所							計	
								屋内 貯蔵所	屋外 タンク 貯蔵所	屋内 タンク 貯蔵所	地下 タンク 貯蔵所	簡易 タンク 貯蔵所	移動 タンク 貯蔵所	屋外 貯蔵所	小計	給油 取扱所	第一種 販売 取扱所	第二種 販売 取扱所	移送 取扱所	一般 取扱所	小計		
危険物																							
第1類	酸性固体	亜塩素酸塩類	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
第1類	酸性固体	硝酸塩類	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第1類	酸性固体	その他のもので政令で定めるもの	1 (1)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第2類	可燃性固体	赤りん	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
第2類	可燃性固体	硫黄	3 (1)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第2類	可燃性固体	金属粉	2	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第2類	可燃性固体	引火性固体	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第2類	可燃性固体	鉄粉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第2類	可燃性固体	マグネシウム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第2類	可燃性固体	その他のもので政令で定めるもの	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第3類	自然発火性物質 及び禁水性物質	ナトリウム	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第3類	自然発火性物質 及び禁水性物質	アルキルアルミニウム	2 (1)	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
第3類	自然発火性物質 及び禁水性物質	アルキルリチウム	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第3類	自然発火性物質 及び禁水性物質	黄りん	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第3類	自然発火性物質 及び禁水性物質	7669金属（カドミウム及びトリウムを除く。）及び7669粘土類金属	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第3類	自然発火性物質 及び禁水性物質	有機金属化合物（766976ミウム及び766976カドミウムを除く。）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第3類	自然発火性物質 及び禁水性物質	金属の水素化物	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第3類	自然発火性物質 及び禁水性物質	カルシウム又はアルミニウムの炭化物	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第3類	自然発火性物質 及び禁水性物質	その他のもので政令で定めるもの（塩素化けい素化合物）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第3類	自然発火性物質 及び禁水性物質	前各号に掲げるもののいずれかを含有するもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第4類	引火性液体	特殊引火物	0	3 (1)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第4類	引火性液体	第1石油類	37 (2)	34 (1)	56 (1)	40 (3)	13 (3)	2	2	0	0	0	2 (1)	0	6 (1)	24	0	0	1	15	40	59 (4)	
第4類	引火性液体	アルコール類	4	2	6	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	7	
第4類	引火性液体	第2石油類	11 (1)	14	6	11	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	8	
第4類	引火性液体	第3石油類	20 (3)	14	25 (2)	23	5 (1)	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	13	13	19 (1)	
第4類	引火性液体	第4石油類	11	15	8	13	4 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13 (1)	13	17 (1)	
第5類	自己反応性物質	有機過酸化物	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第5類	自己反応性物質	硝酸エステル類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
第5類	自己反応性物質	ニトロ化合物	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
第5類	自己反応性物質	その他のもので政令で定めるもの	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第6類	酸化性液体	過酸化水素	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
危険物類別小計																							
第1類			1 (1)	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
第2類			6 (1)	1	4	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
第3類			6 (1)	4	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
第4類			83 (6)	82 (2)	101 (3)	93 (3)	30 (5)	2	3	0	0	0	2 (1)	0	7 (1)	24	0	0	1	48 (1)	73 (1)	110 (7)	
第5類			1	1	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2	
第6類			0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計			97 (9)	88 (2)	110 (3)	104 (3)	32 (5)	4	3	0	0	0	2 (1)	0	9 (1)	24	0	0	1	49 (1)	74 (1)	115 (7)	
その他の																							
	危険物以外の物品		16 (2)	18 (2)	27 (1)	18 (2)	7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	15	16	23	
	類焼によるもの		11 (1)	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他		94 (3)	74 (4)	87 (8)	104 (5)	11 (2)	0	0	0	1	0	2	0	3	14	0	0	0	77 (1)	91 (1)	105 (3)	
	小計		121 (6)	99 (6)	114 (9)	122 (7)	18 (2)	0	0	0	1	0	2	0	3	15	0	0	0	92 (1)	107 (1)	128 (3)	
	合計		218 (15)	187 (8)	224 (12)	226 (10)	50 (7)	4	3	0	1	0	4 (1)	0	12 (1)	39	0	0	1	141 (2)	181 (2)	243 (10)	

（注）（ ）内の数値は重大事故件数を示す。

第8図 危険物施設における火災事故の出火原因物質（第4類危険物）の推移（最近の5年間）



第9表 危険物施設以外の場所における火災事故の出火原因物質（令和5年中）

区分			無許可施設	危険物運搬中	仮貯蔵・仮取扱い	計
出火原因物質等						
第 4 類	引火性液体	第 1 石油類	1	1	0	2
		第 2 石油類	1	0	0	1
		第 3 石油類	1	0	0	1
		第 4 石油類	0	0	0	0
その他			1	0	0	1
合 計			4	1	0	5

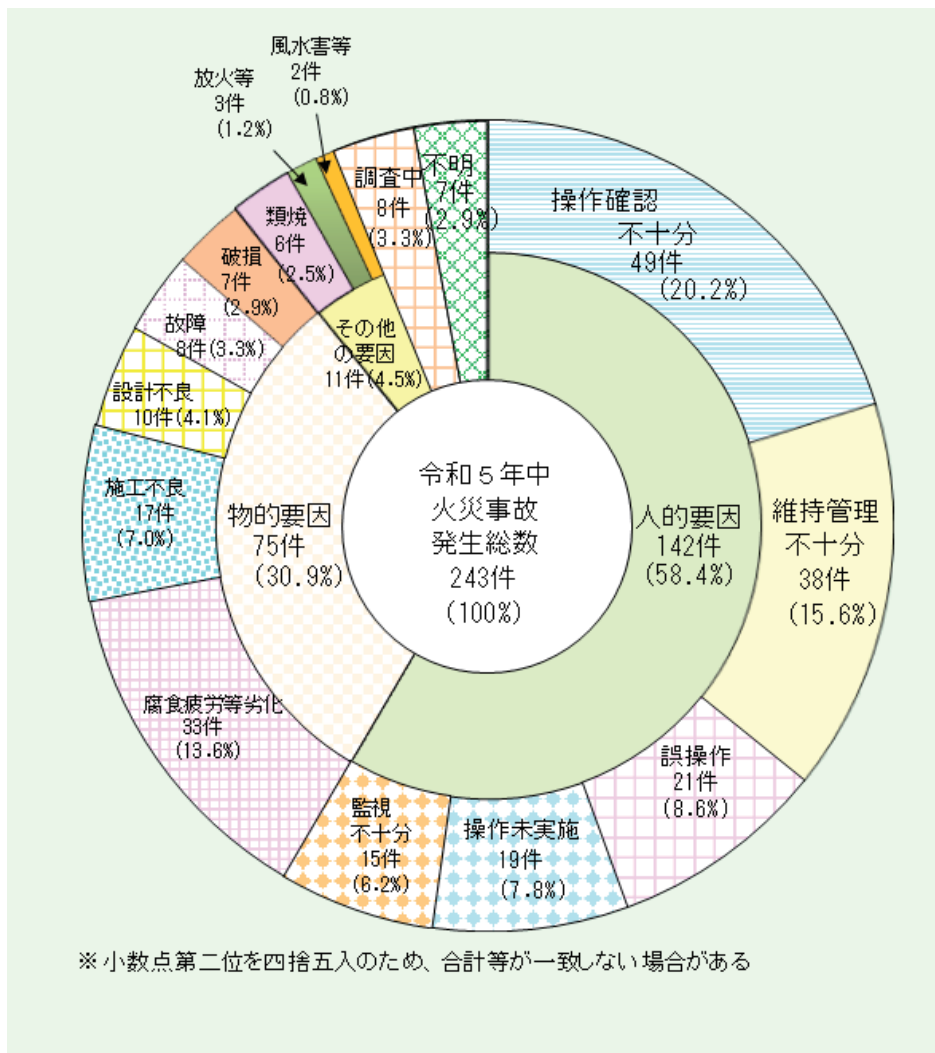
（注）出火原因物質等が複数ある事例については、より危険性の高い物質にて計上した。

第10表 危険物施設における火災事故の発生原因（令和5年中）

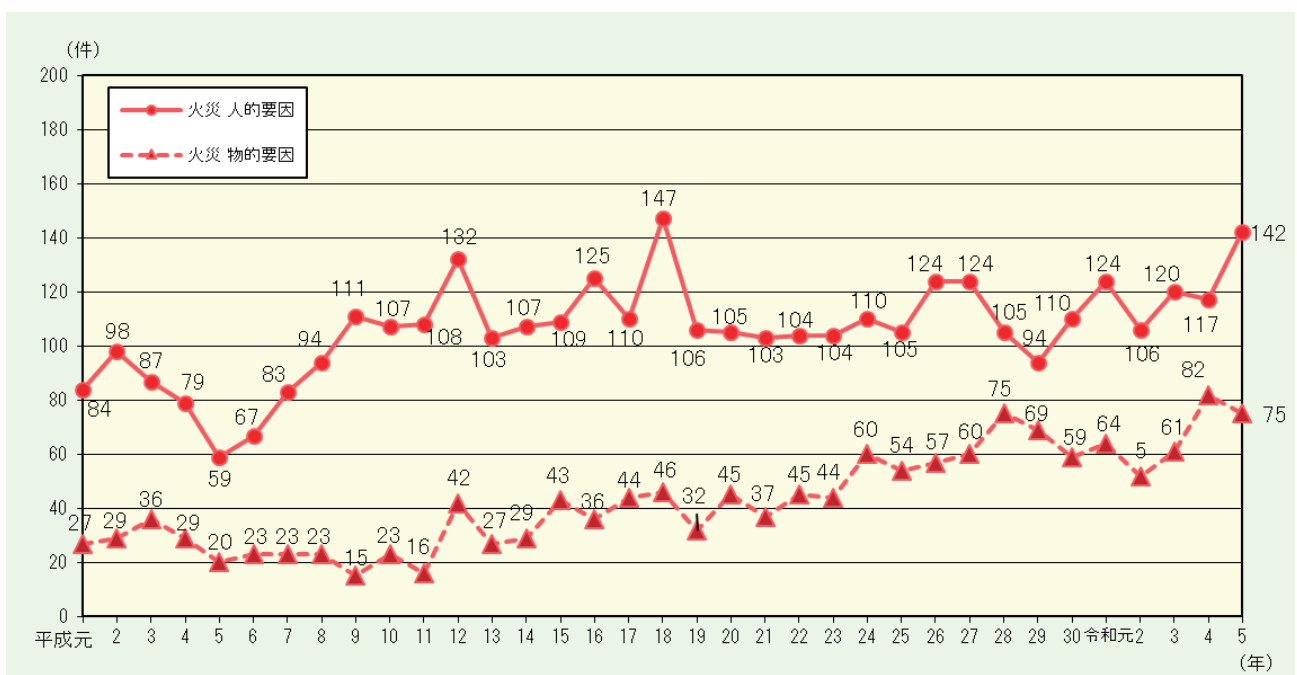
製造所等の別 発生原因		製造所	貯蔵所								取扱所						計	比率 (%)	令和4年	
			屋内 貯蔵所	屋外 タンク 貯蔵所	屋内 タンク 貯蔵所	地下 タンク 貯蔵所	簡易 タンク 貯蔵所	移動 タンク 貯蔵所	屋外 貯蔵所	小計	給油 取扱所	第一 種 販売 取扱所	第二 種 販売 取扱所	移送 取扱所	一般 取扱所	小計			件数	比率 (%)
人的要因	維持管理不十分	6	1	0	0	0	0	2	0	3	2	0	0	0	27	29	38	15.6	47 (4)	20.8 (40.0)
	誤操作	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	11 (2)	16 (2)	21 (2)	8.6 (20.0)	18	8.0
	操作確認不十分	8 (2)	1	0	0	0	0	0	0	1	10	0	0	0	30	40	49 (2)	20.2 (20.0)	26	11.5
	操作未実施	7 (1)	0	1	0	0	0	2 (1)	0	3 (1)	4	0	0	0	5	9	19 (2)	7.8 (20.0)	18 (1)	8.0 (10.0)
	監視不十分	4 (3)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	9	11	15 (3)	6.2 (30.0)	8	3.5
	小 計	30 (6)	2	1	0	0	0	4 (1)	0	7 (1)	23	0	0	0	82 (2)	105 (2)	142 (9)	58.4 (90.0)	117 (5)	51.8 (50.0)
物的要因	腐食疲労等劣化	9 (1)	0	1	0	0	0	0	0	1	6	0	0	0	17	23	33 (1)	13.6 (10.0)	23 (1)	10.2 (10.0)
	設計不良	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6	6	10	4.1	18	8.0
	故 障	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	6	8	3.3	18	8.0
	施工不良	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	13	17	7.0	14 (1)	6.2 (10.0)
	破 損	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	4	6	7	2.9	9	4.0
	小 計	19 (1)	1	1	0	0	0	0	0	2	8	0	0	1	45	54	75 (1)	30.9 (10.0)	82 (2)	36.3 (20.0)
その他の要因	放火等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	3	3	1.2	0	0.0
	交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
	類 焼	0	0	0	0	1	0	0	0	1	4	0	0	0	1	5	6	2.5	8	3.5
	風水害等	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	2	0.8	0	0.0
	悪 戯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
	小 計	0	0	1	0	1	0	0	0	2	7	0	0	0	2	9	11	4.5	8	3.5
不 明		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7	7	2.9	16 (3)	7.1 (30.0)
調査中		1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	5	6	8	3.3	3	1.3
合 計		50 (7)	4	3	0	1	0	4 (1)	0	12 (1)	39	0	0	1	141 (2)	181 (2)	243 (10)	100.0 (100.0)	226 (10)	100.0 (100.0)

- (注) 1 調査中とは、令和6年4月1日現在において、未だ調査中のものをいう。
2 参考のため、右欄に前年の件数と比率を掲載した。
3 () 内の数値は重大事故に係る数値を示す。

第9図 令和5年中の危険物施設における火災事故の発生要因



第10図 危険物施設における火災事故の要因別の発生件数の推移



第11表 危険物施設における火災事故の着火原因（令和5年中）

製造所等の別 着火原因	製造所	貯蔵所								取扱所						計	比率 (%)	令和4年	
		屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所	小計			件数	比率 (%)
裸火	3 (1)	0	0	0	1	0	0	0	1	4	0	0	0	2	6	10 (1)	4.1 (10.0)	11 (1)	4.9 (10.0)
高温表面熱	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	30 (1)	33 (1)	35 (1)	14.4 (10.0)	42 (1)	18.6 (10.0)
溶接・溶断等火花	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12	13	15	6.2	10 (2)	4.4 (20.0)
静電気火花	17 (2)	1	3	0	0	0	1	0	5	14	0	0	0	15	29	51 (2)	21.0 (20.0)	38	16.8
電気火花	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	15	22	24	9.9	18	8.0
衝撃火花	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	6	2.5	9 (1)	4.0 (10.0)
自然発熱	5 (1)	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	3	9 (1)	3.7 (10.0)	7	3.1
化学反応熱	6 (1)	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	3	10 (1)	4.1 (10.0)	12 (1)	5.3 (10.0)
摩擦熱	4 (1)	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	0	0	11	12	18 (1)	7.4 (10.0)	11	4.9
過熱着火	3 (1)	0	0	0	0	0	1 (1)	0	1 (1)	3	0	0	0	14 (1)	17 (1)	21 (3)	8.6 (30.0)	24 (1)	10.6 (10.0)
放射熱	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	1.2	2	0.9
その他	4	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	18	23	27	11.1	19	8.4
不明	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	6	7	9	3.7	16 (3)	7.1 (30.0)
調査中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	5	5	2.1	7	3.1
合計	50 (7)	4	3	0	1	0	4 (1)	0	12 (1)	39	0	0	1	141 (2)	181 (2)	243 (10)	100.0 (100.0)	226 (10)	100.0 (100.0)

- (注) 1 着火原因の分類は、推定によるものを含む。
- 2 調査中とは、令和6年4月1日現在において、未だ調査中のものをいう。
- 3 参考のため、右欄に前年の件数と比率を掲載した。
- 4 () 内の数値は重大事故に係る数値を示す。

第12表 危険物施設以外の場所における火災事故の発生原因（令和5年中）

製造所等の別 発生原因		無許可施設	危険物運搬中	仮貯蔵・仮取扱い	計
人的要因	操作確認不十分	1	0	0	1
	維持管理不十分	1	1	0	2
	小 計	2	1	0	3
不 明		2	0	0	2
合 計		4	1	0	5

第13表 危険物施設以外の場所における火災事故の着火原因（令和5年中）

区分 着火原因	無許可施設	危険物運搬中	仮貯蔵・仮取扱い	計
高温表面熱	1	0	0	1
電気火花	1	0	0	1
衝撃火花	1	0	0	1
摩擦熱	0	1	0	1
不 明	1	0	0	1
合 計	4	1	0	5

（注） 着火原因の分類は、推定によるものを含む。

3 流出事故

(1) 流出事故の発生及び被害の状況

令和5年中に発生した危険物に係る流出事故482件の内訳は、危険物施設におけるものが468件、無許可施設におけるものが3件、危険物運搬中のものが11件、仮貯蔵・仮取扱い中のものが0件となっており、それぞれの状況は次のとおりである。（第1表参照）

ア 令和5年中に危険物施設において発生した流出事故の件数は、468件（前年415件）であり、その被害は、死者0人（前年0人）、負傷者11人（前年18人）、損害額8億8,539万円（前年5億6,638万円）となっている。前年に比べ、流出事故の件数は53件増加、死者は同数、負傷者は7人減少、損害額は3億1,901万円増加している。（第14表参照）

また、流出事故1件当たりの損害額は189万円であった。（第14表参照）

これを製造所等の別にみると、流出事故の件数は、一般取扱所で発生したものが106件で最も多く、次いで、屋外タンク貯蔵所で103件、製造所で73件、給油取扱所で70件、移動タンク貯蔵所で51件となっており、1件当たりの損害額は、屋外タンク貯蔵所に係るものが329万円で最も高く、次いで、給油取扱所に係るものが271万円となっている。（第15－1表参照）

危険物施設1万施設当たりの流出事故の件数は、危険物施設全体では12.23件となっている。（第15－1表参照）

危険物施設における流出事故のうち重大事故は12件（前年11件）発生しており、その被害は、死者0人（前年0人）、負傷者0人（前年0人）、損害額は6,142万円（前年4,407万円）となっている。前年に比べ、重大事故の件数は1件増加、死者及び負傷者は同数、損害額は1,735万円増加している。（第15－2表参照）

また、重大事故1件当たりの損害額は512万円であった。（第15－2表参照）

これを製造所等の別にみると、重大事故の件数は、屋外タンク貯蔵所で発生したものが4件で最も多く、次いで、移動タンク貯蔵所及び一般取扱所で3件となっており、1件当たりの損害額は、屋外タンク貯蔵所に係るものが1,343万円で最も高く、次いで、移動タンク貯蔵所に係るものが155万円、地下タンク貯蔵所に係るものが115万円となっている。（第15－2表参照）

危険物施設における流出事故の発生件数の推移を製造所等の別にみると、一般取扱所、屋外タンク貯蔵所、製造所、給油取扱所、移動タンク貯蔵所におけるものが上位を占めている。（第16表、第12図参照）

イ 令和5年中の、無許可施設における流出事故は3件（前年2件）発生しており、その被害は死傷者0人（前年1人）、損害額は5万円（前年1万円）となっている。前年に比べ、流出事故の発生件数は1件増加、死傷者は1人減少、損害額は4万円増加している。（第17表参照）

ウ 令和5年中の、危険物運搬中の流出事故は11件（前年11件）発生し、その被害は死傷者0人（前年1人）、損害額は45万円（前年92万円）となっている。前年に比べ、流出事故の発生件数は同数、死傷者は1人減少、損害額は47万円減少している。（第17表参照）

エ 令和5年中の、仮貯蔵・仮取扱い中の流出事故は0件（前年0件）となっている。（第17表参照）

(2) 流出した危険物

ア 令和5年中に発生した危険物施設における流出事故で流出した危険物をみると、多くが第4類の危険物であり、その事故件数は462件（98.7%）となっている。また、第4類の危険物について品名別にみると、第2石油類に係るものが169件（36.6%）で最も多く、次いで、第3石油類に係るものが156件（33.8%）、第1石油類に係るものが97件（21.0%）となっている。（第18表、第13図参照）

イ 令和5年中に発生した無許可施設、危険物運搬中等の危険物施設以外の場所における流出事故は14件発生しており、その内訳は、第4類第4石油類に係るものが6件（42.9%）で最も多く、次いで、第2石油類に係るものが5件（35.7%）、第3石油類に係るものが2件（14.3%）、第1石油類に係るものが1件（7.1%）となっている。（第19表参照）

(3) 流出事故の発生原因

ア 令和5年中に発生した危険物施設における流出事故の発生原因を、人的要因、物的要因及びその他の要因に区別してみると、物的要因が270件（57.7%）で最も高く、次いで、人的要因が167件（35.7%）、その他の要因（不明及び調査中を含む。）が31件（6.6%）となっている。物的要因では、腐食疲労等劣化の168件（35.9%）、人的要因では、操作確認不十分の66件（14.1%）が高い数値となっている。（第20表、第14図、第15図参照）

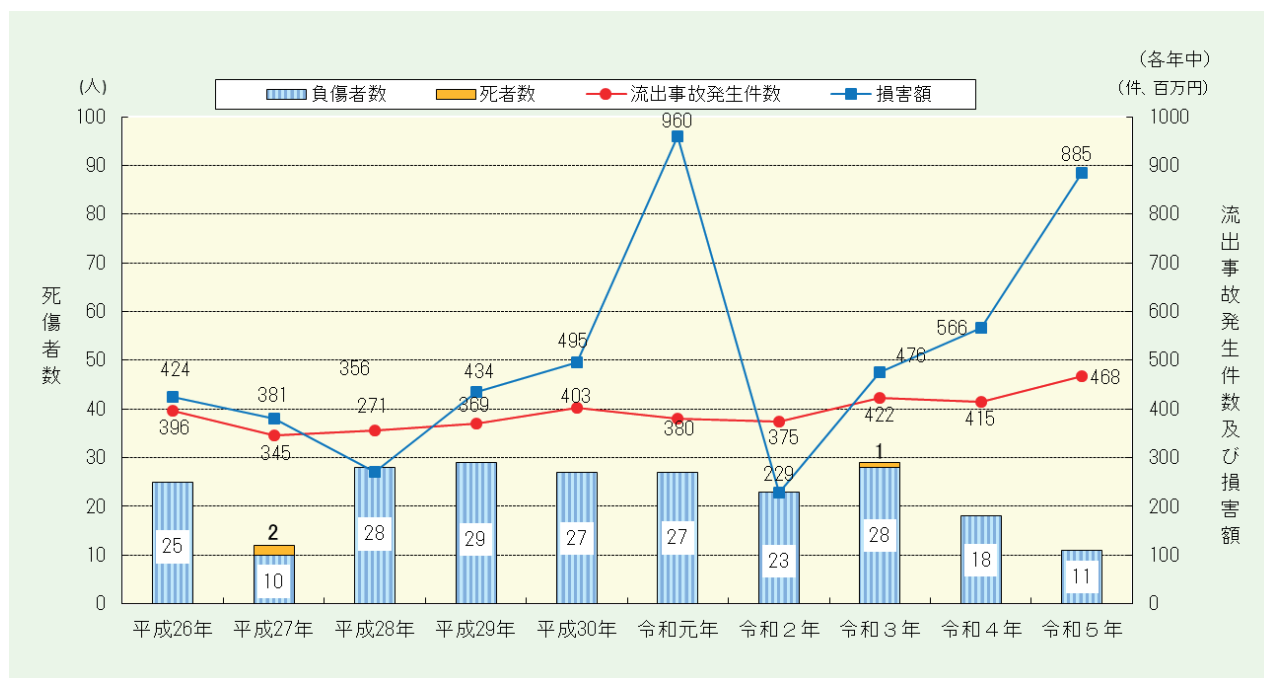
イ 無許可施設、危険物運搬中等の危険物施設以外の場所における流出事故の発生原因は、第21表のとおりとなっている。

第14表 危険物施設における流出事故の発生件数と被害状況の推移(最近の10年間)

年	発生件数等 発生件数 (ア)	被害			
		死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たりの損害額 (イ) / (ア) (万円)
平成26年	396	0	25	42,391.0	107
平成27年	345	2	10	38,127.0	111
平成28年	356	0	28	27,140.0	76
平成29年	369	0	29	43,403.0	118
平成30年	403	0	27	49,462.0	123
令和元年	380	0	27	96,039.0	253
令和2年	375	0	23	22,886.0	61
令和3年	422	1	28	47,673.0	113
令和4年	415	0	18	56,638.0	136
令和5年	468	0	11	88,539.0	189

(注) 発生件数には、製造所等に配管で接続された少量危険物施設等において、指定数量以上の危険物が流出したもの
の件数を含む。

第11図 危険物施設における流出事故の発生件数と被害状況(最近の10年間)



第15－1表 危険物施設における流出事故の概要(令和5年中)

発生件数等 製造所等の別		発生件数 (ア)	1万施設 当たりの 発生件数	被 害			
				死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たり の損害額 (イ) / (ア) (万円)
製 造 所		73	146.06	0	2	11,257.0	154
貯 蔵 所	屋内貯蔵所	4	0.81	0	0	80.0	20
	屋外タンク貯蔵所	103	18.21	0	0	33,873.0	329
	屋内タンク貯蔵所	3	3.17	0	0	267.0	89
	地下タンク貯蔵所	36	5.01	0	0	3,164.0	88
	簡易タンク貯蔵所	0	0.00	0	0	0.0	0
	移動タンク貯蔵所	51	7.96	0	4	5,621.0	110
	屋外貯蔵所	2	2.14	0	0	2.0	1
	小 計	199	7.62	0	4	43,007.0	216
取 扱 所	給油取扱所	70	12.50	0	0	18,945.0	271
	第一種販売取扱所	0	0.00	0	0	0.0	0
	第二種販売取扱所	0	0.00	0	0	0.0	0
	移送取扱所	20	195.89	0	1	3,779.0	189
	一般取扱所	106	18.31	0	4	11,551.0	109
	小 計	196	16.85	0	5	34,275.0	175
合 計／平 均		468	12.23	0	11	88,539.0	189

- (注) 1 発生件数には、製造所等に配管で接続された少量危険物施設等において、指定数量以上の危険物が流出したものの件数を含む。
- 2 1万施設当たりの発生件数における施設数は令和5年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。

第15－2表 危険物施設における流出事故に係る重大事故の概要(令和5年中)

発生件数等 製造所等の別		重大事故 発生件数 (ア)	重大事故の内訳		1万施設 当たりの 重大事故 発生件数	被 害			
			人的被害 指標	流出被害 指標		死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たり の損害額 (イ) / (ア) (万円)
製 造 所		0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
貯 蔵 所	屋内貯蔵所	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	屋外タンク貯蔵所	4	0	4	0.71	0	0	5,373.0	1,343
	屋内タンク貯蔵所	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	地下タンク貯蔵所	1	0	1	0.14	0	0	115.0	115
	簡易タンク貯蔵所	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	移動タンク貯蔵所	3	0	3	0.47	0	0	464.0	155
	屋外貯蔵所	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	小 計	8	0	8	0.31	0	0	5,952.0	744
取 扱 所	給油取扱所	1	0	1	0.18	0	0	37.0	37
	第一種販売取扱所	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	第二種販売取扱所	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	移送取扱所	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	一般取扱所	3	0	3	0.52	0	0	153.0	51
	小 計	4	0	4	0.34	0	0	190.0	48
合 計／平 均		12	0	12	0.31	0	0	6,142.0	512

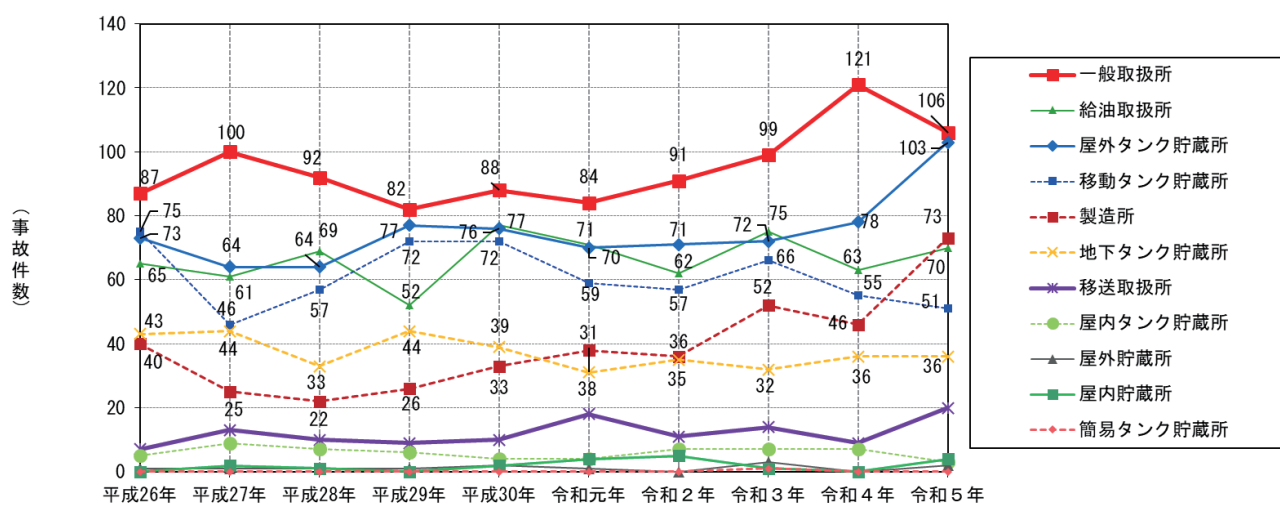
- (注) 1 1万施設当たりの発生件数における施設数は令和5年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。
- 2 「重大事故の内訳」欄は、第1表(注)2の各指標に係る事故件数を計上しており、合計値が「重大事故発生件数」欄の数値と一致しない場合がある。

第16表 危険物施設における流出事故の危険性の推移（最近の5年間）

発生件数等 製造所等の別		令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		令和5年	
		件数	1万施設 当たりの 発生件数	件数	1万施設 当たりの 発生件数	件数	1万施設 当たりの 発生件数	件数	1万施設 当たりの 発生件数	件数	1万施設 当たりの 発生件数
製 造 所		38 (1)	75.34 (1.98)	36 (1)	71.60 (1.99)	52	104.17	46	92.00	73	146.06
貯 蔵 所	屋内貯蔵所	4	0.81	5	1.02	1	0.20	0	0.00	4	0.81
	屋外タンク貯蔵所	70 (13)	11.79 (2.19)	71 (12)	12.10 (2.04)	72	12.44	78 (1)	13.62 (0.17)	103 (4)	18.21 (0.71)
	屋内タンク貯蔵所	4 (1)	3.95 (0.99)	7 (1)	7.06 (1.01)	7	7.16	7	7.28	3	3.17
	地下タンク貯蔵所	31 (4)	4.00 (0.52)	35 (8)	4.61 (1.05)	32 (3)	4.30 (0.40)	36 (1)	4.92 (0.14)	36 (1)	5.01 (0.14)
	簡易タンク貯蔵所	0	0.00	0	0.00	1	11.11	0	0.00	0	0.00
	移動タンク貯蔵所	59 (24)	9.05 (3.68)	57 (16)	8.79 (2.47)	66 (1)	10.21 (0.15)	55 (3)	8.54 (0.47)	51 (3)	7.96 (0.47)
	屋外貯蔵所	1	1.04	0	0.00	3	3.14	0	0.00	2	2.14
	小 計	169 (42)	6.21 (1.54)	175 (37)	6.50 (1.37)	182 (4)	6.83 (0.15)	176 (5)	6.67 (0.19)	199 (8)	7.62 (0.31)
取 扱 所	給油取扱所	71 (8)	12.11 (1.36)	62 (8)	10.70 (1.38)	75 (1)	13.09 (0.17)	63 (4)	11.13 (0.71)	70 (1)	12.50 (0.18)
	第一種販売取扱所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	第二種販売取扱所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	移送取扱所	18 (3)	167.44 (27.91)	11 (3)	104.07 (28.38)	14	134.10	9	87.12	20	195.89
	一般取扱所	84 (5)	14.04 (0.84)	91 (14)	15.34 (2.36)	99 (3)	16.83 (0.51)	121 (2)	20.74 (0.34)	106 (3)	18.31 (0.52)
	小 計	173 (16)	14.29 (1.32)	164 (25)	13.68 (2.09)	188 (4)	15.85 (0.34)	193 (6)	16.43 (0.51)	196 (4)	16.85 (0.34)
合 計／平 均		380 (59)	9.54 (1.48)	375 (63)	9.52 (1.60)	422 (8)	10.82 (0.21)	415 (11)	10.74 (0.28)	468 (12)	12.23 (0.31)

- (注) 1 発生件数には、製造所等に配管で接続された少量危険物施設等において、指定数量以上の危険物が流出したものの件数を含む。
- 2 危険性：危険物施設1万施設当たりの流出事故の発生件数（危険物施設数は各年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。）
- 3 （ ）内の数値は重大事故に係る数値を示す。

第12図 危険物施設における流出事故の発生件数の推移（最近の10年間）



- (注) 1 過去5年間の件数は第16表を参照。
 2 第一種販売取扱所及び第二種販売取扱所の流出事故は過去10年間発生していない。

第17表 危険物施設以外の場所における流出事故の概要（令和5年中）

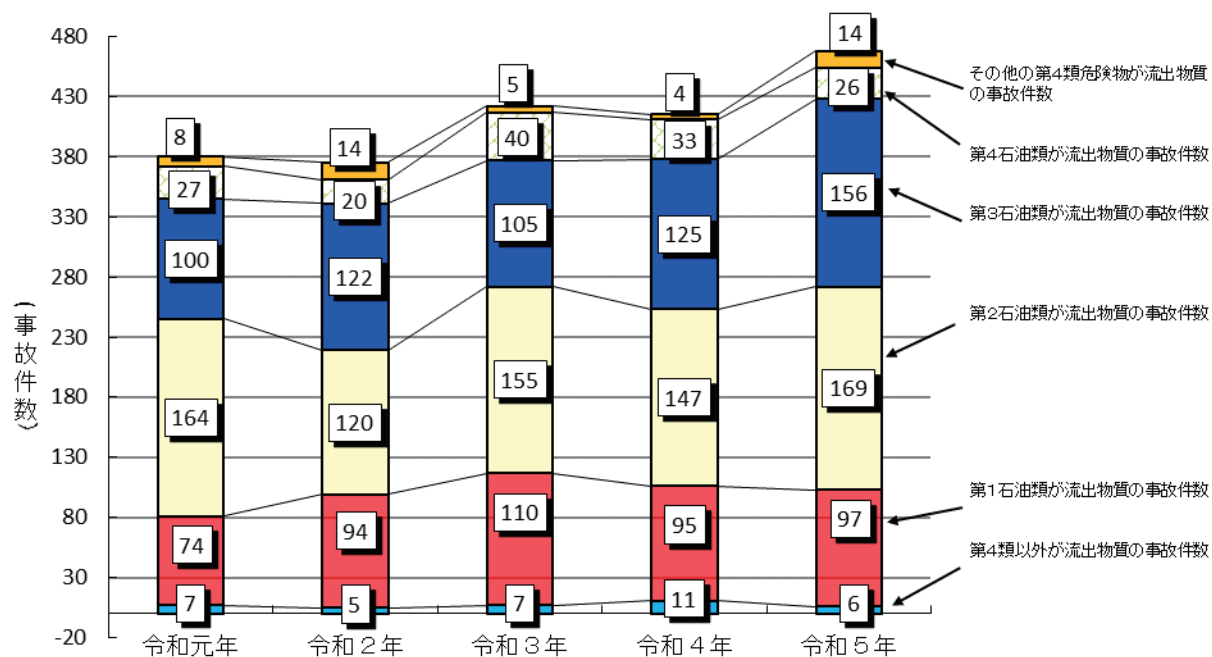
区分	発生件数等 発生件数 (ア)	被害			
		死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たりの損害額 (イ) / (ア) (万円)
無許可施設	3	0	0	5	1.7
危険物運搬中	11	0	0	45	4.1
仮貯蔵・仮取扱い	0	0	0	0	0.0

第18表 危険物施設における流出した危険物別の件数及び推移（最近の5年間）

年・施設区分 流出物質等			令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年																
							製造所	貯蔵所							取扱所							小計	計
								屋内 貯蔵所	屋外 タンク 貯蔵所	屋内 タンク 貯蔵所	地下 タンク 貯蔵所	簡易 タンク 貯蔵所	移動 タンク 貯蔵所	屋外 貯蔵所	給油 取扱所	第一種 販売 取扱所	第二種 販売 取扱所	移送 取扱所	一般 取扱所				
危険物																							
第1類	酸性固体	塩素酸塩類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第1類	酸性固体	硝酸塩類	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第2類	可燃性固体	硫 黄	3	3	7	6	0	0	0	0	0	0	1 (1)	0	1 (1)	0	0	0	2	2	4	5 (1)	
第2類	可燃性固体	金属粉	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第2類	可燃性固体	引火性固体	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第3類	自然発火性物質 及び禁水性物質	塩化ケイ素化合物	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
第4類	引火性液体	特殊引火物	0	3	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	6	
第4類	引火性液体	第1石油類	74 (6)	94 (9)	110 (2)	95 (1)	22	3	28	1	0	0	5 (1)	0	37 (1)	21 (1)	0	0	2	15 (1)	38 (2)	97 (3)	
第4類	引火性液体	アルコール類	8 (1)	11 (2)	5	4	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5	5	8	
第4類	引火性液体	第2石油類	164 (33)	120 (26)	155 (4)	147 (7)	17	0	23 (1)	0	12	0	34 (1)	1	70 (2)	44	0	0	5	33 (2)	82 (2)	169 (4)	
第4類	引火性液体	第3石油類	100 (17)	122 (24)	105 (2)	125 (3)	22	1	45 (3)	2	24 (1)	0	10	1	83 (4)	5	0	0	11	35	51	156 (4)	
第4類	引火性液体	第4石油類	27 (1)	20 (2)	40	33	6	0	3	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0	16	16	26	
第4類	引火性液体	動植物油類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第5類	自己反応性物質	有機過酸化物	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第5類	自己反応性物質	ニトロ化合物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第5類	自己反応性物質	アゾ化合物	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第6類	酸化性液体	過酸化水素	1 (1)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第6類	酸化性液体	硝酸	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
危険物類別小計																							
第1類			0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第2類			5	3	7	6	0	0	0	0	0	0	1 (1)	0	1 (1)	0	0	0	2	2	4	5 (1)	
第3類			0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
第4類			373 (58)	370 (63)	415 (8)	404 (11)	72	4	103 (4)	3	36 (1)	0	50 (2)	2	198 (7)	70 (1)	0	0	18	104 (3)	192 (4)	462 (11)	
第5類			1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
第6類			1 (1)	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合 計			380 (59)	375 (63)	422 (8)	415 (11)	73	4	103 (4)	3	36 (1)	0	51 (3)	2	199 (8)	70 (1)	0	0	20	106 (3)	196 (4)	468 (12)	

（注）（ ）内の数値は重大事故件数を示す。

第13図 危険物施設における流出した第4類危険物別の件数の推移（最近の5年間）



第19表 危険物施設以外の場所における流出した危険物別の件数（令和5年中）

区分			無許可施設	危険物運搬中	仮貯蔵・仮取扱い	計
流出危険物						
第4類	引火性液体	第1石油類	1	0	0	1
第4類	引火性液体	第2石油類	0	5	0	5
第4類	引火性液体	第3石油類	1	1	0	2
第4類	引火性液体	第4石油類	1	5	0	6
合 計			3	11	0	14

第20表 危険物施設における流出事故の発生原因（令和5年中）

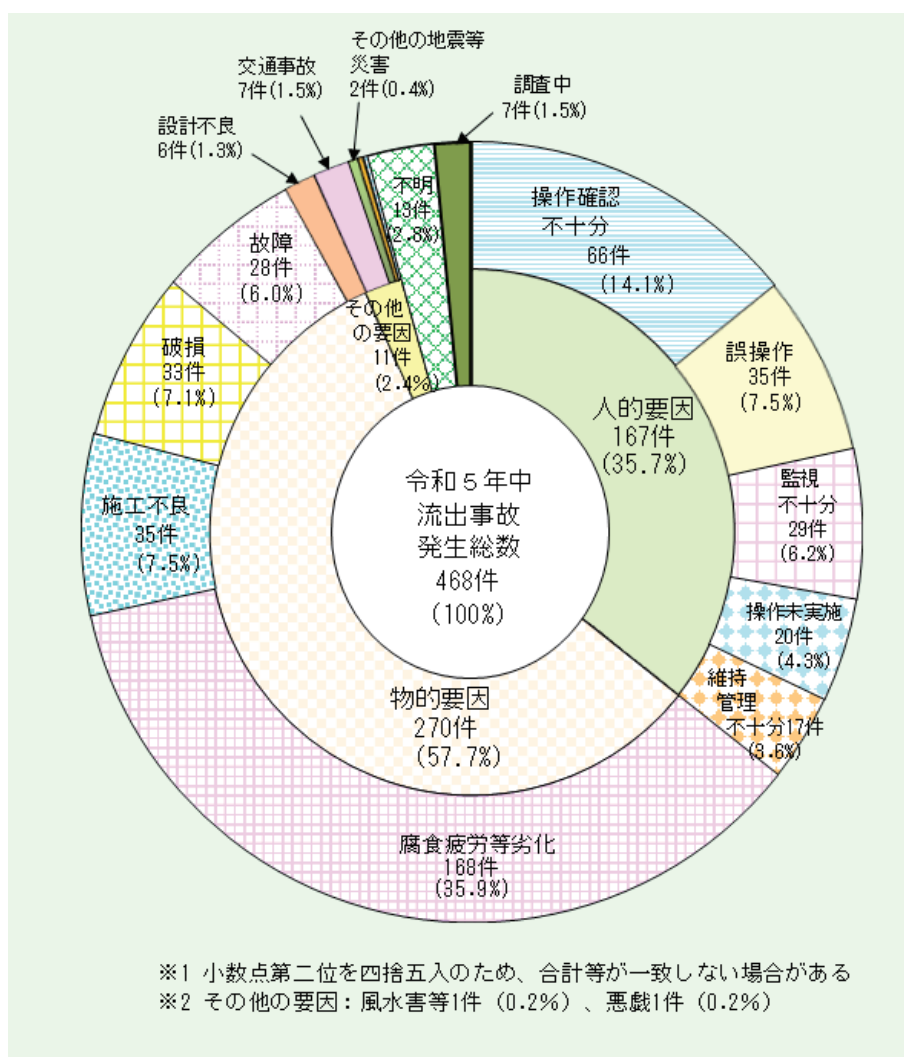
製造所等の別 発生原因		製造所	貯蔵所								取扱所						計	比率 (%)	令和4年	
			屋内 貯蔵所	屋外 タンク 貯蔵所	屋内 タンク 貯蔵所	地下 タンク 貯蔵所	簡易 タンク 貯蔵所	移動 タンク 貯蔵所	屋外 貯蔵所	小計	給油 取扱所	第一 種 販売 取扱所	第二 種 販売 取扱所	移送 取扱所	一般 取扱所	小計			件数	比率 (%)
人的要因	維持管理不十分	2	0	3	0	1	0	3	0	7	3	0	0	0	5 (2)	8 (2)	17 (2)	3.6 (16.7)	15	3.6
	誤操作	8	0	5	0	2	0	3	0	10	8	0	0	0	9	17	35	7.5	29	7.0
	操作確認不十分	11	1	5	0	4	0	17 (1)	0	27 (1)	10	0	0	3	15	28	66 (1)	14.1 (8.3)	57	13.7
	操作未実施	4	0	4	0	0	0	2	0	6	2	0	0	2	6	10	20	4.3	16	3.9
	監視不十分	0	0	2	0	1	0	6 (1)	0	9 (1)	12	0	0	0	8	20	29 (1)	6.2 (8.3)	21 (2)	5.1 (18.2)
	小 計	25	1	19	0	8	0	31 (2)	0	59 (2)	35	0	0	5	43 (2)	83 (2)	167 (4)	35.7 (33.3)	138 (2)	33.3 (18.2)
物的要因	腐食疲労等劣化	29	2	53 (1)	2	20 (1)	0	5	1	83 (2)	19 (1)	0	0	10	27 (1)	56 (2)	168 (4)	35.9 (33.3)	127 (1)	30.6 (9.1)
	設計不良	0	0	2	0	2	0	0	0	4	0	0	0	0	2	2	6	1.3	15	3.6
	故 障	5	0	6 (1)	1	4	0	0	0	11 (1)	3	0	0	0	9	12	28 (1)	6.0 (8.3)	24	5.8
	施工不良	11	0	6	0	0	0	2	0	8	0	0	0	3	13	16	35	7.5	20	4.8
	破 損	1	0	11 (1)	0	0	0	5	1	17 (1)	9	0	0	1	5	15	33 (1)	7.1 (8.3)	46 (3)	11.1 (27.3)
	小 計	46	2	78 (3)	3	26 (1)	0	12	2	123 (4)	31 (1)	0	0	14	56 (1)	101 (2)	270 (6)	57.7 (50.0)	232 (4)	55.9 (36.4)
その他の要因	放火等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
	交通事故	0	0	0	0	0	0	7 (1)	0	7 (1)	0	0	0	0	0	0	7 (1)	1.5 (8.3)	15 (3)	3.6 (27.3)
	類 焼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
	風水害等	0	0	1 (1)	0	0	0	0	0	1 (1)	0	0	0	0	0	0	1 (1)	0.2 (8.3)	17	4.1
	その他の地震等災害	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1 0	2	0.4	0	0
	悪 戯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0.2	0	0.0
	小 計	0	0	2 (1)	0	0	0	7 (1)	0	9 (2)	0	0	0	0	2	2	11 (2)	2.4 (16.7)	32 (3)	7.7 (27.3)
不 明		0	1	1	0	2	0	1	0	5	4	0	0	0	4	8	13	2.8	8 (1)	1.9 (9.1)
調査中		2	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	1	2	7	1.5	5 (1)	1.2 (9.1)
合 計		73	4	103 (4)	3	36 (1)	0	51 (3)	2	199 (8)	70 (1)	0	0	20	106 (3)	196 (4)	468 (12)	100.0 (100.0)	415 (11)	100.0 (100.0)

（注） 1 調査中とは、令和6年4月1日現在において、いまだ調査中のものをいう。

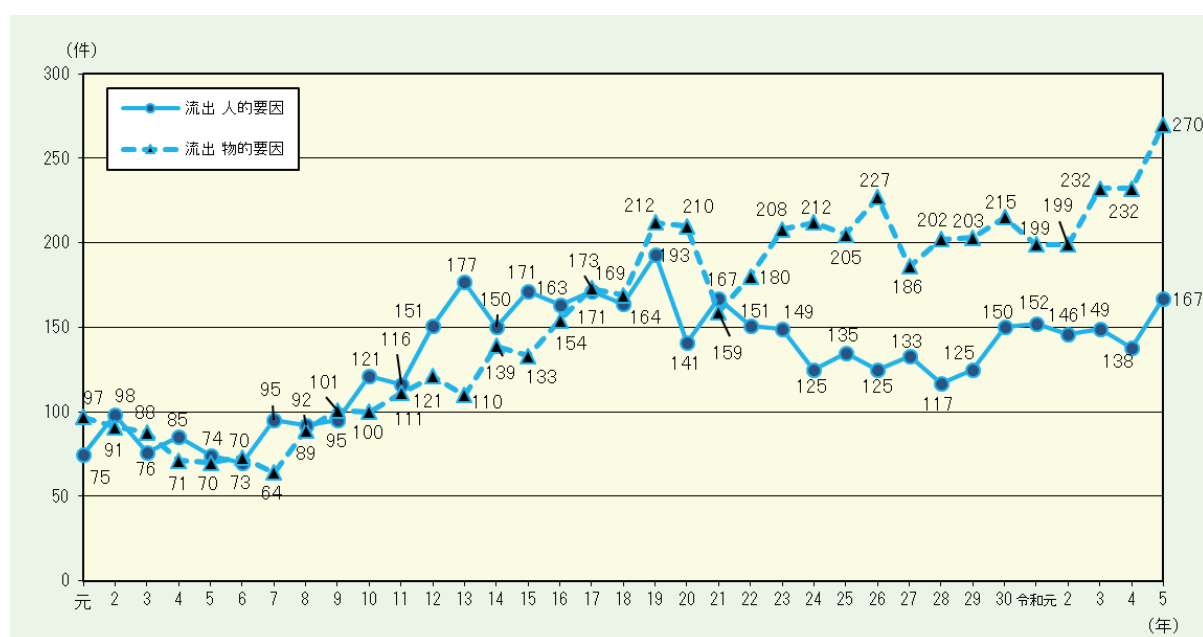
2 参考のため、右欄に前年の件数と比率を掲載した。

3 （ ）内の数値は重大事故件数を示す。

第14図 令和5年中の危険物施設における流出事故の発生要因



第15図 危険物施設における流出事故の要因別の発生件数の推移



第21表 危険物施設以外の場所における流出事故の発生原因（令和5年中）

製造所等の別 発生原因		無許可施設	危険物運搬中	仮貯蔵・仮取扱い	計
人的要因	維持管理不十分	0	2	0	2
	誤操作	2	0	0	2
	操作確認不十分	0	1	0	1
	操作未実施	0	5	0	5
	小 計	2	8	0	10
物的要因	腐食疲労等劣化	1	0	0	1
	破損	0	3	0	3
	小 計	1	3	0	4
合 計		3	11	0	14

4 コンタミ事故

令和5年中に発生したコンタミ事故は第22表のとおり。

第22表 危険物施設におけるコンタミ事故の発生原因と危険物取扱者の立会いの有無
(令和5年中)

製造所等の別		貯蔵所			取扱所						計		
		地下タンク貯蔵所			給油取扱所			一般取扱所					
											立 会 い あ り	立 会 い な し	立 会 い あ り
人的 要因	誤操作	2	0	2	5	2	3	0	0	0	7	2	5
	操作確認不十分	3	1	2	11	3	8	1	0	1	15	4	11
	監視不十分	0	0	0	3	2	1	0	0	0	3	2	1
	小 計	5	1	4	19	7	12	1	0	1	25	8	17
物的 要因	故 障	1	0	1	1	0	1	0	0	0	2	0	2
	小 計	1	0	1	1	0	1	0	0	0	2	0	2
不 明		0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1
合 計		6	1	5	21	7	14	1	0	1	28	8	20

(注) コンタミとは、製造所等の危険物タンクで油種が異なるものが混ざった場合をいう。

5 令和5年中に発生した重大事故

(1) 火災事故

令和5年中に発生した火災事故における重大事故は次のとおり。

令和5年中に発生した火災事故における重大事故（10件）

覚知月	都道府県	製造所等の別	死傷者数及び 損害見積額	重大事故の内訳*			概要・原因・被害状況等
				人的被害指標	影響範囲指標	収束時間指標	
1月	三重県	移動タンク貯蔵所	死者 0名 負傷者 0名 3,628万円		○	○	高速道路走行中の移動タンク貯蔵所の左後軸のタイヤから出火したもの。高速道路の上り坂を走行中、ブレーキの引き摺りと思われる速度の低下を感じ、ブレーキエア圧が低下。そのまま、速度が低下していき、本線上で停車。安全確保のため、ブレーキの引き摺りを感じたまま、P Aに移動させたところ、移動中にタイヤがバーストしたような音がし、左後軸のタイヤから出火、当該移動タンク貯蔵所は全焼した。また、危険物が側溝へ流れでるなどしたため、周囲に駐車していた車両2台が焼損した。
2月	神奈川県	一般取扱所	死者 0名 負傷者 0名 80万円			○	アスファルトを製造する工程ラインにおいて、乾燥炉及びダクト内のすすを除去する目的で空焚き運転を5時間ほど実施したため、乾燥炉及びダクト内が高温になり付着・堆積していたアスファルトを含んだ付着物から出火したものと推定される。従業員が移動式消火設備（ツインボックス）及び大型消火器（第4種）により初期消火を実施するも鎮火に至らず、脱臭炉内のダクトが焼損した。
2月	神奈川県	製造所	死者 0名 負傷者 0名 1万円未満			○	F L G装置（ガス化脱硫装置・ガス化部門）内の蒸留塔から出火したもの。当該装置は定期修理中であり、マンホール開放作業を行っていた際、堆積していた硫化鉄が自然発火し、塔内部の堆積物が焼損した。
3月	埼玉県	製造所	死者 0名 負傷者 0名 50万円		○	○	製造所附帯設備の温水槽でドラム缶3缶を湯煎している際に、化学的反応により熱膨張し、3缶のうち2缶が爆発したもの。爆発により窓ガラス及び外壁若干破損させ、周囲に異臭が発生した。
4月	静岡県	製造所	死者 0名 負傷者 0名 106万円		○		製造所内で廃油から再生重油の製造作業をしていた従業員が、製品テストのため再生重油に新聞紙を浸しライターで火を着け、ペール缶内に放置したため、周囲に延焼し全焼したもの。この火災により付近に停車していた移動タンク貯蔵所が類焼し、河川放水路に廃油が約8リットル流出した。
6月	新潟県	製造所	死者 1名 負傷者 2名 200万円	○			製造所において危険物移送配管の交換作業中、電動のこぎりを用いて配管を切断しようとしたところ、配管内部に付着していた過酸化物が発火、配管内圧が高まったことで配管が破裂

							し、作業員 1 名が死亡、2 名が負傷したもの。工事発注者（施設管理者）から工事作業員へ、配管内に残った物質に過熱による発火危険があることが具体的に伝えられていなかった。また、配管の交換作業において配管を切断することが発注者側に報告されておらず、電動のこぎりを使用することも伝えられていなかった。
9 月	神奈川県	製造所	死 者 0 名 負傷者 0 名 330 万円			○	蒸留塔本体のフランジ部に設けられたガスケット 2 枚で挟み込む形で蒸留塔内部に分散板が設けられているが、蒸留塔設置時から分散板に歪みが発生していたこと、また、前回のガスケット交換から 17 年が経過しており、分散板の歪みが、繰り返しの使用によりガスケットの割れを発生させたことにより、割れたガスケットの隙間から製品及び粗エステルが漏れ、保温材に染み込み、蒸留塔の熱による酸化蓄熱により出火したもの。蒸留塔上部の外面に設けられた保温材が焼損した。
11 月	埼玉県	製造所	死 者 0 名 負傷者 0 名 3,272 万円			○	酢酸エチルを製造するため、廃液を溶剤回収装置にて蒸留中、蓋の開いていたボイラーから漏れた可燃性蒸気が製造所内に充満し、付近の一斗缶に帯電していた静電気が何らかの振動により静電スパークを起こした瞬間に爆発し火災となったもの。製造所は爆発により全壊、同事業所内の 6 棟に被害が及んだ。
12 月	埼玉県	製造所	死 者 0 名 負傷者 1 名 調査中			○	製造所内において、計量したアセトン・酢酸エチル及びトルエンの混合液を専用ホースを使用して、攪拌タンクに投入していたところ、アースを接地することを失念したため、引火性雰囲気下において静電気が発生し、可燃性蒸気に着火したことで、製造所が全焼したもの。 この火災により、当該作業をしていた従業員 1 名が負傷（熱傷経度）した。
12 月	神奈川県	一般取扱所	死 者 0 名 負傷者 1 名 404 万円			○	工場内熱処理プラントにおいて、焼入れ工程終了後、成形バルブを油槽で冷却した際に発火し延焼したもの。熱処理プラントに処理能力を超える量の成形バルブを焼入れて油槽で冷却したため、油が発火点に至り発火、熱処理プラント 1 基が焼損した。

＊「重大事故の内訳」は、第 1 表（注）2 を参照

(2) 流出事故

令和5年中に発生した流出事故における重大事故は次のとおり。

令和5年中に発生した流出事故における重大事故（12件）

覚知月	都道府県	製造所等の別	死傷者数及び 損害見積額	重大事故の内訳*		概要・原因・被害状況
				人的被害 指標	流出被害 指標	
1月	岡山県	地下タンク 貯蔵所	死 者 0名 負傷者 0名 115 万円		○	地下タンクからギアポンプ間の地上SGP配管が土砂に埋もれ腐食したことによりピンホールが発生、重油 13,860 リットルが流出したもの。近隣住民からの河川に油膜が浮いており、異臭がするとの駆付通報により覚知した。流出した重油が地中へ浸透、地中から隣接する貯水池を経由し、河川に流れ込み海上まで約 900 メートルにわたり拡散した。
1月	岐阜県	一般取扱所	死 者 0名 負傷者 0名 1 万円未満		○	反応釜からトルエンを配管により送液する際、送液速度を誤って設定したため、同一の配管系統上にあった通気ラインからトルエン約 650 リットルが流出したもの。敷地内排水溝から川下 200～300 メートル地点まで流出した。
2月	愛知県	移動タンク 貯蔵所	死 者 0名 負傷者 0名 1 万円未満		○	顧客自ら給油等をさせる給油取扱所において、移動タンク貯蔵所が荷卸しをしていたところ、吐出口の閉鎖を失念し、ガソリン 250 リットルが流出したもの。流出したガソリンが雨水管に入り約 400 メートルにわたり拡散した。
3月	愛媛県	屋外タンク 貯蔵所	死 者 0名 負傷者 0名 120 万円		○	屋外タンク貯蔵所付属の地下ピット配管より重油 5000 リットルが流出したもの。地域住民からの水路に油が浮いているとの通報により覚知した。流出した重油が事業所側溝から水路に流れ込み、海上手前まで2キロメートルにわたり拡散した。
5月	千葉県	移動タンク 貯蔵所	死 者 0名 負傷者 0名 1 万円未満		○	移動タンク貯蔵所から熔融硫黄（危険物第2類）210キログラムが道路上約200mに流出したもの。雨水が入っているタンクに高温の熔融硫黄を積込んだことにより、蒸気が充満、内圧が安全弁の規定値を超えたため、安全弁が開放状態になり、蒸気と硫黄が安全弁から吹き出した。
6月	新潟県	屋外タンク 貯蔵所	死 者 0名 負傷者 0名 5,220 万円		○	準特定屋外タンク貯蔵所のタンク上部及び側面が変形し、変形した側板に亀裂が生じたため、亀裂部分からジメチルアセトアミド37.9キロリットルが流出したもの。そのうち16.4キロリットルが防油堤内において地下浸透、10.1キロリットルが防油堤外の排水溝内において地下浸透し、2.2 キロリットルが河川に流出したと推定される。

6 月	三重県	一般取扱所	死 者 0 名 負傷者 0 名 3 万円		○	スタートアップのためC9留分（第4類第2石油類）をタンク間で移送する際に、定期修理中に取り外していたタンク底の短管を復旧しないまま液移送を開始したため、タンクからC9留分が4000リットル流出したものの、300リットルが構内の暗渠を通じて河川約2.0キロメートルにわたり拡散した。
8 月	新潟県	一般取扱所	死 者 0 名 負傷者 0 名 150 万円		○	サービスタンクから一般取扱所の乾燥設備への地上配管が、経年劣化により折損し、灯油約13,500リットルが流出したものの、流出した灯油が事業所側溝から河川に流れ込み、河川2.5キロメートルにわたり油膜が確認された。
9 月	新潟県	給油取扱所	死 者 0 名 負傷者 0 名 37 万円		○	固定給油設備アイランドピット内の配管が腐食等劣化し、ガソリン約2000リットルが流出したものの、市役所より、当該給油取扱所周辺の住宅等の井戸水から基準値を超えるベンゼンが検出されたとの連絡を受け覚知した。ベンゼンが検出された井戸は、当該給油取扱所敷地外であり、最長で敷地境界線から25メートルの位置まで拡散した。
9 月	静岡県	屋外タンク 貯蔵所	死 者 0 名 負傷者 0 名 24 万円		○	倒木により、屋外タンク貯蔵所からボイラーへの埋設配管が破損、A重油約2500リットルが流出したものの、屋外タンク貯蔵所から約120メートル下の側溝において流出が目視にて確認された。なお、付近河川及び海上周囲に臭気があり、河川及び海上へ流出した可能性がある。
9 月	岐阜県	屋外タンク 貯蔵所	死 者 0 名 負傷者 0 名 9 万円		○	屋外タンク貯蔵所から排水機場内の排水稼働ポンプへの燃料送油管（フレキシブル管継手）に亀裂が生じ、A重油7,500リットルが地中及び河川へ流出したものの、河川約700メートル付近まで拡散した。
12 月	徳島県	移動タンク 貯蔵所	死 者 0 名 負傷者 0 名 464 万円		○	移動タンク貯蔵所が高速道路を走行中、ガードレールに接触し、単独で横転、移動貯蔵タンク後方第6室破損により、積載していた軽油4,000リットルが、高速道路上、一般道路及び用水路に流出したものの、事故現場から約200メートルの範囲に拡散した。

* 「重大事故の内訳」は、第1表（注）2を参照

Ⅱ 令和５年中の危険物に係る事故 (流出事故)

凡 例

- 1 危険物に係る事故は、火災、流出事故及びその他の事故に区分し掲載した。
- 2 火災及び流出事故は、原則として、すべての調査項目を掲載したが、軽度のものは、調査項目のうちの一部のみを掲載した。
- 3 その他の事故は、火災又は流出を伴わない危険物施設の破損等の事故について、その内容を分類し、簡単に紹介した。
- 4 調査表の記載は次によった。

(1) 事業所の種別

特別防災区域内－石油コンビナート等災害防止法第2条第2号に規定する区分

- 1 種－同法第2条第4号に規定する第一種事業所
- 2 種－同法同条第5号に規定する第二種事業所

(2) 貯蔵・取扱い・運搬の別

危険物施設にあっては、その区分及び設置の完成検査年月日、危険物の仮貯蔵又は仮取扱いにあっては、仮貯蔵・仮取扱いの別及びその承認に依る貯蔵又は取扱いの開始日、危険物の運搬又は無許可施設にあってはその別

(3) 取扱者の概要

人的要因に基づく事故の場合、災害の原因となる危険物を実際取り扱った者の年齢・当該取扱行為の経験年月

(4) 人的被害

当 事 者	発災事業所の従業員をいい、協力事業所、下請け等の従業員を含むものとする。
防災活動従事者	当事者を除く。
第 三 者	上記を除く者
死 亡 者 数	当該事故による死亡者及び当該事故により負傷し、48時間以内に死亡した者

1 流出事故

1 製造所

1 事故名		製油所における圧力容器の配管のドレン部からの減圧軽油流出事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		8月 16日 3時 10分	
5 覚 知		8月 16日 3時 20分		6 鎮 圧 応急処置完了		8月 16日 5時 02分	
7 鎮火・処理完了		8月 16日 5時 50分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南東 風速：2.2m/s 気温：27.3℃ 湿度：100%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				区 分：①. 事業所内 (<u>製</u> 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 仙台地区			
				16 発生施設規制区分等			
12 施 設 装 置				施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 9,918,000L 49,590倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 2,070,000L 2,070倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 809,000L 404.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 1,000L 0.5倍 第4類第3石油類(水溶性液体) 洗浄剤 2,000L 0.5倍 第4類第4石油類 潤滑油 30,000L 5倍			
名 称：分解装置 番 号 (2104)							
能 力：							
13 機 器 等		温 度 圧 力：					
名 称：その他 番 号 (999)							
規 模：分解装置							
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成 4年 10月 20日 直近の完成：令和 5年 7月 18日			
名 称：その他 番 号 (999)				17 物 質 の 区 分			
材 質：その他				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：減圧軽油(366L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運 転 状 況：スタートアップ中 番 号 (2)							
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 残油流動接触分解装置群内の圧力容器に接続された配管のドレン部分から、減圧軽油が毎分4〜5L漏えいしたもの。 漏えいの総量は366L。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 配管ドレンの腐食等劣化によるもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	腐食	環境	工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）							
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害					28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内の漏えい。		
	当 事 者	0	0	0	0					
	防災活動従事者	0	0	0	0					
	第 三 者	0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 漏えい量366L。			
消 防 機 関	16 台	0 隻	0 機	60 人	自 衛	0 台		0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台		0 隻	0 機	4 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台		0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台		0 隻	0 機	0 人
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (2 万円)			
公設消防機関：番号 (4)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
回収作業										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施 設 名				33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：				
	そ の 他	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策 や所見		不具合の生じた系統の配管については、滞留部の検査を計画・実施中になるため、残りの検査を早期に実施し、検査結果に応じた補修等の対応を実施する。 不具合配管に付着しているスケールを分析し、必要に応じて今後の検査計画を見直す。								

令和5年

1 事故名		製造所においてオイルクーラーの経年劣化により機器内の熱媒オイルが冷却水管内に混入し、河川に流出							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		6月 30日 13時 30分			
5 覚知		6月 30日 15時 00分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		6月 30日 15時 00分			
7 鎮火・処理完了		6月 30日 15時 00分							
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()							
9 気象状況		天気： 風向： 風速： 気温： 湿度：							
10 発生事業所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 その他の化 番 号 (1794) 学工業 ゼラチン・接着剤製造業				11 発生場所		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施設装置						16 発生施設規制区分等			
						施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他			
						貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所			
						類・品名・名称・数量・倍数：			
第4類第1石油類(非水溶性液体)		MEK、 樹脂配合物		4,662L		23.31倍			
第4類第2石油類(非水溶性液体)		タ ^ク ワ ^ル - ^ル PMMA、 樹脂配合物		1,331L		1.33倍			
第4類第3石油類(非水溶性液体)		樹脂、 樹脂配合物		1,591L		0.8倍			
第4類第4石油類		樹脂、油圧		2,777L		0.46倍			
第4類第4石油類		オイル、熱媒オイル、 樹脂配合物							
13 機器等		温度圧力：		倍数の合計： 25.9倍					
名称： 熱交換器 番 号 (301)									
規 模： 巾700mm、奥行1,410mm、高さ1,960mm									
14 発生箇所		設 置 の 完 成： 平成 20年 8月 26日 直 近 の 完 成： 令和 2年 12月 24日							
名称： パッキング 番 号 (213)		17 物質の区分							
材質： ステンレス		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス							
15 発生時		5. 毒物 6. 劇物 7. その他							
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		(固相、 液相、気相) (常圧、加圧)							
作 業 状 況： 番 号 ()		(低温、 常温 [0-40℃]、高温)							
		分 類： 第4類第4石油類 名称： パ ^ー -レルサ ^ー ム400(110L)							
18 取扱者の概要									
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い	
								①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無									
23 事故の概要： 熱媒装置を稼働させる際、熱媒オイル液面低下の異常が見られた。熱媒装置の冷却水排水ラインを点検したところ、油分を確認したため、熱媒オイルの流出を覚知したもの。状況確認及び応急措置を優先とし、措置後に消防署に通報した。									
24 緊急処置の状況 番号 (1) 無 装置の緊急停止									

25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
原 因	関 連 原 因		操作確認不十分							
	発生原因の状況： 熱媒装置内の熱媒オイル管と冷却水管はそれぞれが混在しないよう0リングでシールされているが、0リングが腐食したことで密閉性を保てず、冷却水管に熱媒オイルが混入し、排水されたため流出したものの。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		防食		防食措置が悪いために腐食発生					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
	因									
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27	人 的 被 害						28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設外の河川に流出したと想定されるが、発見時は河川に確認できなかったため、ごく小規模に収まっている。		
	当 事 者	0	0	0	0					
	防災活動従事者	0	0	0	0					
	第 三 者	0	0	0	0					
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
28	物質の被害状況： 第4類第4石油類バーレルサーム400 110L流出									
30	実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)	応急措置の実施状況、周囲への流出状況の確認、情報収集を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 熱媒装置のオイル抜き取り及び機器の停止。排水ラインにオイルマット設置。			
31	防災活動上の問題点 覚知の段階で速やかに通報できる体制が望まれる。防災隊員の役割分担を再度確認し、教育・訓練を実施すべきである。									
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
行 政 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日		年 月 日						
35	今後の対策 や所見	施設内の設備を熟知し、適切な保安体制を確立する必要がある。								

1 事故名		反応槽内に貯槽していたシクロヘキサンを水と間違い排水処理した事故													
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()													
3 発生		2月 6日 19時 55分 推定・確定					4 発生見		2月 7日 2時 20分						
5 覚知		2月 7日 13時 45分					6 鎮圧 応急処置完了		2月 7日 6時 45分						
7 鎮火・処理完了		2月 7日 6時 45分													
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()													
9 気象状況		天気：曇 風向：西 風速：2m/s 気温：8℃ 湿度：85%													
10 発生事業所		11 発生場所													
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u> 、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業(一貫して生産される誘導品を含む)		区分：①. 事業所内 (<u>製</u> 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区													
		16 発生施設規制区分等													
		施設区分： 1 危険物 2 高压ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) La (シクロヘキサン溶液) 2,120L 10.6倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) Mg (ヘプタン溶液) 2,050L 10.25倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) Sibus溶液 1,000L 5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) TIBA 21,115L 105.58倍 第3類76キログラムニウム TIBA 1,000kg 100倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) イソヘプタール 33,580L 167.9倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 23,764L 118.82倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) NBL 15,000L 75倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) SBL 6,196L 30.98倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) Tebbe錯体 500L 2.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) TLTebbe錯体反応液 3,000L 15倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) TMA 600L 3倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) シクロヘキサン 854,310L 4,271.55倍 第4類特殊引火物 イソブレン 145,866L 2,917.32倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ヘキサン 371,880L 1,859.4倍 第3類有機金属化合物(76キログラムニウム及び57キログラムニウムを除く。)(第 Tebbe錯体 65kg 6.5倍) 1種自然発火性物質及び禁水性物質) 第4類760Lニウム 371,880L 1,859.4倍 第4類第1石油類(水溶性液体) メタノール 181,046L 452.62倍 第4類第1石油類(水溶性液体) TMEDA 785L 1.96倍 第4類第1石油類(水溶性液体) テトラヒドロフラン 24,955L 62.39倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレン 25,503L 25.5倍 倍数の合計： 10,241.87倍													
12 施設装置		名称：その他の合成ゴム系製造装置 番号 (5399) 能力：セプトン 23,000t/年液状ゴム 13,000t/年													
13 機器等		温度圧力：													
名称：		その他の塔槽類 番号 (199)													
規模：		高さ 6.7m、容量 45m ³													
14 発生箇所		名称：その他 番号 (999) 材質：コンクリート													
15 発生時		運転状況：その他 番号 (99) 作業状況：その他 番号 (99)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要			21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無															
23 事故の概要： 反応槽内に貯槽していたシクロヘキサンを水と間違い排水処理をしたもの。なお、排水ピット内のシクロヘキサンはドラム缶にて回収し、処理。															
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>															

25	主 原 因 操作確認不十分				着火原因				番号 ()			
原因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 手動バルブによる排水作業において、透明度が高いシクロヘキサン/水系での排水操作の経験が少なく、界面推移の見逃しがあったと思われる。また、作業前ミーティングでの周知内容が不適切で、脱触槽内には大半が水であると伝達していたことも作業員の注意力が散漫になった原因に繋がるものと考えられ、こういった人的ミスにより、気が付くことなく排水処理を完了させた。そのまま翌日の巡視時に、ピット内にシクロヘキサンが浮遊していることを発見したものである。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	人			本人の知識・能力			知識			知識不足		
	制度			教育・訓練			内容			教育・訓練がない/不足		
	人			本人の知識・能力			技能・技術力			経験不足/習熟不足		
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人 的 被 害								28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 影響なし(当該製造所隣接の排水ピットに留まる)				
	当 事 者	0	0	0	0							
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし				
	第 三 者	0	0	0	0							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類 非水溶性 シクロヘキサン 4, 140L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人			
30	実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 情報収集を実施						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 回収、処理						
31	防災活動上の問題点 連絡体制の不備により、通報をためらったもの。通報よりも現場処置を優先した。											
32 行政措置	施設名							33 定期点検等	消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日		年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日			年 月 日							
35	今後の対策 や所見	当該事業所に対し、従業員への教育、組織体制の見直しを図るよう指導。 通報遅延に関して、防災体制の再徹底・教育を実施させたもの。										

令和5年

1 事故名	熱媒ポンプと熱媒ヒーター間に設置した安全弁から危険物の漏えい													
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()													
3 発 生	5月	26日	19時	04分	推定・ 確定	4 発 見	5月	26日	19時	06分				
5 覚 知	5月	26日	19時	20分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月	26日	20時	28分				
7 鎮火・処理完了	5月	26日	20時	28分										
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()													
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：2.2m/s 気温：19℃ 湿度：81%													
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 第2種 、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1735) 業製品製造業 プラスチック製 造業					11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) プチクロライド 120L 0.6倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) DP2 26,316L 131.58倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) SOL2 155L 0.78倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) メチルジメチシラン 180L 0.9倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) アクリル酸エチル 2,260L 11.3倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 1,7-オクタジエン 2,000L 10倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) オルノ酸メチル 140L 0.7倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトニリル 569L 1.42倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) アクリル酸ブチル 5,570L 5.57倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 2-メチルエチルアクリレート 1,750L 1.75倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 酢酸ブチル 8,865L 8.87倍 第4類第2石油類(水溶性液体) ジメチルアセトアミド 2,000L 1倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) サームエス800 1,478L 0.74倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) α-ブチロ酪酸エチル 75L 0.04倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) アクリル酸2-エチルヘキシル 449L 0.22倍 第4類第3石油類(水溶性液体) ベンチルジエチントリアミン 40L 0.01倍 第4類第4石油類 FBKカーテン56 64.1L 0.01倍 第4類第4石油類 エンソックSP260 149.9L 0.02倍 第4類第4石油類 333キリル SAX220 12,000L 2倍 第2類引火性固体 廃吸着剤 504kg 0.5倍 倍数の合計： 178.01倍							
12 施 設 装 置						13 機 器 等						14 発 生 箇 所	15 発 生 時	17 物 質 の 区 分
名 称：その他の合成ゴム系製造装置 番 号 (5399)						温 度 圧 力：180℃、0.35Mpa						名 称：安全弁 番 号 (301)	材 質：鋼鉄	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： サームエス800 (57L)
能 力：						名 称：熱交換器 番 号 (301)						18 取扱者の概要	規 模：全長:7,230mm幅:1,755mm高さ:2,190mm	
13 機 器 等	14 発 生 箇 所	15 発 生 時	17 物 質 の 区 分	18 取扱者の概要										
名 称：安全弁 番 号 (301)	材 質：鋼鉄	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要										
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い										
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無													
23 事故の概要：	多目的パイロット建屋の2階にある危険物配管上の安全弁よりサームエス800が57Lが漏えいしたもの。													
24 緊急処置の状況	有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 維持管理不十分							
	発生原因の状況： 熱媒蒸発工程の事前準備として熱媒循環ラインの熱媒体(サームエス800)の昇温を開始したところ、安全弁を設置している配管サポートの固定ボルトが復元されていなかったことから、地震(震度5弱)の振動を受けて安全弁が誤作動しサームエス800が漏えいしたものの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	施工不良	施工	取り付け不良					
	関連原因の詳細							
	設備	監理・保守	点検・整備	点検内容が不適切				
因								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害				28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 安全弁より排水溝へ漏えいしたが、建屋出口の油分分離装置でとどまる。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	6 台 0 隻 0 機 21 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 30 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)サームエス800 57L漏えい				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 情報収集を実施				自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 漏えい物の回収、情報収集、安全管理を実施				
31 防災活動上の問題点								
32 施設名	使用停止	年 月 日	年 月 日	33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	関係条項				保安検査	年 月 日	年 月 日	
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：			
	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策や所見		・危険物配管サポートの総合点検の実施 ・配管サポートの必要性に関する教育の実施						

1 事 故 名	製油所において、通路を横断する埋設配管の開孔部からの軽油の流出事故										
2 事 故 種 別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()										
3 発 生	5月	30日	0時	00分	推定・確定	4 発 見	7月	7日	8時	50分	
5 覚 知	7月	7日	9時	27分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了	7月	10日	12時	00分	
7 鎮火・処理完了	7月	10日	12時	00分							
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()										
9 気 象 状 況	天気： 晴 風向： 南西 風速： 1m/s 気温： 29℃ 湿度： 72%										
10 発 生 事 業 所	種 別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業					11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 190,000L 950倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 減圧スロップ油 172,000L 860倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 添加剤 30,510L 152.55倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 添加剤 149L 0.15倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 添加剤 83L 0.04倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 195,000L 97.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 減圧重質軽油 6,440,000L 3,220倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 間脱残さ油 4,529,000L 2,264.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 脱硫減圧軽質軽油 498,100L 249.05倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 油圧作動油 120L 0.06倍 第4類第4石油類 潤滑油 7,785L 1.3倍 倍数の合計： 7,795.15倍 設 置 の 完 成： 昭和 49年 3月 4日 直 近 の 完 成： 令和 元年 7月 23日				
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分					
名 称： 浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)						①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス					
能 力： 容量70,000kL						5. 毒物 6. 劇物 7. その他					
13 機 器 等 温 度 圧 力： 60℃、0.1Mpa						(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重質軽油 (13,500L)					
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	18 取扱者の概要										
規 模： 配管サイズ8インチ											
14 発 生 箇 所	19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要										
名 称： 配管の保温材、ヒーター 番 号 (214)	20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要										
材 質： 鋼鉄	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無										
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無										
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	23 事 故 の 概 要： 特定通路を横断する埋設部において、何らかの原因で配管に開孔部が生じ、重質軽油が漏えいしたもの。										
作 業 状 況： 番 号 ()	24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他										

25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
原因	関 連 原 因											
	発生原因の状況：											
	当該埋設配管は、本管(8B)にスチームトレースと保温が施工されており、その外側をさや管(16B)で覆った仕様となっている。検査の結果、さや管は防食用のアスファルトジュートの経年劣化で密着性が低下した部分に水分が浸入し外面腐食が進行したと推定され、管開孔に至った部位が確認されたがケレン前の段階ではアスファルトジュート材と錆こぶが付着している状態であったためさや管開孔部は確認できなかった。また、保温材については、水分が侵入し長期間吸水状態になったため、劣化破損している部位が多数確認された。以上のことから、さや管内及び保温材で湿潤環境が形成され、本管の外面・保温板金の腐食が進展し、本管が開孔したため、重質軽油がさや管内に流入しさや管端部のシール劣化剥離部より外部漏えいに至ったと推定する。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人 的 被 害							28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：				
								なし				
	当 事 者	0	0	0	0							
	防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況：				
第 三 者	0	0	0	0			配管に開孔部					
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	7 台 0 隻 0 機 23 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：								
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人									
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人									
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人									
30	実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)							自衛防災・消防組織等 番号 (99)					
情報収集、安全確認を実施												
31	防災活動上の問題点											
32	施 設 名							33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日			
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保 安 検 査	年 月 日			
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日			年 月 日							
35	今後の対策 や所見	復さや管の電気防食施工及びさや管端部はシール溶接化の改善処置の実施。 点検方法の見直し。										

令和5年

1 事故名		配合ポリオール製造所のドレン弁からポリプロピレングリコールの流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		8月 1日 0時 10分 推定・ 確定					4 発 見		8月 1日 2時 00分				
5 覚 知		8月 1日 2時 15分					6 鎮 圧 応急処置完了		8月 1日 3時 09分				
7 鎮火・処理完了		8月 1日 3時 09分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南南東 風速：1.6m/s 気温：27℃ 湿度：84%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト 、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 無機化学工 番 号 (1721) 業製品製造業 ソーダ工業		区 分：①. 事業所内 (製 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) アタロクトリル 19,500L 97.5倍 第4類第4石油類 ポ`リア`ロビ`レンク`リコール 269,336L 44.89倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) PPG 68,750L 34.38倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレン 16,000L 16倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) クレタプ`レボ`リマー 21,900L 10.95倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) トリレンジ`イソシアネート</span> 12,100L 6.05倍 第4類第4石油類 <span>ポ`リマ`ボ`リオール 32,400L 5.4倍 第4類第4石油類 MDI 24,280L 4.05倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) アミン触媒 400L 2倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) TMXD1 2,100L 1.05倍 第4類第4石油類 DINP 5,000L 0.83倍 第4類第3石油類(水溶性液体) IPDI 3,300L 0.83倍 第4類第4石油類 りん酸エステル 4,200L 0.7倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ポ`リエステルポ`リオール 1,200L 0.6倍 第4類第3石油類(水溶性液体) 1,4-ブ`タンジ`オール 1,200L 0.3倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 合成潤滑油 238L 0.24倍 第4類第4石油類 TCEP 1,320L 0.22倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 鉛触媒 180L 0.18倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 4-ナチル-2-ヘ`ンタノ`ン 36L 0.18倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 1,5-ヘ`ンタンジ`オール 108L 0.05倍 倍数の合計： 226.4倍											
12 施 設 装 置		名 称：ポ`リア`ロビ`レンク`リコール製造装置 番 号 (5208) 能 力： 13 機 器 等 温 度 圧 力：80℃、0.9Mpa 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：直径20mm 14 発 生 箇 所 名 称：ドレンノズル 番 号 (208) 材 質：鋼鉄 15 発 生 時 運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)											
17 物 質 の 区 分		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称：ポ`リア`ロビ`レンク`リコール(3,300L)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 配合ポリオール製造所内の中間受け槽(VE-311)から次工程の中間受け槽(VE-312A)へ移液をした際、ポリプロピレングリコールがドレン弁から漏えいしたもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 洗浄作業のため配合ポリオール製造所内の中間受け槽(VE-311)受け入れラインのドレン弁を操作するために現場へ向かったが、洗浄作業であることからドレン弁は全て開けなければならないという意識があったこと、及び現場表示もなかったことから、誤って近傍にある本来操作する必要のない当該ドレン弁を操作したポリプロピレングリコールが漏えいしたもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	思慮	思い込み				
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 影響なし
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 影響なし
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	7 台 0 隻 0 機 24 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 15 人	物質の被害状況：				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	ポリプロピレングリコール(第4類第4石油類)				
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	3,300L流出				
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (98 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 情報収集				自衛防災・消防組織等 番号 (99) 情報収集、回収作業				
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見	バルブ操作について再教育。 ヒューマンエラーによるトラブルの内容・対策についての教育。							

1 事故名		第2パラキシレン製造装置のドレン配管からキシレンのにじみ											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		9月 23日 19時 00分				[推定]・確定		4 発 見		9月 23日 22時 00分			
5 覚 知		9月 25日 10時 18分				6 鎮 圧 応急処置完了				9月 24日 1時 00分			
7 鎮火・処理完了		9月 24日 1時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北 風速：2.7m/s 気温：19℃ 湿度：85%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 C5(ベンタン)留分 570,000L 11,400倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 10,097,000L 50,485倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 1,113,000L 5,565倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) リフォーメイト 843,000L 4,215倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 脱着剤 1,029,000L 1,029倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 384,000L 192倍 第4類第3石油類(水溶性液体) 溶剤(N-ホルミルモルホリン) 195,000L 48.75倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 添加剤(硫化剤ジ`チオトルフェイト`) 3,000L 15倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 添加剤(塩化剤ジ`クロロプロパン) 2,000L 10倍 第4類第4石油類 潤滑油 28,100L 4.68倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 添加剤(汚れ防止剤ハ`ト`C-299S) 2,900L 2.9倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 添加剤(腐食防止剤EC1010A) 1,150L 1.15倍 倍数の合計： 72,968.48倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称：精製装置 番 号 (2103)		名 称：配管の保温材、ヒーター 番 号 (214)											
能 力：		材 質：鋼鉄											
13 機 器 等		温 度 圧 力：60℃、0.1Mpa											
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		15 発 生 時											
規 模：配管サイズ40A		運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)											
		作 業 状 況： 番 号 ()											
		17 物 質 の 区 分											
		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：キシレン(2.2L)											
		18 取扱者の概要											
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 第2パラキシレン製造装置内のVE-754A入口ドレン配管の保温板金よりキシレンの微量漏えいを確認したもの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送													

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 当該配管が付随するVE-754A入口配管の運転温度は200℃と高温環境であるが、当該配管はオイル抜き用の配管で通常流れのない配管であったため、保温下外面腐食が発生する温度域(150℃以下)まで低下し、保温内に浸入した水分が滞留し保温下外面腐食が進展したものと推定する。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害						28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし		
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： ドレン配管の腐食		
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 保温板金よりキシレンのにじみ		
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻		0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻		0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻		0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻		0 機	0 人
30 実施した防災活動の状況								損害額 1万円未満、 1万円以上 (200 万円)		
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、安全確認を実施						自衛防災・消防組織等 番号 (99)				
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年	月	日	年			月	日	
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		類似配管の水平展開検査、通報遅延に伴う通報体制の再教育								

令和5年

1 事故名		第2パラキシレン製造装置の安全弁行ドレン配管からキシレンのにじみ											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		9月 25日 7時 20分				[推定]・確定		4 発 見		9月 25日 10時 30分			
5 覚 知		9月 25日 11時 30分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了				9月 26日 6時 00分			
7 鎮火・処理完了		9月 26日 6時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北 風速：2.7m/s 気温：19℃ 湿度：85%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 C5(ベンタン)留分 570,000L 11,400倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 10,097,000L 50,485倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 1,113,000L 5,565倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) リフォーメイト 843,000L 4,215倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 脱着剤 1,029,000L 1,029倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 384,000L 192倍 第4類第3石油類(水溶性液体) 溶剤(N-ホルミルモルホリン) 195,000L 48.75倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 添加剤(硫化剤ジ`チルチルフィド`) 3,000L 15倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 添加剤(塩化剤シ`クロブ`ロバン) 2,000L 10倍 第4類第4石油類 潤滑油 28,100L 4.68倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 添加剤(汚れ防止剤ハ`ト`C-299S) 2,900L 2.9倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 添加剤(腐食防止剤EC1010A) 1,150L 1.15倍 倍数の合計： 72,968.48倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称：精製装置 番 号 (2103)		名 称：ドレンノズル 番 号 (208)											
能 力：		材 質：鋼鉄											
13 機 器 等		温 度 圧 力：60℃、3Mpa											
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		17 物 質 の 区 分											
規 模：配管サイズ3/4B		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：キシレン(1.7L)											
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要											
名 称：ドレンノズル 番 号 (208)		①. 選任有 2. 選任無											
15 発 生 時		21 危険物取扱者の ①. 有											
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		2. 無											
作 業 状 況： 番 号 ()													
19 危険物保安 統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の 取扱・立会い		①. 有 2. 無							
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 第2パラキシレン製造装置内のVE-754Bの液張り作業中に安全弁行きドレン配管よりキシレンの微量漏えいを確認したもの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送													

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 当該配管の開孔は、エルボと短管との溶接部で発生しており塗装が経年劣化で剥離し外面腐食が進展したものと推定する。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害						28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし		
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： ドレン配管の腐食		
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： ドレン配管よりキシレンが1.7L流出		
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻		0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻		0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻		0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻		0 機	0 人
30 実施した防災活動の状況								損害額 1万円未満、 1万円以上 (200 万円)		
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、安全確認を実施						自衛防災・消防組織等 番号 (99)				
31 防災活動上の問題点 通報の遅延										
32 施 設 名					33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日							
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		類似配管の水平展開検査								

1 事 故 名		重合槽から洗浄槽へ内液を圧送した際、コンデンサーのフレイムアレスタよりノルマルヘキサンが流出したもの													
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()													
3 発 生		10月 16日 9時 51分 推定・ 確定					4 発 見		10月 16日 9時 52分						
5 覚 知		10月 16日 10時 21分					6 鎮 圧 応急処置完了		10月 16日 11時 40分						
7 鎮火・処理完了		10月 16日 11時 40分													
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()													
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：西 風速：1.6m/s 気温：21℃ 湿度：59%													
10 発 生 事 業 所		種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト 、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業(一貫して生産され る誘導品を含む)					11 発 生 場 所		区 分：①. 事業所内 (製 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区						
12 施 設 装 置							16 発生施設規制区分等								
名 称：その他の合成ゴム系製造装置 番 号 (5399)							施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他								
能 力：セプトン 23,000t/年、液状ゴム 13,000t/年							貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) La (シクロヘキサン溶液) 2,120L 10.6倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) Mg (ヘプ タン溶液) 2,050L 10.25倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) Sibus溶液 1,000L 5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) TIBA 21,115L 105.58倍 第3類76キログラムニウム TIBA 1,000kg 100倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) イソパ レーラ 33,580L 167.9倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 23,764L 118.82倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) NBL 15,000L 75倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) SBL 6,196L 30.98倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) Tebbe錯体TL 500L 2.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) Tebbe錯体反応ろ液 3,000L 15倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) TMA 600L 3倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) シクロヘキサン 854,310L 4,271.55倍 第4類特殊引火物 イブレン 145,866L 2,917.32倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ヘキサン 371,880L 1,859.4倍 第3類有機金属化合物(76キログラムニウム及び57キログラムニウムを除く。)(第 Tebbe錯体 65kg 6.5倍 1種自然発火性物質及び禁水性物質) 第4類760Lニウム類 マナール 181,046L 452.62倍 第4類第1石油類(水溶性液体) TMEDA 785L 1.96倍 第4類第1石油類(水溶性液体) テトラヒド ロフラン 24,955L 62.39倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレン 25,503L 25.5倍 倍数の合計： 10,241.87倍								
13 機 器 等		温 度 圧 力：50℃、0.17Mpa					設置の完成：昭和 55年 3月 26日 直近の完成：令和 元年 6月 5日		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0ー40℃]、 高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ノルマルヘキサン(8L)						
名 称：その他 番 号 (999)		規 模：容量 6m ³					18 取扱者の概要					経験年数12年			
14 発 生 箇 所		名 称：フレイムアレスタ 番 号 (212) 材 質：ステンレス					19 危険物保安 統括管理者		20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無		
15 発 生 時		運 転 状 況：その他 番 号 (99) 作 業 状 況：その他 番 号 (99)					①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		2. 選任無		①. 有 2. 無				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無															
23 事 故 の 概 要： 重合槽から洗浄槽へ内液を圧送した際、コンデンサーのフレイムアレスタよりノルマルヘキサンが流出したもの。															
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止															

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 重合槽から洗浄槽へ内液を圧送した際、洗浄槽内の内圧アラームが作動したが、運転員がそれほど内圧が上がらないと思い、そのまま移送を継続した。その結果、洗浄槽内の内圧は通常よりも高い圧力となり圧力調整弁の二次側で圧力開放されて気相部のガスがノルマルヘキサン蒸気を伴って均圧ライン經由でコンデンサーに移りコンデンサーで凝縮したノルマルヘキサンの液滴が高流速の排ガスに伴伴されてフレイムアレスタからミスト状に排出されたもの。また、重合槽の洗浄を行うと蓄積した汚れが剥離し、重合槽払出ポンプ内に詰まることのあるため払出ポンプインペラーを取り出していたことも圧力損失が減少し洗浄槽への移送量が増加した要因である。							
	主要原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	制度	規則・手順	内容・周知	規則・手順の内容が不適切				
	人	本人の知識・能力	知識	知識不足				
	管理	リスクアセスメント	危険意識	危険に対する認識がない/不足				
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 影響なし
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	6 台 0 隻 0 機 25 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類 非水溶性 ノルマルヘキサン 8L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 情報収集を実施					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 回収、処理			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第11条第1項製造所等の無許可設置、位置・構造及び設備の無許可変更			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見		当該事業所に対し、作業手順及び作業標準書について従業員への教育を実施させる。 重合槽払出ポンプのインペラー取り外しについて、当該行為が法第11条第1項に抵触することを従業員へ教育を実施させる。						

令和5年

1 事故名		抽出蒸留塔の塔底ポンプ吐出側フランジ部よりC5留分を主原料とする混合物の漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		11月 28日 14時 30分 推定・ 確定					4 発 見		11月 28日 15時 30分		
5 覚 知		11月 28日 15時 45分					6 鎮 圧 応急処置完了		11月 28日 16時 58分		
7 鎮火・処理完了		11月 28日 16時 58分									
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 北西 風速： 2.6m/s 気温： 20℃ 湿度： 50%									
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所									
種 別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1736) 業製品製造業 合成ゴム製造業		区 分： ①. 事業所内 (製 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 C留分 1,678,595L 33,571.9倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトニトリル 276,857L 692.14倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) BUCKS-75 1,382L 6.91倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) ジシクロペンタジエン 266,983L 266.98倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 12,522L 12.52倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) アミン類 811L 0.41倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) タービン油 1,500L 0.75倍 倍数の合計： 34,551.61倍									
12 施 設 装 置		設 置 の 完 成： 昭和 46年 7月 26日 直 近 の 完 成： 平成 30年 1月 15日									
名 称： イソブレン・イソブチレン・ラバー(IIR)装置 番 号 (5308)		17 物 質 の 区 分									
能 力： 生産能力 31,000t/年		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類： 第4類特殊引火物 名称： C留分(4.4L)									
13 機 器 等		18 取扱者の概要									
温 度 圧 力： 45℃、0.52Mpa											
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)											
規 模： 6インチ 材質STPG											
14 発 生 箇 所											
名 称： 配管の保温材、ヒーター 番 号 (214)											
材 質： 鋼鉄											
15 発 生 時											
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)											
作 業 状 況： 番 号 ()											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 腐食検査の際、異臭を感じたため確認したところ、イソブレン製造設備内のポンプ吐出側フランジの上部にある保温施工された配管より溶剤が漏えいしたもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()				
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： ポンプ吐出フランジ部上部の配管は保温されており、運転温度が45℃と低いこともあり、浸入した雨水が蒸散しにくい状態となっていたことから、腐食を促進させる環境となって減肉が進行し破孔に至り漏えいしたものと推定する。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27	人 的 被 害							28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 吐出配管の破損					
	第 三 者	0	0	0	0								
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	7 台 0 隻 0 機 26 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 7 人	物質の被害状況： C5留分を主原料とする溶剤約4.4L漏えい									
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同										0 台 0 隻 0 機 0 人
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援										0 台 0 隻 0 機 0 人
	その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他										0 台 0 隻 0 機 0 人
損害額 1万円未満、 1万円以上 (100 万円)													
30	実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) 情報収集及び安全確認を実施							自衛防災・消防組織等 番号 (99) 情報収集、安全管理						
31	防災活動上の問題点												
32	施 設 名			33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他					
行 政 措 置	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		年 月 日		年 月 日					
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日		年 月 日					
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査		年 月 日		年 月 日					
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：							
	そ の 他	年 月 日	年 月 日										
35	今後の対策 や所見 雨水が蒸散しやすいように保温材の施工方法の見直し。												

1 事故名	製造所において危険物を屋外タンクに液送したところ、バルブ操作ミスによりフランジから流出した事故									
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生	11月	1日	19時	00分	推定・確定	4 発生見	11月	1日	19時	00分
5 覚知	11月	2日	16時	10分		6 鎮圧 応急処置完了	11月	2日	20時	00分
7 鎮火・処理完了	11月	6日	15時	30分						
8 覚知別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況	天気：晴 風向：北西 風速：1.3m/s 気温：16.6℃ 湿度：74.5%									
10 発生事業所	種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 医薬品製造 番号 (1761) 業 医薬品原薬製造業					11 発生場所	区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
16 発生施設規制区分等										
施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他										
貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所										
類・品名・名称・数量・倍数：										
12 施設装置	名称：配合室 番号 (1707) 能力：					第2類硫化りん	五硫化ニリン	300kg	3倍	
13 機器等						温度圧力：0.4Mpa	第4類特殊引火物	ジ・エチルエーテル	0.5L	0.01倍
						名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規模：40Aグラスライニング管	第4類第1石油類(非水溶性液体)	トルエン等	21,703L	108.52倍
							第4類第1石油類(水溶性液体)	アセトン等	2,794.5L	6.99倍
							第4類アルコール類	メタノール等	3,622L	9.06倍
第4類第2石油類(非水溶性液体)	PMA等	2,136.5L	2.14倍							
14 発生箇所	名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201) 材質：鋼鉄	第4類第2石油類(水溶性液体)	DMF等	18.1L	0.01倍					
		第4類第3石油類(非水溶性液体)	IN310等	3.3L	0倍					
		第4類第3石油類(水溶性液体)	DMSO等	10L	0倍					
		第4類第4石油類	潤滑油	140.5L	0.02倍					
15 発生時	運転状況：定常運転中 番号 (1) 作業状況：運転操作中 番号 (1)					倍数の合計：129.75倍				
設置の完成：平成 24年 4月 19日 直近の完成：令和 4年 3月 14日										
17 物質の区分										
①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：キシレン(590L)										
18 取扱者の概要 経験年数5年										
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有										
23 事故の概要： 製造所にて危険物の廃液(キシレン)を屋外タンクに液送したところ、タンクのバルブを開け忘れてしまい廃液の行き場がなくなりフランジから漏れ出したもの。										
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止										

原 因	25 主 原 因	操作確認不十分				着火原因				番号 ()																													
	関 連 原 因																																						
	発生原因の状況： 従業員が本来はタンク側のバルブを開けて液送すべきところ、操作ミスにより閉止したままで送液してしまったことにより危険物が漏えいした。																																						
	主原因の詳細																																						
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																													
	人			本人の意識			思慮			不注意																													
	関連原因の詳細																																						
因																																							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																							
27 人 的 被 害								28 物的被害																															
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 施設敷地内で治まっている。			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																	
当 事 者	0	0	0	0																																			
防災活動従事者	0	0	0	0																																			
第 三 者	0	0	0	0																																			
								施設等の被害状況： 施設壁の一部分が溶けた。配管のフランジ部分が破損した。																															
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																							
消 防 機 関		0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛		0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 第2石油類(非水溶性)キシレン590L流出																											
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同		0 台	0 隻	0 機	0 人																												
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援		0 台	0 隻	0 機	0 人																												
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他		0 台	0 隻	0 機	0 人																												
								損害額 1万円未満、 1万円以上 (200 万円)																															
30 実施した防災活動の状況																																							
公設消防機関：番号 ()								自衛防災・消防組織等 番号 ()																															
31 防災活動上の問題点 発見から翌日に通報があった。																																							
政 策 措 置	32 施 設 名	製造所						33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他																												
	使用停止	年 月 日				年 月 日		定期・自主点検	年 月 日		年 月 日																												
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等	令和5年11月6日		年 月 日																												
	停止解除	年 月 日				年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日																												
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：																														
	そ の 他	注意 令和5年11月3日 1. 文書 ②. 口頭				年 月 日 1. 文書 2. 口頭																																	
35 今後の対策 や所見		操作ミスが生じないよう手順書の再確認、社内教育の徹底を指導。																																					

令和5年

1 事故名		オイリードラムの液面計が故障していたため、ファンネルからトルエンが流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		2月 18日 11時 30分				[推定]・確定		4 発 見		2月 18日 11時 30分			
5 覚 知		2月 18日 13時 04分				6 鎮 圧 応急処置完了				2月 18日 15時 07分			
7 鎮火・処理完了		2月 18日 16時 10分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北西 風速：3m/s 気温：13℃ 湿度：											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業(一貫して生産され る誘導品を含む)		区 分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京葉臨海中部地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) DIB・トルエン等 116,068L 580.34倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) DCPD等 8,560L 8.56倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 熱媒油 3,136L 1.57倍 第4類7アルコール類 メタノール 7,429.6L 18.57倍											
		倍数の合計： 609.04倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称：その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959)		名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)											
能 力：生産_7,000t/年		材 質：特殊合金											
13 機 器 等		15 発 生 時											
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		運 転 状 況：その他 番 号 (99)											
規 模：寸法:Φ1,400mm×2,000mm容量:約3m ³		作 業 状 況： 番 号 ()											
14 発 生 箇 所		17 物 質 の 区 分											
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：トルエン(670L)											
15 発 生 時		18 取扱者の概要											
運 転 状 況：その他 番 号 (99)		19 危険物保安 統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
作 業 状 況： 番 号 ()		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： オイリードラムへ液移送中にオイリーファンネルより溢流した。 油水分離槽の排水弁が開いていたため、溢流した油がクリーン側溝へ流出したが、クリーントラップで留まり、海上流出には至らなかった。		24 緊急処置の状況 [有] 番号 (8、9) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等、緊急排出、緊急移送											

原因	25 主 原 因 故障				着火原因				番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分													
	発生原因の状況： 液面計のフロートが固着、誤指示(機能不全)により満液となったことで、最も低い位置のオイリーファンネルから漏えいしたと推定。 漏えいした危険物が装置外のクリーン側溝へ流出した原因は、定期整備後のスタート準備で排水弁の閉止をしたつもりであるが閉まりきっていなかった。その後の確認作業も不十分であった。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層				
	故障			機能			機器の機能の停止							
	関連原因の詳細													
	人		本人の意識				思慮				不注意			
因														
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害								28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 製造所から流出した油は、事業所内に留まった。						
区分														
当 事 者	0	0	0	0										
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし						
第 三 者	0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)トルエン 670L流出						
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	1 台	0 隻					0 機	5 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻					0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻					0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99) 情報収集								自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業						
31 防災活動上の問題点														
行政措置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他				
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検		年 月 日		年 月 日				
	改善命令等	年 月 日				気密試験等		年 月 日		年 月 日				
	停止解除	年 月 日				保安検査		年 月 日		年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：						
	そ の 他	年 月 日												
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策 や所見		・液面計更新を計画的に実施する。 ・油水分離槽排水弁管理・確認の遵守徹底を再教育した。												

1 事故名		減圧蒸留装置UV3005上流フランジからの軽質軽油漏えい事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		3月 9日 2時 30分				推定・ 確定		4 発生見		3月 9日 2時 30分	
5 覚知		3月 9日 2時 30分				6 鎮圧 応急処置完了		3月 9日 8時 05分			
7 鎮火・処理完了		3月 9日 8時 05分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向： 西南西 風速： 0m/s 気温： 11℃ 湿度： 35%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態： 製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 番号 (1811)		区分： ①. 事業所内 (製 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京葉臨海中部地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ(非) 443.5L 2.22倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油、軽油(非) 1,400.9L 1.4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油、添加剤(非) 13,581.8L 6.79倍 第4類第4石油類 潤滑油 8.3L 0倍									
12 施設装置		倍数の合計： 10.41倍									
名称： 減圧蒸留装置 番号 (2102)		設置の完成： 昭和 46年 11月 20日 直近の完成： 令和 5年 3月 6日									
能力： 第4類第1石油類 ナフサ(非) 443.5 kL、第4類第2石油類 灯油、軽油(非) 1,400.9 kL、第4類第3石油類 重油、添加剤(非) 13,581.8 kL、第4類第4石油類 潤滑油 8.3 kL		17 物質の区分									
13 機器等 温度圧力：		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他									
名称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606)		(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽質軽油(非) (54,000L)									
規模： 16B フランジ		18 取扱者の概要									
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
名称： その他の附属配管等 番号 (299)		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無							
材質： 鋼鉄											
15 発生時											
運転状況： シャットダウン中 番号 (3)											
作業状況： 番号 ()											
22 設備・機器等の概要：		23 事故の概要：									
オンラインファイル無		3月9日2時30分頃、製油1グループ運転員が巡回点検中に減圧蒸留装置のバルブ(UV3005)の上流フランジより軽質軽油の漏えいを発見した。直ちに班長に報告を行い、現場確認を行った班長より直課長へ所内連絡をし、連絡を受けた直課長は、2時46分一般電話にて指令センターへ通報、非常体制を発令した。 当該装置は定期修理に向けて運転を停止しており、リアクターの触媒交換のために油と薬品を張り込む不活性化作業を実施中であった。当該漏えい箇所はバルブ下流との縁切りのため、前日に仕切板を挿入した箇所であった。装置系内の油を抜き取り、漏えいが停止したことを確認した後、当該フランジの増し締めを実施した。									
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 原因は、次のとおりとした。 ・フランジ締結時の締付力不足 ・ジャッキ取り外しに伴うフランジ隙間偏りの発生 ・フランジ締結後のフランジ気密性確認不足							
	主要原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	施工不良	施工	ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	7 台 0 隻 0 機 28 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 8 人	物質の被害状況： 軽質軽油（非）54,000L				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	2 台 0 隻 0 機 7 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	5 台 0 隻 0 機 6 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 () 火災発生に備え現場待機				自衛防災・消防組織等 番号 () 大型化学消防車1台より警戒体制：漏えい箇所周辺への警戒放水・発砲体制/手広め1線2口 消火栓W-706より警戒体制：フランジ増し締め作業者への警戒放水体制/手広め1線1口				
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策や所見		・フランジの増し締め後に気密試験を実施し、気密性の確認を実施した。 ・社内手順の改正						

1 事故名		危険物製造所においてポンプ吸入側ブロー口の手動弁を閉め忘れ、危険物が流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		7月 6日 13時 20分 推定・ 確定					4 発生見		7月 6日 13時 20分				
5 覚知		7月 6日 14時 28分					6 鎮圧 応急処置完了		7月 6日 14時 15分				
7 鎮火・処理完了		7月 6日 14時 15分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：北北東 風速：2m/s 気温：31℃ 湿度：59%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(水溶性液体) ビリジン 513L 1.28倍 第4類アルコール類 メタノール 23,750L 59.38倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 無水酢酸 3,690L 3.69倍 第4類第2石油類(水溶性液体) アセチルアセトフェン 1,100L 0.55倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ニトロベンゼン 4,800L 2.4倍 第4類第3石油類(水溶性液体) N-メチル-2-ピロリドン 33,264L 8.32倍 第4類第4石油類 シリゲル油 180L 0.03倍											
		倍数の合計：75.65倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：その他【有機化学工業】 番号 (5999)		設置の完成：平成 16年 8月 24日 直近の完成：平成 17年 4月 26日											
能力：危険物の最大倍数 75.65倍		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(水溶性液体) 名称：N-メチル-2-ピロリドン(45L)											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		18 取扱者の概要											
規模：25A_SUS配管		経験年数17年											
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者											
名称：開閉弁 番号 (204)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					20 危険物保安監督者						
材質：ステンレス							①. 選任有 2. 選任無 3. 不要						
15 発生時							21 危険物取扱者の取扱・立会い						
運転状況：スタートアップ中 番号 (2)							①. 有 2. 無						
作業状況：洗浄中 番号 (11)													
19 危険物保安統括管理者		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
22 設備・機器等の概要：		23 事故の概要： 前日にPI第3工場の5階A室にある反応槽(R-1105)内部の汚れが見つかったので、操業員Aは午後から行う循環洗浄準備のため、3階A室循環ラインの残液ブローを実施(手動弁3箇所)。うち手動弁1箇所のバルブを閉め忘れ昼食休憩を取る。 昼食休憩後、操業員AはR-1105にNMPを45kg投入するため、操業員Bに無線連絡。DCS操作で予定量の45kgを自動投入した。次に操業員Aは循環洗浄ライン作成のため、R-1105下部のボトムピストン弁の開を操業員Bに無線連絡。操業員BはDCS操作でR-1105下部のボトムピストン弁を開とした。 操業員AはR-1105から、DP-1105(洗浄用循環ポンプ、3F設置)に移動し、NMPの漏えいを発見。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

令和5年

1 事故名		減圧蒸留装置における燃料油配管の腐食開孔部からのC重油流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		7月 15日 21時 20分 推定・ 確定					4 発生見		7月 15日 21時 20分				
5 覚知		7月 15日 21時 31分					6 鎮圧 応急処置完了		7月 16日 2時 33分				
7 鎮火・処理完了		7月 16日 3時 00分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：5m/s 気温：27℃ 湿度：77%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京葉臨海中部地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ(非) 443.5L 2.22倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油、軽油(非) 1,400.9L 1.4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油、添加剤(非) 13,581.8L 6.79倍 第4類第4石油類 潤滑油 8.3L 0倍											
12 施設装置		13 機器等											
名称：減圧蒸留装置 番 号 (2102)		温度圧力：120℃、1.18Mpa											
能力：第4類第1石油類 ナフサ(非) 443.5 kL、第4類第2石油類 灯油、軽油(非) 1,400.9 kL、第4類第3石油類 重油、添加剤(非) 13,581.8 k、第4類第4石油類 潤滑油 8.3 kL		名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)											
13 機器等		規模：2B 配管											
14 発生箇所		15 発生時											
名称：その他の附属配管等 番 号 (299)		16 設置の完成：昭和 46年 11月 20日 直近の完成：令和 5年 3月 6日											
材質：鋼鉄		17 物質の区分											
15 発生時		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：C重油(非)(110L)											
14 発生箇所		18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 7月15日21時20分頃、製油1グループ運転員が巡回点検中にH-1601B付近で重油の漏えいを発見し、直ちに班長に報告を行った。現場確認を行った班長は、直課長へ所内連絡をし、連絡を受けた直課長は、21時31分一般電話に消防機関へ通報、非常体制を発令した。漏えい箇所は速やかに縁切り・脱圧し、漏えいは停止した。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 配管上面の保温板金損傷部から保温内部に雨水が入り、配管外面で保温材下腐食が発生し進展したことで配管が開孔し、漏えいに至ったと推定している。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人 的 被 害						28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし			
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： C重油が約110L漏えい				
消 防 機 関	9 台	0 隻	0 機	24 人	自 衛	4 台			0 隻	0 機	18 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台			0 隻	0 機	6 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台			0 隻	0 機	0 人
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台			0 隻	0 機	0 人
30	実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 漏えい箇所周辺への警戒筒先					
31	防災活動上の問題点										
32 行政措置	施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：				
	そ の 他	年 月 日	年 月 日								
35	今後の対策 や所見		全ての加熱炉燃料油配管の使用状況を調査し、滞油抜き可能な加熱炉燃料油配管の滞油抜き計画を立案する。 滞油抜き不可範囲は、CUI対象として管理していく。								

令和5年

1 事故名		注水供給配管からの水漏えいに伴い、隣接配管から危険物と高圧ガスが混合状態で漏えい事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		9月 5日 12時 25分				推定・ 確定		4 発 見		9月 5日 12時 25分			
5 覚 知		9月 5日 12時 35分				6 鎮 圧 応急処置完了				9月 5日 15時 02分			
7 鎮火・処理完了		9月 5日 15時 14分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南西 風速：7.3m/s 気温：32℃ 湿度：											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業(一貫して生産され る誘導品を含む)		区 分：①. 事業所内 (製 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京葉臨海中部地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) DIB、 キョーワゾー ルC-800、 1,497,800L 7,489倍 副生油、オクテン、1-オクテン、 クルート オクテン、 有機酸副生油、 イソブ チルアルデ ヒド [※] ノネン、 ド デ セン、 キョーワゾー ル 1,376,600L 1,376.6倍 C-900、C10-HC、3,5,5-トリメチルヘキサノール、 イソ 酪酸 トリデ [※] カノ ル、 オキソ コ ル900、 704,000L 352倍 デ カノ ル、 ノ ナノ ル、1- ノ ナノ ル、 フ イン オキソ コ ル180、 キョー ワ ノ イ ッ ク エ ン 、 ボ リ マ ー (回収 [※] ル コ ル)、 熱媒 (サ ム エ ス 800) C13 ボ リ マ ー 11,100L 1.85倍 倍数の合計： 9,219.45倍											
12 施 設 装 置		第4類第2石油類(非水溶性液体) 第4類第3石油類(非水溶性液体) 第4類第4石油類											
名 称：高級アルコール製造装置 番 号 (5906)		設置の完成： 昭和 40年 8月 25日 直近の完成： 令和 5年 2月 22日											
能 力：指定数量の倍数:9,220倍、危険物の類・品名・最大数量 第4類第1石油類 1,497.8kL、第4類第2石油類 1,376.6kL、第4類第3石油類 704.0kL、第4類第4石油類 11.1kL		17 物 質 の 区 分											
13 機 器 等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： (粗 ア ル コ ー ル の 混 合 物)： キョー ワ ゾー ル AC 800 (10L) 第4類第2石油類(非水溶性液体) (粗 ナ フ タ ノ ル の 混 合 物)： イ ソ ノ ブ チ ル ヘ キ サ ノ ル CS [※] (3,5,5-トリメチルヘキサノール) (30L) 第4類第3石油類(非水溶性液体) (粗 ア ル コ ー ル の 混 合 物)： オキソ コ ー ル AC 900 (130L)											
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		18 取扱者の概要											
規 模：口径・材質：1/2B-STPG370S-Sch80		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
14 発 生 箇 所		21 危険物取扱者の の取扱・立会い											
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		①. 有 2. 無											
材 質：鋼鉄													
15 発 生 時													
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)													
作 業 状 況： 番 号 ()													
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： (1)30-HR7の注水供給配管(1/2B)より水が漏えいし隣接する30-HR8の注水供給配管を逆流して、危険物と高圧ガスとの高圧混合状態で漏えいした。(2)運転中(3)漏えい発生(4)注水ライン閉止(5)安全装置等が機能する前に発見したため、該当なし(6)ホットラインにて通報・覚知(7)人的被害なし													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

原因	25 主 原 因 調査中						着火原因						番号 ()																																																		
	関 連 原 因 調査中																																																														
	発生原因の状況： 調査中																																																														
	主原因の詳細																																																														
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																																		
	関連原因の詳細																																																														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																															
27 人 的 被 害																		28 物的被害																																													
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>																		被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 物的被害なし																	
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																																									
当 事 者	0	0	0	0																																																											
防災活動従事者	0	0	0	0																																																											
第 三 者	0	0	0	0																																																											
																		施設等の被害状況： 同上																																													
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																															
消 防 機 関 8 台 0 隻 0 機 20 人 自 衛 1 台 0 隻 0 機 5 人																		物質の被害状況： 粗アルコール(以下物質の混合物) キョーワゾールC800(引火点:9.9℃) 第4類第1石油 類 5% 損害額 [1万円未満]、1万円以上 (万円)																																													
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 3 台 0 隻 0 機 8 人																																																															
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																															
その他の機関 2 台 0 隻 0 機 3 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																															
30 実施した防災活動の状況																																																															
公設消防機関：番号 (99) 調査活動																		自衛防災・消防組織等 番号 (99) 現地指揮及び対策本部 災害情報等収集活動、近隣各社への環境影響及び人的被害の状況確認 自衛防災隊出動待機																																													
31 防災活動上の問題点																																																															
行政措置	32 施設名								33 定期点検等				消 防 法				そ の 他																																														
	使用停止				年 月 日				年 月 日				定期・自主点検				年 月 日				年 月 日																																										
	改善命令等				年 月 日				年 月 日				気密試験等				年 月 日				年 月 日																																										
	停止解除				年 月 日				年 月 日				保安検査				年 月 日				年 月 日																																										
	関係条項												34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無				内容：																																										
	そ の 他				年 月 日				年 月 日																																																						
35 今後の対策 や所見																		今後の対応 1. 当該配管を同形状・同材質で取り替える。その後、3ヶ月毎に定期的に肉厚検査を行って、健全性を確認する。 2. 取り外した配管の検査と水平展開取り外した配管に対して検査を行って原因を究明し、その原因により当該配管に 対する来年度定修での方針を検討するとともに、類似箇所の水平展開を図る。																																													

令和5年

1 事故名		製造所内機器洗浄において、槽内からジメチルホルムアミド約500Lが流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		9月 21日 23時 50分				推定・確定		4 発 見		9月 21日 23時 50分			
5 覚 知		9月 23日 13時 23分				6 鎮 圧 応急処置完了				9月 23日 14時 46分			
7 鎮火・処理完了		9月 23日 14時 46分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：雨 風向：北東 風速：2m/s 気温：22℃ 湿度：91%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 <u>その他</u>) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業(脂肪族系溶剤を含む)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン等 9,935L 49.68倍 第4類第1石油類(水溶性液体) テトラヒド・ロフラン 810L 2.03倍 第4類アルコール類 アルコール 300L 0.75倍 第4類第4石油類 作動油等 830L 0.14倍											
		倍数の合計：52.6倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)		名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)											
能 力：		材 質：鋼鉄											
13 機 器 等		温 度 圧 力：											
名 称：反応塔、槽 番 号 (102)		17 物 質 の 区 分											
規 模：1槽1,600L×2段		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(水溶性液体) 名称：ジメチルホルムアミド (500L)											
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要											
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		①. 選任有 2. 選任無 直 近 の 完 成：平成 18年 10月 19日 年 月 日											
材 質：鋼鉄		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
15 発 生 時		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)		23 事 故 の 概 要： 製造所内機器洗浄として、上部と下部に配管で結合される槽内(1槽約1,600L)に、ジメチルホルムアミド3,200L(第4類第2石油類)を上部槽内から入れたところ、下部槽内が満たされたのち、結合配管のバルブを閉止すべきことを失念したため、下部槽の排気(スクラパー)配管(25A)から約500Lがオーバーフローしたもの。											
作 業 状 況：洗浄中 番 号 (11)		24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (8) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等											

原因	25 主 原 因		誤操作		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 結晶を晶析、ろ過する装置をジメチルホルムアミドを用いて洗浄中に晶析槽と濾過器の間に設置したバルブを閉め忘れたため、晶析槽から濾過器へジメチルホルムアミドが流入、濾過器からオーバーフローしたジメチルホルムアミドが排気用の配管を通じて漏えいした。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	人		本人の意識		違反(故意)		怠慢					
	関連原因の詳細											
	因											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人 的 被 害						28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内の流出に留まる				
区分												
当 事 者	0	0	0	0								
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 設備に被害なし				
第 三 者	0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： ジメチルホルムアミド約500L						
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛				0 台	0 隻	0 機	6 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同				0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援				0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 [1万円未満]、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)						
情報収集						回収作業						
31 防災活動上の問題点												
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日					
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日					
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日					
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：					
	そ の 他	年 月 日	年 月 日									
35 今後の対策 や所見		製造工程以外の作業について、手順書とチェックリストを作成し、周知する。										

令和5年

1 事故名		危険物製造所において油圧装置の圧力計部分から、作動油が約50L漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		10月 1日 9時 10分				[推定]・確定		4 発生見		10月 1日 9時 10分			
5 覚知		10月 1日 9時 30分				6 鎮圧 応急処置完了				10月 1日 9時 50分			
7 鎮火・処理完了		10月 1日 10時 03分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：3m/s 気温：28℃ 湿度：75%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、[その他]) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：千葉県石油コンビナート等特別防災区域(京葉臨海中部地区)											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(水溶性液体) ビジジン 513L 1.28倍 第4類アルコール類 メタノール 23,750L 59.38倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 無水酢酸 3,690L 3.69倍 第4類第2石油類(水溶性液体) フォルセルソルブ 1,100L 0.55倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ボライミト製品 4,800L 2.4倍 第4類第3石油類(水溶性液体) N-メチル-2-ピロリドン 33,264L 8.32倍 第4類第4石油類 コスモハイトAW32 180L 0.03倍											
		倍数の合計： 75.65倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 16年 8月 24日 直近の完成：令和 5年 4月 19日											
名称：その他【有機化学工業】 番号 (5999)		17 物質の区分											
能力：危険物の最大倍数 75.65倍		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) ([常圧]、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：コスモハイトAW32(50L)											
13 機器等		18 取扱者の概要											
名称：その他 番号 (999)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
規模：作動油の保有量50L		21 危険物取扱者の取扱・立会い											
14 発生箇所		①. 有 2. 無											
名称：その他 番号 (999)													
材質：銅													
15 発生時													
運転状況：定常運転中 番号 (1)													
作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者		20 危険物保安監督者											
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
22 設備・機器等の概要：		21 危険物取扱者の取扱・立会い											
オンラインファイル無		①. 有 2. 無											
23 事故の概要：													
午前9時10分、製造スタッフ(課長代理)がPI第3工場3階C室を通行時、ろ過乾燥機F-1219用油圧装置周りのオイル漏れを発見。操業監視で待機中の操業員A(2階A室)を呼び、オイル拭き取り及び油圧ユニットの電源断を指示した。													
午前9時15分、製造スタッフ(課長代理)は漏えいの発生を製造課長に電話連絡。													
午前9時29分、製造スタッフ(課長代理)はCCR(中央監視室)からオイル漏えい発生を119番通報													
製造スタッフ(課長代理)は当直班長に操業対応及び消防車の誘導を指示													
午前9時50分頃、消防隊到着(誘導車1台、消防車4台)、漏えい箇所の現地状況を説明(7名入構)													
24 緊急処置の状況		[有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 故障						着火原因						番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分																	
	発生原因の状況： 油圧ユニット附属の圧力計の故障に伴う漏えい。																	
	主原因の詳細																	
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層					
	故障				機能				機器の機能の停止									
	関連原因の詳細																	
	設備				監視・保守				点検・整備				点検していない/不足					
因																		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																		
27 人的被害												28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 他施設に影響等はなし。										
区分																		
当 事 者	0	0	0	0														
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 施設内、圧力計1か所故障										
第 三 者	0	0	0	0														
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	5 人	物質の被害状況： 危険物第4類第4石油類、コスモハイドロAW32 50L がプラント内に漏えい								
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人									
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人									
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	1 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)								
30 実施した防災活動の状況																		
公設消防機関：番号 (99) 建物周囲をガス検知器を活用し環境測定実施後、災害の状況聴取を実施した。												自衛防災・消防組織等 番号 (5) 漏えいしたコスモハイドロAW32を吸着シートにて回収し、室内の換気作業を実施した。						
31 防災活動上の問題点																		
行政措置	32 施設名									33 定期点検等	消 防 法				そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	年 月 日				令和5年7月6日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日				年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日				年 月 日			
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：							
	そ の 他	年 月 日				年 月 日												
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭												
35 今後の対策 や所見		漏えい詳細を操業員全員(4班3交代)に申し送り周知 類似設備を含め、当直班長による装置点検を開始した(1回/日) 圧力計劣化による漏えいか、油圧装置リリーフ弁の故障による圧力計部からの漏えいと推定される。																

1 事故名		アセトアルデヒド精製塔の塔頂配管部が外面応力腐食割れにより、アセトアルデヒドが流出した事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		11月 29日 4時 30分				[推定]・確定		4 発 見		11月 29日 4時 30分			
5 覚 知		11月 29日 5時 07分				6 鎮 圧 応急処置完了				11月 29日 7時 34分			
7 鎮火・処理完了		11月 29日 7時 43分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南 風速：1m/s 気温：6℃ 湿度：57%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業(一貫して生産され る誘導品を含む)		区 分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京葉臨海中部地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 アセトアルデヒド 488,000L 9,760倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計： 9,760倍 設置の完成：昭和 44年 8月 4日 直近の完成：令和 4年 10月 22日											
名 称：アセトアルデヒド製造装置 番 号 (5105) 能 力：69,000t/年													
13 機 器 等													
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：外形16B		17 物 質 の 区 分											
14 発 生 箇 所		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類特殊引火物 名称：アセトアルデヒド (9.6L)											
15 発 生 時		18 取扱者の概要											
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		19 危険物保安 統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： パトロール中の運転員がアセトアルデヒドの臭気を感じ、確認したところ、CAプラント4階の2T-202塔頂からコンデンサ行き16B配管より霧状に漏れているのを発見したので通報を実施。直ちにプラントを停止し、2T-202系統の遮断、液抜き、脱圧、窒素パージを実施した。その後、漏れ箇所をガス検知器で測定し、1%LELを確認した。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送													

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： サポート取付板の溶接は断続溶接で侵入した水が下部から抜ける構造になっていなかったため、海からの海塩ミストが溶接の途切れた部分から浸入し、濡れ乾きを繰り返した結果、塩化物濃度が高くなったことと溶接部近傍では溶接残留応力が高くなることで外面応力腐食割れが発生した。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		塩分の影響						
	関連原因の詳細										
因											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 2T-202(アセトアルデヒド精製塔)塔頂配管から周辺部への漏えいのみで、散水等により被害の拡大はなかった。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 2T-202(アセトアルデヒド精製塔)塔頂配管に部分的に外面応力腐食割れが発生			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	8 台	0 隻	0 機	27 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	5 人	物質の被害状況： アセトアルデヒドが推定9.6L漏えい	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (4)					
情報収集						流出防止措置					
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：				
	そ の 他										
	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
	35 今後の対策や所見		水分等が混入・滞留しやすい溶接構造(断続溶接且つ底部溶接線に水抜き部(溶接途切れ)なし)のサポート取付板等を調査・点検し、必要に応じて補修を計画する。								

令和5年

1 事故名		ホース接続カブラ部分からアミンFBが流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		5月 21日 8時 50分				推定・ 確定		4 発生見		5月 21日 8時 50分	
5 覚知		5月 21日 9時 07分				6 鎮圧 応急処置完了		5月 21日 9時 52分			
7 鎮火・処理完了		5月 21日 9時 52分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北東 風速：3.6m/s 気温：20.9℃ 湿度：79%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト 、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業(脂肪族系溶剤を含む)		区分：①. 事業所内 (製 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： 1 危険物 2 高压ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 酸化プロピレン 14, 100L 282倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) シクロヘキサン他 56, 411L 282.06倍 第4類アルコール類 メタノール他 2, 332L 5.83倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) イソブレンール 4, 000L 4倍 第4類第2石油類(水溶性液体) アクリル酸他 9, 450L 4.72倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ソフター [※] 30他 154, 500L 77.25倍 第4類第3石油類(水溶性液体) メタクリル酸他 73, 785L 18.45倍 第4類第4石油類 ソフター [※] 120他 121, 406L 20.23倍 第4類第4石油類 ADOL45 8, 900L 1.48倍 第5類有機過酸化物(第2種自己反応性物質) アリル [※] リジン [※] エーテル他 134kg 1.34倍									
12 施設装置		倍数の合計： 697.36倍									
名称：その他【有機化学工業】 番号 (5999)		設置の完成： 昭和 59年 4月 9日 直近の完成： 令和 4年 12月 1日									
能力：		17 物質の区分									
13 機器等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：アミンFB(1L)									
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		18 取扱者の概要									
規模：50A		経験年数26年									
14 発生箇所		①. 選任有 2. 選任無									
名称：タンクの注入口 番号 (905)		21 危険物取扱者の の取扱・立会い									
材質：ステンレス		①. 有 2. 無									
15 発生時		20 危険物 保安監督者									
運転状況：停止中 番号 (5)		3. 不要									
作業状況：その他 番号 (99)											
19 危険物保安 統括管理者		21 危険物取扱者の の取扱・立会い									
1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		①. 有 2. 無									
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： ドラム缶から原料となるアミンFBを反応槽に受け入れる準備作業中、フレキシブルホースをつなぐカブラ部のキャップを外したところ、前回作業した残液が配管内に残っており、カブラ部からアミンFBが噴出するとともに、作業員が負傷したものの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

25	主 原 因	維持管理不十分				着火原因	番号 ()	
原 因	関 連 原 因	維持管理不十分						
	発生原因の状況： バルブとカプラ間の配管に前回作業時の残液があり、また、保温用蒸気のバルブがシート漏れを起こしており、残液が加温により加圧されていたもの。							
	主要原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	設備	監理・保守		点検・整備		確認不足		
	関連原因の詳細							
	設備	監理・保守		点検・整備		点検していない/不足		
	因							
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27	人 的 被 害						28 物的被害	
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： カプラ部直下に設けたバット内にアミンFBが微量流出
	当 事 者	0	0	1	0	ばく露	作業員	
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	5 台 0 隻 0 機 16 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)アミンFB約1L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)								
30	実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業		
31	防災活動上の問題点							
32 行政措置	施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35	今後の対策 や所見	・作業前における作業手順の見直し及び作業後の残液処理手順の作成 ・保温用蒸気のバルブを交換						

令和5年

1 事故名		減圧蒸留装置原料油予熱系熱交換器から常圧残渣油流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		6月 18日 22時 30分				[推定]・確定		4 発生見		6月 18日 22時 30分			
5 覚知		6月 19日 9時 30分				6 鎮圧 応急処置完了				6月 19日 0時 00分			
7 鎮火・処理完了		6月 19日 0時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：南 風速：2.1m/s 気温：23℃ 湿度：80%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：1 危険物 2 高圧ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 分解ナフ 1,192,000L 5,960倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフ混合油 158,000L 790倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 重質軽油 2,413,600L 2,413.6倍 第4類第4石油類 潤滑油 5,020L 0.84倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 常圧残査油 9,217,200L 4,608.6倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 646,500L 323.25倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 清缶剤(モルフォリン) 200L 0.2倍 倍数の合計：14,096.49倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 51年 6月 4日 直近の完成：令和 3年 9月 17日											
名称：減圧蒸留装置		番 号 (2102)											
能力：9,222kL/日													
13 機器等		温度圧力：152℃、1.61Mpa											
名称：熱交換器		番 号 (301)											
規模：直径:7,317mm、内径:950mm													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：フレキシブル管継手(ダクトを含む)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材質：鋼鉄		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発生時		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧)											
運転状況：スタートアップ中		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)											
作業状況：運転操作中		分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：常圧残査油(42L)											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 装置スタートアップのため、装置内の配管に常圧残渣油を満たす作業を6月12日(月)から実施していた。発災当日、作業員が定期巡回中に4階に設置された熱交換器(E-4103C)のシェル側フランジ部から常圧残渣油が流出していることを発見したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 操作未実施							
	発生原因の状況： 熱交換器の昇温に伴い、ホットボルディングが8時と13時の2回/日の運用になっていた。当日基準温度に達したが、その連絡もなく、また、運転員がこのタイミングでホットボルディングを実施することに対して認識ができていなかった。それにより、ボルト部分が緩み、内容物が流出した。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	施工不良	施工	ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）					
	関連原因の詳細							
	人	本人の知識・能力	知識	知識不足				
	因							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害				28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 熱交換器から常圧残渣油がフロアーに流出した。施設内のみに留まり、他の施設等への流出は発生しなかった。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 減圧残渣油42L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
28 物的被害								
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
情報収集								
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名	ガス化脱硫装置・減圧蒸留部門		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 5 年 6 月 19 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 6 月 1 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	令和 5 年 7 月 4 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： ・法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 ・法第16条の3第2項 通報遅延 ・石炭法第23条 通報遅延			
	そ の 他	令和 5 年 6 月 20 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見		ホットボルディングに係る基準を改正するとともに、スタートアップ時、機器に対して温度を設定し、アラームを発するようにする。また、作業員に対して、ホットボルディングの重要性及び仕組みに対する勉強会を、シャットダウン時毎に実施する。						

1 事故名		重質油熱分解装置内のストリッパ液面計循環ラインから重油流出							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発生		6月 29日 10時 25分		[推定]・確定		4 発生見		6月 29日 10時 25分	
5 覚知		6月 29日 10時 35分		6 鎮圧 応急処置完了		6月 29日 11時 44分			
7 鎮火・処理完了		6月 29日 11時 44分							
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()							
9 気象状況		天気：晴		風向：南南西		風速：5.1m/s		気温：30.1℃ 湿度：82.9%	
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番号 (1811)				11 発生場所		区分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区 16 発生施設規制区分等 施設区分： 1 危険物 2 高压ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 7,500L 37.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 着臭剤 55L 0.28倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) スロップ油 120,000L 600倍 第4類第4石油類 潤滑油 22,700L 3.78倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 汚れ防止剤 380L 0.38倍 第4類第4石油類 重質油 4,293,000L 715.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 390,000L 390倍 倍数の合計： 1,747.44倍 設置の完成： 昭和 50年 10月 25日 直近の完成： 令和 5年 4月 24日	
12 施設装置						17 物質の区分			
名称：重油直接脱硫装置 番号 (2106)						①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (25L)			
能力：4,293kL/日									
13 機器等									
温度圧力：75℃、2.5Mpa		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
名称：その他の移送機器 番号 (699)									
規模：フレキシブルチューブ									
14 発生箇所		19 危険物保安 統括管理者		20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
名称：その他の附属配管等 番号 (299)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
材質：合成樹脂		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
15 発生時		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
運転状況：定常運転中 番号 (1)		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
作業状況：運転操作中 番号 (1)		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要：		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
オンラインファイル無		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
23 事故の概要：		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
通常運転中、作業員が運転状況の確認のために近くを通りがかったところ、ストリッパ(T-4501)に設けられた液面計の詰まり防止のために重油を循環させているラインのフレキシブルホースが、破損し、重油が流出しているのを発見したもの。		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	

原因	25 主 原 因	施工不良				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： フレキシブルホースを取り付けていたフランジ間距離に対して、当該フレキシブルホースの長さが不足しており、通常運転による揺れによりベローズの付け根に過大な応力がかかり、割れ発生したもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	施工不良			施工			取り付け不良						
	関連原因の詳細												
因													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： フレキシブルホースの破損箇所から重油が流出し、施設の複数のフロアーに油が飛散し、T-4501にも広い範囲で油が付着した。 施設等の被害状況： フレキシブルホース破損 物質の被害状況： 第4類第3石油類重油25L漏えい 損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)					
区分													
当 事 者	0	0	0	0									
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0									
第 三 者	0	0	0	0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類重油25L漏えい			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人				
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集 ・現場確認								自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32 施 設 名	ガス化脱硫装置・ガス化部門				33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	令和 5 年 6 月 29 日				年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 6 月 1 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等		年 月 日			
	停止解除	令和 5 年 7 月 12 日				年 月 日		保 安 検 査		年 月 日			
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反					
	そ の 他	年 月 日				年 月 日							
35 今後の対策や所見		フレキシブルホースの長さ不足により過大な応力がかかったことから、長さを長くする。本フレキシブルホースの管理部署が不明確だったことから、部署を決めるとともに「配管設計標準」に交換の周期や、長さ/曲げ等に関する記載をする。											

令和5年

1 事故名		集中合理化装置熱交換器から灯油流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		6月 29日 13時 25分				[推定]・確定		4 発 見		6月 29日 13時 25分			
5 覚 知		6月 29日 13時 31分				6 鎮 圧 応急処置完了				6月 29日 14時 15分			
7 鎮火・処理完了		6月 29日 14時 15分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 南南東 風速： 6.3m/s 気温： 30.4℃ 湿度： 67%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分： ①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 1,011,600L 5,058倍 第4類第4石油類 潤滑油 6,360L 1.06倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 触媒活性剤 160L 0.8倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) スロップ油 477,000L 2,385倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 輸入軽油 318,000L 318倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 防食剤(サントールF-151) 400L 0.4倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 防食剤(コントールK-347) 400L 0.4倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 脱塩助剤(EC523) 800L 0.8倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 分解軽質軽油 636,000L 636倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 流動点降下剤 500L 0.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑性向上剤(ADX-4101) 840L 0.42倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) H2S吸着剤(シエタノールアミン) 5,000L 2.5倍 第4類第4石油類 絶縁油 450L 0.08倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 11,130,000L 55,650倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 汚れ防止剤(SP-181) 400L 0.4倍 倍数の合計： 64,054.36倍											
		設置の完成： 昭和 43年 11月 22日 直近の完成： 令和 5年 1月 31日											
12 施 設 装 置		17 物 質 の 区 分											
名 称： 精製装置 番 号 (2103)		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、[加圧]) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (1L)											
能 力： 11,130kL/日		18 取扱者の概要											
13 機 器 等		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
名 称： 熱交換器 番 号 (301)		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
規 模： 内径:600mm、長さ:6,989mm		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
14 発 生 箇 所		23 事故の概要： 協力会社の作業員が、他の機器の断熱材の施工をするため、当該現場付近に来たところ、臭気を感じた。周囲を確認したところ、熱交換器(E-904)の本体チャンネル接続フランジのボルトが1本緩んでおり、そこから灯油が流出していたのを発見したもの。											
15 発 生 時		24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]											
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)													
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)													

原 因	25 主 原 因 調 査 中						着火原因						番号 ()								
	関 連 原 因																				
	発生原因の状況： 本体チャンネル接続フランジのボルトの締め込み不足により、流出が発生したか、熱によるボルトの緩みであるかは調査中。																				
	主原因の詳細																				
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層								
	関連原因の詳細																				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																					
27 人 的 被 害										28 物的被害											
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいは範囲は熱交換器直近で止まった。													
当 事 者		0	0	0	0																
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 本体チャンネル接続フランジのボルトの増し締めを行い漏えい停止した。													
第 三 者		0	0	0	0																
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																					
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類灯油約1L漏えい											
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人												
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人												
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人												
30 実施した防災活動の状況										損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)											
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集 ・現場確認										自衛防災・消防組織等 番号 ()											
31 防災活動上の問題点																					
32 施 設 名									33 定 期 点 検 等	消 防 法				そ の 他							
	使用停止				年 月 日					定期・自主点検				令和4年 6月 6日				年 月 日			
	改善命令等				年 月 日					気密試験等				年 月 日				年 月 日			
	停止解除				年 月 日					保 安 検 査				年 月 日				年 月 日			
	関係条項								34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有 ☐ 無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反											
	そ の 他				年 月 日													年 月 日			
1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭																	
35 今後の対策や所見																					

令和5年

1 事故名		製造装置ポンプフラッシングクーラーのチューブ配管の腐食による熱媒油流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		7月 1日 18時 10分				[推定]・確定		4 発生見		7月 1日 18時 10分			
5 覚知		7月 1日 18時 37分				6 鎮圧 応急処置完了		7月 1日 19時 30分					
7 鎮火・処理完了		7月 1日 19時 30分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：南西 風速：1m/s 気温：24℃ 湿度：82%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番号 (1811)		区分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 重質揮発油 64,800,000L 324,000倍 又は軽質揮発油 第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン留分 100,000,000L 500,000倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン留分 140,000,000L 700,000倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 熱媒油 16,000,000L 8,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) キレン留分 97,400,000L 97,400倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) ブリファボトム留分 32,800,000L 32,800倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 82,000,000L 41,000倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 分解ガス 2,400,000L 12,000倍 倍数の合計：1,715,200倍											
12 施設装置		名称：その他【石油精製工業】 番号 (2999) 能力：4,293kL/日											
13 機器等		温度圧力：230℃、0.84Mpa											
名称：ポンプ		番号 (501)											
規模：20L/min													
14 発生箇所		設置の完成：昭和 37年 6月 1日 直近の完成：令和 3年 1月 7日											
名称：その他の附属配管等		番号 (299)											
材質：鋼鉄		17 物質の区分											
15 発生時		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：熱媒油 (1,1-ジフェニルエタン) (24.4L)											
運転状況：定常運転中		番号 (1)											
作業状況：		番号 ()											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 排水配管より流れ出た先の地下ピットに設置されている油膜計の発報を計器室で覚知した。現場付近を作業員が調査したところ、熱媒油を送油するポンプのフラッシングラインに設置されている熱交換器から出る冷却水の配管から油膜が流れているのを確認した。熱交換器内の油配管(チューブ側)から油が漏えいし、排水ラインに流入したもの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
原 因	関 連 原 因		維持管理不十分								
	発生原因の状況： 工水中に含まれるスケールの堆積や100℃超のプロセス流体温度影響によって、腐食が加速され高い腐食率になったものと考えられる。また、当該ラインはその構造からチューブ肉厚の定量評価が困難であった。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）						
	関連原因の詳細										
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足				
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人 的 被 害						28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内に1, 1-ジフェニルエタン流出			
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)1, 1-ジフェニルエタン 24. 4L流出				
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	1 台			0 隻	0 機	6 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台			0 隻	0 機	5 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台			0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台			0 隻	0 機	0 人
30	実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (99)					
・情報収集 ・調査活動						・検知活動					
31	防災活動上の問題点										
32	施 設 名	製造所(BTX第1製造装置)				33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 5 年 7 月 3 日 年 月 日				定期・自主点検 気密試験等 保安検査	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日 年 月 日					年 月 日	年 月 日			
	停止解除	令和 5 年 8 月 3 日 年 月 日					年 月 日	年 月 日			
	関係条項	法12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第10条第3項製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反				
	そ の 他	年 月 日 年 月 日 1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭									
35	今後の対策 や所見		・炭素鋼チューブを耐食性に富む材質に変更する。 ・同様の環境にあるチューブ材質を変更する。								

令和5年

1 事故名		ケレン作業中におけるベンゼン回収装置配管からのベンゼン流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		7月 11日 9時 50分				推定・確定		4 発生見		7月 11日 9時 50分	
5 覚知		7月 11日 10時 08分				6 鎮圧 応急処置完了		7月 11日 10時 51分			
7 鎮火・処理完了		7月 11日 10時 51分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南南西 風速：2.4m/s 気温：30.5℃ 湿度：61.9%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番号 (1811)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：1 危険物 2 高压ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ・ベンゼン 5,656,000L 28,280倍 第4類第4石油類 潤滑油 400L 0.07倍 第4類第3石油類(水溶性液体) モルフォリン 54,000L 13.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 廃油 2,350L 11.75倍									
12 施設装置		13 機器等									
名称：その他【石油精製工業】 番号 (2999) 能力：5,406kL/日		温度圧力：0.75Mpa									
13 機器等		14 発生箇所									
名称：反応塔、槽 番号 (102) 規模：直径2,100mm、高さ57,180mm、容量9,700L		設置の完成：平成 11年 7月 13日 直近の完成：平成 28年 8月 25日									
14 発生箇所		17 物質の区分									
名称：その他の附属配管等 番号 (299) 材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ベンゼン(40mL)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：定常運転中 番号 (1) 作業状況： 番号 ()		経験年数27年									
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： ベンゼン回収塔におけるリフラックスラインの配管外面腐食検査を実施しようと協力会社の作業員が配管の錆こぶをワイヤーブラシで擦ったところ、配管が開口し、流量計下流の配管からベンゼンが流出したものの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因		維持管理不十分					
	発生原因の状況：		・不具合配管の上部で保温板金の隙間から雨水が侵入し、保温材に滞水することで、配管下半分で経年的に外面腐食が発生した。 その減肉していたところのケレン可否判断をする際に、錆の付着厚さが少ない(付着減肉量が少ない)と誤判断して、ケレンを行ったことで錆が剥離し、配管が開孔して流出に至ったもの。					
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細							
	人	本人の知識・能力	知識	知識の活用不足				
	因							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害							28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内にベンゼン流出
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管の開孔
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 6 人	物質の被害状況： ・第4類第1石油類(非水溶性)ベンゼン 40mL流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
						損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)		
・情報収集 ・検知活動						回収作業		
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名	ベンゼン回収装置				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	令和 5 年 7 月 11 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 4 年 10 月 3 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	令和 5 年 7 月 19 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 法第10条第3項製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反	
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				
35 今後の対策 や所見		・同系統配管の検査、補修 ・ケレン可否を判断するための手順を定めているが、誤判断し不具合を発生させてしまったので、今後は確実は判断を行えるように教育を行う。 ・漏えいに備えケレン場所に事前養生(オイルパン、吸着マット等)の実施を検討する。						

1 事故名		ラック上配管の腐食によるナフサ流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		8月 7日 16時 40分				[推定]・確定		4 発 見		8月 7日 16時 48分			
5 覚 知		8月 7日 16時 49分				6 鎮 圧 応急処置完了				8月 7日 17時 32分			
7 鎮火・処理完了		8月 7日 17時 32分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南 風速：5m/s 気温：31.7℃ 湿度：66%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 1,147,200L 5,736倍 第4類第4石油類 潤滑油 700L 0.12倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計： 5,736.12倍											
名 称：精製装置 番 号 (2103)													
能 力：													
13 機 器 等		温 度 圧 力：100℃、1Mpa											
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)													
規 模：3B、STPG38(SCH40)													
14 発 生 箇 所		設 置 の 完 成：昭和 45年 12月 16日 直 近 の 完 成：平成 23年 11月 7日											
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		17 物 質 の 区 分											
材 質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフサ(1.2L)											
15 発 生 時		18 取扱者の概要											
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)													
作 業 状 況： 番 号 ()													
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 通常運転中、巡回中の従業員がラック上の配管からナフサが2秒に1滴程度流出しているのを発見したもの。滴下箇所は同一配管の近い箇所同士で2箇所あり。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送													

原 因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因	維持管理不十分											
	発生原因の状況： 配管の保温材の隙間から雨水が侵入し、外面腐食が進行したもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細												
	設備			監視・保守			点検・整備			点検していない/不足			
	因												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいは他の施設まで及ばなかった。					
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管が腐食開孔					
防災活動従事者		0	0	0	0								
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関		4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ナフサ1.2L漏えい		
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集 ・ガス検知活動							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点													
政 策 措 置	32 施 設 名	ナフサアイソシープ装置				33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	令和 5 年 8 月 7 日				年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 6 月 1 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	令和 5 年 8 月 18 日				年 月 日		保 安 検 査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項	消防法第12条の3						34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容： 消防法第10条第3項			
	そ の 他	年 月 日				年 月 日							
35 今後の対策 や所見		・保温材板金の折り返し部が配管の上側にされていたことから、雨水が侵入しやすい構造であったため、保温材板金は配管の下側になるよう施工する。 ・保温材板金の劣化度を評価する際の評価表を見直し、上記の雨水が入りやすい構造の保温材の配管は、リスクランクを高くした。											

1 事故名		製造所において保温材を被った配管から軽油主体の廃油が流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		9月 26日 8時 30分	
5 覚 知		9月 26日 8時 48分		6 鎮 圧 応急処置完了		9月 26日 8時 41分	
7 鎮火・処理完了		10月 5日 14時 11分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：東		風速：1.1m/s 気温：27℃ 湿度：85%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u> 、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 (<u>製</u> 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区		16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他			
				貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所			
12 施 設 装 置				類・品名・名称・数量・倍数：			
名 称：その他【石油精製工業】 番 号 (2999)				第2類硫黄 硫黄 200,000kg 2,000倍			
能 力：1日の処理能力 5,724kL				第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 276,000L 1,380倍			
13 機 器 等		温 度 圧 力：50℃、0.35Mpa		第4類第1石油類(非水溶性液体) 軽質油廃油 1,600L 8倍			
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)				第4類第2石油類(非水溶性液体) 腐食防止剤 440L 0.44倍			
規 模：6B				第4類第2石油類(非水溶性液体) 汚れ防止剤 930L 0.93倍			
14 発 生 箇 所				第4類第2石油類(非水溶性液体) 腐食防止剤 200L 0.2倍			
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)				第4類第3石油類(非水溶性液体) 重質軽油 1,587,000L 793.5倍			
材 質：鋼鉄				第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油材 4,383,000L 2,191.5倍			
15 発 生 時				第4類第3石油類(非水溶性液体) 洗浄液 1,750L 0.88倍			
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)				第4類第3石油類(非水溶性液体) 重質油廃油 7,900L 3.95倍			
作 業 状 況： 番 号 ()				第4類第3石油類(非水溶性液体) カットバック 12,500L 6.25倍			
				第4類第4石油類 潤滑油 4,190L 0.7倍			
				第4類第4石油類 ケービング油 2,800L 0.47倍			
				倍数の合計： 6,386.82倍			
14 発 生 箇 所				設 置 の 完 成：平成 5年 9月 21日			
				直 近 の 完 成：令和 2年 4月 16日			
17 物 質 の 区 分				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
15 発 生 時				5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)				(固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>)			
作 業 状 況： 番 号 ()				(低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>)			
				分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 廃油(745.2L)			
18 取扱者の概要							
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
21 危険物取扱者の取扱・立会い						①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 協力会社社員が、配管敷設工事開始前の確認のため現場へ訪れたところ、工事箇所の養生用に使用していた防災シートに油が付着しているのを発見。協力会社社員は製油所職員へ連絡。製油所職員から自衛消防組織へ連絡し、自衛消防隊は公設消防へ通報を実施した。製油所職員によりバルブ閉止、土嚢積み実施。漏えいした油が防災シート内に溜まったため、バキュームローリーによる油回収作業を実施。公設消防現着後、調査活動を実施するも漏えい停止の確認が取れないため残油脱硫装置附属配管に対し使用制限命令。配管内の滞油をバキュームローリーにて回収した後、スチームにてバージを実施した。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>							

25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 配管内面の腐食から、内部流体に含まれる硫化物・塩化物による局部内面腐食により減肉して穿孔したと推測されるが、穿孔箇所の特定には至っていない。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）						
	関連原因の詳細										
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人 的 被 害						28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 残油脱硫装置周囲の地面94.1㎡範囲に漏えい			
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)廃油(軽油主体) 745.2L流出				
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	1 台			0 隻	0 機	101 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台			0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台			0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台			0 隻	0 機	0 人
30	実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5、3) 回収作業					
31	防災活動上の問題点										
32	施 設 名	残油脱硫装置附属配管			33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他			
	行 政 措 置	使用停止	令和 5 年 9 月 28 日			年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 5 月 1 日	年 月 日		
		改善命令等	年 月 日			年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
		停止解除	令和 5 年 10 月 5 日			年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
		関係条項	消防法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日			年 月 日						
			1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭					
35	今後の対策 や所見		同系統の配管に対し、超音波及び放射線透過試験を行ったところ、不具合は確認されなかった。 点検のスパンを前倒しする。								

1 事故名		熱交換器本体フランジ部からの揮発油流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		10月 3日 9時 40分				[推定]・確定		4 発生見		10月 3日 9時 40分			
5 覚知		10月 3日 10時 00分				6 鎮圧 応急処置完了		10月 3日 10時 55分					
7 鎮火・処理完了		10月 3日 10時 55分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：1.9m/s 気温：24.7℃ 湿度：43%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 揮発油 1,447,000L 7,235倍 第4類第3石油類(水溶性液体) MEA 22L 0.01倍 第4類第3石油類(水溶性液体) スルフォラン溶液 81,000L 20.25倍 第4類第3石油類(水溶性液体) アンチフォーム剤 1,000L 0.25倍											
12 施設装置		13 機器等											
名称：その他【石油精製工業】 番 号 (2999)		温度圧力：170℃、1.3Mpa											
能力：1,447kL/日		名称：熱交換器 番 号 (301)											
規模：直径:350mm、胴長:4,200mm		14 発生箇所											
名称：その他の機器等本体 番 号 (199)		設置の完成：平成 23年 11月 11日 直近の完成：令和 元年 8月 30日											
材質：鋼鉄		17 物質の区分											
15 発生時		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： 揮発油(ベンゼン・トルエンの混合油) (20L)											
運転状況：シャットダウン中 番 号 (3)		18 取扱者の概要											
作業状況：その他 番 号 (99)		経験年数7年											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 当時装置は、計画停止の予定であり、停止操作にあたっていた事業所職員が付近を通りかかった際に熱交換器の本体フランジ部から危険物が流出しているのを発見したもの。なお、流出は装置の囲い内に収まっていた。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送													

25

主 原 因

操作確認不十分

着火原因

番号 ()

原 因

発生原因の状況：

運転停止において、降温速度の調整が手順書に記載されていなかったため、急激に熱交換器が冷却され、熱交換器本体のフランジ面とボルトで、急激な温度差による歪みが発生し、面圧低下により内容物が流出した。

主原因の詳細

第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層
管理	リスクアセスメント	危険意識	危険に対する認識がない/不足

関連原因の詳細

26 被害の状況

1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から

27 人 的 被 害

被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名
当 事 者	0	0	0	0		
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		

29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況

消 防 機 関	5 台 0 隻 0 機 20 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 6 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人

28 物的被害

被災影響範囲及び拡大の状況：

装置区画内に揮発油(ベンゼン・トルエンの混合油)が流出

施設等の被害状況：

なし

物質の被害状況：

第4類第1石油類(非水溶性)揮発油(ベンゼン・トルエン混合油)20L流出

損害額

1万円未満、1万円以上 (万円)

30 実施した防災活動の状況

公設消防機関：番号 (99)

・警戒筒先配備
・検知活動
・情報収集

自衛防災・消防組織等 番号 (5)

回収作業

31 防災活動上の問題点

32 施 設 名

使用停止 年 月 日 年 月 日

改善命令等 年 月 日 年 月 日

停止解除 年 月 日 年 月 日

関係条項

そ の 他 年 月 日 年 月 日

1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭

33 定 期 点 検 等

定期・自主点検 令和 5 年 6 月 6 日 年 月 日

気密試験等 年 月 日 年 月 日

保 安 検 査 年 月 日 年 月 日

34 当該施設に係る
法令違反の有無

☐有・無

内容：

消防法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反

35 今後の対策
や所見

・運転停止時における当該熱交換器の降温速度を手順書に明記するとともに、作業員への教育を実施。

令和5年

1 事故名		減圧蒸留塔附属配管の圧力計ねじ込み部から重質軽油流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		11月 29日 10時 20分 推定・ 確定					4 発生見		11月 29日 10時 20分				
5 覚知		11月 29日 10時 21分					6 鎮圧 応急処置完了		11月 29日 11時 24分				
7 鎮火・処理完了		11月 29日 11時 24分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西 風速：3.3m/s 気温：13.6℃ 湿度：55.3%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製 番号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区分：①. 事業所内 (製 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 8,783,000L 43,915倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 11,970L 11.97倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) A0-613 2,850L 2.85倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 腐食防止剤 28,000L 28倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ター油、消泡剤 247,060L 123.53倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) クロップ MP-750 1,500L 0.75倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) トランス油 18,090L 9.05倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重質油 361,000L 180.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 24,380L 12.19倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 軽質油 4,923,000L 2,461.5倍 倍数の合計： 46,745.34倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：減圧蒸留装置 番号 (2102)		名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201)											
能力：処理量:5,561.5kL(3.5万バレル)/日		材質：鋼鉄											
13 機器等		15 発生時											
温度圧力：375℃、0.11Mpa		運転状況：定常運転中 番号 (1)											
名称：蒸留、精留塔(スタビライザー、ストリップバー) 番号 (101)		作業状況： 番号 ()											
規模：高さ35.8m、内径7.5m		17 物質の区分											
14 発生箇所		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重質油(0.4L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 定常運転で作業員が巡回点検を実施中、減圧蒸留塔の付近で臭気に気付き、同時に塔本体に油が付着しているのを確認したため、周囲を調査したところ、塔に附属するストレーナーの入口配管に設置された圧力計のねじ込み部分から重質軽油(第3石油類)が流出していることを発見し、119番通報したものの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因		施工不良		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因		操作確認不十分						
	発生原因の状況：								
	指示不振により11月13日に、圧力計を交換し、交換後は、圧力計の指示値の確認を行い、取り付け箇所の漏れはないことも確認していたが、発災箇所の運転圧力は、通常負圧であったため、継手部の気密確認が不十分となり、交換後の締結部が不完全な状態のまま、流量増加時に、系内圧力が正圧に転じた際、締結部から重質油が流出したものの。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	施工不良		施工		取り付け不良				
	因	関連原因の詳細							
設備		監理・保守		監理		施工監理が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害							28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した範囲は発災した塔外面(43㎡)	
区分									
当 事 者	0	0	0	0					
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 設備等の被害なし	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重質軽油 430mL流出									
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)									
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()			
情報収集活動									
31 防災活動上の問題点									
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 5 年 10 月 15 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無		
	そ の 他	年 月 日		年 月 日			内容：		
	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭		法第10条第3項違反(製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反)				
	35 今後の対策 や所見		今後の再発防止策としては、負圧条件下で更新する圧力計に対する気密確認(加圧ポンプ等で確認する等、具体的な内容は検討中)について、基本作業手順書に今後反映するとともに、関係部署に周知展開を行う。また、今回の圧力計に限らず、減圧で使用する機器は他にもあるため、水平展開を行い、再発防止に努めることが必要であると思料する。						

令和5年

1 事故名		寒波による低温で製造所のキシレンと水の分離槽が機能せずに水が混入し、溶解槽からキシレンが漏えい							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発生		1月 27日 10時 10分		[推定]・確定		4 発生見		1月 27日 11時 20分	
5 覚知		1月 27日 11時 40分		6 鎮圧 応急処置完了		1月 27日 11時 22分			
7 鎮火・処理完了		1月 27日 15時 30分							
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()							
9 気象状況		天気：曇 風向：東北東 風速：1.2m/s 気温：0.2℃ 湿度：98.6%							
10 発生事業所		11 発生場所							
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業(脂肪族系溶剤を含む)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
		16 発生施設規制区分等							
		施設区分：1 危険物 2 高压ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) メタクリル酸メチル 256,403L 1,282.02倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) メタクリル酸/メタクリル 11,000L 55倍 酸メチル混合品 メタクリル酸 160,364L 40.09倍							
		倍数の合計：1,377.11倍							
12 施設装置		14 発生箇所							
名称：その他のタンク 番号 (1299)		設置の完成：昭和 37年 9月 25日 直近の完成：令和 4年 6月 27日							
能力：直径:400mm 高さ:850mm 材質:SUS316		17 物質の区分							
13 機器等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：キシレン(40L)							
名称：混合、溶解槽 番号 (106)		18 取扱者の概要							
規模：直径:400mm 全長:850mm 容量:100L		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無							
14 発生箇所		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
名称：塔槽類本体 番号 (105)		23 事故の概要： 製造工程中に、溶解槽の点検口からキシレンと水の混合液が約90L漏えいしたもの。発見後真空ポンプを停止し漏えいを止め、防油堤に溜まったキシレン(約40L)の回収作業を行った。施設外への流出はなし。人的被害はなし。							
材質：ステンレス		24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止							
15 発生時									
運転状況：定常運転中 番号 (1)									
作業状況： 番号 ()									

25	主 原 因		維持管理不十分		着火原因		番号 ()				
原因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 寒波による想定外の低温が続いた影響で、壁のない建屋内に設置してある分離槽の水がキシレンと分離しきれずにキシレン側に混入し、徐々に溶解槽内に溜まっていった。更に、溶解槽から冷却器行きのラインに水が混入し、液比重が重くなり、液が吸引できなくなったため溶解槽からキシレンがオーバーフローしたものと推定する。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	関連原因の詳細										
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人 的 被 害						28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 危険物は、製造所施設内の防油堤内及び分離槽で留まる。 施設等の被害状況： 溶解槽本体の被害はなし。			
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)キシレン 約40L流出 損害額 1万円未満、 1万円以上 (1 万円)				
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台			0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台			0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台			0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台			0 隻	0 機	0 人
30	実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査						自衛防災・消防組織等 番号 (5) ①真空ポンプの停止により漏えいの停止。 ②混合液の希釈及び分離槽に集約するため防油堤内に工業用水を入れる。 ③簡易マスクを着装し柄杓で回収作業を行う。					
31	防災活動上の問題点										
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和 3 年 12 月 16 日	令和 5 年 2 月 27 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：				
	そ の 他	年 月 日	年 月 日								
35	今後の対策 や所見	①溶解槽の水抜きを週1回から8時間に1回の頻度にする。 ②調節弁をスチーム加温する。 ③監視の強化及び点検の実施 ④分離槽に液面計を設置し境界面の位置を監視する。 ⑤溶解槽に液面計を取り付け、オーバーフロー前に検知する。 ⑥溶解槽にオーバーフローした場合に一時的に溜め込む仮受け貯槽を設置する。									

1 事故名		MF装置のI-SAへメタノールを供給する配管のI-SA側根本部分の腐食箇所からメタノール及び混合ガスが流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 21日 19時 30分				推定・確定		4 発生見		8月 21日 19時 30分			
5 覚知		8月 21日 20時 12分				6 鎮圧 応急処置完了				8月 21日 21時 03分			
7 鎮火・処理完了		8月 21日 22時 04分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：2.8m/s 気温：20℃ 湿度：81%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新潟西港地区特別防災区域											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 蟻酸メチル 338, 740L 6, 774. 8倍 第4類第1石油類(水溶性液体) メチルアミン水溶液 237, 600L 594倍 第4類第2石油類(水溶性液体) N,N-ジメチルホルムアミド 10, 080L 5. 04倍 第4類第3石油類(水溶性液体) N-メチルホルムアミド 200L 0. 05倍 第4類第4石油類 ジベンジルトルエン 39, 940L 6. 66倍 第4類アルコール類 メチルアルコール 326, 020L 815. 05倍											
12 施設装置		倍数の合計：8, 195. 6倍											
名称：その他【有機化学工業】 番号 (5999)		設置の完成：昭和 54年 6月 26日 直近の完成：令和 5年 7月 10日											
能力：83. 95kL/日		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類特殊引火物 名称：DMAC(ジメチルアセトアミド)(3mL) 第4類アルコール類 メタノール(67mL)											
名称：吸収塔、槽 番号 (104)		18 取扱者の概要											
規模：内径450mm高さ2, 744mm													
14 発生箇所													
名称：その他の附属配管等 番号 (299)													
材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：定常運転中 番号 (1)													
作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 第一製造課が管理するMF装置のI-SA(MF分離吸収塔)へメタノールを供給する配管のI-SA側根本部分にメタノールがにじんでいたため、漏えいを止めるべく装置を緊急停止した。その後、メタノールの漏れは止まるもノズル近傍ではポータブルガス検知器による可燃性ガスを検知したもの。 なお、当該災害による死傷者は発生していない。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (9、1、10) 無 緊急排出、緊急移送、装置の緊急停止、その他													

25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 当該配管には結露防止を目的に保冷が施工されているが、断熱性が悪く、常時結露水が発生しており、定期修繕時に防食を目的に金属パテを施工したが、湿潤環境のために金属密着が悪く、結露水が蓄積、腐食環境を形成し、外部腐食が進行したもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）			
	腐食		防食		防食措置が悪いために腐食発生			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害						28 物的被害		
被害内容等 区分						被災影響範囲及び拡大の状況：		
当 事 者						第一製造課が管理するMF装置のI-SA (MF分離吸収塔)へメタノールを供給する配管のI-SA側根本部分にメタノールがにじんていたもの。当該施設外への流出はなし。 なお、当該災害による死傷者は発生していない。		
防 災 活 動 従 事 者						施設等の被害状況：		
第 三 者						配管の腐食(ピンホール)		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関						物質の被害状況：		
消 防 団						メタノール(95.7vol%)、ギ`酸メチル(4.3vol%)の混合液70mL漏えい		
海上保安部								
その他の機関						損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) ・現場の安全管理 ・調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (99) ・調査活動		
31 防災活動上の問題点								
32 施 設 名								
使用停止 年 月 日 年 月 日								
改善命令等 年 月 日 年 月 日								
停止解除 年 月 日 年 月 日								
関係条項								
そ の 他 年 月 日 年 月 日								
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭								
33 定 期 点 検 等								
定期・自主点検 令和 4 年 10 月 6 日 年 月 日								
気密試験等 年 月 日 年 月 日								
保 安 検 査 年 月 日 年 月 日								
34 当該施設に係る法令違反の有無								
有・ <u>無</u> 内容：								
35 今後の対策や所見								
・製造部署内の定期ミーティング`及び工務部門を加えた定期設備管理ミーティングにおいて不具合情報を共有、リスト化し、進捗管理を行う。 ・仮補修は極力避け、早急に本補修を行う。								

令和5年

1 事故名		製造所において、窒素パージを実施した際、開放されたガスケットホース上部から危険物が流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		9月 6日 14時 35分 推定・ 確定					4 発生見		9月 6日 14時 35分				
5 覚知		9月 6日 14時 55分					6 鎮圧 応急処置完了		9月 6日 14時 36分				
7 鎮火・処理完了		9月 6日 15時 34分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：雨 風向：北 風速：2.9m/s 気温：27.4℃ 湿度：88.8%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工業 番号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業(脂肪族系溶剤を含む)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) メタクリル酸メチル 256,403L 1,282.02倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) メタクリル酸/メタクリル 11,000L 55倍 酸メチル混合品 第4類第3石油類(水溶性液体) メタクリル酸 160,364L 40.09倍											
		倍数の合計：1,377.11倍											
		設置の完成：昭和 37年 9月 25日 直近の完成：令和 5年 6月 23日											
12 施設装置		17 物質の区分											
名称：精製装置 番号 (2103)		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
能力：送液量:2～4L/毎時(24時間連続稼働)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
13 機器等		(固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧)											
名称：混合、溶解槽 番号 (106)		(低温、 常温 [0－40℃]、高温)											
規模：容量:200L、寸法:径700mm×高さ650mm		分類：第4類第3石油類(水溶性液体) 名称： メタクリル酸											
14 発生箇所		18 取扱者の概要											
名称：ホース(給油、注油及び注入ホースを除く) 番号 (211)		経験年数32年											
材質：合成樹脂													
15 発生時													
運転状況：停止中 番号 (5)													
作業状況：抜取中 番号 (14)													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 調合槽の底板ノズル部の詰まりを解消するため、窒素パージを実施した際、開放されたガスケットホース上部からメタクリル酸と重合禁止剤の混合液が霧状に噴き出し、作業員1名が被液し負傷する。負傷者は救急車で医療機関に搬送される。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

原因	25	主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 事故時に被災した作業員は、過去の経験からガスケットホースの末端はストレーナーノズルに接続された状態で、かつ、ノズルのバルブは閉止状態であると思い込み、ラインの確認をせずに作業を進めてしまったため危険物を身体に浴びて被液した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	設備		監理・保守		点検・整備		確認不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害										
28 物的被害										
被害内容等										
区分										
死亡										
重症										
中等症										
軽症										
死傷原因										
職業又は職名										
被災影響範囲及び拡大の状況： ガスケットホースからメタクリル酸と重合禁止剤の混合液が、霧状に10mL程度噴き出した。床面等に漏えいはなし。										
施設等の被害状況： 作業員1名が被液し負傷(軽傷)										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関										
消 防 団										
海上保安部										
その他の機関										
物質の被害状況： 第4類第3石油類(水溶性)メタクリル酸 10mL流出										
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)										
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)										
事故調査、救急活動										
自衛防災・消防組織等 番号 (99)										
救護活動										
31 防災活動上の問題点										
ベテランの社員であるにもかかわらず、設備の設置状況を確認せず、思い込みにより操作したことにより負傷した。										
32 施 設 名										
使用停止										
改善命令等										
停止解除										
関係条項										
そ の 他										
1. 文書 2. 口頭										
33 定 期 点 検 等										
定期・自主点検										
気密試験等										
保 安 検 査										
34 当該施設に係る法令違反の有無										
有・無										
内容：										
35 今後の対策や所見										
①操作前の確認の徹底。②調合槽の詰まりを防止するため、禁止剤の投入方法及び配管の改造を行う。③手順書を明記し掲示する。④装置の停止・立上げ時はチェックリストを運用し複数人で作業状況を確認する。										

令和5年

1 事故名		危険物抜き取り作業中に、20号タンクマンホールからメチルエチルケトンが流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		9月 18日 10時 03分				[推定]・確定		4 発生見		9月 18日 10時 03分			
5 覚知		9月 18日 11時 46分				6 鎮圧 応急処置完了				9月 18日 10時 07分			
7 鎮火・処理完了		9月 18日 15時 10分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：北北西 風速：6.8m/s 気温： 湿度：84.9%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) メチルエチルケトン他 115,926L 579.63倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) エチレンジ・アミン他 12L 0.01倍 第4類第2石油類(水溶性液体) その他 63L 0.03倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) その他 1,395L 0.7倍 第4類第3石油類(水溶性液体) その他 801L 0.2倍 第4類第4石油類 その他 14,368L 2.39倍											
		倍数の合計： 582.96倍											
		設置の完成：平成 20年 12月 1日 直近の完成：令和 4年 1月 6日											
12 施設装置		17 物質の区分											
名称：廃液、排水処理施設 番号 (1602)		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
能力：		5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：メチルエチルケトン(1,200L)											
13 機器等		18 取扱者の概要											
温度圧力：		経験年数7年											
名称：混合、溶解槽 番号 (106)													
規模：コーンルーフ 容量:11,400L													
14 発生箇所													
名称：マンホール 番号 (305)													
材質：ステンレス													
15 発生時													
運転状況：停止中 番号 (5)													
作業状況：抜取中 番号 (14)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： メチルエチルケトンの再生装置が故障したため、工場を稼働させるために回収槽からコンテナへポンプで送液作業を行っていたところ、送液を想定していない中和槽の上部マンホールが開いていたため、噴出したメチルエチルケトンが防油提及び防油提外に漏えいしたものの。敷地外への漏えいはない。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原 因	25 主 原 因	誤操作				着火原因				番号 ()					
	関 連 原 因	維持管理不十分													
	発生原因の状況： 作業者は初めての作業であり、接続されている配管を接続されていないと誤認したことにより発生したもの。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	人			本人の知識・能力			技能・技術力			経験不足/習熟不足					
	管理			組織			コミュニケーション			重要情報が伝達されない					
	環境			社会的環境			雰囲気			安全に対する意識が低い					
	関連原因の詳細														
	管理			リスクアセスメント			危険意識			危険に対する認識がない/不足					
因															
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人 的 被 害								28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいしたメチルエチルケトン、事業所側溝から海へ流出する前に、排水門を閉鎖したことにより、事業所内にとどまったもの。							
当 事 者		0	0	0	0										
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況：							
第 三 者		0	0	0	0			なし							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： メチルエチルケトン 1, 200L流出					
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人						
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1 万円未満、 1 万円以上 (23 万円)					
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99)								自衛防災・消防組織等 番号 ()							
事故調査															
31 防災活動上の問題点 通報の遅延															
32 施 設 名	第2工場								33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他			
	使用停止	令和 5 年 9 月 18 日				年 月 日				定期・自主点検	令和 5 年 6 月 30 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	令和 5 年 9 月 22 日				年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項	消防法第12条の3								34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：				
	そ の 他	年 月 日				年 月 日									
35 今後の対策 や所見															
回収槽の弁を自動で閉止するためのインターロックの設置及び、不定期作業における作業手順書の作成、実施															

1 事故名		製造所のステンレス配管が腐食し、配管母材のピンホールからメタノールが流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		11月 14日 11時 15分				[推定]・確定		4 発生見		11月 14日 11時 15分			
5 覚知		11月 14日 11時 30分				6 鎮圧 応急処置完了				11月 14日 11時 45分			
7 鎮火・処理完了		11月 14日 13時 33分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西 風速：4.1m/s 気温：12℃ 湿度：66%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業		区分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新潟西港地区特別防災区域											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：1 危険物 2 高压ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 蟻酸メチル 20,000L 400倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) トリエチルアミン 2,000L 10倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 138,000L 345倍 第4類第1石油類(水溶性液体) 廃液 63,000L 157.5倍 第4類アルコール類 メチルアルコール 168,000L 420倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) メタキシレン 100L 0.1倍 第4類第4石油類 SKOIL 98,000L 16.33倍											
		倍数の合計：1,348.93倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 8年 12月 18日 直近の完成：令和 5年 9月 28日											
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)		17 物質の区分											
能力：処理能力:380.9kL/日		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類アルコール類 名称：メタノール(3L)											
13 機器等		温度圧力：常温、0.5Mpa											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		18 取扱者の概要											
規模：配管サイズ:20A 材質:SUS304TP-S		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
14 発生箇所		20 危険物保安監督者											
名称：その他の附属配管等 番号 (299)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
材質：ステンレス		21 危険物取扱者の取扱・立会い											
15 発生時		①. 有 2. 無											
運転状況：定常運転中 番号 (1)													
作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		23 事故の概要： 製造所(メタクリル酸メチル製造施設)を定常運転していた際、エステル反応器行き回収メタノール配管母材部分のピンホールからメタノール(第4類アルコール類)が霧状に約3L漏えいしていたのを作業員が発見したもの。 ポンプ停止及びバルブ閉止後、当該配管内の残油を抜液し、不活性ガス充てんにより安全化を実施した。 なお、当該災害により作業員が左手の甲に被液したが受傷はなく、死傷者は発生していない。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、9) 無													
装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送													

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因					
	発生原因の状況： 当該ステンレス配管が外部からの腐食により、錆こぶが発生し、環境遮断が起これ、空気中の酸素の供給がなくなったことで、不動態被膜が再生しにくい状況が発生した。更に海塩粒子及び雨水の凝縮により腐食(孔食)が進行し配管母材にピンホールが空き、そこから漏えいしたと推定される。					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	腐食		環境		塩分の影響	
	関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人 的 被 害					28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	6 台 0 隻 0 機 20 人	自 衛	3 台 0 隻 0 機 70 人	被災影響範囲及び拡大の状況： エステル反応器行き回収メタノール配管母材部分のピンホールからメタノール(第4類アルコール類)が霧状に約3L漏えいしたが、施設外への流出はなし。		
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	2 台 0 隻 0 機 5 人	施設等の被害状況： ステンレス製配管の外側に直径0.30mmの穿孔発生		
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人			
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (99) ・現場の安全管理 ・調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (99) ・公設消防の誘導 ・調査活動		
31 防災活動上の問題点						
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 5 月 11 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	令和 5 年 9 月 27 日
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：	
	そ の 他	年 月 日	年 月 日			
35 今後の対策や所見 事業者による詳細な原因調査後に、再発防止対策を講じる予定である。当該配管はステンレス配管とはいえ製造から26年経過していることから、計画的に維持管理・更新する必要がある。						

1 事故名		製造所のポンプ吸入配管の溶接線から、エピクロルヒドリンとメタクリル酸グリシジルの混合液が漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		12月 28日 16時 30分				[推定]・確定		4 発生見		12月 28日 16時 30分			
5 覚知		12月 28日 16時 35分				6 鎮圧 応急処置完了				12月 28日 18時 02分			
7 鎮火・処理完了		12月 28日 18時 02分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東南東 風速：0.6m/s 気温：8℃ 湿度：55%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業		区分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新潟西港地区特別防災区域											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) メタクリル酸メチル(MMA) 21,200L 106倍 第4類アルコール類 GMAメタノール廃液 19,000L 47.5倍 第4類第2石油類(水溶性液体) メタクリル酸ジメチルアミノエチル(DAM) 22,400L 11.2倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) メタクリル酸グリシジル(GMA) 41,100L 20.55倍 第4類第3石油類(水溶性液体) メタキシレンジメチルアミン(MXDA) 31,070L 7.77倍 第4類第4石油類 ジベンジルトルエン 18,210L 3.04倍 倍数の合計：196.06倍											
		設置の完成：昭和 54年 11月 12日 直近の完成：令和 5年 12月 12日											
		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：エピクロロヒドリン(EpCH) (5mL) 第4類第3石油類(非水溶性液体) メタクリル酸グリシジル(GMA) (5mL)											
12 施設装置		18 取扱者の概要											
名称：その他【有機化学工業】 番号 (5999)													
能力：処理能力 9,800L/日													
13 機器等		温度圧力：0.4Mpa											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)													
規模：配管径150A材質SUS304													
14 発生箇所													
名称：その他の附属配管等 番号 (299)													
材質：ステンレス													
15 発生時													
運転状況：定常運転中 番号 (1)													
作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 当該施設内において、製造所(ナイロンM号危険物製造所)のGMA装置を運転中にポンプ吸入配管より、エピクロルヒドリンとメタクリル酸グリシジルの混合液が約0.01L漏えいしたものの。漏えいを止めるため、当該配管からの抜液作業を実施し、その後漏えい停止を確認した。施設外への漏えいはなし。 なお、当該事故による死傷者は発生していない。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送													

25	主 原 因 腐食疲労等劣化					着火原因					番号 ()					
原	関 連 原 因															
	発生原因の状況： 当該配管は設置から取り替えておらず、ポンプ稼働時の振動及び荷重による応力のため疲労による割れが発生し、溶接部の割れが貫通したことで漏えいしたものと推定される。															
	主原因の詳細															
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層						
	疲労・劣化			環境			常に振動する環境下で疲労（想定内の振動であるが、材料が継続した疲労により損傷等）									
	疲労・劣化			環境			荷重による疲労（車両や周囲の重量物等の影響）									
因	関連原因の詳細															
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27	人 的 被 害										28 物的被害					
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況：						
										当該施設内において、製造所(ナイロンM号危険物製造所)のGMA装置ポンプ吸入配管より、エピクロルヒドリンとメタクリル酸グリシジルの混合液が約0.01L漏えいしたが、施設外への流出はなし。						
	当 事 者		0	0	0	0				施設等の被害状況：						
	防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0				配管溶接部の割れ1か所						
第 三 者		0	0	0	0											
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	14 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	27 人	物質の被害状況： エピクロルヒドリン(EpCH)とメタクリル酸グリシジル(GMA)の混合液約0.01L漏えい						
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	5 人							
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人							
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)						
30	実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99) ・現場の安全管理 ・調査活動										自衛防災・消防組織等 番号 (99) ・公設消防の誘導 ・調査活動						
31	防災活動上の問題点 ・漏えい停止後、配管の亀裂部を溶接により修理する予定だったが、溶接により亀裂が広がり、配管の取替が必要となった。また、混合液が時間経過とともに重合反応すること、混合液用の重合反応抑制液がないことが判明し、急遽、消防に報告の上、仮取扱等で別のタンク等に移送が必要となった。 重合反応する可能性については現場活動時に報告がなく、そういった危険性等を事業所側が早い段階で把握し、安全性を確保できる応急措置を消防側に報告する必要性を感じた。															
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等				消 防 法				そ の 他		
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				令和 5 年 9 月 4 日				年 月 日	
		改善命令等	年 月 日				気密試験等				年 月 日				年 月 日	
		停止解除	年 月 日				保 安 検 査				年 月 日				年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無				有・ <u>無</u>				内容：		
	そ の 他	年 月 日				年 月 日										
35	今後の対策や所見 ・当該配管及び直近配管を同仕様で更新する。 ・本事象のような、貫通割れのおそれが高い配管をリストアップし、検査または更新を計画する。 ・工場内で水平展開を行う。															

令和5年

1 事故名		濾過器のエア－抜き配管バルブを閉め忘れたことによる危険物の流出							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発 生		12月 23日 2時 40分		[推定]・確定		4 発 見		12月 23日 8時 00分	
5 覚 知		12月 23日 13時 26分		6 鎮 圧 応急処置完了		12月 23日 14時 52分			
7 鎮火・処理完了		12月 23日 14時 52分							
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()							
9 気 象 状 況		天気：曇		風向： 西南西		風速： 2m/s		気温： 3℃ 湿度： 80%	
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 その他の化 番 号 (1794) 学工業 ゼラチン・接着剤製造業				11 発 生 場 所		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 15,000L 75倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸エチル 50,000L 250倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) アクリル酸メチル 1,000L 5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) アクリル酸エチル 1,000L 5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) メチルエチルケトン 30,000L 150倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) アクリル樹脂粘着剤 50,000L 250倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 10,000L 25倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) アクリル酸 1,000L 1倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) アクリル酸ブチル 14,000L 14倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) アクリル酸2エチルヘキシル 30,000L 15倍 第5類アゾ化合物(第2種自己反応性物質) アゾ化合物 2,000kg 20倍 倍数の合計： 810倍 設 置 の 完 成： 平成 21年 2月 10日 直 近 の 完 成： 令和 3年 3月 5日	
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分			
名 称： 番 号 ()						①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0－40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ZA-3200 (1,800kg)			
能 力： 番 号 ()									
13 機 器 等									
名 称： ろ過機 番 号 (912)		18 取扱者の概要		経験年数14年					
規 模： 28m ³		19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
14 発 生 箇 所		名 称： 開閉弁 番 号 (204)		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
材 質： ステンレス		15 発 生 時		22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル有			
運 転 状 況： 受入中 番 号 (9)		作 業 状 況： その他 番 号 (99)		23 事 故 の 概 要：		製品をドラム缶へ抜出作業中、抜出経路にある濾過器のエア－抜き配管バルブを閉め忘れたため、その配管から危険物である製品が流出。また漏えいしたことを気づくのが遅れたため、濾過器のある建屋2階フロア全体に約1,800kg流出した。			
24 緊急処置の状況		[有] 番号 (1) 無		装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因		操作未実施		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 作業員がエアークラスバルブは閉まったままと思い込み、バルブの開閉の確認を怠った。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		思い込み	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害						28 物的被害		
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 6階建て建屋の2階フロアの大部分
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 建屋2階フロアの危険物流出による汚れ
第 三 者		0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 製品であるZA-3200、約1.8t
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
						損害額 1万円未満、 1万円以上 (51 万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 建屋内にいた従業員を一時退避させ、空気呼吸器を着装した消防隊員が環境測定を行った。						自衛防災・消防組織等 番号 ()		
31 防災活動上の問題点 漏えいした危険物が接着剤であったため、回収作業が優先された。								
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和 5 年 3 月 2 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日		年 月 日			年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日		年 月 日			年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：	
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策 や所見		閉めておくべき箇所が開いていた場合には作業を開始できないような設備的なハード対策を検討する。また、危険物施設での事故等が発生した場合は速やかに消防機関に通報するよう従業員への教育を実施する。						

令和5年

1 事故名		製造所附属の配管からキシレンが流出した事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		1月 28日 9時 05分	
5 覚 知		1月 28日 9時 24分		6 鎮 圧 応急処置完了		1月 28日 14時 51分	
7 鎮火・処理完了		1月 28日 14時 51分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北西 風速：4m/s 気温：3℃ 湿度：70%					
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所					
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u> 、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 (<u>製</u> 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区特別防災区域					
		16 発生施設規制区分等					
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン等 326,300L 1,631.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) キレン等 2,642,389L 2,642.39倍 第4類第4石油類 潤滑油等 8,530L 1.42倍					
12 施 設 装 置		倍数の合計： 4,275.31倍 設置の完成：平成 元年 8月 14日 直近の完成：令和 4年 12月 27日					
名 称：その他【石油精製工業】 番 号 (2999) 能 力：2,978kL/日							
13 機 器 等							
温度圧力：0.04Mpa		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：キシレン(58.6L)					
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)							
規 模：配管サイズ:4B材質:STPG370							
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要					
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					
材 質：その他							
15 発 生 時							
運 転 状 況：スタートアップ中 番 号 (2)		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無					
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 9時頃現場点検員が日常点検中に、パラキシレン製造装置で蒸溜して水素と分離したキシレンを冷却する熱交換機の後につながる配管エルボ部からキシレンが流出していたのを発見したもの。装置は令和3年8月に停止しており、今回はスタートアップする作業中の流出事故である。装置外への流出はなし。漏えい量は約58.6L。吸着マットにて残油回収処理を実施。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
原因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 漏えい配管上流側に導入している爆発混合気形成防止用希釈水素ガス中に含まれる炭酸ガスがプロセス凝縮水に溶解して炭酸水が生成され、その炭酸水がエルボ部に衝突することで局所的に「炭酸水腐食」が発生し、減肉して薄くなった部位で開口し漏えいしたものと推定される。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）						
	関連原因の詳細										
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人 的 被 害						28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 製造施設内にキシレンが約58.6L流出			
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： エルボ部が減肉して薄くなった部位で1mm開口			
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
	消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	5 台	0 隻	0 機	47 人	物質の被害状況： キシレンが約58.6L流出
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)											
30	実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 災害対策本部の設置及び車両配備等による二次災害防止活動を実施。					
31	防災活動上の問題点										
行政措置	32	施設名	製造所(2PX)			33	定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	行	使用停止	令和 5 年 1 月 28 日			定期・自主点検	令和 4 年 8 月 22 日		年 月 日		
		改善命令等	年 月 日				年 月 日		年 月 日		
		停止解除	年 月 日				年 月 日		年 月 日		
	措	関係条項	消防法第12条の3第1項			34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 消防法第12条の3 製造所等の緊急使用停止命令			
		そ の 他	年 月 日								
35	今後の対策 や所見			・漏えいした配管の取替 ・定点検査の期間短縮 次回2024年予定 ・爆発混合気形成防止用水素ガス中の炭酸ガスの管理							

1 事故名		製造所内の熱交換器からキシレンが流出した事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		2月 8日 21時 02分	
5 覚 知		2月 8日 21時 05分		6 鎮 壓 応急処置完了		2月 9日 11時 55分	
7 鎮火・処理完了		2月 9日 11時 55分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：北西		風速：6m/s 気温：8℃ 湿度：70%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				区 分：①. 事業所内 (<u>製</u> 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区特別防災区域			
		16 発生施設規制区分等					
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ等 34,781,777L 173,908.89倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油等 15,965,790L 15,965.79倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 汚れ防止剤 997L 0.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 7,430,398L 3,715.2倍 第4類第3石油類(水溶性液体) アシ 99L 0.02倍 第4類第4石油類 潤滑油 82,654L 13.78倍 第2類硫黄 硫黄 152,000kg 1,520倍 倍数の合計：195,124.18倍					
12 施 設 装 置				14 発 生 箇 所			
名 称：その他【石油精製工業】 番 号 (2999)				名 称：その他の機器等本体 番 号 (199)			
能 力：6,231kL/日				材 質：その他			
13 機 器 等		温 度 圧 力：255℃、0.91Mpa		17 物 質 の 区 分			
名 称：熱交換器 番 号 (301)				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0ー40℃]、 <u>高温</u>) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：キシレン(135L)			
規 模：胴長:6,163mm胴径:1,174mm材質:SM400B				18 取扱者の概要			
14 発 生 箇 所				設置の完成：昭和 48年 8月 13日 直近の完成：令和 4年 6月 7日			
15 発 生 時				19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
運 転 状 況：スタートアップ中 番 号 (2)				21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無			
作 業 状 況： 番 号 ()							
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無					
23 事故の概要：		21時頃定期巡回中に職員が臭気を感じ、装置を確認したところ、パラキシレン製造装置のキシレンを冷却する熱交換機本体のフランジ部からキシレンが流出していたもの。装置は令和3年に停止しており、今回はスタートアップする作業中の流出事故である。装置外への流出はなし。地面に9㎡の油だまりがあり、漏えい量は135L。地面のキシレンは吸着マットにて回収処理を実施。					
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1) 無		装置の緊急停止					

原因	25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因		維持管理不十分						
	発生原因の状況：		スタートアップ時に高温のキシレンがフランジ部に熱影響を与え、固定ボルト及びチューブシートに歪みを発生させたことによりフランジ部に隙間が発生し流出したもの。この運用は従前から行っており、長年の影響があると考えられる。間接原因として、スタートアップ時に熱交換する温度上昇が早いと、フランジに歪みを発生させたためと推測される。						
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）				
	関連原因の詳細								
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順の内容が不適切		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害							28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：	
区分								製造施設内にキシレンが約135L流出	
当 事 者	0	0	0	0					
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況：	
第 三 者	0	0	0	0				固定ボルト及びチューブシートに歪み(変形)	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	5 台	0 隻	0 機	15 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	49 人
							物質の被害状況：		
							キシレンが約135L流出		
							損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (99)			
調査活動を実施。						災害対策本部の設置及び車両配備等による二次災害防止活動を実施。			
31 防災活動上の問題点									
行政措置	32	施設名	製造所(1PX)		33	定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 5 年 2 月 8 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 4 年 8 月 22 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	令和 5 年 2 月 27 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項	消防法第12条の3第1項		34	当該施設に係る法令違反の有無	有・無			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	内容：					
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭	消防法第12条の3 製造所等の緊急使用停止命令					
35		今後の対策や所見							
		・漏えいしたフランジの補修 ・熱交換器内の温度差を少なくする運用に変更する ・水平展開として、同様の運用をしていた熱交換器の運用方法の見直し ・事故が続いているため、次にスタートアップするTA装置に対して気密試験を指示							

1 事故名		製造所の配管に設けられた油圧作動弁の作動油が漏えいした事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		8月 13日 9時 08分	
5 覚 知		8月 13日 10時 53分		6 鎮 圧 応急処置完了		8月 13日 9時 10分	
7 鎮火・処理完了		8月 13日 11時 15分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：西 風速：2.8m/s 気温：34℃ 湿度：81%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト 第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区特別防災区域		16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他			
				貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所			
12 施 設 装 置		名 称：その他【石油精製工業】 番 号 (2999) 能 力：2,978kL/日		類・品名・名称・数量・倍数：			
				第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン等 326,300L 1,631.5倍			
				第4類第2石油類(非水溶性液体) キレン等 2,642,389L 2,642.39倍			
13 機 器 等		温 度 圧 力：1.81Mpa		第4類第4石油類 潤滑油等 8,530L 1.42倍			
名 称：吸収塔、槽 番 号 (104) 規 模：4,275mm×18,370mm(横置きドラム) 設計圧力:1.81MPa、設計温度:220℃		14 発 生 箇 所		設置の完成：平成 元年 8月 14日		倍数の合計：4,275.31倍	
				直近の完成：令和 4年 12月 27日			
				17 物 質 の 区 分			
15 発 生 時		名 称：その他 番 号 (999) 材 質：その他		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
				5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
				(固相、液相、気相) (常圧、加圧)			
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		①. 選任有 2. 選任無		21 危険物取扱者の ①. 有	
				3. 不要		の取扱・立会い 2. 無	
				20 危険物 保 安 監 督 者			
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 吸着槽に入った触媒への油の供給をコントロールする油圧作動弁(以下、「バルブ」という。)の作動油が約60L漏えいした事故。漏えい箇所は、バルブの開閉を行うための作動油が流れるフレキシブルホース。 経緯は、8月13日9時頃に定期巡回を行っていた作業員が、当該フレキシブルホースから霧状に作動油が漏えいしているのを発見したもの。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
原因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 事故が発生したフレキシブルホースと油圧作動弁の接続状況が、フレキシブルホースの曲げ半径が小さかったことにより、外面層のゴムに亀裂が生じて、補強層外面側のスチールバンドが露出。その後、雨水浸入により、腐食が進行し、耐圧性能の低下を招いた結果、内面層に1mm程度の亀裂が生じたもの。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	疲労・劣化			素材等の劣化			長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	施工不良			施工			取り付け不良					
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人 的 被 害							28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 製造所内に作動油が約60L漏えい。				
	当 事 者	0	0	0	0							
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： フレキシブルホース外面層のゴムに亀裂、補強層のスチールバンドが腐食、内面層に1mm程度の亀裂。				
	第 三 者	0	0	0	0							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	2 人	物質の被害状況： 作動油が約60L漏えい。		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人			
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) 調査活動を実施。							自衛防災・消防組織等 番号 (99) 2次災害への警戒					
31	防災活動上の問題点 発見から通報まで2時間近く要しているため、早期通報の徹底を指導する。											
32 行政措置	施設名							33 定期点検等	消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 5 年 7 月 23 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日		年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日			年 月 日							
35	今後の対策 や所見		・水平展開を行い、本事故と類似(曲げ半径が小さい)のフレキシブルホースの取り替えを実施。 ・取替周期が明確化されていなかったため、周期の明確化を検討する。 ・防災規程に則った早期通報が徹底されるよう、所員への再周知と継続的な教育を実施していくことを本事故の報告書に明記。									

1 事故名		製造所の配管に設けられた圧力計が破損し漏えいした事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		10月 5日 9時 20分	
5 覚知		10月 5日 9時 27分		6 鎮圧 応急処置完了		10月 5日 11時 20分	
7 鎮火・処理完了		10月 5日 16時 00分					
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：曇 風向：南西 風速：2m/s 気温：23℃ 湿度：99%					
10 発生事業所				11 発生場所			
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u> 、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区分：①. 事業所内 (<u>製</u> 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区特別防災区域		16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他			
				貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所			
				類・品名・名称・数量・倍数：			
12 施設装置				第4類第1石油類(非水溶性液体)		ベンゼン等 326, 300L 1, 631. 5倍	
名称：その他【石油精製工業】 番 号 (2999)		能力：2,978kL/日		第4類第2石油類(非水溶性液体)		キシレン等 2, 642, 389L 2, 642. 39倍	
13 機器等		温度圧力：40℃、3Mpa		第4類第4石油類		潤滑油等 8, 530L 1. 42倍	
名称：吸収塔、槽 番 号 (104)		規模：4,275mm×18,370mm(横置きドラム)		倍数の合計：4,275. 31倍			
14 発生箇所				設置の完成：平成 元年 8月 14日		直近の完成：令和 4年 12月 27日	
名称：指示計器 番 号 (307)		材質：その他		17 物質の区分			
15 発生時				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
運転状況：定常運転中 番 号 (1)		作業状況： 番 号 ()		5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
				(固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>)			
				(低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温)			
				分類：第4類第4石油類 名称：作動油(70L)			
18 取扱者の概要							
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 吸着槽に入った触媒への油の供給をコントロールする油圧作動弁(以下、「バルブ」という。)の作動油が約70L漏えいした事故。漏えい箇所は、バルブの開閉を行うための作動油が流れるコントロールバルブの圧力計。 経緯は、10月5日9時頃に補修前に潤滑油タンクのレベルを確認していたところ、通常レベルより低かったため周囲を確認したところ作動油が漏えいしているのを発見したもの。分解したところ、圧力計のブルドン管が破損していたもの。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (10) 無 その他							

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因								
	発生原因の状況： 圧力計内のブルドン管に設置当初から繰り返し応力集中が発生し続けたため、経年劣化により破損し漏えいしたもの。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	疲労・劣化		環境		想定内の応力下で疲労(応力腐食割れ)				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人 的 被 害							28 物的被害		
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 製造所内に作動油が約70L漏えい。	
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 圧力計のブルドン管が破損。	
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	7 台	0 隻	0 機	14 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	22 人
28 物的被害 物質の被害状況： 作動油が約70L漏えい。									
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)									
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99) 調査活動を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 2次災害への警戒			
31 防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 5 年 7 月 23 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日						
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 や所見		・水平展開を行い、本事故と類似の圧力計を撤去 ・装置近傍に以前溶接線の割れのにじみなどが発生しており、装置全体的にリスクアセスを実施し、再評価を行う。							

令和5年

1 事故名		アセトン縮合反応塔のベントノズルからアセトンが流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		6月 22日 15時 30分 推定・ 確定					4 発 見		6月 22日 16時 50分		
5 覚 知		6月 23日 8時 55分					6 鎮 圧 応急処置完了		6月 22日 16時 55分		
7 鎮火・処理完了		6月 22日 18時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北西 風速：1.1m/s 気温：18.8℃ 湿度：96%									
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所									
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業(一貫して生産され る誘導品を含む)	区 分：①. 事業所内 (製 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 四日市臨海地区										
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) MIBK 31,200L 156倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 低沸分 2,000L 10倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 97,000L 242.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) メシチルオキシイト 15,200L 15.2倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) ジ`イソブ`チルケトン 91,800L 91.8倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 高沸分 10,000L 10倍 第4類第2石油類(水溶性液体) タ`イアセトンアルコール 20,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) SKオイル 10,000L 5倍 第4類第4石油類 潤滑油 6,000L 1倍 倍数の合計： 541.5倍										
12 施 設 装 置		名 称：その他【有機化学工業】 番 号 (5999) 能 力：31.2L/日									
13 機 器 等		温 度 圧 力：43℃ 名 称：反応塔、槽 番 号 (102) 規 模：高さ19m幅2m									
14 発 生 箇 所		名 称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303) 材 質：鋼鉄									
15 発 生 時		運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)									
17 物 質 の 区 分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類： 第4類第1石油類(水溶性液体) 名称：アセトン(800L)									
18 取扱者の概要		経験年数3年									
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： アセトン縮合反応塔の水洗実施中ブロー弁を開ける工程で、通常稼働中であった隣のアセトン縮合反応塔のブロー弁を誤って開いたもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (8) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等											

原 因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因		誤操作							
	発生原因の状況：		アセトン縮合反応塔の水洗実施中ブロー弁を開ける工程で、通常稼働中であった隣のアセトン縮合反応塔のブロー弁を誤って開いたもの。							
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	人	本人の知識・能力	知識		知識不足					
	関連原因の詳細									
	人	本人の知識・能力	技能・技術力		経験不足/習熟不足					
因										
	26 被害の状況		1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
	27 人 的 被 害				28 物的被害					
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 製造所の範囲内			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：			
第 三 者	0	0	0	0			なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： アセトンが約800L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 1万円以上 (8 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (4、5)		流出防止措置、回収作業				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保 安 検 査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日		内容：					
	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭								
	35	今後の対策 や所見								

1 事 故 名		塩酸蒸留塔塔底ポンプサーキュレーション配管からのトリクロロシラン漏えい											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		9月 28日 0時 06分				推定・確定		4 発 見		9月 28日 0時 10分			
5 覚 知		9月 28日 8時 25分				6 鎮 圧 応急処置完了				9月 28日 5時 00分			
7 鎮火・処理完了		9月 28日 6時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 南南西 風速： 0.2m/s 気温： 23.7℃ 湿度： 95%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 無機化学工 番 号 (1729) 業製品製造業 その他の無機化 学工業製品製造業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 四日市臨海											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第3類その他のもので政令で定める トリクロロシラン 250,000kg 5,000倍 もの(塩素化けい素化合物)(第2種自然発火性物質及び禁水性物質)											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所 名 称： 配管の保温材、ヒーター 番 号 (214) 材 質： 鋼鉄 15 発 生 時 運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()											
名 称： その他【無機化学工業】 番 号 (7199)													
能 力： 塩酸蒸留塔 トリクロロシラン250000kg													
13 機 器 等		温 度 圧 力： 1.5Mpa											
名 称： 蒸留、精留塔(スタビライザー、ストリップバー) 番 号 (101)		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第3類その他のもので政令で定める 名称： トリクロロシラン(700L) もの(塩素化けい素化合物)(第2種自 然発火性物質及び禁水性物質)											
規 模： 直径1m×高さ14m													
14 発 生 箇 所													
名 称： 配管の保温材、ヒーター 番 号 (214)		18 取扱者の概要											
材 質： 鋼鉄		①. 選任有 2. 選任無											
15 発 生 時		3. 不要											
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		21 危険物取扱者の の取扱・立会い											
作 業 状 況： 番 号 ()		①. 有 2. 無											
19 危険物保安 統括管理者		20 危険物 保安監督者											
1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 塩酸蒸留塔塔底ポンプサーキュレーション配管からトリクロロシランが700L漏えいしたものの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
原 因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 塩酸蒸留塔塔底ポンプサーキュレーション配管の保温材に雨水が浸入し、滞留することで、配管外面が湿潤した状態となり、外部腐食が進行して貫通に至ったもの。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人 的 被 害								28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該製造所内及び場外通路(最大約40mの範囲)にシリカが飛散。				
	当 事 者	0	0	0	0							
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 当該製造所内ガス検知器12台のセンサー不具合				
	第 三 者	0	0	0	0							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：								
	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	第3類 塩素化けい素化合物 第二種 トリクロロシラン 700L								
	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 () 万円)								
	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人									
30	実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31	防災活動上の問題点 当初、非危険物の四塩化ケイ素の漏えいだと思っていたが、後にトリクロロシランの漏えいと判明したため、消防への通報が遅延した。											
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他			
行 政 措 置	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：					
そ の 他	年 月 日											
	1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭							
35	今後の対策や所見 ・漏えいがあった配管の交換。 ・事業所内の-55℃～75℃の範囲で運転されている配管の保温・保冷を取り外して点検を実施。腐食が見られた配管については当該配管と同様に交換を実施。 ・不要な保温材の取り外しを検討し、保温材を取り外した部分については外面腐食防止の塗装を実施。 ・保温材下の配管点検について見直しを検討する。 ・配管の施工基準の標準において保温材施工の温度基準が明確になっていないことから、標準を見直す。											

1 事 故 名		製造所内の危険物機器下流配管のドレンバルブからのエタノール198L漏えい事故									
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		11月 30日 10時 49分				[推定]・確定		4 発 見		11月 30日 11時 04分	
5 覚 知		11月 30日 11時 35分				6 鎮 圧 応急処置完了				11月 30日 11時 04分	
7 鎮火・処理完了		11月 30日 11時 04分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北西 風速：1.5m/s 気温：13℃ 湿度：48%									
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所									
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、[第2種]、その他) 業 態：製造業 化学工業 油脂加工製 番 号 (1752) 品・石けん・合成洗剤・界面活性 剤・塗料製造業 石けん・合成洗 剤製造業		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 四日市臨海地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トリエチルアミン 2,810L 14.05倍 第4類アルコール類 エチルアルコール 22,420L 56.05倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 脂肪酸 64,900L 32.45倍 第4類第4石油類 マジソ油 180L 0.03倍 第4類特殊引火物 モノエチルアミン 0L 0倍 第4類第1石油類(水溶性液体) 脂肪酸四級塩 0L 0倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 脂肪酸四級塩 0L 0倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 脂肪酸四級塩 0L 0倍 第4類第3石油類(水溶性液体) アロヒレンタリコール 0L 0倍 倍数の合計： 102.58倍									
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所									
名 称：エチレン製造装置 番 号 (5101)		名 称：ドレンバルブ 番 号 (210)									
能 力：		材 質：ステンレス									
13 機 器 等		温度圧力：0.47Mpa									
名 称：攪拌、混合機(ニーダー) 番 号 (508)		17 物 質 の 区 分									
規 模：内径600mm、高さ1,503mm、容量400L		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類アルコール類 名称：エタノール(198L)									
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要									
名 称：ドレンバルブ 番 号 (210)		経験年数8年									
材 質：ステンレス		19 危険物保安 統括管理者									
15 発 生 時		20 危険物 保安監督者									
運 転 状 況：スタートアップ中 番 号 (2)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
作 業 状 況：原料仕込み中 番 号 (15)		21 危険物取扱者 の取扱・立会い									
		①. 有 2. 無									
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： エタノールが仕込まれた危険物機器から次工程に液移送したところ、機器直近配管のドレンバルブが誤開放されていたため、当該部 からエタノール198Lが流出したものの。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他											

原因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 危険物機器にエタノールを仕込み、次工程のため液移送したところ、機器直近配管のドレンバルブが誤開放されていたため、エタノールが198L漏えいしたものの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害							28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： エタノールが事業所敷地内に流出したもの		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： エタノール198L		
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻		0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻		0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻		0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻		0 機	0 人
								損害額 1万円未満、 1万円以上 (3 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業				
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和4年 9月 20日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日							
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		事前に対象配管の保圧試験を実施し、バルブ開放等による圧力低下の無いことを確認後運用を実施する。								

令和5年

1 事故名		BTU製造装置内スルフォランポンプ暖気配管が内面腐食により穿孔しスルフォランが流出した事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		1月 10日 13時 00分				[推定]・確定		4 発 見		1月 10日 13時 00分			
5 覚 知		1月 10日 13時 12分				6 鎮 圧 応急処置完了				1月 10日 19時 30分			
7 鎮火・処理完了		1月 10日 19時 30分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北北西 風速：3.2m/s 気温：7.3℃ 湿度：54%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 堺・泉北臨海特別防災地区協議会											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン 144,000L 720倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) その他第1石油類, 560,000L 22,800倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) その他第2石油類 720,000L 720倍											
12 施 設 装 置		13 機 器 等											
名 称：その他の芳香族系化合物製造装置 番 号 (5499)		温 度 圧 力：160℃、1.6Mpa											
能 力：120,000L/h		名 称：ポンプ 番 号 (501)											
13 機 器 等		規 模：H 2m × W 3m × D 1.3m											
14 発 生 箇 所		15 発 生 時											
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)											
材 質：その他		作 業 状 況： 番 号 ()											
15 発 生 時		17 物 質 の 区 分											
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
		(固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：スルフォラン(9.6L)											
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要											
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
材 質：その他		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
15 発 生 時		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
作 業 状 況： 番 号 ()		23 事故の概要： BTU製造装置T-934塔底のP-935 B号暖気配管が内面腐食により減肉・開孔し、スルフォラン9.6L漏えい。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無		装置の緊急停止											

25

主原因

腐食疲労等劣化

着火原因

番号（ ）

原因

関連原因

発生原因の状況：
スルフォラン送油ポンプの暖気配管のバルブが、エロージョンコロージョンにより内面腐食し開孔、漏えいしたもの。

主原因の詳細

第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層
腐食	防食	エロージョン・コロージョン	

関連原因の詳細

26 被害の状況

1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から

27 人的被害

被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名
当 事 者	0	0	0	0		
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		

28 物的被害

被災影響範囲及び拡大の状況：
漏えい場所付近に若干拡散するも吸着マットにて即時回収し、拡大はなし。

施設等の被害状況：
暖気配管のバルブ部分に0.4mmの開孔。

29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況

消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	10 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人

物質の被害状況：
スルフォラン 9.6L漏えい

損害額 1万円未満、1万円以上(288 万円)

30 実施した防災活動の状況

公設消防機関：番号（ 99 ）
調査活動を実施

自衛防災・消防組織等 番号（ 99 ）
警戒筒先配備

31 防災活動上の問題点

32 施設名

使用停止	年 月 日	年 月 日
改善命令等	年 月 日	年 月 日
停止解除	年 月 日	年 月 日
関係条項		
そ の 他	年 月 日	年 月 日
	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭

33 定期点検等

消 防 法	そ の 他	
定期・自主点検	令和 5 年 1 月 10 日	年 月 日
気密試験等	年 月 日	年 月 日
保安検査	年 月 日	年 月 日

34 当該施設に係る法令違反の有無

有・無

内容：

35 今後の対策や所見

水平展開及び2か月に1回肉厚測定を実施。

1 事 故 名		製油所内コンプレッサーのシールオイル用ヘッドドラムのレベル調整バルブ誤作動による潤滑油の漏えい											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		2月 16日 14時 25分 推定・ 確定					4 発 見		2月 16日 14時 25分				
5 覚 知		2月 16日 14時 51分					6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		2月 16日 18時 30分				
7 鎮火・処理完了		2月 16日 18時 30分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北西 風速：1.5m/s 気温：5℃ 湿度：											
10 発 生 事 業 所		種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業					11 発 生 場 所						
12 施 設 装 置							区 分：①. 事業所内 (製)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 堺泉北臨海						
							16 発生施設規制区分等						
							施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) オクテン 288,000L 1,440倍 第4類 アルコール 類 TPA 222,000L 555倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 53,000L 53倍 第4類第4石油類 潤滑油 3,620L 0.6倍						
							倍数の合計： 2,048.6倍						
13 機 器 等		温 度 圧 力：1Mpa					設置の完成：昭和 49年 3月 22日 直近の完成：平成 29年 6月 1日						
14 発 生 箇 所		名 称：精製装置 番 号 (2103) 能 力：564kL/日					17 物 質 の 区 分						
15 発 生 時		名 称：制御弁 番 号 (205) 材 質：鋼鉄					①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称：潤滑油 (89.6L)						
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要			20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要			21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 製造所内のコンプレッサーにおいて、シールオイルのレベル低下によりアラームが鳴動したため、従業員が確認したところ、モーターの軸受け部から潤滑油が漏えいしていたもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 故障						着火原因						番号 ()						
原因	関 連 原 因 維持管理不十分																		
	発生原因の状況： コントロールバルブのエア駆動のノズルフラップ部が何らかの原因で閉塞し、コントロールバルブが閉まったためにコンプレッサーのシールができなくなり、ブテンガスが潤滑油のレシーブタンクに逆流した。そのためタンク内圧が上がり、潤滑油系統の戻りが阻害されたため開放されているモーターの軸受け部から漏えいした。またブテンの逆流により潤滑油にブテンが溶け込んだことにより、潤滑油の粘度が下がり、ポンプにより泡立てられたことで発生した泡が潤滑油の戻りラインに入り流れを阻害した原因と推測する。																		
	主原因の詳細																		
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層						
	故障				機能				機器の機能の停止										
	関連原因の詳細																		
	設備				監理・保守				点検・整備				整備していない						
	因																		
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																		
27	人 的 被 害												28 物的被害						
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： コンプレッサー周辺に潤滑油が流出										
	当 事 者		0	0	0	0													
	防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし(コントロールバルブは整備し再使用)										
	第 三 者		0	0	0	0													
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		
消 防 機 関	10 台	0 隻	0 機	29 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	9 人	物質の被害状況： 潤滑油約89.6L流出									
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機										0 人
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機										0 人
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機										0 人
30	実施した防災活動の状況																		
公設消防機関：番号 (99) 情報収集及び警戒活動												自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業							
31	防災活動上の問題点																		
32	施 設 名									33 定 期 点 検 等	消 防 法				そ の 他				
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検 気密試験等 保安検査	年 月 日				年 月 日			
		改善命令等	年 月 日				年 月 日					年 月 日				年 月 日			
		停止解除	年 月 日				年 月 日					年 月 日				年 月 日			
		関係条項																	
	そ の 他	年 月 日				年 月 日				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：								
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭																		
35	今後の対策 や所見 ・誤作動の発生したコントロールバルブの点検・整備 ・レベル低下を早期に覚知できるようにアラームの設定値を変更する																		

1 事故名		危険物製造所へ送油しているピット内配管の腐食疲労等劣化によるトルエン及びメチルアルコールの流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		7月 25日 16時 00分	
5 覚 知		7月 25日 17時 23分		6 鎮 圧 応急処置完了		7月 25日 17時 50分	
7 鎮火・処理完了		7月 31日 12時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南西 風速：3.6m/s 気温：31.3℃ 湿度：63.4%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 衣類・その他の繊維製 番 号 (1293) 品製造業 その他の繊維製品製 造業 帆布製品製造業				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン、メチルエチルケ 12,740L 63.7倍 トン、その他 第4類アルコール類 メチルアルコール、その他 840L 2.1倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) アソ、その他 4,600L 4.6倍 第4類第4石油類 LP-200、その他 1,440L 0.24倍 倍数の合計： 70.64倍			
12 施 設 装 置				設置の完成：平成 19年 4月 24日 直近の完成：平成 19年 4月 24日			
名 称：塩化ビニル製造装置 番 号 (5107)				17 物 質 の 区 分			
能 力：1,600L/日				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：トルエン(100L) 第4類アルコール類 メチルアルコール(100L)			
13 機 器 等		温 度 圧 力：0.3Mpa		18 取扱者の概要		経験年数35年	
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)				①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い	
規 模：25A				20 危険物 保安監督者		①. 有 2. 無	
14 発 生 箇 所							
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)							
材 質：鋼鉄							
15 発 生 時							
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事故の概要： 製造所の課長から屋外で異臭がするとの報告があり、異臭周辺を調べたところ製造所北側のピット内配管が腐食疲労等劣化により腐食孔が発生し、トルエン及びメチルアルコールが流出した。なお、地下タンク貯蔵所の送油ポンプの停止及び送油バルブを閉止し、流出箇所をゴムシートで巻き付け、応急処置を実施した。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()																														
	関 連 原 因	維持管理不十分																																						
	発生原因の状況： 配管の腐食疲労等劣化により腐食孔が発生し、長期間点検を怠っていたため腐食孔を発見できなかったもの。																																							
	主要原因の詳細																																							
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																														
	腐食			防食			防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)																																	
	関連原因の詳細																																							
	設備	監視・保守			点検・整備			点検内容が不適切																																
因																																								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																								
27 人的被害								28 物的被害																																
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： ピット内配管からトルエン約100L及びメチルアルコール約100Lが流出し、ピット内及び排水処理施設内に収まっている。				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																		
当 事 者	0	0	0	0																																				
防災活動従事者	0	0	0	0																																				
第 三 者	0	0	0	0																																				
								施設等の被害状況： ピット内配管の腐食疲労等劣化により腐食孔が発生。																																
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																								
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ・第4類 第一石油類 トルエン 約100L流出 ・第4類 アルコール類 メチルアルコール 約100L流出																														
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																															
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																															
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人																															
								損害額 1万円未満、 1万円以上 (2 万円)																																
30 実施した防災活動の状況																																								
公設消防機関：番号 (99) 調査活動								自衛防災・消防組織等 番号 (4、5、99) 地下タンク貯蔵所の送油ポンプの停止及び送油バルブを閉止し、流出箇所の調査を実施した後、流出箇所をゴムシートで巻き付け、ピット内に流出した危険物を回収した。																																
31 防災活動上の問題点 発見から通報まで時間を要している。																																								
行政措置	32 施設名	ビニル製造所						33 定期点検等	消 防 法		そ の 他																													
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	平成 30 年 5 月 17 日		年 月 日																													
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日		年 月 日																													
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日		年 月 日																													
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 法14条の3の2 点検記録の作成及び保存の義務違反																															
	そ の 他	指示 令和 5 年 7 月 25 日 ①. 文書 2. 口頭			年 月 日 1. 文書 2. 口頭																																			
35 今後の対策 や所見		・ステンレス配管への取替え ・日常管理・点検の強化 ・定期点検の実施、記録の保管の徹底 ・当該事業所に対し、再発防止に努めるとともに、従業員への周知を行い設備管理の徹底と従業員への教育を指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。																																						

1 事故名		脱硫蒸留装置 流量計取り出しノズルの溶接箇所から溶接重質軽油が漏えいした事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		10月 24日 12時 15分				[推定]・確定		4 発 見		10月 24日 12時 15分			
5 覚 知		10月 24日 12時 40分				6 鎮 圧 応急処置完了				10月 24日 14時 00分			
7 鎮火・処理完了		10月 24日 14時 00分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 西南西 風速： 2.8m/s 気温： 34℃ 湿度： 68%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分： ①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 堺泉北臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 19,239,000L 96,195倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン基材 3,974,000L 19,870倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,843L 2.84倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 2,842,000L 2842倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 11,544,000L 5,772倍 第4類第4石油類 潤滑油 20,210L 3.37倍 倍数の合計： 124,685.21倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称： 重油直接脱硫装置 番 号 (2106)		名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)											
能 力： 40,462kL/日		材 質： 鋼鉄											
13 機 器 等		温 度 圧 力： 290℃、1.3Mpa											
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		17 物 質 の 区 分											
規 模： 1/2インチ		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 脱硫重質軽油(0.5L)											
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要											
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)		①. 選任有 2. 選任無											
材 質： 鋼鉄		3. 不要											
15 発 生 時		21 危険物取扱者の取扱・立会い											
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		①. 有											
作 業 状 況： 番 号 ()		2. 無											
19 危険物保安統括管理者		22 設備・機器等の概要：											
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		オンラインファイル無											
20 危険物保安監督者		23 事故の概要：											
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		作業員が加熱炉入り口の流量計オリフィスフランジの取り出しノズル溶接線の近傍から重質軽油のにじみ漏れを発見した。直ちに消防機関に通報し、当該装置の緊急停止作業実施後、漏えい範囲をブロックし、停止したもの。											
24 緊急処置の状況		24 緊急処置の状況											
[有] 番号 (1) 無		装置の緊急停止											

25	主 原 因 施工不良				着火原因				番号 ()				
原因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 今回事故が発生したオリフィスフランジのノズルは2023年定期整備で取り換えを実施したもので事故発生日の3週間前に取り替えたものである。当該事故箇所である取り出しノズルとフランジの溶接部分は事故後の硬度測定で、事業所が管理する硬度を超えていることが分かった。またこの溶接箇所には焼鈍作業がされておらず、溶接箇所が急速に冷却されたことにより、規定以上の硬度となったことで割れが発生し、漏えいしたものと推測する。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	施工不良			施工			溶接不良						
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27	人 的 被 害							28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管直下に重質軽油(第3石油類)が飛散したもの。					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0								
	第 三 者	0	0	0	0								
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	5 台 0 隻 0 機 17 人	自 衛	4 台 0 隻 0 機 10 人	物質の被害状況： 重質軽油(第3石油類)が約0.5L									
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同										0 台 0 隻 0 機 0 人
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援										0 台 0 隻 0 機 0 人
	その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他										0 台 0 隻 0 機 0 人
30	実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) 情報収集活動及び警戒活動							自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業						
31	防災活動上の問題点												
32 行政措置	施設名							33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日			定期・自主点検			令和 5 年 10 月 14 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日			気密試験等			年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日			保安検査			年 月 日	年 月 日			
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：				
	そ の 他	年 月 日	年 月 日										
35	今後の対策 や所見	・溶接作業について「焼鈍作業」についての記載がなかった。すべての溶接作業に焼鈍が必要なわけではないが、今回の事例から「焼鈍」が必要な溶接箇所について確認し、工事仕様書にも明記するように指導した。 ・今回の定期整備で同様の工事をした箇所の硬度測定を実施し、必要箇所については再度溶接補修等を行う。											

令和5年

1 事故名		エチレンプラント内ガソリン分留塔の還流配管から分解ガソリン漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		10月 28日 13時 50分				[推定]・確定		4 発 見		10月 28日 13時 50分			
5 覚 知		10月 28日 16時 01分				6 鎮 圧 応急処置完了		10月 28日 18時 36分					
7 鎮火・処理完了		10月 28日 19時 28分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 北 風速： 5.4m/s 気温： 19.8℃ 湿度： 45.7%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業(一貫して生産され る誘導品を含む)		区 分： ①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 堺・泉北臨海地区特別防災区域											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： 1 危険物 2 高压ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 7,452,000L 37,260倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ジメチルジスルフィド 377L 1.89倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 汚れ防止剤 2,200L 2.2倍 第4類第4石油類 潤滑油 1561L 0.26倍											
		倍数の合計： 37,264.35倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称： 分解装置 番 号 (2104)		名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)											
能 力： 7,452kL/日		材 質： 鋼鉄											
13 機 器 等		15 発 生 時											
温 度 圧 力： 200℃		運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)											
名 称： 蒸留、精留塔(スタビライザー、ストリップバー) 番 号 (101)		作 業 状 況： 番 号 ()											
規 模： 胴長19.5m、内径6.2m、原料供給量300t/h		18 取扱者の概要											
14 発 生 箇 所		設置の完成： 昭和 45年 2月 5日 直近の完成： 令和 4年 7月 19日											
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： ガソリン分留塔の還流ラインから分解ガソリンが滴下漏れしていることを発見した。 その後15時30分に漏えい拡大し、装置の緊急停止を開始したもの。 なお事故箇所のプロセスについて、加熱炉から生成された分解ガスがガソリン分留塔に入り、分留されたガスは冷却塔に送られる。 冷却塔の底部には分解ガソリンと水の混合物が堆積し、堆積した液体は油水分離槽に送られる。 さらに油水分離槽から分解ガソリンと水に分けられ、分解ガソリンは還流ラインによりガソリン分留塔に還流される。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化					着火原因					番号 ()																															
	関 連 原 因	維持管理不十分																																									
	発生原因の状況：	原因としては大きく3つ挙げられる。 1. 流体に含まれる水分と重合禁止材が反応したことにより、配管が腐食し、穿孔に至ったもの。流体と重合禁止材と配管材料のSS400については、重合禁止材導入前に腐食反応を起こさないことを確認していたが、水と重合禁止材とSS400については着目しておらず、事故後に検証実験を行ったところ腐食反応が確認された。 2. 流体に対して、水分の比重が重いことから配管底部に滞留しやすく、さらに重合禁止材投入ノズルが配管底部にあることで、流体の流れにより拡散される前に底部の水分と反応し腐食が進行した。 3. 事故箇所の直上には定修時の系内を洗浄する洗浄水の配管が設置されている。そして洗浄後の配管内の残留水分については、流体に多少の水分が含まれている（油水分離槽で流体の水分を完全に除去できず、水分が含まれていても運転に支障がなかった）ことから、バージ等の除去は行っていなかったため、残留水分が腐食進行に拍車をかけていたことが明らかとなった。																																									
	主原因の詳細																																										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																	
	腐食	環境				工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）																																					
	関連原因の詳細																																										
	管理	リスクアセスメント				危険意識				危険性評価がない/不適切																																	
	因																																										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																											
27 人的被害										28 物的被害																																	
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 設備内に漏えい物飛散					
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																					
当 事 者	0	0	0	0																																							
防災活動従事者	0	0	0	0																																							
第 三 者	0	0	0	0																																							
										施設等の被害状況： 配管破孔																																	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																											
消 防 機 関		9 台 0 隻 0 機 26 人				自 衛		4 台 0 隻 0 機 13 人				物質の被害状況： 分解ガソリン70L																															
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人				共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人																																			
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人				応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人																																			
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人				その他		0 台 0 隻 0 機 0 人				損害額 1万円未満、 1万円以上 (114 万円)																															
30 実施した防災活動の状況																																											
公設消防機関：番号 (99) 情報収集活動及び警戒筒先配備										自衛防災・消防組織等 番号 (99) 回収・除去及び警戒筒先配備																																	
31 防災活動上の問題点																																											
当事業所の心臓部ともいえる装置で事故が発生したこと、またこの装置では過去35年間事故による緊急停止を行っていなかったこと、さらに装置停止による社会的影響も大きいことから、通報よりも被害を最小限に抑えて、装置停止を伴わない漏えい停止することを優先し活動が進んだ。 当事業所において重大な事故であったためライン責任者をはじめ担当者全員が通報に意識が回らなかったことで、漏えいが拡大するまで通報されなかった。令和5年8月12日に同事業所において、漏えい事故についての認識不足が原因で通報が5日遅れる事故が発生している。その際の対策教育として、事故時の通報を徹底していたが、教育が生かされることなく再度通報が遅れた。 また「消防機関への通報」において記載のライン責任者については、当該所内教育の内容については、毒性ガスに限定した通報要件とご認識しており、教育方法の見直しを指導した。																																											
行政措置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法				そ の 他																															
	使用停止	年 月 日				年 月 日		定期・自主点検		令和4年 7 月 1 日				年 月 日																													
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等		年 月 日				年 月 日																													
	停止解除	年 月 日				年 月 日		保安検査		年 月 日				年 月 日																													
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：																																	
置	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																					
	1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭																																						
35 今後の対策 や所見		1. 流体及び重合禁止材に対して耐腐食性のある材料を検討し、変更する。 2. 重合禁止材投入ノズルの位置変更。底部から投入していたことで腐食進行していたため、上部から投入を検討中。 3. 洗浄後の水分を完全除去。 4. 重合禁止材投入部より下流の腐食懸念箇所に対して、定期的減肉傾向監視及び肉厚測定。																																									

1 事故名		重質油熱分解装置ナフサクーラーのドレン弁からナフサが流出した事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		12月 18日 6時 30分				[推定]・確定		4 発 見		12月 18日 9時 20分	
5 覚 知		12月 18日 10時 12分				6 鎮 圧 応急処置完了				12月 18日 9時 20分	
7 鎮火・処理完了		12月 18日 9時 20分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 南東 風速： 1m/s 気温： 7.5℃ 湿度： 52%									
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所									
種 別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 堺・泉北臨海地区特別防災区域									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 分解ナフ 960,000L 4,800倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油留分 7,200L 7.2倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 軽質分解軽油 1,596,000L 798倍 第4類第4石油類 潤滑油 10,560L 1.76倍 倍数の合計： 5,606.96倍									
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所									
名 称： 分解装置 番 号 (2104)		名 称： ドレンノズル 番 号 (208)									
能 力： 31,000バール/1日		材 質： 鋼鉄									
13 機 器 等		温 度 圧 力： 0.05Mpa									
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		17 物 質 の 区 分									
規 模： 20A配管		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ナフサ(60L)									
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要									
名 称： ドレンノズル 番 号 (208)		経験年数7年									
材 質： 鋼鉄		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
15 発 生 時		20 危 険 物 保 安 監 督 者									
運 転 状 況： スタートアップ中 番 号 (2)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
作 業 状 況： 洗浄中 番 号 (11)		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い									
		①. 有 2. 無									
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 12月17日(日)、配管清掃のための環境設定後に装置内の滞油を排出する目的で装置低部ドレン弁Aを開放していた。しかし、低所ドレン弁A上流の弁にシート漏れが発生したため、ドレン弁Aを閉止した。12月18日(月)9時20分ごろ、シート漏れにより下流に流れ出したナフサがナフサクーラー安全弁上流側のドレン弁Bより噴出していることを確認したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]											

25	主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()		
原 因	関 連 原 因 故障								
	発生原因の状況：								
	低所ドレン弁Aを閉止した作業員は、作業前に作業計画書を確認してから作業を実施したが、本来確認しなければならない押印版(紙)のものでなく、改訂前の電子版のものを確認した。改訂前のものはシート漏れを起こしていた弁と低所ドレン弁A間のポンプ吐出弁が閉止されていたが、改訂後の計画ではポンプ吐出弁を開放するように変更していた。作業員はポンプ吐出弁が閉止しているため低所ドレン弁の開放に問題ないと思い込んでいたが、実際はポンプ吐出弁が開放していたことで下流配管内に液が充満し、脱圧のために開放していた高所ドレン弁Bからナフサが噴出したもの。								
	主要原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足		
	関連原因の詳細								
	故障		機能		機器の機能の停止				
因									
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27	人 的 被 害						28 物的被害		
当 事 者	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ドレン弁周辺にナフサが飛散したもの	
	区分								
	当 事 者	0	0	0	0				
	防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし		
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
28	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ナフサ約60L流出								
30	実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 () 出場無し						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 吸着マットにて回収作業を実施(作業員)			
31	防災活動上の問題点 事故発生時、漏えいがすぐに停止し、目算での漏えい量も数Lであったため消防署へは一般電話での事案報告を行っていた。その後、事故調査をすると事案発見の3時間ほど前から漏えいしており、発見時には漏えいしたナフサが大部分揮発していたことがわかった。今後は揮発の可能性も考慮し119番通報するように指導した。屋外の装置であるが揮発したナフサが滞留するおそれがあるため、回収の際も留意する必要があった。								
32	施設名	CKU装置				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
行 政 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 5 年 11 月 14 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：		
そ の 他	事故発生に伴う指導書								
	令和 5 年 12 月 15 日		年 月 日						
35	今後の対策 や所見		・作業計画書の手順を見直した際の周知方法等を検討すること。 ・消防機関への通報について、流出した油が揮発した可能性等も検討し行うこと。						

1 事故名		危険物製造所において製品の抜き取り作業中、ドレンコックから製品(第4類第1石油類)が流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		3月 3日 10時 47分				推定・確定		4 発生見		3月 3日 10時 47分			
5 覚知		3月 3日 11時 15分				6 鎮圧 応急処置完了				3月 3日 11時 40分			
7 鎮火・処理完了		3月 3日 11時 40分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：南 風速：3.3m/s 気温：8℃ 湿度：50%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 油脂加工製 番号 (1754) 品・石けん・合成洗剤・界面活性 剤・塗料製造業 塗料製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類引火性固体 ターレン7200-20、デ`イスバ`ロン6900-10S、硫黄 5,635kg 5.64倍 リボ`キシバ`テGN 第4類第1石油類(非水溶性液体) トリエチルアミン、メチルメタクリレート、トルエン他 2,200L 11倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 13,200L 33倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレンモノマー、ジ`シクロヘ`ンタジ`エン、ソルベ`ッソ150f 190,730L 190.73倍 第4類第2石油類(水溶性液体) アクリル酸 800L 0.4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) トリメチルブ`ロバ`ントリアクリレート、アロニクスM309、 9,300L 4.65倍 ノフマーMSD他 第4類第3石油類(水溶性液体) ジ`エチレング`リコール、ブ`ロビ`レング`リコール、エチレング`リコール 42,000L 10.5倍 第4類第4石油類 アラルグ`イトCY-179、エビ`クロン830、ハ`ーレルサーム200 29,600L 4.93倍 第4類アルコール類 エチルアルコール、メチルアルコール 400L 1倍 第5類7`化合物(第2種自己反応性物質) 2.27ソ`ビ`スイゾブ`チル 630kg 6.3倍 倍数の合計： 268.15倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和46年 8月 20日 直近の完成： 年 月 日											
名称：		番号 ()											
能力：													
13 機器等		温度圧力：											
名称：充てん機		番号 (901)											
規模：ストレーナー 180パイ×430mm 受皿 1,200mm×720mm×150mm													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：ドレンバルブ		番号 (210)											
材質：ステンレス		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：アレンロックSQ (300L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：定常運転中		経験年数1年											
作業状況：充填中		番号 (12)											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 危険物製造所において、作業員が製品の抜き取りを行う装置のドレンコックから危険物の抜き取り作業を実施中、漏えいした危険物の充填設備のバルブに何らかの拍子で接触し、バルブを開放してしまったため危険物が漏えいしたもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因	誤操作				着火原因				番号 ()																																				
	関 連 原 因																																													
	発生原因の状況： 作業者の通行帯の脇に充填設備のバルブが設置されており、充填用容器を持って通行する際、当該バルブのハンドルに接触し、バルブが半開状態となり危険物が漏えいした。																																													
	主原因の詳細																																													
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																				
	人			本人の意識			思慮			不注意																																				
	関連原因の詳細																																													
因																																														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																														
27 人的被害								28 物的被害																																						
<table border="1"> <tr> <td>被害内容等</td> <td>死亡</td> <td>重症</td> <td>中等症</td> <td>軽症</td> <td>死傷原因</td> <td>職業又は職名</td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 危険物製造所の充填設備のドレンコックから危険物第4類第1石油類(非水溶性)約300Lが充填設備周辺の床面へ流出。建屋外への流出はなく、即日ふき取りにより回収され、設備等への被害なし。			
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																								
区分																																														
当 事 者	0	0	0	0																																										
防災活動従事者	0	0	0	0																																										
第 三 者	0	0	0	0																																										
								施設等の被害状況： 危険物製造所の充填設備のドレンコックから危険物第4類第1石油類(非水溶性)約300Lが充填設備周辺の床面へ流出。建屋外への流出はなく、即日ふき取りにより回収され、設備等への被害なし。																																						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																														
消 防 機 関		3 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性) アレンロックSQ(モルタル補修用樹脂)約300L流出																																			
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																				
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																				
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																				
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)																																														
30 実施した防災活動の状況																																														
公設消防機関：番号 (99) 現場到着時、施設従業員により漏えいした危険物のふき取り作業が行われていた。 出動隊は現場到着後、情報収集及び警戒筒先を配備するなどの安全管理を行った。								自衛防災・消防組織等 番号 ()																																						
31 防災活動上の問題点 漏えいした直後、施設の南北出入り口等開口部をすべて開放し、換気対策を実施。 消火器を漏えい発生場所付近に準備、その後ウエスにてふき取り作業を実施。 漏えい危険物の回収と可燃性ガスの除去は、当日中に完了。																																														
行政措置	32 施設名	危険物製造所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他																																				
	使用停止	令和 5 年 3 月 3 日 年 月 日				定期・自主点検		年 月 日		年 月 日																																				
	改善命令等	年 月 日 年 月 日				気密試験等		年 月 日		年 月 日																																				
	停止解除	令和 5 年 3 月 6 日 年 月 日				保安検査		年 月 日		年 月 日																																				
	関係条項	消防法第12条の3第1項				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無 内容：																																						
	そ の 他	年 月 日 年 月 日																																												
		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭																																												
35 今後の対策や所見		作業時以外は、バルブハンドルを外し、キャップを取り付ける安全対策を実施するとともに、全作業員に対する安全教育の再徹底及び訓練の定期的な実施を行う。																																												

1 事故名		製造所において、20号タンクのボトム液をコンテナへ抜き出し作業中にオーバーフローし、HEMAが流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		5月 29日 10時 05分				[推定]・確定		4 発 見		5月 29日 10時 11分			
5 覚 知		5月 29日 10時 33分				6 鎮 圧 応急処置完了				5月 29日 10時 30分			
7 鎮火・処理完了		5月 29日 11時 28分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：雨 風向：南南西 風速：1.3m/s 気温：23℃ 湿度：82%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業(脂肪族系溶剤を含む)		区 分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：姫路臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(水溶性液体) アクリル酸 24,550L 12.28倍 第5類有機過酸化物質(第2種自己反応性物質) ソリオスター-RA-E48X 5,942kg 5.94倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 158,980L 794.9倍 第5類ニトロ化合物(第2種自己反応性物質) アンモニウムN-ニトロソフェニル 15kg 0.15倍 第5類アゾ化合物(第2種自己反応性物質) 2,2'-アゾビス(2,4-ジメチルベンゾニトリル) 40.2kg 0.4倍 第5類有機過酸化物質(第2種自己反応性物質) ラウロイルパーオキサイド 11.7kg 0.12倍 第4類第1石油類(水溶性液体) 回収メタノール、アセトン 28,740L 71.85倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) アクリル酸イソノニル 607,110L 303.56倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) アルコキシシラン 53,670L 26.84倍 第4類アノール類 メタノール 79,500L 198.75倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 正珪酸メチル 28,610L 28.61倍 第4類第3石油類(水溶性液体) エチレングリコール 36,090L 9.02倍 第4類第3石油類(水溶性液体) エチレングリコールモノヒドニルエーテル 64,840L 16.21倍 倍数の合計： 1,468.63倍											
12 施 設 装 置		設 置 の 完 成：昭和 58年 2月 24日 直 近 の 完 成：令和 5年 3月 22日											
名 称：その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959)		17 物 質 の 区 分											
能 力：SPR製造施設、HEMA生産量:40t/日		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(水溶性液体) 名称：メタクリル酸2-ヒドロキシエチル(110L)											
13 機 器 等		18 取扱者の概要											
温 度 圧 力：常温、常圧		経験年数0年											
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
規 模：直径:1,800mm、全長:2,785mm、容量:6m ³		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
14 発 生 箇 所		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
名 称：容器本体 番 号 (108)													
材 質：合成樹脂													
15 発 生 時													
運 転 状 況：払出中 番 号 (10)													
作 業 状 況：小分け・詰替中 番 号 (13)													
22 設備・機器等の概要：		23 事故の概要：											
オンラインファイル無		危険物製造所建屋内1階にある危険物第4類第3石油類水溶性の高純度HEMA廃液タンクのボトム液を全容積1,250Lの回収コンテナに抜き取る作業を行った際、作業員が休憩のために抜出し用の圧送ポンプを停止させ、抜出しライン上のバルブを閉止せずに現場から離れた。その後、サイフォン現象により当該ボトム液が回収コンテナに流れ続け、上部にある注入管が投入された注入口からオーバーフローし、当該施設内の排水小溝を伝って溜枳に110L流出した。溜枳には濁度計が設置されており、危険物が流出した信号が中央管制室に送られ、その信号を受信後、作業員が現地確認を行い、流出箇所を発見し、抜出しライン上のバルブを閉止した。その後、ホットライン通報が行われたもの。 なお、消防隊到着時、流出した危険物は応急措置により水で希釈されたものが溜枳内に留まっており施設外への流出は無く、二次災害の危険は認められなかった。さらに、当該事故に伴う負傷者等はなし。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他													

原因	25 主 原 因		操作未実施		着火原因		番号 ()																													
	関 連 原 因																																			
	発生原因の状況： 作業員は当該作業において、圧送ポンプを停止すれば液の流れは止まると思い込んでおり、廃油タンクからコンテナ上部の注入口に至る拔出ライン上のいずれのバルブも開放状態のまま現場を離れたが、そのまま液が流れ続けたためにコンテナ上部の注入口からオーバーフローし、流出したものの。																																			
	主原因の詳細																																			
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層																													
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足																													
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足																													
	人		本人の意識		思慮		思い込み																													
	関連原因の詳細																																			
	<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																																			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																				
27 人 的 被 害						28 物的被害																														
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した危険物は応急措置により水で希釈されたものが溜 槽内に留まっており施設外への流出はなし。		
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																														
当 事 者	0	0	0	0																																
防災活動従事者	0	0	0	0																																
第 三 者	0	0	0	0																																
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況：																														
消 防 機 関 12 台 0 隻 0 機 41 人 自 衛 1 台 0 隻 0 機 165 人						第4類第3石油類水溶性高純度HEMAが溜槽内に110L 流出。																														
消 防 団 2 台 0 隻 0 機 11 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																				
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																				
その他の機関 7 台 0 隻 0 機 12 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人						損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)																														
30 実施した防災活動の状況																																				
公設消防機関：番号 (99) 現地指揮本部にて発災建屋の環境測定、流出状況及び回収作業の 確認を実施した。						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 拔出ラインのバルブを全て閉鎖するとともに施設外へ繋がる排 水経路を遮断し、流出した危険物を水で希釈して回収を実施。																														
31 防災活動上の問題点 自衛防災活動について、公設消防先遣隊進入時に事業所側大型化学高所放水車の設定位置がアクセスポイントで情報共有されてい なかったため、結果的に当該設定位置を避けるために不安全な進入ルートを通過することとなったことについては検証の必要がある。																																				
行政 措 置	32 施 設 名	危険物製造所SPR				33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他																												
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日																												
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日																												
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日																												
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯 蔵・取扱いの基準違反																													
35 今後の対策 や所見	液抜き作業の中断、または液抜き作業場所を離れる際は、元バルブを閉止することとし、課内要領化と、教育を実施す る。単位作業毎にリーダーを指名し、作業の安全を確認させる。係、グループ単位の作業前ミーティングに2人以上で作 業を行う場合はリーダーを明確にする。取り扱っている機器の構造を教育し特性を理解させる。安全懇談会に作業に直結 するポンプ、バルブ、その他計器の構造と役割等を計画的に教育する。所員全員に対して、法令遵守の重要性、危険物取 扱者としての責務、漏えいさせたとときの危険性について教育する。 消防からの再発防止のための教育が従業員にしっかりと伝わっているか管理職が定常・非定常作業に関わらず立ち会っ て確認するよう指導した。																																			

令和5年

1 事故名	製造施設で配管洗浄後、液抜きバルブを閉鎖せず送液しアクリル酸90Lが施設内に漏えいした流出事故									
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生	6月	13日	10時	45分	推定・確定	4 発 見	6月	13日	10時	49分
5 覚 知	6月	13日	11時	03分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月	13日	11時	37分
7 鎮火・処理完了	6月	13日	12時	26分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況	天気： 風向： 南南西 風速： 3m/s 気温： 25℃ 湿度： 72%									
10 発 生 事 業 所	種 別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業(脂肪族系溶剤を含む)					11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 姫路臨海地区 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(水溶性液体) アクリル酸 24,550L 12.28倍 第2類引火性固体 ソリオスター-RA-E48X 5,942kg 5.94倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 158,980L 794.9倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 28,740L 71.85倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 正珪酸メチル 28,610L 28.61倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) アクリルシンイソニル 607,110L 303.56倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) アクリルシン1-メチルヘブチル 53,670L 26.84倍 第4類第3石油類(水溶性液体) メタクリル酸 36,090L 9.02倍 第4類第3石油類(水溶性液体) エチレングリコールモノヒドキシエーテル 64,840L 16.21倍 第4類アルコール類 メタノール 79,500L 198.75倍 第5類アゾ化合物(第2種自己反応性物質) 2,2'-アゾビス(2,4-ジメチルベンゾニトリル) 40.2kg 0.4倍 第5類有機過酸化化合物(第2種自己反応性物質) ラウロイルパーオキシサイト 11.7kg 0.12倍 第5類ニトロ化合物(第2種自己反応性物質) アンモニウムニトロソフェニルヒドログенилアミン 15kg 0.15倍 倍数の合計： 1,468.63倍 設置の完成： 昭和 58年 2月 24日 直近の完成： 令和 5年 3月 22日			
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分				
名 称： その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959)						①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力： SPR製造施設SR設備 15,000kg/日						5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
13 機 器 等						(固相、液相、気相) (常圧、加圧)				
名 称： ポンプ 番 号 (501)	(低温、常温 [0-40℃]、高温)									
規 模： ポンプ圧力 0.4Mpa	分 類： 第4類第2石油類(水溶性液体) 名称： アクリル酸 (90L)									
14 発 生 箇 所	18 取扱者の概要									
名 称： ドレンバルブ 番 号 (210)	経験年数15年									
材 質： ステンレス	19 危険物保安統括管理者									
15 発 生 時	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	20 危険物保安監督者									
作 業 状 況： 原料仕込み中 番 号 (15)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
	21 危険物取扱者の取扱・立会い									
	①. 有 2. 無									
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無										
23 事 故 の 概 要： 製造施設3階の反応釜に送液する原料仕込み配管において、製品切替に伴う配管洗浄を実施し、洗浄液を抜き出すために当該配管のドレンバルブを開放した。その後、アクリル酸を液張りするために作業者2名が屋外及び2階のアクリル酸吐出バルブを開放して3階反応釜付近へ戻ったところ、ドレンバルブからアクリル酸90Lが施設3階床面に漏えいしているのを確認した。同作業者は施設外への漏えい防止措置として当該施設の溜槽のゲートバルブを閉止し、防災センター経由にて通報に至る。 なお、アクリル酸の流出は当該施設3階及び2階の施設内に止まり、当事故による負傷者は発生していない。										
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止										

原因	25 主 原 因		操作未実施		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因		操作確認不十分						
	発生原因の状況：		配管の洗浄作業後、作業員2名が洗浄液の液切りを行うため、施設3階にある2箇所のドレンバルブを開放して液切りを行った。その後、当該バルブのうち1箇所を閉止したが、もう一方のバルブを閉止し忘れたまま洗浄作業の片付けに移り、片付け完了後にバルブが開いているのに気づかないままアクリル酸の液張りを実施したため、漏えいに至った。						
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人	本人の意識	思慮		思い込み				
	関連原因の詳細								
	人	本人の意識	思慮		配慮不足				
因									
	26 被害の状況		1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
	27 人的被害				28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：	
	当 事 者	0	0	0	0			配管の液抜きバルブからアクリル酸90Lが漏えいし、施設3階及び2階の床面に流出した。流出範囲は施設建屋内に収まっている。	
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：	
	第 三 者	0	0	0	0			被害なし。	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	11 台 0 隻 0 機 41 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 166 人	物質の被害状況：					
消 防 団	2 台 0 隻 0 機 11 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	第4類 第2石油類(水溶性) アクリル酸 90L流出					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人						
その他の機関	4 台 0 隻 0 機 12 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)					
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)		自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)							
現地指揮本部にて情報収集実施後、消防隊により発災現場の安全確認を実施した。		漏えいを発見した作業者が直ちに漏えい箇所のバルブを閉止し、管制室に連絡、その後発災施設職員にて漏えいの拭き取りによる回収作業を行うとともに、防災センターからホットライン通報、施設外流出防止のため発災施設建屋の溜枒ゲートバルブを閉止した。自衛防災隊は施設付近に待機。拭き取り作業完了後、公設消防隊とともに現場の安全確認を実施した。							
31 防災活動上の問題点		問題なし							
行政措置	32 施設名	危険物製造所 【SPR】		33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無			
	そ の 他	警告		令和 5 年 6 月 14 日		年 月 日			
35 今後の対策や所見		(1) 液抜き、液切り作業中断または作業場所を一時的に離れる際は容器の蓋と末端バルブを閉止し、開放状態にしない旨を課内要領化し教育を実施。 (2) 洗浄作業のチェックリストを制定し運用する。 (3) 液切りが必要なノズルについてはその理由と時間をチェックリストに明記する。 (4) 課内の危険物取扱いに対する危機意識のレベルに差ができないように、係間を越えた意見交換を継続する。その上で、ひとり一人に行動宣言と振り返りの機会を設定する。 (5) 課内の作業標準を確認し、現状の作業に準じた内容になっているかを確認し、必要に応じて見直す。 (6) チェックリストが必要な作業の見直しを進め、バルブの閉め忘れのない仕組みを構築する。							

1 事故名		20号タンクからの移送配管フランジ部において、アクリル酸約100Lが漏えいした流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		6月 20日 6時 30分				[推定]・確定		4 発 見		6月 20日 7時 10分			
5 覚 知		6月 20日 7時 23分				6 鎮 圧 応急処置完了				6月 20日 8時 32分			
7 鎮火・処理完了		6月 20日 8時 54分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：快晴 風向：北北東 風速：3.2m/s 気温：20℃ 湿度：65%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業(脂肪族系溶剤を含む)		区 分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：姫路臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) アクリル酸ブチル 724,400L 724.4倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) ブチルアルコール 86,000L 86倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 廃油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(水溶性液体) アクリル酸 4,522,100L 2,261.05倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 2-エチルヘキサノール 100,000L 50倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) アクリル酸2-エチルヘキシル 172,700L 86.35倍 第4類第3石油類(水溶性液体) 2-ヒトクロキシエチルア 100,000L 25倍 第4類第3石油類(水溶性液体) クリレート 2-ヒトクロキシエチルメ 200,000L 50倍 第4類第3石油類(水溶性液体) タクリレート 水加ヒトラジン 1,800L 0.45倍 倍数の合計： 3,293.25倍											
12 施 設 装 置		名 称：アクリル酸エステル製造装置 番 号 (5210) 能 力：3・4AB施設 V - 100Dタンク送液量 125kL/日											
13 機 器 等		温 度 圧 力：25℃、0.6Mpa 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：内管径:50mm 外管径:90mm											
14 発 生 箇 所		名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：ステンレス											
15 発 生 時		運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()											
17 物 質 の 区 分		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(水溶性液体) 名称：アクリル酸(100L)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 製造施設内の20号タンクからアクリル酸を送液する配管フランジ部分からアクリル酸約100Lが漏えいした流出事故。上記タンクに隣接する別のタンクの上部にて点検作業中の職員が、地上に液溜まりを発見し、当該箇所を確認したところ、地上を通る配管の保温材付近からアクリル酸が漏えいしていた。職員は直ちに管制室に連絡し、バルブの緊急閉止及び応援の要請を実施し、一斉放送の後、通報に至る。 その後、地面に溜まっていたアクリル酸をウエスにて回収し、液が浸潤した土砂を除去して措置を完了した。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 施工不良					着火原因					番号 ()																																						
原因	関 連 原 因 腐食疲労等劣化																																																
	発生原因の状況： 漏えい配管のフランジ部分に微小な傷があり、施工当初は異常がなく、事故発生に至るまで定常運転が可能であったものの、ガスケットの締付面圧が経年劣化したことで、当該傷により生じた隙間から確認が不可能な程度の少量の漏れが発生し、漏えい危険物が配管のフランジ及びボルトを徐々に腐食減肉させ、当該漏えいに至る。 また、フランジ部分に保温材が巻かれていたため、腐食減肉部分が発見できなかったことも一因である。																																																
	主原因の詳細																																																
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																							
	施工不良			施工時の損傷			施工時に周囲の設備等を損傷したのに気付かず使用																																										
	関連原因の詳細																																																
	腐食			環境			その他																																										
	疲労・劣化			素材等の劣化			長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）																																										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																	
27 人的被害										28 物的被害																																							
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>区分</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えい配管付近に少量の液溜まりが発生したものの、施設内に止まる。				
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																											
区分																																																	
当 事 者	0	0	0	0																																													
防災活動従事者	0	0	0	0																																													
第 三 者	0	0	0	0																																													
										施設等の被害状況： 漏えい危険物が配管のフランジ及びボルトを徐々に腐食減肉させた。																																							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																	
消 防 機 関		11 台	0 隻	0 機	40 人	自 衛		1 台	0 隻	0 機	158 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(水溶性)アクリル酸100L漏えい																																					
消 防 団		2 台	0 隻	0 機	8 人	共 同		0 台	0 隻	0 機	0 人																																						
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援		0 台	0 隻	0 機	0 人																																						
その他の機関		2 台	0 隻	0 機	7 人	そ の 他		0 台	0 隻	0 機	0 人																																						
										損害額 1万円未満、 1万円以上 (150 万円)																																							
30 実施した防災活動の状況																																																	
公設消防機関：番号 (99) 現地指揮本部にて情報収集実施後、消防隊により安全性の確認を実施した。										自衛防災・消防組織等 番号 (5) 公設消防隊への情報提供及びウエスにより漏えい危険物ふき取り、浸潤した土砂の撤去を実施した。																																							
31 防災活動上の問題点 問題なし																																																	
32 施設名						33 定期点検等					消 防 法					そ の 他																																	
	使用停止					年 月 日					年 月 日					定期・自主点検					年 月 日					年 月 日																							
	改善命令等					年 月 日					年 月 日					気密試験等					年 月 日					年 月 日																							
	停止解除					年 月 日					年 月 日					保安検査					年 月 日					年 月 日																							
	関係条項															34 当該施設に係る法令違反の有無					有・ 無 内容：																												
	そ の 他					年 月 日					年 月 日																																						
1. 文書 2. 口頭					1. 文書 2. 口頭																																												
35 今後の対策や所見																																																	
・施工段階における傷等の確認を徹底するなどの周知教育を実施。 ・配管の日常管理における施設周回パトロールを強化し、配管の異常を詳細に確認する。 ・全施設内の配管検査、更新の優先順位設定の見直し																																																	

1 事故名		1,3ブチレングリコールをポンプで送液した際に開状態のドレン抜きバルブから施設内に約80L流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		7月 13日 9時 00分				[推定]・確定		4 発生見		7月 13日 9時 02分	
5 覚知		7月 13日 9時 42分				6 鎮圧 応急処置完了		7月 13日 10時 59分			
7 鎮火・処理完了		7月 13日 10時 59分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：南西 風速：2.8m/s 気温：29℃ 湿度：65%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業(脂肪族系溶剤を含む)		区分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：姫路臨海地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 アセトアルデヒド 147,846L 2,956.92倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) クロトンアルデヒド 17,926L 89.63倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトアルドール粗液1 10,050L 25.13倍 第4類第2石油類(水溶性液体) アセトアルドール粗液2 106,000L 53倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油1 0.9L 0倍 第4類第3石油類(水溶性液体) 1,3ブチレングリコール 417,154L 104.29倍 第4類第4石油類 潤滑油2 892L 0.15倍 倍数の合計：3,229.12倍									
12 施設装置		設置の完成：令和元年 11月 25日 直近の完成：令和2年 9月 1日									
名称：その他のエチレン系製品製造装置 番号 (5199)		17 物質の区分									
能力：1.3ブチレングリコール 約32,000L/日		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(水溶性液体) 名称：1,3ブチレングリコール(80L)									
13 機器等		18 取扱者の概要									
温度圧力：0.3MPa		経験年数33年									
名称：ポンプ 番号 (501)		19 危険物保安統括管理者									
規模：送液ポンプ吐出圧力:0.3MPa		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
14 発生箇所		20 危険物保安監督者									
名称：ドレンバルブ 番号 (210)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
材質：ステンレス		21 危険物取扱者の取扱・立会い									
15 発生時		①. 有 2. 無									
運転状況：スタートアップ中 番号 (2)		22 設備・機器等の概要：									
作業状況：運転操作中 番号 (1)		オンラインファイル無									
23 事故の概要：		危険物配管の気密試験終了後、1,3ブチレングリコール製造のため通液を開始した際、操作室から流量計の指示値が上がらないと連絡を受け、現場へ確認に向かった作業員がドレン抜きバルブから1,3ブチレングリコールが約80L漏えいしていることを発見した。現場確認者がバルブ閉止及び送液ポンプ運転停止を実施するとともに上司に報告した。また1,3ブチレングリコールの流出は当該施設3階相当部分から2階、1階相当部分に飛散した。なお本件による負傷者は発生していない。									
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、10) 無		装置の緊急停止、その他									

25	主 原 因 操作未実施				着火原因				番号 ()			
原 因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 危険物配管の気密試験終了後、当該施設の立ち上げ作業を実施した。その際、手順書に従ってバルブ操作を行ったが、手順書に当該ドレン抜きバルブを閉にする記載がなく、開にしたまま通液を開始したため、当該ドレン抜きバルブから漏えいに至ったもの。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	制度			規則・手順			内容・周知			規則・手順がない/文書化されない		
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害							28 物的被害					
被害内容等 区分							被災影響範囲及び拡大の状況：					
死亡 重症 中等症 軽症 死傷原因 職業又は職名							製造所3階相当部分のドレンバルブから1,3ブチレングリコールが漏えいし、2階、1階相当部分へと配管がフロアを貫通している箇所やフロア端部の隙間から伝って拡散した。なお工場排水への影響はなかった。					
当 事 者 0 0 0 0							施設等の被害状況：					
防 災 活 動 従 事 者 0 0 0 0							被害なし。					
第 三 者 0 0 0 0												
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関 11 台 0 隻 0 機 42 人 自 衛 2 台 0 隻 0 機 110 人							物質の被害状況：					
消 防 団 2 台 0 隻 0 機 7 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人							第4類第3石油類(水溶性)1,3ブチレングリコール約80L漏えい。					
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人												
その他の機関 6 台 0 隻 0 機 9 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人							損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5 万円)					
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) 現地指揮本部にて情報収集実施後、ガス濃度を測定し、施設内の状況確認を実施した。							自衛防災・消防組織等 番号 (5) 当該施設の2,3階相当部分は布ウエスにて回収を行い、1階相当部分の囲い側溝内は水で希釈し、ドラム缶に回収した。					
31 防災活動上の問題点 漏えい発見から報告を受けた上司が現場確認に向かった後に通報したため、約40分要しており、通報遅延が認められる。												
32 行政措置	施設名	事業所	製造所	33 定期点検等	消 防 法	そ の 他						
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年 8 月 31 日	年 月 日						
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日						
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日						
	関係条項	石油コンビナート等災害防止法第23条	消防法第14条の2第4項	34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無							
	その他	令和5年 7 月 13 日 ①. 文書 2. 口頭	令和5年 7 月 13 日 ①. 文書 2. 口頭	内容：漏えい発見から消防機関の覚知までは約40分かかっており、異常現象の迅速な通報ができていなかった。(石油コンビナート等災害防止法第23条) 予防規程で遵守が義務付けられている危険物取扱工程における危険要因の把握及び危険要因に対する対策などの実施が不十分であった。(消防法第14条の2第4項)								
35 今後の対策や所見	(1) 運転開始の基本的な手順をブロック図で明示し、それぞれの作業が手順書に沿って実施するのか、チェックシートで実施するのかを明らかにする。 (2) 作成された新たな手順書について不安全な状態(ドレン弁が開のままになる等)となることはないか、作成者、運転員及び職制と班長・室長で確認を行う。 (3) 担当リーダーまたは室長は問題ないことの判断根拠を確認した上で承認する。適用を開始する前にすべての運転班毎に全員で読み合わせる。 (4) 班長又は室長は、異常現象が発生した場合、全ての情報を入手していない場合でも第一報としてホットライン通報することを安全懇談会の場などを通して、全員に周知徹底した。更に、安全衛生環境委員会にて全部門に徹底するように指導した。											

令和5年

1 事故名		定常運転中の停電によるアルカリ調整タンクのオーバーフローラインからの漏えいによるもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		11月 7日 0時 57分				推定・ 確定		4 発生見		11月 7日 0時 57分	
5 覚知		11月 7日 1時 25分				6 鎮圧 応急処置完了		11月 7日 3時 00分			
7 鎮火・処理完了		11月 7日 4時 30分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：西 風速：9m/s 気温：20.8℃ 湿度：75%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 製造業 プラスチック製品製造 番号 (1925) 業(別掲を除く) プラスチック フィルム・シート・床材・合成皮 革製造業 プラスチックフィル ム・シート・床材・合成皮革加工 業		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 35, 347L 176. 74倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) メチルエチルケトン 54, 996L 274. 98倍 第4類第1石油類(水溶性液体) テトラヒド・ロフラン 63, 289L 158. 22倍									
12 施設装置		14 発生箇所									
名称： その他のタンク 番号 (1299)		設置の完成： 昭和 50年 11月 18日 直近の完成： 令和 5年 6月 1日									
能力：		17 物質の区分									
13 機器等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0－40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： 廃ラッカー液(14. 5L)									
名称： 洗浄塔、槽(ウオッシング・タワー、スクラバー) 番号 (105)		18 取扱者の概要									
規模： 容量680L		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
14 発生箇所		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有									
名称： 逆止弁 番号 (206)		23 事故の概要： 定常運転中に停電が発生してアルカリ洗浄塔へのアルカリ仕込みポンプが停止し、ポンプの送液圧力がなくなったことでアルカリ洗浄塔の上層液が逆流したことから、アルカリ調整タンクのオーバーフローラインからの危険物(廃ラッカー液)が漏えいしたものの。									
材質： ステンレス		24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他									
15 発生時											
運転状況： 停止中 番号 (5)											
作業状況： 点検中 番号 (5)											

25	主 原 因 施工不良						着火原因						番号 ()					
	関 連 原 因																	
	発生原因の状況： アルカリ仕込みポンプからアルカリ洗浄塔への配管には、逆流防止のために、逆止弁が設置されているが、逆止弁の設置方向が反対であったため、逆流を防止することができなかったもの。																	
	主原因の詳細																	
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層					
	施工不良				施工				施工内容の間違い									
	関連原因の詳細																	
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																	
	27 人的被害																	
	28 物的被害																	
	被災影響範囲及び拡大の状況： 危険物施設防油堤内に流出																	
	施設等の被害状況： 特になし。																	
	29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																	
	物質の被害状況： 廃ラッカー液(トルエン、メチルエチルケトン、テトラヒドロフラン)約14.5L流出。																	
	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)																	
	30 実施した防災活動の状況																	
	公設消防機関：番号 (99) 現地調査。																	
自衛防災・消防組織等 番号 ()																		
31 防災活動上の問題点																		
32	施設名																	
	使用停止 年 月 日 年 月 日																	
	改善命令等 年 月 日 年 月 日																	
	停止解除 年 月 日 年 月 日																	
	関係条項																	
	33 定期点検等 消 防 法 そ の 他																	
	定期・自主点検 令和5年6月14日 年 月 日																	
	気密試験等 年 月 日 年 月 日																	
	保安検査 年 月 日 年 月 日																	
	34 当該施設に係る法令違反の有無 有・無 内容：																	
35	今後の対策や所見																	
	逆止弁の設置方向を正規の向きに設置する。アルカリ仕込みポンプが停止した場合でも、人が介入せずに逆流によるアルカリ調整タンクからのオーバーフローが発生しない設備に改造する。逆流が発生しうる箇所について、リスク想定を実施し、逆止弁の設置向きと併せて改善を進める。																	

令和5年

1 事故名		第5水添脱硫装置(HD-5)アキュームレーターD-300のレベル計LI-336からの漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		1月 24日 18時 08分				推定・ 確定		4 発 見		1月 24日 18時 08分			
5 覚 知		1月 24日 18時 11分				6 鎮 圧 応急処置完了		1月 24日 19時 22分					
7 鎮火・処理完了		1月 27日 15時 30分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 西北西 風速： 8.3m/s 気温： 0.8℃ 湿度： 85.5%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分： ①. 事業所内 (製 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 和歌山北部臨海南部											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 900L 0.45倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計： 0.45倍 設置の完成： 昭和 43年 12月 13日 直近の完成： 令和 4年 1月 7日											
名 称： 水添脱硫装置 番 号 (2108) 能 力： 最大数量5,784kL													
13 機 器 等													
温度圧力： 260℃、0.1Mpa		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(900L)											
名 称： その他 番 号 (999) 規 模： 最大数量 5,784kL													
14 発 生 箇 所													
名 称： 開閉弁 番 号 (204) 材 質： 鋳鉄		18 取扱者の概要											
15 発 生 時													
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 点検中 番 号 (5)													
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： ブロック弁の内弁漏れにより、プラグ部より油が漏えいした。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 閉止した弁の内弁に異物が噛みこみ、ドラムの内圧が掛かった状態でLI-336低圧側(上部)シールポット上部プラグを開けたため。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	故障	機能	周囲からの異物の作用による機器の動作不良					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 周囲に約900L漏えいする。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第3石油類非水溶性重油 900L	
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 10 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (6 万円)	
公設消防機関：番号 (99) 漏えいが停止するまで付近警戒を実施					自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 流出防止、回収作業			
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名	第5水添脱硫装置		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 5 年 1 月 24 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	令和 5 年 1 月 27 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	消防法第12条の3第1項		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35	今後の対策 や所見	スキルチェックの結果に応じた教育を実施						

令和5年

1 事故名		#106タンクヤード内MIX-VGO落油配管より油漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		3月 8日 15時 25分 推定・ 確定					4 発生見		3月 8日 15時 25分				
5 覚知		3月 8日 15時 38分					6 鎮圧 応急処置完了		3月 8日 16時 45分				
7 鎮火・処理完了		3月 10日 13時 30分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：5.6m/s 気温：17.6℃ 湿度：74.4%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、 貯 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 和歌山北部臨海南部											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,050L 1.53倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 34年 12月 31日 直近の完成：令和 4年 12月 9日											
名称：脱ろう装置 番 号 (2116)													
能力：最大数量1,141 kL													
13 機器等		温度圧力：90℃											
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		倍数の合計：1.53倍											
規模：最大数量1,141 kL													
14 発生箇所													
名称：配管の保温材、ヒーター 番 号 (214)		17 物質の区分											
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (3,050L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：定常運転中 番 号 (1)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
作業状況：運転操作中 番 号 (1)													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 第1プロパン脱蝕装置の附属配管からの重油の漏えいで、2005年に、内面腐食が進行していた部分にバンド当てによる応急補修をしていたが、フォローアップが出来ておらず、穿孔し、バンド部のゴム劣化により漏えいしたものの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因		維持管理不十分					
	発生原因の状況：		2005年に、内面腐食が進行していた部分にバンド当てによる応急補修をしていたが、フォローアップが出来ておらず、穿孔し、バンド部のゴム劣化により漏えいに至った。					
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細							
	設備	監理・保守	監理	施工監理が不適切				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害						28 物的被害		
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：
	当 事 者	0	0	0	0			#106タンクヤード防油堤内での漏えいであり、影響は小規模、漏えい物の回収・除去により元通り復旧となった。
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：
	第 三 者	0	0	0	0			内面腐食が進行していた部分にバンド当てによる応急補修をしていたが、フォローアップが出来ておらず、穿孔し、バンド部のゴム劣化により漏えいに至った。
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	3 台 0 隻 0 機 8 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
28 物的被害								
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (21 万円)								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (5)				自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
拡散防止及び、漏えい危険物の回収、除去を指示				拡散防止及び、漏えい危険物の回収、除去を実施				
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名	第1プロパン脱蛭装置		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 5 年 3 月 8 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	令和 5 年 3 月 14 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	消防法第12条の3第1項		34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無		
	その他	附属配管の一部を使用禁止				内容：		
		年 月 日	年 月 日					
		①. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策や所見		タンクや配管の維持管理の徹底するよう指導する。						

令和5年

1 事故名		第1潤滑油水素化精製装置 製品自動ストレーナーエアー切ラインからの油漏えい事故							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発生		5月 20日 2時 00分		[推定]・確定		4 発生見		5月 20日 6時 30分	
5 覚知		5月 20日 6時 37分		6 鎮圧 応急処置完了		5月 20日 9時 20分			
7 鎮火・処理完了		5月 20日 10時 15分							
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()							
9 気象状況		天気：曇 風向：北北西 風速：1.2m/s 気温：21℃ 湿度：73%							
10 発生事業所		11 発生場所							
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 和歌山北部臨海中部地区							
		16 発生施設規制区分等							
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 潤滑油 636L 0.64倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 636L 0.32倍 第4類第4石油類 潤滑油 636L 0.11倍							
12 施設装置		倍数の合計： 1.07倍 設置の完成：昭和 49年 9月 14日 直近の完成：令和 5年 4月 27日							
名称：水添脱硫装置 番 号 (2108) 能力：第4類第2石油類:636kL/D第4類第3石油類:636kL/D 第4類第4石油類:636kL/D									
13 機器等									
名称：フィルター 番 号 (908) 規模：直径:650mm高さ:1,600mm		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：潤滑油 (HP1DR) (600L)							
14 発生箇所									
名称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303) 材質：銅									
15 発生時		18 取扱者の概要 経験年数4年							
運転状況：定常運転中 番 号 (1) 作業状況：運転操作中 番 号 (1)									
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無							
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無									
23 事故の概要： 第1潤滑油水素化精製装置 製品自動ストレーナーのエアー切ラインバルブ閉止忘れにより、ピット及び側溝への油漏えい。									
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他									

原 因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 製品自動ストレーナーのエア一切ラインバルブ閉止忘れにより、ピット及び側溝への油漏えい。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人 的 被 害						28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えい油が側溝へ流出したが、事業所外には流出していない。			
当 事 者		0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関		2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	86 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)潤滑油 0.6kL流出
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (6 万円)
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 化学車、屋外給水栓に水利部署し警戒筒先配備を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 () 非常事態対策組織を設置し、防災体制を確立した。 また、現地では漏えい回収作業を行った。					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保 安 検 査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：				
	そ の 他	年 月 日									
35 今後の対策 や所見		・社員への教育(①当該作業に関する教育、②異常現象発生時の重大性) ・手順書の見直し ・当該箇所への表示									

1 事故名		流動接触分解装置の附属装置、ポンプ104Bバイパスラインからのナフサ漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 18日 12時 20分				[推定]・確定		4 発生見		8月 18日 12時 25分			
5 覚知		8月 18日 13時 31分				6 鎮圧 応急処置完了				8月 18日 12時 30分			
7 鎮火・処理完了		8月 22日 15時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：4.3m/s 気温：33.9℃ 湿度：61.2%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 和歌山北部臨海南部											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 ペンタシ 27,000L 540倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 75.7L 0.38倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 揮発油 4,134,000L 20,670倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 重質軽油 2,300,000L 2,300倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重合油 653,000L 326.5倍 第4類第4石油類 潤滑油 21,000L 3.5倍 倍数の合計： 23,840.38倍											
12 施設装置		名称：分解装置 番 号 (2104) 能力：最大数量7,135kL											
13 機器等		温度圧力：171℃											
名称：配管(送油、注入管等)		番 号 (606)											
規模：3/4インチ													
14 発生箇所		設置の完成：昭和 34年 12月 31日 直近の完成：令和 5年 6月 1日											
名称：その他の附属配管等		番 号 (299)											
材質：鋼鉄		17 物質の区分											
15 発生時		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフサ(20L)											
運転状況：その他		番 号 (99)											
作業状況：運転操作中		番 号 (1)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： ポンプの吐出配管上に設置されている逆止弁のバイパス配管より、ナフサが漏えいした。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

25	主 原 因		腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因		維持管理不十分											
	発生原因の状況：		塩化アンモニウムの析出と水の析出温度以下となったことで腐食が進行した。											
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層				第Ⅳ層					
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)									
	関連原因の詳細													
	設備		監理・保守		点検・整備				確認不足					
因														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害														
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	28 物的被害						
区分								被災影響範囲及び拡大の状況： 周囲に約20L漏えいする。						
当 事 者	0	0	0	0										
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管の穿孔。						
第 三 者	0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類非水溶性ナフサ 約20L				
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	15 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99) 現場確認。								自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 漏えい危険物の除去を実施。						
31 防災活動上の問題点														
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等				消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等				年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保 安 検 査				年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無 内容：				
	そ の 他	年 月 日												
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策 や所見		腐食環境が厳しくなる兆候(塔頂温度やTPA温度の低下、TPA中の水分量上昇等)を確認した場合に、追加の肉厚検査が実施できるようにCCPを改善した。												

1 事故名		第2常圧蒸留装置の配管コック閉め忘れによるサンプリングノズルからの灯油漏えい事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 9日 14時 01分				[推定]・確定		4 発生見		8月 9日 16時 19分			
5 覚知		8月 9日 16時 25分				6 鎮圧 応急処置完了				8月 9日 16時 19分			
7 鎮火・処理完了		8月 9日 19時 30分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東 風速：2.4m/s 気温：33℃ 湿度：38%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番号 (1811)		区分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：水島臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 15,931,800L 79,659倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 2,352,000L 11,760倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 加熱炉燃料ナフサ 230,600L 1153倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 600,000L 600倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 重質軽油 600,000L 600倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 2,598,800L 2,598.8倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 添加剤 80L 0.04倍 第4類第4石油類 潤滑油 1,820L 0.3倍 倍数の合計：96,371.14倍											
		設置の完成：昭和 40年 8月 10日 直近の完成：平成 29年 4月 18日											
12 施設装置		17 物質の区分											
名称：常圧蒸留装置 番号 (2101)		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (148.7L)											
能力：常圧蒸留装置 15,931.8kL/日		18 取扱者の概要											
13 機器等		経験年数45年											
温度圧力：													
名称：その他 番号 (999)													
規模：サンプル油受け 容量198L													
14 発生箇所													
名称：その他の附属配管等 番号 (299)													
材質：その他													
15 発生時													
運転状況：定常運転中 番号 (1)													
作業状況：洗浄中 番号 (11)													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 製造所(第2常圧蒸留装置)の原油サンプル採取作業完了後、サンプル油受けに少量残存していた原油を洗浄するため、洗浄用灯油弁を開放してノズルから灯油を柄杓で受け洗浄した。洗浄後、開放した弁と別の三方弁を誤操作して現場を離れたため、ノズルからの灯油は停止したが散布側から灯油が排出され続け、サンプル油受けから溢流し灯油が148.72L漏えいしたもの。発見時にコックを閉じ、漏えいは停止する。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原因	25 主 原 因 誤操作					着火原因					番号 ()																																											
	関 連 原 因 維持管理不十分																																																					
	発生原因の状況： サンプル採取作業後、洗浄用灯油弁を開放しサンプル油受けの洗浄を行っていたが、洗浄作業完了後、誤った弁を操作したため、灯油が排出されたままとなりサンプル油受けから溢流した。また本来であれば、サンプル油受けから排出された灯油は回収配管を介して廃液タンクに送られるが、廃液タンクのPVベントの作動不良により廃液タンク内の圧力が上昇していたため、サンプル油受けの灯油が有効に送液できていなかった。																																																					
	主原因の詳細																																																					
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																									
	人				本人の意識				思慮				思い込み																																									
	関連原因の詳細																																																					
	設備				監理・保守				点検・整備				整備していない																																									
因																																																						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																						
27 人的被害										28 物的被害																																												
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： サンプル油受け周囲5.2m×2.86m流出																
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																																
当 事 者	0	0	0	0																																																		
防災活動従事者	0	0	0	0																																																		
第 三 者	0	0	0	0																																																		
										施設等の被害状況： なし																																												
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																						
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>3 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>8 人</td> <td>自 衛</td> <td>2 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>92 人</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>1 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>3 人</td> <td>その他</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> </table>										消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	92 人	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	1 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類 灯油 148.72L流出				
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	92 人																																													
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
										損害額 1万円未満、 1万円以上 (1 万円)																																												
30 実施した防災活動の状況																																																						
公設消防機関：番号 (99) ガス検知、警戒待機										自衛防災・消防組織等 番号 (99) ガス検知、警戒待機																																												
31 防災活動上の問題点																																																						
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法				そ の 他																																								
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検				令和4年12月6日				年 月 日																																				
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等				年 月 日				年 月 日																																				
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査				年 月 日				年 月 日																																				
	関係条項									34 当該施設に係る法令違反の有無				有・ 無				内容：																																				
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																																
35 今後の対策や所見																																																						
・コック弁を新設 ・誤認識を誘発させないようなレイアウトに変更 ・注意喚起の表示を取り付け ・PVベントの撤去 ・従業員の教育																																																						

令和5年

1 事故名		製造所において、精留塔の本体シェルが腐食開孔し、重油が漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		1月 12日 9時 55分	
5 覚知		1月 12日 10時 04分		6 鎮圧 応急処置完了		1月 12日 11時 36分	
7 鎮火・処理完了		1月 12日 11時 36分					
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：晴 風向：北北西 風速：0.4m/s 気温：8℃ 湿度：83%					
10 発生事業所				11 発生場所			
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)				区 分：①. 事業所内 (<u>製</u> 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 岩国・大竹			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 1,590,000L 795倍 第4類第4石油類 潤滑油 3,900L 0.65倍			
				倍数の合計： 795.65倍			
12 施設装置				設置の完成：昭和 55年 3月 28日 直近の完成：令和 4年 2月 24日			
名称：精製装置 番 号 (2103)							
能力：第3石油類 1,590kL/日 第4石油類 3.9kL/日							
13 機器等							
温度圧力：130℃、0.51Mpa				17 物質の区分			
名称：蒸留、精留塔(スタビライザー、ストリップバー) 番 号 (101)							
規模：直径 最大/最小:3.05/2.59m 高さ 33.8755m							
14 発生箇所							
名称：本体溶接部 番 号 (106)				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(9.6L)			
材質：鋼鉄							
15 発生時							
運転状況：定常運転中 番 号 (1)							
作業状況： 番 号 ()				18 取扱者の概要			
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者の 取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事故の概要： 危険物製造所において、精留塔本体シェル2箇所が腐食開孔(直径4mm/直径3mm)し、重油約9.6Lが漏えいしたものである。具体的な発災時刻については、前日の日常点検において、10時頃に発災部付近を通過した際には異常は覚知されておらず、その後発災したものと推定されるため不明とする。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送							

原因	25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 当該装置は、定期的な切替運転など特有の運転環境であり、水分が多く凝縮したことや、プロセスに含まれる塩素や硫化水素により、塩酸腐食や湿性の硫化物腐食が生じ、腐食しやすい環境であったことに加え、精留塔本体シェルとトレイサポートリングの材質が異なっていたため、異種金属腐食が生じ開孔に至ったものである。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			異種金属間腐食						
	関連原因の詳細												
因													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害							28 物的被害						
被害内容等 区分							被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいは施設内に留まっており、他の施設等への拡大はなし。						
当 事 者							0 0 0 0						
防災活動従事者							0 0 0 0						
第 三 者							0 0 0 0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関							4 台 0 隻 0 機 10 人 自 衛 4 台 0 隻 0 機 180 人						
消 防 団							0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人						
海上保安部							0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人						
その他の機関							0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人						
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 警戒、調査							自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業						
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32	施設名	製造所			33	定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	行	使用停止	年 月 日	年 月 日		政	定期・自主点検	令和 4 年 10 月 29 日	令和 5 年 1 月 11 日				
		改善命令等	年 月 日	年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日				
		停止解除	年 月 日	年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日				
	措	関係条項			置	34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：					
		その他	令和 5 年 1 月 16 日 ①. 文書 2. 口頭	年 月 日 1. 文書 2. 口頭									
35		今後の対策 や所見 再発防止対策として、トレイサポートリングの材質を既設のSUS405からシェル側と同材の炭素鋼へ変更することとした。これにより、異種金属腐食を防ぐとともに、トレイサポートリングもシェル側と同様に減肉するため、減肉を覚知しやすくなることができる。また、水平展開として当該施設と同様の運転環境にある類似機器に対し検査を実施することとした。											

令和5年

1 事故名		熱交換器の脱液作業時、軽油を含む排水の切り捨て先を誤ったためキャッチベーンに流入し海上に漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		6月 1日 18時 00分 推定・ 確定					4 発 見		6月 2日 7時 38分				
5 覚 知		6月 2日 7時 47分					6 鎮 圧 応急処置完了		6月 2日 8時 53分				
7 鎮火・処理完了		6月 2日 16時 30分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：西 風速：1.7m/s 気温：20℃ 湿度：97%											
10 発 生 事 業 所		種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業					11 発 生 場 所		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 岩国・大竹 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 1,590,000L 795倍 第4類第4石油類 潤滑油 3,900L 0.65倍 倍数の合計： 795.65倍 設 置 の 完 成：昭和 55年 3月 28日 直 近 の 完 成：令和 5年 3月 24日				
12 施 設 装 置							17 物 質 の 区 分						
名 称：精製装置 番 号 (2103)							①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (40L)						
能 力：第3石油類 1,590kL/日第4石油類 3.9kL/日													
13 機 器 等													
名 称：熱交換器 番 号 (301)		18 取扱者の概要		経験年数9年									
規 模：寸法:縦512mm、横1,170mm、高さ552mm		19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
14 発 生 箇 所		名 称：ドレンノズル 番 号 (208)		材 質：鋼鉄		15 発 生 時		運 転 状 況：停止中 番 号 (5)		作 業 状 況：抜取中 番 号 (14)			
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル有											
23 事故の概要：		危険物製造所の熱交換器の脱液作業時、軽油を含む排水を誤って排水系統に切り捨てたため、約40Lの軽油が直接キャッチベーンに流入、そのうち約3.6mLが第3排水口より海上へ流出したものである。											
24 緊急処置の状況		有 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因 誤操作					着火原因					番号 ()				
	関 連 原 因 操作確認不十分														
	発生原因の状況： 当該装置の熱交換器に内部リークが認められたため、脱液作業を実施した際、軽油を含む排水であるため、オイリー系へ切り捨てなければならなかったが、作業者はオイリー系と思い込み、誤って排水系統に切り捨ててしまったため、約40Lの軽油を含む排水が直接キャッチベーンに流入した。さらに、キャッチベーンに油が流入した際の応援要請や、第3排水口ゲート弁の閉止基準等が不明確であったため、流入した約40Lのうち約3.6mLが海上へ漏えいしたものである。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	人			本人の意識			思慮			取り違い					
	関連原因の詳細														
	管理		リスクアセスメント			危険意識			危険に対する認識がない/不足						
因															
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人的被害										28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 軽油を含む排水が、キャッチベーンに約40L流入し、うち約3.6mLが第3排水口より海上へ流出したが敷地境界線より4m程度に収まっている。							
区分															
当 事 者		0	0	0	0										
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設の被害なし。							
第 三 者		0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	280 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油が約40L漏えいしたものの。					
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人						
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)					
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99) 警戒、調査										自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業					
31 防災活動上の問題点															
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				令和 4 年 10 月 29 日		令和 5 年 6 月 2 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等				年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保安検査				年 月 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無 内容：					
	そ の 他	年 月 日				年 月 日									
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見		排水切り捨て先誤りに対する対策としては、切り捨て先を誤った排水口に塗装を実施、また他装置についても類似箇所には同等の処置を施すとともに、塗装維持管理のため、全装置の排水口を対象に1年に1回の頻度で健全性確認を実施することとした。第3排水口から海上への漏えいに対する対策としては、キャッチベーンに油が流入した際の応援要請や緊急措置操作要領等について手順書に追記するとともに、第3排水口ゲート弁閉止判断基準についても明確にし、手順書に追記した。また、各装置側で油膜発生を早期に検知できる設備対応を検討することとした。													

令和5年

1 事故名		配管腐食によるSLOP油の漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		6月 21日 17時 10分	
5 覚知		6月 21日 17時 31分		6 鎮圧 応急処置完了		6月 21日 21時 15分	
7 鎮火・処理完了		6月 23日 19時 00分					
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：雨 風向：東 風速：7.2m/s 気温：21.7℃ 湿度：99%					
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		11 発生場所		区分：①. 事業所内 (<u>製</u> 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 宇部・小野田地区 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 2,329,000L 11,645倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 909,410L 909.41倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 11,448,850L 5,724.43倍 第4類第3石油類(水溶性液体) 溶剤 20L 0.01倍 第4類第4石油類 潤滑油 16,330L 2.72倍 第4類アルコール類 メタノール 20L 0.05倍 倍数の合計： 18,281.62倍	
12 施設装置				14 発生箇所			
名称：その他【石油精製工業】 番 号 (2999)				名称：その他 番 号 (999)			
能力：				材質：鋼鉄			
13 機器等				温度圧力：0.6Mpa			
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		15 発生時					
規模：14B		運転状況：定常運転中 番 号 (1)					
14 発生箇所		作業状況：運転操作中 番 号 (1)					
名称：その他 番 号 (999)		17 物質の区分					
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：スロップ油(8,830L)					
15 発生時		18 取扱者の概要					
運転状況：定常運転中 番 号 (1)		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					
作業状況：運転操作中 番 号 (1)		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					
21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 従業者がパトロール中に異臭がしたため確認したところ、危険物配管(口径12B)よりスロップ油が8,830L漏えいしているのを発見したもの。 漏えいした配管の東側に位置する敷地内を流れる水路、汐溜まりに油の浮遊を認め、オイルフェンス、吸着マットで油の拡散防止処置を実施。 海への流出はなし。6月22日の午前10時にも事故発生現場を確認したところ、海への流出はなし。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (10) 無 その他							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()				
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 2020年12月の目視検査で底部ににじみを確認したが、運転中の処置が困難であったため、応急処置としてSUSバンド施工を実施していたが、腐食(約2cm)によりスロップ油漏えいしたものの。(今年度補修予定であった。)												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			塩分の影響						
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27	人 的 被 害							28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした油が水路及び汐留まりに流出 海上流出なし					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0								
	第 三 者	0	0	0	0								
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 6 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 5 人	物質の被害状況： スロップ油									
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同										0 台 0 隻 0 機 0 人
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援										0 台 0 隻 0 機 0 人
	その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他										0 台 0 隻 0 機 0 人
30	実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) 警戒活動を行う。							自衛防災・消防組織等 番号 (6、5) 大型高所化学消防車を消火栓に部署し、警戒活動を行う。						
31	防災活動上の問題点												
32 施設名	使用停止	年 月 日	年 月 日	33 定期点検等		消 防 法		そ の 他					
	改善命令等	年 月 日	年 月 日			定期・自主点検	年 月 日	年 月 日					
	停止解除	年 月 日	年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日					
	関係条項					保安検査	年 月 日	年 月 日					
	34	そ の 他	年 月 日	年 月 日	当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：						
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭										
35	今後の対策 や所見 同様にバンド施工している箇所がないか調査したところ、1か所判明したため、配管の取替えを実施する。												

令和5年

1 事故名		熱交換器チューブ入口側ドレン配管が、ユニオン継手のネジ部で外れたことによる原油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		7月 5日 14時 00分				推定・確定		4 発生見		7月 5日 14時 00分	
5 覚知		7月 5日 14時 13分				6 鎮圧 応急処置完了		7月 5日 14時 00分			
7 鎮火・処理完了		7月 5日 15時 48分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：雨 風向：北北西 風速：2m/s 気温：23℃ 湿度：97%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番号 (1811)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：岩国・大竹									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 20,670,000L 103,350倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 汚れ防止剤 9,100L 9.1倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 汚れ防止剤 9,100L 4.55倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 11,925,000L 5,962.5倍 倍数の合計：109,326.15倍									
12 施設装置		14 発生箇所									
名称：常圧蒸留装置 番号 (2101)		設置の完成：昭和 39年 12月 1日 直近の完成：令和 3年 3月 19日									
能力：蒸留部門:120,000バーレル/日、減圧部門:75,000バーレル/日		17 物質の区分									
13 機器等 温度圧力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油 (400L)									
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		18 取扱者の概要									
規模：配管径:34mm、厚さ:4.5mm		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事故の概要： 危険物製造所の熱交換器チューブ入口側ドレン配管にある第1弁(常時開)と第2弁(常時閉)の間に設置されているユニオン継手のネジ部が外れ、原油が約400L漏えい、第1弁を閉止し漏えいを停止したものである。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 配管が外れた原因については、継手と配管の締結が不十分であったことや、運転中の振動による締め付け力の低下に加え、今回発災したユニオン部の下部に設置されていたユニオンが、前回の定期補修工事で取り外されたままとなっており、当該ドレン配管のサポートが効かない状況となっていたことにより、発災したユニオン部に負荷がかかっていたためである。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	施工不良	施工	取り付け不良					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設の囲いの周囲へ流出。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)原油が約400L漏えいしたものの。 損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)	
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 11 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 280 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 警戒、調査					自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名	危険物製造所		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 4 年 11 月 3 日	令和 5 年 7 月 5 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	事故報告書及び改善計画書の提出を指導 令和 5 年 7 月 6 日 ①. 文書 2. 口頭	年 月 日 1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見		再発防止対策として、発災したドレン配管は第1弁で閉止しキャップ止めを実施し、滞油回収を行う際は、再度適切に締め付けを行い使用することとした。また、配管復旧時には、本来サポートされているべき箇所が取り外されていないか確認することとした。消防からは、今回のような異常箇所について、点検実施時等に早期に発見できるよう安全意識を高め、再発防止に努めるよう指導した。						

1 事故名		製造所内でのバルブ閉め忘れによる混合油の漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 3日 5時 30分				[推定]・確定		4 発生見		8月 3日 6時 50分			
5 覚知		8月 3日 7時 23分				6 鎮圧 応急処置完了		8月 3日 7時 10分					
7 鎮火・処理完了		8月 3日 7時 10分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東 風速：6m/s 気温：28℃ 湿度：95%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 番号 (1899) 造業 その他の石油製品・石炭製品製造業 他に分類されない 石油製品・石炭製品製造業		区分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 宇部・小野田											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン 941,000L 4705倍 第4類アルコール類 メタノール 16,700L 41.75倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) エチルベンゼン 1,110,000L 1,110倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) フラックスオイル 21,400L 10.7倍 第4類第4石油類 潤滑油 7,800L 1.3倍 第5類ニトロ化合物(第2種自己反応性物質) ジニトロフェノール 1,400kg 14倍 倍数の合計： 5,882.75倍											
12 施設装置		名称：その他【分類なし】 番号 (9999) 能力：											
13 機器等		温度圧力：0.95Mpa											
名称：配管(送油、注入管等)		番号 (606)											
規模：13.5kL													
14 発生箇所		設置の完成：平成 5年 8月 21日 直近の完成：令和 5年 6月 8日											
名称：ベント管、ブロー管、放出管		番号 (303)											
材質：ステンレス		17 物質の区分											
15 発生時		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：粗スチレンモノマー(430L)											
運転状況：定常運転中		番号 (1)											
作業状況：運転操作中		番号 (1)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 8月2日より、撤去予定で現在使用していない発信機内に油が残っていないか確認を実施。 この作業において、本来操作してはならないバルブを開放したもの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 誤操作					着火原因					番号 ()				
原 因	関 連 原 因 操作確認不十分														
	発生原因の状況：														
	・縁切り不十分 ・溶解作業に使用している配管と使用していない配管の区別がつきにくかったため、使用していない配管であると思い込んだ。 ・バルブ開閉札がかかっておらず、使用中の配管であると認識してしまった。 ・撤去予定の計器類からの滞油確認作業が全体的に滞っていたため、運転員は係内のミーティングで事前に打ち合わせしていない滞油確認作業を自主的に実施し、作業内容を引き継ぎしなかった。														
	主要原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	人			本人の意識			思慮			思い込み					
	設備			監理・保守			監理			その他					
	管理			組織			コミュニケーション			伝達方法が不適切					
	関連原因の詳細														
	設備			監理・保守			点検・整備			整備内容が不適切					
因															
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27	人 的 被 害										28 物的被害				
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：						
									排水溝や雨水口に油膜はなく、環境への影響はない。						
	当 事 者		0	0	0	0									
	防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：						
第 三 者		0	0	0	0			特になし							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：					
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人						
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	5 台	0 隻	0 機	9 人						
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)															
30	実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 ()										自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
状況把握と危険性有無の確認を実施。										回収作業					
漏えいが発生した施設周囲の側溝及び廃水処理場への流出や、施設外への危険性がないことを確認。															
31	防災活動上の問題点														
32	施 設 名									33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日				
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日				
	関係条項									34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：				
	そ の 他	年 月 日				年 月 日									
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭															
35	今後の対策や所見														
・今回誤操作した縁切り箇所となっている発信機の元弁に仕切板を挿入した。 - また、本系内でバルブでの縁切りとなっている箇所がほかがないことを確認した。 ・溶解作業に使用している配管が一目で分かるよう配管に「DM通液中」の表示をする。さらに縁切り用の仕切板に何のための仕切板かを明記した。 ・製造部員に対して今回守られていなかった縁切り措置ルール及び7月に発生したトラブルの再発防止策の目的について再教育を8月13日までに実施した。 - また、今回の事故の経緯、原因、再発防止対策等について報告書を用いて、所長職、部長職が全員出席して毎月開催される「安全衛生委員会」にて説明し、所内周知徹底を図るとともに、各部管理職による部員への教育を実施。 ・現在のプラント内は全体が非定常状態であることを改めて認識し、当日実施する作業は全て係内のミーティングで事前に内容を確認し、実施する。さらに、作業した内容は係内で共有し、次の係に引き継ぐことを徹底する。ミーティングの徹底を8月13日までに全製造部員へ教育した。															

1 事故名		危険物製造所におけるキシレン流出事故										
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()										
3 発生		10月 27日 0時 00分				推定・確定	4 発生見		10月 27日 10時 30分			
5 覚知		10月 27日 10時 40分				6 鎮圧 応急処置完了			10月 27日 10時 56分			
7 鎮火・処理完了		10月 27日 11時 17分										
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()										
9 気象状況		天気： 風向： 西南西 風速： 2m/s 気温： 20℃ 湿度： 91%										
10 発生事業所		11 発生場所										
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 製造業 化学工業 その他の化 番号 (1799) 学工業 他に分類されない化学 工業製品製造業	区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
	16 発生施設規制区分等											
	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類引火性固体 ティスパロン 30kg 0.03倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) メタクリル酸メチル 96,721L 483.61倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 不飽和ポリエステル 332,839L 332.84倍 樹脂、メタクリル酸アクリル、キシレン 第4類第2石油類(水溶性液体) アミノアルコール 4,000L 2倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油、メタクリル酸 105,477L 52.74倍 シクロヘキシル、熱媒体 第4類第3石油類(水溶性液体) エチレングリコール 1,280L 0.32倍											
	倍数の合計： 871.54倍											
12 施設装置		設置の完成： 平成 元年 9月 27日 直近の完成： 令和 3年 3月 16日										
名称： 洗浄作業場 番号 (1705)		17 物質の区分										
能力：		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： キシレン(10L)										
13 機器等		18 取扱者の概要										
名称： ろ過機 番号 (912)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要										
規模： 20号タンク 9,000L		21 危険物取扱者の の取扱・立会い										
14 発生箇所		①. 有 2. 無										
名称： ドレンバルブ 番号 (210)												
材質： ステンレス												
15 発生時												
運転状況： 定常運転中 番号 (1)												
作業状況： 運転操作中 番号 (1)												
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無												
23 事故の概要： 危険物製造所においてキシレンを20号タンク洗浄液として使用しているが、各種作業工程で共有している濾過機について排出バルブを開放状態のまま運用していたため、ドレン用仮受け容器から溢れ防油堤内へ約10L漏えいしたものの。当該設備で作業に従事していた職員は初めての作業ではなかったが、複数ある作業手順を確認する中で、バルブ開閉作業を失念したために発生した人為的要因による事故。												
24 緊急処置の状況 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送												

原 因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 各種作業工程で共有している濾過機について排出バルブを開放状態のまま運用していたが、複数ある作業手順を確認する中で、バルブ閉止作業を失念したため、ドレン用仮受け容器から洗浄液であるキシレンが溢れ、防油堤内へ約10L漏えいしたものの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		過信	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害							28 物的被害	
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 被害なし
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： キシレン
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()		
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 5 年 10 月 26 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：	
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				
35 今後の対策 や所見		・事業所における安全教育の実施						

1 事 故 名		危険物製造所(蒸留装置)受け入れ配管のドレン配管枝出し部から重油が約31L漏えい											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		11月 12日 18時 00分				[推定]・確定		4 発 見		11月 12日 21時 04分			
5 覚 知		11月 12日 21時 15分				6 鎮 圧 応急処置完了		11月 12日 22時 43分					
7 鎮火・処理完了		11月 12日 22時 45分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北 風速：0.6m/s 気温：8℃ 湿度：66%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 岩国・大竹											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 20,670,000L 103,350倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 汚れ防止剤 9,100L 9.1倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 11,925,000L 5,962.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 汚れ防止剤 9,100L 4.55倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称：常圧蒸留装置 番 号 (2101)		名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)											
能 力：蒸留部門:120,000バール/日、減圧部門:75,000バール/日		材 質：鋼鉄											
13 機 器 等		15 発 生 時											
温 度 圧 力：2Mpa		運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)											
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		作 業 状 況： 番 号 ()											
規 模：外径:34mm、肉厚:4.5mm		17 物 質 の 区 分											
14 発 生 箇 所		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(31L)											
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要											
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		19 危険物保安 統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
材 質：鋼鉄		20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
15 発 生 時		21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
作 業 状 況： 番 号 ()		23 事 故 の 概 要： 危険物製造所の運転員が現場作業を行っていた際、蒸留装置受け入れ配管のドレン配管枝出し部から重油が漏えい(約31L)しているのを発見したものである。装置の緊急停止及び手動弁による縁切りを行い漏えいは停止、吸着マットを使用し漏油回収措置を実施した。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25	主 原 因 施工不良				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因 腐食疲労等劣化												
	発生原因の状況： 当該漏えい箇所は、本管のドレン配管枝出し部のボスが鉛直方向から僅かにずれて、長尺かつ小径のドレン配管がボスに隅肉溶接されていた。近辺にドレン配管のサポートも取られていなかったため、ドレン配管の始点となるボス隅肉溶接部に引張応力が長期間作用し続け、運転条件により、軽微な振動が繰り返される箇所でもあったことから、溶接の熱影響を受けたボス隅肉溶接部において疲労破壊による割れが生じたものと推定される。												
	主要原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	施工不良			施工			取り付け不良						
	関連原因の詳細												
因	疲労・劣化			環境			常に振動する環境下で疲労（想定内の振動であるが、材料が継続した疲労により損傷等）						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害								28 物的被害					
区分		被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいは施設内に留まっており、他の施設等への影響はない。			
		当 事 者		0	0	0	0						
		防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 本管から枝出しされたドレン配管の割れ。			
		第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関		5 台	0 隻	0 機	14 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	60 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)原油 約31L漏えい。		
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 警戒、調査								自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業					
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32	施設名	危険物製造所						33	定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	行	使用停止	令和 5 年 11 月 12 日			年 月 日			定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和 5 年 11 月 3 日	令和 5 年 11 月 12 日		
		改善命令等	年 月 日			年 月 日				年 月 日	年 月 日		
		停止解除	令和 5 年 11 月 17 日			年 月 日				年 月 日	年 月 日		
		関係条項	法第12条の3第1項										
	措	置	そ の 他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：		
1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭										
35		今後の対策 や所見											
		ドレン配管取替時に、ボスを適正に施工し異常な引張応力の発生を防ぐとともに、サポートの追加設置を検討することとした。また、類似の振動を受ける箇所において、同様の不具合箇所がないことを確認した。											

1 事故名		製造所における送液配管の腐食によるスルフォランの流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 31日 6時 00分				[推定]・確定		4 発生見		8月 31日 7時 03分			
5 覚知		8月 31日 8時 20分				6 鎮圧 応急処置完了				8月 31日 7時 05分			
7 鎮火・処理完了		8月 31日 7時 48分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：北 風速：3.5m/s 気温：32℃ 湿度：30%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：松山											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 その他 15L 0.3倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 揮発油 2,090,000L 10,450倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 14,000L 14倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 39,000L 19.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 200L 0.1倍 第4類第3石油類(水溶性液体) その他 252,700L 63.18倍 第4類第4石油類 潤滑油 3,300L 0.55倍 倍数の合計：10,547.63倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：溶剤抽出装置 番 号 (2105)		名称：その他の附属配管等 番 号 (299)											
能力：取扱量:第4類特殊引火物及び第1石油類～第4石油類 2,399.5kL/日		材質：鋼鉄											
13 機器等		温度圧力：160℃、0.7Mpa											
名称：ポンプ 番 号 (501)		17 物質の区分											
規模：流量:122.7L/min		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、常温 [0－40℃]、[高温]) 分 類：第4類第3石油類(水溶性液体) 名称：スルフォラン(0.1L)											
14 発生箇所		18 取扱者の概要											
名称：その他の附属配管等 番 号 (299)		①. 選任有 2. 選任無 直近の完成：令和 5年 5月 14日											
材質：鋼鉄		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
15 発生時		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
運転状況：定常運転中 番 号 (1)		23 事故の概要： 製造所内で通常運転中に、送液ポンプ吐出側配管から製品を製造する過程で使用する溶剤であるスルフォラン(第4類第3石油類水溶性)が0.1L漏えいしたもの。											
作業状況：その他 番 号 (99)		24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

1 事故名		燃料油蒸気加熱器の安全弁誤作動に伴うC重油漏えい事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		11月 10日 10時 22分				推定・ 確定		4 発生見		11月 10日 12時 05分	
5 覚知		11月 10日 12時 10分				6 鎮圧 応急処置完了				11月 10日 12時 07分	
7 鎮火・処理完了		11月 10日 12時 07分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：雨 風向：西北西 風速：1.1m/s 気温：19℃ 湿度：87%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 菊間地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 1,257,150L 6,285.75倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油、軽油 2,113,000L 2,113倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) C重油 308,600L 154.3倍									
12 施設装置		13 機器等									
名称：ボイラー施設 番 号 (1505)		温度圧力：60℃、1.9Mpa									
能力：C重油消費量162.5kL/日		名称：熱交換器 番 号 (301)									
規模：設計圧力2.3メガパスカル円筒形直径550mm長さ5,940mm		倍数の合計：8,553.05倍									
14 発生箇所		設置の完成：昭和 63年 8月 3日 直近の完成：令和 4年 7月 5日									
名称：安全弁 番 号 (301)		17 物質の区分									
材質：鋳鉄		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0－40℃]、 高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：C重油(8,900L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：試運転中 番 号 (14)											
作業状況： 番 号 ()											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事故の概要： 事業所の従業員が製造所内の2号ボイラーのC重油送油ポンプの作動点検中に異常が無いかC重油を貯蔵しているT-701タンクを確認していると貯蔵量が異常に下っていた。調査を行うと2号ボイラーと送油ポンプの間に設置している燃料油蒸気加熱器(E-2721)の安全弁からC重油が漏えいしていることを確認した。送油ポンプ(P-2722B)及び予備の送油ポンプ(P-2722A)を停止したがCPI(油分離貯留施設)にC重油約8,900Lが漏えいした。上司に状況を説明し上司が消防機関に通報した。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

25	主 原 因 故障					着火原因					番号 ()					
原因	関 連 原 因															
	発生原因の状況： 燃料油蒸気加熱器(E-2721)の安全弁を分解したが異常はなく、重油の圧力のトレンド表示を確認したが作動圧力には達していなかった。トレンド表示に 関係する圧力計にも異常はなかった。トレンドは常時の圧力を計測しているのではなく1分に1回の計測をしており一時的に作動圧力以上になった可能性は 否定できない。ただし作動圧力以下になれば自動的に安全弁が閉止して放出は停止するが開いた状態が継続した。C重油であったこともあり粘性が高く何 らかの影響で安全弁がつまり閉止しなかったことが漏えいの継続に繋がったと推定する。															
	主原因の詳細															
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層						
	故障			機能			周囲からの異物の作用による機器の動作不良									
	関連原因の詳細															
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27	人 的 被 害										28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： CPI(油分離貯留施設)にC重油が約8,900L漏えいした。								
	当 事 者	0	0	0	0											
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 特になし。								
	第 三 者	0	0	0	0											
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： C重油約8,900L漏えい(全量回収し再処理を実施)						
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機							0 人
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機							0 人
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機							0 人
30	実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99) 調査活動										自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31	防災活動上の問題点															
32	施設名	製造所				33 定期点検等			消 防 法			そ の 他				
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日	年 月 日			定期・自主点検			令和 4 年 11 月 25 日			年 月 日			
		改善命令等	年 月 日	年 月 日			気密試験等			年 月 日			年 月 日			
		停止解除	年 月 日	年 月 日			保安検査			年 月 日			年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無			内容：					
	そ の 他	令和 5 年 11 月 10 日	年 月 日													
35	今後の対策 や所見 定期的に安全弁の性能検査をしているが、周期を早め同種事故防止に努めるよう指導する。															

令和5年

1 事故名		アクロレイン製造工程濾過装置の部品の変形及び逆止弁不良による、アクロレイン、エチルベンゼンの漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		1月 25日 10時 50分				推定・確定		4 発生見		1月 25日 10時 55分			
5 覚知		1月 25日 11時 13分				6 鎮圧 応急処置完了				1月 25日 10時 57分			
7 鎮火・処理完了		1月 25日 14時 22分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：北西 風速：4.5m/s 気温：0.7℃ 湿度：49%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <u>第2種</u> 、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工業 番号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業(脂肪族系溶剤を含む)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：大分地区石油コンビナート特別防災区域											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：1 危険物 2 高压ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) アクロレイン 91,800L 459倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン・シクロヘキサン 12,600L 63倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸イソプロピル 31,400L 157倍 第4類第2石油類(水溶性液体) アクリル酸 375,400L 187.7倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) エチルベンゼン 11,600L 11.6倍 第4類第3石油類(水溶性液体) ヒトラジン 7,000L 1.75倍 第4類第4石油類 潤滑油 1,200L 0.2倍 倍数の合計：880.25倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 46年 11月 20日 直近の完成：令和 4年 4月 11日											
名称：その他プロピレン系製品製造装置 番号 (5299)		17 物質の区分											
能力：		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：アクロレイン(20L) 第4類第2石油類(非水溶性液体) エチルベンゼン(20L)											
13 機器等		18 取扱者の概要											
温度圧力：0.3Mpa													
名称：ろ過機 番号 (912)													
規模：高さ492mm 幅190mm													
14 発生箇所													
名称：その他の機器等本体 番号 (199)													
材質：ゴム													
15 発生時													
運転状況：停止中 番号 (5)													
作業状況：監視中 番号 (10)													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： アクロレイン製造工程の抽出塔の浄化水供給配管に設置された濾過装置より抽出塔内のアクロレインとエチルベンゼンが逆流し、約40Lの危険物液が漏えいしたもの。													
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 破 損				着火原因				番号 ()			
原 因	関 連 原 因 維持管理不十分											
	発生原因の状況： 凍結により、浄化水供給配管に設置された濾過装置のガスケット・シャフトが変形し、加えて、逆止弁の内部に汚れが付着していたことにより、逆止弁が正常に作動せず、抽出塔内のアクロレインとエチルベンゼンが逆流し漏えいしたものの。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	破損			自然現象			凍結					
	関連原因の詳細											
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足					
	管理		リスクアセスメント		危険意識		危険に対する認識がない/不足					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害								28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： アクロレイン・エチルベンゼンが製造所内床に漏えい。				
当 事 者		0	0	0	0							
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 浄化水濾過装置破損				
第 三 者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関		4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(アクロレイン)、第4類第2石油類(エチルベンゼン)それぞれ20L漏えい	
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	10 人		
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)	
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) 調査活動							自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業					
31 防災活動上の問題点												
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検		年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：				
	そ の 他	年 月 日										
35 今後の対策 や所見		寒波で凍結による被害が予想される場合は、危険性を回避、低減するために必要な措置を検討し、対策を講じること。										

令和5年

1 事故名		合成樹脂製造工程における溶剤流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		6月 7日 1時 45分				[推定]・確定		4 発生見		6月 7日 6時 30分			
5 覚知		6月 7日 10時 15分				6 鎮圧 応急処置完了				6月 7日 10時 30分			
7 鎮火・処理完了		6月 7日 10時 30分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向： 風速： 気温： 湿度：											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 製造業 化学工業 油脂加工製 番 号 (1754) 品・石けん・合成洗剤・界面活性 剤・塗料製造業 塗料製造業		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 13,748L 68.74倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) キシレン 42,157L 42.16倍 第4類第2石油類(水溶性液体) アクリル酸等 88L 0.04倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) アクリエスチル等 15,247L 7.62倍 第4類第3石油類(水溶性液体) プロピレノール 1,573L 0.39倍 第5類有機過酸化物質(第2種自己反応性物質) 有機過酸化物質 200kg 2倍											
		倍数の合計： 120.95倍											
12 施設装置		設置の完成： 昭和 56年 8月 26日 直近の完成： 令和 5年 3月 31日											
名称： その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959)		17 物質の区分											
能力：		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： トルエン(310L) 第4類第2石油類(水溶性液体) ジメチルホルムアミド (22kg)											
13 機器等		18 取扱者の概要											
温度圧力： 60℃、-0.09Mpa		経験年数37年											
名称： 反応塔、槽 番 号 (102)		19 危険物保安統括管理者											
規模： 6L		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要											
20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 製造所内の反応釜にて合成樹脂製造中の脱溶剤工程にて液温60℃より減圧装置にて反応釜を徐々に減圧していき、溶剤除去を行っていた。熱交換器の冷却に冷却水(約24℃)を使用していたが、熱交換器内部の温度が十分下がりがらず、ペーパー分がダイレクトに減圧装置に混入し、封水タンクで冷やされ液化した溶剤が排水溝に流出したものの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

原因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因								
	発生原因の状況： 熱交換器の冷却に冷却水(24℃)・冷凍水(7℃)いずれも使用可能であるが、作業手順に明確に指定されていなかったことから、冷却水を使用したために熱交換器の冷却が不十分となり、また、脱溶剤槽の冷却もしていなかったことから、ペーパー分が減圧装置に混入し、封水タンクにて冷却され液化した溶剤が構内の排水溝流出した。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足		
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 製造所棟の外周部、排水溝30㎡の範囲に流出(敷地外への流出はなし)	
区分									
当 事 者	0	0	0	0					
防災活動従事者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 無し	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
						物質の被害状況： 廃棄溶剤332kgが排水溝に流出			
						損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点 事故発生後の通報に時間を要しているため、事故後速やかに消防へ通報する体制の徹底が必要。									
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	令和4年12月5日 令和5年4月1日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年 月 日 年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年 月 日 年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無		
	そ の 他	年	月	日	年		月	日	内容：
35 今後の対策 や所見		減圧下での沸点変化について教育を行う。 脱溶剤工程の作業標準(手順書)を作成及び教育を行う。 熱交換器及び脱溶剤槽は冷凍水を使用する旨を反応カーブ(原料投入タイミング・温度変化等の製造手順書)に明記する。事故発生後速やかに消防へ通報する体制の徹底する。							

令和5年

1 事故名		第3残油流動接触分解装置塔頂部からのナフサ漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		6月 24日 15時 30分	
5 覚 知		6月 24日 15時 48分		6 鎮 壓 応急処置完了		6月 24日 16時 35分	
7 鎮火・処理完了		6月 24日 16時 57分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 北東 風速： 3m/s 気温： 26.7℃ 湿度： 54%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分： ①. 事業所内 (<u>製</u> 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 大分地区石油コンビナート特別防災区域		16 発生施設規制区分等			
				施設区分： 1 危険物 2 高压ガス ③ 高圧混在 4 その他			
				貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所			
				類・品名・名称・数量・倍数：			
12 施 設 装 置				第2類硫黄 硫黄 220,000kg 2,200倍			
名 称： 分解装置 番 号 (2104)				第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 23,055,000L 115,275倍			
能 力： 18,000バール/日				第4類第2石油類(非水溶性液体) 第2石油類 5,262,057L 5,262.06倍			
13 機 器 等		温 度 圧 力： 140℃、0.2Mpa		第4類第2石油類(水溶性液体) 第2石油類 220L 0.11倍			
名 称： 蒸留、精留塔(スタビライザー、ストリップバー) 番 号 (101)				第4類第3石油類(非水溶性液体) 第3石油類 18,126,070L 9,063.04倍			
規 模： 直径2,900mm、高さ31,780mm				第4類第3石油類(水溶性液体) 第3石油類 880L 0.22倍			
14 発 生 箇 所				第4類第4石油類 潤滑油 18,440L 3.07倍			
名 称： 塔槽類本体 番 号 (105)				倍数の合計： 131,803.5倍			
材 質： その他				設 置 の 完 成： 昭和 47年 9月 16日			
15 発 生 時				直 近 の 完 成： 令和 5年 3月 22日			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)				17 物 質 の 区 分			
作 業 状 況： 番 号 ()				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
				5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
				(固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>)			
				(低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>)			
				分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ナフサ(8.5L)			
				18 取扱者の概要			
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 当所の施設管理グループ員が定期点検中にガス検知器の鳴動したため周囲を確認したところ、第3残油流動接触分解装置(3FC-C1)の塔頂部付近の側面より油漏えいを確認した。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化						着火原因						番号 ()																																																									
	関 連 原 因																																																																					
	発生原因の状況： 機器内面の状況を確認した結果、2019年の発生時と同様の腐食状況が認められ、今回も機器開放前の洗浄後の排水に塩素が検出されたことから、塩化アンモニウムの加水分解により塩酸が生成し、内面腐食が発生したことが原因の一つと推定する。また、腐食を進行させる管理的要因も含め複合的に調査中。																																																																					
	主原因の詳細																																																																					
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																																									
	腐食				環境				工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）																																																													
	関連原因の詳細																																																																					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																																						
27 人 的 被 害																		28 物的被害																																																				
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>区分</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>																		被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 漏油場所：第3残油流動接触分解装置(3FC-C1)本体塔頂部西側(地上高約35m)の保温材表面からナフサが漏油した。																	
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																																																
区分																																																																						
当 事 者	0	0	0	0																																																																		
防災活動従事者	0	0	0	0																																																																		
第 三 者	0	0	0	0																																																																		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		施設等の被害状況： 第3残油流動接触分解装置(3FC-C1)本体塔頂部に長さ4mm×幅3mmの開口部が認められた。																																																				
消 防 機 関 3 台 0 隻 0 機 8 人 自 衛 4 台 0 隻 0 機 20 人																		物質の被害状況： 第4類第1石油類及び第2石油類(非水溶性)：ナフサ約8.5Lが漏油(推定)																																																				
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																																						
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																																						
その他の機関 0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人																		損害額 1万円未満、 1万円以上 (10 万円)																																																				
30 実施した防災活動の状況																																																																						
公設消防機関：番号 (99) 調査活動																		自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 滞油回収及びスチーム置換作業																																																				
31 防災活動上の問題点																																																																						
行政措置	32 施設名									33 定期点検等	消 防 法				そ の 他																																																							
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	令和 5 年 5 月 16 日				年 月 日																																																							
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日				年 月 日																																																							
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日				年 月 日																																																							
	関係条項									34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無 内容：																																																											
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																																																
35 今後の対策や所見																		「今回の不具合部に対する対策」：部位毎に腐食率を評価して2024年定期修理工事まで運転を継続するために必要な板厚を下回る部位について、当て板または肉盛り溶接による肉厚回復を実施する。「水平展開」：原因結果を踏まえて、水平展開を実施する。所見：作業工程の見直しや腐食の進行原因を追究し、類似の事故防止に努めること。																																																				

1 事故名		第2スチレンモノマー製造設備、熱交換器チャンネルカバーフランジ部からの脱水素油漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		11月 13日 20時 40分 推定・ 確定					4 発生見		11月 13日 20時 40分				
5 覚知		11月 13日 21時 17分					6 鎮圧 応急処置完了		11月 13日 20時 55分				
7 鎮火・処理完了		11月 14日 3時 30分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：2.9m/s 気温：10℃ 湿度：74.1%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業(一貫して生産される誘導品を含む)	区 分：①. 事業所内 (製 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 大分地区石油コンビナート等防災地区												
	16 発生施設規制区分等												
	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン・アルキル化油 543, 180L 2, 715. 9倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 脱水素油・高沸 295, 990L 295. 99倍 点油・ポリエチルベンゼン・エチルベンゼン・ アルキル化残査油・スチレンモノマー・防食剤 第4類第2石油類(水溶性液体) 防食剤 410L 0. 21倍 第4類第3石油類(水溶性液体) 重合禁止剤 400L 0. 1倍 第4類第4石油類 潤滑剤 5, 600L 0. 93倍 第5類ニトロ化合物(第1種自己反応性物質) ジ・ニトロフェノール 470kg 47倍 倍数の合計： 3, 060. 13倍												
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：その他の芳香族系化合物製造装置 番 号 (5499)		設置の完成：昭和 57年 3月 10日 直近の完成：令和 5年 3月 1日											
能力：3, 017. 8倍/日		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0－40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：脱水素油(500L)											
温度圧力：75℃、0. 8Mpa		18 取扱者の概要											
名称：熱交換器 番 号 (301)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
規模：内径400mm、全長5, 780mm		21 危険物取扱者の の取扱・立会い											
14 発生箇所		①. 有 2. 無											
名称：その他の機器等本体 番 号 (199)													
材質：その他													
15 発生時													
運転状況：定常運転中 番 号 (1)													
作業状況：運転操作中 番 号 (1)													
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 第2スチレンモノマー製造設備内において、熱交換器(E-2401)チャンネルカバーフランジ部分より脱水素油が500L漏えいしたもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1, 8) 無 装置の緊急停止、防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等													

2 屋 内 貯 蔵 所

1 事故名		危険物倉庫で保管中のドラム缶の開孔により内容物のピリジンが漏えいした事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		6月 13日 13時 27分				推定・確定		4 発生見		6月 13日 13時 50分			
5 覚知		6月 13日 14時 10分				6 鎮圧 応急処置完了				6月 13日 17時 45分			
7 鎮火・処理完了		6月 13日 17時 50分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東南東 風速：2m/s 気温：28℃ 湿度：53%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵倉 番号 (4711) 庫業を除く) 倉庫業(冷蔵倉庫業を除く)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋内貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン等 48,000L 240倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン等 139,200L 348倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) キシレン等 79,200L 79.2倍 第4類第2石油類(水溶性液体) ビリジン等 108,000L 54倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ナフテン T-185E等 128,000L 64倍 第4類第3石油類(水溶性液体) NISSO-PB B1000等 144,000L 36倍 第4類第4石油類 NISSO-PB G-1000等 227,200L 37.87倍 第4類アルコール類 エタノール等 20,000L 50倍											
		倍数の合計：909.07倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 62年 4月 28日 直近の完成：平成 30年 12月 3日											
名称：貯蔵倉庫 番号 (1302)		17 物質の区分											
能力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(水溶性液体) 名称：ビリジン(2L)											
13 機器等		18 取扱者の概要											
温度圧力：													
名称：ドラム等容器 番号 (201)													
規模：200L 鉄製ドラム													
14 発生箇所													
名称：容器本体 番号 (108)													
材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：貯蔵・保管中 番号 (7)													
作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 倉庫内で保管していたドラム缶の下部側面の輪帯部に発生したピンホールからビリジンが約2L漏えいしたもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

原因	25 主 原 因 不明					着火原因					番号 ()				
	関 連 原 因														
	発生原因の状況： 荷主がドラム缶を破棄したため、詳細は不明となった。 推定原因としては、当該ドラム缶は再生ドラムであり、内部を洗浄後、内部検査に合格したものを塗装、出荷されるものである。その際、ドラムの錆部分にピンホールがあった場合、内部検査をクリアすることが稀にあり、塗装で塞がれたピンホールが振動等で錆の剥がれとともに露呈し、内容物がにじみ出てくる可能性は考えられる。 今回の事例は、事故当日にドラム缶を移動した際に、ピンホール部分の塗装が剥がれ、漏えいに至ったと推定している。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	関連原因の詳細														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人 的 被 害										28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 倉庫内に漏えい物が留まる							
当 事 者		0	0	0	0										
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： ドラム缶下部側面に1.5mm～2mmのピンホール							
第 三 者		0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	10 台	0 隻	0 機	26 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	3 人	物質の被害状況： ピリジン 約2L					
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人						
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	7 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)					
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99) 情報収集										自衛防災・消防組織等 番号 (5) 警戒筒先の配備。					
31 防災活動上の問題点															
行政措置	32 施設名							33 定期点検等	消 防 法			そ の 他			
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日			年 月 日			
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日			年 月 日			
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日			年 月 日			
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：						
	そ の 他	年 月 日			年 月 日										
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策 や所見		入庫時の検品・保管中のパトロールを強化し、漏えい・臭い等の異常があった場合はの通報体制を整備する。													

1 事故名		屋内貯蔵所において容器のドラム缶が穿孔し内容物が漏えいしたもの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		10月 17日 8時 30分	
5 覚 知		10月 17日 16時 36分		6 鎮 圧 応急処置完了		10月 17日 9時 00分	
7 鎮火・処理完了		10月 17日 9時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北 風速：6m/s 気温：18℃ 湿度：69%					
10 発 生 事 業 所		種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所	
12 施 設 装 置						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋内貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) メチルシクロヘキサン 1,800L 9倍	
						倍数の合計： 9倍	
14 発 生 箇 所		名 称：容器本体 番 号 (108)		材 質：鋼鉄		設置の完成：令和 4年 9月 20日 直近の完成：令和 4年 9月 20日	
15 発 生 時		運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)		作 業 状 況：点検中 番 号 (5)		17 物 質 の 区 分	
						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：メチルシクロヘキサン(104L)	
						18 取扱者の概要	
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
						21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
						①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 屋内貯蔵所にメチルシクロヘキサンをドラム缶で貯蔵していたところ、点検時にドラム缶の底部から漏えいしているのを発見した。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化						着火原因						番号 ()																																												
	関 連 原 因 操作確認不十分																																																								
	発生原因の状況：																																																								
	ドラム缶内部の防食コーティングが剥がれていたところが穿孔しており、内容物の水分により腐食したと推測される。また、ドラム缶に注入する際、ノズルを底部に接触させ、コーティングを損傷させたことも考えられる。																																																								
	主原因の詳細																																																								
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																												
	腐食				防食				防食塗装・被覆剥離(工事等により損傷)																																																
原	関連原因の詳細																																																								
	人				本人の意識				思慮				配慮不足																																												
因																																																									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																									
27 人的被害												28 物的被害																																													
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>												被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 屋内貯蔵所内																	
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																																			
当 事 者	0	0	0	0																																																					
防災活動従事者	0	0	0	0																																																					
第 三 者	0	0	0	0																																																					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												物質の被害状況：																																													
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>1 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>5 人</td> <td>自 衛</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>その他</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> </table>												消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	第1石油類 メチルシクロヘキサン104L					
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																
その他の機関 0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人												損害額 1万円未満、 1万円以上 (30 万円)																																													
30 実施した防災活動の状況																																																									
公設消防機関：番号 (99)												自衛防災・消防組織等 番号 (5)																																													
調査活動												回収作業																																													
31 防災活動上の問題点																																																									
32	施 設 名									33 定 期 点 検 等				消 防 法				そ の 他																																							
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検				年 月 日				年 月 日																																							
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等				年 月 日				年 月 日																																							
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保 安 検 査				年 月 日				年 月 日																																							
	関係条項									34 当該施設に係る法令違反の有無				有・ 無																																											
	そ の 他	年 月 日				年 月 日								内容：																																											
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭																																																									
35 今後の対策や所見																																																									
水分分離してからドラム缶に注入する工程とし、腐食が起こらないようにする。 注入時にノズルが内部に触れないよう工程を見直す。																																																									

令和5年

1 事故名		屋内貯蔵所においてドラム缶からメチルシクロヘキサンが漏えいしたもの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		10月 25日 12時 20分	
5 覚知		10月 25日 12時 30分		6 鎮圧 応急処置完了		10月 25日 12時 35分	
7 鎮火・処理完了		10月 25日 12時 35分					
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：曇 風向：北 風速：3m/s 気温：17.4℃ 湿度：71%					
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <u>第2種</u> 、その他) 業態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵倉庫番号(4711) 倉庫業を除く) 倉庫業(冷蔵倉庫業を除く)				11 発生場所	
12 施設装置						区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋内貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 その他 600L 12倍 第4類アルコール類 その他 120,000L 300倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) その他 200,000L 1,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) その他 600,000L 600倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) その他 800,000L 400倍 第4類第4石油類 その他 570,000L 95倍	
						倍数の合計：2,407倍	
名称：貯蔵倉庫 番号(1302)		能力：2,320,000L		13 機器等		温度圧力：	
名称：ドラム等容器 番号(201)		規模：200L		14 発生箇所		設置の完成：平成16年 5月 11日 直近の完成：平成16年 5月 11日	
名称：容器本体 番号(108)		材質：鋼鉄		17 物質の区分		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：メチルシクロヘキサン(188L)	
15 発生時		運転状況：荷卸中 番号(13)		作業状況：運転操作中 番号(1)		18 取扱者の概要	
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 荷卸しのためにドラム缶を屋内貯蔵所から搬出したところ、ドラム缶がほとんど空の状態であり、漏えいしたものと推測する。							
24 緊急処置の状況 有 番号() <u>無</u>							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化										着火原因										番号 ()																								
	関 連 原 因 操作確認不十分																																												
	発生原因の状況：																																												
	ドラム缶を調査したところ、内面のコーティングが剥がれており、当該箇所が穿孔していた。内容物をドラム缶に注入する際にノズルを底部に付けた状態で行っていたことから、ノズルによりコーティングが剥がれ、内容物により腐食し穿孔したと推測する。																																												
	主原因の詳細																																												
	第Ⅰ層					第Ⅱ層					第Ⅲ層					第Ⅳ層																													
	腐食					防食					防食塗装・被覆剥離(工事等により損傷)																																		
原	関連原因の詳細																																												
	人					本人の意識					思慮					配慮不足																													
因	26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																												
	27 人的被害										28 物的被害																																		
	被害内容等					死亡					重症					中等症					軽症					死傷原因					職業又は職名					被災影響範囲及び拡大の状況：									
	区分																																												
	当 事 者					0					0					0					0																								
	防災活動従事者					0					0					0					0																								
	第 三 者					0					0					0					0																								
	29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																												
	消 防 機 関					2 台 0 隻 0 機 5 人					自 衛					0 台 0 隻 0 機 0 人					物質の被害状況：					第一石油類 メチルシクロヘキサン 約188L																			
	消 防 団					0 台 0 隻 0 機 0 人					共 同					0 台 0 隻 0 機 0 人																													
海上保安部					0 台 0 隻 0 機 0 人					応 援					0 台 0 隻 0 機 0 人																														
その他の機関					0 台 0 隻 0 機 0 人					そ の 他					0 台 0 隻 0 機 0 人					損害額 1万円未満、 1万円以上 (50 万円)																									
30 実施した防災活動の状況																																													
公設消防機関：番号 (99)										自衛防災・消防組織等 番号 ()																																			
調査活動																																													
31 防災活動上の問題点																																													
32	施 設 名										33 定 期 点 検 等					消 防 法					そ の 他																								
	使用停止					年 月 日					年 月 日					定期・自主点検					年 月 日					年 月 日																			
	改善命令等					年 月 日					年 月 日					気密試験等					年 月 日					年 月 日																			
	停止解除					年 月 日					年 月 日					保 安 検 査					年 月 日					年 月 日																			
	関係条項															34 当該施設に係る法令違反の有無					有・ 無					内容：																			
	そ の 他					年 月 日					年 月 日																																		
						1. 文書 2. 口頭					1. 文書 2. 口頭																																		
35 今後の対策や所見										ドラム缶に注入する際にノズルを底部に接触させないようにする。																																			

令和5年

1 事故名		屋内貯蔵所で製品を積載したパレットから製品1缶を転倒させ、危険物流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		9月 16日 16時 40分				[推定]・確定		4 発 見		9月 16日 16時 40分			
5 覚 知		9月 16日 17時 50分				6 鎮 圧 応急処置完了				9月 16日 18時 05分			
7 鎮火・処理完了		9月 16日 18時 05分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 南西 風速： 4.2m/s 気温： 32℃ 湿度： 53%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵倉 番 号 (4711) 庫業を除く) 倉庫業(冷蔵倉庫業を除く)		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類引火性固体 スチレン 68,000kg 68倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸ブチル 300,000L 1,500倍 第4類第1石油類(水溶性液体) チャ乾留液 5,000L 12.5倍 第4類アルコール類 エタノール 349,000L 872.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) キシレン 343,000L 343倍 第4類第2石油類(水溶性液体) グリセリン 9,700L 4.85倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) トール油脂脂肪酸 180,000L 90倍 第4類第3石油類(水溶性液体) エチルヘキサノール 4,000L 1倍 第4類第4石油類 マシ油 70,000L 11.67倍 倍数の合計： 2,903.52倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称： 貯蔵倉庫 番 号 (1302)		名 称： 容器本体 番 号 (108)											
能 力：		材 質： ステンレス											
13 機 器 等		温 度 圧 力：											
名 称： ドラム等容器 番 号 (201)		17 物 質 の 区 分											
規 模： 5L缶		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(水溶性液体) 名称： フロロコール2%液(5L)											
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要											
名 称： 容器本体 番 号 (108)		経験年数13年											
材 質： ステンレス		19 危険物保安統括管理者											
15 発 生 時		20 危険物保安監督者											
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		21 危険物取扱者の取扱・立会い											
		1. 有 ②. 無											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 令和5年9月9日に発生した北側敷地の倉庫火災の影響を受けた当該製品等を積載したパレット17枚を9月15日15時20分頃に屋内貯蔵所北側常温倉庫から南側定温倉庫ヘリーチ型リフトで移動。翌日9月16日16時30分頃から再度パレットの小移動を開始し、3～4回移動させた16時45分頃、床に液が漏れていたため、リーチ型リフトから降りて確認したところ、第4類第3石油類(非水溶性)「フロロコール2%液」5L缶1本が床に転倒しており、5Lすべて流出していることを発見。上長へ報告し、ウエスで油を拭き取り空のペール缶に詰め、水を入れて保管。17時50分頃、上長から消防署へ通報があり、18時45分警防担当が現地確認。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

原因	25	主 原 因 操作確認不十分				着火原因				番号 ()																													
	関 連 原 因 維持管理不十分																																						
	発生原因の状況： 危険物取扱者の立会いが必要な屋内貯蔵所において、資格も立会いもない状態で従業員がリーチ型リフトで危険物製品を積載したパレットを移動させ、移動後も保安監督者等が確認を怠り、漏えいの早期発見ができなかった。また、製品の転倒防止としてロープを巻いていたが不十分であり、ラップ巻き等の確実な転倒防止策を徹底できていなかった。																																						
	主原因の詳細																																						
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																													
	人			本人の意識			思慮			不注意																													
	管理			監督			監視			監視が実施されない/不足																													
	関連原因の詳細																																						
	環境			物理的環境			作業スペース			その他																													
因																																							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																							
27 人的被害								28 物的被害																															
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 屋内貯蔵所内			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																	
当 事 者	0	0	0	0																																			
防災活動従事者	0	0	0	0																																			
第 三 者	0	0	0	0																																			
								施設等の被害状況： なし																															
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																							
消 防 機 関 1 台 0 隻 0 機 3 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人								物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)「フロロコール2%液」 5L流出																															
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																							
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																							
その他の機関 0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人																																							
30 実施した防災活動の状況								損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)																															
公設消防機関：番号 (99) 令和5年9月16日(土)18時45分頃、救助隊が現地到着。到着時には事業所により危険物漏えいの処理はすべて完了しており、処理の状況を確認。また、以下について指導。 ・ペール缶に入れた漏えい危険物を拭き取ったウエス等は密閉し、熱を避け、一般ごみではなく産業廃棄物として処理すること。 ・他の商品の転倒防止及び漏えい拡大しないよう2次災害の防止措置をとること。 ・災害発生届に顛末書及び再発防止策を添付して届け出ること。								自衛防災・消防組織等 番号 ()																															
31 防災活動上の問題点																																							
行政措置	32	施設名	屋内貯蔵所		33	定期点検等	消 防 法	そ の 他																															
	行	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年12月22日	年 月 日																																
		改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日																															
		停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日																															
		関係条項																																					
	置	そ の 他	令和5年9月16日	年 月 日	34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無																																	
1. 文書 ②. 口頭		1. 文書 2. 口頭	内容： ・危険物免状のない従業員の危険物取扱について、保安監督者等の危険物取扱者が立会いをしていなかった ・パレット積載製品の転倒防止措置が不十分																																				
35		今後の対策 や所見 ・顛末書と再発防止対策の提出を指導する。																																					

3 屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所から一般取扱所への送油配管の腐食による重油漏えい事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		3月 24日 9時 40分	
5 覚 知		3月 24日 11時 11分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		3月 24日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了		4月 17日 10時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北西 風速：8.1m/s 気温：6.2℃ 湿度：81.9%					
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 パルプ・紙・紙加工品製 番 号 (1521) 造業 紙製造業 洋紙製造業		11 発 生 場 所		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 588,000L 294倍 倍数の合計：294倍 設置の完成：昭和 49年 3月 27日 直近の完成：令和 元年 7月 8日	
12 施 設 装 置							
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：588,000L							
13 機 器 等 温 度 圧 力：							
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：配管直径150A							
14 発 生 箇 所		17 物 質 の 区 分		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(500L)			
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄							
15 発 生 時							
運 転 状 況：その他 番 号 (99)		18 取扱者の概要		経験年数10年			
作 業 状 況：その他 番 号 (99)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所から一般取扱所への送油配管において重油の漏えいがあったもの。漏えい箇所にあつてはポンプ室北側のコンクリート内に砂が詰め込まれた塀の中を配管が貫通する場所で、貫通したコンクリート塀の内部で漏えいし、塀の上部及び配管の貫通部から重油の流出痕を確認する。発見時、屋外タンクの内部に重油は入っておらず、3日前にポンプを停止し、配管内の重油は残留しているが流れは停止している状態であった。漏えいした量は土中に浸透しているため不明であるが、地面に約6m×6mの範囲において漏えい痕を確認する。作業員が配管の点検を実施していたところ漏えいを発見したもの。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化 着火原因 番号 ()							
	関 連 原 因 監視不十分							
	発生原因の状況： 配管が貫通するコンクリート塀の天板部に亀裂があり、その亀裂部分に雨水等が入り腐食が進行したものと推測される。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	腐食	環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）				
	関連原因の詳細							
	環境	物理的環境		作業スペース		その他		
	因							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内において、漏えいした配管の周囲約6m四方に流出痕を確認する。敷地外及び河川等への流出なし。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 重油約500Lを流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	3 台 0 隻 0 機 6 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 火災危険及び流出拡大危険なし。 情報収集及び状況確認を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 応急処置として吸着マット敷き詰め、漏えい箇所上部に雨養生実施後、汚染土の除去。		
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 2 月 28 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策や所見 配管がコンクリート壁に囲まれた砂の内部を通過しないよう経路変更する。								

令和5年

1 事故名		屋外貯蔵タンクからボイラーへの地上配管のピンホールから重油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		4月 10日 18時 30分				推定・確定		4 発生見		4月 11日 9時 00分	
5 覚知		4月 12日 10時 40分				6 鎮圧 応急処置完了		4月 11日 13時 30分			
7 鎮火・処理完了		4月 18日 13時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：東南東 風速：1.6m/s 気温：13℃ 湿度：46%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 木材・木製品製造業(家番号 (1322) 具を除く) 造作材・合板・建築用組立材料製造業 合板製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 50,000L 25倍									
12 施設装置		設置の完成：昭和 39年 10月 22日 直近の完成：昭和 58年 7月 13日									
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)											
能力：50,000L											
13 機器等		温度圧力：									
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		倍数の合計：25倍									
規模：直径50mm											
14 発生箇所											
名称：その他の附属配管等 番号 (299)		17 物質の区分									
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(340L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：定常運転中 番号 (1)		経験年数28年									
作業状況： 番号 ()											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 屋外貯蔵タンク本体からボイラーへ供給するための地上配管にピンホールが発生し流出したもの。 施設管理者が発見後に元バルブを閉鎖、配管施工業者へ連絡し、当該部位を応急的にクランプする措置をとった。 翌日に消防へ通報があり、現地調査を実施。4月18日に土壌入替と配管交換を実施。 敷地外への流出なし、死傷者なし。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因		維持管理不十分					
	発生原因の状況：		地上配管とその支持物の摩擦及び錆により減肉が起き、ピンホールを発生させ漏えいに至ったもの。					
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	腐食	防食	防食無し（耐腐食性の材料を使用せず）					
	関連原因の詳細							
	設備	監理・保守	点検・整備		点検していない/不足			
	因							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害							28 物的被害	
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 無
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	A重油約340Lが流出				
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (3 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点 発見時に通報はなく、応急処置を実施した翌日に通報に至った。								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35	今後の対策や所見	地上配管の目視点検を週1回以上実施する。 また、本事案発生後に交換した配管と同系列の配管についても、早期に予算措置し交換予定。						

1 事故名		スロップ配管からの危険物漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		6月 3日 11時 20分	
5 覚知		6月 3日 11時 37分		6 鎮圧 応急処置完了		6月 3日 13時 20分	
7 鎮火・処理完了		6月 3日 13時 53分					
8 覚知別		1. 119 ②. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：雨 風向：北 風速：3.1m/s 気温：15℃ 湿度：87%					
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)				11 発生場所	
12 施設装置 名称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能力：40,356kL 13 機器等 名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規模：直径8インチ 板厚12.7mm 14 発生箇所 名称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材質：鋼鉄 15 発生時 運 転 状 況：受入中 番 号 (9) 作 業 状 況： 番 号 ()						区 分：①. 事業所内 (製、 <u>貯</u> 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 苫小牧地区	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) <u>スロップ</u> オイル 40,356,000L 201,780倍	
						倍数の合計：201,780倍 設置の完成：昭和 49年 7月 3日 直近の完成：平成 29年 5月 30日	
17 物質の区分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： <u>スロップ</u> オイル(500L)					
18 取扱者の概要							
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
21 危険物取扱者の取扱・立会い				22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		①. 有 2. 無	
23 事故の概要： 従業員が屋外タンク貯蔵所付近を定期巡回中、油の臭気を感じた。周囲を調査したところ、屋外タンク貯蔵所近傍にある地上約2mを水平に敷設している8インチの配管の保温板金の接続部2か所から危険物と思われる液体が直径1cmの細さで継続的に漏えいしているのを発見した。漏えいしている液体に関しては、硫化水素臭が強く、やや黒みがかった低粘度の様相を示しており、危険物であることが予想された。上司に無線にて報告し、構内一斉指令放送にて周知した。その後、指令を覚知した宿日直者が防災無線及び119番へ通報した。漏えいしている2か所の直下にオイルパンを配置し地盤への浸透を防止した。配管内の危険物に関しては、漏えい箇所を孤立後、配管ベントから窒素を送気し屋外タンク貯蔵所へ圧送した。漏えい停止後、保温板金を解体したところ配管上部に直径約2mm及び3mmの円形状の開孔を発見した。配管外面の塗装は健全で腐食は一切認められなかった。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化					着火原因					番号 ()				
原 因	関 連 原 因														
	発生原因の状況： 硫黄化合物に酸素が混合したことによるコロージョン。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層		
	腐食				環境				工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）						
	関連原因の詳細														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人 的 被 害										28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油約5Lが配管直下の防油堤内の地盤面に浸透した。残りの495Lに関してはペール缶にて回収。							
当 事 者		0	0	0	0										
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管保温材汚損							
第 三 者		0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	9 台 0 隻 0 機 31 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 236 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)スロップオイル 500L流出											
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	2 台 0 隻 0 機 5 人												
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人												
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、1万円以上)(13 万円)											
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99) 調査活動										自衛防災・消防組織等 番号 (5、4) 流出防止措置、回収作業					
31 防災活動上の問題点															
32 施設名									33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 5 月 11 日		年 月 日					
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日					
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		平成 30 年 5 月 2 日		年 月 日					
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無		内容：					
	そ の 他	年 月 日		年 月 日											
35 今後の対策や所見 超音波板厚測定を4年毎に実施するほか、今後の点検結果により配管内部のモルタルライニング、材質・板厚のグレードアップを検討する。また、今後の事業所への点検指導については設備の下部や湿潤環境になりやすい箇所のみではなく、腐食作用のあるガスについても考慮するよう指導したい。															

令和5年

1 事故名		屋外貯蔵タンクから一般取扱所に移送する配管(フレキシブル継手配管接合箇所)から重油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		6月 21日 9時 30分				推定・ 確定		4 発生見		6月 23日 8時 30分	
5 覚知		6月 27日 10時 00分				6 鎮圧 応急処置完了				6月 27日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了		7月 12日 12時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南東 風速：2m/s 気温：20℃ 湿度：51%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：公務(他に分類されないもの) 番号 (9531) 国家公務 行政機関 行政機関		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 21,600L 10.8倍									
12 施設装置		設置の完成：平成 28年 3月 3日 直近の完成：年 月 日 倍数の合計：10.8倍									
名称：その他【分類なし】 番号 (9999) 能力：重油21,600L											
13 機器等											
温度圧力：											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規模：直径50mm											
14 発生箇所		17 物質の区分									
名称：フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番号 (202) 材質：ステンレス		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(7,450L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：停止中 番号 (5) 作業状況： 番号 ()											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所から一般取扱所に移送する配管(フレキシブル継手配管接合箇所)からA重油7,450Lが漏えいし、配管を敷設している地盤面下コンクリート製U字溝の継ぎ目から地中に流出したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

25	主 原 因 施工不良										着火原因										番号 ()																																				
	関 連 原 因																																																								
	発生原因の状況： コンクリート製U字溝に敷設された重油移送配管とフレキシブル継手の接合不良がある状況で、設備定期点検のため移送ポンプを作動させ配管内の流体移動が端緒となり、移送ポンプ停止後もサイフォン効果により接合箇所から流出し続けたものと推定する。																																																								
	主原因の詳細																																																								
	第Ⅰ層										第Ⅱ層										第Ⅲ層										第Ⅳ層																										
	施工不良										施工										ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）																																				
	関連原因の詳細																																																								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																									
27 人的被害															28 物的被害																																										
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>															被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重油が事業所内の地中に浸透したもの。														
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																																			
当 事 者	0	0	0	0																																																					
防災活動従事者	0	0	0	0																																																					
第 三 者	0	0	0	0																																																					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															施設等の被害状況： なし																																										
消 防 機 関 0 台 0 隻 0 機 0 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人															物質の被害状況：																																										
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人															第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油7, 450L流出																																										
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																									
その他の機関 0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人															損害額 1万円未満、 1万円以上 (66 万円)																																										
30 実施した防災活動の状況																																																									
公設消防機関：番号 ()															自衛防災・消防組織等 番号 ()																																										
31 防災活動上の問題点 発見時には消防へ通報はなく、事後聞知となった。																																																									
32	施 設 名											33 定 期 点 検 等	消 防 法										そ の 他																																		
	使用停止	年 月 日											定期・自主点検	年 月 日										年 月 日																																	
	改善命令等	年 月 日												気密試験等	年 月 日										年 月 日																																
	停止解除	年 月 日													保 安 検 査	年 月 日										年 月 日																															
	関係条項											34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：																																												
	そ の 他	年 月 日																																																							
35 今後の対策 や所見															ポンプ稼働後には、配管点検を実施し、事故後は直ちに消防へ連絡することを徹底すること。																																										

令和5年

1 事故名		浮屋根式屋外タンク貯蔵所のルーフドレン設備から防油堤内にスロップオイルの流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		8月 17日 22時 42分				[推定]・確定		4 発生見		8月 17日 23時 10分	
5 覚知		8月 17日 23時 34分				6 鎮圧 応急処置完了		8月 17日 23時 11分			
7 鎮火・処理完了		8月 18日 17時 00分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：西南西 風速：1.2m/s 気温：23.8℃ 湿度：78%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 苫小牧									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) スロップ 9,990,000L 49,950倍									
12 施設装置		倍数の合計： 49,950倍 設置の完成：昭和 48年 8月 23日 直近の完成：平成 30年 5月 28日									
名称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能力：9,990kL											
13 機器等											
温度圧力：31.1℃		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：スロップ (19,000L)									
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107)											
規模：内径27.3m、高さ19.515m、容量9,990kL											
14 発生箇所		18 取扱者の概要									
名称：ドレンノズル 番 号 (208)											
材質：その他											
15 発生時		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
運転状況：定常運転中 番 号 (1)											
作業状況： 番 号 ()											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 屋外タンクの液面監視装置が液面の低下を感知し警報を発した。従業員が現地を確認したところルーフドレン口から油と思われる液体が約10L/秒の勢いで流出していた。従業員は直ちにルーフドレン弁閉鎖の指示を出し、約1分後に弁が閉鎖され流出は止まった。流出した油は横幅25.5m、奥行13mの範囲で防油堤内地盤面上に滞留した。油は土砂も含め回収され、施設外への流出はない。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送											

原因	25 主 原 因		設計不良		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： ルーフドレン配管のアルミメッキがスロップタンクという特性上強腐食性物質が高濃度に存在する環境下において、アルミ成分が溶出し配管母材が剥き出しとなってしまう、急速に腐食が進行し開孔したことによりタンク内の危険物が外部に漏えいしたものの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	設計不良		材料		使用材料の耐食性不足					
	関連原因の詳細									
因										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が防油堤内地盤に横幅25.5m、奥行き13mにわたり拡散した		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ルーフドレン配管一部腐食開孔		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	10 台	0 隻	0 機	35 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	153 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	3 台	0 隻	0 機	6 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)スロップ 19,000L流出										
損害額 1万円未満、 1万円以上 (151 万円)										
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 監視						自衛防災・消防組織等 番号 (5、4) 流出防止措置、回収作業				
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年	月	日	年					月
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		対策としてルーフドレン配管の塗装には実績のある亜鉛メッキ若しくはガラスフレイクライニング等を施工する。今回の漏えいの要因となったアルミメッキは一般的に耐久性の高い塗装であるとのデータが得られているが、複合的な要因によりアルミニウムが破壊されてしまうことがわかった。机上で得られたデータを簡単に信用するのではなく、違う結果となる可能性を予測してリスクアセスメントを実施することの必要性を感じた。								

令和5年

1 事故名		送油配管からの重油漏えい事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		1月 21日 11時 00分	
5 覚 知		1月 23日 9時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了		1月 21日 11時 20分	
7 鎮火・処理完了		1月 21日 12時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：雪 風向：東北東 風速：1m/s 気温：-6.5℃ 湿度：					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：	1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)		区 分：		①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
	業 態：公務(他に分類されないもの) 番 号 (9611) 地方公務 都道府県機関 都道 府県機関		特別防災地区名：				
			16 発生施設規制区分等				
12 施 設 装 置				施設区分：		① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他	
名 称：		固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)		貯蔵・取扱・運搬の別：		貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所	
能 力：				類・品名・名称・数量・倍数：			
13 機 器 等		温 度 圧 力：		第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 4,000L 2倍			
名 称：		貯槽(タンク) 番 号 (107)		倍数の合計：		2倍	
規 模：		4,000L		設置の完成：		令和 3年 5月 31日	
14 発 生 箇 所				直近の完成：		令和 3年 5月 31日	
名 称：		その他の附属配管等 番 号 (299)		17 物 質 の 区 分			
材 質：		鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
15 発 生 時				5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
運 転 状 況：		休止中 番 号 (6)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)			
作 業 状 況：		その他 番 号 (99)		(低温、常温 [0-40℃]、高温)			
				分 類：		第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(100L)	
18 取扱者の概要							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
21 危険物取扱者 の取扱・立会い						①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事故の概要： 現在、機器の更新中であり、令和4年10月31日から稼働していないものであり、屋外タンクの根元からポンプ側への配管はブラインド 処理されており配管内には重油は入っていないものである。1月18日に配管の気密試験を実施したところエア漏れを確認する。後日、漏 れのあった箇所を掘り起こしたところ油臭を確認する。機器の更新時期を考慮し、漏えい量は約100Lと推定する。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 完成検査時から30年以上が経過し、配管の老朽化と土壌の水分により腐食が発生し漏えいしたと推定する。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 無し
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:2,000 第3石油類				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 調査					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施 設 名			33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見								
機器を更新し、再発防止を講じた。								

令和5年

1 事故名		屋外タンクから一般取扱所ディーゼル発電機サービスタンクへの配管の腐食による軽油の流出												
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()												
3 発生		3月 20日 0時 00分			[推定]・確定		4 発生見		3月 20日 21時 08分					
5 覚知		3月 20日 22時 34分			6 鎮圧 応急処置完了				3月 20日 21時 45分					
7 鎮火・処理完了		3月 20日 23時 00分												
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()												
9 気象状況		天気：晴 風向：西北西 風速：1.6m/s 気温：7℃ 湿度：80.7%												
10 発生事業所					11 発生場所					区 分：①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 23,000L 23倍 倍数の合計：23倍 設置の完成：平成 2年 7月 25日 直近の完成：平成 24年 1月 18日 17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(250mL) 18 取扱者の概要 19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 非鉄金属製造業 非鉄 番 号 (2411) 金属第1次製錬・精製業 銅第1 次製錬・精製業 12 施設装置 名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：容量 23,000L 13 機 器 等 温 度 圧 力： 名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：内径2,615mm、高さ4,580mm 14 発生箇所 名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄 15 発生時 運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()														

22 設備・機器等の概要：
オンラインファイル無

23 事故の概要：
3月20日21時8分、巡回中の警備員が異臭に気づき、屋外タンク貯蔵所附属配管サポートのU字金具付近から腐食による穿孔により軽油が防油堤内に漏えいしているのを発見。なお、同日14時40分の施設点検時は異常なし。配管漏えい部にアルミホイル、吸着マット、受け皿により拡散防止措置を実施、21時45分に弁閉止による縁切り処置も併せて実施。

24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無
その他

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因								
	発生原因の状況： 配管と配管サポートのU字金具の接触部分(土台部分)に水分が堆積、腐食が発生し、穿孔により漏えいした。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人 的 被 害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管直下部分に軽油250mL漏えい 漏えいはタンクヤードの堰内に留まっていることから周囲への漏えい拡大はなし	
区分									
当 事 者	0	0	0	0					
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管と配管サポートのU字金具の接触部分(土台部分)の穿孔(約1mm程度)	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	30 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	2 人
30 実施した防災活動の状況						物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)250mL			
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 配管弁閉止による縁切り措置、吸着マット及び受け皿による拡散防止措置			
31 防災活動上の問題点									
行政措置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	令和4年12月1日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策や所見		漏えい箇所の配管を取り換えるとともに、原因調査と再発防災対策を指導した。							

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所附属注入口からの漏えい事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		11月 1日 0時 00分				推定・確定		4 発生見		11月 1日 10時 01分			
5 覚知		11月 1日 10時 26分				6 鎮圧 応急処置完了				11月 1日 10時 20分			
7 鎮火・処理完了		11月 1日 12時 02分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：快晴 風向：東北東 風速：1m/s 気温：17.1℃ 湿度：82.6%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 非鉄金属製造業 非鉄番号 (2422) 金属第2次製錬・精製業(非鉄金属合金製造業を含む) 亜鉛第2次製錬・精製業(亜鉛合金製造業を含む)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 23,000L 23倍											
12 施設装置		倍数の合計：23倍 設置の完成：平成 2年 7月 25日 直近の完成：平成 24年 1月 18日											
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201) 能力：容量 23,000L													
13 機器等		温度圧力：											
名称：貯槽(タンク) 番号 (107) 規模：内径2,615mm、高さ4,580mm													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：タンクの注入口 番号 (905) 材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(45mL)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：貯蔵・保管中 番号 (7) 作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 11月1日10時01分頃から、施設の職員が巡回点検中に屋外タンク貯蔵所の注入口下部の貯留設備内に軽油が漏えいしていることを発見。 注入口仕切弁が締め切っていることを確認するとともに、吸着マット、界面活性剤により拡散防止措置を実施。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 破 損						着火原因						番号 ()																																																						
	関 連 原 因																																																																		
	発生原因の状況： 注入口(回転式)の蓋が閉められており、かつ、注入口仕切弁が締め切っていることを確認していることから、注入口のゴムパッキンの経年劣化により漏えいしたものの。																																																																		
	主原因の詳細																																																																		
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																																						
	疲労・劣化				素材等の劣化				長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）																																																										
	関連原因の詳細																																																																		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																																			
27 人 的 被 害																																																																			
28 物的被害																																																																			
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> <th colspan="11">被災影響範囲及び拡大の状況： 注入口直下部分に軽油約45mL漏えい。 漏えいは注入口直下の溜めます部分に留まっており周囲への漏えい拡大は無し。</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td colspan="11" rowspan="3">施設等の被害状況： 配管直下部分への軽油付着</td> </tr> <tr> <td>防 災 活 動 従 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>																		被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 注入口直下部分に軽油約45mL漏えい。 漏えいは注入口直下の溜めます部分に留まっており周囲への漏えい拡大は無し。											当 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管直下部分への軽油付着											防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0		
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 注入口直下部分に軽油約45mL漏えい。 漏えいは注入口直下の溜めます部分に留まっており周囲への漏えい拡大は無し。																																																												
当 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管直下部分への軽油付着																																																												
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0																																																															
第 三 者	0	0	0	0																																																															
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																																			
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>3 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>9 人</td> <td>自 衛</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>9 人</td> <td colspan="8" rowspan="4">物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油約45mL漏えい</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>そ の 他</td> <td>1 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>2 人</td> </tr> </table>																		消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	9 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油約45mL漏えい								消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	1 台	0 隻	0 機	2 人		
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	9 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油約45mL漏えい																																																									
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																										
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																										
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	1 台	0 隻	0 機	2 人																																																										
損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																																																																			
30 実施した防災活動の状況																																																																			
<table border="1"> <tr> <td colspan="10">公設消防機関：番号 (99) 調査活動(周囲への漏えい状況等確認)</td> <td colspan="8">自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 吸着マット、界面活性剤による拡散防止措置</td> </tr> </table>																		公設消防機関：番号 (99) 調査活動(周囲への漏えい状況等確認)										自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 吸着マット、界面活性剤による拡散防止措置																																							
公設消防機関：番号 (99) 調査活動(周囲への漏えい状況等確認)										自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 吸着マット、界面活性剤による拡散防止措置																																																									
31 防災活動上の問題点																																																																			
32 施 設 名																																																																			
33 定 期 点 検 等																																																																			
消 防 法																																																																			
そ の 他																																																																			
<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">行 政 措 置</td> <td>使用停止</td> <td>年 月 日</td> <td>年 月 日</td> <td rowspan="4">34 当該施設に係る 法令違反の有無</td> <td rowspan="4">有・<u>無</u> 内容：</td> </tr> <tr> <td>改善命令等</td> <td>年 月 日</td> <td>年 月 日</td> </tr> <tr> <td>停止解除</td> <td>年 月 日</td> <td>年 月 日</td> </tr> <tr> <td>関係条項</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">そ の 他</td> <td>年 月 日</td> <td>年 月 日</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>																		行 政 措 置	使用停止	年 月 日	年 月 日	34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：	改善命令等	年 月 日	年 月 日	停止解除	年 月 日	年 月 日	関係条項			そ の 他		年 月 日	年 月 日																															
行 政 措 置	使用停止	年 月 日	年 月 日	34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：																																																														
	改善命令等	年 月 日	年 月 日																																																																
	停止解除	年 月 日	年 月 日																																																																
	関係条項																																																																		
そ の 他		年 月 日	年 月 日																																																																
<table border="1"> <tr> <td>1. 文書 2. 口頭</td> <td>1. 文書 2. 口頭</td> </tr> </table>																		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭																																																
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭																																																																		
35 今後の対策 や所見																																																																			
注入口の漏えい原因調査及び再発防止対策を指導した。																																																																			

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所から一般取扱所への送油管取替工事中の灯油・重油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		11月 20日 12時 00分				[推定]・確定		4 発生見		11月 20日 14時 30分	
5 覚知		11月 20日 15時 02分				6 鎮圧 応急処置完了				11月 20日 17時 30分	
7 鎮火・処理完了		12月 19日 10時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気： あられ 風向： 西北西 風速： 2.6m/s 気温： 6.3℃ 湿度： 72%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 50,000L 50倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 30,000L 15倍									
		倍数の合計： 65倍									
12 施設装置		14 発生箇所									
名称： 固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)		設置の完成： 昭和 47年 7月 24日 直近の完成： 昭和 47年 9月 26日									
能力： 灯油50kL 重油30kL		17 物質の区分									
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油									
温度圧力：		18 取扱者の概要									
名称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
規模： 40A		21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無									
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要									
名称： 給油管等 番号 (907)		20 危険物保安監督者									
材質： 鋼鉄											
15 発生時											
運転状況： 停止中 番号 (5)											
作業状況： 改造工事中 番号 (8)											
22 設備・機器等の概要：		23 事故の概要：									
オンラインファイル無		川に油が浮いているとの通報を受け、調査したところ、屋外タンク貯蔵所(灯油50kL、重油30kL)から一般取扱所への送油配管(2系統)の取替工事を無許可で行っている事実を覚知した。施工業者より、作業中に油を漏らした旨の供述があり、漏えい対策も不十分であったため、配管トラフに漏れた油が、側溝を通り、川へ流出したものの。									
24 緊急処置の状況 有 番号 ()		[無]									

原 因	25 主 原 因		維持管理不十分		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 既設配管の取り外しの際に、配管の残油抜き取り作業を実施。排出油をバケツで受け、ペール缶に移すという流出リスクの高い作業であったことに加え、漏えい対策が不十分であった。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		配慮不足	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害							28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が側溝を通り河川へ流れ込み、約1km下流まで拡散したものの、海への拡大は無し。
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 8 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 灯油及び重油が流出したが、流出量は不明				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	2 台 0 隻 0 機 3 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								損害額 1万円未満 、1万円以上 (万円)
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (6) オイルフェンスの展張		
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施 設 名	屋外タンク貯蔵所				33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日		年 月 日			年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日		年 月 日			年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：	
	そ の 他	警告 令和 5 年 11 月 30 日 ①. 文書 2. 口頭		年 月 日 1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策 や所見		・位置、構造、設備を変更する場合、必要に応じ、申請や届出をするよう徹底させる。 ・施工中の安全(漏えい)対策の徹底。						

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所底板腐食による漏えい事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		12月 2日 11時 00分					
5 覚 知		12月 2日 13時 20分		6 鎮 圧 応急処置完了		12月 2日 18時 00分					
7 鎮火・処理完了		12月 2日 22時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：西北西 風速：1.3m/s 気温：4.1℃ 湿度：61.1%									
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：鉱業 鉱業 金属鉱業 鉄鉱業 番 号 (513)				11 発 生 場 所					
12 施 設 装 置						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：					
						16 発生施設規制区分等					
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍					
						倍数の合計：20倍					
14 発 生 箇 所		名 称：タンク底板 番 号 (102)		材 質：鋼鉄		設置の完成：昭和 49年 8月 2日 直近の完成：昭和 55年 12月 19日					
15 発 生 時		運 転 状 況：受入中 番 号 (9)		作 業 状 況： 番 号 ()		17 物 質 の 区 分					
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無									
23 事故の概要： 12月2日11時頃、灯油3kLを受け入れた際、防油堤に溜まっていた水の水面に油膜を確認し、漏えいが疑われたため屋外タンク周辺を確認したところ、屋内タンク底板及び側板に油のにじみが確認された。											
24 緊急処置の状況 ☒ 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送											

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 屋外タンク設置から約50年が経過しており、腐食等による経年劣化により底板にまだら模様に穴があき、灯油が漏えいがしたものの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害							28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えい油は廃油として回収処理済。防油堤外への流出はなし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 漏えいのみ。被害なし。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第四類第2石油類 灯油約30L漏えい 底板腐食
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況									損害額 [1万円未満]、1万円以上 (万円)	
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業				
31 防災活動上の問題点 タンクからの漏えいがあると判断するまで時間を要したため通報が遅れたとのことであるが、漏えいの疑いがある時点で、消防機関へ通報する体制が構築されていなかった。										
行政措置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日			年 月 日		年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日		年 月 日		年 月 日	
	関係条項									
	そ の 他	全量抜き取り、詳細点検するよう指示								
34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無 内容：								
35 今後の対策や所見		現在の施設は廃止済。新たに屋外タンク貯蔵所を設置予定。 今回の事案を管内の事業所へも展開して指導する。								

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の内部に設置されている蒸気配管から危険物が漏えいしたもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		2月 2日 19時 00分				推定・確定		4 発生見		2月 3日 16時 00分	
5 覚知		2月 3日 17時 24分				6 鎮圧 応急処置完了				2月 3日 18時 00分	
7 鎮火・処理完了		2月 3日 18時 40分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：北西 風速：1.8m/s 気温：-2℃ 湿度：83%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 その他の化 番号 (1792) 学工業 農薬製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(水溶性液体) ジメチルスルホキシド 50,000L 12.5倍									
12 施設装置		設置の完成：令和 4年 4月 19日 直近の完成：令和 4年 4月 19日									
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201) 能力：容量50kL											
13 機器等											
温度圧力：60℃		倍数の合計：12.5倍									
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)											
規模：直径3.9m 高さ4.5m 容量50kL											
14 発生箇所		17 物質の区分									
名称：その他の機器等本体 番号 (199)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス									
材質：ステンレス		5. 毒物 6. 劇物 7. その他									
15 発生時		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)									
運転状況：定常運転中 番号 (1)		(低温、常温 [0-40℃]、高温)									
作業状況：運転操作中 番号 (1)		分類：第4類第3石油類(水溶性液体) 名称：ジメチルスルホキシド (450L)									
18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： ジメチルスルホキシドを貯蔵する屋外タンク貯蔵所のタンク内の底板付近に、ジメチルスルホキシドを保温するための蒸気配管が設置されており、その蒸気配管に何らかの原因でジメチルスルホキシドが流入したため、タンク外に蒸気を排出するドレン管から水分を含んだジメチルスルホキシドが漏えいしたもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： ジメチルスルホキシドは18℃以下で凝固する性質があることから、タンク内に蒸気コイルを這わせ、タンク内のジメチルスルホキシドを保温している。その蒸気コイルがフランジパッキンの破損等によりタンク内のジメチルスルホキシドが蒸気コイル内に流入したため、排出ドレン管から漏えいしたものの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人 的 被 害							28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内のみ漏えい。施設外への漏えいなし。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 屋外タンク貯蔵所の蒸気コイル、フランジパッキン			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
物質の被害状況： 第4類第3石油類(水溶性)ジメチルスルホキシド約450L流出											
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 漏えいが認められるドレン部分にバケツを設置					
31 防災活動上の問題点											
32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日				内容：				
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策や所見		令和4年12月にも同敷地内の危険物施設の漏えい事故が発生していることから、その他の危険物施設も点検し報告するよう指導									

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所における浮き屋根上の流出事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		12月 11日 14時 30分					
5 覚知		12月 11日 14時 30分		6 鎮圧 応急処置完了		12月 11日 16時 30分					
7 鎮火・処理完了		12月 11日 16時 30分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴		風向：		風速：		気温：		湿度：	
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)				11 発生場所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 仙台地区 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 5,550,000L 27,750倍 倍数の合計： 27,750倍 設置の完成：昭和 46年 6月 19日 直近の完成：平成 31年 3月 15日			
12 施設装置						17 物質の区分					
名称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス					
能力：5,550kL						5. 毒物 6. 劇物 7. その他					
13 機器等						温度圧力：					
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		規模：屋外タンク貯蔵所		18 取扱者の概要		①. 選任有 2. 選任無		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
14 発生箇所		名称：タンク屋根板 番 号 (103)		材質：鋼鉄		19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者	
15 発生時		運転状況：貯蔵・保管中 番 号 (7)		作業状況： 番 号 ()		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 老朽化により小規模な亀裂が生じたため、浮き屋根上ににじみが発生したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 母材表面が凹凸していることから外面腐食によるものと推測。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害							28 物的被害	
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 浮き屋根上に5mL流出。
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 浮き屋根上部に0.3mmφ程度の亀裂が生じたもの。
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： ガソリン 5mLの流出
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
		損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)						
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 現地確認。情報収集活動実施。						自衛防災・消防組織等 番号 ()		
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保 安 検 査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：	
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				
35 今後の対策 や所見		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭 定期開放時に目視点検及び恒久補修を行う。						

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の配管が腐食したことによる重油の流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		9月 12日 8時 00分				[推定]・確定		4 発生見		9月 12日 8時 30分			
5 覚知		9月 12日 9時 30分				6 鎮圧 応急処置完了				9月 12日 8時 40分			
7 鎮火・処理完了		9月 12日 11時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南東 風速：4m/s 気温：29℃ 湿度：69%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 パルプ・紙・紙加工品製 番 号 (1522) 造業 紙製造業 板紙製造業		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) C重油 2,500,000L 1,250倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 26年 8月 1日 直近の完成：令和 4年 4月 15日 17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：C重油(20L) 18 取扱者の概要											
名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能力：2,500kL													
13 機器等 温度圧力：60℃ 名称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規模：内径17,440mm 高さ12,950mm													
14 発生箇所		倍数の合計：1,250倍											
名称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材質：鋼鉄		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
15 発生時													
運転状況：定常運転中 番 号 (1) 作業状況： 番 号 ()													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 2023年9月12日8時30分頃、運転員が敷地内パトロール中に高架配管ラック上の配管からC重油が漏れているのを発見し、直ちに送油ポンプ及び漏えい箇所上流にある弁を閉止した。その後、高架配管ラック下の地面に漏えいしたC重油を吸着マットで回収した。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 保温材の中の蒸気配管が腐食し保温材内に蒸気が漏れたことで、多湿環境となり配管の腐食が進行したことによる発性と考えられる。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人 的 被 害						28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいしたC重油約20Lが高架配管ラック下の地面に4㎡の範囲で拡散した。			
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)C重油 20L流出 損害額 1万円未満、 1万円以上 (211 万円)				
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台			0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台			0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台			0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台			0 隻	0 機	0 人
30	実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31	防災活動上の問題点										
32 行政措置	施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 5 年 5 月 25 日	年 月 日			
	改善命令等	令和 5 年 9 月 12 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項	消防法第12条第2項				34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無 内容：				
	そ の 他	年 月 日		年 月 日							
	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35	今後の対策や所見 2021年8月から防火対策協議会を立ち上げ、施設の点検及び計画的な補修等を行ってきている。今後は、点検及び補修の期間短縮も視野に入れ指導していく必要がある。										

1 事故名		屋外タンク貯蔵所液面計配管のフランジからの電気絶縁油漏えい							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発生		1月 26日 21時 00分		[推定]・確定		4 発生見		1月 27日 9時 38分	
5 覚知		1月 27日 9時 44分		6 鎮圧 応急処置完了		1月 27日 10時 41分			
7 鎮火・処理完了		2月 10日 13時 00分							
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()							
9 気象状況		天気：曇		風向：北		風速：1m/s		気温：3℃ 湿度：64%	
10 発生事業所		種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所				11 発生場所		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 電気絶縁油 25,000L 12.5倍 倍数の合計： 12.5倍 設置の完成： 平成 15年 5月 15日 直近の完成： 令和 4年 3月 15日	
12 施設装置						17 物質の区分			
名称： 円筒横置型(地上)タンク 番 号 (1204) 能力： 容量25,000L						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 電気絶縁油(10,000L)			
13 機器等						温度圧力：			
名称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規模： 容量25,000L						18 取扱者の概要			
14 発生箇所		名称： 液面計 番 号 (309) 材質： ステンレス		19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者	
15 発生時		運転状況： 貯蔵・保管中 番 号 (7) 作業状況： 番 号 ()		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無									
23 事故の概要： 2023年1月27日午前9時38分、電気絶縁油タンク液面計下部元弁フランジ部より電気絶縁油が漏えいしていることを電気絶縁油タンクの補修塗装の準備作業に従事していた作業員が発見した。 漏えいした絶縁油については、防油堤内に留まっており、防油堤外への流出はないことを確認した。 現場確認の結果、液面計元弁下部フランジ部のパッキンが破損しており、当該箇所から漏えいしていることを確認した。 応急処置として、液面計元弁を閉止しようとしたものの、弁が固着しており、弁の閉止が困難であることから、フランジ部を自己融着テープにて巻き付け、絶縁油の漏えいが停止したことを確認した。 その後、弁に浸透潤滑剤を塗布し、弁操作が可能となったことから、元弁の閉止を実施した。 危険物の流出量については、10kLと評価している。									
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他									

原因	25 主 原 因 破 損					着火原因					番号 ()																																											
	関 連 原 因 維持管理不十分																																																					
	発生原因の状況：																																																					
	液面計元弁フランジ部パッキンの破損が確認された。 破損したパッキンを交換する際、油面計元弁を開操作したところ、水や氷が混入していることを確認した。 このことから、絶縁油の漏えいに至った原因は、液面計配管内部の水分が寒波の影響により凍結し、氷となったことにより、配管内で膨張し、配管内で膨張強度の弱いパッキン部に外向きの力が発生するとともにパッキンが破損、氷の融解とともに絶縁油の漏えいに至ったもの。点検の際の水抜き不十分も関連原因としてあげられる。																																																					
	主要原因の詳細																																																					
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																									
	破損				自然現象				凍結																																													
因	関連原因の詳細																																																					
	設備				監理・保守				点検・整備				点検していない/不足																																									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																						
27 人的被害										28 物的被害																																												
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 絶縁油タンクより10kLの電気絶縁油が漏えいしたが、防油堤内に留まっている。																
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																																
当 事 者	0	0	0	0																																																		
防災活動従事者	0	0	0	0																																																		
第 三 者	0	0	0	0																																																		
										施設等の被害状況： フランジ部パッキンの破損																																												
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																						
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>2 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>5 人</td> <td>自 衛</td> <td>2 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>5 人</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>そ の 他</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> </table>										消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	5 人	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:2,000 第3石油類 電気絶縁油 10kLの漏えい				
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	5 人																																													
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
										損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																																												
30 実施した防災活動の状況																																																						
公設消防機関：番号 (99) 防油堤内に漏えいした絶縁油についての回収及び漏えい部分をテープ等で養生を指示。										自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業																																												
31 防災活動上の問題点 防油堤内の漏えいであったものの、漏えい量が10kLであり、回収に手間取った。																																																						
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法				そ の 他																																								
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検				年 月 日 令和 5 年 1 月 13 日																																								
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等				年 月 日 年 月 日																																								
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査				年 月 日 年 月 日																																								
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・ <u>無</u> 内容：																																								
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																																
		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭																																																				
35 今後の対策 や所見		本事故を踏まえ、油貯蔵タンクについて定期的な水抜き並びに保温材の取付けを行うように指導した。今後、管内他事業所に対しても同様の指導を行い、同様の事故が発生しないように事故防止に努める。																																																				

令和5年

1 事故名		カルバート内の配管から流出した硫酸が並行して敷設された配管も溶融して重油が流出した事故																	
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()																	
3 発生		10月 10日 1時 30分			[推定]・確定		4 発生見		10月 10日 3時 46分										
5 覚知		10月 10日 10時 16分			6 鎮圧 応急処置完了				10月 13日 9時 00分										
7 鎮火・処理完了		10月 26日 9時 00分																	
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()																	
9 気象状況		天気：晴 風向：西南西 風速：0.3m/s 気温：19℃ 湿度：100%																	
10 発生事業所					11 発生場所														
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、[第2種]、その他) 業態：製造業 非鉄金属製造業 非鉄 番号 (2411) 金属第1次製錬・精製業 銅第1 次製錬・精製業					区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：いわき地区														
					16 発生施設規制区分等														
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 300,000L 150倍														
					倍数の合計：150倍														
12 施設装置					14 発生箇所					設置の完成：昭和 40年 4月 30日 直近の完成：平成 26年 10月 30日									
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201) 能力：300kL					17 物質の区分														
13 機器等					温度圧力：														
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規模：口径:125A					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (3,400L)														
15 発生時					18 取扱者の概要														
運転状況：定常運転中 番号 (1) 作業状況：番号 ()					19 危険物保安 統括管理者					1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無																			
23 事故の概要： カルバート内の配管から99%硫酸が149,000L流出。これにより、並行して敷設された重油配管を溶融したため、併せて重油も3,400L流出した。発生時、稼働設備を緊急停止した。日が明けたのち、バキューム車の手配が完了したため、流出物の吸引を開始。また、構内排水系統(排水路、排水プール)に油膜を確認したため、オイルフェンスを設置したが、流出範囲は海域へ達していたため、各関係機関へ通報した。																			
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他																			

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因		維持管理不十分						
	発生原因の状況： 維持管理不十分(点検周期・点検精度)及び経年劣化により、エロージョン・コロージョンが生じて配管が腐食した。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	腐食		防食		エロージョン・コロージョン				
	関連原因の詳細								
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切		
因									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人 的 被 害							28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出物が構内排水系統(排水路・排水プール)を介し、海上へ225mL流出。	
区分									
当 事 者	0	0	0	0					
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 各種(重油・硫酸・工業用水)移送配管破損	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	40 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	1 台	0 隻	0 機	2 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	11 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 重油:3,400L流出 99%硫酸:149,000L流出	
30 実施した防災活動の状況								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1,500 万円)	
公設消防機関：番号 (99) 情報収集及び安全管理						自衛防災・消防組織等 番号 (3、6、7) 流出物の回収(バキューム車による吸引) 流出拡大防止措置(オイルフェンス設置)			
31 防災活動上の問題点 事故対応に追われ、消防機関への通報が遅れた。事故対応に追われ、関係機関への通報が遅れた。備蓄防災設備の維持管理不十分(オイルフェンスの展張不完全)									
32 施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：	
	そ の 他	年 月 日	年 月 日						
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見		設備点検の強化(配管の肉厚測定追加等) リスク評価し計画的に配管を更新する。 マニュアルの再確認及び従業員への教育の強化。							

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の払出ヘッダーフランジ部から重油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		10月 5日 16時 00分				[推定]・確定		4 発 見		10月 6日 9時 06分	
5 覚 知		10月 6日 10時 04分				6 鎮 圧 応急処置完了				10月 6日 11時 59分	
7 鎮火・処理完了		10月 6日 11時 59分									
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：西 風速：5.1m/s 気温：20℃ 湿度：43%									
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所									
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 4,984,000L 2,492倍									
12 施 設 装 置		倍数の合計： 2,492倍 設置の完成：昭和 45年 8月 10日 直近の完成：平成 21年 9月 2日									
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：容量4,984kL											
13 機 器 等											
温度圧力：35℃、0.14Mpa		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (53L)									
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)											
規 模：配管サイズ18インチ											
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要									
名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)											
材 質：鋼鉄											
15 発 生 時		19 危険物保安 統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)											
作 業 状 況： 番 号 ()											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： TK-154タンクエリアの外面腐食点検中にTK-154タンク払出ヘッダーフランジ部より重油の漏えいを確認したもの。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因 故障		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 維持管理不十分							
	発生原因の状況： 払出ヘッダーフランジの漏えい原因は、液封対策の安全弁(PSV-062)の1次側が閉塞物(鉄錆)で閉塞しており、気温の上昇とともに配管内圧が上昇した際、安全弁が機能せず払出ヘッダー内の圧力が上昇しフランジから漏えいしたと推定する。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	故障	機能	周囲からの異物の作用による機器の動作不良					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 被害なし
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	8 台 0 隻 0 機 26 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 重油約53L漏えい				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
28 損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 () 万円)								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、安全確認を実施					自衛防災・消防組織等 番号 (5、4、99) ヘッダー弁の閉止、フランジの増し締め、脱圧			
31 防災活動上の問題点 通報の遅延								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		類似箇所について点検を実施、早期通報の指導を行う。						

1 事 故 名		ハイオク海上出荷配管からガソリンの流出											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		10月 6日 14時 00分				[推定]・確定		4 発 見		10月 7日 9時 58分			
5 覚 知		10月 7日 10時 33分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		10月 7日 12時 58分					
7 鎮火・処理完了		10月 7日 12時 58分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 北北西 風速： 2.9m/s 気温： 21℃ 湿度： 46%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分： ①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 67,186,000L 335,930倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計： 33,5930倍 設 置 の 完 成： 昭和 45年 6月 10日 直 近 の 完 成： 令和 3年 12月 3日											
名 称： 浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能 力： 容量67,186kL													
13 機 器 等													
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 配管サイズ10インチ		17 物 質 の 区 分											
14 発 生 箇 所		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(41L)											
15 発 生 時		18 取扱者の概要											
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5) 作 業 状 況： 番 号 ()		19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危 険 物 保 安 監 督 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 配管トレース漏れ補修の環境設定を確認するため当該配管エリアに行った際、ハイオク海上出荷配管から漏えいを確認したもの。漏えい時は当該配管で海上出荷は行われておらず、漏えい箇所は弁で縁切りされ静置状態であった。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()				
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 漏えい箇所を調査したところ、開孔部の状況は塗装劣化部で外面腐食が認められており、開口部周囲の超音波肉厚測定、放射線透過試験を実施したところ、内面腐食は確認されなかったことから、外面腐食が進展し漏えいに至ったと推定する。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			防食			防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 被害なし					
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： ハイオク海上出荷配管の外面腐食による開孔					
防災活動従事者		0	0	0	0								
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： ガソリン約41L漏えい 損害額 1万円未満、 1万円以上 (50 万円)					
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	25 人	自 衛	0 台	0 隻					0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻					0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻					0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻					0 機	0 人
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、安全確認を実施								自衛防災・消防組織等 番号 (5、4) 流出防止措置、回収作業					
31 防災活動上の問題点													
32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他		
	使用停止 年 月 日				定期・自主点検				年 月 日		年 月 日		
	改善命令等 年 月 日				気密試験等				年 月 日		年 月 日		
	停止解除 年 月 日				保安検査				年 月 日		年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・ 無 内容：				
	そ の 他 年 月 日				1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策 や所見		類似箇所について点検を実施。											

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の浮き屋根よりナフサの漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		10月 14日 9時 55分				推定・ 確定		4 発生見		10月 14日 9時 55分	
5 覚知		10月 14日 10時 37分				6 鎮圧 応急処置完了		10月 14日 12時 38分			
7 鎮火・処理完了		10月 14日 12時 38分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：北西 風速：1m/s 気温：19℃ 湿度：54%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、 貯 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 53, 046, 000L 265, 230倍									
12 施設装置		倍数の合計： 265, 230倍 設置の完成：昭和 46年 5月 24日 直近の完成：平成 29年 11月 10日									
名称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能力：容量53, 095kL											
13 機器等											
温度圧力：		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0－40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフサ(2. 3L)									
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107)											
規模：内径58. 5m、高さ21. 97m											
14 発生箇所		18 取扱者の概要									
名称：タンク屋根板 番 号 (103) 材質：鋼鉄		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
15 発生時		21 危険物取扱者の取扱・立会い									
運転状況：払出中 番 号 (10) 作業状況： 番 号 ()		①. 有 2. 無									
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所(TK-292)の浮き屋根上でエマージェンシードレンの水封作業中、エマージェンシードレン近傍の屋根板に油漏えいを発見したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 点検の結果、浮き屋根補強リングの取付ピース溶接線からの割れであることを確認した。取付ピースは浮き屋根裏面に隅肉溶接されており、その溶接端部を起点に割れが生じていた。原因は、取付ピースの溶接端部が応力集中部となり、浮き屋根の揺動の繰り返しにより割れが生じ進展したものと推定する。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化	環境	想定内の応力下で疲労(応力腐食割れ)					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 被害なし
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	9 台 0 隻 0 機 30 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 10 人	物質の被害状況： ナフサ約2.3L漏えい				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
損害額 1万円未満、 1万円以上 (20 万円)								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、安全確認を実施					自衛防災・消防組織等 番号 (5、4、99) 漏えい箇所を拭き取り、一般金属補修剤で浮き屋根を補修する。			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見		類似箇所について点検を実施するよう指導。						

令和5年

1 事故名		移送ポンプ吐出側バルブフランジ部よりC5留分の漏えい										
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()										
3 発 生		10月 24日 13時 15分 推定・ 確定					4 発 見		10月 24日 13時 17分			
5 覚 知		10月 24日 13時 34分					6 鎮 圧 応急処置完了		10月 24日 14時 18分			
7 鎮火・処理完了		10月 24日 14時 18分										
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()										
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北東 風速：1.8m/s 気温：23℃ 湿度：55%										
10 発 生 事 業 所		種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1736) 業製品製造業 合成ゴム製造業					11 発 生 場 所					
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1736) 業製品製造業 合成ゴム製造業							区 分：①. 事業所内 (製)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区					
							16 発生施設規制区分等					
							施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 C留分 4,991,000L 99,820倍					
							倍数の合計： 99,820倍					
12 施 設 装 置		名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：タンク容量4,991kL					設置の完成：昭和 46年 7月 9日 直近の完成：平成 28年 6月 17日					
13 機 器 等		温 度 圧 力：常温、0.08Mpa 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：6インチ 材質STPG					17 物 質 の 区 分					
14 発 生 箇 所		名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201) 材 質：鋼鉄					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類特殊引火物 名称：C留分(18.3L)					
15 発 生 時		運 転 状 況：停止中 番 号 (5) 作 業 状 況： 番 号 ()					18 取扱者の概要					
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要			20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要			21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無												
23 事故の概要： 固定ガス検知器が発報したため現場を確認すると、停止中の移送ポンプ吐出側バルブフランジ部よりC5留分の漏えいを確認したものの。												
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他												

25	主 原 因 破 損						着火原因						番号 ()						
原因	関 連 原 因 維持管理不十分																		
	発生原因の状況： 発災当日は、停止中のポンプ吸込みバルブを開状態にしており、接続した屋外タンクからの液位による圧力がかかった状態であった。またポンプ吐出側のバルブは閉止しており、ポンプと吐出側のバルブ間には逆止弁が設置されていたことから吐出バルブと逆止弁の間で液封状態となっていた。当日の気象データとして気温が最大14℃上昇しており、該当箇所は直射日光あたる箇所であったことから、配管が温度上昇し、内容物の炭化水素であるC5留分の温度上昇が発生、液膨張で配管内圧力がフランジ面のガスケットの使用可能範囲圧力3Mpaを超え破断し漏えいにつながったものと推定する。																		
	主要原因の詳細																		
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層						
	破損				定常運転時				異常圧力上昇等										
	関連原因の詳細																		
	制度				規則・手順				内容・周知				規則・手順がない/文書化されない						
	因																		
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																		
27	人的被害												28 物的被害						
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし										
	当 事 者	0	0	0	0														
	防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ガスケットの破損										
	第 三 者	0	0	0	0														
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	24 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	5 人	物質の被害状況： C5留分約18.3L漏えい									
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機										0 人
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機										0 人
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機										0 人
30	実施した防災活動の状況																		
公設消防機関：番号 (99) 情報収集及び安全確認を実施												自衛防災・消防組織等 番号 (99) 情報収集、安全管理							
31	防災活動上の問題点																		
32	施 設 名									33 定 期 点 検 等	消 防 法				そ の 他				
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検 気密試験等 保 安 検 査	年 月 日				年 月 日			
		改善命令等	年 月 日				年 月 日					年 月 日				年 月 日			
		停止解除	年 月 日				年 月 日					年 月 日				年 月 日			
		関係条項																	
	そ の 他	年 月 日				年 月 日				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：								
1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭															
35	今後の対策 や所見 液封状態が発生しないよう手順書の作成と従業員への周知。																		

令和5年

1 事故名		ペンタントank払出フレキシブルホースから混合ペンタンの漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		11月 10日 3時 15分				推定・確定		4 発生見		11月 10日 3時 17分	
5 覚知		11月 10日 3時 33分				6 鎮圧 応急処置完了		11月 10日 5時 25分			
7 鎮火・処理完了		11月 10日 5時 25分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北西 風速：0.8m/s 気温：8℃ 湿度：100%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1735) 業製品製造業 プラスチック製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 ペンタノ 16,000L 320倍									
		倍数の合計： 320倍 設置の完成：平成 5年 4月 27日 直近の完成：平成 18年 12月 5日									
12 施設装置		名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201) 能力：									
13 機器等		温度圧力：0.3Mpa 名称：貯槽(タンク) 番号 (107) 規模：容量16kL									
14 発生箇所		名称：フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番号 (202) 材質：ステンレス									
15 発生時		運転状況：定常運転中 番号 (1) 作業状況： 番号 ()									
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： ペンタントank防油堤内に設置している可燃性ガス検知器が発報したため、点検を実施たところペンタントank払出フレキシブルホースより霧状に吹き出しているのを発見したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： フレキシブルホースについて、金属破壊疲労に至る原因を調査した結果、漏えい原因はフレキシブルホースの亀裂によるものであり、その亀裂は経年劣化(約29年使用)による金属疲労割れと推定する。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	疲労・劣化	環境	常に振動する環境下で疲労（想定内の振動であるが、材料が継続した疲労により損傷等）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	7 台 0 隻 0 機 28 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 15 人	物質の被害状況： 第4類第特殊引火物ペンタン 4.5L漏えい				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 情報収集を実施					自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 漏えい物の回収、情報収集、安全管理を実施			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見		・フレキシブルホースの敵交換周期の短縮 ・同様の箇所に対し点検を行い、定期交換の必要性に関する教育の実施						

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の附帯配管のフランジ部より重油の漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		12月 4日 9時 00分				推定・ 確定		4 発生見		12月 4日 14時 00分	
5 覚知		12月 4日 14時 22分				6 鎮圧 応急処置完了		12月 4日 16時 05分			
7 鎮火・処理完了		12月 4日 16時 05分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南南西 風速：1.8m/s 気温：14℃ 湿度：32%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、 貯 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 19,698,000L 9,849倍									
12 施設装置		倍数の合計： 9,849倍 設置の完成：昭和 44年 3月 28日 直近の完成：平成 30年 4月 23日									
名称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能力：容量67,186kL											
13 機器等											
温度圧力：35℃、0.14Mpa		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (74L)									
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107)											
規模：内径37m、高さ20.09m											
14 発生箇所		18 取扱者の概要 経験年数4年									
名称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
材質：鋼鉄											
15 発生時											
運転状況：停止中 番 号 (5)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無									
作業状況：監視中 番 号 (10)											
23 事故の概要： 埋設配管の点検作業中、A重油ブレンド基材払出配管である屋外タンク貯蔵所TK-178北側の配管フランジ及び屋外タンク貯蔵所TK-175東側配管フランジから重油の漏えいを確認したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原因	25	主 原 因 誤操作				着火原因				番号 ()																													
	関 連 原 因																																						
	発生原因の状況：																																						
	液封対策用安全弁2次側の配管補修工事に伴い、液封対策用安全弁の元弁を閉止し機能解除していた。また、液封対策として、ヘッダー弁(RM1543)を開放し本来とは異なる安全弁が作動する状態で管理していた。A重油調合完了後はヘッダー弁は(RM1543)自動閉鎖されるため、閉止の都度、計器室から開放操作を行う手順としていたが、12月1日に計装システムの異常により対応に迫られ、作業員がヘッダー弁を開放操作したと思い込み、運転申し送りに開放した旨を記載したので閉止であることに誰も気が付かなかった。この状況が継続し液封による内圧上昇時に液封対策用安全弁が作動せず、配管フランジ2か所から漏えいしたと推定する。																																						
	主要原因の詳細																																						
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																													
	人			本人の意識			違反(故意)			怠慢																													
	人			本人の意識			思慮			思い込み																													
	関連原因の詳細																																						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																							
27 人的被害								28 物的被害																															
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 被害なし			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																	
当 事 者	0	0	0	0																																			
防災活動従事者	0	0	0	0																																			
第 三 者	0	0	0	0																																			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								施設等の被害状況： なし。																															
消 防 機 関						7 台 0 隻 0 機 24 人						自 衛		0 台 0 隻 0 機 12 人																									
消 防 団						0 台 0 隻 0 機 0 人						共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人																									
海上保安部						0 台 0 隻 0 機 0 人						応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人																									
その他の機関						0 台 0 隻 0 機 0 人		その他		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 1万円未満、 1万円以上 (1 万円)																											
30 実施した防災活動の状況																																							
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、安全確認を実施								自衛防災・消防組織等 番号 (99) 情報収集、安全確認を実施																															
31 防災活動上の問題点																																							
行政措置	32	施設名					33	定期点検等	消 防 法		そ の 他																												
	行	使用停止	年 月 日		年 月 日		政	定期・自主点検	年 月 日		年 月 日																												
		改善命令等	年 月 日		年 月 日				年 月 日		年 月 日																												
		停止解除	年 月 日		年 月 日				年 月 日		年 月 日																												
	措	関係条項					置	34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：																													
		そ の 他	年 月 日		年 月 日																																		
35		今後の対策 や所見		安全弁機能解除時のリスク対策強化及び運転員への基本教育の実施																																			

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所附帯配管のドレン弁からポリプロピレングリコールの流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		12月 17日 4時 50分				推定・ 確定		4 発生見		12月 17日 7時 30分	
5 覚知		12月 17日 7時 43分				6 鎮圧 応急処置完了		12月 17日 8時 50分			
7 鎮火・処理完了		12月 17日 8時 50分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北西 風速：4.3m/s 気温：11℃ 湿度：45%									
10 発生事業所						11 発生場所					
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 無機化学工 番 号 (1721) 業製品製造業 ソーダ工業						区 分：①. 事業所内 (製 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区					
						16 発生施設規制区分等					
						施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 ポリプロピレングリコール 400,000L 66.67倍					
12 施設装置						倍数の合計： 66.67倍 設置の完成：昭和 62年 10月 5日 直近の完成：令和 2年 2月 3日					
名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能力：容量400kL											
13 機器等 温度圧力：80℃、0.5Mpa											
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規模：直径50mm						17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： ポリプロピレングリコール (6,857L)					
14 発生箇所											
名称：ドレンノズル 番 号 (208) 材質：鋼鉄											
15 発生時						18 取扱者の概要 経験年数1年					
運転状況：定常運転中 番 号 (1)											
作業状況：運転操作中 番 号 (1)											
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所(VE-303C)から屋外タンク貯蔵所(ST-401B)へ移液をした際、ドレンバルブの開放に気が付かず送液したため、ポリ プロピレングリコールがドレン弁から漏えいしたもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 移液作業時にライン確認(ドレン弁の開閉操作)の確認が不十分でありドレン弁が微開であることに気づかずに送液したことから、ドレン弁からポリプロピレングリコールが漏えいした。また、ドレン弁のキャップが付いていないことにも気づかなかったものの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	違反(故意)	怠慢				
	制度	教育・訓練	内容	教育・訓練がない/不足				
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 影響なし
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	7 台 0 隻 0 機 22 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 5 人	物質の被害状況： ポリプロピレングリコール(第4類第4石油類) 6,875L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 情報収集					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 情報収集、回収作業			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見		バルブ操作について再教育 ヒューマンエラーによるトラブルの内容・対策についての教育						

令和5年

1 事故名		廃油を送油中に屋外タンクの通気管から漏えいしたもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		4月 25日 10時 55分 推定・ 確定					4 発生見		4月 25日 10時 55分				
5 覚知		4月 25日 11時 40分					6 鎮圧 応急処置完了		4月 25日 13時 10分				
7 鎮火・処理完了		4月 25日 13時 10分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：南南東 風速：3.7m/s 気温：17.5℃ 湿度：35.5%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番号 (4211) 道業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 廃油 5,000L 5倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 59年 5月 21日 直近の完成：昭和 59年 5月 21日 17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：廃油 (10L) 18 取扱者の概要											
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201) 能力：5,000L													
13 機器等 温度圧力：													
名称：その他 番号 (999) 規模：54L/min、0.4kw		倍数の合計：5倍											
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
名称：通気管 番号 (304) 材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：受入中 番号 (9) 作業状況： 番号 ()													
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無											
23 事故の概要：		少量危険物取扱所から屋外貯蔵タンク(以下「1次槽」という。)に送油するポンプ及び1次槽から屋外貯蔵タンク(以下「2次槽」という。)に送油するポンプを2機同時に運転し廃油を送油していたところ、1次槽から2次槽へ送油するポンプが停止したため、廃油が1次槽の容量を超え、1次槽上部の通気管から廃油約10Lが漏えいしたもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原 因	25 主 原 因 故障						着火原因						番号 ()	
	関 連 原 因 維持管理不十分													
	発生原因の状況： ポンプの故障によりポンプが停止したことによる。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層	
	故障				機能				機器の機能の停止					
	関連原因の詳細													
	人		本人の意識				思慮				思い込み			
因														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人 的 被 害										28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした廃油10Lが防油堤内に流出。						
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 送油ポンプの故障。						
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0									
第 三 者		0	0	0	0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)廃油10L漏えい。				
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	2 人					
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (30 万円)			
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 ()								自衛防災・消防組織等 番号 (5) 従業員により、危険物の漏えい状況を確認後、油吸着材により危険物を除去。						
31 防災活動上の問題点														
32 行 政 措 置	施 設 名					33 定 期 点 検 等				消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日		
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：		
	そ の 他	年 月 日				年 月 日								
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策 や所見		作動の確認を確実にすること。また作業中は目を離さないこと。												

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所にて再生油を受入中、スラッジ回収タンクの排出弁を開放しなかったことによる流出事故														
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()														
3 発生		6月 5日 15時 30分 推定・ 確定					4 発生見		6月 5日 15時 30分							
5 覚知		6月 5日 16時 00分					6 鎮圧 応急処置完了		6月 5日 16時 30分							
7 鎮火・処理完了		6月 5日 16時 30分														
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()														
9 気象状況		天気：晴 風向：南東 風速：3.4m/s 気温：26.8℃ 湿度：32.5%														
10 発生事業所		種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 窯業・土石製品製造業 番号 (2221) セメント・同製品製造業 セメント製造業					11 発生場所					区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 再生油 105,000L 525倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 再生油 0L 0倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 再生油 0L 0倍 倍数の合計： 525倍 設置の完成：令和 元年 10月 15日 直近の完成：令和 4年 8月 25日				
12 施設装置																
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)																
能力：容量105kL																
13 機器等							温度圧力：									
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)																
規模：容量300L																
14 発生箇所																
名称：その他の附属配管等 番号 (299)																
材質：鋼鉄																
15 発生時																
運転状況：荷卸中 番号 (13)																
作業状況：監視中 番号 (10)																
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要			20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要			21 危険物取扱者の取扱・立会い			①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無																
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所にてタンクローリーから再生油を受入れている際に、自動洗浄ストレーナが自動洗浄を開始しスラッジを回収タンクへ排出した。自動洗浄の開始に気づかずスラッジ回収タンクの排出弁を開放しなかったため、タンク許容量を超え点検口パッキン部、回収タンク排出配管接合部から再生油が漏れ出した。再生油は約10L漏れ、構内の側溝まで流出した。なお、人的被害はなし。流出確認後、すぐにタンク受入用ポンプを停止させ、応急措置を実施した。																
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止																

25	主 原 因 操作未実施					着火原因					番号 ()					
原因	関 連 原 因 故障															
	発生原因の状況： タンクローリーから再生油を受けている際、自動洗浄ストレーナが自動洗浄を開始し、スラッジが回収タンクへ排出された。監視員は、自動洗浄を開始するのを時間経過によるものと認識し差圧検知による自動洗浄開始機能を理解していなかった。自動洗浄の開始により回収タンクにスラッジが流入するも気づかず、排出弁を開放しなかった。持続的にスラッジが流入し回収タンクの許容量を超えたため流出した。なお、異常を検知し自動洗浄ストレーナを自動停止する機能は作動せず、検知するスイッチ(差圧スイッチ)を確認すると劣化し正常に機能していないことが分かった。															
	主原因の詳細															
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層			
	人				本人の意識				思慮				思い込み			
	関連原因の詳細															
	故障				機能				機器の機能の停止							
因																
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27	人 的 被 害										28 物的被害					
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			被災影響範囲及び拡大の状況：					
											再生油が構内側溝まで流出した。敷地外流出はなし。					
	当 事 者		0	0	0	0										
	防災活動従事者		0	0	0	0					施設等の被害状況：					
第 三 者		0	0	0	0					なし						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2.3石油類(非水溶性)再生油 10Lが流出						
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機							0 人
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機							0 人
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機							14 人
30	実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99) 調査活動										自衛防災・消防組織等 番号 (3、5) 従業員が土嚢と油吸着マットを使用して流出防止措置を実施						
31	防災活動上の問題点 発生(発見)から通報まで時間を要した。															
32	施 設 名									33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	令和 5 年 5 月 17 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日			
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：					
	そ の 他	年 月 日				年 月 日										
35	今後の対策 や所見		・異常検知時の警報機能の設置及び緊急停止機能の設置 ・機能しなかった機器(差圧スイッチ)の改修と劣化防止措置 ・作業手順書の見直しと徹底													

令和5年

1 事故名		タンク(T-116)浮屋根上原油漏えい事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		9月 20日 17時 20分				推定・ 確定		4 発生見		9月 20日 17時 20分			
5 覚知		9月 20日 17時 20分				6 鎮圧 応急処置完了				9月 21日 17時 30分			
7 鎮火・処理完了		9月 21日 17時 30分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：5.6m/s 気温：29℃ 湿度：43%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト 、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、 貯 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京葉臨海中部地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 廃油 80,341,000L 401,705倍											
12 施設装置		倍数の合計： 401,705倍 設置の完成：昭和 49年 3月 2日 直近の完成：令和 5年 5月 17日											
名称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)													
能力：内径(mm) X 高さ(mm)75,560 x 22,150容量80,341kL													
13 機器等		温度圧力：											
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： 廃油(4,400L)											
規模：内径(mm) X 高さ(mm)75,560 x 22,150													
14 発生箇所													
名称：タンク屋根板 番 号 (103)		18 取扱者の概要											
材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：貯蔵・保管中 番 号 (7)		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
作業状況：洗浄中 番 号 (11)													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 9月20日の17時頃、操油グループ運転員がピグ洗浄作業後の点検のためT-116浮屋根上の確認を行ったところ、浮屋根上に油が漏えいしていることを発見した。連絡を受けた操油グループ係長がT-116浮屋根上の確認を行い、17時20分に漏えいを覚知した。操油グループ係長より連絡を受けた操油グループ運転員は所内非常連絡を行い、連絡を受けた環境安全グループマネージャーが17時33分にホットライン通報を行った。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (8) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等													

原因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： ピグ洗浄工事の1回目のピグ押しで配管内に窒素が入り、2回目のピグ押しを行ったことで配管内に入った窒素がタンクに入り、噴き上げたことが原因。 そのほかの要因として、ピグ押しで使用した窒素を浮屋根タンクで受け入れることに対するリスク評価の不足・ピグ洗浄に対する社内基準の不足が挙げられる。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	管理		リスクアセスメント		危険意識		危険に対する認識がない/不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： T-116浮屋根上に油が漏えい(屋根全面の10%程度)		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	45 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	11 人	物質の被害状況： 廃油 4,400L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	14 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況						損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)				
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
情報収集						自衛の大化高、大化1号車より漏えい箇所へ警戒体制				
31 防災活動上の問題点 ホットライン通報										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策や所見		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭 検討中。								

令和5年

1 事故名		屋外タンク附属配管の保温材下から重油が流出した事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		10月 7日 13時 30分				[推定]・確定		4 発生見		10月 7日 13時 30分			
5 覚知		10月 7日 13時 52分				6 鎮圧 応急処置完了				10月 7日 16時 47分			
7 鎮火・処理完了		10月 7日 17時 02分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：北北西 風速：4m/s 気温：24℃ 湿度：24%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 9,999,000L 4,999.5倍											
12 施設装置													
名称：固定屋根式(地上)タンク		番 号 (1201)											
能力：9,999kL													
13 機器等		温度圧力：78℃、0.11Mpa											
名称：配管(送油、注入管等)		番 号 (606)											
規模：サイズ:1B 材質*STPG370S SCH80 元厚 4.5mm													
14 発生箇所		設置の完成：昭和 44年 9月 19日 直近の完成：令和 5年 4月 26日											
名称：その他の附属配管等		番 号 (299)											
材質：鋼鉄		17 物質の区分											
15 発生時		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(33L)											
運転状況：定常運転中		番 号 (1)											
作業状況：		番 号 ()											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 工事のために現場を訪れた協力会社作業員が、#221タンク附属配管からの重油漏えいを確認し、日常保全課員へ連絡。日常保全課員にて現場確認後、関係部署へ連絡した。その後、13:52にホットライン通報を実施するとともに、漏えい配管の上下流バルブをブロックし漏えい停止を確認した。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

原 因	25 主 原 因 調 査 中						着火原因						番号 ()		
	関 連 原 因														
	発生原因の状況： 調査中														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	関連原因の詳細														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人 的 被 害														28 物的被害	
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 影響なし							
当 事 者		0	0	0	0										
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管の開孔							
第 三 者		0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関		4 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	5 人	物質の被害状況： 重油 約33L				
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関		3 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99) 情報収集							自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業								
31 防災活動上の問題点															
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等				消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無 内容：					
	そ の 他	年 月 日				年 月 日									
35 今後の対策 や所見		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭 配管の取替を実施													

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の出荷配管下部から腐食により重油が約100L流出した事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		10月 12日 15時 40分				[推定]・確定		4 発生見		10月 12日 16時 35分			
5 覚知		10月 12日 16時 42分				6 鎮圧 応急処置完了				10月 12日 18時 43分			
7 鎮火・処理完了		10月 12日 18時 43分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東北東 風速：3.1m/s 気温：21℃ 湿度：62.7%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、[第1種]、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海北部											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) LSA重油 4,984,000L 2,492倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 53年 9月 30日 直近の完成：令和 3年 11月 9日 倍数の合計：2,492倍											
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201) 能力：4,984kL													
13 機器等													
温度圧力：													
名称：貯槽(タンク) 番号 (107) 規模：直径19,350mm 高さ18,270mm													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201) 材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：LSA重油(100L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：貯蔵・保管中 番号 (7) 作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 職員が防油堤内において、屋外タンク貯蔵所の出荷配管(10B)下部から経年腐食劣化により1秒1滴の速度でLSA重油が約100L漏えいしているのを発見。バンド及びバキュームカーを使用して応急処置実施。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送													

原 因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因	維持管理不十分											
	発生原因の状況： 海岸付近に設置された特定屋外タンク貯蔵所の出荷配管が腐食劣化。A重油が漏えいしたもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			塩分の影響						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に雨水が溜まっていたため5m×3mの範囲で流出したが流出は防油堤内に留まっている。					
当 事 者		0	0	0	0								
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 腐食した出荷配管10B×7m(JISG-3452)を交換					
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	14 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水)LSA重油が100L漏えい。			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	1 台	0 隻	0 機	2 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 警戒筒先配備						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 流出防止措置、回収作業							
31 防災活動上の問題点													
32 施 設 名					33 定 期 点 検 等				消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 1 月 9 日		令和 5 年 9 月 3 日			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保 安 検 査		年 月 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：					
	そ の 他	年 月 日		年 月 日									
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見		配管の腐食減肉箇所の交換工事を実施。職員が見回りを実施していたために発見が比較的早く流出は最小限で収まった。											

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所(T-8324)リリース配管から重油が少量漏えいしたもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		10月 17日 17時 10分				[推定]・確定		4 発生見		10月 17日 17時 10分			
5 覚知		10月 17日 17時 41分				6 鎮圧 応急処置完了				10月 17日 17時 45分			
7 鎮火・処理完了		10月 17日 19時 10分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：南南東 風速：1.7m/s 気温：21℃ 湿度：67%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 残渣油(重油) 19,400L 9.7倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)		設置の完成：昭和 49年 9月 3日 直近の完成：平成 31年 4月 11日											
能力：屋外タンク貯蔵所 19,400kL		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：残渣油(重油)(3L)											
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		18 取扱者の概要											
規模：内径 37,776mm高さ 20,040mm容量 19,400kL		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
14 発生箇所		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
名称：その他の附属配管等 番 号 (299)		23 事故の概要： 現場点検中に、T-8324払出側配管周辺に油汚れを発見したため、漏えい箇所の確認を実施した。 払出配管のリリース配管(3/4B)フランジ近傍より残渣油の漏えいを確認し、漏えい部位周辺のブロッキング作業(バルブ3か所)を行った。											
材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：貯蔵・保管中 番 号 (7)													
作業状況： 番 号 ()													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 保温材の劣化により雨水が浸入、外面腐食が徐々に進行して配管開口に至ったと推定する。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		高温多湿環境（温泉の湯気の影響、周囲が高温多湿環境）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害							28 物的被害	
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該タンク防油堤内に約3L漏えい。近傍のスチームトラップにより広範囲に飛散。
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：
第 三 者		0	0	0	0			屋外タンク貯蔵所の附帯配管が外面腐食によるピンホールが発生。
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	6 台 0 隻 0 機 14 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:2,000				
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	第3石油類 残渣油 3L漏えい				
その他の機関	2 台 0 隻 0 機 2 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 漏えい箇所周囲をガス検知器を活用し環境測定を実施した。						自衛防災・消防組織等 番号 ()		
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施 設 名			33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		令和 5 年 5 月 31 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査		平成 30 年 12 月 10 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見		・当該配管の交換 ・当事例を周知及び外面腐食点検の強化						

1 事故名		屋外タンク貯蔵所のタンクミキサー損傷による原油漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		11月 17日 14時 10分 推定・確定					4 発生見		11月 17日 14時 10分				
5 覚知		11月 17日 14時 39分					6 鎮圧 応急処置完了		11月 18日 12時 03分				
7 鎮火・処理完了		11月 18日 12時 03分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南東 風速：2m/s 気温：13℃ 湿度：100%											
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製 番号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業					11 発生場所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 51,700L 258.5倍 倍数の合計：258.5倍 設置の完成：昭和 44年 9月 29日 直近の完成：平成 30年 2月 27日				
12 施設装置							17 物質の区分						
名称：浮屋根式(地上)タンク 番号 (1202)							①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油 (11, 800L)						
能力：屋外タンク貯蔵所 51,700kL													
13 機器等 温度圧力：													
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)		18 取扱者の概要		経験年数2年									
規模：内径 63,924mm高さ 20,040mm容量 51,700kL		19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
14 発生箇所		名称：電動機 番号 (401)		材質：鋼鉄		15 発生時		運転状況：定常運転中 番号 (1)		作業状況：その他 番号 (99)			
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無											
23 事故の概要：		屋外タンク貯蔵所T-6111 のタンクミキサーの向きを変えるため、運転員が作業を行っていたが、操作用ロッド(鉄パイプ製の治具)の差し込み箇所を誤り、ミキサーに附属するベントノズルに過大な荷重をかけた。 このため、ノズルねじ込み部が損傷・開口し、タンク内の原油が漏えいした。T-6111 に貯蔵中の原油をデッドレベルまで他の屋外タンク貯蔵所に移送した後、ミキサーのエンドブッシング部ロックシールにより漏えいを停止した。 なお、消火活動の実施は無し。人的・物的・環境影響は無し。											
24 緊急処置の状況		有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送											

原 因	25 主 原 因	誤操作					着火原因					番号 ()				
	関 連 原 因 操作確認不十分															
	発生原因の状況： 運転中にミキサーの方向転換に使用する操作用ロッドを誤ってベントノズルに当たる位置で差し込んだため、ベントノズルねじ込み部に過大な荷重がかかり損傷、開口した結果、漏えいしたものの。															
	主原因の詳細															
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層						
	人			本人の意識			違反(故意)			理解しない						
	関連原因の詳細															
	人			本人の意識			違反(故意)			その他						
因																
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																
27 人 的 被 害										28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該タンク防油堤内に約300L原油漏えい。当日の雨水に混ざり拡大。残り約11,500Lは油処理施設にて処理した								
当 事 者		0	0	0	0											
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： タンクミキサーベントノズル破損								
第 三 者		0	0	0	0											
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	23 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	18 人	物質の被害状況： 第4類 第1石油類(非水溶性) 原油 11,800L漏えい						
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人							
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人							
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (50 万円)						
30 実施した防災活動の状況																
公設消防機関：番号 (99) 漏えい箇所付近をガス検知器を活用し環境測定実施後、指揮本部で状況を聴取し二次災害の防止に努めた。										自衛防災・消防組織等 番号 (99) 事故の情報収集を行い、二次災害防止に努めた。						
31 防災活動上の問題点																
32 施設名									33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止				年 月 日				定期・自主点検		令和 5 年 5 月 31 日		年 月 日			
	改善命令等				年 月 日				気密試験等		年 月 日		年 月 日			
	停止解除				年 月 日				保安検査		平成 29 年 11 月 24 日		年 月 日			
	関係条項								34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：					
	そ の 他				年 月 日											
1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭												
35 今後の対策や所見																
(1) 作業担当部署(製造三課員及び業務委託会社)へ当該事故内容の説明、周知を行う。 (2) ミキサーの方向転換に関する附帯作業要領の改訂を行い、周知徹底する。 (3) 設備改善(専用工具作成、治具使用箇所にマーキング等)																

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の受入れ配管から軽油が流出した事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		5月 31日 13時 00分		[推定]・確定		4 発生見		5月 31日 13時 30分			
5 覚知		6月 2日 12時 48分		6 鎮圧 応急処置完了		6月 1日 17時 00分					
7 鎮火・処理完了		6月 1日 17時 30分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：雨		風向：東北東		風速：5m/s		気温：19.2℃ 湿度：100%			
10 発生事業所		種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：複合サービス業 協同組合(他 番号 (7912) に分類されないもの) 農林水 産業協同組合(他に分類されな いもの) 漁業協同組合(他に分 類されないもの)				11 発生場所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 100,000L 100倍 倍数の合計：100倍 設置の完成：平成 6年 3月 29日 直近の完成：平成 8年 3月 21日			
12 施設装置						17 物質の区分					
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス					
能力：容量100,000L						5. 毒物 6. 劇物 7. その他					
13 機器等						温度圧力：					
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		規模：呼び径100A、STPG		18 取扱者の概要		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
14 発生箇所		番号 (299)									
材質：鋼鉄		15 発生時									
運転状況：停止中		番号 (5)		作業状況：		番号 ()		①. 有 2. 無			
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 5月31日、危険物保安監督者は受入れ配管の一部から軽油がにじんでいるのを確認した。翌6月1日、配管の漏えい箇所を特定し耐油性 テープ等で補修するとともに、地面に砂をまいた。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]											

25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
原 因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 腐食の進行の要因は、海水による塩害や経年劣化によるものと推定される。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	腐食			環境			塩分の影響					
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害								28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外タンク貯蔵所へ港から軽油を受入れる配管の一部において、軽油がにじんでおり、配管を伝って道路上などに若干量の軽油が滞留したもの。				
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 受入れ配管の一部損傷				
防災活動従事者		0	0	0	0							
第 三 者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関		0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油1L	
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (850 万円)												
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 ()							自衛防災・消防組織等 番号 (4) 危険物保安監督者は、軽油がにじんでいる箇所を特定し耐油テープ等で補修するとともに、配管を伝い軽油が滞留していた路上などに砂をまいた。					
31 防災活動上の問題点 漁業協同組合から消防機関の通報はなく、油の臭気がすると近隣住民から、消防本部へ通報された。												
32 行政措置	施設名					33 定期点検等				消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				年 月 日	令和4年12月21日	
	改善命令等	年 月 日				気密試験等				年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日				保安検査				年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無 内容： 消火器の一部腐食		
	そ の 他	年 月 日				年 月 日						
35 今後の対策 や所見		事故発生時は速やかに連絡するように指導した。また、配管の漏油が認められた箇所について、同等の配管と交換すると共に、同一敷地内にある他の危険物施設の危険物配管についても、塩害や経年劣化が認められる箇所がある場合は、取替や修繕を図るよう指導した。										

令和5年

1 事故名		製造所から屋外タンク貯蔵所へ移送する配管からベンゼン流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		1月 11日 14時 10分				推定・ 確定		4 発生見		1月 11日 14時 10分			
5 覚知		1月 11日 14時 46分				6 鎮圧 応急処置完了				1月 11日 15時 38分			
7 鎮火・処理完了		1月 11日 15時 38分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：北東 風速：3m/s 気温：9.7℃ 湿度：36%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト 、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 番号 (1811)		区分：①. 事業所内 (製、 貯 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン 493,000L 2,465倍											
12 施設装置		倍数の合計： 2,465倍 設置の完成：昭和 44年 8月 13日 直近の完成：平成 18年 7月 19日											
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)													
能力：容量493,000L													
13 機器等		温度圧力：0.55Mpa											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ベンゼン(8.1L)											
規模：SGP 4B													
14 発生箇所													
名称：その他の附属配管等 番号 (299)		18 取扱者の概要											
材質：鋳鉄													
15 発生時													
運転状況：払出中 番号 (10)		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 従業員が当該施設の配管の外表面腐食検査を実施していたが、配管の肉厚測定のためにケレンを実施した際、配管が開孔し内容物のベンゼンが流出したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送													

25	主 原 因 腐食疲労等劣化						着火原因						番号 ()																																													
	関 連 原 因 維持管理不十分																																																									
	発生原因の状況： 約120℃の加温タンクの側板と保温材の間に雨水が入り込み、高温湿潤環境となり、外面腐食が進行し開口に至った。また、検査にあたりケレンの可否を判定する作業基準に不備があり、穿孔のリスクの高い状態の配管に行ってしまった。																																																									
	主原因の詳細																																																									
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																													
	腐食				環境				高温多湿環境（温泉の湯気の影響、周囲が高温多湿環境）																																																	
	関連原因の詳細																																																									
	設備				監理・保守				点検・整備				点検していない/不足																																													
	因																																																									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																										
27 人的被害																																																										
28 物的被害																																																										
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> <th rowspan="5">被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内にベンゼン流出</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="7">施設等の被害状況： 配管の開口</td> </tr> </table>																		被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内にベンゼン流出	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管の開口											
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内にベンゼン流出																																																			
当 事 者	0	0	0	0																																																						
防災活動従事者	0	0	0	0																																																						
第 三 者	0	0	0	0																																																						
施設等の被害状況： 配管の開口																																																										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																										
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>4 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>16 人</td> <td>自 衛</td> <td>2 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>9 人</td> <td rowspan="4">物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ベンゼン 8. 1L流出</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>その他</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> </table>																		消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	9 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ベンゼン 8. 1L流出	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	9 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ベンゼン 8. 1L流出																																																
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																	
損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																																																										
30 実施した防災活動の状況																																																										
<table border="1"> <tr> <td>公設消防機関：番号 (99)</td> <td>自衛防災・消防組織等 番号 (99)</td> </tr> <tr> <td>・情報収集 ・調査活動</td> <td>・検知活動</td> </tr> </table>																		公設消防機関：番号 (99)	自衛防災・消防組織等 番号 (99)	・情報収集 ・調査活動	・検知活動																																					
公設消防機関：番号 (99)	自衛防災・消防組織等 番号 (99)																																																									
・情報収集 ・調査活動	・検知活動																																																									
31 防災活動上の問題点																																																										
32	施 設 名	8101V-2								33 定 期 点 検 等	消 防 法				そ の 他																																											
	使用停止	令和 5 年 1 月 11 日				年 月 日					定期・自主点検	令和 4 年 9 月 20 日				年 月 日																																										
	改善命令等	年 月 日				年 月 日					気密試験等	年 月 日				年 月 日																																										
	停止解除	令和 5 年 7 月 19 日				年 月 日					保安検査	年 月 日				年 月 日																																										
	関係条項	法第12条の3第1項								34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 法第10条第3項製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反																																															
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																																				
	1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭																																																					
35		今後の対策 や所見 ・同系統の配管について、外面腐食検査を実施する。 ・6B以下の比較的薄肉の垂直配管で保温上端部に発錆が認められた場合は、ケレン前に非破壊検査を実施することを所内で定める検査前のケレン可否判断フローに記載する。																																																								

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の附属フィルターから重油流出																	
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()																	
3 発生		1月 27日 10時 46分				[推定]・確定		4 発生見		1月 27日 10時 46分									
5 覚知		1月 27日 12時 26分				6 鎮圧 応急処置完了				1月 27日 11時 05分									
7 鎮火・処理完了		1月 27日 13時 15分																	
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()																	
9 気象状況		天気：曇 風向：北北東 風速：1.5m/s 気温：6.7℃ 湿度：40%																	
10 発生事業所					11 発生場所														
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製 番号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業					区分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区														
					16 発生施設規制区分等														
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 14,787,000L 7,393.5倍														
					倍数の合計： 7,393.5倍														
12 施設装置					設置の完成：昭和 30年 8月 25日 直近の完成：令和 元年 11月 11日														
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201) 能力：容量14,787kL																			
13 機器等																			
温度圧力：60℃ 名称：その他の移送機器 番号 (699) 規模：内径:40,715mm、高さ:14,615mm																			
14 発生箇所					17 物質の区分														
名称：ストレーナー 番号 (209) 材質：鋼鉄					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(100L)														
					15 発生時					18 取扱者の概要					経験年数27年				
					運転状況：シャットダウン中 番号 (3) 作業状況：定期修理中 番号 (2)					①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要														
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無																			
23 事故の概要： 危険物屋外タンク貯蔵所から減圧蒸留装置へ重油(第4類第3石油類)を移送する配管のスチーム加温を継続したまま、当該配管に存するストレーナーの上流及び下流のバルブを両方閉鎖したため、ストレーナーが液封状態となり、加温された重油により内圧が上昇し、ストレーナー上部フランジ(蓋)から重油が流出したものの。																			
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (9、10) 無 緊急排出、緊急移送、その他																			

25	主 原 因		操作未実施		着火原因		番号 ()						
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 配管のスチーム加温を継続したまま、バルブを閉鎖したため、加温された重油により内圧が上昇し、ストレーナー上部フランジ(蓋)から重油が流出。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足						
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27	人 的 被 害						28 物的被害						
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内に重油が流出したが、施設内で留まり、他の施設までは及ばなかった。					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0								
	第 三 者	0	0	0	0								
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 重油100L流出						
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台			0 隻	0 機	0 人		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台			0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台			0 隻	0 機	0 人		
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額	1万円未満	1万円以上 () 万円
30	実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
・情報収集													
31	防災活動上の問題点												
32	施 設 名	屋外タンク貯蔵所				33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他					
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 4 年 6 月 21 日	年 月 日					
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日					
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日					
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有 ☐ 無 内容： ・法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱い ・法第16条の3第2項 製造所等における通報の遅れ ・石炭法第23条 通報遅延						
	そ の 他	警告書											
35	今後の対策 や所見		・事業所側で、操作手順書の整備を行うとともに、事案に対する勉強会を実施 ・事業所側で、通報に対する教育及び訓練の実施										

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の附属配管のフランジから軽油流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		2月 1日 15時 20分				[推定]・確定		4 発生見		2月 1日 15時 20分			
5 覚知		2月 1日 15時 29分				6 鎮圧 応急処置完了				2月 1日 17時 01分			
7 鎮火・処理完了		2月 1日 17時 01分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南南西 風速：8.1m/s 気温：12.9℃ 湿度：42%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 2,050,000L 2,050倍											
12 施設装置		倍数の合計： 2,050倍											
名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)		設置の完成：昭和 37年 2月 23日 直近の完成：平成 24年 2月 27日											
能力：容量2,050kL		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
温度圧力：		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(3L)											
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		18 取扱者の概要											
規模：6インチ、STPG370(SCH40:7.1mm)													
14 発生箇所													
名称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)													
材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：シャットダウン中 番 号 (3)													
作業状況： 番 号 ()													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 危険物屋外タンク貯蔵所から脱硫装置へ軽油を移送する配管のフランジガスケットが配管内圧の上昇により破損し、軽油(第4類第2石油類)が流出したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原 因	25 主 原 因 破 損						着火原因						番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分																	
	発生原因の状況： 液封による内圧上昇が発生しないように、脱圧は実施していたが、それ以上に内圧が上昇し、フランジ部から流出した。																	
	主原因の詳細																	
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層					
	破損				定常運転時				異常圧力上昇等									
	関連原因の詳細																	
	人				本人の知識・能力				知識				知識不足					
因																		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																		
27 人 的 被 害										28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出範囲は、フランジ部直近のみに収まっている。										
区分																		
当 事 者	0	0	0	0														
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 漏えいの圧力により、フランジ部のガスケットが破損した。										
第 三 者	0	0	0	0														
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	5 人	物質の被害状況： 流出量は軽油3L								
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人									
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人									
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)								
30 実施した防災活動の状況																		
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集 ・現場で可燃性ガスの検知活動										自衛防災・消防組織等 番号 (99、5) 放水待機								
31 防災活動上の問題点																		
政 策 措 置	32 施 設 名									33 定 期 点 検 等	消 防 法				そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	令和 4 年 6 月 8 日				年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日				年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保 安 検 査	年 月 日				年 月 日			
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反							
	そ の 他	年 月 日				年 月 日												
35 今後の対策 や所見		冬季でも液圧が上昇すると容易にフランジ等から漏えいに至るため、外気温が高い夏季だけでなく、液封状態になることは、絶対避けなければならない。そのために、配管内の脱圧を適正に行うことが必要になる。																

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所抜き取り配管からナフサ流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		2月 4日 14時 15分				[推定]・確定		4 発生見		2月 4日 14時 15分			
5 覚知		2月 4日 14時 21分				6 鎮圧 応急処置完了				2月 4日 15時 04分			
7 鎮火・処理完了		2月 4日 15時 04分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：3.5m/s 気温：11℃ 湿度：58%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 揮発油 4,900,000L 24,500倍											
12 施設装置		倍数の合計： 24,500倍 設置の完成：昭和 38年 8月 21日 直近の完成：平成 31年 1月 30日											
名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)													
能力：容量4,900kL													
13 機器等		温度圧力：0.6Mpa											
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)													
規模：12インチ、SGP													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：その他の附属配管等 番 号 (299)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材質：鋼鉄		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発生時		(固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧])											
運転状況：停止中 番 号 (5)		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)											
作業状況：定期修理中 番 号 (2)		分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフサ (10.5L)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 作業員が、現場付近を巡回中、臭気を感じたため、周囲を調査したところ、配管の下部に分解ガソリン(第4類第1石油類)を発見した。流出した箇所は、地面上にある金属製サポートに一部接触しており、当該箇所にピンホールが発生し、流出が発生したもの。流出量は10.5L													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送													

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因		維持管理不十分					
	発生原因の状況：							
	配管架台部と配管接触部において外面腐食が進行し、開孔したもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）			
	関連原因の詳細							
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切	
因								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害							28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管の漏えい箇所の上にナフサ流出
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管開孔
第 三 者	0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 16 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 5 人					物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ナフサ約10.5L流出
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (99)			
・検知活動 ・情報収集					・放水待機 ・回収			
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施 設 名	TK-721				33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	令和 5 年 2 月 6 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 4 年 6 月 4 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	令和 5 年 4 月 14 日		年 月 日		保 安 検 査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反	
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				
	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見		・類似配管箇所の外面腐食目視検査を実施する。 ・今まで日常点検を行われていなかったもので、日常点検を実施するようにする。						

令和5年

1 事故名		配管フランジ部からのN-ビニルピロリドン流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		2月 22日 18時 53分 推定・ 確定					4 発生見		2月 22日 18時 53分				
5 覚知		2月 22日 19時 13分					6 鎮圧 応急処置完了		2月 22日 19時 41分				
7 鎮火・処理完了		2月 22日 19時 41分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：2.2m/s 気温：8.7℃ 湿度：60%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト 、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業(脂肪族系溶剤を含む)		区 分：①. 事業所内 (製、 貯 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(水溶性液体) N-ビニルピロリドン 90,000L 22.5倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 61年 2月 17日 直近の完成：平成 31年 1月 21日											
名称：その他のタンク 番 号 (1299)													
能力：容量90kL(15kL×6室)													
13 機器等		温度圧力：											
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		倍数の合計： 22.5倍											
規模：縦8,010mm、横3,300mm、高さ3,600mm													
14 発生箇所													
名称：その他の附属配管等 番 号 (299)		17 物質の区分											
材質：ステンレス		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(水溶性液体) 名称： N-ビニルピロリドン(80L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：移送中 番 号 (18)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
作業状況：運転操作中 番 号 (1)													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 当該タンクC室からE室へN-ビニルピロリドンを移送中、作業完了間際に作業員が現場に向かったところ、臭気を感じたため現場付近を調査したところ、ガス抜き配管のフランジ部からN-ビニルピロリドンが流出していることを発見したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 操作確認不十分				着火原因				番号 ()				
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： ガス抜き配管直近のバルブ内部でN-ビニルピロリドンが凍結し、バルブが微開放状態となっており、また、ガス抜き配管フランジ部のボルトが緩んでいたため流出が発生したもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	設備			監理・保守			点検・整備			整備内容が不適切			
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27	人 的 被 害							28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内にN-ビニルピロリドン流出					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし					
	第 三 者	0	0	0	0								
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 16 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(水溶性)N-ビニルピロリドン約80L流出									
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同										0 台 0 隻 0 機 0 人
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援										0 台 0 隻 0 機 0 人
	その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他										0 台 0 隻 0 機 0 人
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)													
30	実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集							自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業						
31	防災活動上の問題点												
32 行政措置	施設名							33 定期点検等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反				
	そ の 他	年 月 日			年 月 日								
35	今後の対策 や所見			・バルブ操作時及びフランジ締付け時には、異物の付着がないことを確認することとした。 ・凍結対策として、バルブ及びフランジ部を加温する。									

1 事故名		屋外タンク貯蔵所においてフランジ締め付け不足に起因し軽油が漏えいしたもの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		3月 1日 14時 30分	
5 覚知		3月 1日 14時 40分		6 鎮圧 応急処置完了		3月 1日 14時 55分	
7 鎮火・処理完了		3月 2日 17時 43分					
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：晴 風向：西 風速：5m/s 気温：19℃ 湿度：38%					
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (「レイアウト」、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)				11 発生場所	
12 施設装置						区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、 <u>他</u>) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油材 15,138,000L 7,569倍	
						倍数の合計：7,569倍	
13 機器等		温度圧力：		設置の完成：昭和 46年 11月 11日 直近の完成：平成 29年 7月 4日		17 物質の区分	
名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)		能力：最大貯蔵量 15,138,000L		名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(24.4L)	
14 発生箇所		名称：その他の附属配管等 番 号 (299)		材質：鋼鉄		18 取扱者の概要	
15 発生時		運転状況：スタートアップ中 番 号 (2)		作業状況：改造工事中 番 号 (8)		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 隣接事業所Aの協力会社社員が現場確認のため事業所内の移動をしていたところ、臭気を感じ、辺りを見渡すと地面に油が飛散しているのを発見。当該社員は直ちにAの職員に連絡。現場に駆け付けたAの職員が油飛散の原因究明のため現場確認をしたところ、隣接する製油所内の露出配管から油が漏れているのを発見。Aの職員は直ちに製油所職員へ連絡。製油所側計器室にて遠隔操作によるバルブの閉止及び公設消防への通報を実施。現場に到着した製油所職員は先端バルブを手動閉止した。公設消防現着後、現場確認を実施。製油所職員による元バルブ開放により圧抜きをしたことで漏えい停止を確認。配管内の滞油にあつてはバキュームローリーにて抜き取りを実施した。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25 主 原 因 施工不良					着火原因					番号 ()																																											
	関 連 原 因																																																					
	発生原因の状況： 当該漏えい配管は、配管の交換工事を実施したばかりの配管である。交換実施後は、挿入していたブラインドプレートを抜き、漏えい確認を実施。確認実施時点では異常がなかった。 漏えい後再度フランジの締め状況を確認したところ、片締めにより締付の不足箇所があることが判明。内部流体の移送により圧力がかかり漏えいしたものと推定する。																																																					
	主要原因の詳細																																																					
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																												
	施工不良			施工			ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）																																															
	関連原因の詳細																																																					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																						
27 人 的 被 害										28 物的被害																																												
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防 災 活 動 従 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 配管ラック下縦0.7m、横2mの範囲に漏えい。																
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																																
当 事 者	0	0	0	0																																																		
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0																																																		
第 三 者	0	0	0	0																																																		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										施設等の被害状況： 該当なし																																												
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>4 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>11 人</td> <td>自 衛</td> <td>1 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>76 人</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>2 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>4 人</td> <td>その他</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> </table>										消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	76 人	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第四類 第2石油類非水溶性 24.2L				
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	76 人																																													
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
30 実施した防災活動の状況										損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																																												
公設消防機関：番号 (99) 調査活動										自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業																																												
31 防災活動上の問題点																																																						
行政措置	32 施設名							33 定期点検等	消 防 法			そ の 他																																										
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 4 年 3 月 25 日			年 月 日																																										
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日			年 月 日																																										
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	平成 29 年 7 月 4 日			年 月 日																																										
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：																																													
	そ の 他	年 月 日			年 月 日																																																	
35 今後の対策 や所見		フランジの締結部にあっては、締付後に面間の寸法測定を実施し締付不足箇所がない事を確認する。フランジの締め付け不足による漏えい事故の事例について再発防止のための職員教育を実施する。																																																				

令和5年

1 事故名		特定屋外タンク附属配管フランジ部分から圧力上昇により原油が漏えいしたもの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		3月 20日 18時 10分	
5 覚知		3月 20日 18時 20分		6 鎮圧 応急処置完了		3月 23日 14時 30分	
7 鎮火・処理完了		3月 24日 9時 25分					
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：曇 風向：南 風速：3.8m/s 気温：28℃ 湿度：86%					
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u> 、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)				11 発生場所	
12 施設装置						区 分：①. 事業所内 (製、 <u>貯</u> 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 99,399,000L 496,995倍	
						倍数の合計：496,995倍	
13 機器等		温度圧力：		設置の完成：昭和 44年 5月 9日 直近の完成：平成 30年 1月 30日		17 物質の区分	
名称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能力：最大貯蔵量 99,399,000L		14 発生箇所		名称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油 (54L)	
15 発生時		運転状況：スタートアップ中 番 号 (2) 作業状況：運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要			
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 製油所職員が現場の作業準備のためタンクヤード内に立ち寄ったところ、原油配管にて油が漏えいしているのを発見。周囲を確認すると、他の場所でも漏えいした形跡があり、2箇所からの漏えいとして把握。しかし、現場の確認を継続する中で、更に別の場所でも発見。計3箇所の漏えいを発見した。製油所職員は直ちに自衛防災組織へ連絡。自衛防災組織から公設消防へ通報。現着した公設消防により、附属する配管に対し使用制限命令。配管内の滯油量が約100kL想定されるため、滯油抜き完了までに2日以上を要すとのことだった。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因		維持管理不十分		着火原因		番号 ()		
原因	関 連 原 因								
	発生原因の状況： 当該発災箇所は、製造所廃止計画に伴いバルブ閉止作業を実施した配管である。滞油回収までの間は、系統のバルブを全て閉止し、仕切弁1か所を開放することで圧抜きできる状態を作り管理することとなっていた。発災当日は外気温の上昇とともに内圧も上昇。本来の想定であれば仕切弁開放により内圧は下がるはずだったが、弁の逃がし方向が逆だったため液封状態となり、フランジ等の弱い部分から噴出。漏えいに至ったと推定する。								
	主要原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	人		本人の意識		思慮		思い込み		
	関連原因の詳細								
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27	人 的 被 害						28 物的被害		
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：	
	当 事 者	0	0	0	0			漏えい範囲 ①縦4m、横8m ②縦2.5m、1.3m ③縦3m、横2.0m	
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：	
	第 三 者	0	0	0	0			なし	
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 10 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 23 人	物質の被害状況：					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	第4類 第1石油類 非水溶性液体 原油 54L漏えい					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人						
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 2 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (25 万円)					
30	実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
調査活動				回収作業					
31	防災活動上の問題点								
32	施設名	屋外タンク貯蔵所(No. 111タンク)の附属配管の一部		33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和 5 年 3 月 20 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 4 年 4 月 13 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日	
	停止解除	令和 5 年 3 月 24 日		年 月 日		保安検査		平成 28 年 4 月 28 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ 無	
	そ の 他	製造所等使用制限命令						内容：	
35	今後の対策や所見		所員の教育の徹底を行う。						

1 事故名		屋外タンク貯蔵所附属配管からナフサ(アルキレート)流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		4月 13日 12時 00分		[推定]・確定		4 発生見		4月 13日 16時 20分			
5 覚知		4月 13日 16時 34分		6 鎮圧 応急処置完了		4月 13日 17時 39分					
7 鎮火・処理完了		4月 13日 17時 39分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：5.5m/s 気温：18.7℃ 湿度：44%									
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)				11 発生場所		区分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 6,510,000L 32,550倍 倍数の合計： 32,550倍 設置の完成：昭和 43年 9月 24日 直近の完成：令和 3年 7月 6日			
12 施設装置											
名称：固定屋根付浮屋根(地上)タンク 番 号 (1203) 能力：容量6,510,000L											
13 機器等											
温度圧力： 名称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規模：直径21,300mm、高さ20,000mm、容量6,510,000L											
14 発生箇所		17 物質の区分									
名称：配管の架台、サポート 番 号 (217) 材質：鋳鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフサ(300mL)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：定常運転中 番 号 (1) 作業状況： 番 号 ()											
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 作業員が発災場所付近で配管ラックの敷設状況を確認していたところ、タンクヤード間の道路沿いにある高さ約5mのラック上の配管から配管内液が5秒に1滴程度滴下しているのを発見したもの。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化					着火原因					番号 ()									
	関 連 原 因	維持管理不十分																			
	発生原因の状況： ステンレス板金内部に施工していた防食テープが劣化し、劣化した防食テープ端部から雨水等が内部に浸入したことにより、外面腐食が進行したと推定される。																				
	主要原因の詳細																				
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層								
	腐食				防食				防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)												
	関連原因の詳細																				
	因	設備				監理・保守				点検・整備				点検していない/不足							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																					
27 人 的 被 害										28 物的被害											
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管ラック下部にナフサ流出													
区分																					
当 事 者	0	0	0	0																	
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0																	
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管開孔													
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																					
消 防 機 関	8 台 0 隻 0 機 34 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 3 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 ナフサ0.3L																	
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人																		
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人																		
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人									損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)									
30 実施した防災活動の状況																					
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集活動 ・ガス検知活動								自衛防災・消防組織等 番号 (99) ・警戒筒先配備													
31 防災活動上の問題点																					
行政措置	32 施 設 名	屋外タンク貯蔵所(#5020)				33 定 期 点 検 等				消 防 法				そ の 他							
	使用停止	令和 5 年 4 月 13 日				年 月 日				定期・自主点検				令和 4 年 10 月 10 日				年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等				年 月 日				年 月 日			
	停止解除	令和 5 年 4 月 21 日				年 月 日				保 安 検 査				年 月 日				年 月 日			
	関係条項	法第12条の3第1項								34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無 内容： 法第10条第3項製所等における危険物の貯蔵・ 取扱いの基準違反							
	そ の 他	年 月 日				年 月 日															
35 今後の対策 や所見		改良保全としてステンレス板金と防食テープを撤去し、配管への防食塗装及び隙間腐食防止のための梁上面への丸棒設置を行う。																			

令和5年

1 事故名		屋外タンクに附属する配管が、ケレン不足により錆が残存し、それを起点に腐食が進行したためガソリンが流出したものの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		5月 9日 10時 05分	
5 覚知		5月 9日 10時 20分		6 鎮圧 応急処置完了		5月 9日 16時 30分	
7 鎮火・処理完了		5月 11日 13時 45分					
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：晴 風向：北 風速：2m/s 気温：17℃ 湿度：48%					
10 発生事業所				11 発生場所			
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (「レイアウト」、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区		16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他			
				貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所			
				類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 14,859,000L 74,295倍			
12 施設装置				設置の完成：昭和 43年 2月 2日 直近の完成：令和 2年 5月 12日		倍数の合計：74,295倍	
名称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)							
能力：貯蔵量 14,859kL							
13 機器等		温度圧力：0.98Mpa					
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)				17 物質の区分		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(1L)	
規模：配管13インチ							
14 発生箇所							
名称：その他の附属配管等 番 号 (299)							
材質：鋼鉄				18 取扱者の概要		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
15 発生時							
運転状況：停止中 番 号 (5)							
作業状況：監視中 番 号 (10)							
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 協力会社社員が巡回点検中にガソリンが漏れいしているのを発見。協力会社社員が製油所職員へ連絡。製油所職員から自衛消防組織へ連絡。自衛消防組織から公設消防へ通報。現場へ駆けつけた製油所職員により配管の脱圧及びバルブの閉止を実施。現着した公設消防により調査活動実施。漏えい継続中であり、滞油抜き取り完了まで時間を要するため使用制限命令。翌日、製油所より漏えい防止措置完了の連絡を受け、確認したところ漏えいが継続していたため使用制限命令は継続。さらに翌日、確認したところ漏えいがないことを確認したため使用制限命令を解除した。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化						着火原因						番号 ()										
	関 連 原 因 施工不良																						
	発生原因の状況：																						
	当該漏えい配管は、アルミナイズドにより防食塗装がされている配管である。アルミナイズド配管にあっては、配管を接続する際に溶接箇所を一部ケレンする。配管敷設時のケレン不足により錆が残存し、それを起点に塗装下で腐食が進行したことにより穿孔。穿孔部からガソリンが漏えいしたものと推定する。																						
	主原因の詳細																						
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層										
	腐食				防食				防食措置が悪いために腐食発生														
因	関連原因の詳細																						
	施工不良				施工				工事時の措置不良														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																							
27 人的被害												28 物的被害											
被害内容等												被災影響範囲及び拡大の状況：											
区分												配管ラック下、縦0.3m、横0.4mの範囲に漏えい。											
当 事 者												死亡 0 重症 0 中等症 0 軽症 0 死傷原因 職業又は職名											
防 災 活 動 従 事 者												施設等の被害状況：											
第 三 者												配管1mmΦ穿孔											
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																							
消 防 機 関												物質の被害状況：											
消 防 団												第4類第1石油類非水溶性 ガソリン 1L漏えい											
海上保安部																							
その他の機関												損害額 1万円未満、1万円以上(400 万円)											
30 実施した防災活動の状況																							
公設消防機関：番号 (99)												自衛防災・消防組織等 番号 (5)											
調査活動												回収作業											
31 防災活動上の問題点																							
32	施設名 特定屋外タンク貯蔵所附属配管																						
	使用停止 令和5年5月9日 年 月 日																						
	改善命令等 年 月 日 年 月 日																						
	停止解除 令和5年5月11日 年 月 日																						
	関係条項 消防法第12条の3第1項																						
	そ の 他 年 月 日 年 月 日																						
	1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭																						
33 定期点検等												消 防 法						そ の 他					
定期・自主点検												令和5年3月22日						年 月 日					
気密試験等												年 月 日						年 月 日					
保 安 検 査												平成31年2月7日						年 月 日					
34 当該施設に係る法令違反の有無												有・無						内容：					
35 今後の対策や所見																							
一次検査にて高所カメラ等の新たな検査手法を活用して抽出精度向上を図り、腐食が著しい箇所については随時二次検査を行い、次回点検周期の見直しや補修計画を実施。																							

1 事故名		屋外タンクのスロップ配管から油流出												
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()												
3 発生		5月 22日 1時 25分				[推定]・確定		4 発生見		5月 22日 1時 25分				
5 覚知		5月 22日 1時 26分				6 鎮圧 応急処置完了				5月 22日 2時 16分				
7 鎮火・処理完了		5月 22日 2時 16分												
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()												
9 気象状況		天気：曇 風向：東北東 風速：2m/s 気温：17.5℃ 湿度：90.2%												
10 発生事業所					11 発生場所					区分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 廃油 572,000L 2,860倍 倍数の合計： 2,860倍 設置の完成：昭和 45年 9月 16日 直近の完成：平成 18年 11月 9日 17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0－40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(200L) 18 取扱者の概要 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製 番号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業														
12 施設装置														
名称：浮屋根式(地上)タンク 番号 (1202)														
能力：直径9,670mm、高さ9,155mm、容量572,000L														
13 機器等					温度圧力：									
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)														
規模：直径9,670mm、高さ9,155mm、容量572,000L														
14 発生箇所														
名称：その他の附属配管等 番号 (299)														
材質：鋳鉄														
15 発生時														
運転状況：定常運転中 番号 (1)														
作業状況： 番号 ()														
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要			20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要			21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無														
23 事故の概要： 硫黄回収装置内をパトロール中に、ラック上高さ約3mの配管から軽油の半製品が糸状に流出しているのを発見したもの。当該配管は非危険物施設から一時的に排出される廃油を当該屋外タンクへ送液するための配管であり、製造所から当該屋外タンクへ廃油を送液する配管に合流している。製造所では、スタートアップに伴い、前日から軽油の半製品を当該タンクへ送っており、当該配管まで液で満たされた状態であった。なお、前日のパトロールでは異常は確認されていない。														
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (9、10) 無 緊急排出、緊急移送、その他														

25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況：										
	・海水配管不具合部からの海水の滴下により、局所的に外面腐食が進行し、開口に至ったと推定される。 ・外面腐食点検のオンサイトエリアとオフサイトエリアの境界部での外面腐食点検対象としておらず、網羅的な点検が出来ていなかった。 ・不具合配管の上部に敷設されている海水配管に不具合が発生しているものの、ラック上段配管で発見しにくかったため、補修が速やかに実施されていなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		塩分の影響						
	関連原因の詳細										
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人 的 被 害						28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内に軽油流出			
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4石第4石油類非(水溶性)軽油 200L流出				
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	2 台			0 隻	5 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	7 台			0 隻	18 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台			0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台			0 隻	0 機	0 人
30	実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (99)					
・ガス検知活動 ・情報収集						・情報収集 ・調査活動					
31	防災活動上の問題点										
32	施 設 名	#541				33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 5 年	5 月 22 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	令和 5 年	7 月 4 日	年 月 日		保 安 検 査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 法第10条第3項製造所における危険物の貯蔵・ 取扱いの基準違反				
	そ の 他	年 月 日		年 月 日							
35	今後の対策 や所見		・境界部で点検対象から抜けている系統の調査を実施し、抽出された外面腐食検査未実施箇所の外面腐食点検を実施する予定。以後は5年ごとのファインセーブ活動により点検予定 ・海水飛散による影響について全運転グループ員へ周知し、高所については高所カメラ等を活用して点検を活用することと、不具合覚知後に速やかに報告、連絡する体制とする。								

令和5年

1 事故名		米海軍航空施設における航空機燃料JP-5の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		5月 24日 3時 00分			[推定]・確定		4 発 見		5月 24日 3時 10分		
5 覚 知		5月 24日 12時 30分			6 鎮 圧 応急処置完了		5月 24日 17時 00分				
7 鎮火・処理完了		5月 25日 16時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (市役所内線)									
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 南 風速： 3.2m/s 気温： 22.8℃ 湿度： 37.7%									
10 発 生 事 業 所					11 発 生 場 所						
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されない 番 号 (9499) もの) 外国公務 その他の外国 公務 その他の外国公務					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：						
					16 発生施設規制区分等						
					施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) JP-5 170,000L 170倍						
12 施 設 装 置					倍数の合計： 170倍 設置の完成： 平成 7年 6月 1日 直近の完成： 平成 7年 6月 1日						
名 称： その他のタンク 番 号 (1299) 能 力： 170,000L											
13 機 器 等 温度圧力：											
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 直径20m、高さ3.6m、容量150kL					17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： JP-5 (8,700L)						
14 発 生 箇 所											
名 称： その他 番 号 (999) 材 質： その他											
15 発 生 時					18 取扱者の概要						
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 米海軍航空施設に設置された覆土式燃料タンクから航空機燃料(JP-5)が約8,700L敷地内及び河川へ流出した。河川に流出した航空機燃料については、市役所環境保全課により水門の閉鎖、オイルマットの設置及びポンプでのくみ上げ作業を実施した。河川への流出量にあっては不明。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (8) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等											

原 因	25	主 原 因 不明						着火原因						番号 ()						
	関 連 原 因 不明																			
	発生原因の状況： 不明																			
	主原因の詳細																			
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層							
	関連原因の詳細																			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																				
因	27 人 的 被 害										28 物的被害									
	被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 第4類第2石油類(非水溶性)航空機燃料流出(流出量 不明)										
	当 事 者		0	0	0	0														
	防災活動従事者		0	0	0	0				施設等の被害状況： 不明										
	第 三 者		0	0	0	0														
	29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																			
	消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)航空機燃料流出(流出量 不明)									
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人										
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人										
	その他の機関	1 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)									
30 実施した防災活動の状況																				
公設消防機関：番号 ()										自衛防災・消防組織等 番号 ()										
31 防災活動上の問題点																				
政 策 措 置	32	施 設 名									33	定 期 点 検 等	消 防 法				そ の 他			
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検 気密試験等 保 安 検 査	年 月 日				年 月 日				
		改善命令等	年 月 日				年 月 日					年 月 日				年 月 日				
		停止解除	年 月 日				年 月 日					年 月 日				年 月 日				
		関係条項																		
	そ の 他	年 月 日				年 月 日				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：									
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭														
	35		今後の対策 や所見																	
			全国の在日米海軍燃料施設において関係機器一斉点検を実施及び燃料施設関係者に対して管理・監督・作業手順の徹底などの指示・教育を実施。																	

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の附属配管からナフサ流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		6月 27日 15時 30分				[推定]・確定		4 発生見		6月 27日 15時 40分			
5 覚知		6月 27日 15時 49分				6 鎮圧 応急処置完了				6月 27日 17時 05分			
7 鎮火・処理完了		6月 27日 17時 05分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：4.3m/s 気温：27.9℃ 湿度：71%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 4,900,000L 24,500倍											
12 施設装置		倍数の合計： 24,500倍 設置の完成：昭和 38年 8月 21日 直近の完成：令和 3年 8月 6日											
名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能力：容量:4,900kL													
13 機器等													
温度圧力：0.6Mpa													
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)													
規模：10インチ、STPG370													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：その他の附属配管等 番 号 (299)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材質：鋼鉄		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発生時		(固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧])											
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)											
作 業 状 況：点検中 番 号 (5)		分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフサ(3L)											
		18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 協力会社職員が定期パトロール中に、屋外タンク貯蔵所(TK-722)の船出荷受払配管のサポート部(防油堤内)からナフサが若干流出しているのを発見したもの。なお、受け払いの作業は行われていなかった。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

原因	25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因 維持管理不十分												
	発生原因の状況： 漏えい箇所は、地面に近い湿潤環境となる配管架台部(コンクリート)の配管底部であり、配管架台部と配管接触部の近傍において外面腐食が進行し、配管が開口したものと推測される。 今回の漏えい箇所は、以前の検査(非破壊検査等)から、かねてより外面腐食の懸念があったため、計画的に詳細検査(6月～)を実施し対応する予定であったが、その検査前に漏えいに至った。非破壊検査の結果から、減肉の進行が著しいと判断したもののについて、詳細検査の優先度を上げた計画を作り切れていなかったことが間接的原因であると推測する。												
	主要原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			多湿環境(保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇)						
	関連原因の詳細												
	設備		監理・保守				点検・整備				異常事態の放置		
因	26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
	27	人 的 被 害								28 物的被害			
	被害内容等 区分								被災影響範囲及び拡大の状況：				
	死亡 重症 中等症 軽症 死傷原因 職業又は職名								屋外タンクTK-722の附属配管のサポート部(防油堤内)から、ナフサが若干流出したもの。				
	当 事 者 0 0 0 0												
	防災活動従事者 0 0 0 0								施設等の被害状況：				
	第 三 者 0 0 0 0								附属配管が開孔				
	29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
	消 防 機 関 4 台 0 隻 0 機 16 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人								物質の被害状況：				
	消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人								第4類第1石油類ナフサ 3L流出				
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人													
その他の機関 0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人								損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)					
30	実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集 ・現場確認								自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31	防災活動上の問題点												
行政措置	32	施設名	TK-722			33 定期点検等			消 防 法		そ の 他		
	行	使用停止	令和 5 年 6 月 27 日			定期・自主点検			令和 5 年 6 月 1 日		年 月 日		
		改善命令等	年 月 日			気密試験等			年 月 日		年 月 日		
		停止解除	年 月 日			保安検査			年 月 日		年 月 日		
	措	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る法令違反の有無			有・無				
		そ の 他	年 月 日			年 月 日			内容：				
			1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭			法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱い基準違反				
35	今後の対策や所見 架台接触部の配管の非破壊検査(残存肉厚測定)は、スケールの付着等で解析評価が困難な場合があるため、そのような箇所は、詳細検査(配管吊り上げによる目視検査等)、または補修計画を立案する。また、配管下部が湿潤環境とならないように土砂の堆積を防ぐため、除去を計画的に実施していく。												

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所附属配管の腐食による軽油流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		7月 7日 16時 40分				[推定]・確定		4 発 見		7月 7日 16時 40分			
5 覚 知		7月 7日 16時 48分				6 鎮 圧 応急処置完了				7月 7日 17時 42分			
7 鎮火・処理完了		7月 7日 17時 42分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南西 風速：4.5m/s 気温：27.6℃ 湿度：86.3%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 廃油 572,000L 2,860倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計： 2,860倍 設 置 の 完 成：昭和 45年 9月 16日 直 近 の 完 成：平成 18年 11月 9日											
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)													
能 力：直径9,670mm、高さ9,155mm、容量572kL													
13 機 器 等		温 度 圧 力：											
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 廃油(軽油相当) (70L)											
規 模：6インチ													
14 発 生 箇 所													
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		18 取扱者の概要											
材 質：鋳鉄													
15 発 生 時													
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		19 危険物保安 統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
作 業 状 況： 番 号 ()													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 巡回中の作業員がラック上の配管から何らかの液体が漏れているのを発見した。発災当時、送油は行われてはならず、配管内に滞留していた廃油(軽油相当)が流出したものであった。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送													

25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因		維持管理不十分						
	発生原因の状況：		・微量の水分及び腐食性物質が構造上、低所である不具合部近傍に溜まり、スチームトレース接触部で蒸発・腐食物質が濃縮すること とで配管内面で顕著な局部減肉が発生し、開口するに至った。 ・減肉傾向を正確に把握できていなかった。						
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食	環境	工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）						
	関連原因の詳細								
	設備	監理・保守	点検・整備		点検内容が不適切				
	因								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害							28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内に軽油流出	
区分									
当 事 者	0	0	0	0					
防災活動従事者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管の腐食開孔	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	18 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
物質の被害状況： 第4類第2石油類灯油 廃油（軽油相当）70L流出									
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)			
・検知活動 ・情報収集						回収作業			
31 防災活動上の問題点									
32	施 設 名	屋外タンク貯蔵所(#541)				33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 5 年 7 月 7 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	令和 5 年 8 月 22 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 法第10条第3項製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反		
	そ の 他	年 月 日		年 月 日					
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭								
35	今後の対策 や所見	・同系統の内面腐食に対する検査手法として、超音波肉厚測定による面探傷検査を実施する。また、今回の不具合箇所の腐食率に応じて次回検査を計画する。なお、検査箇所の選定方法については今回の不具合箇所のような構造的にスケール及び水分が滞留しやすい箇所を選定し検査する。 ・類似箇所を検査する場合は放射線検査ではなく、肉厚測定を実施することを手順書に反映する。（放射線検査はある程度範囲があれば減肉を覚知することが可能であるが、割れなど開口幅が小さい面状キズは検収が難しい傾向がある。）							

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所において附属配管が外面腐食し穿孔しベンゼンが漏えいしたもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		8月 30日 10時 40分 推定・ 確定					4 発 見		8月 30日 10時 40分				
5 覚 知		8月 30日 10時 53分					6 鎮 圧 応急処置完了		8月 30日 11時 35分				
7 鎮火・処理完了		8月 30日 18時 25分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南西 風速：3.7m/s 気温：32.7℃ 湿度：68.1%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 (製、貯、 荷 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン 17,610,000L 88,050倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計：88,050倍 設置の完成：平成 9年 10月 31日 直近の完成：令和 3年 10月 22日											
名 称：固定屋根付浮屋根(地上)タンク 番 号 (1203) 能 力：17,610,000L													
13 機 器 等 温 度 圧 力：													
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：12B		17 物 質 の 区 分											
14 発 生 箇 所		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ベンゼン(10L)											
15 発 生 時		18 取扱者の概要											
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		19 危険物保安 統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無							
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 作業員が当該配管を点検中にベンゼンが漏えいしているのを発見したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送													

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 保温材をとりはずしたところ、配管本体に穿孔があり、保温材の隙間から雨水が浸入し、湿潤環境となったことで穿孔に至ったと推測する。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人 的 被 害							28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管下に漏えいは留まる			
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管に2.0mmΦの穿孔			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関		3 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	83 人	物質の被害状況： 第1石油類 非水溶性 ベンゼン 10L
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
損害額 1万円未満、 1万円以上 (30 万円)											
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動							自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業				
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日		年 月 日							
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 や所見		保温がある配管については超音波カメラを使用した点検を行い、異状がないことを確認する。									

1 事故名		防油堤内のタンク附属配管の母材バンド巻き仮補修部から灯油が流出												
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()												
3 発生		9月 11日 9時 39分				[推定]・確定		4 発生見		9月 11日 9時 39分				
5 覚知		9月 11日 9時 42分				6 鎮圧 応急処置完了				9月 11日 10時 27分				
7 鎮火・処理完了		9月 11日 10時 27分												
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()												
9 気象状況		天気：曇 風向：南南東 風速：3.17m/s 気温：29.8℃ 湿度：70%												
10 発生事業所					11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)					区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区									
					16 発生施設規制区分等									
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,050,000L 2,050倍									
					倍数の合計： 2,050倍									
12 施設装置					設置の完成：昭和 32年 2月 23日 直近の完成：令和 2年 9月 25日									
名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能力：2,050kL					17 物質の区分									
13 機器等					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (10.8L)									
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：内径:14,500mm、高さ:13,710mm					18 取扱者の概要									
14 発生箇所					経験年数37年									
名称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材質：鋼鉄					①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
15 発生時					21 危険物取扱者の取扱・立会い									
運転状況：定常運転中 番 号 (1) 作業状況：運転操作中 番 号 (1)					①. 有 2. 無									
19 危険物保安統括管理者					20 危険物保安監督者									
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無														
23 事故の概要： 発災箇所は、定常運転中であり、8月10日に屋外タンクから製造所(灯油・軽油水添脱硫装置)に送る配管のサポート接触部の肉厚測定をしたところ減肉を確認したため、応急対策としてバンド巻きを行っていた。事故当日は、現場付近の別の工事のため、工事会社の作業員が当該場所にきた際、臭気を感じたため周囲を確認したところ、バンド巻きを行った部分から、灯油がタンクヤード内に1秒に1滴の間隔で漏えいしているのを発見した。														
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他														

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 施工不良、操作確認不十分									
	発生原因の状況： 流出が発生した場所は、地面から近く湿潤環境であり、配管架台部との接触部近傍において外面腐食が進行していた。配管の外面検査で腐食が発見されたため、ゴアテックスシートを当該部分に当てて、バンド掛けを実施したが、協力会社にカバーする範囲を明確に指示していなかったため、適切な範囲をゴアテックスシートでカバーできておらず、カバーできていなかった部分の配管が開口して流出に至ったものと推測される。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）							
	関連原因の詳細									
	制度	規則・手順	内容・周知		規則・手順がない/文書化されない					
	因	施工不良	施工	取り付け不良						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害					28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管直下の地盤面に油溜りが発生した。		
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 約10.8L流出		
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	1 台	0 隻		0 機	13 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻		0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻		0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻		0 機	0 人
30 実施した防災活動の状況								損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)		
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集 ・ガス検知活動						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒筒先1線配備				
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名	TK-625				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 5 年 9 月 11 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	令和 5 年 9 月 15 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第10条第3項(製造所における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反)			
	そ の 他	年 月 日		年 月 日						
35 今後の対策 や所見		・架台と配管との接触部について、非破壊検査で外面検査を実施しても、スケール等の付着により、正確な解析評価が困難であることを考慮して、非破壊検査の信号消失箇所については、適切な詳細検査(配管吊り上げによる目視検査)または補修計画を立案する。 ・吊り上げ検査の場所は、狭所となるため、正確な評価が困難である。従って、デブスゲージで測定し、残肉が社内取替基準値付近となっている箇所は、速やかに配管更新を実施することを原則とする。 ・一時的に環境遮断のため、バンド施工する際は、ゴアテックスシート等の施工範囲を指定することが定められていなかったため、検査図書に記載する。								

令和5年

1 事故名		タンク水抜きバルブの閉め忘れによるナフサ流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		9月 22日 11時 30分				[推定]・確定		4 発 見		9月 22日 11時 50分			
5 覚 知		9月 22日 12時 04分				6 鎮 圧 応急処置完了				9月 22日 13時 42分			
7 鎮火・処理完了		9月 22日 13時 42分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北北西 風速：1.7m/s 気温：28.7℃ 湿度：73%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 9,950,000L 49,750倍											
		倍数の合計： 49,750倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)		名 称：ドレンバルブ 番 号 (210)											
能 力：9,950kL		材 質：鋼鉄											
13 機 器 等		15 発 生 時											
温 度 圧 力：		運 転 状 況：受入中 番 号 (9)											
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		作 業 状 況：その他 番 号 (99)											
規 模：直径32,930mm、高さ14,390mm		18 取扱者の概要											
14 発 生 箇 所		設置の完成：昭和 38年 12月 13日 直近の完成：令和 5年 8月 9日											
15 発 生 時		17 物 質 の 区 分											
運 転 状 況：受入中 番 号 (9)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフサ(7,400L)											
作 業 状 況：その他 番 号 (99)		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 開放検査後に隣接する別のタンクから当該タンクへ受け入れ作業を実施していたが、現場に受入れ状況を確認しにきた作業員が、タンク水切りバルブからナフサが流出していることを発見したもの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

25

主 原 因

操作確認不十分

着火原因

番号 ()

原 因

関連原因

発生原因の状況：
・オイルイン手順書に、水切りバルブの開閉に関する記載がなかったため、作業員が水切りバルブを閉め忘れたもの。

主原因の詳細

第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層
制度	規則・手順	内容・周知	規則・手順がない/文書化されない

関連原因の詳細

26 被害の状況

1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から

27 人的被害

被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名
当 事 者	0	0	0	0		
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		

28 物的被害

被災影響範囲及び拡大の状況：
タンク防油堤外に設置されたオイルセパレーターに若干流出したが、構外への流出はなし。

29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況

消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 16 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 7 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人

30 実施した防災活動の状況

施設消防機関：番号 (99)
・警戒筒先配備
・情報収集

自衛防災・消防組織等 番号 (99)
・警戒筒先配備

31 防災活動上の問題点

32 施設名

使用停止	年 月 日	年 月 日
改善命令等	年 月 日	年 月 日
停止解除	年 月 日	年 月 日
関係条項		
そ の 他	年 月 日 1. 文書 2. 口頭	年 月 日 1. 文書 2. 口頭

33 定期点検等

定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
気密試験等	年 月 日	年 月 日
保安検査	年 月 日	年 月 日

34 当該施設に係る法令違反の有無

有・無
内容：

35 今後の対策や所見

・オイルイン手順書に水切り弁を含む必要な管理について記載。

令和5年

1 事故名		配管ラック上の外面腐食検査時におけるMDFI混合軽油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		10月 3日 13時 55分				[推定]・確定		4 発生見		10月 3日 13時 55分	
5 覚知		10月 3日 14時 04分				6 鎮圧 応急処置完了		10月 3日 15時 14分			
7 鎮火・処理完了		10月 3日 15時 14分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：南東 風速：2.7m/s 気温：25.5℃ 湿度：37.2%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) MDFI・混合軽油 134,000L 134倍									
		倍数の合計： 134倍									
12 施設装置		14 発生箇所									
名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能力：容量:134kL		設置の完成：平成 17年 11月 15日 直近の完成：平成 22年 4月 15日									
13 機器等		17 物質の区分									
温度圧力：45℃、1Mpa		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：MDFI・混合軽油(80L)									
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規模：3B、STPG370E		18 取扱者の概要									
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者									
名称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材質：鋼鉄		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い	
15 発生時		①. 有 2. 無									
運転状況：定常運転中 番 号 (1) 作業状況：点検中 番 号 (5)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無									
23 事故の概要：		24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他									
100号地の製造所(第2接触改質及び附帯コンビネーション装置)内の第6水添脱硫装置部門から精製された製品軽油に、150号地の屋外タンク貯蔵所(No. 97)から送られたMDFI混合軽油をラインブレンドし、100号地の屋外タンク貯蔵所へ送液していた。配管のラインから分岐した400号地に送液する配管ラック上(地盤面から約5mの高さ)の配管の外面腐食検査を開始した協力会社の作業員が配管のSUS板金を外した後、錆こぶをケレン棒で擦ったところ、配管が開口し、MDFI混合軽油が流出したものの。											

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因		施工不良、維持管理不十分					
	発生原因の状況：							
	配管ラックとの接触部に設けていたSUS板金内に雨水が入り込み、外面腐食が進行し開孔に至った。なお、配管には、防食テープを施工した後、SUS板金を施工していたが、防食テープの施工長さが足りておらず、配管に直接SUS板金が施工された箇所から流出した。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）			
	関連原因の詳細							
	設備		監視・保守		点検・整備		確認不足	
因	施工不良		施工		工事時の措置不良			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害							28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管ラック上の附属配管から2石(MDFI・混合軽油)流出し、周囲の側溝で拡大防止。
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管の腐食開孔
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	5 台 0 隻 0 機 19 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 6 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(MDFI・混合軽油)約80L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
								損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) ・警戒筒先配備 ・検知活動 ・情報収集						自衛防災・消防組織等 番号 (99) ・情報収集		
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	令和 4 年 10 月 3 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	消防法第12条の3				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 消防法第10条第3項	
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				
		①. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策 や所見		・ラック接触部については、SUS板金及び防食テープでの施工を行わず、塗装及び丸棒設置にて防食措置を実施。 ・検査記録を、検査員及び記録員で相互に確認し記録するものとし、また、管理者にて間違いがないかを最終チェックするよう、手順書の見直しを行った。						

令和5年

1 事故名		Y型ストレーナーのろ過網取り出しフランジ部から軽油識別剤(灯油)が流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		11月 9日 17時 00分					
5 覚知		11月 9日 17時 28分		6 鎮 圧 応急処置完了		11月 9日 17時 51分					
7 鎮火・処理完了		11月 9日 17時 51分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：1.5m/s 気温：19.7℃ 湿度：59%									
10 発生事業所		種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発生場所					
						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区					
						16 発生施設規制区分等					
						施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油識別剤(灯油) 30,000L 30倍					
						倍数の合計： 30倍					
12 施設装置		設 置 の 完 成：昭和 39年 4月 23日 直 近 の 完 成：令和 5年 5月 29日									
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)											
能 力：容量30kL											
13 機 器 等		温 度 圧 力：									
名 称：フィルター 番 号 (908)		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油識別剤(灯油) (245L)									
規 模：管長178mm											
14 発生箇所											
名 称：ストレーナー 番 号 (209)											
材 質：ステンレス											
15 発生時											
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)											
作 業 状 況：点検中 番 号 (5)											
18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 当該タンク防油堤内の附属配管に設けられた流量計の点検を実施するため、流量計の1次側及び2次側に設けられたバルブを閉止したところ、流量計の1次側に設けられたY型ストレーナーのろ過網取り出しフランジ部から、軽油識別剤(灯油)が滴下したものの。その際、周囲の地盤面が濡れていることを確認したため、継続的に流出が発生していたものと判断し、通報に至ったもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 破損							
	発生原因の状況： 2022年12月に当該ろ過網取り出しフランジ部のパッキンを交換したが、その際パッキンの厚さが指定サイズと異なっており、また、パッキンの内径が大きいものを使用したため、フランジ部を閉めた際にパッキンにズレが生じ、内圧によりパッキンの弱い箇所 に割れが発生し、継続して流出が発生したものの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	施工不良	施工	施工内容の間違い					
	関連原因の詳細							
	破損	点検時	その他					
因								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内の流出(滴下)箇所のみ
	当 事 者	0	0	0	0			
	防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： パッキンに割れが発生
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 16 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 軽油識別剤(灯油)が継続的に約245L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) ・検知活動 ・情報収集					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施 設 名			33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第10条第3項			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35	今後の対策 や所見	・手順書にパッキンの仕様に関する内容を追記 ・工事仕様書に、パッキンの現場合合わせを実施する旨を追記						

令和5年

1 事 故 名		屋外タンク貯蔵所に接続されたギアポンプのパッキンが変形し灯油が漏れたもの									
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		1月 27日 19時 00分				[推定]・確定		4 発 見		1月 27日 19時 30分	
5 覚 知		1月 27日 19時 47分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了				1月 27日 19時 30分	
7 鎮火・処理完了		1月 27日 20時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：雪 風向：風向不明 風速： 気温： 湿度：									
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所									
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 28, 800L 28. 8倍									
12 施 設 装 置		設置の完成： 令和 4年 11月 30日 直近の完成： 令和 4年 11月 30日									
名 称： その他のタンク 番 号 (1299) 能 力： 28, 800L											
13 機 器 等											
名 称： ポンプ 番 号 (501) 規 模： 出力5. 5KW 口径40×40mm		倍数の合計： 28. 8倍									
14 発 生 箇 所		17 物 質 の 区 分									
名 称： パッキング 番 号 (213) 材 質： ゴム		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0－40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (800L)									
15 発 生 時		18 取扱者の概要									
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)											
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所のギアポンプ付近の戻り管のバルブが閉められており、ギアポンプが起動し行き場のなくなった灯油が、ギアポンプの空転により加熱され、ギアポンプ吐出側パッキンが熱により変形し、パッキン付近から灯油が漏えいしたもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]											

25	主 原 因 誤操作					着火原因					番号 ()									
	関 連 原 因																			
	発生原因の状況： 本来ならば、戻り管のバルブを開けておかなければならないものを、誤って閉めてしまいギアポンプが空転した場合に、中の灯油が摩擦により熱を持ち、ゴム製のパッキンを変形させたもの。																			
	主原因の詳細																			
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層							
	人				本人の意識				思慮				不注意							
	関連原因の詳細																			
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																			
	27 人的被害										28 物的被害									
	被害内容等 区分										被災影響範囲及び拡大の状況：									
	死亡 重症 中等症 軽症 死傷原因 職業又は職名										ポンプ室外へ噴出した灯油が駐車場内へ漏れ、降雪のため消雪パイプから水が出ていたため、駐車場内の灯油が側溝に流れ込み、スキー場斜面へ概ね10mの範囲に浸透した。									
	当 事 者 0 0 0 0																			
	防災活動従事者 0 0 0 0										施設等の被害状況：									
	第 三 者 0 0 0 0										ギヤポンプのパッキン									
	29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																			
	消 防 機 関 1 台 0 隻 0 機 2 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人										物質の被害状況：									
	消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人										灯油800L									
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																				
その他の機関 0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人										損害額 1万円未満、 1万円以上 (10 万円)										
30 実施した防災活動の状況																				
公設消防機関：番号 (5、99)										自衛防災・消防組織等 番号 ()										
事故原因調査																				
31 防災活動上の問題点																				
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等					消 防 法					そ の 他				
	使用停止 年 月 日 年 月 日					定期・自主点検					年 月 日					年 月 日				
	改善命令等 年 月 日 年 月 日					気密試験等					年 月 日					年 月 日				
	停止解除 年 月 日 年 月 日					保 安 検 査					年 月 日					年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無					有・ 無					内容：				
	そ の 他 年 月 日 年 月 日																			
	1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭																			
35 今後の対策や所見																				
関係者全員に、各バルブ類の開閉確認及び取り扱いの再確認を行ってもらい、定期的に施設の点検を実施し、その結果を記録しておくように指導した。																				

令和5年

1 事故名		準特定屋外タンク貯蔵所が変形し亀裂が入ったことによりジメチルアセトアミドが流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 ④. 破損 5. その他 ()											
3 発生		6月 4日 12時 15分				[推定]・確定		4 発生見		6月 4日 21時 54分			
5 覚知		6月 4日 22時 16分				6 鎮圧 応急処置完了				6月 4日 23時 40分			
7 鎮火・処理完了		6月 5日 3時 36分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：2.8m/s 気温：20℃ 湿度：81%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業		区分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新潟西港地区特別防災区域											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(水溶性液体) DMAC(ジメチルアセトアミド) 613, 200L 306.6倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 7年 2月 2日 直近の完成：令和 5年 1月 30日											
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)													
能力：容量613.2kL													
13 機器等		温度圧力：常温、常圧											
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)		倍数の合計：306.6倍											
規模：内径9,500mm、高さ9,500mm													
14 発生箇所													
名称：タンク側板 番号 (101)		17 物質の区分											
材質：ステンレス		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(水溶性液体) 名称：DMAC(ジメチルアセトアミド) (37, 900L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：受入中 番号 (9)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 準特定屋外タンク貯蔵所(DMAC製品タンク DT-707)のタンク上部及び側面が変形し、変形した側板に亀裂が生じたため、亀裂部分からDMAC(ジメチルアセトアミド)が流出したもの。また、後日、事故調査の段階で防油堤の排水弁が開けられていたことが判明し、防油堤外及び施設敷地外へも流出していたものと推定される。 なお、当該災害による死傷者は発生していない。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (9、1) 無 緊急排出、緊急移送、装置の緊急停止													

原因	25	主 原 因 故障					着火原因					番号 ()				
	関 連 原 因 破損															
	発生原因の状況： DT-707に設置された差圧式液面計の動作不良により、DMACが許可容量を超えて受入されて満液となり、タンク頂部のペントラインに流入したDMACが、地上部に設置された水封器のペントから流出したため、サイフォン現象が発生しDT-707内が負圧となり変形したものと推定される。また、負圧になったことでタンクの側板及び屋根板が変形し、側板に亀裂が生じたため、亀裂部分からもDMACが流出した。 なお、後日の事故調査で、事故当時は防油堤の排水弁が開いていたことが判明し、防油堤外及び敷地外へも流出したと推定される。タンクからの流出量は37.9kLで、そのうち16.4kLが防油堤内において地下浸透、10.1kLが防油堤外の排水溝内において地下浸透し、2.2kLが河川流出したと推定される。															
	主原因の詳細															
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層						
	故障			機能			機器の異常動作									
	関連原因の詳細															
	破損			定常運転時			異常圧力上昇等									
因																
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																
27 人的被害																
28 物的被害																
被害内容等																
区分																
当 事 者																
防 災 活 動 従 事 者																
第 三 者																
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																
消 防 機 関																
消 防 団																
海上保安部																
その他の機関																
30 実施した防災活動の状況																
公設消防機関：番号 (99)																
・現場の安全管理																
・調査活動																
自衛防災・消防組織等 番号 (99)																
・調査活動																
31 防災活動上の問題点																
・流出量、流出範囲の把握ができず、原因調査に遅れが生じた。																
32 施 設 名																
使用停止																
改善命令等																
停止解除																
関係条項																
そ の 他																
1. 文書 2. 口頭																
33 定 期 点 検 等																
定期・自主点検																
気密試験等																
保 安 検 査																
34 当該施設に係る																
法令違反の有無																
有・無																
内容：																
35 今後の対策や所見																
・防油堤の排水弁の緊急総点検																
・液面計の健全性調査																
・液面計のゼロ点調整方法及び保全方式の再検討																

令和5年

1 事故名		移送配管を洗浄するための配管が腐食しピンホールから重油が流出した事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		6月 12日 12時 10分				[推定]・確定		4 発生見		6月 12日 13時 00分			
5 覚知		6月 12日 13時 26分				6 鎮圧 応急処置完了				6月 12日 13時 45分			
7 鎮火・処理完了		6月 12日 15時 40分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：北北西 風速：2m/s 気温：25℃ 湿度：67%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 業態：製造業 その他の製造業 他に 番号 (3299) 分類されない製造業 他に分類 されないその他の製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新潟東港地区特別防災区域											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 2,780,000L 1,390倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 22年 8月 10日 直近の完成：令和 5年 3月 22日 倍数の合計：1,390倍											
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201) 能力：容量:重油 2,780kL													
13 機器等													
温度圧力：													
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規模：配管径80A、配管距離185m													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：その他の附属配管等 番号 (299) 材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (8.2L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：その他 番号 (99) 作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所(東5タンク)の移送配管内の重油(TAR)を重油(EO)で洗浄する作業を実施中、洗浄配管の腐食により発生したピンホールから重油(EO)が8.2L流出し、防油堤外にも一部流出したもの。 なお、死傷者は発生していない。													
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因								
	発生原因の状況： 配管に外面腐食によるピンホールが発生し、ピンホールから重油8.2Lが流出したもの。 なお、当該箇所は事故前の日常点検において、保温材及び配管に腐食が認められたため、近日中に交換する計画を立てており、それまでの間は保温材を取った状態で使用することとしていたもの。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人 的 被 害							28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該配管が防油堤の天端付近だったため、漏えいした重油が防油堤外にも一部流出した。なお、敷地外に重油の流出なし。	
区分									
当 事 者	0	0	0	0					
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管の母材が腐食しピンホールが生じた。その他、被害なし。	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
物質の被害状況： ピンホールから重油8.2L流出したが、その他被害なし。									
損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)									
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99) 事故調査、安全管理						自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点									
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	令和5年 4月 11日	令和5年 5月 29日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：		
	そ の 他	年	月	日	年		月	日	
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見		・点検時の対応の明確化及び安全教育の徹底 ・現状の点検基準では、今回の腐食程度は即時交換に該当していないが、本事故を受け、点検及び腐食による交換基準を見直す必要がある。							

令和5年

1 事故名		特定屋外タンク貯蔵所の送液配管から原油が漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		9月 12日 0時 00分				[推定]・確定		4 発生見		9月 12日 10時 00分			
5 覚知		9月 12日 10時 35分				6 鎮圧 応急処置完了				9月 12日 10時 35分			
7 鎮火・処理完了		9月 14日 16時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：2.6m/s 気温：33.3℃ 湿度：56.6%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵倉 番号 (4711) 庫業を除く) 倉庫業(冷蔵倉庫業を除く)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新潟東港地区特別防災区域											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 101,000,000L 505,000倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 51年 10月 28日 直近の完成：平成 28年 9月 26日 倍数の合計：505,000倍											
名称：浮屋根式(地上)タンク 番号 (1202)													
能力：タンク容量:101,000L(代表タンク)													
13 機器等		温度圧力：											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)													
規模：直径:28インチ 厚さ:9.5mm 容量310kL													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：配管の架台、サポート 番号 (217)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材質：鋼鉄		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発生時		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧)											
運転状況：定常運転中 番号 (1)		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)											
作業状況：監視中 番号 (10)		分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(325L)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 特定屋外貯蔵タンクから原油タンカー船に送液する原油サクシオン配管(防油堤外)を等間隔で固定する鋼製の固定点ストッパー部と配管との溶接線が腐食して原油が325L漏えいしたもの。漏えい範囲は施設内。 この事故で火災危険及び死傷者はなし。海域への流出のおそれはなし。また、この事故で公設消防及び東港共同防災センターの消防車両が出動している。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 腐食疲労等劣化						着火原因						番号 ()																																
原 因	関 連 原 因																																												
	発生原因の状況： 配管外面から観察し、腐食が認められたことから、外面腐食による穿孔と推定する。																																												
	主原因の詳細																																												
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																
	腐食				環境				塩分の影響																																				
	関連原因の詳細																																												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																													
27 人 的 被 害										28 物的被害																																			
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした油が、漏えい箇所を中心に幅約4.5m、長さ約3mにわたり流出した。流出量は原油325L。							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																							
当 事 者	0	0	0	0																																									
防災活動従事者	0	0	0	0																																									
第 三 者	0	0	0	0																																									
										施設等の被害状況： 原油サクシオン配管(防油堤外)を等間隔で固定する鋼製の固定点ストッパー部と配管との溶接線が腐食する。																																			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)原油325L流出																																			
消 防 機 関 2 台 0 隻 0 機 6 人 自 衛 3 台 0 隻 0 機 11 人																																													
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 2 台 0 隻 0 機 9 人																																													
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																													
その他の機関 0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人										損害額 1万円未満、 1万円以上 (360 万円)																																			
30 実施した防災活動の状況																																													
公設消防機関：番号 (99) 調査										自衛防災・消防組織等 番号 (3、5、4) 拡散防止、流出防止、回収作業																																			
31 防災活動上の問題点																																													
32 行 政 措 置	施設名									33 定期点検等	消 防 法				そ の 他																														
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	令和 5 年 9 月 20 日				年 月 日																														
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日				年 月 日																														
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日				年 月 日																														
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：																																		
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																							
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭																																													
35 今後の対策 や所見		該当の配管の撤去、配管の外面コーティング、目視点検の強化																																											

令和5年

1 事 故 名		製薬工場(一般取扱所)から廃液タンク(屋外タンク貯蔵所)への配管のフランジ部分からの流出事故											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		4月 6日 13時 25分				推定・確定		4 発 見		4月 6日 13時 25分			
5 覚 知		4月 6日 14時 35分				6 鎮 圧 応急処置完了				4月 6日 14時 30分			
7 鎮火・処理完了		4月 6日 19時 30分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南 風速：9m/s 気温：21.7℃ 湿度：50%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 医薬品製造 番 号 (1761) 業 医薬品原薬製造業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸 ^{エチル} 40,000L 200倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計： 200倍 設置の完成： 平成 3年 12月 25日 直近の完成： 令和 4年 4月 19日											
名 称： 固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：													
13 機 器 等													
温度圧力：		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： 酢酸 ^{エチル} (190L)											
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 40A													
14 発 生 箇 所													
名 称： 管継手(ダクトを含む) 番 号 (201) 材 質： ステンレス		18 取扱者の概要											
15 発 生 時													
運 転 状 況： 試運転中 番 号 (14) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所から屋外タンク貯蔵所への屋外にある移送配管(配管は屋外タンク貯蔵所の所有)のフランジ接続部分から移送中の酢酸エチルが流出したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原 因	25 主 原 因 破損		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 移送配管において、通水試験実施時の残留水が凍結・膨張しガasketを損傷し、損傷箇所から漏えいしたものと考えられる。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	破損	自然現象	凍結					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内の流出
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第一石油類(非水溶性) 190L流出	
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)	
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
原因調査								
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンクVE-7130		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 5 年 4 月 6 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 3 月 7 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	令和 5 年 4 月 7 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		通水試験実施時は、配管内の残留水が無いようにするために水を空気で圧送若しくは溶媒で置換する。						

令和5年

1 事故名		地震による屋外タンク貯蔵所払出し配管フランジ接続部からの漏えい事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		5月 5日 14時 42分				[推定]・確定		4 発生見		5月 8日 8時 40分	
5 覚知		6月 22日 10時 00分				6 鎮圧 応急処置完了				5月 8日 9時 00分	
7 鎮火・処理完了		5月 10日 11時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (立入検査)									
9 気象状況		天気：晴 風向：北東 風速：2.7m/s 気温：21.9℃ 湿度：44.9%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 鉄鋼業 製鉄業 フェロ 番号 (2313) アロイ製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 廃油 50,000L 50倍									
12 施設装置		設置の完成：昭和52年7月25日 直近の完成：昭和52年7月25日									
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)											
能力：廃油:50kL											
13 機器等		温度圧力：									
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)		倍数の合計：50倍									
規模：直径:3,850mm、高さ:4,600mm、容量:50kL											
14 発生箇所											
名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201)		17 物質の区分									
材質：その他		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温][0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：廃油(10L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：停止中 番号 (5)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
作業状況：その他 番号 (99)											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 地震に伴い、当該施設の払出し配管のフランジ接続部より廃油約10Lが防油堤内に漏えいしていたもの。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原 因	25 主 原 因		その他の地震等災害		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因		破損					
	発生原因の状況：		地震に伴い、当該施設の払出し配管のフランジ接続部に若干の隙間が空いていた。					
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	関連原因の詳細							
	破損	自然現象	その他					
因								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害						28 物的被害		
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況：
								配管のフランジ接続部から廃油が10L防油堤内に漏 えい。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況：
第 三 者	0	0	0	0				配管のフランジ接続部に漏れあり。
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	第4類第2石油類(非水溶性)廃油10L漏えい。				
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (24 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)		
調査活動						回収作業		
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報を行っていなかった。								
32 施 設 名					33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		年 月 日	令和 5 年 4 月 28 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日			内容：		
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		事故の程度に関係なく迅速な通報行い、緊急時の連絡体制の強化、徹底を従業員等へ周知するよう指導した。						

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の配管継手部(エルボ)の腐食による重油の流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 30日 7時 00分				推定・確定		4 発生見		8月 30日 17時 40分			
5 覚知		8月 30日 18時 43分				6 鎮圧 応急処置完了				8月 30日 19時 50分			
7 鎮火・処理完了		8月 31日 13時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：東 風速：2.7m/s 気温：29.6℃ 湿度：64%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 その他の化学工業 ゼラチン・接着剤製造業 番号 (1794)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 50,000L 25倍											
12 施設装置		13 機器等											
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)		温度圧力：											
能力：タンク容量50,000L		名称：貯槽(タンク) 番号 (107)											
14 発生箇所		規模：タンク容量50,000L											
名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201)		設置の完成：昭和 40年 9月 2日 直近の完成：平成 15年 10月 29日											
材質：鋼鉄		17 物質の区分											
15 発生時		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(100L)											
運転状況：払出中 番号 (10)		18 取扱者の概要											
作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所から重油を一般取扱所へ送油中、配管継手部(エルボ)から重油約100Lが防油堤内に漏えいした。防油堤内の地盤はコンクリートではないため、地中に浸透した。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

原 因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()				
	関 連 原 因	維持管理不十分												
	発生原因の状況： 長期使用した配管継手部(エルボ)が、経年劣化により腐食し、直径約1mmの穴が開き、重油が漏えいしたものの。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層				
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）							
	関連原因の詳細													
	設備			監理・保守			点検・整備			整備していない				
	因													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人 的 被 害								28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内での流出であったが、防油堤内の地盤がコンクリート施工ではないため、地中に浸透した。						
区分														
当 事 者	0	0	0	0										
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管継手部(エルボ)に直径約1mmの穴が開いた。						
第 三 者		0	0	0	0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油100L流出。						
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻						0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻						0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻						0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻						0 機	0 人
30 実施した防災活動の状況								損害額 1万円未満、 1万円以上 (49 万円)						
公設消防機関：番号 ()								自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点														
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等				消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・ 無 内容：				
	そ の 他	年 月 日				年 月 日								
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策 や所見		屋外タンク貯蔵所の使用前に漏えいした配管の取替工事(変更or軽微)を実施する。 危険物施設全体の点検、老朽化している設備の洗い出し、順次更新する。 機器の日常点検及び送液中の安全点検を実施する。												

令和5年

1 事故名		重油タンク間の移送配管フランジ部からの重油漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		9月 4日 11時 20分	
5 覚 知		9月 4日 12時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了		9月 4日 11時 25分	
7 鎮火・処理完了		9月 4日 15時 30分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北 風速：4.5m/s 気温：30.2℃ 湿度：78.8%					
10 発 生 事 業 所		種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所				11 発 生 場 所	
12 施 設 装 置						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 福井臨海地区	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 50,000,000L 25,000倍	
						倍数の合計： 25,000倍	
13 機 器 等		温度圧力：70℃		設置の完成：昭和 47年 6月 2日 直近の完成：令和 4年 7月 5日		17 物 質 の 区 分	
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)		能 力：50,000kL		18 取扱者の概要		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (0.5L)	
14 発 生 箇 所		名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)		19 危険物保安 統括管理者		20 危険物 保安監督者	
材 質：鋼鉄		15 発 生 時		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)		作 業 状 況： 番 号 ()		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		23 事 故 の 概 要： 重油タンク間の移送配管のフランジ部から重油が漏えいしたもの。					
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： フランジ接手のパッキンが劣化していたことにより漏えいしたもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	疲労・劣化			素材等の劣化			長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし。					
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 漏えい箇所付近の保温材に重油が付着した。					
防災活動従事者		0	0	0	0								
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 重油約0.5Lが漏えい					
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻					0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻					0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻					0 機	0 人
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 消防隊の現着時には、漏えいの継続は認められなかったため処置は未実施。							自衛防災・消防組織等 番号 (4) 流出防止措置						
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32 施設名	No.2重油タンク						33 定期点検等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	令和 5 年 9 月 4 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 5 年 5 月 22 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	令和 3 年 9 月 29 日		年 月 日		
	関係条項	法第12条の3						34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：				
	そ の 他	年 月 日			年 月 日								
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策 や所見		施設が老朽化していることから配管の点検実施周期、点検方法の見直しを行う。											

令和5年

1 事故名		特定屋外タンク貯蔵所における防油堤内での重油漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		10月 16日 13時 30分				推定・ 確定		4 発 見		10月 16日 13時 30分			
5 覚 知		10月 16日 14時 39分				6 鎮 圧 応急処置完了		10月 16日 14時 40分					
7 鎮火・処理完了		10月 16日 18時 30分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南南西 風速：4.4m/s 気温：21℃ 湿度：72.3%											
10 発 生 事 業 所					11 発 生 場 所								
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 福井臨海地区								
					16 発生施設規制区分等								
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 50,000,000L 25,000倍								
					倍数の合計： 25,000倍								
12 施 設 装 置					設置の完成：昭和 47年 6月 2日 直近の完成：令和 4年 7月 5日								
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能 力：最大貯蔵量50,000kL					17 物 質 の 区 分								
13 機 器 等					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(130L)								
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：口径550A、配管長約600m、容積約150L					18 取扱者の概要								
14 発 生 箇 所					①. 選任有 2. 選任無 3. 不要								
名 称：その他 番 号 (999) 材 質：鋼鉄					21 危険物取扱者の の取扱・立会い								
15 発 生 時					①. 有 2. 無								
運 転 状 況：停止中 番 号 (5) 作 業 状 況：洗浄中 番 号 (11)													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要			20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要						
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 配管内を洗浄するために仮設の環状配管を敷設し、水にて洗浄作業を実施していたところ当該配管に接続されていた仮設油分離槽の容量限界を超え、約130Lの重油が防油堤内に流出したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

原因	25	主 原 因		監視不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因		設計不良								
	発生原因の状況：		配管洗浄を実施しながら仮設油分離槽に回収される重油の払い出し系統配管を作成していたが、当該分離槽の液面高を監視しておらず、異常な液面上昇に気付かなかったもの。なお、発見した時点では、払い出し系統配管の作成が完了していなかったため、分離槽内の重油の払い出し操作を実施することができず、漏えいしたもの。								
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
因	関連原因の詳細										
	設計不良		能力		処理能力不足（処理能力の限界を超えたため溢流等）						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害							28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：			
区分								防油堤内に約130Lの重油が流出したもの。			
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：			
第 三 者		0	0	0	0			なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：							
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	洗浄に伴う配管内の残油の為、被害なし。							
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人								
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)							
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)							自衛防災・消防組織等 番号 (4)				
到着時、事業所及び施工業者にて措置が完了していたため状況の確認のみ。							流出防止措置				
31 防災活動上の問題点											
32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 5 月 22 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		令和 3 年 9 月 29 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無			
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				内容：			
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策や所見		仮設配管を敷設して作業を行う場合は、使用前に系統を工事業者及び従業員双方で確認すること。また、仮設水槽等を使用する場合はレベル監視を適宜実施すること。									

令和5年

1 事故名		準特定屋外タンク貯蔵所における小口径配管からの漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		11月 2日 14時 30分	
5 覚 知		11月 2日 14時 58分		6 鎮 圧 応急処置完了		11月 2日 14時 35分	
7 鎮火・処理完了		11月 2日 16時 10分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南 風速：1m/s 気温：23.2℃ 湿度：66.2%					
10 発 生 事 業 所		種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所				11 発 生 場 所	
12 施 設 装 置						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 福井臨海地区	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 545,600L 272.8倍	
						倍数の合計： 272.8倍	
14 発 生 箇 所		名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		材 質：鋼鉄		設置の完成：昭和 53年 2月 10日 直近の完成：令和 5年 7月 7日	
15 発 生 時		運 転 状 況：停止中 番 号 (5)		作 業 状 況：その他 番 号 (99)		17 物 質 の 区 分	
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (0.5L)	
						18 取扱者の概要	
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無					
23 事故の概要：		タンク側板下部予備ノズル近傍において、保温材外装板の接合部(継ぎ目)付近から危険物の漏えいを発見したもの。側板×底板の溶接部付近に重油(約0.5L)が滞留しており、危険物の継続した流出は認められなかった。					
24 緊急処置の状況		有 番号 () <u>無</u>					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 予備ノズル上部に設けられた小口径バイパス配管(閉止弁レリーフ配管系統)母材部の腐食が進行し、発生した孔食により重油が漏えいした。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	腐食	環境	多湿環境(保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇)					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 側板×底板の溶接部付近に重油が漏えい。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 重油約0.5L				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 調査活動を実施したが、危険物の漏えい継続は認められなかった。					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名	No.2重油サービスタンク		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 5 年 11 月 2 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 5 月 25 日	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3		34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策や所見		施設設置から40年以上が経過しており、腐食等経年劣化による事故が頻発していることから、計画的な設備の更新が必要である。						

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所注入口からの灯油漏えい事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		11月 10日 10時 15分				[推定]・確定		4 発生見		11月 10日 10時 15分			
5 覚知		11月 10日 10時 57分				6 鎮圧 応急処置完了				11月 10日 10時 57分			
7 鎮火・処理完了		11月 10日 11時 30分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：雨 風向：南南西 風速：3.6m/s 気温：17.3℃ 湿度：94.9%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,900L 4.9倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 7年 7月 6日 直近の完成：年 月 日 17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (20L) 18 取扱者の概要 経験年数8年											
名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能力：4,900L													
13 機器等 温度圧力：													
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規模：4,900L													
14 発生箇所													
名称：タンクの注入口 番 号 (905) 材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：荷卸中 番 号 (13) 作業状況：その他 番 号 (99)													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から屋外タンク貯蔵所へ灯油2,000Lの荷卸しを完了後、屋外タンク貯蔵所に附属の注入口に繋結していた注油ホースを取り外した際に、注入口から灯油約20Lが逆流し漏えいしたもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原因	25 主 原 因	操作未実施				着火原因				番号 ()																																											
	関 連 原 因	監視不十分																																																			
	発生原因の状況：	屋外タンク注入口下部に設置されている逆流防止用のべんの閉止を怠ったまま、緊結しているホースを取り外したため、注入口から逆流した灯油約20Lが漏えいした。また、荷卸し直前に屋外タンク貯蔵所内の残油量の確認を怠ったこと、保安監督者等の立会いなしで荷卸し作業を実施したことも事故の要因としてあるもの。																																																			
	主原因の詳細																																																				
	第Ⅰ層	第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																											
	設備	監理・保守				監理				その他																																											
	関連原因の詳細																																																				
	管理	監督				監視				監視が実施されない/不足																																											
因																																																					
26 被害の状況													1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																								
27 人的被害													28 物的被害																																								
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防 災 活 動 従 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>													被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	当 事 者	0	0	0	0			防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 注入口東側の南北に流れる排水路から南側へ約150mの位置までの流出を確認。												
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																															
当 事 者	0	0	0	0																																																	
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0																																																	
第 三 者	0	0	0	0																																																	
													施設等の被害状況： なし																																								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																					
消 防 機 関													2 台				0 隻				0 機				5 人				自 衛				0 台				0 隻				0 機				0 人								
消 防 団													0 台				0 隻				0 機				0 人				共 同				0 台				0 隻				0 機				0 人								
海上保安部													0 台				0 隻				0 機				0 人				応 援				0 台				0 隻				0 機				0 人								
その他の機関													3 台				0 隻				0 機				6 人				そ の 他				0 台				0 隻				0 機				0 人								
30 実施した防災活動の状況																																																					
公設消防機関：番号 (5)													自衛防災・消防組織等 番号 ()																																								
排水路へ流出した危険物のせき止め、回収のため吸着マットの設置。																																																					
31 防災活動上の問題点																																																					
行政措置	32 施設名											33 定期点検等										消 防 法					そ の 他																										
	使用停止	年 月 日										年 月 日										定期・自主点検					年 月 日					年 月 日																					
	改善命令等	年 月 日										年 月 日										気密試験等					年 月 日					年 月 日																					
	停止解除	年 月 日										年 月 日										保安検査					年 月 日					年 月 日																					
	関係条項																					34 当該施設に係る法令違反の有無					有・無																										
	そ の 他	年 月 日										年 月 日										内容：																															
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭																																																					
35 今後の対策や所見																																																					
作業前の残油量の確認を徹底し、保安監督者立会いの下、作業を実施すること。 注入口付近に「注油後のバルブ閉鎖」など注意喚起の表示を行うこと。																																																					

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所に附属する送油ポンプからの灯油漏えい事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		12月 19日 16時 00分	
5 覚 知		12月 20日 17時 29分		6 鎮 圧 応急処置完了		12月 20日 19時 00分	
7 鎮火・処理完了		月 日 時 分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：雨 風向：南南西 風速：3.6m/s 気温：17.3℃ 湿度：94.6%					
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 医薬品製造 番 号 (1762) 業 医薬品製剤製造業				11 発 生 場 所	
12 施 設 装 置						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 5,000L 5倍	
						倍数の合計：5倍	
13 機 器 等		温度圧力：		設置の完成：平成 16年 12月 27日 直近の完成：平成 24年 2月 6日		17 物 質 の 区 分	
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)		能 力：5,000L		18 取扱者の概要		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油	
14 発 生 箇 所		名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		材 質：ステンレス		19 危険物保安統括管理者	
15 発 生 時		運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		20 危険物保安監督者	
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 危険物保安監督者が施設点検を実施中、屋外タンクの送液ポンプ圧力ゲージのねじ込み接続部分から灯油が漏えいしているのを発見したもの。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因 施工不良					着火原因					番号 ()					
原因	関 連 原 因															
	発生原因の状況： 屋外タンク貯蔵所送油ポンプ圧力ゲージのねじ込み接続部分が何らかの原因により緩み、灯油が漏えいしたもの。さらに送油ポンプ用流出防止の囲いに設けられている水抜きバルブが開いている状態であったため、敷地内油分離槽へ繋がる埋設排水管に灯油が流れ込み、排水管の接続部が外れていた部分より周囲の土壌へ流出拡散したもの。															
	主原因の詳細															
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層			
	施工不良				施工				ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）							
	関連原因の詳細															
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27	人 的 被 害										28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内土壌に流出した灯油が事業所側溝約100mに渡り流出したもの。								
	当 事 者	0	0	0	0											
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：								
	第 三 者	0	0	0	0			なし								
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(灯油)数量については、不明。						
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機							0 人
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機							0 人
	その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機							0 人
30	実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (5) 回収、除去、拡散										自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収、除去、拡散						
31	防災活動上の問題点 覚知後、速やかな通報を行なえるよう体制を再度教育する必要がある。事業所が漏えい箇所や経路等原因調査に時間を要し、消防への通報が遅れた。通報時間が日没後であったため、目視による被害状況の把握が困難であった。															
32	施 設 名	屋外タンク貯蔵所(ボイラー燃料)								33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他			
行政措置	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日			
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：					
	そ の 他	令和 5 年 12 月 21 日				年 月 日										
35	今後の対策 や所見	圧力計及び排水管の修繕、取替を始め、危険物施設の日常点検を含む、維持管理体制や早期通報の重要性について従業員へ再教育を行う必要がある。														

令和5年

1 事故名		屋外タンクの据付部分からの漏油事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		6月 7日 0時 00分				[推定]・確定		4 発生見		6月 7日 10時 00分			
5 覚知		6月 7日 10時 30分				6 鎮圧 応急処置完了				6月 7日 10時 30分			
7 鎮火・処理完了		11月 7日 11時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西南西 風速：2.9m/s 気温：30.4℃ 湿度：37.2%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：教育・学習支援業 学校教育 専 番 号 (7672) 修学校, 各種学校 各種学校		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,000L 2.5倍											
12 施設装置		17 物質の区分											
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
能力：第4類第3石油類(重油)5,000L		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
13 機器等		温度圧力：											
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧)											
規模：5,000Lタンク		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)											
14 発生箇所		倍数の合計：2.5倍											
名称：タンク底板 番号 (102)		設置の完成：昭和 55年 4月 10日											
材質：鋼鉄		直近の完成：昭和 55年 4月 10日											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：貯蔵・保管中 番号 (7)		①. 選任有 2. 選任無											
作業状況： 番号 ()		3. 不要											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 昭和55年4月10日に完成した屋外タンクのタンク据付部分から重油がにじんでいる。流出量は不明であるが、残量野帳記録集計から極わずかと考えられる。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： タンク据付部に隙間ができており、その隙間から結露した水が入り込み、腐食したと推測される。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害							28 物的被害			
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： タンク据付部に隙間ができており、その隙間から結露した水が入り込み、腐食したと推測される。		
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： タンク底部にピンホール及び穿孔(2mm～5mm)あり		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 極少量の重油が漏えいした。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
							損害額 1万円未満、 1万円以上 (380 万円)			
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 流出防止措置				
31 防災活動上の問題点										
32 行 政 措 置	施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 5 年 6 月 7 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	令和 5 年 11 月 7 日		年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項	消防法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：		
	そ の 他	年 月 日		年 月 日						
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		経年化施設について、計画的に改修していくこと。								

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所における燃料送油管からのA重油流出事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		9月 26日 11時 06分	
5 覚 知		9月 26日 17時 29分		6 鎮 圧 応急処置完了		9月 28日 16時 00分	
7 鎮火・処理完了		月 日 時 分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北西 風速：1.3m/s 気温：27.4℃ 湿度：55.2%					
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：分類不能の産業 分類不能の産 番 号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能の産業				11 発 生 場 所	
12 施 設 装 置						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 29,400L 14.7倍	
						倍数の合計：14.7倍	
14 発 生 箇 所		設 置 の 完 成：昭和 41年 7月 14日 直 近 の 完 成：平成 11年 4月 5日		17 物 質 の 区 分			
名 称：フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番 号 (202)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス					
材 質：ステンレス		5. 毒物 6. 劇物 7. その他					
15 発 生 時		(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(7,500L)					
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)		18 取扱者の概要					
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所から排水機場内の排水稼働ポンプへの燃料送油管(フレキシブル管継手)に亀裂が生じ、A重油が地中及び河川へ流出した。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因 破 損						着火原因				番号 ()		
	関 連 原 因 不 明												
	発生原因の状況： 何らかの外力がフレキシブル管継手にかかり破損したと思われる。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	破損			自然現象			その他						
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
	27 人的被害						28 物的被害						
	被害内容等						被災影響範囲及び拡大の状況：						
	区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	屋外タンク貯蔵所の燃料送油管から流出したA重油は、地中及び河川に流出。河川約700m付近までA重油が流出しているのを確認。					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：					
	第 三 者	0	0	0	0			燃料送油管のフレキシブル管継手の破損					
	29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
	消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：		
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	流出したA重油約7,500L		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (9 万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
調査活動													
31 防災活動上の問題点 発見から消防機関への通報までに時間を要している。													
32	施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和 5 年 9 月 26 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	令和 5 年 9 月 26 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	停止解除	令和 5 年 10 月 2 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る法令違反の有無				有 ・無			
	そ の 他	年 月 日				年 月 日				内容：			
	1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭				第4種消火設備を1本以上有効に設置すること。保有空地内の不要な物件を撤去し、保有空地内に不要な物件を置かないこと。				
	35 今後の対策や所見												
	日常点検及び残油管理の重要性。始業前始業後の施設全体の異常の有無の確認徹底。												

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所からボイラーへの埋設配管破損によるA重油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		9月 22日 4時 30分			[推定]・確定		4 発生見		9月 22日 8時 00分		
5 覚知		9月 22日 8時 29分			6 鎮圧 応急処置完了				9月 25日 11時 00分		
7 鎮火・処理完了		11月 29日 9時 30分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：雨 風向：西 風速：3m/s 気温：25℃ 湿度：93%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 2,900L 1.45倍									
12 施設装置		設置の完成： 昭和 40年 11月 12日 直近の完成： 令和 5年 8月 31日									
名称： その他のタンク 番 号 (1299)											
能力： 2,900L											
13 機器等		温度圧力：									
名称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)		倍数の合計： 1.45倍									
規模： 直径1,500mm 全高2,050mm 容量3,130L											
14 発生箇所											
名称： その他の附属配管等 番 号 (299)		17 物質の区分									
材質： その他		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(2,500L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況： 定常運転中 番 号 (1)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
作業状況： 番 号 ()											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事故の概要： 施設内松の木が倒木し、屋外タンク貯蔵所からボイラーへ通ずる埋設配管が破損した。事故発生時に漏油には気が付かず消防への通報までに時間を要した。危険物保安監督者が異臭を感じ緊急措置として配管元バルブ閉鎖を実施。タンク油量計を確認したところ残油量がゼロであった。前日までの補給量と使用料を換算した結果、A重油約2,500Lが流出したと思われる。消防で調査を実施するが異臭のみで倒木の影響により漏油の状況を確認できず周囲の河川等にも異常なし。発災翌日の9月23日10時21分頃、施設内排水管から排水溝への流出を目視にて確認及び付近河川、海上周囲に臭気がしたため河川と海上への流出の可能性を示唆。緊急措置として河川へ通ずる排水溝に油吸着マットを設置した。なお、本事故による死傷者の発生なし。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他											

25	主 原 因 風水害					着火原因					番号 ()																															
原 因	関 連 原 因																																									
	発生原因の状況： 施設内松の木が倒木し、屋外タンク貯蔵所からボイラーへ通ずる埋設配管が破損したもの。																																									
	主原因の詳細																																									
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																
	関連原因の詳細																																									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																										
27 人 的 被 害										28 物的被害																																
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： A重油の漏えいにより、屋外タンク貯蔵所から約120m下の側溝にて漏油を目視にて確認。また、約170m下の河川及び約600m下の海上へ流出した可能性あり。				
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																				
当 事 者	0	0	0	0																																						
防災活動従事者	0	0	0	0																																						
第 三 者	0	0	0	0																																						
										施設等の被害状況： 屋外タンク貯蔵所からボイラーへ通ずる埋設配管が破損したと推定。																																
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)A重油約2,500L流出																																
消 防 機 関 2 台 0 隻 0 機 7 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人																																										
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																										
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																										
その他の機関 0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人										損害額 1万円未満、 1万円以上 (24 万円)																																
30 実施した防災活動の状況																																										
公設消防機関：番号 (99) 付近河川や海上への流出有無確認のため緊急確認として出動。										自衛防災・消防組織等 番号 (4) 発災翌日の9月23日10時21分頃、施設内排水管から排水溝への流出を目視にて確認及び付近河川、海上周囲に臭気がしたため河川と海上への流出の可能性を示唆。緊急措置として河川へ通ずる排水溝に油吸着マットを設置した。																																
31 防災活動上の問題点																																										
32 施設名	危険物屋外タンク貯蔵所					33 定期点検等					消 防 法					そ の 他																										
	使用停止 令和 5 年 9 月 22 日 年 月 日					定期・自主点検					年 月 日					年 月 日																										
	改善命令等 年 月 日 年 月 日					気密試験等					年 月 日					年 月 日																										
	停止解除 年 月 日 年 月 日					保安検査					年 月 日					年 月 日																										
	関係条項 消防法第12条の3第1項					34 当該施設に係る法令違反の有無					有・ 無 内容：																															
	そ の 他 年 月 日 年 月 日																																									
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭																																										
35 今後の対策や所見																																										
1. 倒木した松の木の直下に配管破損箇所があったため、倒木が処理されるまで危険物の漏えい事実が目視にて確認できなかった。 2. タンク内残油量を確認するため油量計を確認したが黒ずんでいたため油量計にて確認できなかった。その後業者を呼んで油量計を分解し、残油量が0であったため、前日までの補給量や使用量を換算した結果、約2,500L漏えいしたと判断した。漏油量を確認するまで結果的に時間を要してしまったため、油量計の整備を実施し常に油量を確認するように努める必要がある。																																										

令和5年

1 事故名		屋外タンクから別の屋外タンクに送油する地上配管の経年劣化による重油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		1月 6日 9時 30分	
5 覚知		1月 6日 16時 00分		6 鎮圧 応急処置完了		1月 6日 18時 30分	
7 鎮火・処理完了		1月 6日 18時 30分					
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：曇 風向：東 風速：1.6m/s 気温：5.5℃ 湿度：76.4%					
10 発生事業所				11 発生場所			
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 パルプ・紙・紙加工品製 番 号 (1543) 造業 紙製品製造業 日用紙製 品製造業				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) C重油 9,670,000L 4,835倍			
				倍数の合計： 4,835倍			
12 施設装置				設置の完成： 昭和 55年 3月 21日 直近の完成： 平成 29年 6月 19日			
名称： 固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能力： 9,670kL				17 物質の区分			
13 機器等				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： C重油			
名称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規模： 150A				18 取扱者の概要			
14 発生箇所				①. 選任有 2. 選任無 3. 不要			
名称： その他の附属配管等 番 号 (299) 材質： その他				21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無			
15 発生時				20 危険物保安監督者			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事故の概要： 移送ポンプ稼働中に、敷地内を巡視していた従業者が漏油跡を発見し、すぐに担当部署へ連絡。担当部署はポンプを停止し、現地確認。漏油跡を発見して以降、配管からの漏油は確認できず。漏油跡上部辺りの配管を中心に、配管を覆う保温材をはがして漏えい箇所を探索したところ、塗装のはがれ、さび等による配管の減肉を確認するも、明確な亀裂や開口は確認できず。 経年に伴う配管を覆う保温材の劣化により雨水等が浸入、水がたまりやすい配管下部において配管外面の腐食が進行したと推察。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()				
	関 連 原 因	維持管理不十分												
	発生原因の状況： 配管を保温材で覆っており、保温材を剥離してまで点検ができておらず、配管本体の点検が不足していた。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層				
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）							
	関連原因の詳細													
	設備			監理・保守			点検・整備			確認不足				
	因													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人 的 被 害								28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移送配管から漏油し、配管支持物等に重油が付着。配管漏油箇所の直下のみ、拡大はなし。						
区分														
当 事 者	0	0	0	0										
防災活動従事者	0	0	0	0										
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 経年劣化による配管の損傷。損傷部位確認のための保温材剥離。						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)C重油 若干量						
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻						0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻						0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻						0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (322 万円)				
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99) 現地調査							自衛防災・消防組織等 番号 (4) 流出防止措置							
31 防災活動上の問題点 漏油跡を確認してから消防機関への通報が約6時間半後で、迅速に実施されていない。														
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				年 月 日				令和4年9月2日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無				有・ 無				
	そ の 他	年 月 日				年 月 日				内容：				
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策や所見		配管長が約450mあり、その約半分は平成18年に取り換えているが、今回漏えいした箇所を含む残り半分は昭和55年設置当初からのものである。今回と同様に劣化している箇所がある可能性はあるため、保温材を剥離して配管自体の点検を計画的に実施し、維持管理を行うよう指導。												

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の配管を誤って破損させたことによる可塑剤(第3石油類)の漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		2月 10日 9時 35分				推定・ 確定		4 発生見		2月 10日 9時 35分	
5 覚知		2月 10日 10時 01分				6 鎮圧 応急処置完了				2月 10日 9時 46分	
7 鎮火・処理完了		2月 10日 13時 43分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：雨 風向：北北東 風速：2.8m/s 気温：4℃ 湿度：94%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 第2種 、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工業 番号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) アジピン酸ジノルマルアルキル 29,000L 14.5倍									
		倍数の合計：14.5倍									
		設置の完成：昭和 57年 9月 30日 直近の完成：令和 2年 6月 11日									
12 施設装置		17 物質の区分									
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス									
能力：29000		5. 毒物 6. 劇物 7. その他									
13 機器等		(固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧)									
名称：その他 番号 (999)		(低温、 常温 [0-40℃]、高温)									
規模：SUS304 50A		分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：アジピン酸ジノルマルアルキル (30L)									
14 発生箇所		18 取扱者の概要									
名称：その他の附属配管等 番号 (299)											
材質：ステンレス											
15 発生時											
運転状況：定常運転中 番号 (1)											
作業状況：その他 番号 (99)											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 屋外給水施設の工事に伴い電動丸ノコを使用して当該配管の切断作業を行っていたところ、誤って当該配管に隣接する危険物配管を破損させてしまい、可塑剤(第3石油類)が約30L流出したもの。なお、事故発生時にバンドにて流出防止措置を実施し、作業着により人体への被液も抑えられたことなどから人的被害は無し。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他											

原因	25 主 原 因	誤操作					着火原因					番号 ()																																										
	関 連 原 因 監視不十分																																																					
	発生原因の状況： 口径の大きい屋外給水栓の配管を配管軸に対して垂直方向かつ円周状に電動丸ノコを用いて切断していたところ、隣接して設置されていた危険物配管の一部に電動丸ノコが接触し当該配管が破損したものの。																																																					
	主原因の詳細																																																					
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																									
	設備				監理・保守				監理				施工監理が不適切																																									
	関連原因の詳細																																																					
	管理				リスクアセスメント				危険意識				危険に対する認識がない/不足																																									
因																																																						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																						
27 人 的 被 害										28 物的被害																																												
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 電動丸ノコにより、危険物配管の一部が破損したものの。流出した危険物は事業所の敷地内で回収されている。																
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																																
当 事 者	0	0	0	0																																																		
防災活動従事者	0	0	0	0																																																		
第 三 者	0	0	0	0																																																		
										施設等の被害状況： 可塑剤の漏えい及び危険物配管の破損																																												
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																						
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>11 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>40 人</td> <td>自 衛</td> <td>1 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>3 人</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>その他</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> </table>										消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	40 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	3 人	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)可塑剤30Lが流出				
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	40 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	3 人																																													
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
										損害額 1万円未満、 1万円以上 (8 万円)																																												
30 実施した防災活動の状況																																																						
公設消防機関：番号 (99) 情報収集を実施。										自衛防災・消防組織等 番号 (99) 甲種普通化学消防車による警戒筒先を実施。																																												
31 防災活動上の問題点																																																						
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法				そ の 他																																								
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検				令和4年 6月 16日				年 月 日																																				
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等				年 月 日				年 月 日																																				
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査				年 月 日				年 月 日																																				
	関係条項									34 当該施設に係る法令違反の有無				有・ 無				内容：																																				
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																																
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭																																																						
35 今後の対策や所見																																																						
1. 配管の切断方法として、隣接した配管を傷つけるような高速に切断できる工法を原則として使用しない。また、高速に切断できる工法の使用が必要な場合は周辺状況を工事会社と確認した上で安全対策を検討し、確実に対策が取られたことを確認してから作業を行う。 2. 施工計画書に切断工具を明記させるとともに隣接する配管がある場合は内容物の事前確認及び実施時に内容物の性状に応じた安全対策を当該施工計画書に記載する。																																																						

1 事故名		屋外タンク附属の縁切りされた配管から原油が流出した事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		2月 20日 9時 59分				推定・ 確定		4 発生見		2月 20日 9時 59分	
5 覚知		2月 20日 10時 34分				6 鎮圧 応急処置完了				2月 20日 17時 30分	
7 鎮火・処理完了		2月 20日 17時 30分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：北西 風速：10m/s 気温：9℃ 湿度：80%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト 、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区分：①. 事業所内 (製、 貯 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区特別防災区域									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 100,000,000L 500,000倍									
12 施設装置		倍数の合計：50,0000倍 設置の完成：昭和 48年 7月 24日 直近の完成：平成 31年 4月 26日									
名称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能力：最大数量 100,000kL											
13 機器等											
温度圧力：											
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規模：配管サイズ:24インチ材質:STPY400											
14 発生箇所		17 物質の区分									
名称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材質：その他		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油 (20L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：休止中 番 号 (6) 作業状況：廃止解体工事中 番 号 (9)											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 9時30分頃に他の場所で作業していた作業員が縁切りされた独立配管のビニール養生されたフランジ部に原油が溜まっているのを発見する。オイルパンを置き、ビニールを切り欠き、ポンプで回収作業を実施するもビニールで原油を支えきれなくなり、土壌へ流出したもの。オイルパンを設置しておいたが、約20Lが溢れ土壌へ浸み込んだ。施設外への流出はなし。当該配管が附属するタンクは休止中であり、配管は撤去するために窒素パージされて完全に縁切りされている配管であった。そのため、フランジ部はエンドフランジではなくビニールで覆われている状態であった。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

25	主 原 因		維持管理不十分		着火原因		番号 ()				
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 配管撤去のため、窒素パージして完全孤立した配管内に滞油しているかどうかは点検口などを設けて確認はしたものの、死角があり確認が不十分であったため、滞油している状態があった。さらに上流側のバルブを隣接するフランジを開放するため、チェーンブロックで吊り上げた際に、滞油していた原油が低い位置のフランジへ流れて流出に至ったものと推定される。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	設備		監理・保守		点検・整備		確認不足				
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害							28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に原油が約20L流出			
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 原油が約20L流出			
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関		3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	6 人	物質の被害状況： 原油が約20L流出
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	25 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動を実施。							自衛防災・消防組織等 番号 (99) 災害対策本部の設置及び車両配備等による二次災害防止活動を実施。				
31 防災活動上の問題点											
32 行 政 措 置	施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 4 年 7 月 25 日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保 安 検 査	平成 25 年 6 月 25 日	年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：				
	そ の 他	年 月 日	年 月 日								
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 や所見		・撤去予定の配管の点検口追加する。現在は8mピッチで4mに変更する。 ・死角ができる配管に対しては、ビニール養生ではなく板フランジをつける。 ・撤去する際は、より高い位置の配管から撤去する。									

令和5年

1 事故名		屋外タンクに接続した工程(廃油の油水分離工程、少量危険物取扱所)から廃油が流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		6月 12日 2時 40分				[推定]・確定		4 発生見		6月 12日 2時 43分			
5 覚知		6月 12日 7時 01分				6 鎮圧 応急処置完了				6月 12日 9時 40分			
7 鎮火・処理完了		6月 12日 18時 00分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：雨 風向：北東 風速：0.8m/s 気温：22℃ 湿度：94%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 140,000L 70倍											
		倍数の合計： 70倍											
12 施設装置		名称： 固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能力： 屋外タンク貯蔵所 容量140,000L											
13 機器等		温度圧力： 常温、常圧											
名称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規模： 高さ:1,000mm(片側1,100mm)、幅 :3,000mm、 奥行:2,000mm、容量:6,300L		設置の完成： 昭和 54年 8月 30日 直近の完成： 令和 5年 5月 8日											
		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (3,200L)											
14 発生箇所		18 取扱者の概要											
名称： その他 番 号 (999) 材質： 鋼鉄		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所から少量危険物取扱所の受け入れタンクに送油しており、本来であれば作動するはずのフロート式上限センサーが作動せず、タンク本体から約3,200Lの重油(廃油)が漏えいし、内約200Lが河川に流出したもの。作業者は送油開始後、現場を離れていた。漏えい確認後、送液ポンプを停止し、構内の側溝、ためます及び油水分離槽内に滞留した危険物を回収する。その際、構外への流出は確認できず。その後、排水機場職員が河川に油が浮いているのを発見し、119番通報する。流出確認後、事業者側にてダンパー車、オイルキャッチャー及びオイルフェンスの等の資機材を使用し、油の回収を実施した。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 監視不十分					着火原因					番号 ()									
原 因	関 連 原 因 故障																			
	発生原因の状況： 屋外タンク貯蔵所から少量危険物貯蔵取扱所へ廃油を送油時、作業者が現場を離れた。また、上限センサーによるインターロックが作動せずオーバーフローする。																			
	主要原因の詳細																			
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層							
	管理				監督				監視				監視が実施されない/不足							
	関連原因の詳細																			
	故障				機能				機器の機能の停止											
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																			
27	人 的 被 害										28 物的被害									
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外タンク貯蔵所に接続された少量危険物貯蔵取扱所の一時貯蔵用タンクから重油約3, 200Lが漏えいし、うち約200Lが河川に流出する。												
	当 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況：												
	防災活動従事者	0	0	0	0			なし												
	第 三 者	0	0	0	0															
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																			
消 防 機 関	8 台 0 隻 0 機 24 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 24 人	物質の被害状況：																
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	第4類第3石油類(非水溶性)重油3, 200L流出															
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人																
	その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (8 万円)															
30	実施した防災活動の状況																			
公設消防機関：番号 (5、6) 漏油現場の確認した後、オイルフェンス及びオイルキャッチャー等を使用し、流出拡大防止及び油の回収を実施する。										自衛防災・消防組織等 番号 (5) ダンパー車、可搬ポンプ及びオイルキャッチャー等を使用し、油の回収を実施する。										
31	防災活動上の問題点 消防へ通報したのは排水機場の職員であり、漏油事故を発生させた事業所からは通報がなされなかった。危険物施設等から漏油が発生した場合、構外へ流出したか否かにかかわらず消防に通報するよう教育がなされていなかった。																			
32	施設名	屋外タンク貯蔵所から少量施設への送油の使用制限				33 定期点検等					消 防 法					そ の 他				
	使用停止	令和 5 年 6 月 12 日				年 月 日					定期・自主点検					年 月 日				
	改善命令等	年 月 日				年 月 日					気密試験等					年 月 日				
	停止解除	年 月 日				年 月 日					保安検査					年 月 日				
	関係条項	法第12条の3第1項									34 当該施設に係る法令違反の有無					有・ 無				
	その他	年 月 日				年 月 日					内容：									
35	今後の対策や所見 作業者の教育の徹底。																			

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の配管仕切弁より重油が流出した事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		10月 8日 11時 18分				[推定]・確定		4 発生見		10月 8日 11時 38分	
5 覚知		10月 8日 12時 36分				6 鎮圧 応急処置完了		10月 8日 13時 50分			
7 鎮火・処理完了		10月 10日 19時 30分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：南東 風速：2m/s 気温：21℃ 湿度：77%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、[他]) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区特別防災区域									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 19,120,000L 9,560倍									
12 施設装置		倍数の合計：9,560倍									
名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)											
能力：容量19,120kL											
13 機 器 等		温度圧力：65℃、0.49Mpa									
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		設置の完成：昭和 48年 11月 8日 直近の完成：令和 4年 4月 28日									
規模：配管直径14インチ仕切弁:鋳鉄製フランジ形外ネジゲート弁											
14 発生箇所											
名称：開閉弁 番 号 (204)		17 物質の区分									
材質：鋳鉄		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(2,300L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：定常運転中 番 号 (1)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
作業状況： 番 号 ()											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 社員が漏えい箇所付近を通行中に漏えいを発見。常圧蒸留装置からタンクへ液送中に閉止されている仕切弁よりC重油2.3kLが仕切弁付近の道路及び雨水系側溝に流出したもの。液送を別系統の配管へ切り替え及び土嚢構築にて拡散防止を実施。また側溝より海上漏えいの可能性があるため、オイルフェンスを展開。(海上漏えいなし)。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (9、10) 無 緊急排出、緊急移送、その他											

原因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因	維持管理不十分											
	発生原因の状況： 仕切弁保温材へ雨水浸入により、弁本体にねじ込み接続されている小径配管が外面腐食により開口したもの。仕切弁は建設時から小径配管を含む自動弁全体を塗り固める施工の保温材で保温しており、検査対象として挙げられていなかったため、腐食の存在に気づいていなかった。												
	主要原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細												
	設備		監理・保守				点検・整備				点検していない/不足		
	因												
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害								28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： C重油が仕切弁周囲の道路約28㎡及び雨水系側溝に流出。側溝から海上流出なし。					
区分													
当 事 者	0	0	0	0									
防災活動従事者	0	0	0	0									
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 仕切弁本体にねじ込み接続された小径配管(1/2インチ)が1cm開口。					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	5 台	0 隻	0 機	16 人	物質の被害状況： C重油が約2,300L流出。			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台	0 隻	0 機	37 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 調査活動を実施。							自衛防災・消防組織等 番号 (3、6、5、4) 回収、除去、拡散						
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報が遅かった。													
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無				有・無			
	そ の 他	年 月 日				年 月 日				内容：			
35 今後の対策や所見 ・水平展開として、類似箇所(バルブ本体付き小径配管)を抽出し、保温材の点検及び小径配管の外面腐食検査を実施。													

令和5年

1 事故名		タンク内部蒸気配管の不具合により原油が配管内に流入、復水配管を通り外部へ流出した事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		10月 18日 22時 00分	
5 覚知		10月 19日 10時 45分		6 鎮圧 応急処置完了		10月 19日 11時 03分	
7 鎮火・処理完了		10月 19日 12時 30分					
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：晴 風向：北西 風速：0.1m/s 気温：24℃ 湿度：40%					
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)				11 発生場所	
12 施設装置 名称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能力：容量56,062kL 13 機器等 温度圧力：150℃、0.2Mpa 名称：その他 番 号 (999) 規模：2インチ 14 発生箇所 名称：ヒーティングコイル 番 号 (312) 材質：その他 15 発生時 運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()						区分：①. 事業所内 (製、 <u>貯</u> 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区特別防災区域	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 56,062,000L 280,310倍	
						倍数の合計：28,0310倍 設置の完成：昭和 50年 6月 13日 直近の完成：令和 3年 12月 3日	
17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油 (246L)		18 取扱者の概要					
		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 10月18日22時の現場点検中に復水配管(複数の屋外タンクのヒーディングコイルの出口に通じ、スチームを水にする配管)のレシーバー(地区の復水を集約する槽)から排出される復水に油膜が出ていることを発見。発生源が屋外タンク貯蔵所60227タンクのヒーディングコイルであることを特定し、バルブブロックにて油の漏えいを停止。翌朝に復水配管全線を点検すると、復水配管の数か所にて原油が漏えいしているのを発見し、消防へ通報。バルブブロック及び仮補修等により漏えいを停止。排水系より海上への流出の可能性があるのでオイルフェンス展張。(海上漏えいなし)。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (10) 無 その他							

原 因	25 主 原 因 調査中						着火原因						番号 ()								
	関 連 原 因																				
	発生原因の状況： 調査中																				
	主原因の詳細																				
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層								
	関連原因の詳細																				
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																					
27 人 的 被 害												28 物的被害									
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 原油が復水配管を通じて、当該屋外タンク防油堤内、隣接 屋外タンク防油堤内及び防油堤外レシーバー（地区の復水を回 収する槽）に流出													
区分																					
当 事 者		0	0	0	0																
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 調査中													
第 三 者		0	0	0	0																
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																					
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	5 台	0 隻	0 機	13 人	物質の被害状況： 原油が246L流出											
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人												
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人												
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	57 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)											
30 実施した防災活動の状況																					
公設消防機関：番号 (99) 調査活動を実施。												自衛防災・消防組織等 番号 (4、6、5) 回収、除去、拡散									
31 防災活動上の問題点 消防への通報が事後となっている。																					
32 施 設 名									33 定 期 点 検 等	消 防 法				そ の 他							
	使用停止				年 月 日					定期・自主点検				令和 5 年 3 月 31 日				年 月 日			
	改善命令等				年 月 日					気密試験等				年 月 日				年 月 日			
	停止解除				年 月 日					保 安 検 査				平成 28 年 12 月 9 日				年 月 日			
	関係条項								34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無 内容：								
	そ の 他				年 月 日																年 月 日
1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭																	
35 今後の対策 や所見		タンク開放を実施し、原因調査を実施。 原因に応じた拡大検査を実施し、必要な対策を講じる。																			

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所附属配管からの重油漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		5月 21日 3時 45分				[推定]・確定		4 発生見		5月 21日 3時 45分			
5 覚知		5月 21日 3時 58分				6 鎮圧 応急処置完了				5月 22日 15時 45分			
7 鎮火・処理完了		5月 22日 15時 45分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：霧 風向：北 風速：1m/s 気温：17.7℃ 湿度：90%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 四日市臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 58,000,000L 290,000倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 40年 10月 27日 直近の完成：令和 5年 4月 25日 倍数の合計： 290,000倍											
名称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能力：58,000kL													
13 機器等													
温度圧力：80℃、0.4Mpa													
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)													
規模：SGP6B、元厚5.0mm													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：その他の附属配管等 番 号 (299)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材質：鋼鉄		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発生時		(固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧])											
運転状況：移送中 番 号 (18)		(低温、常温 [0-40℃]、[高温])											
作業状況：小分け・詰替中 番 号 (13)		分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：C重油(4,600L)											
18 取扱者の概要		経験年数1年											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 特定屋外タンク貯蔵所の屋根の破損事故に伴う応急対策として、タンク内の重油を他のタンクへ液移送していたところ、配管から漏えいしたものの。事業所敷地外への流出なし。負傷者なし。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 腐食疲労等劣化						着火原因						番号 ()									
	関 連 原 因 維持管理不十分																					
	発生原因の状況： 内部流体による腐食発生が懸念される環境であったが、当該箇所が検査対象から除外されていたことにより、内面腐食が進行し、漏えいしたもの。																					
	主原因の詳細																					
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層									
	腐食				環境				工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）													
	関連原因の詳細																					
	設備				監理・保守				点検・整備				点検していない/不足									
	因																					
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																						
27 人的被害										28 物的被害												
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 事業所内の隣接施設へ流出														
区分																						
当 事 者	0	0	0	0																		
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 炭素鋼配管の開孔														
第 三 者	0	0	0	0																		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																						
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 重油約4.6kL漏えい												
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人													
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人													
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (27 万円)												
30 実施した防災活動の状況																						
公設消防機関：番号 (99)										自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業												
31 防災活動上の問題点																						
32	施 設 名									33 定期点検等				消 防 法				そ の 他				
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検				令和4年 6月 13日				年 月 日			
		改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等				年 月 日				年 月 日			
		停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査				令和4年 4月 25日				年 月 日			
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・ 無 内容：								
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭																
35 今後の対策 や所見		配管の形状変更する。 内面腐食による設備管理対象とする。 風化防止のため、リマインド教育を実施する。																				

令和5年

1 事 故 名		ヒドラジン製品タンクからの水加ヒドラジン漏えい									
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		10月 14日 8時 55分				推定・ 確定		4 発 見		10月 14日 8時 55分	
5 覚 知		10月 14日 9時 05分				6 鎮 圧 応急処置完了		10月 14日 10時 20分			
7 鎮火・処理完了		10月 14日 15時 40分									
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北西 風速：1m/s 気温：18℃ 湿度：65%									
10 発 生 事 業 所						11 発 生 場 所					
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 第2種 、その他) 業 態：製造業 化学工業 無機化学工 番 号 (1729) 業製品製造業 その他の無機化 学工業製品製造業						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 四日市臨海					
						16 発生施設規制区分等					
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(水溶性液体) 水加ヒドラジン 154,000L 38.5倍					
12 施 設 装 置						倍数の合計： 38.5倍 設 置 の 完 成：平成 元年 11月 1日 直 近 の 完 成：平成 元年 11月 1日					
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：15,400L											
13 機 器 等 温 度 圧 力：											
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：直径6,350mm 容量15,400L						17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(水溶性液体) 名称：水加ヒドラジン(500L)					
14 発 生 箇 所											
名 称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303) 材 質：ステンレス											
15 発 生 時						18 取扱者の概要 経験年数2年					
運 転 状 況：移送中 番 号 (18)											
作 業 状 況：定期修理中 番 号 (2)											
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： ヒドラジン製品タンク(9023)のタンクベントから水加ヒドラジンが漏えいしたもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (8、9) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等、緊急排出、緊急移送											

25	主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()				
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 製品移送作業にて、製品タンク(9023)の液面管理で移送完了液面到達時に移送ポンプ(9017)を運転員が停止させる作業であったが、ポンプ停止を失念し過剰送液となりタンク頭頂部のベントからオーバーフローしたもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		知識		忘れる				
	関連原因の詳細										
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人 的 被 害						28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 水加ヒドラジン500Lが漏えいし、防油堤内に収まっている。			
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4類第3石油類 水溶性液体 水加ヒドラジン 500L漏えい				
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台			0 隻	0 機	12 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台			0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台			0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台			0 隻	0 機	0 人
30	実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) 回収、除去、拡散						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 回収、除去、拡散					
31	防災活動上の問題点										
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 4 年 12 月 1 日	令和 4 年 12 月 1 日					
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日					
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日					
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無						
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	内容：							
35	今後の対策 や所見		・移送運転監視業務を専任とする。 ・定修時の移送作業を作業員1名で実施することなく、作業員・監視員の2名以上を確保し、保安防災体制が確立できる日程で計画する。 ・定期整備に係る不要アラームの削減と差別化。 ・タンク上限アラームの差別化。(音変更を行い、一時停止を不能とする) ・手動操作を行うことなく、自動停止機能を使用しての液移送を徹底する。(タンク残量を0にする場合を除く) ・職員研修の実施。 ・外部機関(中央災害防止協会)に運用体制の検証を依頼。								

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所のタンク側板腐食による重油漏えい事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		8月 1日 13時 00分				推定・確定		4 発 見		10月 12日 8時 10分			
5 覚 知		10月 12日 8時 28分				6 鎮 圧 応急処置完了				10月 12日 8時 20分			
7 鎮火・処理完了		10月 25日 15時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 東北東 風速： 2.1m/s 気温： 21.4℃ 湿度： 56.6%											
10 発 生 事 業 所						11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 鉄鋼業 製鋼・製鋼圧延 番 号 (2321) 業 製鋼・製鋼圧延業(転炉、電 気炉を含む)						区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
						16 発生施設規制区分等							
						施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 100,000L 50倍							
						倍数の合計： 50倍							
12 施 設 装 置						設 置 の 完 成： 昭和 45年 4月 30日 直 近 の 完 成： 平成 2年 4月 2日							
名 称： 固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力： 100,000L													
13 機 器 等 温 度 圧 力： 50℃													
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 直径4.83m 高さ6.095m 容量100,000L													
14 発 生 箇 所						17 物 質 の 区 分							
名 称： タンク側板 番 号 (101) 材 質： 鋼鉄						①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油							
15 発 生 時						18 取扱者の概要							
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5) 作 業 状 況： その他 番 号 (99)													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所(100kL)で貯蔵していた重油が防油堤内に漏えいした事故である。当該タンクは、タンク本体を保温するため、保温材を巻き鋼板で覆われる二重構造となっている。タンク下部のタンク側板と鋼板の繋ぎ目から重油がにじみ出て、防油堤内の雨水に油膜が生じたもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、8、10) 無 装置の緊急停止、防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等、その他													

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化					着火原因					番号 ()							
	関 連 原 因																	
	発生原因の状況：																	
	当該タンクはタンク内底部に設置のオイルヒーターにより常時50℃以上の温度で重油を温めていることから、タンク内部に湿気が発生しやすく、金属の腐食が進行しやすい環境下となり、油に接触しないタンク上部の側板内面が腐食し減肉が進行したこと。また、タンク天板部分のコーキングが劣化し、雨水等がタンク鋼板内部に浸入し、保温材が湿気を含み、タンク側板の腐食が進行したこと。また、タンク側板(高さ5.5m)の位置に、腐食による穿孔が発生し、穿孔から重油の漏えいが起こったもの。																	
	なお、タンク満了時の液面高は5.46mとなり、計算上は穿孔箇所の高さ5.5mから重油が漏えいしないこととなるが、タンク満了にした際に液面が動揺し穿孔箇所から漏えいしたと推定する。																	
	主原因の詳細																	
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層					
	腐食				環境				多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）									
	腐食				環境				高温多湿環境（温泉の湯気の影響、周囲が高温多湿環境）									
	因	関連原因の詳細																
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																		
27 人的被害										28 物的被害								
被害内容等 区分										被災影響範囲及び拡大の状況：								
死亡 重症 中等症 軽症 死傷原因 職業又は職名										屋外タンク貯蔵所から防油堤内に重油が漏えい(流出量不明)								
当 事 者 0 0 0 0																		
防災活動従事者 0 0 0 0										施設等の被害状況：								
第 三 者 0 0 0 0										屋外タンク貯蔵所の腐食による穿孔により使用不能								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		
消 防 機 関		1 台 0 隻 0 機 3 人				自 衛		0 台 0 隻 0 機 3 人				物質の被害状況：						
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人				共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人										
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人				応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人										
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人				そ の 他		0 台 0 隻 0 機 0 人										
30 実施した防災活動の状況																		
公設消防機関：番号 ()										自衛防災・消防組織等 番号 (5)								
事業所が油吸着マットを設置され拡散防止措置済であったため、消防機関の防災活動はなし。										油吸着マットを設置								
31 防災活動上の問題点																		
行政措置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所								33 定期点検等	消 防 法				そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	年 月 日				年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日				年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日				年 月 日			
	関係条項									34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：							
	そ の 他	屋外タンク貯蔵所の構造不適																
		令和 5 年 10 月 12 日				年 月 日												
		①. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭												
35 今後の対策や所見		漏えいのあった屋外タンク貯蔵所は廃止済で、撤去後、新設屋外タンク貯蔵所を設置する。																

1 事 故 名		ローリー荷積み中に酸化プロピレンがガスホルダ内へ流入及びガスホルダから混合液の流出事故											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		9月 22日 15時 15分 推定・ 確定					4 発 見		9月 22日 15時 15分				
5 覚 知		9月 22日 15時 20分					6 鎮 圧 応急処置完了		9月 22日 16時 20分				
7 鎮火・処理完了		9月 23日 11時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北東 風速：2.3m/s 気温：27℃ 湿度：74%											
10 発 生 事 業 所		種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 第2種 、その他) 業 態：運輸業 道路貨物運送業 一般 番 号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)					11 発 生 場 所		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：大阪北港地区 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 酸化プロピレン 400,000L 8,000倍 倍数の合計：8,000倍 設 置 の 完 成：昭和 47年 2月 8日 直 近 の 完 成：昭和 47年 4月 4日				
12 施 設 装 置							17 物 質 の 区 分						
名 称：低圧湿式ガスホルダ 番 号 (1101)							①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類特殊引火物 名称：酸化プロピレン(936L)						
能 力：2,000L(酸化プロピレンガスの中和剤であるプロピレングリコールの貯蔵容量として)													
13 機 器 等 温 度 圧 力：7℃、0.15Mpa													
名 称：洗浄塔、槽(ウォッシング・タワー、スクラバー) 番 号 (105)		18 取扱者の概要		経験年数38年									
規 模：直径2,675mm、高さ3,600mm		14 発 生 箇 所		19 危険物保安統括管理者		20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
名 称：その他 番 号 (999)		材 質：鋼鉄		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		①. 有 2. 無					
15 発 生 時		運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無							
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)				23 事 故 の 概 要：		ローリー積場(一般取扱所)での荷積み中に、ローリーに接続した施設の均圧用ガス配管に酸化プロピレンが流入、酸化プロピレントank(屋外タンク貯蔵所)附属のガスホルダ内に流れ込み、ガスホルダのプロピレングリコール注入口から防液堤内に若干量漏えいしたもの。 漏えいした液体の成分はガスホルダ内に封入されていたシール用のプロピレングリコール(酸化プロピレンガスの除害剤)とローリーより流入した酸化プロピレンの混合物である。 漏えいの発見は、ローリーへの積み込み作業が終了した後に、ガスホルダから上記混合物が若干量漏えいしていることを積場事業所従業員が気付いて覚知。直ちに此花消防署へ電話連絡するとともに、防液堤内に散水して漏えいした上記混合物の除害作業を実施。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 操作確認不十分					着火原因					番号 ()					
原因	関 連 原 因															
	発生原因の状況：															
	ローリーは3槽構造(第1槽4,000L、第2槽2,000L、第3槽4,000L)、各槽の上部には液入れ管(液バルブ)と均圧用ガス管(ガス抜きバルブ)、下部には液払出し管(缶底弁)が設置され、各管で3槽は連結されており、従前より、酸化プロピレン積み込み時は、積み場において液入れ配管等を接続した後に、各槽の液バルブ、ガス抜きバルブ、並びに各槽の缶底弁を全て開放し、3槽が連通された状態(払出し元弁は閉鎖)で3槽同時に積み込みを行っていた。															
	事故当日も上記手順で酸化プロピレン(9,480L)を積み込む予定であったが、ローリー乗務員が第2槽のガス抜きバルブの開放を失念したまま積み込みを開始してしまい、第2槽が気密化して液が入らなくなってしまった結果、全量が第1槽と第3槽に流れ込み、入りきらなかった酸化プロピレン(936L)が第1槽若しくは第3槽がオーバーフロー状態となり均圧用ガス配管に酸化プロピレンがガスホルダー内に流入したものの。															
	主要原因の詳細															
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層			
	人				本人の意識				思慮				思い込み			
因	関連原因の詳細															
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																
27 人的被害																
28 物的被害																
被災影響範囲及び拡大の状況：																
プロピレングリコールを除外剤としたガスホルダー内に酸化プロピレンが流入し、ガスホルダーのプロピレングリコール注入口からガスホルダー防液堤内に酸化プロピレンとプロピレングリコールの混合物が若干量流出																
施設等の被害状況：																
施設等の被害なし																
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																
物質の被害状況：																
・プロピレングリコール(第4類第3石油類非水溶性)1,300L																
・酸化プロピレン(第4類特殊引火物)936L																
損害額 1万円未満、1万円以上(229 万円)																
30 実施した防災活動の状況																
公設消防機関：番号 ()																
自衛防災・消防組織等 番号 (5)																
・ガスホルダー防液堤内に散水し、流出した酸化プロピレンの除染作業を実施																
・ガスホルダー内に流入した酸化プロピレンをプロピレングリコールとの混合物として回収(後日、ガスホルダー内のプロピレングリコールは全量入替え)																
・ガスホルダーへ至る配管内に残留していた酸化プロピレンの回収																
31 防災活動上の問題点																
問題点無し																
32	施設名	屋外タンク貯蔵所				33	定期点検等	消 防 法				そ の 他				
行政措置	使用停止	年 月 日				34	定期・自主点検	令和 5 年 6 月 26 日				平成 31 年 3 月 30 日				
	改善命令等	年 月 日					気密試験等	年 月 日				年 月 日				
	停止解除	年 月 日					保安検査	年 月 日				年 月 日				
	関係条項						当該施設に係る法令違反の有無	有・無				内容：				
措置	その他	令和 5 年 9 月 22 日				35	今後の対策や所見									
	1. 文書 ②. 口頭	1. 文書 2. 口頭					1. ローリー積み込み方法の変更、及び2. 作業手順書の変更 従前より実施していた3槽同時に積み込む方式を1槽毎に積み込む方式に変更し、積み込み作業手順書も改訂する。これにより、積み込み時のバルブ操作が槽毎の液バルブとガス抜きバルブの開操作に限定されるとともに、積み地立会者とも槽毎に積み込み数量を確認することとする。 3. 乗務員への教育 今回の事故原因がローリー乗務員による操作不備であったことから、全乗務員へ再発防止教育を実施した。また作業手順書についても作成次第、全乗務員に周知させて積み込み時の確実な操作、確認を徹底させ誤操作を予防するとともに、作業手順を遵守させる。									

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の屋外架空配管が経年劣化により損傷し重油が漏えい								
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()								
3 発 生		4月 8日 0時 00分		推定・確定		4 発 見		4月 28日 21時 30分		
5 覚 知		4月 28日 22時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了		4月 29日 11時 10分				
7 鎮火・処理完了		4月 29日 11時 10分								
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()								
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南西 風速：0m/s 気温：19℃ 湿度：60%								
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番 号 (4211) 道業				11 発 生 場 所		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 12,000L 6倍 倍数の合計： 6倍 設置の完成： 昭和 46年 11月 30日 直近の完成： 平成 17年 6月 29日		
12 施 設 装 置										
名 称： 固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力： 重油12,000Lタンク										
13 機 器 等										
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： 12,000Lタンク										
14 発 生 箇 所		名 称： 管継手(ダクトを含む) 番 号 (201) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(300L)				
15 発 生 時										
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()										
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無										
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所の配管が経年劣化により損傷し、重油が敷地内及び隣接する敷地に流出した事故。										
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止										

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 維持管理不十分							
	発生原因の状況：							
	当該施設は日常の管理を保安監督者及び代行者が実施し、点検及び保守を委託業者に委任している状態であった。配管の点検等は半年に1度委託業者が実施していたが、タンク及び配管の腐食に対する指摘及び補修は実施されていない状況であった。令和4年1月に消防査察にて錆止め塗装の剥離を指摘し、タンク本体の錆止め塗装が実施されたが、腐食等は保守業者からは報告されず、今回の事故に至る。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食	防食	防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)					
	因	関連原因の詳細						
管理		組織	人員配置(役割・責任)		役割・責任が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重油が污水管に流れ込み、隣接する企業の暗渠に流出した。流出範囲は敷地境界線より100m以上。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油 約300L	
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況							損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)	
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
漏えい範囲調査								
31 防災活動上の問題点 活動なし。								
行政措置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 5 年 4 月 29 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 4 月 7 日	年 月 日		
	改善命令等	令和 5 年 5 月 2 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項、法第12条第2項		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 配管損傷に伴う消防法第10条第4項違反			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35	今後の対策 や所見	従業員の安全教育の徹底及び保守業者への詳細な指示、契約内容の見直し等実施。						

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の配管及び配管ラックに大型トレーラーが接触したことによる破損及び流出事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		8月 10日 9時 30分				推定・ 確定		4 発生見		8月 10日 9時 30分	
5 覚知		8月 10日 9時 42分				6 鎮圧 応急処置完了		8月 10日 18時 19分			
7 鎮火・処理完了		8月 10日 19時 09分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南南東 風速：4.6m/s 気温：31.9℃ 湿度：67.3%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト 、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1735) 業製品製造業 プラスチック製造業	区 分：①. 事業所内 (製、 貯 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：東播磨地区特別防災区域										
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) α-メチルスチレン 750,000L 750倍										
12 施設装置		17 物質の区分									
名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能力：原料貯蔵タンク 750kL		設置の完成：昭和 55年 4月 28日 直近の完成：令和 5年 8月 21日 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：α-メチルスチレン(55L)									
13 機器等		18 取扱者の概要									
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規模：直径10,640mm、高さ10,016mm、容量750kL		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
14 発生箇所		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無									
15 発生時		23 事故の概要： 構内輸送トラック(コンテナ車)が定められた道路と異なる道路に誤進入し、地上4mに敷設されていた配管ラックにコンテナ上部が接触したことで、α-メチルスチレン受入れ配管が破損し、2か所から同溶剤の漏えいが発生。死傷者等はなく、配管内のα-メチルスチレン回収と漏れ箇所の養生の応急処置を実施した。									
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

25	主 原 因 破 損						着火原因						番号 ()					
原 因	関 連 原 因 交通事故																	
	発生原因の状況： 大型トレーラーがルートに迷い構内道路を迂回した際、屋外タンク貯蔵所の配管ラックに接触し、危険物配管が破損、それにより第4類第2石油類が流出したもの。																	
	主原因の詳細																	
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層					
	破損				定常運転時				車両等の接触									
	関連原因の詳細																	
	交通事故				運転操作				その他									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																		
27 人 的 被 害												28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 被害拡大等なし										
区分																		
当 事 者	0	0	0	0														
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管及び配管ラックの損傷(長さ約5m程度の範囲)										
第 三 者	0	0	0	0														
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		
消 防 機 関	5 台 0 隻 0 機 12 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 10 人	物質の被害状況：														
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	第4類第2石油類(非水溶性)α-メチルスチレン55L														
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	流出。														
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (1,400 万円)														
30 実施した防災活動の状況																		
公設消防機関：番号 (99) 警戒活動及び情報収集活動を実施した。												自衛防災・消防組織等 番号 (4) 警戒活動及び漏えい防止措置(配管内に残存している危険物の抜き取り及び損傷箇所の養生)を実施した。						
31 防災活動上の問題点																		
32 施設名	屋外タンク貯蔵所第1399号																	
	行政措置	使用停止	令和 5 年 8 月 10 日	年 月 日	33 定期点検等	定期・自主点検	年 月 日	消 防 法		年 月 日		そ の 他		年 月 日				
		改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		年 月 日								
		停止解除	令和 5 年 8 月 10 日	年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日		年 月 日							
		関係条項	法第12条の3			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無										
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	内容： 法第12条の3 製造所等の緊急使用停止命令														
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭																	
35 今後の対策や所見	物流協力会に対して、運転手への通行ルートの徹底。 当該場所への侵入防止策の実施(大型車両進入禁止の表示)																	

令和5年

1 事故名		No.2バース燃料受入系統窒素封入作業中における重油の流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		9月 21日 14時 01分 推定・ 確定					4 発生見		9月 21日 14時 01分				
5 覚知		9月 21日 14時 19分					6 鎮圧 応急処置完了		9月 21日 18時 15分				
7 鎮火・処理完了		9月 21日 18時 15分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：南南西 風速：10.1m/s 気温：29.1℃ 湿度：91.9%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：御坊地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 60,000,000L 300,000倍											
12 施設装置		倍数の合計：300,000倍 設置の完成：昭和 57年 2月 7日 直近の完成：令和 3年 3月 16日											
名称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能力：60,000kL													
13 機器等													
温度圧力：		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0－40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(100L)											
名称：その他 番 号 (999)													
規模：配管口径20B、管外径508m、長さ70m、配管容量12.9m ³													
14 発生箇所		18 取扱者の概要 経験年数40年											
名称：その他の附属配管等 番 号 (299)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無											
材質：その他													
15 発生時													
運転状況：その他 番 号 (99)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
作業状況：その他 番 号 (99)													
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所6基の共用配管であるNo.1屋外タンク貯蔵所の配管内の可燃性ガス抜取りのため、窒素注入作業を開始したところ、配管内に残っていた重油が漏えいしたものの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 操作未実施						着火原因						番号 ()																																	
	関 連 原 因																																													
	発生原因の状況： バキューム車による燃料受入系統の油抜き作業完了後に、配管内にスラッジや高粘度油の堆積が点在しているものと推測していたものの、配管内の酸素濃度測定のため、配管上部にある取出座を開放状態で系統への窒素封入を行った際、取出座から油が流出したものの。																																													
	主原因の詳細																																													
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																	
	管理				リスクアセスメント				危険意識				危険に対する認識がない/不足																																	
	関連原因の詳細																																													
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																													
	27 人的被害										28 物的被害																																			
	<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 燃料配管から漏えいした重油が防油提及び配管ピットに留まっており構外等への流出はない。							
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																							
	当 事 者	0	0	0	0																																									
	防災活動従事者	0	0	0	0																																									
	第 三 者	0	0	0	0																																									
											施設等の被害状況： なし																																			
	29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																													
	消 防 機 関		3 台		0 隻		0 機		8 人		自 衛		2 台		0 隻		0 機		27 人		物質の被害状況： 重油が防油提及び配管ピットに約100L漏えい																									
消 防 団		0 台		0 隻		0 機		0 人		共 同		0 台		0 隻		0 機		0 人																												
海上保安部		0 台		0 隻		0 機		0 人		応 援		0 台		0 隻		0 機		0 人																												
その他の機関		3 台		0 隻		0 機		6 人		その他		0 台		0 隻		0 機		0 人		損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																										
30 実施した防災活動の状況																																														
公設消防機関：番号 (99) 調査活動										自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 回収作業																																				
31 防災活動上の問題点 ホットラインではなく一般回線による通報であった。																																														
32	施 設 名									33 定 期 点 検 等				消 防 法				そ の 他																												
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検				年 月 日				年 月 日																												
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等				年 月 日				年 月 日																												
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保 安 検 査				年 月 日				年 月 日																												
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・ <u>無</u> 内容：																																
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																								
1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭																																										
35 今後の対策 や所見		・燃料配管の油抜き作業後の窒素封入作業においては、取出座からの万が一の油の流出に備え、取出座に仮設弁(コントロール)を取り付け、仮設ホースを延長し油受缶を設置する。 ・窒素封入圧力をさげて、急激な油の流出を防止する。																																												

令和5年

1 事故名		#5013タンク附属配管からの潤滑油漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		9月 27日 10時 30分	
5 覚知		9月 27日 10時 46分		6 鎮圧 応急処置完了		9月 27日 16時 13分	
7 鎮火・処理完了		9月 28日 14時 50分					
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：2m/s 気温：30.3℃ 湿度：64.3%					
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u> 、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)				11 発生場所	
12 施設装置 名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能力：最大数量4,969kL 13 機器等 温度圧力：60℃ 名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規模：2インチ 14 発生箇所 名称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材質：鋼鉄 15 発生時 運転状況：停止中 番 号 (5) 作業状況：その他 番 号 (99)						区分：①. 事業所内 (製、 <u>貯</u> 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：和歌山北部臨海南部	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 潤滑油 4,969,000L 828.17倍	
						倍数の合計：828.17倍 設置の完成：昭和 45年 10月 5日 直近の完成：令和 3年 4月 12日	
17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分類：第4類第4石油類 名称：潤滑油(300L)		18 取扱者の概要					
		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： #5013タンク附属配管の腐食開孔により、潤滑油が300L漏えいしたもの。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>							

原 因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因	維持管理不十分											
	発生原因の状況： 外面腐食による開孔。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			高温多湿環境（温泉の湯気の影響、周囲が高温多湿環境）						
	関連原因の詳細												
	設備			監理・保守			監理			施工監理が不適切			
	因												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 周囲に300L漏えいする					
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管の穿孔。					
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関		2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類潤滑油潤滑油 300L		
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (2 万円)		
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (5) 拡散防止及び漏えい危険物の回収、除去を指示。							自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 拡散防止及び漏えい危険物の回収、除去を実施。						
31 防災活動上の問題点													
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：	
	そ の 他	年 月 日				年 月 日							
35 今後の対策 や所見		原油処理停止以降も使用する配管は、過去に行われた外観点検、及び新規プロジェクト工事で実施される検査結果を基に、保温損傷等の記載がある配管の検査を実施する。											

令和5年

1 事 故 名		フォークリフトのバケットが衝突したことにより、配管が破断し重油が流出											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		1月 17日 8時 30分				[推定]・確定		4 発 見		1月 17日 9時 00分			
5 覚 知		1月 17日 9時 20分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了				1月 17日 17時 00分			
7 鎮火・処理完了		1月 18日 14時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 南南西 風速： 2m/s 気温： 7℃ 湿度： 59%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 プラスチック製品製造 番 号 (1942) 業(別掲を除く) 発泡・強化プラスチック製品製造業 硬質プラスチック発泡製品製造業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 19,800L 9.9倍											
12 施 設 装 置		設置の完成： 平成 4年 8月 4日 直近の完成： 平成 21年 1月 19日											
名 称： 固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力： 19,800L													
13 機 器 等													
温度圧力：		倍数の合計： 9.9倍											
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)													
規 模： 送油管 管径25A													
14 発 生 箇 所		17 物 質 の 区 分											
名 称： 管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材 質： その他		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発 生 時		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧)											
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)											
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (600L)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所付近を走行していたフォークリフトが、除雪用バケットを配管にぶつけたためフランジ接合部が破断し重油約600L(うち約200Lが河川)が流出した。なお、吸着マット及び土のうを使用し、応急措置を実施した。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 破 損						着火原因				番 号 ()																																																			
	関 連 原 因																																																													
	発生原因の状況： ポンプ室近傍に除雪用のバケットを置いていたため、付近を走行していたフォークリフトの吊具がバケットにぶつかり地上配管を押し込んだ。衝撃でフランジ接合部が破断し、周囲に重油が流出した。																																																													
	主原因の詳細																																																													
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																																	
	破損				定常運転時				車両等の接触																																																					
	関連原因の詳細																																																													
原 因																																																														
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																														
27 人 的 被 害														28 物的被害																																																
<table><tr><td>被害内容等</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は職名</td></tr><tr><td>区分</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>当 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>防 災 活 動 従 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 三 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>														被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							当 事 者	0	0	0	0			防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重油が、事業所内の側溝から河川に流れ込み、敷地境界線より約1,300mにわたり流出した。													
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																																								
区分																																																														
当 事 者	0	0	0	0																																																										
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0																																																										
第 三 者	0	0	0	0																																																										
														施設等の被害状況： 屋外タンク貯蔵所の送油管が破断した。																																																
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																														
消 防 機 関 3 台 0 隻 0 機 8 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人														物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油600L流出																																																
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																														
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																														
その他の機関 2 台 0 隻 0 機 3 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人														損害額 1万円未満、 1万円以上 (5 万円)																																																
30 実施した防災活動の状況																																																														
公設消防機関：番号 (99) 調査活動														自衛防災・消防組織等 番号 (3、4) 敷地内側溝に土のうを設定するとともに、河川等流出した箇所 に吸着マットを設定した。																																																
31 防災活動上の問題点 管轄消防署に一般加入電話で通報しており、事故発生時には速やかに119番通報をするよう指導した。																																																														
32	施 設 名	屋外タンク貯蔵所								33 定 期 点 検 等	消 防 法				そ の 他																																															
	使用停止	令和 5 年 1 月 17 日				年 月 日					定期・自主点検				年 月 日 令和 5 年 1 月 5 日																																															
	改善命令等	年 月 日				年 月 日					気密試験等				年 月 日 年 月 日																																															
	停止解除	令和 5 年 1 月 18 日				年 月 日					保 安 検 査				年 月 日 年 月 日																																															
	関係条項	消防法第12条の3第1項								34 当該施設に係る 法令違反の有無	有 ・無 内容： 法第10条第3項、危規則第24条第3号 係員以外の者をみだりに出入り させないこと。 法第10条第3項、危規則第24条第4号 不要な物件を撤去し、常に整理 及び清掃に努めること。																																																			
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																																								
35		今後の対策 や所見				フォークリフトを運転していたのが運送業者の従業員のみであったことから、社員以外の者だけでフォークリフトの運行をしないよう指導した。ポンプ室近傍に物品を存置しないよう指導した。																																																								

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所における附属配管の腐食孔からの重油漏えい事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		8月 31日 0時 00分				[推定]・確定		4 発 見		9月 6日 15時 00分			
5 覚 知		9月 6日 17時 00分				6 鎮 圧 応急処置完了				9月 6日 17時 00分			
7 鎮火・処理完了		9月 6日 18時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向： 風速： 気温： 湿度：											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 漁業 漁業 内水面漁業 内水面 番 号 (321) 漁業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 170,000L 85倍											
12 施 設 装 置		設置の完成： 平成 19年 3月 20日 直近の完成： 年 月 日 17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(1mL) 18 取扱者の概要											
名 称： 円筒横置型(地上)タンク 番 号 (1204) 能 力： 170kL													
13 機 器 等													
温度圧力：		倍数の合計： 85倍											
名 称： その他 番 号 (999)													
規 模： 小規模													
14 発 生 箇 所		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)													
材 質： ステンレス													
15 発 生 時													
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)													
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)													
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要：		屋外タンク貯蔵所(A重油)の配管からの漏えい。海上への流出あり(微量)。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

原 因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因	維持管理不十分											
	発生原因の状況： 土砂の堆積に伴う配管の腐食。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細												
	管理			監督			監視			監視が実施されない/不足			
	因												
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管から漏れた油が、事業所側溝から海上に流れ出た油は10m程の油膜の帯。					
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：					
第 三 者		0	0	0	0			なし					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関		0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類A重油が微量漏油。		
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人			
								損害額 1万円未満、 1万円以上 (20 万円)					
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 ()							自衛防災・消防組織等 番号 (4) 流出防止措置						
31 防災活動上の問題点													
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：	
	そ の 他	年 月 日				年 月 日							
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 や所見		配管ピット内の定期的な清掃や土砂の堆積の除去、担当職員への教育。											

令和5年

1 事故名		屋外タンクから工場へ移送中の附属ポンプのメカニカルシール破損に伴うコールタールの流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		1月 17日 1時 00分	[推定]・確定		4 発生見	1月 17日 7時 30分	
5 覚知		1月 17日 11時 27分	6 鎮圧 応急処置完了		1月 17日 13時 00分		
7 鎮火・処理完了		1月 17日 18時 00分					
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：晴		風向：北東	風速：3m/s	気温：9℃ 湿度：59%	
10 発生事業所		種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 窯業・土石製品製造業 番号 (2252) 耐火物製造業 不定形耐火物製造業				11 発生場所	
12 施設装置 名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201) 能力：容量(40kL) 13 機器等 名称：ポンプ 番号 (501) 規模：40L/分 14 発生箇所 名称：その他 番号 (999) 材質：その他 15 発生時 運転状況：定常運転中 番号 (1) 作業状況： 番号 ()						区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名：	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) コールタール 40,000L 20倍	
						倍数の合計：20倍 設置の完成：平成 17年 3月 23日 直近の完成： 年 月 日	
17 物質の区分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、常温 [0－40℃]、[高温]) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：コールタール(800L)					
		18 取扱者の概要					
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 1月17日朝、屋外タンク貯蔵所付近から異音が聞こえたため、確認したところ、屋外タンク貯蔵所のポンプからコールタールが流出していたもの。附属ポンプの流出防止堤外への流出は認められなかった。直ちにポンプを停止し、コールタールの回収作業を行った。							
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因 設計不良				着火原因				番号 ()			
原因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 最初はポンプの軸シールとしてグランドパッキンを使用していたが、途中で漏れにくい特注のメカニカルシールに変更したことで、シール材としての回転環との密着が悪く、ポンプ自体の老朽化も相まって、振動が生じたことで、摺動面に欠損が生じ、コールタールが流出したものと推定される。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	設計不良			機能			必要とされる機能が備わっていない					
	疲労・劣化			素材等の劣化			長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）					
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人 的 被 害							28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外タンク貯蔵所のポンプからコールタールが流出したが、ポンプダイク内にとどまった。				
	当 事 者	0	0	0	0							
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： メカニカルシール(パッキン)				
	第 三 者	0	0	0	0							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 6 人	物質の被害状況： コールタール 800L								
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人								
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人								
	その他の機関	2 台 0 隻 0 機 4 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (8 万円)							
30	実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 筒先警戒、調査活動							自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業					
31	防災活動上の問題点 流出を確認したにも関わらず、回収業務等を優先させてしまい、通報が遅れた。											
32	施設名	屋外タンク貯蔵所					33 定期点検等	消 防 法		そ の 他		
行政措置	使用停止	令和 5 年 1 月 17 日	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	令和 5 年 1 月 19 日	年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無		内容：		
その他	年 月 日	年 月 日										
	①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭										
35	今後の対策や所見 大量流出のリスクを下げるために、従来使用していたグランドパッキンを使用することとした。また、流出を早期に発見するために、日に数回点検し、点検表に記録する。通報の遅れについては、対応手順書への事故発生時の迅速な119番通報の追加、運用手順書の再確認を行う。その内容を安全衛生委員会で報告し、早期発見・早期通報の情報共有化を図る。 今回の事故は、メカニカルシールを使用したことが大量流出につながったが、それ以前に従業員の危険物事故に関する認識の欠如が通報の遅れ等を生じているため、事故に関する積極的な情報の共有化を図ってもらいたい。											

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の側板母材が腐食したことにより生じた開口部からのガス軽油の漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		3月 22日 9時 00分				推定・確定		4 発生見		3月 22日 9時 00分	
5 覚知		3月 22日 9時 21分				6 鎮圧 応急処置完了		3月 22日 11時 45分			
7 鎮火・処理完了		3月 22日 16時 15分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：東北東 風速：1.6m/s 気温：16℃ 湿度：86%									
10 発生事業所						11 発生場所					
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 鉄鋼業 製鉄業 高炉に 番 号 (2311) による製鉄業						区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 水島臨海地区					
						16 発生施設規制区分等					
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガス軽油 900,000L 4,500倍					
						倍数の合計： 4,500倍					
12 施設装置						設置の完成：昭和 42年 2月 16日 直近の完成：平成 20年 9月 3日					
名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能力：容量900kL						17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガス軽油 (0.7L)					
13 機器等 温度圧力：											
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規模：内径13.56m、高さ7.6m、容量900kL											
14 発生箇所											
名称：タンク側板 番 号 (101) 材質：鋼鉄						18 取扱者の概要 経験年数35年					
15 発生時											
運転状況：定常運転中 番 号 (1)											
作業状況： 番 号 ()											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 作業員が9時に屋外タンク貯蔵所(1V912)の周辺でガス軽油臭及び側板ににじみを確認した。タンク内容物の払出によりレベルを下げて詳細に調査したところ、側板母材に腐食貫孔が発生しており、内容物のガス軽油が0.7L流出したもの。6時の目視点検時には異常なし。流出防止のため、土嚢積みを実施する。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送											

25	主 原 因 腐食疲労等劣化					着火原因					番号 ()																															
原因	関 連 原 因 維持管理不十分																																									
	発生原因の状況： 屋外タンクの側板内面に錆層が形成され、タンク内の液面変動によりインナーフロートのワイパーシールが錆層を掻き落とした。他の屋外タンク貯蔵所の点検に伴い、当該タンクの使用頻度が高まったことで内部浮き蓋の昇降頻度が増加した。フレッシュな鋼表面の露出が繰り返され、腐食速度が早まり減肉が進行して開口に至り、ガス軽油が0.7L流出したもの。また、操業変化時におけるリスクアセスメントを評価する仕組みが構築されておらず、タンク運用の変化による影響に気づくことができなかった。																																									
	主原因の詳細																																									
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																													
	腐食				環境				その他																																	
	関連原因の詳細																																									
	設備				監理・保守				点検・整備				点検していない/不足																													
	因	管理				リスクアセスメント				危険意識				危険性評価がない/不適切																												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																										
27 人的被害										28 物的被害																																
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： タンク側板に幅150mm×高さ4,520mmの範囲でガス軽油が付着				
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																				
当 事 者	0	0	0	0																																						
防災活動従事者	0	0	0	0																																						
第 三 者	0	0	0	0																																						
										施設等の被害状況： タンク側板に9mm×6mmの腐食貫孔																																
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																										
消 防 機 関 6 台 0 隻 0 機 14 人 自 衛 1 台 0 隻 0 機 5 人										物質の被害状況： ガス軽油 0.7L流出																																
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																										
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																										
その他の機関 4 台 0 隻 0 機 8 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人										損害額 1万円未満、 1万円以上 (19,000 万円)																																
30 実施した防災活動の状況																																										
公設消防機関：番号 (99) ガス検知、警戒待機										自衛防災・消防組織等 番号 (99、3) ガス検知、警戒待機																																
31 防災活動上の問題点																																										
32 施設名									33 定期点検等				消 防 法		そ の 他																											
	使用停止				年 月 日				定期・自主点検				令和 4 年 11 月 1 日		年 月 日																											
	改善命令等				年 月 日				気密試験等				年 月 日		年 月 日																											
	停止解除				年 月 日				保安検査				年 月 日		年 月 日																											
	関係条項								34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・ 無 内容：																													
	そ の 他				年 月 日																																					
					1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭																																	
35 今後の対策や所見																																										
・側板更新 ・インナーフロートレスに更新 ・操業変化時におけるリスクアセスメントを評価する仕組み作り																																										

令和5年

1 事故名		コーンルーフ型屋外タンク貯蔵所TK-101NPの底板にピンホールが発生したことによるヘキサンの漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		6月 18日 17時 00分	
5 覚 知		6月 19日 9時 46分		6 鎮 圧 応急処置完了		6月 19日 13時 49分	
7 鎮火・処理完了		6月 24日 13時 00分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南 風速：2m/s 気温：27℃ 湿度：67%					
10 発 生 事 業 所		種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u> 、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業(一貫して生産される誘導品を含む)				11 発 生 場 所	
12 施 設 装 置						区 分：①. 事業所内 (製、 <u>貯</u> 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 水島臨海地区	
13 機 器 等						16 発生施設規制区分等	
14 発 生 箇 所						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) <u>ヘキサン</u> 182,000L 910倍	
15 発 生 時						設置の完成：平成 2年 10月 24日 直近の完成：平成 2年 10月 24日 倍数の合計： 910倍	
17 物質の区分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： <u>ヘキサン</u> (30L)					
18 取扱者の概要							
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
21 危険物取扱者の取扱・立会い						①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 事業所内で定期点検中の従業員が、屋外タンク貯蔵所TK-101NPのコンクリート基礎にあるアスファルトサンドが一部崩れ落ち、液体が漏えいしているのを発見したが、発見が夕刻であったため、翌朝になって状況を確認したのち消防機関へ通報した。当該タンクの附属配管を縁切りしたのち、内容物のヘキサンを屋外タンク貯蔵所TK37-BPに緊急移送したのち、開放点検を実施した結果、底板中央付近にピンホールを確認した。防油堤外への漏えいはなく、漏えい量は調査中。死傷者なし。当該タンク貯蔵所の緊急使用停止命令書及び早期通報の指示書を交付した。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1、9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送							

原因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因	監視不十分											
	発生原因の状況：	中間体ポリマーに含まれる触媒由来の塩素と溶剤回収系から混入したフリー水がトリガーとなって内面腐食し、貫通孔が発生したもの。なお、該当タンクは、法的に開放周期が定められていないため開放点検は未計画、未実施であった。											
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層	第Ⅱ層			第Ⅲ層				第Ⅳ層				
	腐食	環境			工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）								
	関連原因の詳細												
	設備	監理・保守			点検・整備				点検していない/不足				
	因												
26 被害の状況													1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から
27 人的被害													28 物的被害
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：					
								当該タンクの底板に発生したピンホールから内容物のヘキサンが漏えいし、劣化したアスファルトサンドから防油堤内にヘキサンが漏えいしたもの。防油堤外への漏えいはなく、漏えい量は調査中。					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：					
第 三 者	0	0	0	0			当該タンク及びタンク基礎のアスファルトサンドの他に被害なし。						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	6 台 0 隻 0 機 19 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 4 人	物質の被害状況：									
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人										
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人										
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 2 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人										
30 実施した防災活動の状況													損害額 1万円未満、 1万円以上 (90 万円)
公設消防機関：番号 (99) ガス検知及び警戒待機													自衛防災・消防組織等 番号 (4、5、8) 腐食したアスファルトサンドから漏えいするヘキサンを鉄製バケツで受け、防油堤内への漏えいを防止し、タンク内容物及び漏えいしたヘキサンの緊急移送を実施する。また、付近住民に対する非常放送を実施する。
31 防災活動上の問題点													
漏えいの発見が夕刻であったため、翌朝になって状況を確認したのち消防機関へ通報した。早期通報の指示書を交付した。													
行政措置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所TK-101NP			33 定期点検等		消 防 法		そ の 他				
	使用停止	令和 5 年 6 月 19 日			年 月 日		年 月 日		年 月 日				
	改善命令等	年 月 日			年 月 日		年 月 日		年 月 日				
	停止解除	年 月 日			年 月 日		年 月 日		年 月 日				
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る		有・ 無		内容：				
	そ の 他	令和 5 年 6 月 20 日			法令違反の有無								
		①. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策や所見		点検義務はないが、定期的に開放点検を実施し、早期に異常を覚知できるよう努力すること。											

令和5年

1 事故名		屋外タンク附属ポンプのメカニカルシール不良による重油流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		6月 20日 10時 23分	
5 覚知		6月 20日 10時 27分		6 鎮圧 応急処置完了		6月 20日 10時 27分	
7 鎮火・処理完了		6月 20日 11時 10分					
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：晴		風向：南西		風速：0.9m/s 気温： 湿度：	
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)				11 発生場所	
12 施設装置 名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能力：内径、10,500mm 高さ、13,500mm 13 機器等 温度圧力：80℃、常圧 名称：ポンプ 番 号 (501) 規模：吐出能力 30m ³ /時 14 発生箇所 名称：その他の機器等本体 番 号 (199) 材質：鋼鉄 15 発生時 運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()						区分：①. 事業所内 (製、 <u>貯</u> 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：水島臨海地区	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 940,000L 470倍	
						倍数の合計：470倍 設置の完成：昭和 46年 10月 4日 直近の完成：平成 29年 11月 10日	
17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (663L)		18 取扱者の概要					
		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： NO.76屋外タンク貯蔵所から7号ボイラーに重油を送る附属ポンプのメカニカルシール部分から、重油が663L漏えいしたもの。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()			
原因	関 連 原 因 維持管理不十分							
	発生原因の状況： ポンプのカップリング側メカニカルシール交換後にストッパーリングの固定不良があり、一度メカニカルシールからの重油のにじみがあったため、再点検、試運転で健全性の確認を行いミニマムフローラインを使用して運転中であつたが、メカニカルシールの交換時にストッパーリングの六角穴付ボルトを本締めする前にセットスクリューを軽く締め付けたことが原因で、摺動面開きにより漏えいに至った。また、ストッパーリングを組み込む際に注意を要する構造にもかかわらず、工事手順に落とし込まれていなかったことも要因である。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	施工不良	施工	取り付け不良					
	関連原因の詳細							
	制度	規則・手順	内容・周知	規則・手順がない/文書化されない				
	因							
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27	人 的 被 害					28 物的被害		
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいはポンプヤード内に収まり、被災影響及び拡大なし。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
	消 防 機 関	3 台 0 隻 0 機 8 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 48 人	物質の被害状況： 重油663Lが漏えい。			
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人				
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人				
	その他の機関	3 台 0 隻 0 機 6 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人				
30	実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (99) 警戒待機及びガス検知					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒待機			
31	防災活動上の問題点							
32 施設名	NO.76 PU-741B及び前後のバルブまでの配管				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 5 年 6 月 20 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35	今後の対策 や所見		・2つ割りストッパーリングの組込み手順を手順書に追記。 ・既存と同型式のメカニカルシールで更新。 ・所内水平展開として、組込み手順の留意事項について常駐施工者に周知教育を行い理解度を確認する。 ・社内水平展開として、本事例を社内通知し共有の知見とする。					

1 事故名		屋外タンク貯蔵所(901B)の附属配管が腐食したことによりピンホールが発生し、メタノールが漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		6月 25日 5時 00分	
5 覚知		6月 25日 6時 00分		6 鎮圧 応急処置完了		6月 25日 11時 30分	
7 鎮火・処理完了		6月 25日 13時 45分					
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：晴		風向：東		風速：1m/s 気温：22℃ 湿度：95%	
10 発生事業所				11 発生場所			
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業(一貫して生産される誘導品を含む)				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 水島臨海地区			
				16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 メタノール 9,915,000L 24,787.5倍			
12 施設装置							
名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)							
能力：容量 9,915kL							
13 機器等		温度圧力：0.69Mpa					
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)							
規模：直径89.1mm							
14 発生箇所				倍数の合計：2,4787.5倍			
名称：その他の附属配管等 番 号 (299)				設置の完成：平成 元年 10月 31日 直近の完成：平成 元年 10月 31日			
材質：鋼鉄				17 物質の区分			
15 発生時				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類アルコール類 名称：メタノール(641L)			
運転状況：移送中 番 号 (18)							
作業状況： 番 号 ()				18 取扱者の概要			
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 従業員が施設の確認時に屋外タンク貯蔵所(901B)の附属配管から液体の漏えいを発見した。メタノールの送液ポンプを停止すると漏えい量が減少したことから、漏えいしている液体がメタノールであると判断し、119番通報した。当該配管は平成17年3月に腐食減肉が認められたため金属補修材と補修テープで補修していた。令和4年11月の検査にて防食テープを廃止して防食塗装とするため、防食テープと見誤り補修テープをはがし、塗装による防食措置を実施した。その際に補修テープと一緒に金属補修材も撤去しており、減肉部分に防食塗装が入り込まず、局部的な腐食減肉が進行し、ピンホールが発生しメタノールが漏えいした。漏えい箇所付近の配管縁切弁を閉止し、ドレンバルブに抜液用ノズル付フランジを取付けて配管内のメタノール拔出しを行い、土のう積みで排水溝への流出防止措置をした。施設外への漏えいはなし。漏えい量は調査中である。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送							

原因	25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因		操作確認不十分							
	発生原因の状況：									
	配管と架台の接触部に雨水が滞留したことで外面腐食による減肉が発生した。また、令和4年11月の検査時に、過去の補修履歴を確認していなかったため、補修テープを防食テープと思い込み剥がしてしまい、配管の外面腐食に気付かず防食措置(塗装及びテフロンシート巻き)をしたため、腐食減肉が進行しピンホールが発生したものの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		防食		防食措置が悪いために腐食発生					
	破損		点検時		点検時の処置の不備					
	関連原因の詳細									
因	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	管理		組織		環境		伝達方法が不適切			
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順がない/文書化されない			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害							28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：		
区分								漏えい箇所付近を土のう積みして排水溝への流出を防止したため、施設外への漏えいは無し。		
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：		
第 三 者		0	0	0	0			屋外タンク貯蔵所(901B)の附属配管に直径1mmのピンホールが発生。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	6 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	80 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
							損害額	1万円未満、 1万円以上 (3 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (3、8、99)				
警戒待機及びガス検知						土のう積みによる拡散防止措置及び非常通報の実施、警戒待機及びガス検知				
31 防災活動上の問題点										
屋外タンクの附属配管から液体が漏えいしていることに気付いてから液体がメタノールであると特定するまでに時間を要したため、発見から通報までが長時間を要した。										
行政措置	32	施設名	屋外タンク貯蔵所(901B)		33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	行	使用停止	令和 5 年 6 月 25 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 5 年 2 月 1 日		令和 4 年 8 月 1 日
		改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日		年 月 日
		停止解除	令和 5 年 7 月 26 日		年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日
	措	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無		
		そ の 他	令和 5 年 6 月 25 日		年 月 日			内容：		
		①. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35		今後の対策 や所見								
		定期点検で見つかった老朽化を措置したことが腐食の発生を導く結果となった。常日頃から施設の構造、危険性等を十分に理解し、補修履歴等については確実に把握できるよう書類を整備し、点検時には劣化配管の早期発見、補修又は取替の早期実施をしてもらいたい。また、異常現象である液体の漏えいを確認した場合は、危険物である可能性を考慮し直ちに通報するよう徹底する。								

1 事故名		屋外タンク貯蔵所のミニフローバイパス弁のグランドパッキン固着による弁からの重油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		10月 7日 2時 50分				[推定]・確定		4 発生見		10月 7日 6時 10分	
5 覚知		10月 7日 6時 36分				6 鎮圧 応急処置完了		10月 7日 6時 17分			
7 鎮火・処理完了		10月 7日 9時 25分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：北東 風速：1.9m/s 気温：21℃ 湿度：47%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：水島臨海地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) C重油 15,100,000L 7,550倍									
12 施設装置		13 機器等									
名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)		温度圧力：80℃									
能力：容量 15,100kL		名称：貯槽(タンク) 番 号 (107)									
14 発生箇所		規模：直径34.868m高さ18.24m									
名称：開閉弁 番 号 (204)		設置の完成：昭和 37年 10月 18日 直近の完成：令和 5年 6月 20日									
材質：鋼鉄		17 物質の区分									
15 発生時		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：C重油(400L)									
運転状況：その他 番 号 (99)		18 取扱者の概要									
作業状況： 番 号 ()		経験年数11年									
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無							
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 定期修理で事業所内全ボイラーが停止したことに伴い、タンク内及び配管加温が停止した。配管内の固化防止のため、屋外タンク貯蔵所(T-92)の出荷ポンプの循環運転を開始したところ、ポンプから異音が認められ着熱を確認した。そのためミニフローバイパス弁を微開放してミニフローバイパスラインにC重油を流して循環していたところ、定時パトロール中にミニフローバイパス弁にC重油のにじみを確認し、周囲にC重油の漏えいを覚知したもの。ポンプを停止し、弁のにじみもミニフローバイパス弁のグランド部の増し締めにより停止した。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 故障					着火原因					番号 ()																																						
	関 連 原 因 維持管理不十分																																																
	発生原因の状況： ミニフローバイパス弁は1971年設置以降整備されておらず、過去の流動点の低い重油が弁内部に残っており、グランドパッキンとともに固着していた。そのため、弁操作時にグランドパッキンが弁棒に密着せず隙間が生じ、弁を微開放して通液したことで、弁内部の温度が上昇して固着した重油が徐々に溶け、隙間から重油が流出したものの。																																																
	主原因の詳細																																																
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																				
	故障				機能				周囲からの異物の作用による機器の動作不良																																								
	関連原因の詳細																																																
	設備				監視・保守				点検・整備				整備していない																																				
	因	管理				監督				監視				監視が実施されない/不足																																			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																	
27 人的被害										28 物的被害																																							
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>区分</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： ミニフローバイパス弁周囲、南北5,600mm、東西4,900mmの範囲にC重油が流出				
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																											
区分																																																	
当 事 者	0	0	0	0																																													
防災活動従事者	0	0	0	0																																													
第 三 者	0	0	0	0																																													
										施設等の被害状況： なし																																							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																	
消 防 機 関 3 台 0 隻 0 機 7 人 自 衛 1 台 0 隻 0 機 32 人										物質の被害状況： 第4類 第3石油類(非水溶性) C重油 約400L流出																																							
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																	
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																	
その他の機関 1 台 0 隻 0 機 2 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人										損害額 1万円未満、 1万円以上 (4 万円)																																							
30 実施した防災活動の状況																																																	
公設消防機関：番号 (99) 警戒待機、ガス検知										自衛防災・消防組織等 番号 (99、5) 警戒待機、ガス検知、油回収																																							
31 防災活動上の問題点																																																	
行政措置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等				消 防 法		そ の 他																																					
	使用停止	令和 5 年 10 月 7 日 年 月 日				定期・自主点検				令和 5 年 1 月 15 日 年 月 日																																							
	改善命令等	年 月 日 年 月 日				気密試験等				年 月 日 年 月 日																																							
	停止解除	令和 5 年 12 月 26 日 年 月 日				保安検査				令和 4 年 8 月 30 日 年 月 日																																							
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る法令違反の有無				有・ 無 内容：																																							
	そ の 他	年 月 日 年 月 日 1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭																																															
35 今後の対策や所見		・非接触型の温度計を用いて定点観測し、機器の温度が上昇しなくなるまで常時監視する ・手順書への記載 ・本事例の所内水平展開及び社内全体へ通知																																															

令和5年

1 事 故 名		軽油サービスタンクの流量計付近において、ガスケットが経年劣化により剥がれ、軽油が流出したもの									
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		6月 17日 15時 30分 推定・ 確定					4 発 見		6月 17日 15時 50分		
5 覚 知		6月 17日 16時 07分					6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		6月 17日 16時 00分		
7 鎮火・処理完了		6月 17日 16時 30分									
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南 風速：2.1m/s 気温：31.1℃ 湿度：									
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3313) 気業 電気業 電気事業所(本社, 営業所等)					11 発 生 場 所				
12 施 設 装 置							区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
							16 発生施設規制区分等				
							施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 171,000L 171倍				
							倍数の合計：171倍 設 置 の 完 成：令和 元年 6月 26日 直 近 の 完 成：年 月 日				
13 機 器 等		温 度 圧 力：					17 物 質 の 区 分				
名 称：その他のタンク 番 号 (1299)		14 発 生 箇 所					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (20L)				
能 力：軽油サービスタンク							15 発 生 時				
13 機 器 等											
名 称：その他 番 号 (999)		14 発 生 箇 所					18 取扱者の概要				
規 模：サービスタンクの流量計							19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				
14 発 生 箇 所		名 称：その他 番 号 (999)									
材 質：鋼鉄		15 発 生 時					22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
15 発 生 時											
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		17 物質の区分					23 事故の概要： 軽油サービスタンクの流量計付近において、ガスケットが経年劣化により剥がれ、その部分から軽油が漏えいしたもの。				
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)											
19 危険物保安統括管理者		20 危険物保安監督者					21 危険物取扱者の取扱・立会い				
22 設備・機器等の概要：		23 事故の概要：					24 緊急処置の状況				
オンラインファイル無		軽油サービスタンクの流量計付近において、ガスケットが経年劣化により剥がれ、その部分から軽油が漏えいしたもの。					有 番号 () 無				

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 軽油サービスタンクの流量計付近において、ガスケットが経年劣化により剥がれ、その部分から軽油が漏えいしたもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 貯蔵施設内
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 軽油20L漏えい				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
損害額 1万円未満、 1万円以上 (1 万円)								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 現場確認を行い、漏えいが止まっていること、漏えい範囲の確認及び調査					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭 今後は、ガスケットのみならず、フランジ等の緩みが生じる可能性がある箇所は、しっかり確認するように指導した。						

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所のポンプヤード内にある圧力検出用置換器にピンホールが発生し重油が噴出した流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		7月 18日 0時 00分				推定・確定		4 発生見		7月 18日 14時 10分			
5 覚知		7月 18日 14時 20分				6 鎮圧 応急処置完了				7月 18日 14時 12分			
7 鎮火・処理完了		7月 18日 18時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：風向不明 風速： 気温： 湿度：											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 電話番号 (3311) 気業 電気業 発電所		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 775,000L 387.5倍											
12 施設装置		設置の完成： 昭和 60年 7月 5日 直近の完成： 令和 2年 3月 11日											
名称： その他【電力事業】 番号 (4999)													
能力：													
13 機器等		温度圧力： 35℃、2.6Mpa											
名称： その他 番号 (999)		倍数の合計： 387.5倍											
規模： 直径60.5mm、高さ200mm													
14 発生箇所													
名称： その他の機器等本体 番号 (199)		17 物質の区分											
材質： 鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： LSA重油 (2.8L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況： 定常運転中 番号 (1)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 正常運転における構内パトロールにより、ポンプヤード内の床面に漏えいを発見した。直ちに所内関係部署に連絡をとり、拡大防止のため当該機器の元弁を閉止しする。その後、重油系統を停止し、消防署へ通報を行う。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 雨水等に晒されたことにより局部的に発錆が生じ、当該機器外面の腐食、減肉が進行し、孔食に至った。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
人的被害	27 人的被害								28 物的被害				
	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ポンプヤード内に縦2.9m、横3.9m、厚さ0.25mmの範囲で流出。				
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 圧力検出用置換器の外面が腐食減肉し、溶接部が孔食した。				
	第 三 者	0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： LSA重油2.83L流出			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人				
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 ()								自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無				有・無			
	そ の 他	年 月 日				年 月 日				内容：			
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭													
35 今後の対策や所見		当該機器は設置されてから約40年が経過しており、同様の設備の周期的な機器の交換、点検項目への追加を対策として指導した。											

令和5年

1 事故名		危険物屋外タンク貯蔵所の受け入れ配管の腐食による廃油の漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 2日 16時 00分				[推定]・確定		4 発生見		8月 2日 21時 15分			
5 覚知		8月 2日 21時 38分				6 鎮圧 応急処置完了				8月 2日 23時 49分			
7 鎮火・処理完了		8月 3日 0時 10分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南南西 風速：1.3m/s 気温：29℃ 湿度：74%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 岩国・大竹											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 廃油 13,272,000L 66,360倍											
12 施設装置		17 物質の区分											
名称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能力：容量:13,272kL		設置の完成：昭和 38年 11月 9日 直近の完成：令和 5年 7月 31日											
13 機器等		18 取扱者の概要											
温度圧力：100℃		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規模：外径:267.4mm、肉厚:6.6mm		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
14 発生箇所		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
名称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材質：鋼鉄		23 事故の概要： 危険物屋外タンク貯蔵所の受け入れ配管(保温材あり)から廃油が防油堤内に漏えい(約67.4L)しているのを巡回点検中の職員が発見、上流バルブを閉止し、配管内の滞油回収作業及び漏油処理を実施したものである。 なお、同日16時の巡回点検においては異常を認めておらず、その後発生したものと考えられる。											
15 発生時		24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他											
運転状況：スタートアップ中 番 号 (2) 作業状況： 番 号 ()													
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									

25	主 原 因 腐食疲労等劣化					着火原因					番号 ()				
原因	関 連 原 因														
	発生原因の状況： 配管底部に堆積した硫化物を含むスラッジにより湿性硫化物腐食が発生し開孔したものである。 漏えい箇所は、タンク開放点検時に空管理となる期間が繰り返され、その際も加温トレースが通気状態で保管していたことが腐食環境の助長に繋がったものと考えられる。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	腐食			環境			デポジット腐食（堆積物下腐食、付着物下腐食）								
	関連原因の詳細														
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27	人 的 被 害										28 物的被害				
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいは防油堤内に留まっており、他の施設等への影響はない。						
	当 事 者		0	0	0	0									
	防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 受け入れ配管の腐食開孔。						
	第 三 者		0	0	0	0									
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	5 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性) 廃油 67.4L(推定)漏えい。 損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)					
	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人						
	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人						
30	実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99) 警戒、調査										自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業					
31	防災活動上の問題点														
32	施設名	危険物屋外タンク貯蔵所								33 定期点検等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	令和 5 年 8 月 2 日				年 月 日				定期・自主点検	令和 4 年 9 月 30 日		令和 5 年 8 月 2 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	令和 5 年 9 月 4 日				年 月 日				保安検査	令和 5 年 7 月 31 日		年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項								34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
	そ の 他	年 月 日				年 月 日									
	1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭										
35	今後の対策 や所見		漏えい箇所周辺の配管については、肉厚化して取替工事を実施した。漏えい箇所の配管については、周辺の腐食しやすいと捉えていた箇所について肉厚測定を実施し健全性を確認していたが、今後は、次回7年後のタンク開放検査に合わせて、空管理となる時期に仕切板挿入箇所からタンク元までのスライドUT検査を実施し、空管理期間中の内面腐食の進行状況を確認した後、その結果から将来の検査計画を見直すこととした。												

令和5年

1 事故名		排水機場の施設内の配管から重油が流出した事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		6月 30日 10時 40分	
5 覚 知		6月 30日 11時 20分		6 鎮 圧 応急処置完了		6月 30日 15時 30分	
7 鎮火・処理完了		6月 30日 15時 30分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気： 雨 風向： 南南東 風速： 4m/s 気温： 26.6℃ 湿度： 90%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別 : 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態 : 公務(他に分類されないもの) 番 号 (9611) 地方公務 都道府県機関 都道 府県機関			区 分 : ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名 :				
			16 発生施設規制区分等				
			施設区分 : ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別 : 貯蔵所 施設別 : 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数 : 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 11,000L 5.5倍				
12 施 設 装 置							
名 称 : 自家発電施設 番 号 (1503)							
能 力 :							
13 機 器 等		温 度 圧 力 :					
名 称 : 発電機 番 号 (704)							
規 模 : 自家発電設備(最大取扱数量1,724L)						倍数の合計 : 5.5倍	
14 発 生 箇 所				設 置 の 完 成 : 令和 4年 11月 29日 直 近 の 完 成 : 令和 4年 11月 29日			
名 称 : その他の附属配管等 番 号 (299)				17 物 質 の 区 分			
材 質 : ステンレス				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類 : 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称 : A重油 (3,723L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運 転 状 況 : 定常運転中 番 号 (1)							
作 業 状 況 : 運転操作中 番 号 (1)							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要 : オンラインファイル無							
23 事故の概要 : 排水機場の施設内のフレキシブル配管から重油が漏えいしたもの。 なお、当該排水機場は、少量危険物貯蔵及び取扱い施設であるが、同排水機場敷地内の危険物屋外タンク貯蔵所に配管で接続されており、指定数量以上の危険物が流出したため、危険物に係る事故として取り扱う。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他							

原 因	25 主 原 因 調査中						着火原因						番号 ()								
	関 連 原 因																				
	発生原因の状況： 排水機場の施設内の配管(フレキシブル配管)が、何らかの原因により、破損し漏えいしたもの。																				
	主原因の詳細																				
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層								
	関連原因の詳細																				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																					
27 人 的 被 害												28 物的被害									
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 排水機場施設内の冷却水槽内に重油が漏えいしたため、使用不可となったもの。													
区分																					
当 事 者	0	0	0	0																	
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 冷却水槽、冷却ポンプ													
第 三 者	0	0	0	0																	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																					
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 漏えいした重油約3,723L廃棄。											
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人												
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人												
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人												
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																					
30 実施した防災活動の状況																					
公設消防機関：番号 ()												自衛防災・消防組織等 番号 ()									
31 防災活動上の問題点																					
32 行 政 措 置	施設名	屋外タンク貯蔵所								33 定期点検等				消 防 法				そ の 他			
	使用停止	令和 5 年 6 月 30 日				年 月 日				定期・自主点検				年 月 日				年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等				年 月 日				年 月 日			
	停止解除	令和 5 年 6 月 30 日				年 月 日				保安検査				年 月 日				年 月 日			
	関係条項	消防法第12条の3第1項								34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無 内容： 公共の安全の維持のため緊急に使用を停止する必要があると認められた。							
	そ の 他	年 月 日				年 月 日															
		①. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭															
35 今後の対策 や所見		同施設内の配管の点検を実施。																			

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の地下ピット配管の腐食による重油の流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		3月 1日 0時 00分				推定・確定		4 発 見		3月 8日 16時 00分			
5 覚 知		3月 8日 17時 55分				6 鎮 圧 応急処置完了				3月 8日 18時 40分			
7 鎮火・処理完了		3月 8日 21時 51分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：15℃ 湿度：64%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1841) 造業 舗装材料製造業 舗装材 料製造業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 30,000L 15倍											
		倍数の合計： 15倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)		名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)											
能 力：30,000L		材 質：鋼鉄											
13 機 器 等		15 発 生 時											
温 度 圧 力：		運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)											
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)											
規 模：直径2,788mm、高さ5,341mm、容量30,000L		17 物 質 の 区 分											
		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (4,800L)											
		18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 地域住民より水路に油が浮いていると通報があったため流出源を調査したところ、当該屋外タンク貯蔵所附属の地下ピット配管より重油が流出し、敷地外へ広がったもの。流出量は5,000L(うち約4,800Lが敷地外へ)流出したもの。なお、吸着マット、オイルフェンスを使用し応急措置を実施した。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 地下ピット内配管を年に1度程度点検をしていたが、目視による点検のみで肉厚検査や気密試験を実施していなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人 的 被 害						28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が事業所側溝から水路に流れ込み、海上手前まで2kmにわたり拡散したもの。			
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油 4,800L流出				
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	0 台			0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台			0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台			0 隻	0 機	0 人
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30	実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4、6)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
流出防止措置											
31	防災活動上の問題点 水路に流出した重油の回収作業に困難を極めた。										
32 行政措置	施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 5 年 3 月 8 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 4 年 10 月 3 日	年 月 日				
	改善命令等	令和 5 年 3 月 8 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	令和 5 年 4 月 21 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：				
	そ の 他	法第12条の3第1項		年 月 日 年 月 日							
35	今後の対策や所見		在庫管理を含む日常点検の強化及び漏えいを早急に発見出来るための施設改修。月・年次点検の実施を指導。								

令和5年

1 事故名		屋外タンクに受入中、液面計の動作不良によりオーバーフローし重油が流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 17日 8時 20分				[推定]・確定		4 発生見		8月 17日 8時 20分			
5 覚知		8月 17日 8時 40分				6 鎮圧 応急処置完了				10月 17日 8時 22分			
7 鎮火・処理完了		10月 17日 11時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：雨 風向：北東 風速：3.6m/s 気温：25℃ 湿度：96%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 199,000L 99.5倍											
		倍数の合計：99.5倍 設置の完成：昭和 27年 2月 4日 直近の完成：平成 24年 10月 30日											
12 施設装置		名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201) 能力：容量199kL											
13 機器等		温度圧力： 名称：計測装置 番号 (703) 規模：ボード式液面計											
14 発生箇所		名称：液面計 番号 (309) 材質：鋼鉄											
15 発生時		運転状況：受入中 番号 (9) 作業状況：充填中 番号 (12)											
17 物質の区分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (3,000L)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： タンカー船から屋外タンクに受入中、液面計の動作不良により従業員が油量の把握をできず、オーバーフローしタンク上部の蓋などから重油約3,000Lが防油堤内に流出した。吸着マットを使用し応急措置を実施した。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原因	25 主 原 因 故障						着火原因						番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分																	
	発生原因の状況： 液面計(ボード式)に動作不良(摩擦抵抗により動きが悪い)があり、取り付けた紐を操作し動作確認を行っていたが、正確に作動していなかった。																	
	主原因の詳細																	
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層					
	故障				機能				機器の機能の停止									
	関連原因の詳細																	
	設備				監理・保守				点検・整備				異常事態の放置					
因																		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																		
27 人 的 被 害										28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 事業所防油堤内に流出										
区分																		
当 事 者	0	0	0	0														
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 液面計の動作不良										
第 三 者	0	0	0	0														
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油3,000L流出								
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人									
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人									
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (29 万円)								
30 実施した防災活動の状況																		
公設消防機関：番号 ()										自衛防災・消防組織等 番号 (5) 吸着マット使用								
31 防災活動上の問題点																		
行政措置	32 施設名									33 定期点検等	消 防 法				そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	年 月 日				令和5年5月31日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日				年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日				年 月 日			
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：							
	そ の 他	年 月 日				年 月 日												
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭												
35 今後の対策 や所見		液面計整備、受入作業時の安全対策構築、緊急対応マニュアル作成																

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所、再生油ポンプのメカニカルシールが破損し再生油が流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		1月 24日 22時 04分 推定・ 確定					4 発生見		1月 24日 22時 04分				
5 覚知		1月 24日 22時 05分					6 鎮圧 応急処置完了		1月 25日 0時 00分				
7 鎮火・処理完了		1月 25日 13時 22分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：雪 風向：西 風速：4.2m/s 気温：1.2℃ 湿度：64%											
10 発生事業所							11 発生場所						
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 窯業・土石製品製造業 番号 (2221) セメント・同製品製造業 セメント製造業							区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：						
							16 発生施設規制区分等						
							施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 再生油 170,000L 850倍						
							倍数の合計：850倍						
12 施設装置							設置の完成：令和 3年 12月 27日 直近の完成：令和 4年 7月 4日						
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201) 能力：170kLタンク													
13 機器等													
名称：貯槽(タンク) 番号 (107) 規模：直径7,100mm、全長5,800mm、170kLタンク													
14 発生箇所							17 物質の区分						
名称：その他の機器等本体 番号 (199) 材質：鋼鉄							①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：再生油						
15 発生時							18 取扱者の概要						
運転状況：定常運転中 番号 (1) 作業状況：運転操作中 番号 (1)													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要			20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 再生油設備の停止操作を行った際、再生油ポンプのシール冷却用水配管側に再生油が流れ、冷却水タンク内に再生油が入りオーバーフローして再生油が漏れいた。※この日はかなり気温が低く、町内でも水道管の凍結被害が複数確認されていた。その為、冷却水配管が凍結していたものと考えられる。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送													

25	主 原 因 破 損						着火原因				番号 ()																																								
原 因	関 連 原 因 風水害																																																		
	発生原因の状況： 外気温が1.2℃と低く、給水配管が凍結し、その影響で再生油ポンプのメカニカルシールが破損し、シール部から冷却水タンクに再生油が流れ込み、タンク上部の蓋から油が溢れたもの。																																																		
	主原因の詳細																																																		
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																									
	破損			自然現象			凍結																																												
	関連原因の詳細																																																		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																			
27 人的被害								28 物的被害																																											
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した再生油は、油分離装置内に留まり、それ以上の被害はない。															
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																													
当 事 者	0	0	0	0																																															
防災活動従事者	0	0	0	0																																															
第 三 者	0	0	0	0																																															
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								施設等の被害状況： メカニカルシールが破損。																																											
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>1 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>1 人</td> <td>自 衛</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>その他</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> </table>								消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	1 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)再生油、流出量は不明。			
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	1 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人																																										
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																										
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																										
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																										
								損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																																											
30 実施した防災活動の状況																																																			
公設消防機関：番号 (99) 調査活動								自衛防災・消防組織等 番号 (3、4、5) 流出防止措置、回収作業																																											
31 防災活動上の問題点																																																			
32 行政措置	施設名							33 定期点検等	消 防 法	そ の 他																																									
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和4年12月15日	年 月 日																																									
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日																																									
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日																																									
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：																																										
	そ の 他	年 月 日			年 月 日																																														
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭																																														
35 今後の対策 や所見		①冷却水タンク給水配管の保温(凍結防止対策)②冷却水タンク～側溝間に土嚢設置(側溝への漏えい防止) ③冷却水タンクレベル上限異常警報点の見直し④冷却水タンクレベル上限異常警報発報時の対処法の周知																																																	

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所に接続したフレキシブルホース接続部の緩みによる灯油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		3月 16日 0時 00分				[推定]・確定		4 発生見		3月 23日 0時 00分	
5 覚知		3月 24日 16時 30分				6 鎮圧 応急処置完了				3月 23日 0時 00分	
7 鎮火・処理完了		1月 0日 0時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気： 風向： 風速： 気温： 湿度：									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 農業 農業 耕種農業 米作農業 番号 (111)		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,950L 9.95倍									
		倍数の合計： 9.95倍									
12 施設装置		設置の完成： 令和 4年 3月 31日 直近の完成：									
名称： その他のタンク 番号 (1299)		17 物質の区分									
能力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (8,000L)									
13 機器等		温度圧力：									
名称： 貯槽(タンク) 番号 (107)		18 取扱者の概要									
規模： 直径2,600mm、高さ2,000mm、容量9,950L		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
14 発生箇所		21 危険物取扱者の の取扱・立会い									
名称： フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番号 (202)		①. 有 2. 無									
材質： 鋼鉄											
15 発生時											
運転状況： 貯蔵・保管中 番号 (7)											
作業状況： 番号 ()											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 3月16日に屋外タンク貯蔵所の警報ブザーが鳴ったが、タンク容量減少を知らせる警報ブザーとは従業員Aは認識しておらず、この時残油量の確認は行っていない。3月20日に毎週月曜日実施している残油量の確認を行ったところ、貯蔵していた8,000Lの灯油が空になっていることに従業員Bが気づいたが、この時は報告が行われなかった。3月23日に報告を受けた事業所関係者及び設置業者が施設の確認を行ったところ、フレキシブルホースの接続部より微量の灯油が漏えいしているのを確認した。フレキシブルホースは屋外のU字溝内に設置しており、U字溝には雨水を排出させるための穴が開いていた。灯油の流出が疑われたため屋外タンク貯蔵所周辺を掘り起こしたところ土壌から油臭が認められたため灯油の流出が発覚した。昨年10月から屋外タンクから接続されている一般取扱所は運転していないが、屋外タンクの開閉バルブは開放した状態であった。3月24日に事業所関係者及び設置業者が消防本部へ来庁し覚知した。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]											

25	主 原 因 施工不良				着火原因				番号 ()			
原因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 令和5年3月13日に屋外タンク貯蔵所に接続している配管の屋内部分の経路変更工事を行っており、その際の配管脱着作業中に屋外タンク貯蔵所に接続されているフレキシブルホースの接続部に過剰な力が加わった為、当該部に緩みが生じ油漏えいを発生させたものと推定される。当該工事は屋内の配管のみを変更するものであったため、今回漏えいがあった屋外のフレキシブルホース及び配管については点検等を実施していなかった。											
	主要原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	施工不良			施工			ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）					
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人 的 被 害								28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油は敷地内の土壤に浸透した。周辺を掘り起こし流出範囲の調査を行ったところ、約10㎡深さ5mにわたり流出が認められた。近隣河川等への流出は認められていない。				
	当 事 者	0	0	0	0							
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 敷地内の土壤の汚染				
	第 三 者	0	0	0	0							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油、8,000L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (96 万円)		
30	実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31	防災活動上の問題点 警報設備に関する教育が不足していた。 不測の事態が発生した際の報告体制が確立されていなかった。											
32	施 設 名	屋外タンク貯蔵所				33	定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他		
行政措置	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日					気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日						保安検査	年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無		内容：			
そ の 他	令和 5 年 3 月 29 日											
		①. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭						
35	今後の対策 や所見 ・不測の事態が発生した場合の報告の徹底 ・従業員による毎週の残油量確認の徹底 ・警報ブザーなどの設備に関する教育の実施 ・消防機関として変更許可を要しない軽易な変更等工事後の確認を行わない届出があった際に事故防止等について再度、徹底するよう指導していく。											

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所に附属する配管のフランジ部分が腐食したことにより潤滑油(第三石油類)の流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		11月 9日 14時 30分				[推定]・確定		4 発生見		11月 9日 14時 30分			
5 覚知		11月 9日 15時 00分				6 鎮圧 応急処置完了				11月 9日 15時 30分			
7 鎮火・処理完了		11月 9日 15時 30分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東 風速：1.4m/s 気温：22℃ 湿度：74.7%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 番号 (1821) 潤滑油・グリース製造業 (石油精製業によらないもの) 潤滑油製造業		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 50,000L 25倍 第4類第4石油類 潤滑油 50,000L 8.33倍											
12 施設装置		倍数の合計： 33.33倍											
名称： その他のタンク 番号 (1299)													
能力： 容量50kL													
13 機器等		温度圧力：											
名称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606)		設置の完成： 昭和 56年 3月 14日 直近の完成： 平成 29年 5月 1日											
規模： 直径150mm													
14 発生箇所													
名称： 管継手(ダクトを含む) 番号 (201)		17 物質の区分											
材質： 鋼鉄		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： IH-5C(8L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況： 試運転中 番号 (14)		経験年数10年											
作業状況： 運転操作中 番号 (1)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 令和5年11月9日、本施設に附属している、約5年間使用していなかった配管を使用するため、従業員が試運転のための作業を行っていた。 定期の目視点検は行っていたが、高所にあるフランジ部分の腐食に気が付かずポンプ起動させたため、腐食部分から危険物が約8L流出したもの。 なお、流出した危険物により負傷した者はなく、他の施設への影響はなかった。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他													

25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
原因	関 連 原 因		維持管理不十分								
	発生原因の状況：										
	本施設は、複数の配管が様々な位置に敷設されており、高所でフランジが水平に接続された部分が複数存在している。 本施設には法定点検の義務はないが、他の法定点検の義務のある施設の点検時と同時期に、自主点検を行っていた。 しかし、高所でフランジが水平に接続された部分は、雨水がたまりやすく、腐食の進行が確認できていない状況であった。 そのため、腐食に気が付かないまま配管を使用したため、危険物が流出することとなった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
	関連原因の詳細										
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足				
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人 的 被 害						28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外タンク貯蔵所の配管から、危険物第4類第3石油類の潤滑油が約8Lが流出した。			
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 危険物第4類第3石油類の潤滑油が約8L流出した。				
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台			0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台			0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台			0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台			0 隻	0 機	0 人
30	実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
情報収集						危険物が流出していることを発見した作業員が、直ちに他の従業員へ伝達し、操作の停止及び流出した危険物の回収作業を実施した。					
31	防災活動上の問題点										
32	施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 5 年 10 月 31 日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：				
	そ の 他	年 月 日	年 月 日								
35	今後の対策や所見		(1) 腐食配管の取り替えを実施する。 (2) 本施設を含めた事業所内のすべての危険物施設の類似箇所(約30ヶ所)の総点検を実施する。 (3) 本施設を含めた事業所内のすべての危険物施設のうち、前回の外面腐食点検により、10年以上経過し、かつ塗装の塗り替えを実施していない配管について、塗り替え及び目視点検を実施する。 (4) 法定点検及び自主点検時に、確実に目視点検できる方法を検討し、事業所の施設保全計画に明記する。								

令和5年

1 事故名		C重油移送配管における分析計用枝配管からの漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		6月 19日 9時 00分				[推定]・確定		4 発 見		6月 19日 14時 00分			
5 覚 知		6月 19日 14時 13分				6 鎮 圧 応急処置完了				6月 19日 14時 35分			
7 鎮火・処理完了		6月 19日 16時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北東 風速：4m/s 気温：30℃ 湿度：39%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 大分地区石油コンビナート等特別防災区域											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,000,000L 2,500倍											
		倍数の合計： 2,500倍											
12 施 設 装 置													
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)													
能 力：容量5,000kL													
13 機 器 等		温 度 圧 力：60℃											
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)													
規 模：サイズ3/4B 元厚2.8mm													
14 発 生 箇 所		設 置 の 完 成：昭和 39年 3月 2日 直 近 の 完 成：令和 2年 6月 4日											
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		17 物 質 の 区 分											
材 質：その他		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(130L)											
15 発 生 時		18 取扱者の概要 経験年数5年											
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)													
作 業 状 況： 番 号 ()													
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 当所関係会社員がオフサイト(タンクエリア)の点検作業前に当該配管から地上へ油漏えいしていることを発見した。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

原因	25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因 維持管理不十分												
	発生原因の状況： 直接原因:不具合部は銅管スチームトレースが巻き付く形で設置、配管下部のスチームトレース接触部に雨水が溜まりやすい状況。また、枝配管については未使用配管であったためスチームトレースが停止されており外面腐食が進行しやすい環境であった。間接原因:配管検査手法が目視検査のみでスチームトレース接触部については放射線透過試験若しくはスチームトレースの一時撤去による定量的な評価をしていなかった。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）								
	関連原因の詳細												
	設備		監理・保守		点検・整備			点検内容が不適切					
	因												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害							28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏油場所:幅約2m長さ約6m深さ約0.005m(地表部のみ)の範囲にC重油が漏えい					
区分													
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： C重油移送配管から分岐した分析用配管に1mmΦの開口部が認められた。					
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	20 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性):重油 約130Lが漏えい			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満 、1万円以上 (万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 流出防止措置、回収作業							
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32	施設名				33	定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	行	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和 5 年 4 月 30 日	年 月 日					
		改善命令等	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日					
		停止解除	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日					
	措	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無	内容：					
		そ の 他	年 月 日	年 月 日									
置	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭										
	35 今後の対策や所見 ・不具合部の配管撤去(約6m×2本)※6月19日発災後に実施済。・巻き付け銅管スチームトレースの配管検査においては、放射線透過試験若しくはスチームトレースの一時撤去による定量的な評価を実施する。所見:不要配管を整理し、撤去等の対応を行うことや、従業員に点検方法の再教育を行う必要があると思われる。												

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所(T-232)重油受入弁と枝弁の間に設置された安全弁入口配管からの重油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		9月 4日 13時 20分				[推定]・確定		4 発生見		9月 4日 14時 35分	
5 覚知		9月 4日 14時 47分				6 鎮圧 応急処置完了		9月 4日 14時 37分			
7 鎮火・処理完了		9月 4日 17時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北北東 風速：2.8m/s 気温：32.9℃ 湿度：59%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 大分地区石油コンビナート等特別防災区域									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 19,680,000L 9,840倍									
12 施設装置		倍数の合計： 9,840倍 設置の完成：昭和 47年 9月 11日 直近の完成：令和 2年 4月 3日									
名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能力：19,680kL											
13 機器等											
温度圧力：60℃、0.04Mpa		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(110L)									
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)											
規模：サイズ3/4B、元厚2.8mm(加温あり、保温配管)											
14 発生箇所		18 取扱者の概要									
名称：その他の附属配管等 番 号 (299)											
材質：その他											
15 発生時		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
運転状況：定常運転中 番 号 (1)											
作業状況：運転操作中 番 号 (1)											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 現場付近で作業していた所員が、当該配管から地上へ重油が流出しているのを発見。当該配管の安全弁入口元弁と戻り配管弁及び共用部の弁を閉止し、バキューム車及び油吸着マットを使用し漏油を回収したもの。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因		維持管理不十分								
	発生原因の状況：										
	保温材にウール材が使用されており、ウール材の外側に板金施工前の雨養生として巻かれていたと推定されるビニールが残存。また、配管サポート接触部の保温板金下側の切り欠き部分から雨水が浸入し、ウール材とビニールにより湿潤状態が維持され外面腐食が進行したもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足				
因											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人 的 被 害							28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管より重油が幅約10m×長さ約10mの範囲で約110L漏えい			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 安全弁入口配管に2mmφの開口			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	5 台	0 隻	0 機	20 人		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油約110L流出							損害額 1万円未満、 1万円以上 (50 万円)				
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
調査活動						漏油回収					
31 防災活動上の問題点											
32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ 無			
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				内容：			
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策や所見		点検員の点検方法の見直しや教育が必要。また、類似箇所の水平展開を行うこと。									

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の配管からの漏油事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		5月 15日 8時 45分				推定・確定		4 発生見		5月 15日 8時 45分			
5 覚知		5月 15日 9時 35分				6 鎮圧 応急処置完了				5月 15日 11時 00分			
7 鎮火・処理完了		5月 15日 17時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：西 風速：3.3m/s 気温：23.2℃ 湿度：85.5%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 食料品製造業 水産食 番号 (929) 料品製造業 その他の水産食料 品製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 19,800L 9.9倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 6年 3月 17日 直近の完成：令和 5年 6月 19日											
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)													
能力：													
13 機器等		温度圧力：											
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)													
規模：19,800L													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：その他の附属配管等 番号 (299)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材質：ステンレス		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発生時		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)											
運転状況：定常運転中 番号 (1)		(低温、常温 [0-40℃]、高温)											
作業状況：運転操作中 番号 (1)		分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(889L)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 当該屋外タンク貯蔵所の配管付近で建物の解体工事を行っていた作業員が、危険物施設の配管と認識せずに誤って切断し、漏油が発生したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原 因	25 主 原 因 破損		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 配管付近で作業をしていた解体作業員が危険物施設の配管と認識せずに誤って切断した。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	破損	工事時	工事資機材による損傷					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 付近の道路及び排水溝(事業所の敷地境界線から約160m)への重油の流出
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 重油約889L	
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況							損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)	
31 防災活動上の問題点 事故発生から約50分後の通報であり、時間が経過している。								
32 施 設 名	使用停止	年 月 日	年 月 日	33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	関係条項			保 安 検 査		年 月 日	年 月 日	
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見		付近で解体等の工事や作業が行われる際は危険物施設の関係者が注意喚起を徹底して行う。						

令和5年

1 事故名		屋外タンク附属ポンプからの油漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		7月 7日 10時 40分				推定・確定		4 発 見		7月 7日 10時 40分			
5 覚 知		7月 7日 10時 44分				6 鎮 圧 応急処置完了				7月 7日 11時 55分			
7 鎮火・処理完了		7月 7日 14時 15分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南南西 風速：10.7m/s 気温：29.8℃ 湿度：70%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・ 番 号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 平安座地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ハイオクガソリン 6,000,000L 30,000倍											
12 施 設 装 置		設置の完成：平成 27年 5月 11日 直近の完成：平成 27年 5月 11日 17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ハイオクガソリン(600L) 18 取扱者の概要											
名 称：固定屋根付浮屋根(地上)タンク 番 号 (1203) 能 力：6,000kL													
13 機 器 等 温度圧力：													
名 称：ポンプ 番 号 (501) 規 模：80kL/時													
14 発 生 箇 所													
名 称：パッキング 番 号 (213) 材 質：その他													
15 発 生 時													
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： ハイオクガソリン陸上出荷N0.4ポンプ場付近で臭気がしたため、ポンプ場を確認したところ陸上出荷ポンプ(PU-1001C)のメカシール部分から油が漏れているのを発見。漏えいは陸上出荷N0.4ポンプ場、TK-6019側一部側溝内のみ、施設外への漏えいはなし。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他													

25	主 原 因 故障						着火原因				番号 ()		
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： ポンプ・コントロール・インターフェースの基盤不良によりポンプが自動停止せず運転状態となっていたため、締め切り運転となりポンプメカシール部から油が漏えいした。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	故障			機能			機器の異常動作						
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
	27 人 的 被 害						28 物的被害						
	被害内容等						被災影響範囲及び拡大の状況：						
	区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	漏えいは陸上出荷N0.4ポンプ場、TK-6019側一部側溝のみ、施設外への漏えいはなし。					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：					
	第 三 者	0	0	0	0			ポンプコントロールインターフェースの基盤及びメカシール					
	29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
	消 防 機 関	6 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ハイオクガソリン約600L		
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	4 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (170 万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (4) 泡放射によりシールドしながらバルブを手動で閉鎖した						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 泡放射によりシールドしながらバルブを手動で閉鎖した							
31 防災活動上の問題点													
32	施 設 名	特定屋外タンク貯蔵所(TK-6019)				33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他			
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	年 月 日		年 月 日			
		改善命令等	年 月 日		年 月 日			年 月 日		年 月 日			
		停止解除	年 月 日		年 月 日			年 月 日		年 月 日			
		関係条項											
	そ の 他	危険物漏えい防止及び回収作業				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：						
		令和 5 年 7 月 7 日 1. 文書 ②. 口頭											
	35		今後の対策 や所見 ポンプ・コントロール・インターフェースの基盤を交換し模擬テストで異常がないことを確認。今後は、模擬テスト時にポンプ設置現場に監視員を配置し、ポンプの起動停止を確認する。										

令和5年

1 事 故 名		屋外タンク貯蔵所(TA-33)の浮き屋根シングルデッキが破損し、デッキ上及びルーフドレン配管内に原油が流出					
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		8月 3日 6時 55分	
5 覚 知		8月 3日 7時 10分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		8月 3日 14時 33分	
7 鎮火・処理完了		8月 15日 15時 00分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南南東 風速：9m/s 気温：27℃ 湿度：93%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別	①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)			区 分		①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
	業 態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵倉 番 号 (4711) 庫業を除く) 倉庫業(冷蔵倉庫業を除く)			特別防災地区名： 平安座地区			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他			
				貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所		施設別：屋外タンク貯蔵所	
				類・品名・名称・数量・倍数：			
				第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 102,700,000L 513,500倍			
12 施 設 装 置							
名 称		浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)					
能 力		102,700kL					
13 機 器 等		温 度 圧 力：					
名 称		貯槽(タンク) 番 号 (107)					
規 模		直径80,000mm、高さ22,000mm、容量102,700kL					
14 発 生 箇 所				設 置 の 完 成：		昭和 55年 3月 3日	
名 称		タンク屋根板 番 号 (103)		直 近 の 完 成：		平成 28年 10月 11日	
材 質		鋼鉄		17 物 質 の 区 分			
15 発 生 時				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
運 転 状 況		貯蔵・保管中 番 号 (7)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
作 業 状 況				(固相、液相、気相) (常圧、加圧)			
				(低温、常温 [0-40℃]、高温)			
				分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： 原油 (216L)			
				18 取扱者の概要			
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 浮屋根式特定屋外タンク貯蔵所の浮屋根シングルデッキに損傷があり、シングルデッキ上及びルーフドレン配管内に約216Lの原油が漏えいした。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化						着火原因						番号 ()					
	関 連 原 因																	
	発生原因の状況： 台風6号は暴風域に入った時間帯が長く、風が非常に強かった。このことで、屋根板に高い応力が繰り返しかかり、疲労割れが進展したものと推測される。																	
	主原因の詳細																	
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層					
	疲労・劣化				環境				荷重による疲労（車両や周囲の重量物等の影響）									
	関連原因の詳細																	
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																		
27 人的被害																		
28 物的被害																		
被害内容等																		
区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： シングルデッキ上及びルーフドレン配管内に原油約216Lが漏えいした										
当 事 者		0	0	0	0													
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： シングルデッキ上溶接線に約200mmの亀裂が発生した										
第 三 者		0	0	0	0													
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	3 人	物質の被害状況： シングルデッキ上及びルーフドレン配管内に原油約216Lが漏えいした							
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人								
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人								
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)							
30 実施した防災活動の状況																		
公設消防機関：番号 (99) 現場状況確認及び回収指示																		
自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) シングルデッキ上及びルーフドレン配管内の原油の回収及び破損箇所の応急措置																		
31 防災活動上の問題点																		
32 施設名 特定屋外タンク貯蔵所(TA-33)																		
行政措置		使用停止	年 月 日	年 月 日	33 定期点検等		消 防 法		そ の 他									
		改善命令等	年 月 日	年 月 日			定期・自主点検	令和 5 年 6 月 29 日	年 月 日									
		停止解除	年 月 日	年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日									
		関係条項					保安検査	平成 28 年 4 月 21 日	年 月 日									
		その他	令和 5 年 8 月 3 日	年 月 日	34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無		内容：									
		1. 文書 ②. 口頭	1. 文書 2. 口頭															
35 今後の対策や所見		これまで実施している各種点検については継続した上で、台風襲来前の毎年5月に、屋根シングルデッキの目視点検を一斉に行う。台風通過後、最大瞬間風速が40m/s以上の場合は屋根シングルデッキ上の点検に加え、ポンツーン内の点検も行う。																

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所(TA-23)の浮き屋根シングルデッキが破損し、デッキ上及びルーフトレン配管内に原油が流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		8月 4日 11時 30分	
5 覚 知		8月 4日 11時 34分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		8月 4日 16時 33分	
7 鎮火・処理完了		8月 10日 14時 55分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：雨 風向：南 風速：15m/s 気温：29℃ 湿度：84%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別	①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)			区 分		①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
	業 態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵倉 番 号 (4711) 庫業を除く) 倉庫業(冷蔵倉庫業を除く)			特別防災地区名： 平安座地区			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他			
				貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所			
				類・品名・名称・数量・倍数：			
				第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 102,700,000L 513,500倍			
12 施 設 装 置							
名 称		浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)					
能 力		102,700kL					
13 機 器 等		温 度 圧 力：					
名 称		貯槽(タンク) 番 号 (107)					
規 模		直径80,000mm、高さ22,000mm、容量102,700kL					
14 発 生 箇 所				設 置 の 完 成：		昭和 55年 3月 3日	
名 称		タンク屋根板 番 号 (103)		直 近 の 完 成：		平成 31年 2月 20日	
材 質		鋼鉄		17 物 質 の 区 分			
15 発 生 時				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
運 転 状 況		貯蔵・保管中 番 号 (7)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
作 業 状 況		番 号 ()		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)			
				(低温、常温 [0-40℃]、高温)			
				分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： 原油 (43L)			
				18 取扱者の概要			
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 浮屋根式特定屋外タンク貯蔵所の浮屋根シングルデッキに損傷があり、シングルデッキ上及びルーフトレン配管内に約43Lの原油が漏えいした。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 台風6号は暴風域に入った時間帯が長く、しかも風が非常に強かった。このことで、屋根板に高い応力が繰り返しかかり、疲労割れが進展したものと推測される。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	疲労・劣化	環境	荷重による疲労（車両や周囲の重量物等の影響）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害				28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： シングルデッキ上に原油約43Lが漏えいした
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 3 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 3 人	物質の被害状況： シングルデッキ上に原油約43Lが漏えいした				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 現場状況確認及び回収指示				自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) シングルデッキ上の原油の回収及び破損箇所の応急措置				
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施 設 名	特定屋外タンク貯蔵所(TA-23)		33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 6 月 25 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	平成 30 年 10 月 16 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	令和 5 年 8 月 4 日 1. 文書 ②. 口頭	年 月 日 1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見		これまで実施している各種点検については継続した上で、台風襲来前の毎年5月に、屋根シングルデッキの目視点検を一斉に行う。台風通過後、最大瞬間風速が40m/s以上の場合は屋根シングルデッキ上の点検に加え、ポンツーン内の点検も行う。						

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所(TA-21)の浮き屋根シングルデッキが破損し、デッキ上及びルーフドレン配管内に原油が流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		8月 8日 11時 18分	
5 覚 知		8月 8日 11時 18分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		8月 9日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了		8月 9日 17時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：西 風速：7m/s 気温：27℃ 湿度：92%					
10 発 生 事 業 所		種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵倉 番 号 (4711) 庫業を除く) 倉庫業(冷蔵倉庫業を除く)				11 発 生 場 所	
12 施 設 装 置						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 平安座地区	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 102,700,000L 513,500倍	
						倍数の合計： 513,500倍	
14 発 生 箇 所		設 置 の 完 成：昭和 55年 3月 3日 直 近 の 完 成：平成 28年 6月 28日		17 物 質 の 区 分			
15 発 生 時		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無					
23 事故の概要：		浮屋根式特定屋外タンク貯蔵所の浮屋根シングルデッキに損傷があり、シングルデッキ上に約40Lの原油が漏えいした。					
24 緊急処置の状況		有 番号 () 無					

原因	25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 台風6号は暴風域に入った時間帯が長く、しかも風が非常に強かった。このことで、屋根板に高い応力が繰り返しかかり、疲労割れが進展したものと推測される。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	疲労・劣化			環境			荷重による疲労（車両や周囲の重量物等の影響）						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
因	27 人 的 被 害							28 物的被害					
	被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： シングルデッキ上に原油約40Lが漏えいした				
	当 事 者		0	0	0	0							
	防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： シングルデッキ上溶接線に約100mmの亀裂が発生した				
	第 三 者		0	0	0	0							
措 置	29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
	消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	3 人	物質の被害状況： シングルデッキ上に原油約40Lが漏えいした		
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (3 万円)		
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 現場状況確認及び回収指示							自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) シングルデッキ上の原油の回収及び破損箇所の応急措置						
31 防災活動上の問題点													
政 策 措 置	32	施 設 名	特定屋外タンク貯蔵所(TA-21)						33	定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他	
	行	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和 5 年 7 月 8 日	年 月 日		
		改善命令等	年 月 日			年 月 日				年 月 日	年 月 日		
		停止解除	年 月 日			年 月 日				平成 28 年 2 月 3 日	年 月 日		
		関係条項											
	置	そ の 他	令和 5 年 8 月 8 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
1. 文書 ②. 口頭			1. 文書 2. 口頭										
35		今後の対策 や所見											
		これまで実施している各種点検については継続した上で、台風襲来前の毎年5月に、屋根シングルデッキの目視点検を一斉に行う。台風通過後、最大瞬間風速が40m/s以上の場合は屋根シングルデッキ上の点検に加え、ポンツーン内の点検も行う。											

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所(TA-12)の浮き屋根シングルデッキが破損し、デッキ上及びルーフドレン配管内に原油が流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		8月 7日 16時 14分	
5 覚知		8月 8日 11時 34分		6 鎮圧 応急処置完了		8月 8日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了		8月 8日 17時 00分					
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：曇 風向：西 風速：7m/s 気温：27℃ 湿度：92%					
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵倉 番号 (4711) 庫業を除く) 倉庫業(冷蔵倉庫業を除く)				11 発生場所	
12 施設装置 名称：浮屋根式(地上)タンク 番号 (1202) 能力：102,700kL 13 機器等 温度圧力： 名称：貯槽(タンク) 番号 (107) 規模：直径80,000mm、高さ22,000mm、容量102,700kL 14 発生箇所 名称：タンク屋根板 番号 (103) 材質：鋼鉄 15 発生時 運転状況：貯蔵・保管中 番号 (7) 作業状況： 番号 ()						区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：平安座地区	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 102,700,000L 513,500倍	
						倍数の合計：513500倍 設置の完成：昭和 55年 3月 3日 直近の完成：平成 30年 1月 11日	
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		17 物質の区分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(60L)			
		18 取扱者の概要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 浮屋根式特定屋外タンク貯蔵所の浮屋根シングルデッキに損傷があり、シングルデッキ上に約60Lの原油が漏えいした。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化					着火原因					番号 ()																																										
	関 連 原 因																																																					
	発生原因の状況： 台風6号は暴風域に入った時間帯が長く、しかも風が非常に強かった。このことで、屋根板に高い応力が繰り返しかかり、疲労割れが進展したものと推測される。																																																					
	主原因の詳細																																																					
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																									
	疲労・劣化				環境				荷重による疲労（車両や周囲の重量物等の影響）																																													
	関連原因の詳細																																																					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																						
27 人 的 被 害										28 物的被害																																												
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： シングルデッキ上に原油約60Lが漏えいした																
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																																
当 事 者	0	0	0	0																																																		
防災活動従事者	0	0	0	0																																																		
第 三 者	0	0	0	0																																																		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										施設等の被害状況： シングルデッキ板溶接線に約380mmの亀裂が発生した																																												
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>1 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>3 人</td> <td>自 衛</td> <td>1 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>3 人</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>その他</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> </table>										消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	3 人	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： シングルデッキ上に原油約60Lが漏えいした。				
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	3 人																																													
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
30 実施した防災活動の状況										損害額 1万円未満、 1万円以上 (2 万円)																																												
公設消防機関：番号 (99) 現場状況の確認及び回収指示										自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) シングルデッキ上の原油の回収及び破損箇所の応急措置																																												
31 防災活動上の問題点																																																						
行政措置	32 施設名	特定屋外タンク貯蔵所(TA-12)								33 定期点検等	消 防 法		そ の 他																																									
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	令和 5 年 4 月 16 日		年 月 日																																									
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日																																									
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	平成 29 年 9 月 6 日		年 月 日																																									
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：																																											
	その他	令和 5 年 8 月 8 日 1. 文書 ②. 口頭				年 月 日 1. 文書 2. 口頭																																																
35 今後の対策 や所見		これまで実施している各種点検については継続した上で、台風襲来前の毎年5月に、屋根シングルデッキの目視点検を一斉に行う。台風通過後、最大瞬間風速が40m/s以上の場合は屋根シングルデッキ上の点検に加え、ポンツーン内の点検も行う。																																																				

4 地 下 タ ン ク 貯 蔵 所

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所における荷卸し中の重油流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		1月 4日 5時 00分				[推定]・確定		4 発生見		1月 4日 5時 00分			
5 覚知		1月 4日 5時 16分				6 鎮圧 応急処置完了				1月 4日 7時 21分			
7 鎮火・処理完了		1月 4日 7時 21分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西 風速：5.6m/s 気温：-7℃ 湿度：53%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 食料品製造業 水産食 番号 (923) 料品製造業 水産練製品製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,200L 2.6倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 61年 9月 22日 直近の完成：平成 19年 6月 4日											
名称：地下タンク 番号 (1209)													
能力：第4類第2石油類 第3石油類 重油5,200L 倍数2.6倍													
13 機器等		温度圧力：											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		倍数の合計：2.6倍											
規模：通気管 25A													
14 発生箇所													
名称：通気管 番号 (304)		17 物質の区分											
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (485L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：荷卸中 番号 (13)		経験年数25年											
作業状況：運転操作中 番号 (1)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から地下貯蔵タンクへ荷卸し中に、通気管及び建物2階サービスタンクから重油が流出したものであり、注入前、液面計が故障しているのを認知していたのにも関わらず、残油量の確認を怠り目測で、注油したことにより過剰注油となったもの。移動タンク貯蔵所の運転手は移動タンク貯蔵所のポンプを停止し、吸着マットを用いて流出防止措置を行った。運転手の119番通報により消防覚知に至ったものである。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25	主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因		維持管理不十分								
	発生原因の状況：										
	液面計の故障により、正確な残油量が把握できなかったにもかかわらず、注油を継続したことによる過剰注油及びサービスタンクドレン管の緩み。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足				
	人		本人の意識		思慮		配慮不足				
	人		本人の意識		思慮		過信				
	因	関連原因の詳細									
設備		監視・保守		点検・整備		異常事態の放置					
設備		監視・保守		点検・整備		整備していない					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害							28 物的被害				
区分		被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 重油約485Lが敷地内に流出した。	
当 事 者				0	0	0	0			施設等の被害状況： なし	
防災活動従事者				0	0	0	0				
第 三 者				0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油約485L流出	
消 防 機 関		3 台 0 隻 0 機 10 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		そ の 他		0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況										損害額 1万円未満、 1万円以上 (5 万円)	
公設消防機関：番号 (99)										自衛防災・消防組織等 番号 ()	
調査活動及び流出した重油の処理											
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32	施設名					33	定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	行	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和4年 6月 17日		年 月 日	
		改善命令等	年 月 日		年 月 日			気密試験等	令和4年 6月 17日		年 月 日
		停止解除	年 月 日		年 月 日				保安検査	年 月 日	
	措	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有 ・無		内容： ・法第10条3項 製造所等における危険物の貯蔵及び取扱いの基準違反 ・法第12条1項 製造所等の位置、構造、及び設備の技術上の基準維持義務違反	
		そ の 他	年 月 日		年 月 日						
35		今後の対策 や所見	当該流出事故は、地下貯蔵タンクの液面計が故障していたため、荷卸し中に過剰注入となり重油約485Lが流出したものである。 流出後の通報、事故処理等の対応は適切であったと考える一方で、故障が発覚した令和4年10月時点で高精度液面計への取替を発注していたが、取替は完了していなかったことから、完了までの間の注油方法や残油量の管理等について詳細な対策が必要であったと考える。 これらの事項を踏まえ、当該事業所に対し、中央消防署長から再発防止のための指導書を交付し、注意喚起をするものである。								

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所における危険物漏えい事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		4月 10日 9時 10分				[推定]・確定		4 発生見		4月 10日 9時 10分			
5 覚知		4月 10日 9時 24分				6 鎮圧 応急処置完了				4月 10日 13時 00分			
7 鎮火・処理完了		4月 10日 13時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西南西 風速：3.1m/s 気温：10.1℃ 湿度：64%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：教育・学習支援業 学校教育 小 番 号 (7611) 学校 小学校		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類その他 重油 10,000L 5倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 元年 10月 13日 直近の完成： 年 月 日 17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類その他 名称：重油 (5L)											
名称：地下タンク 番 号 (1209) 能力：10,000L													
13 機器等 温度圧力：													
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規模：全長5,860mm, 内径1,600mm													
14 発生箇所		18 取扱者の概要											
名称：給油管等 番 号 (907) 材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：定常運転中 番 号 (1) 作業状況：その他 番 号 (99)													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所にて当該地下タンクにA重油を荷卸し中、注入管の埋設部付近より漏えいを確認する。 在庫管理状況に顕著な消費は認められず注入管付近の土壌を掘削し、修繕まで養生措置とする。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原因	25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 注入管が経年により腐食(穿孔)したもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 注入管周囲1㎡程度の範囲で土壌汚染					
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 注入管腐食(穿孔)					
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 重油5L流出		
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関		1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (4) 漏えい範囲の調査及び立会業者へ応急措置を指示する。							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32	施設名							33	定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	行	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検 気密試験等 保安検査	平成 23 年 8 月 13 日	年 月 日		
		改善命令等	年 月 日			年 月 日				令和 4 年 9 月 2 日	年 月 日		
		停止解除	年 月 日			年 月 日				年 月 日	年 月 日		
	措	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
		そ の 他	年 月 日			年 月 日							
35		今後の対策 や所見			腐食した注入管の取替えを実施。 設置年数の経過している施設は漏えい事故に繋がる可能性もあることから立入検査等で確認する。								

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所の地下ピット配管経年劣化による灯油流出事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		6月 22日 18時 30分	
5 覚 知		6月 22日 18時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了		6月 22日 18時 35分	
7 鎮火・処理完了		6月 22日 18時 35分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (定期点検不備の連絡を受け、現地調査した消防隊が灯油の流出を発見)					
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南南東 風速：6.9m/s 気温：21℃ 湿度：71%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：分類不能の産業 分類不能の産 番 号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能の産業		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他			
				貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所			
				類・品名・名称・数量・倍数：			
				第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍			
12 施 設 装 置				設置の完成：平成 10年 2月 18日 直近の完成：年 月 日			
名 称：地下タンク 番 号 (1209)							
能 力：容量1,900L							
13 機 器 等		温 度 圧 力：		倍数の合計：1.9倍			
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)							
規 模：15A 鋼管							
14 発 生 箇 所				17 物 質 の 区 分			
名 称：給油管等 番 号 (907)				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
材 質：鋼鉄				5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
15 発 生 時				(固相、液相、気相) (常圧、加圧)			
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)				(低温、常温 [0-40℃]、高温)			
作 業 状 況： 番 号 ()				分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油			
				18 取扱者の概要			
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所の定期点検(漏れ点検)を実施したところ圧力変動値に異常が見られ、灯油の流出を疑い、消防署に通報したもの。 到着した消防隊と管理会社が調査したところ、地下ピット内で吸引管の屈曲部分を中心に配管の被覆材へ灯油が染み込んでいたのを発見したもの。流出量は不明。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 地下ピット内に設置された配管が、経年劣化によりピンホールが発生し灯油が流出したもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下ピット内に設置された配管の一部にピンホールが生じ灯油が流出、当該配管の被覆材へ灯油が染み込んでいたもので、他への流出はなし。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							施設等の被害状況： 配管にピンホールが生じ、使用不能	
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 灯油の流出(流出量不明)				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 2 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況							損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)	
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、流出油処理					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 6 月 22 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 5 年 6 月 22 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見		・点検業者や管理人、管理会社に対し、定期点検において被覆材の異常が認められた際には被覆材を取外し、直接配管を確認することが望ましいと指導したところではあるが、今後、管内の同様の危険物施設に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。						

令和5年

1 事 故 名		地下タンク貯蔵所からボイラーへの埋設配管の腐食による重油の流出									
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		8月 9日 10時 00分 推定・ 確定					4 発 見		8月 9日 10時 00分		
5 覚 知		8月 9日 10時 00分					6 鎮 圧 応急処置完了		8月 9日 10時 30分		
7 鎮火・処理完了		8月 22日 10時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南 風速：3m/s 気温：26℃ 湿度：99%									
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所									
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：医療・福祉 社会保険・社会福 番 号 (7541) 祉・介護事業 老人福祉・介護事 業(訪問介護事業を除く) 特別 養護老人ホーム		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,000L 2.5倍									
12 施 設 装 置		設置の完成：昭和 63年 1月 6日 直近の完成：昭和 63年 1月 6日									
名 称：地下タンク 番 号 (1209)											
能 力：地下タンク貯蔵所 重油 5,000L											
13 機 器 等		温度圧力：									
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		倍数の合計：2.5倍									
規 模：内径1,300mm、胴長3,840mm、容量5,000L											
14 発 生 箇 所											
名 称：その他 番 号 (999)		17 物 質 の 区 分									
材 質：その他		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(110L)									
15 発 生 時		18 取扱者の概要									
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)		19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
作 業 状 況：不定期修理中 番 号 (3)											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事 故 の 概 要： 令和5年6月30日 地下タンク貯蔵所の定期点検(配管の圧力点検)を実施したところ、僅かな圧力の漏れを確認し、消防職員が現地調査を行うが、目視できる箇所に漏えいは確認されず、在庫管理表を確認したところ漏えいの兆候が認められないことから埋設部分を掘削し確認することとした。 令和5年8月9日 埋設配管の掘削工事の現地調査を実施したところ、送油管(吸引管)2箇所及び返油管1箇所に約5mmの開孔部並びに土壌汚染を確認した。 その際、掘削作業中に送返油配管の老朽化が著しく、些細な振動等で送返油配管に損傷が生じ、少量の重油が漏えいしたと報告を受ける。 令和5年8月19日 漏えい箇所を掘削したところ、新たに送油油(吸引管)2箇所に約2～3mmの開孔部を確認する。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 地下タンク貯蔵所設置から34年経過し埋設配管の腐食及び経年劣化により漏えいしたもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害							28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンクから重油、約110Lが漏えいし施設敷地内の土壌を汚染したもの。
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 地下タンクから重油、約110L漏えい
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油 約110L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	2 台 0 隻 0 機 4 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
		損害額 1万円未満、 1万円以上 (1 万円)						
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (4、5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()		
・耐油テープによる漏えい防止措置 ・掘削による土壌汚染の確認 ・雨水による掘削箇所の養生措置								
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 6 月 30 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 5 年 6 月 30 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策や所見		地下タンク貯蔵所を廃止し少量危険物施設に移行することで検討する。						

令和5年

1 事故名		地下貯蔵タンクからボイラーへの地下埋設配管が腐食により破損し重油が流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		8月 29日 16時 30分				[推定]・確定		4 発生見		8月 30日 9時 00分	
5 覚知		8月 30日 15時 35分				6 鎮圧 応急処置完了				8月 30日 16時 00分	
7 鎮火・処理完了		8月 30日 16時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：東南東 風速：1.6m/s 気温：21℃ 湿度：85%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 窯業・土石製品製造業 番号 (2223) セメント・同製品製造業 コン クリート製品製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 29,000L 14.5倍									
12 施設装置		設置の完成：平成 7年 12月 26日 直近の完成：平成 7年 12月 26日									
名称：地下タンク 番号 (1209)											
能力：容量 29,000L											
13 機器等		温度圧力：									
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		倍数の合計：14.5倍									
規模：直径42.7mm											
14 発生箇所		17 物質の区分									
名称：その他の附属配管等 番号 (299)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス									
材質：その他		5. 毒物 6. 劇物 7. その他									
15 発生時		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧)									
運転状況：定常運転中 番号 (1)		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)									
作業状況： 番号 ()		分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(200L)									
18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所からボイラーへ供給するための地中埋設配管が腐食により配管が破損し重油が流出したもの。 施設管理者が発見後にボイラー運転を停止、配管施工業者へ連絡した。 当日中に消防へ通報があり、現地調査を実施。後日土壌入替と配管交換を実施。 敷地外への流出なし、死傷者なし。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 地下埋設配管の腐食により、配管が破損し流出したもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	腐食			防食			防食塗装・被覆剥離（経年による剥離）						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 無					
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 埋設配管の腐食により配管が破損					
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関		0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： A重油約200Lが流出					
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人						
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人						
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (2 万円)					
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 ()							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点													
32 行政措置 置	施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検		令和 5 年 5 月 27 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等		令和 5 年 5 月 27 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保安検査		年 月 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：					
	そ の 他	年 月 日											
35 今後の対策 や所見		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭 当該地下貯蔵タンクから伸びる地下埋設配管をすべて取り換える。											

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所の通気管腐食による油流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		9月 26日 13時 00分				[推定]・確定		4 発 見		10月 10日 11時 00分			
5 覚 知		10月 10日 11時 48分				6 鎮 圧 応急処置完了				10月 10日 17時 00分			
7 鎮火・処理完了		10月 11日 15時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南南東 風速：3m/s 気温：23℃ 湿度：94%											
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：教育・学習支援業 学校教育 高 番 号 (7631) 等学校、中等教育学校 高等学校				11 発 生 場 所		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍 倍数の合計： 3倍 設 置 の 完 成： 昭和 56年 11月 25日 直 近 の 完 成： 昭和 56年 11月 25日					
12 施 設 装 置						名 称： 地下タンク 番 号 (1209) 能 力： 灯油3,000L 13 機 器 等 温 度 圧 力： 名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 長さ3,218mm、高さ1,200mm 14 発 生 箇 所 名 称： 通気管 番 号 (304) 材 質： 鋼鉄 15 発 生 時 運 転 状 況： 休止中 番 号 (6) 作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所の通気管(地上部、埋設部の境界)の腐食により、雨水が浸入し地下タンク内が満水状態となり腐食部より危険物が流出したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 通気管が経年により腐食したもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンク及び通気管周囲に漏えい痕、敷地内2か所に土壌汚染あり。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： タンク内に雨水が混入、灯油数Lが通気管腐食部より流出	
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (14 万円)	
公設消防機関：番号 (99) 情報収集及び調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和1年 9月 4日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和1年 9月 4日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見		休止中の地下タンクであるため、必要な措置を講じ廃止する。						

1 事故名		地下埋設配管点検ボックス貫通部における配管腐食が起因とする重油流出事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		11月 21日 13時 50分	
5 覚 知		11月 21日 13時 52分		6 鎮 圧 応急処置完了		11月 21日 13時 50分	
7 鎮火・処理完了		11月 21日 14時 30分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南南西 風速：4.7m/s 気温：9℃ 湿度：81.6%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：教育・学習支援業 学校教育 高 番 号 (7641) 等教育機関 大学				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 9,600L 4.8倍			
				倍数の合計：4.8倍			
12 施 設 装 置				設置の完成：昭和 62年 5月 21日 直近の完成：平成 26年 10月 17日			
名 称：地下タンク 番 号 (1209)				17 物 質 の 区 分			
能 力：容量9,600L				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (50L)			
13 機 器 等 温 度 圧 力：				18 取扱者の概要			
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)				1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要			
規 模：外径34mm				2. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要			
14 発 生 箇 所				21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要			
名 称：その他 番 号 (999)				2. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要			
材 質：鋼鉄				2. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要			
15 発 生 時				21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要			
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)				2. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要			
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)				2. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要			
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： (1)発見状況:定期点検に係る漏れの点検時に、圧力が上昇しないことから、視認で確認したところ、地下埋設配管点検ボックス内に重油の流出を発見する。 (2)事故に至る経緯:前回の漏れの点検(令和4年12月2日)から、今回の漏れの点検が実施されるまでの間で流出した。 (3)事故時の作業状況:ボイラーを通常運転し、重油を消費していた。 (4)事故の模様:地下埋設配管点検ボックスの貫通部分の鋼管(防食措置未施工)が腐食し、地中へ重油が流出する。 (5)被害の範囲:点検ボックス内及び地中側へ重油約50Lが流出するが、地下水、河川及び水道管への影響は報告されていない。 (6)死傷者の発生状況:なし。 (7)実施した緊急処置:油吸着マットにより、被害拡大防止に努める。発見時、漏れの点検が実施されていたため、地下貯蔵タンク及び配管内の既に危険物は、抜き取られている状況。 (8)作動すべき安全装置の状況:問題なし。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因								
	発生原因の状況： 地下埋設配管点検ボックスの貫通部内が、何らかの原因で多湿環境下となり、防食措置未施工であった炭素鋼鋼管の腐食が進むことで、染み出した重油が土壌へ流出したものである。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）				
	腐食		防食		防食無し（耐腐食性の材料を使用せず）				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人 的 被 害							28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 埋設配管腐食箇所より、重油50Lが地中へ流出する。流出範囲は、施設内で収まり、地下水、河川及び水道管への影響は報告されていない。	
区分									
当 事 者	0	0	0	0					
防災活動従事者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管(送り側)の一部が腐食 土壌汚染	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)重油50L流出									
損害額 1万円未満、 1万円以上 (120 万円)									
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (4, 99) 吸着マット 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) 吸着マット 土壌の改良			
31 防災活動上の問題点									
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 1 年 5 月 29 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	令和 4 年 12 月 2 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有 ・無 内容： 定期点検未実施 消火器本数不足		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策 や所見		早急に定期点検を実施し、点検ボックス貫通部も含めた地下埋設配管の改修及び防食措置を行うことを指導する。							

1 事 故 名		地下タンク貯蔵所の地上配管腐食による事業所内への危険物の流出											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		6月 27日 10時 00分 推定・ 確定					4 発 見		6月 27日 10時 00分				
5 覚 知		6月 29日 9時 30分					6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		6月 29日 10時 30分				
7 鎮火・処理完了		6月 29日 10時 30分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：雨 風向：西北西 風速：5m/s 気温：27℃ 湿度：73%											
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 建設業 職別工事業(設備工事 番 号 (744) 業を除く) 石工・れんが・タイ ル・ブロック工事業 コンク リートブロック工事業					11 発 生 場 所		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,000L 1.5倍 倍数の合計： 1.5倍 設 置 の 完 成： 昭和 60年 10月 25日 直 近 の 完 成： 平成 23年 7月 11日				
12 施 設 装 置							17 物 質 の 区 分						
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)							①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (1L)						
能 力： 3,000L													
13 機 器 等 温 度 圧 力：													
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		18 取扱者の概要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
規 模： 鋼管25A													
14 発 生 箇 所		19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					20 危険物 保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要						
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)													
材 質： 鋼鉄													
15 発 生 時													
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)													
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 地下タンク貯蔵所の屋外露出配管ねじ込み部分が腐食し、腐食箇所より重油が1L流出したものの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 地下タンク貯蔵所の屋外露出配管ねじ込み部分が腐食し、腐食箇所より重油が1L流出したもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンク貯蔵所の屋外露出配管ねじ込み部分が腐食、腐食箇所より重油1Lが流出し、敷地内の油分離装置に流れ込んだもの。流出範囲については、敷地内でとどまっている。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油1.0L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
28 物的被害 被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンク貯蔵所の屋外露出配管ねじ込み部分が腐食、腐食箇所より重油1Lが流出し、敷地内の油分離装置に流れ込んだもの。流出範囲については、敷地内でとどまっている。								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油1.0L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 調査出動					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点								
32 施設名	使用停止	年 月 日	年 月 日	33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		令和4年 7 月 2 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	気密試験等		令和4年 6 月 27 日	年 月 日	
	関係条項			保安検査		年 月 日	年 月 日	
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無 内容：		
	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策や所見 配管の取替え及び目視による点検の強化								

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所からボイラーへの埋設配管の腐食による重油の流出							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		11月 29日 9時 00分			
5 覚知		11月 29日 9時 15分		6 鎮圧 応急処置完了		11月 29日 10時 30分			
7 鎮火・処理完了		12月 1日 9時 00分							
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()							
9 気象状況		天気：晴 風向：西北西 風速：1m/s 気温：3℃ 湿度：91%							
10 発生事業所		種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： サービス業(他に分類されない番号 (8442) もの) 娯楽業 スポーツ施設提 供業 体育館				11 発生場所		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 6,500L 3.25倍 倍数の合計： 3.25倍 設置の完成： 昭和 56年 7月 31日 直近の完成： 年 月 日	
12 施設装置						17 物質の区分			
名称： 地下タンク 番号 (1209)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
能力： 6,000L						5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
13 機器等						温度圧力：			
名称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油							
規模： 呼び径25A									
14 発生箇所									
名称： その他の附属配管等 番号 (299)		18 取扱者の概要							
材質： その他		1. 選任有 2. 選任無							
15 発生時		20 危険物保安監督者							
運転状況： 貯蔵・保管中 番号 (7)		1. 選任有 2. 選任無							
作業状況： 番号 ()		③. 不要							
19 危険物保安統括管理者		21 危険物取扱者の取扱・立会い							
1. 選任有 2. 選任無		①. 有							
③. 不要		2. 無							
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無									
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所の定期点検を実施したところ、配管の減圧が認められたことからボイラーの使用を停止。地盤面を掘削したところ送油管に3箇所穿孔が確認されたものである。表面上は、直径80cmの範囲で油が確認できたものである。河川等への流出は確認できず。流出箇所の周囲を80cm掘り油が確認できないため、油中和剤を散布したものである。									
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止									

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 配管の腐食老朽化によるもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人 的 被 害						28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油の敷地外への流出はなかったもの。			
当 事 者		0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 送油管に最大で30mmの穿孔が3か所発生。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 流出量のごくわずかと思われるが不明である。			
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻		0 機	0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻		0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻		0 機	0 人	
その他の機関		2 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 5 年 3 月 31 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	令和 5 年 3 月 31 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保 安 検 査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：				
	そ の 他	年 月 日		年 月 日							
35 今後の対策 や所見		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭 地中埋設配管ではなく、ピット配管へ変更中である。									

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所からボイラー等への配管の腐食による重油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		5月 2日 14時 30分	
5 覚 知		5月 6日 11時 20分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		5月 6日 14時 20分	
7 鎮火・処理完了		7月 11日 15時 25分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 南西 風速： 1.9m/s 気温： 30.7℃ 湿度： 33.3%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館； 番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 9,600L 4.8倍			
				倍数の合計： 4.8倍			
12 施 設 装 置				14 発 生 箇 所			
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)				名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)			
能 力： 9,600L				材 質： 鋼鉄			
13 機 器 等		温 度 圧 力：		17 物 質 の 区 分			
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油			
規 模： 胴長6,100mm、内径1,440mm、鏡出209mm、容量9,600L				18 取扱者の概要			
14 発 生 箇 所				設置の完成： 平成 3年 12月 29日 直近の完成： 平成 4年 2月 26日			
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)				19 危険物保安統括管理者		20 危険物保安監督者	
材 質： 鋼鉄				1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い	
15 発 生 時				1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		1. 有 ②. 無	
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)				22 設備・機器等の概要：			
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)				オンラインファイル無			
				23 事故の概要：			
				5月2日に油のようなものが浮いているとの情報があり、調査のため出動する。水路に油が浮いていたため、関係機関によるオイルフェンス設置及び水路直近の少量危険物施設の調査を依頼する。 5月17日に油のようなものが浮いているとの情報があり、再度調査のため出動する。水路付近の法面の土から油臭があり、法面上部(高さ約7m)から約30mに地下タンク貯蔵所が設置されているため、漏えい検査官による点検及び毎年実施している漏れ点検の結果状況を確認するが重油の流出を確認するが異常はなし。また、今年度の漏れ点検を5月22日に実施するも異常なしであった。 その後、事業所側と協議し、地下タンク貯蔵所の危険物を全て抜き取り、点検を行うこととなり、7月11日ガス加圧による点検の結果、配管の一部から漏えいが確認される。 なお、流出量にあつては不明である。			
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原	25 主 原 因		腐食疲労等劣化										着火原因										番号 ()																																																													
	関 連 原 因																																																																																			
	発生原因の状況： 点検ピット内に雨水や泥土等が滞留し、多湿環境になったことで配管のねじ込み部分が腐食し、ピンホールが発生したもの。																																																																																			
	主原因の詳細																																																																																			
	第Ⅰ層										第Ⅱ層										第Ⅲ層										第Ⅳ層																																																					
	腐食										環境										多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）																																																															
因	関連原因の詳細																																																																																			
26 被害の状況																														1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																						
27 人 的 被 害																														28 物的被害																																																						
被害内容等 区分															死亡					重症					中等症					軽症					死傷原因					職業又は 職名					被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が事業所敷地から隣接法面を経て、用水路に流れ込み約70mに渡り拡散した。																																							
当 事 者															0					0					0					0																																																						
防災活動従事者															0					0					0					0															施設等の被害状況： 腐食により配管(送油管)が損傷。																																							
第 三 者															0					0					0					0																																																						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																																																				
消 防 機 関										2 台					0 隻					0 機					6 人					自 衛					0 台					0 隻					0 機					0 人					物質の被害状況： 流出した物質は重油であるが、流出量は不明。																													
消 防 団										0 台					0 隻					0 機					0 人					共 同					0 台					0 隻					0 機					0 人																																		
海上保安部										0 台					0 隻					0 機					0 人					応 援					0 台					0 隻					0 機					0 人																																		
その他の機関										0 台					0 隻					0 機					0 人					そ の 他					1 台					0 隻					0 機					2 人					損害額 1万円未満 、1万円以上 (万円)																													
30 実施した防災活動の状況																																																																																				
公設消防機関：番号 (99) 事故原因調査の実施。																				自衛防災・消防組織等 番号 (6) オイルフェンスの展張																																																																
31 防災活動上の問題点																																																																																				
政 策 措 置	32 施 設 名																														33 定 期 点 検 等										消 防 法										そ の 他																																	
	使用停止										年 月 日										年 月 日										定期・自主点検										令和 5 年 5 月 22 日										年 月 日																																	
	改善命令等										年 月 日										年 月 日																				令和 5 年 5 月 22 日										年 月 日																																	
	停止解除										年 月 日										年 月 日										保 安 検 査										年 月 日										年 月 日																																	
	関係条項																														34 当該施設に係る 法令違反の有無										有・ 無										内容：																																	
	そ の 他										年 月 日										年 月 日																																																															
										1. 文書 2. 口頭										1. 文書 2. 口頭																																																																
35 今後の対策 や所見										漏えいした配管を含め、既存地下タンクからの埋設配管6本全てを露出配管に変更する。また、今回ピット内の点検が不十分であった可能性もあるため、事業所側で地下タンク貯蔵所の定期的な点検や在庫管理を実施するなど、適切な維持管理の徹底が必要である。																																																																										

令和5年

1 事故名		一般取扱所における、FF暖房機に灯油を供給する配管からの漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		1月 10日 9時 00分	
5 覚 知		1月 25日 16時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了		1月 13日 17時 00分	
7 鎮火・処理完了		1月 21日 17時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：西北西 風速：4m/s 気温：5℃ 湿度：55%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：教育・学習支援業 学校教育 小 番 号 (7611) 学校 小学校				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍			
12 施 設 装 置				設置の完成： 平成 21年 10月 5日 直近の完成： 年 月 日 倍数の合計： 1.9倍			
名 称： 地下タンク 番 号 (1209) 能 力： 1900							
13 機 器 等 温 度 圧 力：							
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 配管の口径は25mm 22台のFFに供給							
14 発 生 箇 所				17 物 質 の 区 分			
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質： その他				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (2,400L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 地下埋設タンクを有する一般取扱所において、屋外に設置されていた配管部分が破損し、約2400Lの灯油が漏油した。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

25	主 原 因 不明						着火原因						番号 ()																																												
	関 連 原 因 破損																																																								
	発生原因の状況： 何らかの原因により配管の結合部分が損傷して漏油したもの。																																																								
	主原因の詳細																																																								
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																												
	関連原因の詳細																																																								
	破損				自然現象				その他																																																
因																																																									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																									
27 人的被害												28 物的被害																																													
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>												被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 地下埋設タンクを有する一般取扱所の配管部分から漏油し、地中に浸透した。敷地境界線の外側で漏えいした危険物は確認されていない。																	
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																																			
当 事 者	0	0	0	0																																																					
防災活動従事者	0	0	0	0																																																					
第 三 者	0	0	0	0																																																					
												施設等の被害状況： 一般取扱所の配管の一部を破損																																													
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																									
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>自 衛</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>その他</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> </table>												消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油約2,400L流出					
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																
												損害額 1万円未満、 1万円以上 (29 万円)																																													
30 実施した防災活動の状況																																																									
公設消防機関：番号 ()												自衛防災・消防組織等 番号 ()																																													
31 防災活動上の問題点																																																									
32	施 設 名									33 定期点検等				消 防 法				そ の 他																																							
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検				令和4年 4月 5日				年 月 日																																						
		改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等				令和2年 4月 2日				年 月 日																																						
		停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査				年 月 日				年 月 日																																						
	関係条項									34 当該施設に係る法令違反の有無				有・ 無				内容：																																							
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																																			
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭																																																			
35 今後の対策や所見		・消費量の確認 ・施設の定期的な点検及び漏油等による危険物の拡散防止 立入検査時や防火指導時において、事故等の未然の防止及び発生時の対処について、危険物取扱者を中心に意識の改革に務める。																																																							

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所に接続したボイラー(少量危険物施設)のサービスタンクのプロートスイッチ故障による灯油の流出							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発生		3月 26日 8時 00分		[推定]・確定		4 発生見		3月 26日 8時 30分	
5 覚知		3月 28日 9時 00分				6 鎮圧 応急処置完了		3月 27日 8時 50分	
7 鎮火・処理完了		3月 31日 15時 00分							
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()							
9 気象状況		天気：雨		風向：東		風速：2.1m/s		気温：9.9℃ 湿度：98.3%	
10 発生事業所		種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル				11 発生場所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 13,700L 13.7倍 倍数の合計：13.7倍 設置の完成：昭和 55年 3月 10日 直近の完成：平成 27年 11月 18日	
12 施設装置						17 物質の区分			
名称：地下タンク 番 号 (1209)						①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
能力：タンク容量13.7kL						5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
13 機器等						温度圧力：			
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107)									
規模：縦:500mm、横:500mm、高:650mm 容量:147L									
14 発生箇所									
名称：容器本体 番 号 (108)									
材質：その他									
15 発生時									
運転状況：受入中 番 号 (9)									
作業状況： 番 号 ()									
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い	
								①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有									
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所からボイラー供給用のサービスタンク(少量危険物施設)へ送油したところ、フロートスイッチ配線の断線によりフロート機能が作動せず、当該サービスタンクより灯油約3,000Lが溢流し、防油堤を超えて施設内へ流出、同室内の排水管を経由して一部河川へ流出したものの。 施設職員が覚知し、送油ポンプを停止した後に室内に流出した灯油約500Lを回収すると共に同施設の所有する調整池へオイルフェンスを設置し、河川への流出防止を図るが一部河川へ流出(流出量は不明)したものの。									
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他									

原因	25 主 原 因 故障						着火原因				番号 ()																																								
	関 連 原 因 監視不十分																																																		
	発生原因の状況： フロートスイッチの不具合により人的操作による受油操作を行っていたが、監視を怠ったことにより溢流及び流出が拡大したものの。																																																		
	主原因の詳細																																																		
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																									
	故障			機能			機器の機能の停止																																												
	関連原因の詳細																																																		
	設備			監視・保守			点検・整備			異常事態の放置																																									
因																																																			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																			
27 人 的 被 害								28 物的被害																																											
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 施設サービスタンクより溢流した灯油が防油堤を超え、建屋内排水から敷地内調整池へ至り一部河川へ流出した。流出範囲は消防告知が発災から2日経過しているため詳細は不明だが、敷地境界から概ね30mの位置にオイルフェンスの設置を確認したことから同位置と推定する。															
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																													
当 事 者	0	0	0	0																																															
防災活動従事者	0	0	0	0																																															
第 三 者	0	0	0	0																																															
								施設等の被害状況： サービスタンク設置室内の機器類の汚損																																											
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																			
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>1 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>2 人</td> <td>自 衛</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>その他</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> </table>								消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 約3,000L流出			
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人																																										
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																										
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																										
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																										
								損害額 1万円未満、 1万円以上 (800 万円)																																											
30 実施した防災活動の状況																																																			
公設消防機関：番号 (99) 流出した危険物に対する施設内の措置状況及び、敷地外へ流出した箇所への措置状況等の調査活動。								自衛防災・消防組織等 番号 (5、6) 回収作業、オイルフェンスの展張																																											
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報なし。情報提供なし。																																																			
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法		そ の 他																																										
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	令和 5 年 3 月 26 日		年 月 日																																										
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	令和 4 年 4 月 19 日		年 月 日																																										
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日																																										
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無 内容：																																												
	そ の 他	年 月 日																																																	
		1. 文書 2. 口頭																																																	
35 今後の対策や所見		少量危険物施設に係る点検を定期的に行うとともに、異常がある場合は速やかに改修を行うこと。なお、機器の破損箇所については早急に改修を行うことを指示し、その報告を求める。																																																	

令和5年

1 事故名		地下タンクの配管の腐食劣化による灯油の漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		5月 11日 12時 00分				[推定]・確定		4 発生見		5月 11日 12時 00分			
5 覚知		5月 12日 9時 00分				6 鎮圧 応急処置完了				5月 11日 13時 00分			
7 鎮火・処理完了		7月 7日 9時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：北東 風速：5.6m/s 気温：17℃ 湿度：74.3%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 5,700L 5.7倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 41年 10月 15日 直近の完成：令和 5年 7月 7日											
名称：地下タンク 番号 (1209)													
能力：													
13 機器等		温度圧力：											
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)		倍数の合計：5.7倍											
規模：タンク容量5,700L													
14 発生箇所													
名称：その他の附属配管等 番号 (299)		17 物質の区分											
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：貯蔵・保管中 番号 (7)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
作業状況：点検中 番号 (5)													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 地下タンクの吸引管(埋設)からの灯油の漏えい。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 不明							
	発生原因の状況： 昭和41年に許可を得ている施設で、電気防食を施しているが、長期間にわたる使用で腐食劣化等によるものとする。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンクの配管からの漏えいのため、被災影響範囲及び拡大状況は不明。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンクの配管からの漏えいのため、被災影響範囲及び拡大状況は不明。	
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油の若干の流出	
公設消防機関：番号 () なし				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和5年5月11日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策や所見		改修工事を実施						

令和5年

1 事故名		地下タンクのオイルギアポンプスイッチ誤操作による重油の流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		7月 20日 10時 00分 推定・ 確定					4 発生見		7月 20日 10時 30分				
5 覚知		7月 20日 13時 51分					6 鎮圧 応急処置完了		7月 20日 15時 00分				
7 鎮火・処理完了		7月 20日 15時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：東北東 風速：2m/s 気温：29.4℃ 湿度：											
10 発生事業所							11 発生場所						
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 金属製品製造業 金属 番号 (2569) 被覆・彫刻業, 熱処理業(ほうろ う鉄器を除く) その他の金属 表面処理業							区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：						
							16 発生施設規制区分等						
							施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 7,200L 3.6倍						
							倍数の合計：3.6倍						
12 施設装置							設置の完成：昭和 48年 11月 17日 直近の完成：平成 25年 10月 7日						
名称：地下タンク 番号 (1209) 能力：7200													
13 機器等													
名称：ポンプ 番号 (501) 規模：オイルギアポンプ													
14 発生箇所							17 物質の区分						
名称：その他 番号 (999) 材質：その他							①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (430L)						
15 発生時							18 取扱者の概要						
運転状況：定常運転中 番号 (1) 作業状況：運転操作中 番号 (1)							経験年数0年						
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要			20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 警備員が冷房用のタワーファンスイッチを起動しようとしたところ、誤ってオイルギアポンプスイッチを手動にしたため、重油約430Lがサービスタンクからオーバーフローし、冷暖房機械室及び敷地内に流出したものである。 また、敷地内の側溝に土嚢を設置し、敷地外への流出防止を試みたが、敷地外の雨水管から少量の危険物流出が確認できた。なお、河川への流出は確認できなかった。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他													

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()																								
	関 連 原 因																												
	発生原因の状況： 警備員が冷房用のタワーファンスイッチを起動しようとしたところ、誤ってオイルギアポンプスイッチを手動にしたため、重油約430Lがサービスタンクからオーバーフローし、冷暖房機械室及び敷地内に流出したものである。																												
	主原因の詳細																												
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層																									
	人	本人の意識	思慮	取り違い																									
	設備	設計	マン・マシンインターフェース	パネル類の操作性が悪い																									
	人	本人の意識	思慮	取り違い																									
	関連原因の詳細																												
	<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																												
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																													
27 人 的 被 害				28 物的被害																									
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重油が敷地外雨水管へ少量流出しているのが確認できた。																					
	当 事 者	0	0	0	0																								
	防災活動従事者	0	0	0	0																								
	第 三 者	0	0	0	0																								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																													
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油 約430L流出。																									
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人																										
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人																										
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人																										
30 実施した防災活動の状況																													
公設消防機関：番号 (99) 現状確認のため出向したが、既に事業所従業員により油の吸着処理及び流出防止が行われていたため、防災活動はしていない。				自衛防災・消防組織等 番号 (4, 3) オイルギアポンプを停止させ、吸着マット及び吸引機で応急措置を実施した。 また、敷地内の側溝に土嚢を設置し、敷地外への流出防止を試みた。																									
31 防災活動上の問題点 事故発生から、約3時間20分後の通報であり、初動が遅れた。																													
政 策 措 置	32 施 設 名			33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他																							
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 6 月 1 日	年 月 日																							
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日																							
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日																							
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：																								
	そ の 他	年 月 日	年 月 日																										
35 今後の対策 や所見	事故概要を事業所内で共有し、注意喚起を行い再発防止に努め、危険物に係る事故が発生した際は直ちに消防へ通報するよう指導をした。																												

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所において、腐食により送油管に孔が生じ、重油が土中に流出したもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		2月 22日 14時 00分					
5 覚 知		2月 22日 16時 15分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		2月 22日 14時 00分					
7 鎮火・処理完了		2月 22日 14時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北 風速：5.4m/s 気温：3.7℃ 湿度：54%									
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：不動産業 不動産賃貸業・管理 番 号 (6941) 業 不動産管理業 不動産管理 業		11 発 生 場 所		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,000L 2.5倍 倍数の合計：2.5倍 設 置 の 完 成：昭和 63年 2月 1日 直 近 の 完 成：平成 元年 1月 14日					
12 施 設 装 置											
名 称：地下タンク 番 号 (1209) 能 力：5,000L×1											
13 機 器 等 温 度 圧 力：											
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：89.1mm											
14 発 生 箇 所		17 物 質 の 区 分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (1,900L)							
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄											
15 発 生 時											
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		18 取扱者の概要									
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 定期点検により気密異常が判明し、鋼管工事を実施したところ、送油管に孔が発生していたもの。周囲の土壌の成分を分析し重油と同等の成分が検出されたため、重油が流出したものと推定される。液面計が5,000Lから3,100Lに減少しているため、最大1,900Lが土中に流出したものと推定される。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

25

主 原 因

腐食疲労等劣化

着火原因

番号 ()

原

関 連 原 因

発生原因の状況：
腐食により送油管に孔が生じたもの。

主原因の詳細

第Ⅰ層

第Ⅱ層

第Ⅲ層

第Ⅳ層

腐食

環境

多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）

関連原因の詳細

因

26 被害の状況

1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から

27 人 的 被 害

被害内容等

死亡

重症

中等症

軽症

死傷原因

職業又は職名

28 物的被害

被災影響範囲及び拡大の状況：
土中に重油が流出

当 事 者

0

0

0

0

防 災 活 動 従 事 者

0

0

0

0

第 三 者

0

0

0

0

29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況

消 防 機 関

0 台

0 隻

0 機

0 人

自 衛

0 台

0 隻

0 機

0 人

消 防 団

0 台

0 隻

0 機

0 人

共 同

0 台

0 隻

0 機

0 人

海上保安部

0 台

0 隻

0 機

0 人

応 援

0 台

0 隻

0 機

0 人

その他の機関

0 台

0 隻

0 機

0 人

その他

0 台

0 隻

0 機

0 人

物質の被害状況：
重油約1,900L

損害額 1万円未満、1万円以上 (583 万円)

30 実施した防災活動の状況

公設消防機関：番号 ()

自衛防災・消防組織等 番号 ()

31 防災活動上の問題点

着工後に消防署へ相談している。

32 施 設 名

地下タンク貯蔵所

33 定 期 点 検 等

消 防 法

そ の 他

使用停止

年 月 日

年 月 日

改善命令等

年 月 日

年 月 日

停止解除

年 月 日

年 月 日

関係条項

防災安全指導

令和 5 年 2 月 28 日

年 月 日

1. 文書 ②. 口頭

1. 文書 2. 口頭

34 当該施設に係る法令違反の有無

有・無

内容：
譲渡引渡届出未届け、製造所無許可変更、貯蔵取扱基準違反

35 今後の対策や所見

建物管理会社に対し、危険物施設に関して工事を行う際は消防署に相談するよう指導する必要がある。

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所の規制範囲である、ボイラー室内のサービスタンクから重油が流出したもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		7月 21日 21時 00分					
5 覚 知		7月 21日 21時 14分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		7月 21日 22時 39分					
7 鎮火・処理完了		7月 21日 22時 39分									
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：東 風速：3.7m/s 気温：26.4℃ 湿度：69%									
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：医療・福祉 医療業 病院 一般 番 号 (7311) 病院				11 発 生 場 所					
12 施 設 装 置						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：					
						16 発生施設規制区分等					
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 6,800L 3.4倍					
						倍数の合計：3.4倍					
14 発 生 箇 所		名 称：その他の機器等本体 番 号 (199)		材 質：鋼鉄		15 発 生 時					
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		作 業 状 況： 番 号 ()		17 物 質 の 区 分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (1,300L)					
18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所として規制されている、病院の地下1階ボイラー室内のオイルサービスタンクにおいて、フロートセンサーの故障により、サービスタンクから重油がオーバーフローし、重油が約1,300L流出したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

原因	25 主 原 因 故障		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 昭和44年に設置完成しているものであることから、経年による機器の故障と推定する。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	故障	機能	機器の機能の停止					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ボイラー室直下の雑排槽内に重油が流出した。なお、下水道局の調査によると、外部への流出は認められなかった。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油約1,300Lが流出	
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 16 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (100 万円)	
公設消防機関：番号 (4、5) オーバーフローが発生した配管の排出口を木栓及び漏水テープで閉鎖するとともに地下タンクから送油される配管の弁を閉鎖した。また、床面に流出していた重油を油吸着材やバケツ等を活用し、回収除去した。					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点 地下タンクからの送油ポンプを早期に停止することができれば、被害を最小限に留めることができた。								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 6 月 20 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見	地下タンク貯蔵所は現在使用停止中であり、重油及び水が混ざった雑排水は業者により除去された。その後の使用にあって、修繕して使用するか、ガス等に切り替えて使用するかは検討中である。							

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所において埋設配管が穿孔し灯油が流出したもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		3月 13日 15時 30分				推定・ 確定		4 発生見		3月 14日 9時 30分	
5 覚知		3月 14日 12時 05分				6 鎮圧 応急処置完了				3月 14日 20時 00分	
7 鎮火・処理完了		3月 20日 15時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：北東 風速：2m/s 気温：8℃ 湿度：62%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：医療・福祉 社会保険・社会福祉・介護事業 老人福祉・介護事業(訪問介護事業を除く) 特別養護老人ホーム 番号 (7541)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍									
12 施設装置		倍数の合計：3倍 設置の完成：昭和 60年 3月 28日 直近の完成：昭和 60年 3月 28日									
名称：地下タンク 番号 (1209) 能力：3kL											
13 機器等											
温度圧力：											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規模：不明											
14 発生箇所		17 物質の区分									
名称：その他の附属配管等 番号 (299) 材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：定常運転中 番号 (1) 作業状況：点検中 番号 (5)											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： (1)令和5年3月13日(月)15時30分、当該施設職員が地下タンク貯蔵所の日常点検の際、漏えい検査管の検査をしたところ、臭気が確認された。 (2)施設関係者からの依頼により、同日17時00分に調査を実施するも原因が不明であった。そのため、翌日に詳細な調査をすることとなった。 (3)令和5年3月14日(火)8時30分から調査を実施したところ、地下タンクからサービスタンク間の押し上げ配管(地下埋設配管)にピンホールがあることが気密試験により確認された。また、当該ピンホールから、油(灯油)が土壌に漏えい、用水路に流出していることが確認された。 (4)危険物の漏えい、流出量については、在庫管理表を確認するも不明であった。また、油量計の残留変化は見られなかった。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他											

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 点検時の臭気が起点となった状況から、日常使用における配管の腐食や疲労等の劣化によるものと思料される。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人 的 被 害							28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 土壌及び用水路に拡大。流出したと思われる灯油は敷地境界線から50mほどに収まっていた。			
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管にピンホール			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) 灯油 流出量不明
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	2 台	0 隻	0 機	4 人	
損害額 1万円未満、 1万円以上 (50 万円)											
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)							自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和4年 6月 15日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：				
	そ の 他	年 月 日		年 月 日							
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見		・不要配管の撤去 ・油配管の全面見直し、安全確認 ・社員に対する教育の実施 ・事故対応の組織の確立									

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所の埋設配管からの漏えい事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		4月 27日 14時 35分	
5 覚 知		4月 28日 14時 35分		6 鎮 圧 応急処置完了		4月 27日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了		4月 27日 15時 30分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南 風速：4m/s 気温：19℃ 湿度：42%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別	1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)			区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)			
	業 態：教育・学習支援業 その他の教 番 号 (7729) 育, 学習支援業 職業・教育支援 施設 その他の職業・教育支援 施設			特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 8,000L 8倍			
12 施 設 装 置							
名 称：地下タンク		番 号 (1209)					
能 力：第4類第2石油類(灯油)8,000L							
13 機 器 等		温 度 圧 力：					
名 称：配管(送油、注入管等)		番 号 (606)					
規 模：3.2mm炭素鋼管							
14 発 生 箇 所				倍数の合計：8倍			
名 称：その他の機器等本体		番 号 (199)		設 置 の 完 成：昭和 44年 3月 22日 直 近 の 完 成：平成 27年 12月 27日			
材 質：その他				17 物 質 の 区 分			
15 発 生 時				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (0.5L)			
運 転 状 況：停止中		番 号 (5)					
作 業 状 況：		番 号 ()		18 取扱者の概要			
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所から一般取扱所へ接続される配管(埋設部分)から、灯油が若干漏えいしたもの。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 配管埋設部分の被覆材が経年劣化し剥離したため、鋼材が腐食したもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	腐食	防食	防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 埋設配管から漏えいした油が、当該配管付近の土等ににじんだ。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類8(灯油)が0.5L流出	
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (4 万円)	
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 2 月 24 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 5 年 2 月 24 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策や所見		早急な配管の改修工事。 今回漏えいした部分以外の埋設配管も調査を行い、必要に応じて改修するよう指導した。また、改修完了までの日常点検の実施を指導した。						

令和5年

1 事故名		地下タンクからバーナーへのピット配管の腐食による灯油の漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		9月 22日 17時 00分				[推定]・確定		4 発生見		9月 23日 8時 30分			
5 覚知		9月 23日 12時 00分				6 鎮圧 応急処置完了				9月 23日 12時 20分			
7 鎮火・処理完了		9月 23日 12時 20分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：北東 風速：4.5m/s 気温：25℃ 湿度：54%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：農業 農業 耕種農業 米作農業 番号 (111)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 3年 8月 22日 直近の完成：年 月 日 17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (1L) 18 取扱者の概要											
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)													
能力：乾燥機													
13 機器等		温度圧力：											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		倍数の合計：10倍											
規模：直径25A													
14 発生箇所													
名称：その他の附属配管等 番号 (299)													
材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：定常運転中 番号 (1)													
作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 地下貯蔵タンク(灯油10,000L)を、生粳の乾燥させるためのバーナーに送る配管が(25A、配管ピット)腐食等劣化にて穿孔し灯油が流出したもの。 当該配管は、サクシヨン管であり流出量はごくわずかである。 配管ピット内に溜まった水たまりに油膜として浮いている程度。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 地下貯蔵タンクから乾燥機への送油管が腐食し灯油が漏えい。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害							28 物的被害			
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 腐食した送油管から灯油が流出し配管ピット内で留まる		
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 送油管が腐食		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油1L未満が流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
							損害額 1万円未満、 1万円以上 (4 万円)			
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 敷地外への流出の有無の確認(流出なし)、敷地内流出範囲の調査。 漏えい処置は施設職員により実施済み。 サクショ管のため流出量はごくわずか。 配管ピット内に油膜が浮いている程度。						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 配管ピット内に吸着マット敷設及び、河川に流出しないよう土嚢で堰き止め実施。				
31 防災活動上の問題点 発見から消防覚知まで3時間以上掛かっている。										
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年	月	日	年					月
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		応急処置に時間を取られていたとはいえ消防機関への通報は早急にすべきである。								

令和5年

1 事故名		地下タンクの廃止作業中、誤ってタンク内の油分が河川に流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 12日 11時 00分				[推定]・確定		4 発生見		8月 12日 11時 25分			
5 覚知		8月 12日 11時 33分				6 鎮圧 応急処置完了				8月 12日 13時 08分			
7 鎮火・処理完了		8月 17日 10時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西北西 風速：1.9m/s 気温：31.6℃ 湿度：68%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：農業 農業 農業サービス業(園 番号 (131) 芸サービス業を除く) 穀作 サービス業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,900L 4.9倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 55年 12月 3日 直近の完成：平成 3年 2月 13日											
名称：地下タンク 番号 (1209)													
能力：4900													
13 機器等		温度圧力：											
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)		倍数の合計：4.9倍											
規模：内径=1,450mm 全長=3,410mm 4,900L													
14 発生箇所													
名称：ホース(給油、注油及び注入ホースを除く) 番号 (211)		17 物質の区分											
材質：合成樹脂		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：払出中 番号 (10)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無											
作業状況：監視中 番号 (10)													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 地下タンクを廃止するためにタンク内に溜まっていた水の抜き取り作業中に監視を怠り、気づいたときには河川に油分の含んだ水が流出していたもの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因	監視不十分				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因	維持管理不十分、操作確認不十分											
	発生原因の状況：	地下タンク内の抜き取り作業中に他の場所の研修会に出席したため、抜き取り作業をしていることを忘れてしまったもの。											
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層	第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層			
	人	本人の意識				思慮				過信			
	関連原因の詳細												
	環境	社会的環境				雰囲気				安全に対する意識が低い			
因	人	本人の意識				思慮				思い込み			
26 被害の状況	1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人 的 被 害									28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 隣接する用水へ油分の含んだ水が流失					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：					
	第 三 者	0	0	0	0			なし					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) 灯油 流出量は不明			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	10 人				
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
油吸着マットを約10枚使用													
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32 施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	関係条項	消防法11条の5				34 当該施設に係る法令違反の有無				有・無			
	その他	警告				法令違反の有無				内容：			
35 今後の対策や所見	社員教育の徹底												

令和5年

1 事故名		地下タンクのポンプ設備から重油の流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		6月 28日 18時 00分				[推定]・確定		4 発生見		6月 28日 19時 00分			
5 覚知		6月 29日 9時 38分				6 鎮圧 応急処置完了				6月 29日 14時 00分			
7 鎮火・処理完了		6月 29日 19時 10分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：南西 風速：5.4m/s 気温：27.5℃ 湿度：77%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：医療・福祉 医療業 病院 一般 番号 (7311) 病院		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 25,000L 12.5倍											
		倍数の合計： 12.5倍											
12 施設装置		設置の完成： 平成 7年 12月 1日 直近の完成： 年 月 日											
名称： 地下タンク 番号 (1209)		17 物質の区分											
能力： 25,000L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (1,800L)											
13 機器等		温度圧力： 0.1Mpa											
名称： ポンプ 番号 (501)		18 取扱者の概要											
規模： 毎分12.5L		経験年数5年											
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者											
名称： その他 番号 (999)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
材質： 合成樹脂													
15 発生時													
運転状況： 払出中 番号 (10)													
作業状況： 運転操作中 番号 (1)													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 地下タンクから一般取扱所のサービスタンクに送油するために従業員が手でポンプ設備を起動したが、ポンプからサービスタンク間の電磁弁が故障により閉止状態であったため送油されず、配管内の圧力及び油温が上昇し、ポンプ設備給油口(呼び水用)のボルト(樹脂製)が溶融、脱落して重油が噴出したもの。なお、従業員はポンプ起動後、その場を離れている。 送油時のポンプ圧は不明のため「13:機器等」には便宜上0.1Mpaと入力した。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

25	主 原 因 故障					着火原因					番号 ()																																											
原 因	関 連 原 因 監視不十分																																																					
	発生原因の状況： ポンプ設備の起動と連動して開放される電磁弁が故障により作動しなかったため、密閉状態となった配管の圧力及び油温が上昇し、樹脂製のボルトが溶融、脱落して重油が噴出した。																																																					
	主原因の詳細																																																					
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																									
	故障				機能				機器の機能の停止																																													
	関連原因の詳細																																																					
	人				本人の意識				思慮				過信																																									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																						
27 人的被害										28 物的被害																																												
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重油の一部が敷地から約100m離れた河川に流出した。																
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																																
当 事 者	0	0	0	0																																																		
防災活動従事者	0	0	0	0																																																		
第 三 者	0	0	0	0																																																		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										施設等の被害状況： ポンプ室及びバックヤード119㎡汚損																																												
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>3 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>8 人</td> <td>自 衛</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>1 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>7 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>その他</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> </table>										消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	消 防 団	1 台	0 隻	0 機	7 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油約1,800L流出				
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
消 防 団	1 台	0 隻	0 機	7 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
30 実施した防災活動の状況										損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (16 万円)																																												
公設消防機関：番号 (4, 99) 吸着マット等により流出した重油の回収及び拡散防止 流出原因の調査										自衛防災・消防組織等 番号 (5) 建物内に流出した重油の回収																																												
31 防災活動上の問題点 事故発生時に消防機関への通報がされなかった。危険物に関する教育や訓練は行われていなかった。事故発生時、敷地外流出の有無を確認しなかった。																																																						
32 行 政 措 置	施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等				消 防 法				そ の 他																																								
	使用停止	年 月 日				年 月 日				年 月 日				年 月 日																																								
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検				年 月 日																																								
	停止解除	年 月 日				年 月 日				気密試験等				令和4年 5月 27日																																								
	関係条項									保安検査				年 月 日																																								
	その他	警告								34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無																																								
		令和5年 7月 20日				年 月 日				内容： 法 第10条第3項 製造所等における危険物の 貯蔵・取扱いの基準違反																																												
		①. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭																																																
35 今後の対策 や所見		危険物施設の稼働時は危険物取扱者が機器の作動状況を監視するとともに運転・停止状況の確認を徹底する。 災害時の対応マニュアルを作成し、今後、漏えい等の事故が発生した場合は的確に応急措置や通報等を実施する。																																																				

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所において、荷卸し中、通気管よりA重油がオーバーフローした流出事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		11月 21日 13時 05分				[推定]・確定		4 発生見		11月 21日 13時 09分	
5 覚知		11月 21日 18時 30分				6 鎮圧 応急処置完了				11月 21日 21時 45分	
7 鎮火・処理完了		11月 30日 15時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北東 風速：1.2m/s 気温：8.1℃ 湿度：94%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 20,000L 10倍									
12 施設装置		倍数の合計：10倍 設置の完成：平成 9年 8月 18日 直近の完成：平成 10年 10月 6日									
名称：地下タンク 番 号 (1209) 能力：20,000L											
13 機器等											
温度圧力：		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(800L)									
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規模：直径2,100mm、全長7,334mm、容量20,000L											
14 発生箇所											
名称：通気管 番 号 (304) 材質：鋼鉄		18 取扱者の概要 経験年数7年									
15 発生時											
運転状況：荷卸中 番 号 (13) 作業状況：運転操作中 番 号 (1)											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所へ荷卸し中、3階屋上まで伸びていた通気管よりA重油がオーバーフローしたもの。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因		維持管理不十分		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因		監視不十分						
	発生原因の状況：								
	以前から液面計が故障しており、残油量の確認を怠った。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	設備		監視・保守		点検・整備		異常事態の放置		
	因	関連原因の詳細							
設備		監視・保守		点検・整備		整備していない			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人 的 被 害							28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンクから重油800Lが通気口から流出し、400～800Lが施設外の側溝及び河川へ流出した。	
区分									
当 事 者	0	0	0	0					
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性液体)重油800L流出。									
損害額 1万円未満、 1万円以上 (7 万円)									
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (3、6)						自衛防災・消防組織等 番号 (3、6)			
流出した油の回収・吸着作業及び河川流出範囲の調査を県と市職員で行う。						流出防止措置、オイルフェンスの展開			
31 防災活動上の問題点									
行政措置	32 施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 5 月 8 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 5 年 5 月 8 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無				
	そ の 他	始末書・顛末書		内容：					
		令和 5 年 12 月 8 日	年 月 日						
		①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策や所見		荷卸し中液面計の確認及び在庫管理の徹底							

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所の配管で接続された少量危険物(計量器)からの灯油流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		10月 15日 9時 00分				推定・確定		4 発 見		10月 15日 10時 00分			
5 覚 知		10月 15日 16時 52分				6 鎮 圧 応急処置完了				10月 15日 17時 30分			
7 鎮火・処理完了		10月 15日 18時 19分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 北 風速： 2m/s 気温： 15.1℃ 湿度： 82%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 鉄道業 鉄道業 索道業 番 号 (4217)		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,720L 9.72倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計： 9.72倍											
名 称： 番 号 ()													
能 力：													
13 機 器 等		温 度 圧 力：											
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)													
規 模： 直径650mm、高さ1,340mm、最大流量45L													
14 発 生 箇 所		設 置 の 完 成： 昭和 57年 10月 27日 直 近 の 完 成： 昭和 57年 12月 8日											
名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908)		17 物 質 の 区 分											
材 質： ゴム		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (2,000L)											
15 発 生 時		18 取扱者の概要											
運 転 状 況： その他 番 号 (99)													
作 業 状 況： その他 番 号 (99)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所の配管で接続された少量危険物施設で、灯油を小分けにする計量器から灯油が漏えいした事故。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 施盤加工機械の電源を入れようとしたところ、間違えて計量器の電源を入れてしまい計量器が作動する。計量器ホース先端に給油ノズルが接続されていない状態であったため灯油が漏えいしたものの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	思慮	取り違い				
	関連原因の詳細							
因								
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 土壌へ浸透(河川への流出なし)
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 2,000L流出	
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (2 万円)	
公設消防機関：番号 (4) オイルマット40枚を漏えい箇所へ設置					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年11月29日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和4年11月29日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有 ・無 内容： 標識、掲示板の未設置、記載内容の不備、流出防止対策「高い」未実施、配管無許可変更、静電気除去装置の不備、消火設備の維持管理(未設置)			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭						
	35 今後の対策 や所見		流出防止対策「高い」及び配管無許可変更の早期是正指導。					

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所の埋設配管が老朽化により漏えい事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		11月 30日 0時 00分				推定・確定		4 発生見		12月 3日 7時 00分	
5 覚知		12月 3日 7時 38分				6 鎮圧 応急処置完了				12月 3日 8時 50分	
7 鎮火・処理完了		12月 6日 10時 00分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南南西 風速：0.9m/s 気温：-3.3℃ 湿度：96.9%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：サービス業(他に分類されない番号(8441)もの) 娯楽業 スポーツ施設提供業 スポーツ施設提供業(別掲を除く)		区分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 30,000L 15倍									
12 施設装置		設置の完成：昭和63年 9月 8日 直近の完成：昭和63年 11月 21日									
名称：地下タンク 番号(1209) 能力：30,000L											
13 機器等		温度圧力：									
名称：配管(送油、注入管等) 番号(606) 規模：直径32mm配管		倍数の合計：15倍									
14 発生箇所		17 物質の区分									
名称：その他の附属配管等 番号(299) 材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(120L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：定常運転中 番号(1) 作業状況：運転操作中 番号(1)											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 3日前から危険物施設周辺の湿地帯周囲のホテル従業員から、油臭がすると通報を受けた危険物施設従業員が確認したところ油が浮いているの発見し消防に通報したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号(1) 無 装置の緊急停止											

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()		
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 埋設配管の劣化。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンクの配管から120L漏えいし、流出範囲は隣接する 湿地帯への流出したが、敷地境界線100m以内に収まっている。					
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 埋設配管の劣化					
防災活動従事者		0	0	0	0								
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 第4類 第3石油類 重油 120L流出					
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻					0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻					0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻					0 機	0 人
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (1 万円)		
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (4) 吸着マットの設置							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点													
政 策 措 置	32 施 設 名	地下タンク貯蔵所				33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 10 月 19 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和 5 年 10 月 19 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保 安 検 査		年 月 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：					
	そ の 他	令和 5 年 12 月 3 日 1. 文書 ②. 口頭		年 月 日 1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見		令和5年12月9日 変更許可申請し配管工事実施。											

令和5年

1 事 故 名		地下タンク貯蔵所への荷卸し中に発生した危険物流出事故									
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		12月 28日 9時 40分				推定・ 確定		4 発 見		12月 28日 9時 40分	
5 覚 知		12月 28日 11時 06分				6 鎮 圧 応急処置完了				12月 28日 11時 23分	
7 鎮火・処理完了		12月 28日 11時 23分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 南西 風速： 0.4m/s 気温： -0.6℃ 湿度： 88%									
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されない 番 号 (8441) もの) 娯楽業 スポーツ施設提 供業 スポーツ施設提供業(別 掲を除く)				11 発 生 場 所		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 30,000L 30倍 倍数の合計： 30倍 設 置 の 完 成： 昭和 58年 11月 15日 直 近 の 完 成： 昭和 63年 11月 22日			
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分					
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)						①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス					
能 力：						5. 毒物 6. 劇物 7. その他					
13 機 器 等						温度圧力：					
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)		模 式： 容量30,000L									
14 発 生 箇 所		名 称： 通気管 番 号 (304)				材 質： 鋼鉄					
15 発 生 時		運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13)				作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)					
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 地下タンク貯蔵所に灯油を注入するため、移動タンク貯蔵所から荷卸し中に通気管からオーバーフロー(漏油)したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 故障		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 地下タンク貯蔵所の液面指示計が実際の貯蔵量より少ない量を表示しており、液面系の誤表示に気付かないまま、地下タンク貯蔵所の内容積を超えて灯油を注入したため、通気管からオーバーフロー(漏えい)。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	故障	機能	機器の異常動作					
	関連原因の詳細							
因								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 建物地下通路へ流出
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類 第2石油類 灯油 100L流出	
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 () 被害なし					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点 発生してから1時間以上経過してからの通報。								
行政措置	32 施設名	地下タンク貯蔵所		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 10 月 19 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 5 年 10 月 19 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	令和 5 年 12 月 28 日 1. 文書 ②. 口頭	年 月 日 1. 文書 2. 口頭					
35	液面指示計の改修							
今後の対策 や所見								

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所へ重油の荷卸し作業を行った際に発生した重油の漏えい事故							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発生		4月 8日 14時 30分		推定・確定		4 発生見		4月 8日 14時 30分	
5 覚知		4月 8日 17時 20分		6 鎮圧 応急処置完了		4月 8日 21時 00分			
7 鎮火・処理完了		4月 12日 14時 30分							
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()							
9 気象状況		天気：雨		風向：北		風速：5m/s		気温：9℃ 湿度：60.2%	
10 発生事業所		種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：サービス業(他に分類されない番号(8441)もの) 娯楽業 スポーツ施設提供業 スポーツ施設提供業(別掲を除く)				11 発生場所		区分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 12,160L 6.08倍 倍数の合計：6.08倍 設置の完成：平成16年 5月 20日 直近の完成：平成16年 10月 14日	
12 施設装置						17 物質の区分			
名称：地下タンク 番号(1209)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
能力：12,160L						5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
13 機器等						温度圧力：			
名称：貯槽(タンク) 番号(107)		18 取扱者の概要							
規模：全長5,570mm、内径1,800mm、容量12,160L		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
14 発生箇所		名称：電動機 番号(401)		22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル有			
材質：鋳鉄		20 危険物保安監督者		23 事故の概要：		地下タンク貯蔵所において、移動タンク貯蔵所からの荷卸し作業をした際に、重油が機械室内のポンプ付近より漏えいし溢れた重油が付近の河川に漏えいした。			
15 発生時		運転状況：定常運転中 番号(1)		24 緊急処置の状況		有 番号(1) 無			
作業状況：運転操作中 番号(1)				装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 地下タンク貯蔵所の許容範囲を超えた量を荷卸ししたことにより発生した。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害							28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重油が事業所側溝から河川に流れ込み1kmにわたり拡散した。
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 重油ポンプ1機
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	3 台 0 隻 0 機 9 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油 200L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	2 台 0 隻 0 機 4 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (2 万円)
公設消防機関：番号 (4、5、6) 漏えい箇所の特定及び漏えい防止措置の実施							自衛防災・消防組織等 番号 ()	
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施 設 名	地下タンク貯蔵所				33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	令和 5 年 4 月 8 日		年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保 安 検 査	令和 5 年 4 月 8 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日		年 月 日			令和 5 年 3 月 29 日	年 月 日
	停止解除	令和 5 年 4 月 12 日		年 月 日			年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第16条の3第3項・第4項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 消防法第13条第3項 資格外危険物の取扱い	
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策 や所見		タンク直上に設置された液面計の確認の徹底。						

令和5年

1 事故名		地下タンクからボイラーへの埋設配管の腐食による重油の流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		10月 6日 11時 30分				[推定]・確定		4 発生見		10月 6日 11時 30分			
5 覚知		10月 6日 13時 43分				6 鎮圧 応急処置完了				10月 6日 15時 54分			
7 鎮火・処理完了		10月 25日 10時 46分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西北西 風速：5.8m/s 気温：20.2℃ 湿度：64%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番号 (7211) ホテル 旅館；ホテル		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 15,000L 7.5倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 4年 4月 27日 直近の完成：年 月 日 倍数の合計：7.5倍											
名称：地下タンク 番号 (1209) 能力：15,000L													
13 機器等													
温度圧力：		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (0.5L)											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規模：直径25mm													
14 発生箇所													
名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201) 材質：鋼鉄		18 取扱者の概要 経験年数13年											
15 発生時													
運転状況：その他 番号 (99) 作業状況：点検中 番号 (5)													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 埋設配管漏えい検査実施中、配管からの漏れを確認した。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因		維持管理不十分							
	発生原因の状況：		当該地下タンク貯蔵所の配管は、埋設配管であることから、年に1回の定期点検(漏えい検査含む)を要するが、ここ10年程実施されていない状況であったが、事故発生日である令和5年10月6日に業者による漏えい検査実施中に、圧力保持ができないことから配管を確認したところ、滞水しているピット部分に重油が浮いている状況であることから詳細な場所は特定できないが、当該部分付近の配管に腐食による微小の穴が開いているものと推定する。							
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
	設備		監視・保守		点検・整備		点検していない/不足			
	管理		リスクアセスメント		事故調査		過去の教訓が生かされない			
因										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害							28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管ピット内のみ		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 腐食により、配管1本に微小の穴が開いている		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 重油 0.5L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4、5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
流出防止、回収作業										
31 防災活動上の問題点										
事故原因者は発生から2時間後に通報した。										
行政措置	32 施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 5 年 10 月 13 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	平成 25 年 9 月 18 日	年 月 日		
	停止解除	令和 5 年 10 月 25 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の2第1項・第2項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 法第14条の3の2 点検記録の作成及び保存の義務違反			
	そ の 他	製造所等の使用停止命令		年 月 日						
		①. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		配管からの漏油の事実があるにもかかわらずポンプを起動したことにより、使用停止命令をした事案で、悪質な違反として取扱い、関係機関と連携し、所有者へ指導。重大さを認識させ、法令遵守を約束させた。定期点検の重要性を再認識し、査察や講習等の機会で本事例を紹介し、再発防止に努める。								

令和5年

1 事 故 名		ウイングポンプ摺動部(地下タンク貯蔵所規制)のボルト締付不足に伴うA重油漏えい										
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()										
3 発 生		5月 22日 9時 40分 推定・ 確定					4 発 見		5月 22日 9時 40分			
5 覚 知		5月 22日 9時 45分					6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		5月 22日 12時 30分			
7 鎮火・処理完了		5月 22日 15時 00分										
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()										
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：西 風速：1.4m/s 気温：25.5℃ 湿度：50.8%										
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 水 番 号 (3631) 道業 下水道業 下水道処理施 設維持管理業					11 発 生 場 所					
12 施 設 装 置							区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：					
							16 発生施設規制区分等					
							施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 21,000L 10.5倍					
							倍数の合計： 10.5倍					
13 機 器 等		温 度 圧 力：					設置の完成： 昭和 50年 3月 12日 直近の完成： 平成 22年 4月 30日					
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)		14 発 生 箇 所					17 物 質 の 区 分					
能 力： 21,000L							①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(17L)					
13 機 器 等												18 取扱者の概要
名 称： その他 番 号 (999)		15 発 生 時					19 危険物保安統括管理者		20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い	
規 模： 全長(レバー除く):247mm 質量:7.1kg		運 転 状 況： 試運転中 番 号 (14)					①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		2. 選任無		①. 有 2. 無	
材 質： 鋳鉄		作 業 状 況： 番 号 ()										
15 発 生 時												
運 転 状 況： 試運転中 番 号 (14)												
作 業 状 況： 番 号 ()												
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い	
22 設備・機器等の概要：												
オンラインファイル有												
23 事 故 の 概 要：												
地下タンク貯蔵所の自主点検時にポンプの試運転を実施したところ、構成機器の一部であるウイングポンプ(手動レバー接続部)から油漏れを確認したもの。※被害範囲については防油堤内及び付近の地表面。												
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他												

25	主 原 因 施工不良					着火原因					番号 ()																																											
	関 連 原 因 腐食疲労等劣化																																																					
	発生原因の状況： 地下タンク貯蔵所の自主点検時にポンプの試運転を実施したところ、構成機器の一部であるウイングポンプ(手動レバー接続部)から油漏れを確認したもの。油漏れした原因については摺動部の締め付け不足であるもの。																																																					
	主原因の詳細																																																					
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																									
	施工不良				施工				取り付け不良																																													
	関連原因の詳細																																																					
	疲労・劣化				素材等の劣化				その他																																													
因																																																						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																						
27 人的被害										28 物的被害																																												
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 燃料移送ポンプ(屋外設置)防油堤内及びその周辺の地盤面へ流出																
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																																
当 事 者	0	0	0	0																																																		
防災活動従事者	0	0	0	0																																																		
第 三 者	0	0	0	0																																																		
										施設等の被害状況： 施設等への損害はなし																																												
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																						
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>1 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>5 人</td> <td>自 衛</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>その他</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> </table>										消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:2,000 第3石油類 A重油 17L流出				
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
										損害額 [1万円未満]、1万円以上 (万円)																																												
30 実施した防災活動の状況																																																						
公設消防機関：番号 ()										自衛防災・消防組織等 番号 ()																																												
31 防災活動上の問題点																																																						
32	施 設 名									33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他																																								
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検		年 月 日		年 月 日																																								
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等		年 月 日		年 月 日																																								
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保 安 検 査		年 月 日		年 月 日																																								
	関係条項									34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無 内容：																																										
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																																
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭																																																
35 今後の対策や所見		日常点検での更なる点検強化。老朽部分の確認を行い必要な部分は取替えを行うもの。																																																				

令和5年

1 事故名		屋上発電機サービスタンクから地下タンク貯蔵所への重油誤送油によりオーバーフローし、通気管等から漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		5月 23日 11時 30分				推定・ 確定		4 発生見		5月 23日 11時 30分	
5 覚知		5月 23日 11時 49分				6 鎮圧 応急処置完了		5月 23日 13時 34分			
7 鎮火・処理完了		5月 23日 13時 34分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：北北東 風速：4m/s 気温：20℃ 湿度：54%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 製造業 食料品製造業 パン・菓 番 号 (973) 子製造業 ビスケット類・干菓 子製造業		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,000L 1.5倍									
		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (470L)									
12 施設装置		14 発生箇所									
名称： 地下タンク 番 号 (1209)		設置の完成： 令和 元年 5月 10日 直近の完成： 年 月 日									
能力： 3,000L		18 取扱者の概要									
13 機器等		温度圧力：									
名称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)		1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ③. 不要 ②. 無									
規模： 少量危険物重油サービスタンク1,950L		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無									
14 発生箇所		23 事故の概要： 自家発電設備の定期点検を行っていた業者が、令和5年5月23日(火)10時30分頃、屋上重油サービスタンク(1950L)のドレン抜き点検のため、サービスタンク下のドレン管バルブ2か所(上部元バルブ及び下部点検用バルブ)を開にし、10秒程のドレン抜き点検後、ドレン管バルブ2か所を閉とするところを下部バルブの1か所のみ閉としたこと及び本来、常時閉であるはずの返油管バルブ(中央部返油バルブ)が開となっていたことにより、地下タンクへ返油開始となった。11時30分頃、返油管フランジから重油が噴き出しており、同時刻頃に地下タンクの通気管からも重油が噴き出していた。応急処置としてフランジボルトの緩みをメガネレンチで増し締めし、上部バルブを閉にした。また、吸着マットやウエス等にて重油の回収及び流出防止措置をとり、事業所警備室より119通報した。									
15 発生時		24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他									
運転状況： その他 番 号 (99)											
作業状況： 点検中 番 号 (5)											

25	主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()	
原 因	関 連 原 因		維持管理不十分					
	発生原因の状況：							
	ドレン抜き点検後、サービスタンク下部のドレン管バルブ2カ所(上部元バルブ及び下部点検用バルブ)を閉にするところを、下部バルブ1カ所のみしか閉にしていなかった。また、本来、常時閉であるはずの返油管バルブ(中央部返油バルブ)も開となっていた。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		思い込み	
	関連原因の詳細							
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足	
因								
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27	人 的 被 害						28 物的被害	
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 事業所内流出
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 事業所内
	第 三 者	0	0	0	0			
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	5 台 0 隻 0 機 15 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類 第3石油類(非水溶性) 重油 約470L漏えい				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30	実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()		
・パーライトによる吸着作業実施。 ・屋上サービスタンク下の返油管バルブ(中央部返油バルブ)の閉止。								
31	防災活動上の問題点							
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
		改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
		停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：	
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日				
35	今後の対策 や所見	再発防止策として ・屋上小出槽下部の各バルブに常時閉表示を設置 ・発電機点検時の手順として「返油管バルブ」が閉であることを事前確認することを手順書に追加 ・発電機点検時の手順として「ドレン管バルブ」の開閉作業項目を手順書に追加 ・重油配管のフランジ部分の増し締めを確認の上、マーキングを実施 ・返油管及び給油管の気密試験を実施 ・フランジ箇所を定期的(1か月に1回程度、設備管理会社巡回時)に現地マーキングにずれ(緩み)が無いかを点検・確認する						

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所の地下埋設配管から重油が流出したもの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		2月 19日 11時 00分	
5 覚 知		2月 24日 17時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了		2月 27日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了		2月 28日 15時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：西		風速：2m/s 気温： 湿度：	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：	1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)		区 分：		①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
	業 態：サービス業(他に分類されない 番 号 (8452) もの) 娯楽業 公園, 遊園地 遊 園地(テーマパークを除く)		特別防災地区名：				
			16 発生施設規制区分等				
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他			
				貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所		施設別：地下タンク貯蔵所	
				類・品名・名称・数量・倍数：			
				第4類第3石油類(非水溶性液体)		重油 20,000L 10倍	
12 施 設 装 置							
名 称：		地下タンク		番 号 (1209)			
能 力：		20kL					
13 機 器 等		温 度 圧 力：					
名 称：		貯槽(タンク)		番 号 (107)			
規 模：		胴長7,254mm 内径1,900mm 鏡板369mm 容量20,000L					
14 発 生 箇 所				設 置 の 完 成：		平成 13年 2月 21日	
名 称：		その他の附属配管等		直 近 の 完 成：		平成 25年 5月 29日	
材 質：		鋼鉄		17 物 質 の 区 分			
15 発 生 時				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
運 転 状 況：		定常運転中		5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
作 業 状 況：				(固相、液相、気相) (常圧、加圧)			
		番 号 (1)		(低温、常温 [0-40℃]、高温)			
		番 号 ()		分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(200L)			
				18 取扱者の概要			
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 空調の燃料として重油を使用している事業所で施設職員が施設内を巡回していた際に、アスファルト上の油膜及び石油臭を確認した。ただちに、地下タンクからの送油を中止し、吸着マットで油膜の除去を実施。施設外への流出なし。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()															
	関 連 原 因 施工不良																								
	発生原因の状況： 危険物を送油する地下埋設配管を敷設後、埋設の水道管の工事を実施。その工事の際に、誤って危険物が通る地下埋設配管を傷つけた。傷つけた地下埋設配管部分が経年劣化と共に腐食し、流出に至ったもの。																								
	主要原因の詳細																								
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層															
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）																		
	関連原因の詳細																								
	施工不良			施工時の損傷			施工時に設備等を損傷したのに気付かず使用																		
	因																								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																									
27 人 的 被 害								28 物的被害																	
<table><tr><td>被害内容等</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は職名</td></tr><tr><td>区分</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>								被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							被災影響範囲及び拡大の状況： 地下埋設配管の地盤面約10㎡にわたり流出。地盤面下は、深さ1m、6㎡わたり重油が流出した。			
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																			
区分																									
当 事 者	0	0	0	0																					
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0																					
第 三 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 危険物が通る地下埋設配管が腐食し、危険物が流出した。																		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																									
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油約200Lの流出。 土砂約6㎡。(重油が混ざったため)															
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (429 万円)															
30 実施した防災活動の状況																									
公設消防機関：番号 ()								自衛防災・消防組織等 番号 ()																	
31 防災活動上の問題点																									
行政措置	32	施設名				33	定期点検等	消 防 法	そ の 他																
	行	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 4 年 11 月 2 日	年 月 日																	
		改善命令等	年 月 日	年 月 日			気密試験等	令和 4 年 11 月 2 日	年 月 日																
		停止解除	年 月 日	年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日																
	措	関係条項				34	当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無 内容：																	
		そ の 他	年 月 日	年 月 日																					
置		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭																						
35		今後の対策や所見 今後、当該施設の危険物施設に係る土木工事を行う際は、慎重に工事をし、地下埋設配管を傷つけないよう、施設管理者及び危険物取扱者が責任をもって工事の監督をすることを指導する。																							

1 事 故 名		地下タンク貯蔵所埋設配管の漏れが起因した河川への危険物流出事故							
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発 生		2月 26日 12時 00分		[推定]・確定		4 発 見		2月 26日 13時 00分	
5 覚 知		2月 26日 13時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了		2月 26日 18時 00分			
7 鎮火・処理完了		3月 22日 12時 00分							
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()							
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 無風状態 風速： 0m/s 気温： 7.2℃ 湿度： 69%							
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館； 番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル		11 発 生 場 所		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 16,000L 8倍 倍数の合計： 8倍 設 置 の 完 成： 平成 元年 3月 15日 直 近 の 完 成： 年 月 日 17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油 18 取扱者の概要			
12 施 設 装 置									
名 称： 地下タンク 番 号 (1209) 能 力： A重油 16,000L									
13 機 器 等									
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模： A重油 16,000L									
14 発 生 箇 所		15 発 生 時							
名 称： 管継手(ダクトを含む) 番 号 (201) 材 質： 鋼鉄		運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)							
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：		①. 有 2. 無							
23 事 故 の 概 要：		地下タンク貯蔵所埋設配管の漏れが起因した河川への危険物流出事故。 地中に漏れた危険物が雨水等を排水する設備(ためます)に何らかの原因で浸入し、配管を通じて河川へ流出したもの。							
24 緊急処置の状況		有 番号 () [無]							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化						着火原因						番号 ()																													
	関 連 原 因																																									
	発生原因の状況： 加圧試験による調査の結果、埋設配管からの漏れが判明。																																									
	主原因の詳細																																									
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層				第Ⅳ層																															
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）																																			
	関連原因の詳細																																									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																										
27 人 的 被 害										28 物的被害																																
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防 災 活 動 従 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 漏れた油の河川流出程度は、ごく少量の油膜が数分おきに確認できる程度であり、拡散防止対策を講じたことにより具体的な被害は発生せず。 敷地境界線から10m付近に拡散防止措置実施。				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																				
当 事 者	0	0	0	0																																						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0																																						
第 三 者	0	0	0	0																																						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										物質の被害状況： 第4類第3石油類(重油)流出量については不明。																																
消 防 機 関 2 台 0 隻 0 機 5 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人										損害額 1万円未満、 1万円以上 (400 万円)																																
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																										
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																										
その他の機関 0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 2 台 0 隻 0 機 3 人																																										
30 実施した防災活動の状況																																										
公設消防機関：番号 (4, 99) 油の流出元特定に係る活動										自衛防災・消防組織等 番号 ()																																
31 防災活動上の問題点																																										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他																														
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				令和 4 年 12 月 13 日		年 月 日																														
	改善命令等	年 月 日				気密試験等				令和 4 年 12 月 13 日		年 月 日																														
	停止解除	年 月 日				保 安 検 査				年 月 日		年 月 日																														
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・ 無 内容：																																
	そ の 他	年 月 日				1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭																																
35 今後の対策 や所見		漏れが判明した配管については、抜油し使用停止。 汚染された土壌については、早急に撤去すること及び油が浸入した排水管に洗浄し、これ以上河川へ油が流出しない対策を講じることを施設責任者から確認。																																								

令和5年

1 事 故 名		地下タンクからボイラーへの地上配管の腐食による重油の流出											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		5月 1日 0時 00分				[推定]・確定		4 発 見		1月 6日 10時 40分			
5 覚 知		1月 6日 10時 42分				6 鎮 圧 応急処置完了				1月 10日 18時 00分			
7 鎮火・処理完了		1月 10日 22時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北 風速：2m/s 気温：8℃ 湿度：57%											
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル				11 発 生 場 所		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 20,000L 10倍 倍数の合計： 10倍 設 置 の 完 成： 平成 4年 6月 8日 直 近 の 完 成： 平成 4年 6月 8日					
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (13,860L)							
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)													
能 力： 容量(20kL)													
13 機 器 等 温 度 圧 力：													
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		18 取扱者の概要		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無					
規 模： 48.6mm SGP配管													
14 発 生 箇 所													
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)													
材 質： 鋼鉄		19 危険物保安 統括管理者		20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無					
15 発 生 時													
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)													
作 業 状 況： 番 号 ()													
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要：		近隣住民から河川に油膜が浮いており、異臭がするとの駆付通報により調査した。ホテル東側の窪池に重油がたまっていたため、ホテル内の配管点検を行ったところ、漏えいが発見された。該当配管は、地下タンクからギアポンプ間の吸上げ地上SGP配管であり、土砂に埋もれ腐食したことによるピンホールから重油が13,860L漏えいしたものと判明する。ただちに地下タンクの使用を停止し、腐食配管の交換を実施し漏えいは停止する。なお、窪地及び河川への流出は吸着マットを使用し、応急処置を実施した。											
24 緊急処置の状況		[有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()															
	関 連 原 因	維持管理不十分																							
	発生原因の状況：																								
	地下タンクからギアポンプ間の吸上げ地上配管が、土砂に埋もれ腐食したことによるピンホールから敷地内及び敷地外の窪地及び河川へ重油が漏えいした。2022年5月頃から燃料消費量が増えていたが問題視していなかった。また、定期点検を実施していたが、土砂や落ち葉等に埋もれ腐食していた状態に気付かず放置していた。																								
	主原因の詳細																								
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層															
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）																		
	関連原因の詳細																								
	設備	監視・保守			点検・整備			異常事態の放置																	
設備	監視・保守			点検・整備			点検内容が不適切																		
26 被害の状況													1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害													28 物的被害												
被害内容等													被災影響範囲及び拡大の状況：												
区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名								地下タンク貯蔵所の地上配管から流出した重油が地中へ浸透し、地中を經由して隣接する貯水池に流れ込んだ。その後、貯水池から河川に流れ込み、海上まで約900mにわたり拡散した。											
当 事 者	0	0	0	0																					
防災活動従事者	0	0	0	0										施設等の被害状況：											
第 三 者	0	0	0	0										SGP配管(48.6mm)の腐食。 腐食による貫通部の直径は1mm。											
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													物質の被害状況：												
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人								第4類第3石油類(非水溶性) 重油 13,860L流出								
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人								損害額 1万円未満、 1万円以上 (115 万円)								
30 実施した防災活動の状況																									
公設消防機関：番号 (4)													自衛防災・消防組織等 番号 (4)												
貯水池及び河川への油吸着マットの設置													流出防止措置												
31 防災活動上の問題点																									
行政措置	32 施設名									33 定期点検等				消 防 法				そ の 他							
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検				年 月 日				年 月 日							
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等				令和4年4月22日				年 月 日							
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査				年 月 日				年 月 日							
	関係条項									34 当該施設に係る法令違反の有無				有・ 無				内容：							
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																			
35 今後の対策や所見													購入量と利用者数との比較を定期的に行い異常の早期発見を行う。 配管の目視点検と頻度を上げ月1回とする。 今後、管内の他の事業所に対して、配管の維持管理について指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。												

令和5年

1 事故名		埋設配管の亀裂により重油が地中に流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		8月 9日 18時 00分	
5 覚 知		8月 10日 11時 45分		6 鎮 圧 応急処置完了		8月 9日 19時 00分	
7 鎮火・処理完了		8月 12日 16時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：東 風速：2m/s 気温：30.9℃ 湿度：					
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：医療・福祉 医療業 病院 精神 番 号 (7312) 病院				11 発 生 場 所	
12 施 設 装 置						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,000L 2.5倍	
						倍数の合計：2.5倍	
13 機 器 等		温度圧力：		設置の完成：昭和58年 9月 16日 直近の完成：昭和58年 9月 16日			
名 称：地下タンク 番 号 (1209)		17 物 質 の 区 分					
能 力：5kL		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (20L)					
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要					
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					
材 質：鋳鉄		20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無			
15 発 生 時							
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)							
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)							
22 設備・機器等の概要：							
オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要：							
埋設配管の亀裂により重油が地中に流出。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無							
装置の緊急停止							

令和5年

1 事 故 名		地下タンク貯蔵所危険物配管ピット内における油漏えい事故							
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		12月 5日 11時 55分			
5 覚 知		12月 5日 11時 55分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		12月 7日 15時 00分			
7 鎮火・処理完了		12月 7日 15時 00分							
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (立入検査時)							
9 気 象 状 況		天気： 風向： 東 風速： 0.7m/s 気温： 12℃ 湿度： 96%							
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3313) 気業 電気業 電気事業所(本社,営業所等)				11 発 生 場 所		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,000L 4倍 倍数の合計： 4倍 設 置 の 完 成： 昭和 46年 10月 26日 直 近 の 完 成： 昭和 47年 4月 26日	
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分			
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
能 力： 容量4,000L						5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
13 機 器 等						温度圧力：			
名 称： その他 番 号 (999)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)							
規 模： 配管径40mm		(低温、常温 [0-40℃]、高温)							
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い ①. 有 2. 無					
名 称： その他 番 号 (999)		1. 選任有 2. 選任無							
材 質： コンクリート		20 危険物 保安監督者 ③. 不要							
15 発 生 時		19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要							
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)									
作 業 状 況： 番 号 ()									
22 設備・機器等の概要：		23 事 故 の 概 要：							
オンラインファイル無		立入検査時に危険物施設を巡視する中で、屋外配管ピットの縞板蓋を移動して危険物配管の様子を確認した際、ピット内に油臭のした沈殿物と液体が滞留していることを確認。液体は危険物であることを疑い、燃焼実験を実施したところ、危険物であることが判明したものの。滞留した原因は不明。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無									

原因	25 主 原 因 不明	着火原因				番号 ()		
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 発生原因不明。令和5年9月に実施された地下タンクの漏れ点検結果は良好。地下タンクへの荷卸しについても、危険物施設職員立ち会いの下で行われている。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害						28 物的被害		
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 被害なし
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 軽油	
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況							損害額 [1万円未満]、1万円以上 (万円)	
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名	地下タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 5 年 9 月 15 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	令和 5 年 9 月 15 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日		内容：			
35 今後の対策や所見								
・油溜まりの原因が不明であることから、頻繁に確認作業を行うよう指導								

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所の配管からの危険物漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		7月 27日 10時 30分				[推定]・確定		4 発生見		7月 27日 10時 30分			
5 覚知		7月 27日 12時 13分				6 鎮圧 応急処置完了				7月 27日 12時 10分			
7 鎮火・処理完了		7月 27日 12時 14分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：快晴 風向：西南西 風速：4.4m/s 気温：31.1℃ 湿度：73.9%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 電番号 (3311) 気業 電気業 発電所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 411,400L 205.7倍											
12 施設装置		設置の完成：令和元年 11月 29日 直近の完成：令和元年 11月 29日											
名称：地下タンク 番号 (1209)													
能力：411,400L													
13 機器等		温度圧力：											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		倍数の合計：205.7倍											
規模：直径4,600mm、全長13,824mm、容量205,700L													
14 発生箇所													
名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201)		17 物質の区分											
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温][0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(30L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：停止中 番号 (5)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
作業状況：点検中 番号 (5)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 地下タンク2基(1つの許可)で非常用発電機の燃料を貯蔵しており、今回漏えいがあったのは予備側の地下タンクからの油配管で毎日点検を行っていた、漏えい当日も点検中にフランジ部分からの漏えいを従業員が発見したもの。前日の点検は異常なし。重油はマンホール内に滞油し、量は30L程度。漏えい箇所はマンホール内に限定されており、施設外の漏えいなし。死傷者、負傷者ともになし。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原 因	25 主 原 因	施工不良					着火原因					番号 ()				
	関 連 原 因 不明															
	発生原因の状況： フランジ箇所を増し締めすることで油漏れは改善された。漏えい当日ガスケットの交換を行う。															
	主原因の詳細															
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層						
	施工不良			施工			ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）									
	関連原因の詳細															
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																
27 人 的 被 害										28 物的被害						
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンクの配管から重油約30Lが漏えいしたが、マンホール内に留まったもの。								
当 事 者		0	0	0	0											
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：								
第 三 者		0	0	0	0			なし								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	4 人	物質の被害状況： 第4類 第3石油類(非水溶性)重油30L漏えい					
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人						
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)					
30 実施した防災活動の状況																
公設消防機関：番号 (99) 調査活動										自衛防災・消防組織等 番号 (5、4) 漏えいした重油の回収、フランジ部分の増し締め作業						
31 防災活動上の問題点																
32 施 設 名						33 定 期 点 検 等					消 防 法		そ の 他			
	使用停止					年 月 日					年 月 日		年 月 日			
	改善命令等					年 月 日					年 月 日		年 月 日			
	停止解除					年 月 日					年 月 日		年 月 日			
	関係条項										34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
	そ の 他					年 月 日					年 月 日					
1. 文書 2. 口頭					1. 文書 2. 口頭											
35 今後の対策 や所見		毎日点検を実施しており、漏えいについての発見も短期間で行っている。設置から年数は経過していないが、今回の漏えいで事業所全体での再発防止対策も検討されている。														

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所の通気管から重油の流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		12月 16日 12時 00分				[推定]・確定		4 発生見		12月 16日 12時 00分			
5 覚知		12月 16日 15時 43分				6 鎮圧 応急処置完了				12月 16日 15時 30分			
7 鎮火・処理完了		12月 16日 17時 30分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：北西 風速：5.2m/s 気温：10.3℃ 湿度：89%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,000L 5倍											
		倍数の合計：5倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 49年 11月 1日 直近の完成：平成 26年 9月 10日											
名称：地下タンク		番号 (1209)											
能力：													
13 機器等		温度圧力：											
名称：貯槽(タンク)		番号 (107)											
規模：地下タンク貯蔵所(10kL)													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：通気管		番号 (304)											
材質：その他		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(100L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：受入中		番号 (9)											
作業状況：その他		番号 (99)											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所(10kL)の、許可容量である9.6kLを超過し、移動タンク貯蔵所のポンプを使用し加圧注油を行ったため通気管から重油約100Lがオーバーフローし河川へ流出したもの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： ・許可容量を把握していない、地下タンク貯蔵所の所有者の容量把握不足 ・荷卸し実施者の注油中の確認不足(注油ができなくなった際に確認すれば防止できた。)							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	違反(故意)	問題意識の不足				
	人	本人の意識	違反(故意)	怠慢				
	関連原因の詳細							
因								
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 通気管からオーバーフローした重油約100Lが、雨樋及び排水溝を経由して河川へ流出したもの。(流出範囲については、約3.3km)
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： A重油約100Lの流出	
消 防 機 関	3 台 0 隻 0 機 9 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 10 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (6) 2級河川へのオイルフェンスの展張					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点 発生後、速やかに消防機関に通報するよう指導。								
行政措置	32 施設名	地下タンク貯蔵所		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 5 年 12 月 16 日		年 月 日		令和 5 年 10 月 20 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無	内容：	
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				
		1. 文書 ②. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策 や所見		許可容量9.6kLに対する残量を、受け入れ側及び荷卸し側が確認し注油を行うよう口頭指導実施。						

5 移 動 タ ン ク 貯 蔵 所

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所における荷卸し中の重油流出事故														
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()														
3 発生		1月 4日 7時 30分 推定・ 確定					4 発生見		1月 4日 10時 30分							
5 覚知		1月 4日 10時 57分					6 鎮圧 応急処置完了		1月 4日 10時 50分							
7 鎮火・処理完了		1月 4日 10時 50分														
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()														
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：4m/s 気温：-5℃ 湿度：48%														
10 発生事業所		種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)					11 発生場所					区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 8,000L 8倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 8,000L 8倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 8,000L 4倍 倍数の合計： 8倍 設置の完成： 昭和 61年 9月 22日 直近の完成： 平成 19年 6月 4日				
12 施設装置							17 物質の区分									
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)							①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス									
能力：第4類第2石油類 灯油・軽油 第3石油類 重油8,000L 倍数8倍							5. 毒物 6. 劇物 7. その他									
13 機器等		温度圧力：					名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(30L)							
名称：注入管 65A																
14 発生箇所																
名称：タンクの注入口 番号 (905)		材質：鋼鉄					18 取扱者の概要		経験年数10年							
15 発生時																
運転状況：荷卸中 番号 (13)							19 危険物保安統括管理者		20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
作業状況：運転操作中 番号 (1)																
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無																
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から少量危険物施設(地下貯蔵タンク 第4類第3石油類 重油 容量1,800L)へ荷卸し中に、過剰注入により注入口から重油が流出したものであり、運転手が移動タンク貯蔵所のポンプを停止し、吸着マットを用いて流出防止措置を行った。運転手の119番通報により消防覚知に至ったものである。																
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止																

25	主 原 因 操作確認不十分						着火原因						番号 ()																																
	関 連 原 因 監視不十分																																												
	発生原因の状況： 必要量以上の発注を受けた移動タンク貯蔵所の運転手が注油を継続したことによる過剰注油。																																												
	主原因の詳細																																												
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																
	人				本人の意識				違反(故意)				怠慢																																
	関連原因の詳細																																												
	人				本人の意識				思慮				過信																																
因																																													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																													
27 人的被害																																													
28 物的被害																																													
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防 災 活 動 従 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 重油約30Lが敷地内に流出した。							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																							
当 事 者	0	0	0	0																																									
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0																																									
第 三 者	0	0	0	0																																									
										施設等の被害状況： なし																																			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																													
消 防 機 関 3 台 0 隻 0 機 10 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人										物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油約30流出																																			
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																													
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																													
その他の機関 0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人										損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)																																			
30 実施した防災活動の状況																																													
公設消防機関：番号 (99) 調査活動及び流出した重油の処理										自衛防災・消防組織等 番号 ()																																			
31 防災活動上の問題点																																													
32	施 設 名										33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他																														
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和4年 6月 17日		年 月 日																															
		改善命令等	年 月 日				年 月 日					令和4年 6月 17日		年 月 日																															
		停止解除	年 月 日				年 月 日					年 月 日		年 月 日																															
		関係条項										34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容： 法第10条3項 製造所等における危険物の貯 蔵・取扱いの基準違反																															
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																							
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭																																							
35		今後の対策 や所見 当該流出事故は、荷卸し中に過剰注入となり重油約30Lが流出したものである。 流出後の通報、事故処理等の対応は適切であったと考える一方で、注油方法や残油量の管理等について詳細な対策が必要であったと考える。 これらの事項を踏まえ、中央消防署長から再発防止のための指導書を交付し、注意喚起をするものである。																																											

1 事 故 名		移動タンク貯蔵所が荷卸しする際、操作確認不十分によりタンク本体から重油約20Lが流出したもの									
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		1月 13日 7時 37分 推定・ 確定					4 発 見		1月 13日 7時 37分		
5 覚 知		1月 13日 11時 27分					6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		1月 13日 12時 00分		
7 鎮火・処理完了		1月 13日 12時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北東 風速：1m/s 気温：4.6℃ 湿度：89.9%									
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業					11 発 生 場 所				
							区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他)				
							特別防災地区名：				
							16 発生施設規制区分等				
							施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,900L 3.9倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 3,900L 3.9倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,900L 1.95倍				
12 施 設 装 置		名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力：タンク容量 3.9kL 13 機 器 等 温 度 圧 力： 名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：長さ3,330mm×幅1,800mm×高さ930mm 14 発 生 箇 所 名 称：塔槽類本体 番 号 (105) 材 質：鋼鉄 15 発 生 時 運 転 状 況：荷卸中 番 号 (13) 作 業 状 況：充填中 番 号 (12)					16 発生施設規制区分等				
							施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,900L 3.9倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 3,900L 3.9倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,900L 1.95倍				
							倍数の合計： 9.75倍				
							設 置 の 完 成：令和 3年 1月 26日 直 近 の 完 成：令和 3年 8月 4日				
							17 物 質 の 区 分				
		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(20L)									
		18 取扱者の概要									
		経験年数50年									
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 満油状態の移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所に荷卸しする際、地下貯蔵タンク内の重油を誤って吸入したことにより、通気のために開放していた移動タンク貯蔵所のマンホールから防護枠内に溢れ出し、防護枠内にある開放状態の水抜栓から地面に流出したものの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

原因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 危険物取扱者が荷卸し作業前に、移動タンク貯蔵所の切り替えバルブが「排出」の状態になっていることを確認しなかったもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所に荷卸し作業中、防護枠内に重油が溢れ出し、防護枠内にある開放状態の水抜栓から地面に約20L流出(2m×1m)したもの		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						物質の被害状況： 第4類第3石油類重油約20L流出				
						損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 現場確認						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名	移動タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>			
	そ の 他	年	月	日	年		月	日	内容： 消防法第10条第3項 危険物取扱基準違反 消防法第16条の3第2項 事故発生時の通報義務違反	
35 今後の対策 や所見		危険物取扱者の操作確認不十分による危険物流出事故であるとともに、消防機関への通報が遅滞していることから、違反処理を実施。なお、作業前の操作確認を含めた安全管理の徹底及び事故発生時の通報について指導した。								

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所から屋内タンク貯蔵所への荷卸し中、移動タンク貯蔵所の吐出口から灯油が漏えいしたもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		2月 3日 7時 40分				推定・ 確定		4 発生見		2月 3日 7時 40分			
5 覚知		2月 3日 10時 30分				6 鎮圧 応急処置完了				2月 3日 10時 40分			
7 鎮火・処理完了		2月 3日 11時 30分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：東北東 風速：11m/s 気温：8℃ 湿度：78%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 1,600L 8倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,600L 1.6倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,600L 1.6倍											
		倍数の合計： 8倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称： 移動貯蔵タンク 番号 (1303)		設置の完成： 令和 4年 12月 21日 直近の完成： 令和 4年 12月 26日											
能力： タンク室容量:1室4,000L、2室2,000L、3室2,000L、4室2,000L、5室2,000L、6室4,000L		17 物質の区分											
13 機器等 温度圧力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油											
名称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606)		18 取扱者の概要											
規模： 吐出配管													
14 発生箇所													
名称： 管継手(ダクトを含む) 番号 (201)													
材質： その他													
15 発生時													
運転状況： 荷卸中 番号 (13)													
作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から屋内タンク貯蔵所へ灯油の荷卸し中に、吐出配管フランジ部分のパッキンが劣化したことにより一部欠落したことから灯油が流出し、敷地内通路及び排水溝に灯油が流出した。なお、民間廃油処理業者により、路上の洗浄及び排水溝内の流出灯油の処理を行った。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 腐食疲労等劣化					着火原因					番号 ()					
原 因	関 連 原 因															
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所からの灯油荷卸し中に、吐出配管の一部に設置されたサイトグラス底弁側のフランジパッキンが劣化により一部欠落したため。															
	主原因の詳細															
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層				第Ⅳ層					
	疲労・劣化			素材等の劣化			長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）									
	関連原因の詳細															
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																
27 人 的 被 害										28 物的被害						
区分		被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 灯油が敷地内通路に流出した。						
		当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： フランジパッキンの劣化						
		防災活動従事者		0	0	0	0									
		第 三 者		0	0	0	0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																
		消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) 灯油流出(流出量は不明)			
		消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
		海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
		その他の機関		1 台	0 隻	0 機	2 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人				
										損害額		1万円未満、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況																
公設消防機関：番号 (99) 調査活動										自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点 消防機関等への通報に遅れがあった。																
32 行政措置	施 設 名						33 定 期 点 検 等				消 防 法		そ の 他			
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検		令和 2 年 7 月 4 日		年 月 日	
		改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等		令和 2 年 7 月 4 日		年 月 日	
		停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項						34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無					
	そ の 他		年 月 日				年 月 日				内容： 法第16条の3第2項 消防機関等への通報義務違反					
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策 や所見		令和4年12月に行った定期点検及び事故当日の始業点検時に異常は認められていないこと、平成17年に初年度登録設置後17年が経過していること、平成27年にタンク本体の圧力試験で異常は認められていないこと、事故当日2基の屋内タンク貯蔵所の1基に6,000Lを注油して異常がなかったこと、2名の作業員によりタンクローリーの上と下に分かれて注油作業を行い監視していたこと、以上のことから、いつの時点から劣化が始まったかは不明であるが、2基目の屋内タンク貯蔵所への注油開始直後の荷卸し時の水圧で漏えいしたものと推察される。これらを踏まえ、定期点検項目ではないが、配管接続部のフランジパッキンは定期的に交換することが望ましい。														

1 事故名		移動タンク貯蔵所の給油ホースの亀裂から灯油が流出							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発生		5月 17日 13時 00分		[推定]・確定		4 発生見		5月 17日 13時 00分	
5 覚知		5月 17日 13時 40分		6 鎮圧 応急処置完了		5月 17日 14時 45分			
7 鎮火・処理完了		5月 17日 14時 45分							
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()							
9 気象状況		天気：晴 風向：北西 風速：2.4m/s 気温：25.9℃ 湿度：42%							
10 発生事業所		種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)				11 発生場所		区分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 3,750L 3.75倍 倍数の合計： 3.75倍 設置の完成：平成 28年 9月 27日 直近の完成：平成 28年 9月 27日	
12 施設装置						17 物質の区分			
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
能力：						5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
13 機器等						温度圧力：			
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (2.7L)							
規模：内測寸法 長さ2,600mm 幅1,800mm 高さ1,000mm 容量3,750L									
14 発生箇所				18 取扱者の概要					
名称：給油(注油)ホース 番号 (908)		1. 選任有 2. 選任無		経験年数3年					
材質：ゴム		20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い					
15 発生時		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		①. 有 2. 無					
運転状況：給油中 番号 (8)									
作業状況：充填中 番号 (12)									
19 危険物保安統括管理者									
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有									
23 事故の概要： ローリー乗務員が一般住宅の490Lホームタンクに給油しようと吐出弁を開放したところ、給油ホースのノズルから車両側に約20cmの場所に生じた亀裂(幅約1cm)から灯油が漏えいし、市道上に流出した。人的被害はなし。河川等への拡散はなし。									
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止									

原因	25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()							
	関 連 原 因 維持管理不十分																
	発生原因の状況： 給油ホースの亀裂の原因は、何らかの原因で給油ホースの内側に負荷がかかり経年劣化により摩耗したものと推測した。																
	主原因の詳細																
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層							
	疲労・劣化			素材等の劣化			長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）										
	関連原因の詳細																
	設備		監理・保守			点検・整備			確認不足								
因																	
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																	
27 人的被害																	
28 物的被害																	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般住宅前の市道上のアスファルト(幅約1m、奥行約1.3mの範囲。雨水桝及び河川への流出はなし。									
区分																	
当 事 者		0	0	0	0												
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 給油ホース亀裂(幅約1cm×1箇所)									
第 三 者		0	0	0	0												
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																	
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油2. 7L流出(ローリーの給油メーターの数値から特定)							
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人								
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人								
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)							
30 実施した防災活動の状況																	
公設消防機関：番号 (99)																	
調査活動																	
自衛防災・消防組織等 番号 ()																	
31 防災活動上の問題点																	
行政措置	32	施設名							33	定期点検等	消 防 法	そ の 他					
	行	使用停止	年	月	日	年			月	日	定期・自主点検	令和 5 年 3 月 18 日	年	月	日		
		改善命令等	年	月	日	年			月	日	気密試験等	令和 5 年 5 月 8 日	年	月	日		
		停止解除	年	月	日	年			月	日	保安検査	年	月	日			
	措	関係条項							34	当該施設に係る法令違反の有無	有・無	内容：					
		そ の 他	年			月	日	年						月	日		
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭												
35		今後の対策や所見															
		事故発生事業所が保有するローリー給油ホースの一斉点検を実施した結果、異常のある車両はなし。 同種危険物事故が発生しないよう、給油ホース点検の際は留意するように指導した。															

1 事 故 名		移動タンクから屋外タンクへ荷卸し中の注入ホースが外れたことによる軽油の流出										
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()										
3 発 生		10月	13日	7時	15分	推定・ 確定		4 発 見	10月	13日	7時	15分
5 覚 知		10月	13日	8時	01分			6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了	10月	13日	8時	30分
7 鎮火・処理完了		10月	13日	12時	00分							
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()										
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 西南西 風速： 0.9m/s 気温： 11℃ 湿度： 89.9%										
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所										
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一般 番 号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
	16 発生施設規制区分等											
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 26,000L 130倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 26,000L 26倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 26,000L 26倍											
	倍数の合計： 182倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所										
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908)										
能 力： タンク容量26,000L		材 質： アルミニウム										
13 機 器 等		15 発 生 時										
名 称： その他 番 号 (999)		運 転 状 況： 払出中 番 号 (10)										
規 模： 注入ホース3B×4m		作 業 状 況： その他 番 号 (99)										
		17 物 質 の 区 分										
		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(270L)										
		18 取扱者の概要										
		経験年数27年										
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有												
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所の危険物取扱者が屋外タンク貯蔵所へポンプ排出により荷卸しを始めたところ、ポンプの振動により移動タンク貯蔵所と注入ホースを接続する油種センサーが接続不良となり作業が停止する。復旧後、作業を再開するが、同症状で停止する。3回目の操作で吐出口に接続していた注入ホースの緊結金具が外れホースが脱落し軽油が荷卸し場所周囲のコンクリート土間に漏れいする。土間周囲の排水溝に流れ込むが、付近にいた荷卸先の職員と移動タンク危険物取扱者が油吸着マットで流出防止し、敷地内の漏えいとどまる。 施設の損害は無いが、軽油270Lを漏れいする。 死傷者無し。 注入ホースが脱落した際、吐出口の開放操作をした危険物取扱者がホースを受け止め吐出口を閉鎖する。注入ホースを受け止めたため、安全装置となる油種センサーが外れず、自動でポンプの停止、底弁の閉鎖はされなかった。												
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止												

25	主 原 因 操作確認不十分				着火原因				番号 ()																														
原 因	関 連 原 因																																						
	発生原因の状況： 緊結金具の完全な固定を怠ったもの。																																						
	主原因の詳細																																						
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																													
	人			本人の意識			思慮			過信																													
	関連原因の詳細																																						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																							
27 人 的 被 害								28 物的被害																															
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防 災 活 動 従 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から軽油270Lが荷卸場所のコンクリート土間に漏えいした。漏えい範囲は土間周囲の排水溝で回収され、敷地外へ流出は無し。			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																	
当 事 者	0	0	0	0																																			
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0																																			
第 三 者	0	0	0	0																																			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								施設等の被害状況： 施設への被害は無し。																															
消 防 機 関 3 台 0 隻 0 機 7 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人								物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油270Lの漏えい。																															
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																							
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																							
その他の機関 0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 0 台 0 隻 0 機 8 人								損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)																															
30 実施した防災活動の状況																																							
公設消防機関：番号 (99) 油漏れの通報を受け出動するが、関係者により漏えい拡散防止措置、漏えい油の回収もほぼ完了していた。消防隊の活動無し。								自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 移動タンク貯蔵所からの漏えい時、付近にいた荷卸先職員が油吸着マットで流出拡散防止措置を実施する。移動タンク貯蔵所危険物取扱者と荷卸先職員が協力し漏えい油の回収をする。																															
31 防災活動上の問題点 漏えい事故発生から46分後に通報されているため、早急な通報が必要である。																																							
32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他																												
	使用停止 年 月 日				定期・自主点検				年 月 日		年 月 日																												
	改善命令等 年 月 日				気密試験等				年 月 日		年 月 日																												
	停止解除 年 月 日				保安検査				年 月 日		年 月 日																												
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無 内容：																														
	そ の 他 令和 5 年 10 月 13 日 年 月 日 1. 文書 ②. 口頭 1. 文書 2. 口頭																																						
35 今後の対策 や所見 当消防本部から、当該事業所へ従業員の安全教育について指導する。 今後、管内の事業所に対し、同種事故防止に努めるよう指導する。																																							

令和5年

1 事 故 名		移動タンク貯蔵所から少量危険物タンクへ注入後、危険物取扱者の不注意により注入ノズルから灯油が流出											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		11月 2日 14時 30分				推定・確定		4 発 見		11月 2日 14時 30分			
5 覚 知		11月 2日 16時 32分				6 鎮 圧 応急処置完了		11月 2日 14時 40分					
7 鎮火・処理完了		11月 4日 10時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北北西 風速：4.9m/s 気温：13℃ 湿度：55%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソ リンスタンドを除く)		区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,750L 3.75倍											
		倍数の合計： 3.75倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		名 称：その他 番 号 (999)											
能 力：移動貯蔵タンク 3,750L		材 質：鋳鉄											
13 機 器 等		15 発 生 時											
温 度 圧 力：		運 転 状 況：荷卸中 番 号 (13)											
名 称：その他 番 号 (999)		作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)											
規 模：鋳物 25B		17 物 質 の 区 分											
14 発 生 箇 所		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (3L)											
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要											
名 称：その他 番 号 (999)		経験年数3年											
材 質：鋳鉄		19 危険物保安 統括管理者											
15 発 生 時		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要											
運 転 状 況：荷卸中 番 号 (13)		20 危険物 保安監督者											
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要											
19 危険物保安 統括管理者		21 危険物取扱者 の取扱・立会い											
1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		①. 有 2. 無											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： ・移動タンク貯蔵所の危険物取扱者が、少量危険物タンク(容量446L)に灯油を注入後、注入ノズルを注入口から引き抜いた際、ノズルが手から離れ落下しそうになった。慌ててノズルを掴んだところ、誤ってノズルのレバーを握ってしまい、少量危険物タンク周囲に灯油を約3L流出させた。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無													

原因	25 主 原 因 操作確認不十分				着火原因				番号 ()																														
	関 連 原 因																																						
	発生原因の状況：																																						
	移動タンク貯蔵所の危険物取扱者は、当該事故発生時、普段使用している注入ノズルよりも長さの短いノズルを使用し、また、つま先立ちという安定しない姿勢により少量危険物タンクへ注入作業を行っていた。少量危険物タンクへ注入後、注入口から注入ノズルを引き抜こうとした際、普段とは違う操作感覚及び安定しない姿勢により、注入ノズルが手から離れ落下しそうになった。ノズルを慌てて掴んだところ、誤ってノズルのレバーを握ってしまい、少量危険物タンクの周囲に灯油を流出させた。																																						
	主原因の詳細																																						
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																													
	人			本人の意識			思慮			不注意																													
因	関連原因の詳細																																						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																							
27 人的被害								28 物的被害																															
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 少量危険物タンク周囲の地面に灯油約3Lが流出			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																	
当 事 者	0	0	0	0																																			
防災活動従事者	0	0	0	0																																			
第 三 者	0	0	0	0																																			
								施設等の被害状況： なし																															
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																							
消 防 機 関		1 台 0 隻 0 機 4 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況： 灯油 約3L																															
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人																																	
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人																																	
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 1万円未満 、1万円以上 (万円)																															
30 実施した防災活動の状況																																							
公設消防機関：番号 (99) 情報収集								自衛防災・消防組織等 番号 ()																															
31 防災活動上の問題点																																							
行政措置	32 施設名						33 定期点検等		消 防 法		そ の 他																												
	使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 8 月 16 日		年 月 日																												
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日																												
	停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日																												
	関係条項						34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：																														
	そ の 他		年 月 日		年 月 日																																		
35 今後の対策 や所見		・安全確実な注入作業の徹底																																					

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所で移送中にホースが落下し、破損した注油ノズルから灯油が流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		11月 13日 11時 25分				推定・確定		4 発生見		11月 13日 11時 30分	
5 覚知		11月 13日 14時 14分				6 鎮圧 応急処置完了				11月 13日 15時 30分	
7 鎮火・処理完了		11月 13日 15時 42分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：西北西 風速：1m/s 気温：4℃ 湿度：40%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000L 4倍									
12 施設装置		設置の完成：平成16年 9月 22日 直近の完成： 年 月 日 17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (5L) 18 取扱者の概要 経験年数25年									
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)											
能力：容量 4kL											
13 機器等		温度圧力：常温、常圧									
名称：その他 番号 (999)											
規模：直径50mm											
14 発生箇所											
名称：給油(注油)ノズル 番号 (909)											
材質：アルミニウム											
15 発生時											
運転状況：移送中 番号 (18)											
作業状況：運転操作中 番号 (1)											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 市内の油槽所に常置されている移動タンク貯蔵所により、灯油の配送巡回を行っていた油槽所従業員が顧客の敷地内に進入しようとした際、左サイドミラーにて注油ホースが落下し、灯油が流出している状況を発見したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

25	主 原 因		維持管理不十分		着火原因		番号 ()	
原 因	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 普段、顧客毎に配送を終えた際には落下防止措置として注油ホースをホースリール部にクリップ留めしているが、事故当時はクリップ留めをせずに次の配送先へ向かったもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		違反(故意)		怠慢	
	関連原因の詳細							
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27	人 的 被 害						28 物的被害	
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所の注油ホースがホースリール部より落下、灯油約5から10Lが漏えいし、公道約300mにわたり流出した。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	5 台 0 隻 0 機 18 人	自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況： 灯油約5から10L漏えい		
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人			
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人			
	その他の機関	2 台 0 隻 0 機 6 人	そ の 他		0 台 0 隻 0 機 0 人			
損害額 1万円未満、 1万円以上 (53 万円)								
30	実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (5) おが屑散布による危険物の除去、拡散防止。						自衛防災・消防組織等 番号 ()		
31	防災活動上の問題点 事故発生時から約2時間45分後に駆付けにて覚知となった。							
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有 ・無 内容： 消防法第10条第3項 危険物の貯蔵・取扱いの制限等 消防法第16条の3第2項 製造所等についての応急措置及びその通報並びに措置命令	
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭							
35	今後の対策 や所見 配送時に漏えい等が発生しないよう具体的な対策を違反対策防止対策書として提出。 火災や流出等の事故を発見した際は速やかに消防機関へ通報する。							

1 事故名		移動タンク貯蔵所の移送基準違反によりホームタンクから灯油が流出したもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		11月 16日 8時 30分				推定・ 確定		4 発生見		11月 16日 8時 30分	
5 覚知		11月 16日 8時 40分				6 鎮圧 応急処置完了		11月 16日 12時 00分			
7 鎮火・処理完了		11月 16日 12時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：北 風速：0.8m/s 気温：-0.8℃ 湿度：100%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、 その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,750L 3.75倍									
12 施設装置		13 機器等									
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)		温度圧力：									
能力：タンク容量 3,750L		名称：貯槽(タンク) 番号 (107)									
14 発生箇所		規模：タンク容量 490L									
名称：タンクの注入口 番号 (905)		設置の完成：令和 3年 9月 24日 直近の完成：年 月 日									
材質：その他		17 物質の区分									
15 発生時		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(400L)									
運転状況：移送中 番号 (18)		18 取扱者の概要									
作業状況：運転操作中 番号 (1)		経験年数8年									
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から一般住宅のホームタンクに注油を行った後、当該移動タンク貯蔵所の運転手が注油ノズルをホームタンクの注油口に残置したまま移送を開始したことから、ホームタンクを転倒させ一般住宅の敷地内、公道及び河川に推定400L灯油が流出したものの。 タンクの転倒に気づいた、近隣住宅の居住者が消防機関へ通報した。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原因	25	主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所から一般住宅のホームタンクに注油を行った後、当該移動タンク貯蔵所の運転手が注油ノズルをホームタンクの注油口に残置したまま移送を開始したことから、ホームタンクを転倒させ一般住宅の敷地内に推定400L灯油が流出したもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	人		本人の意識		違反(故意)		怠慢				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人 的 被 害							28 物的被害				
区分		被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般住宅の敷地内、公道及び河川に灯油が流出	
		当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 一般住宅に設置されていたホームタンクが転倒し、移動タンク貯蔵所のノズルが損傷	
		防災活動従事者		0	0	0	0				
		第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)推定400L	
消 防 機 関		3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機		0 人
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機		0 人
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機		0 人
その他の機関		2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機		0 人
30 実施した防災活動の状況										損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)	
公設消防機関：番号 (5) 漏えい油の回収と調査活動							自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32	施 設 名					33	定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他	
	行	使用停止	年 月 日		年 月 日		政	定期・自主点検	令和 4 年 9 月 15 日	年 月 日	
		改善命令等	年 月 日		年 月 日			気密試験等	令和 3 年 7 月 9 日	年 月 日	
		停止解除	年 月 日		年 月 日			保 安 検 査	年 月 日	年 月 日	
	措	関係条項					置	34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第16条の2第2項違反		
		そ の 他	年 月 日		年 月 日						
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35		移送開始前の点検の徹底									
今後の対策 や所見											

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所が横転し、上部マンホール安全装置より危険物が流出したもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		11月 25日 5時 20分				推定・ 確定		4 発生見		11月 25日 5時 20分	
5 覚知		11月 25日 5時 24分				6 鎮圧 応急処置完了		11月 25日 7時 45分			
7 鎮火・処理完了		11月 25日 11時 20分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：雪 風向：西 風速：2.2m/s 気温：-4℃ 湿度：53.9%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 熱番号 (3511) 供給業 熱供給業 熱供給業		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 4,000L 20倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000L 4倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,000L 4倍									
		倍数の合計：28倍									
12 施設装置		設置の完成：平成 25年 12月 2日 直近の完成：平成 25年 12月 2日									
名称：		番号 ()									
能力：											
13 機器等		温度圧力：									
名称：その他		番号 (999)									
規模：有効吹出面積:25.2cm ²											
14 発生箇所		17 物質の区分									
名称：安全弁		番号 (301)									
材質：アルミニウム		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(1,000L) 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油(1,000L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：移送中		番号 (18)									
作業状況：		番号 ()									
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事故の概要： 凍結路面でスリップし横転したもの。第2槽及び第3槽の安全装置より、ガソリン1,000L、軽油1,000Lが路上及び土壤に流出したものの。流出量:2,000L、流出面積:370m ² 、流出範囲:80m。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

25	主 原 因 破 損					着火原因					番 号 ()				
原 因	関 連 原 因														
	発生原因の状況： 凍結路面でスリップし横転したもの。第2槽及び第3槽の安全装置より、ガソリン1,000L、軽油1,000Lが路上及び土壌に流出したものの。流出量:2,000L、流出面積:370㎡、流出範囲:80m。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層		
	交通事故				運転操作				その他						
	関連原因の詳細														
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から ⑥. 流出に起因、施設外から														
27	人 的 被 害										28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 路上及び土壌に危険物が漏えいする。							
	当 事 者	0	0	0	0										
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： タンク側面に損傷あり(損傷箇所より漏えいはなし。)漏えいした安全装置には明らかな損傷は認められない。							
	第 三 者	0	0	0	0										
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 路上及び土壌に危険物が漏えいする。消防活動により中和作業済みであるが、土壌への浸透が考慮される。事業所関係者に成分分析調査及び必要に応じ土壌の入れ替えを市役所環境課より指導あり。					
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人						
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (1,000 万円)					
30	実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (3) 拡散防止措置										自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31	防災活動上の問題点														
32 行政措置	施設名									33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項									34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無 内容：				
	そ の 他	年 月 日				年 月 日									
35	今後の対策や所見	許可行政庁である苫小牧市消防本部に問い合わせるも、定期点検実施日時は不明であった。													

1 事 故 名		移動タンク貯蔵所からホームタンクへ注油中、注入口から注入ノズルが外れ灯油が流出											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		12月 23日 14時 00分				推定・確定		4 発 見		12月 23日 14時 00分			
5 覚 知		12月 24日 12時 25分				6 鎮 圧 応急処置完了				12月 23日 14時 10分			
7 鎮火・処理完了		12月 25日 10時 30分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：快晴 風向：西 風速：7.1m/s 気温：-4℃ 湿度：38%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソ リンスタンドを除く)		区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 4,000L 4倍											
		12 施 設 装 置											
		名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力：移動貯蔵タンク 4,000L											
13 機 器 等		温 度 圧 力：											
名 称：その他		番 号 (999)											
規 模：鋳物 32A		倍数の合計：4倍											
14 発 生 箇 所		設 置 の 完 成：平成 31年 1月 21日 直 近 の 完 成：令和 元年 11月 11日											
名 称：その他		番 号 (999)											
材 質：鋳鉄		17 物 質 の 区 分											
15 発 生 時		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油											
運 転 状 況：定常運転中		番 号 (1)											
作 業 状 況：運転操作中		番 号 (1)											
18 取扱者の概要		経験年数0年											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所からホースリールホース(32A)を二人で延長し、一人が屋外に設置されたホームタンク上部の注油口に注入ノズル(手動開閉装置を開放の状態で固定する装置を備えたもの。)を差し込んで灯油の注入していた。注入ノズルを保持した状態でストレーナー等に異常がないかタンク下を覗き込んだ際に、注入ノズルが注油口から抜け、灯油がホームタンク、駐車中の車両及び地盤面等に飛散したものの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無													

原因	25	主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 注入ノズルを持っていた左手が、タンク上部にあった状態のままかがみ込んだため、左腕が伸び切ってしまい、注入ノズルの差し込みが浅かったこと及びホースの重さ並びに吐出の反動により、注入ノズルを保持できなかったものと推定される。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	関連原因の詳細									
因										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害							28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ホームタンク表面及び駐車中の車両の運転席側及び地盤面等に灯油が飛散したもの		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：		
第 三 者		0	0	0	0			なし。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
							物質の被害状況：	灯油 数リットルが流出(具体的な流出量は調査中)		
							損害額	1万円未満、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
情報収集										
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32	施設名			33	定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	行	使用停止	年 月 日	年 月 日	政	定期・自主点検	令和 5 年 10 月 2 日	年 月 日		
		改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
		停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	措	関係条項			置	34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
		そ の 他	年 月 日	年 月 日			内容： ・法第10条第3項 製造所等における危険物の貯槽・取扱いの基準違反 ・法第14条の3の2 定期点検義務違反 ・法第16条の3第2項 事故発生時の通報義務違反			
35		今後の対策 や所見								
		危険物の貯蔵・取扱い基準等の法令事項遵守の徹底								

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所から少量危険物施設のタンクへ注油作業中の漏えい事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		4月 11日 14時 15分				[推定]・確定		4 発生見		4月 11日 14時 20分	
5 覚知		4月 11日 15時 25分				6 鎮圧 応急処置完了		4月 11日 15時 35分			
7 鎮火・処理完了		4月 11日 16時 20分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：南西 風速：4.7m/s 気温：19.2℃ 湿度：28%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 3,750L 3.75倍									
12 施設装置		設置の完成：平成20年 7月 14日 直近の完成：平成20年 7月 25日 倍数の合計：3.75倍									
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)											
能力：貯蔵量 3,750L											
13 機器等		温度圧力：									
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温][0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(20L)									
規模：直径24mmの注油ノズル											
14 発生箇所											
名称：給油(注油)ノズル 番号 (909)		18 取扱者の概要 経験年数35年									
材質：鋼鉄											
15 発生時											
運転状況：荷卸中 番号 (13)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
作業状況：小分け・詰替中 番号 (13)											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 4月11日14時10分頃から移動タンク貯蔵所より少量危険物施設のタンクへ重油の注入を開始。 作業途中より注油ノズルを車のカギで固定して離れ、移動タンク貯蔵所側から監視を行っていたところマンホール部分からの漏えいを確認した。 ただちに移動タンク貯蔵所の緊急停止、漏えい箇所へ吸着マット等による漏えい拡散措置を実施。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他											

原因	25 主 原 因	監視不十分				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所の作業員が注油ノズルを固定し現場から離れた場所で作業をしたことにより漏えいした。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	管理			監督			監視			監視が実施されない/不足			
	人			本人の意識			違反(故意)			問題意識の不足			
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
因	27 人 的 被 害								28 物的被害				
	被害内容等								被災影響範囲及び拡大の状況：				
	区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		マンホールの周囲に重油約20L漏えい 漏えいはマンホール周囲に留まっていることから周囲への漏えい拡大はなし。				
	当 事 者	0	0	0	0				施設等の被害状況：				
	防災活動従事者	0	0	0	0				マンホールの周囲への重油付着				
	第 三 者	0	0	0	0								
	29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
	消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：		
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	第4類第3石油類(非水溶性)約20L流出		
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 調査活動(周囲への漏えい状況等確認)								自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				令和 4 年 4 月 26 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				気密試験等				令和 1 年 7 月 1 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				保安検査				年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無			
	そ の 他	年 月 日								内容：			
	1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭				法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 法第11条の4第1項 危険物の品名、数量又は指定数量の倍数変更の届出義務違反				
	35 今後の対策や所見												
	危険物施設において許可以外の危険物を使用しないこと。 また、注油作業中は注油ノズルを固定せず、現場で作業することを指導した。 なお、受け入れ側少量危険物施設の液面計も故障していたと判明したため、交換するよう指導した。												

令和5年

1 事 故 名		乗用車がタンクローリーに衝突したことによりタンク側面の切替弁と配管接続部から軽油が流出した事故									
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		4月 20日 9時 35分			[推定]・確定		4 発 見		4月 20日 9時 37分		
5 覚 知		4月 20日 9時 38分			6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		4月 20日 11時 00分				
7 鎮火・処理完了		4月 20日 11時 18分									
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：南東		風速：2m/s		気温：10℃		湿度：40%	
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド				11 発 生 場 所		区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 2,000L 2倍 倍数の合計： 2倍 設 置 の 完 成：昭和 52年 9月 18日 直 近 の 完 成：平成 15年 8月 8日			
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分					
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)						①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス					
能 力：2,000L						5. 毒物 6. 劇物 7. その他					
13 機 器 等						温度圧力：					
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧)									
規 模：2,000L		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)									
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要		19 危険物保安統括管理者		20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		1. 選任有 2. 選任無		1. 選任有 2. 選任無		③. 不要		③. 不要			
材 質：鋼鉄											
15 発 生 時											
運 転 状 況：移送中 番 号 (18)											
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)											
22 設備・機器等の概要：											
オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要：											
乗用車対タンクローリーの交通事故。乗用車がタンクローリー助手席側、側面に衝突。 タンクローリー側面の切替弁と配管の接続部から軽油約20Lの漏れ有り。											
24 緊急処置の状況 有 番号 ()											
[無]											

原 因	25	主 原 因 交通事故				着火原因				番号 ()																																																
	関 連 原 因																																																									
	発生原因の状況： 乗用車がタンクローリー助手席側、側面に衝突。																																																									
	主原因の詳細																																																									
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																																
	交通事故			運転操作			その他																																																			
	関連原因の詳細																																																									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																										
27 人 的 被 害												28 物的被害																																														
<table><tr><td>被害内容等</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は 職名</td></tr><tr><td>区分</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>当 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>防 災 活 動 従 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 三 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>												被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	区分							当 事 者	0	0	0	0			防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所助手席側切替弁と配管接続部から路上(約50m)に軽油を流出させる。											
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																																				
区分																																																										
当 事 者	0	0	0	0																																																						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0																																																						
第 三 者	0	0	0	0																																																						
												施設等の被害状況： 助手席側切替弁に直接普通乗用車が接触し、切替弁からポンプへの配管接続部分が損傷																																														
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 約20L流出																																														
消 防 機 関 2 台 0 隻 0 機 5 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																										
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																										
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																										
その他の機関 2 台 0 隻 0 機 4 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人												損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)																																														
30 実施した防災活動の状況																																																										
公設消防機関：番号 (5) 吸着マット10枚、ACライト1袋(1袋10kg)使用												自衛防災・消防組織等 番号 ()																																														
31 防災活動上の問題点																																																										
政 策 措 置	32	施 設 名									33	定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他																																												
	行	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和4年 5月 25日	年 月 日																																													
		改善命令等	年 月 日				年 月 日					令和1年 5月 31日	年 月 日																																													
		停止解除	年 月 日				年 月 日					年 月 日	年 月 日																																													
	措	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無																																														
		そ の 他	年 月 日				年 月 日					内容：																																														
35		今後の対策 や所見	1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭 事故当事者に対して、交差点進入時に周囲状況の確認の徹底を指導。																																																							

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所(給油タンク車)からの航空機燃料漏えい事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		10月 27日 13時 50分 推定・ 確定					4 発生見		10月 27日 13時 50分				
5 覚知		10月 27日 14時 30分					6 鎮圧 応急処置完了		10月 27日 14時 05分				
7 鎮火・処理完了		10月 27日 17時 47分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：西北西 風速：2.4m/s 気温：19.7℃ 湿度：87.2%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：公務(他に分類されないもの) 番号 (9531) 国家公務 行政機関 行政機関		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) JETA-1 20,000L 20倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 26年 5月 28日 直近の完成：平成 26年 5月 28日											
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)													
能力：航空機燃料 20kL													
13 機器等		温度圧力：											
名称：フィルター 番号 (908)		倍数の合計：20倍											
規模：直径1m													
14 発生箇所													
名称：パッキング 番号 (213)		17 物質の区分											
材質：合成樹脂		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：JETA-1 (50L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：試運転中 番号 (14)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
作業状況：運転操作中 番号 (1)													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所(給油タンク車)にJETA-1を充てんした後、漏えい確認のためポンプを起動したところフィルターセパレーターの蓋からJETA-1が漏えいしたもの なお、事故発生前日の10月26日、3年に1回実施している燃料給油車のフィルターセパレーター及びゴムパッキンの交換を実施している。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因		施工不良		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 10月26日にフィルターセパレーター及びゴムパッキンを交換して蓋を閉める際、ゴムパッキンがずれたことにより漏えいしたもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	施工不良		施工		取り付け不良			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所で移動タンク貯蔵所に充てん後、その場でポンプを起動したため一般取扱所の地盤面に流出したが、吸着マット等で流出防止措置を実施したことから流出拡大はなし。
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： JETA-1約50L				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4、3、5) 拡散及び流出防止措置、回収作業		
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等		消 防 法		そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		年 月 日		年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日		年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査		年 月 日		年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日			内容：		
35 今後の対策や所見		フィルターセパレーター及びゴムパッキンを交換する際は、ゴムパッキンのずれが生じないよう蓋の締め付けを実施すること。						

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所に荷卸し中に注油ホースからA重油の流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 1日 15時 22分 推定・ 確定					4 発生見		8月 1日 15時 22分				
5 覚知		8月 1日 15時 56分					6 鎮圧 応急処置完了		8月 1日 16時 12分				
7 鎮火・処理完了		8月 2日 16時 20分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：2.9m/s 気温：31.7℃ 湿度：60%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 16,000L 16倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 15,300L 15.3倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 15,320L 7.66倍											
		倍数の合計：38.96倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303) 能力：16,000L		名称：給油(注油)ホース 番号 (908) 材質：合成樹脂											
13 機器等		温度圧力：											
名称：その他 番号 (999) 規模：3.0m		設置の完成：平成 15年 7月 23日 直近の完成：平成 26年 8月 1日											
15 発生時		17 物質の区分											
		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(5L)											
		18 取扱者の概要 経験年数3年											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所に荷卸し中、給油口に注油ホースを緊結するため、注油金具を取り外した際、底弁及び吐出弁が開放状態であったため、緊結前に注油ホースからA重油が吐出され、敷地内の側溝に漏えいし、敷地外の用水路に流出した。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()				
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所に荷卸し中、吐出弁の閉鎖確認をせずに荷卸しを開始したところ、底弁及び吐出弁が開放状態であったため、注油ホースからA重油が吐出され、流出した。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		違反(故意)		怠慢				
	関連原因の詳細										
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人 的 被 害						28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所からA重油が敷地内の側溝に漏えいし、敷地外の用水路に流出した。 流出範囲は、敷地境界線より5m程度に収まっている。			
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)A重油約5L流出				
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台			0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台			0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台			0 隻	0 機	0 人
その他の機関	8 台	0 隻	0 機	32 人	その他	0 台			0 隻	0 機	0 人
30	実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) A重油の流出が継続していないことを確認後、情報収集に当たる。						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 荷卸し先事業所の従業員により、油吸着マット及びオイルフェンスの敷設並びに油中和処理剤を散布する。					
31	防災活動上の問題点										
32	施 設 名	移動タンク貯蔵所				33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他			
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 5 年 7 月 20 日	年 月 日		
		改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	令和 4 年 7 月 15 日	年 月 日		
		停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	消防法第10条第3項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 消防法第10条第3項				
	そ の 他	貯蔵及び取扱い基準違反									
	令和 5 年 8 月 16 日	年 月 日									
35	今後の対策 や所見	事業所の全危険物取扱者に対し、業務に係る指導教育を行う。 事業所の全移動タンク貯蔵所に、流出防止対策資機材を積載する。									

1 事故名		地下タンクから移動タンクへ油抜き中の誤操作による移動タンク上部マンホールからのA重油流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		10月 17日 10時 33分				推定・ 確定		4 発生見		10月 17日 10時 35分	
5 覚知		10月 17日 11時 35分				6 鎮圧 応急処置完了				10月 17日 13時 00分	
7 鎮火・処理完了		10月 17日 15時 30分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：北西 風速：2.4m/s 気温：14.3℃ 湿度：71.9%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：サービス業(他に分類されない番号(8522)もの) 廃棄物処理業 産業廃棄物処理業 産業廃棄物処分業		区分：1. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他)									
		特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 12,000L 12倍									
12 施設装置		倍数の合計：12倍 設置の完成：平成 3年 11月 25日 直近の完成：平成 15年 7月 16日									
名称：移動貯蔵タンク 番号(1303)											
能力：12,000L											
13 機器等 温度圧力：											
名称：貯槽(タンク) 番号(107)		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(300L)									
規模：12,000L											
14 発生箇所											
名称：マンホール 番号(305)											
材質：鋼鉄		18 取扱者の概要 経験年数3年									
15 発生時											
運転状況：受入中 番号(9)											
作業状況：運転操作中 番号(1)											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所の圧力点検を依頼された業者の従業員が、12,000Lの移動タンク貯蔵所を使用して地下貯蔵タンクの残油(A重油4,600L)の抜き取り作業を行っていた。移動タンク貯蔵所の2,000Lと4,000Lの槽へ収容するつもりであったが、操作を誤り移動タンク貯蔵所の上部マンホールからA重油が約300Lオーバーフローし、敷地内水路を経由して河川に流出したもの。死傷者の発生なし。 重油がこぼれる音で異変に気付き発見に至ったもの。当事者により水路及び河川合流点へオイル吸着マットを敷設する。											
24 緊急処置の状況 有 番号(10) 無 その他											

原因	25	主 原 因 誤操作				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 底弁切替えの誤操作。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	人			本人の意識			思慮			不注意			
	関連原因の詳細												
因													
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害							28 物的被害						
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした油が敷地内水路を經由して、170m先の河川に流出、さらに4km下流で若干の油膜を確認する。					
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：					
第 三 者		0	0	0	0			なし					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関		3 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：		
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	第4類第3石油類(非水溶性)A重油約300L流出		
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関		2 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満 、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、応急措置を実施していた行為者への拡散防止方法指示							自衛防災・消防組織等 番号 (3、6) 拡散防止処置、オイルフェンスの展開						
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32	施設名							33	定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	行	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和 5 年 6 月 28 日	年 月 日		
		改善命令等	年 月 日			年 月 日				令和 4 年 6 月 19 日	年 月 日		
		停止解除	年 月 日			年 月 日				年 月 日	年 月 日		
	措	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無			
		そ の 他	年 月 日			年 月 日				内容：			
35		今後の対策 や所見			作業前に操作手順を確認する。								

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所において注入ノズルを開放状態で固定したままポンプを作動させたことによる灯油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		10月 25日 10時 00分				推定・ 確定		4 発生見		10月 25日 10時 00分	
5 覚知		10月 25日 10時 12分				6 鎮圧 応急処置完了				10月 25日 10時 20分	
7 鎮火・処理完了		10月 25日 11時 11分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：北 風速：1.4m/s 気温：13.7℃ 湿度：87.4%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：複合サービス業 協同組合(他 番号 (7921) に分類されないもの) 事業協 同組合(他に分類されないもの) の) 事業協同組合(他に分類されないもの)		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,940L 1.94倍									
		倍数の合計：1.94倍									
12 施設装置		設置の完成：令和3年9月21日 直近の完成：									
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)		17 物質の区分									
能力：灯油1,940L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(9.6L)									
13 機器等		温度圧力：									
名称：その他 番号 (999)		18 取扱者の概要									
規模：注油ノズル		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要									
14 発生箇所		20 危険物保安監督者									
名称：給油(注油)ノズル 番号 (909)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要									
材質：鋼鉄		21 危険物取扱者の取扱・立会い									
15 発生時		①. 有 2. 無									
運転状況：定常運転中 番号 (1)											
作業状況：充填中 番号 (12)											
19 危険物保安統括管理者											
1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要											
22 設備・機器等の概要：											
オンラインファイル無											
23 事故の概要：											
移動タンク貯蔵所において注入ノズルを開放状態で固定しホームタンクへ注油。その後、注入ノズルを開放状態のまま格納し、タンク底弁も閉鎖しないまま移動。ポリ容器へ注油するためポンプを起動したところ、注入ノズルが開放状態で固定されていたため敷地内に灯油9.6Lが流出した。なお、吸着マットを使用し、応急措置を実施した。河川への流出なし。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無											
装置の緊急停止、その他											

原因	25	主 原 因		維持管理不十分		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： タンク底弁を閉鎖しないまま走行し、注油ノズルの手動開閉装置をリングで開放状態で固定していたためポンプ起動時に流出したもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足			
因	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害							28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：		
区分								移動タンク貯蔵所から灯油9.6Lが敷地内へ流出(河川への流出なし)。		
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況：		
防災活動従事者		0	0	0	0			なし		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：						
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	第4類第2石油類(非水溶性)灯油9.6L流出						
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人							
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)						
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)							自衛防災・消防組織等 番号 ()			
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32	施設名	移動タンク貯蔵所		33	定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	行	使用停止	年 月 日	年 月 日	政	定期・自主点検	令和 5 年 8 月 10 日	年 月 日		
		改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	令和 5 年 7 月 29 日	年 月 日		
		停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	措	関係条項			置	34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
		そ の 他	注意書交付				内容：			
		令和 5 年 11 月 27 日	年 月 日	消防法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反						
		①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭							
35		今後の対策 や所見								
		①注入ノズル手動開閉装置の固定禁止 ②注油作業時以外、底弁を閉鎖すること 当該事業所に対し、①及び②の事項について徹底するよう指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に対して も指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。								

1 事故名		移動タンク貯蔵所にて発生した車両後部配管破損による軽油流出事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		4月 7日 16時 20分 推定・ 確定					4 発生見		4月 7日 16時 20分		
5 覚知		4月 7日 16時 40分					6 鎮圧 応急処置完了		4月 7日 16時 55分		
7 鎮火・処理完了		4月 7日 16時 55分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：雨 風向：南東 風速：1.9m/s 気温：15℃ 湿度：89%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,000L 2倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,000L 1倍									
		倍数の合計：3倍									
12 施設装置		設置の完成：平成 28年 11月 29日 直近の完成：年 月 日									
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)		17 物質の区分									
能力：3,000L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(10L)									
13 機器等		温度圧力：									
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		18 取扱者の概要									
規模：容量3,000L 全長2,535mm 胴長2,405mm 長径1,800mm 短径930mm 鏡65mm		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要									
14 発生箇所		20 危険物保安監督者									
名称：その他の附属配管等 番号 (299)		21 危険物取扱者の取扱・立会い									
材質：鋼鉄		①. 有 2. 無									
15 発生時		22 設備・機器等の概要：									
運転状況：荷卸中 番号 (13)		オンラインファイル無									
作業状況：運転操作中 番号 (1)		23 事故の概要：									
		配達事業所にて荷卸し中に後退してきた大型重機が接触し、後部配管が破損し軽油10Lが漏えいしたものの。									
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無											
装置の緊急停止											

原 因	25 主 原 因 破損		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所に後退してきた大型重機が接触し、後部配管から軽油10Lが漏えいしたもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	破損	定常運転時	車両等の接触							
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害					28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所の周囲1m範囲内に軽油10Lが漏えいしたもの。		
	当 事 者	0	0	0	0					
	防災活動従事者	0	0	0	0					
	第 三 者	0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) 軽油10L漏えい			
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台		0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台		0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台		0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台		0 隻	0 機	0 人
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (240 万円)			
公設消防機関：番号 (4) 施設外への流出防止措置					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
32 施設名	使用停止	年 月 日	年 月 日	33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				保安検査	年 月 日	年 月 日			
	34 当該施設に係る 法令違反の有無	そ の 他	年 月 日	年 月 日	有・ 無 内容：					
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 や所見	荷卸し中であることを周知し、情報共有を徹底する。									

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所の横転事故に伴う、安全装置からのガソリン流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		6月 15日 8時 01分 推定・ 確定					4 発生見		6月 15日 8時 01分				
5 覚知		6月 15日 8時 01分					6 鎮圧 応急処置完了		6月 15日 9時 00分				
7 鎮火・処理完了		6月 15日 13時 02分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：北西 風速：2.9m/s 気温：21℃ 湿度：97%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 道路貨物運送業 一般番号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 16,000L 80倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 16,000L 16倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 16,000L 16倍											
		倍数の合計：112倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303) 能力：容量16,000L		名称：安全弁 番号 (301) 材質：アルミニウム											
13 機器等		温度圧力：											
名称：貯槽(タンク) 番号 (107) 規模：【タンク】長さ6,290mm、幅2,470mm、高さ1,370mm、最大容量16,000L		設置の完成：平成 21年 9月 4日 直近の完成： 年 月 日											
15 発生時		17 物質の区分											
運転状況：移送中 番号 (18) 作業状況： 番号 ()		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(10L)											
		18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 荷卸し場所に移送のため、片側1車線の道路を走行中、路面左側の亀裂にハンドルを取られて脱輪、道路脇の法面に助手席側を下にして横転したため、タンク室No1,2の各安全装置からガソリン約10Lが法面上に漏えいしたもの。底弁は閉鎖していた。漏えい処理については車両内に閉じ込められたことにより運転手は緊急措置を行える状態ではなかった。消防機関への通報については、運転手が所持している携帯電話の緊急SOS機能(衝撃により自動的に119番通報される)により、隣接消防本部へ通報され、当消防本部に転送される。警察機関への通報については、当消防本部から実施。なお死傷者は発生していない。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

原 因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所の運転手が移送中に運転を誤り助手席側を下に横転した事故である。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	交通事故	運転操作	ハンドル操作ミス					
	交通事故	運転操作	路肩に寄りすぎ					
	交通事故	路上環境	その他					
	関連原因の詳細							
因								
26 被害の状況 ①. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 道路脇の法面に助手席側を下にして横転したことにより、 タンク室No.1, 2の各安全装置からガソリン約10Lが法面上に漏 えいしたもの。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所の助手席側タンク側面が幅約60cm、長さ約1mの範囲でタン ク内部側に約10cmくぼみタンクが変形したもの。助手席側防護枠の変形及び助 手席側注入ホース収納箱が変形したもの。また、安全装置(弁)2か所が損傷し た。
	第 三 者	0	0	0	0			物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性液体)ガソリン約10L流出
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	6 台 0 隻 0 機 14 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	2 台 0 隻 0 機 5 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (1,500 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (4, 5) 横転した移動タンク貯蔵所の安全装置からガソリン約10Lが滴状に漏えいして いたため、ビニール袋で漏えい防止処理を実施する。さらに、法面上に漏えい したガソリンを吸着マットで処理する。					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施 設 名			33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 4 年 10 月 3 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 1 年 10 月 1 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見	今後管内の事業所に対して同様の事故を起こさないように指導徹底を図る。							

1 事 故 名		移動貯蔵タンクからホームタンクに注油する際、注入ノズルを固定し、その場を離れたことによる軽油の流出											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		9月 4日 15時 37分				[推定]・確定		4 発 見		9月 4日 15時 40分			
5 覚 知		9月 4日 17時 22分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了				9月 4日 18時 10分			
7 鎮火・処理完了		9月 4日 18時 19分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：雨 風向：東 風速：3.3m/s 気温：26℃ 湿度：97%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：複合サービス業 協同組合(他 番 号 (7911) に分類されないもの) 農林水産業協同組合(他に分類されないもの) 農業協同組合(他に分類されないもの)		区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他)											
		特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 3,000L 3倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計：6倍 設置の完成：平成29年8月10日 直近の完成：平成29年8月10日											
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)													
能 力：・容量3,000L													
13 機 器 等													
温度圧力：													
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)													
規 模：【タンク】長さ2,392mm、高さ1,100mm、幅1,600mm、最大容量3,000L													
14 発 生 箇 所													
名 称：タンクの注入口 番 号 (905)													
材 質：鋼鉄													
15 発 生 時													
運 転 状 況：払出中 番 号 (10)													
作 業 状 況：小分け・詰替中 番 号 (13)													
		17 物 質 の 区 分											
		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温][0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(200L)											
		18 取扱者の概要											
		経験年数12年											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所からホームタンクに軽油を注油する際、ノズルに木片を挟みレバーを開放固定状態とし、その場を離れ注油中の監視を怠り、過剰注入となったホームタンクの注入口から軽油200Lが漏えいし、敷地を伝い公共用水路に流出したもの。事故後、危険物の除去その他災害の発生防止のための必要な措置を講じておらず、また、直ちに消防機関への通報を行わなかったもの。なお、死傷者は発生していない。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原因	25 主 原 因 誤操作					着火原因					番号 ()																															
	関 連 原 因 監視不十分																																									
	発生原因の状況： ホームタンクの注入口が高い位置にあり、不安定な姿勢で長時間注入ノズルのレバーを握り続けることが困難であると判断し、ノズルに木片を取付け開放固定状態とすることで手順の簡略化を図ろうとしたもの。また、当日の天候が雨であったため濡れないよう、監視が不十分となることを承知の上、車内に戻り伝票の記載をしていたもの。																																									
	主原因の詳細																																									
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																													
	人				本人の意識				違反(故意)				問題意識の不足																													
	関連原因の詳細																																									
	人				本人の意識				思慮				過信																													
因																																										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																										
27 人的被害										28 物的被害																																
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： ホームタンクの注入口から軽油200Lが漏えいし、敷地を伝い公共用水路に流出した。流出範囲はタンクから敷地境界線(敷地内漏えい)までが11m、公共用水路への流出範囲は敷地境界線から下流水門までの51m程度に収まっている。				
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																				
当 事 者	0	0	0	0																																						
防災活動従事者	0	0	0	0																																						
第 三 者	0	0	0	0																																						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										施設の被害状況： 被害なし 物質の被害状況： ・第4類第2石油類(非水溶性液体)軽油200L流出 損害額 1万円未満、 1万円以上 (4 万円)																																
消 防 機 関		2 台 0 隻 0 機 5 人			自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人																																			
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人			共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人																																			
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人			応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人																																			
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人			その他		0 台 0 隻 0 機 0 人																																			
30 実施した防災活動の状況																																										
公設消防機関：番号 (5) ・敷地及び用水路に油吸着マットを設置し拡散防止処理を行う。										自衛防災・消防組織等 番号 ()																																
31 防災活動上の問題点																																										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他																														
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				令和 4 年 10 月 12 日		年 月 日																														
	改善命令等	年 月 日				気密試験等				令和 4 年 6 月 17 日		年 月 日																														
	停止解除	年 月 日				保 安 検 査				年 月 日		年 月 日																														
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無				☒ 有・無 内容： ・法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱基準違反(注入ノズルに木片を挟み込み、レバーを開放固定状態とし、その場を離れ注油中の監視を怠った。)																																
	そ の 他	年 月 日																																								
35 今後の対策や所見		・危険物の貯蔵の技術上の基準を遵守するよう指導する。また、管内の他の事業所に対しても同様の指導を行い、同種の事故防止に努める必要がある。																																								

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所の注油ホース破損による灯油の流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		12月 4日 11時 00分				[推定]・確定		4 発生見		12月 4日 11時 00分			
5 覚知		12月 4日 13時 21分				6 鎮圧 応急処置完了				12月 4日 11時 15分			
7 鎮火・処理完了		12月 4日 14時 13分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：東 風速：1.2m/s 気温：0.9℃ 湿度：99.7%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,940L 1.94倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 26年 1月 30日 直近の完成：令和 2年 12月 10日											
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)													
能力：容量1,940L													
13 機器等		温度圧力：											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		倍数の合計：1.94倍											
規模：胴長1,500mm、長径1,500mm、短径880mm、容量1,940L													
14 発生箇所													
名称：給油(注油)ホース 番号 (908)		17 物質の区分											
材質：ゴム		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (20L)											
15 発生時		18 取扱者の概要 経験年数47年											
運転状況：移送中 番号 (18)													
作業状況：運転操作中 番号 (1)													
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所からホームタンクに注油後、注油ホースを収納せずに発進させたところ、駐車中の車にノズルが引っかかり注油ホースが伸び、注油ホースの車両接続部が破損し、道路上に注油ホース内の灯油(最大20L)が流出したもの。なお、油吸着材を使用し油処理を実施した。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

25

主 原 因

操作確認不十分

着火原因

番号 ()

原

関 連 原 因

発生原因の状況：
注油ホースを収納せずに発進させ、駐車中の車にノズルが引っかかり注油ホースが延び、注油ホースの車両接続部が破損し、道路上に注油ホース内の灯油が流出したものの。

主原因の詳細

第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層
人	本人の意識	思慮	思い込み

関連原因の詳細

因

26 被害の状況

1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から

27 人 的 被 害

被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名
当 事 者	0	0	0	0		
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		

28 物的被害

被災影響範囲及び拡大の状況：
注油ホース内の灯油(最大20L)が事業所から約5.5km離れた道路上で幅1m、長さ20mにわたり漏えいした。

施設等の被害状況：
移動タンク貯蔵所の注油ホース及びドラム部分を破損。

29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況

消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人

物質の被害状況：
第4類第2石油類(非水溶性)灯油最大20L流出。

損害額 1万円未満、1万円以上(120 万円)

30 実施した防災活動の状況

公設消防機関：番号 (5)
回収作業

自衛防災・消防組織等 番号 ()

31 防災活動上の問題点

事故発生から直ちに通報されなかった。

32 施 設 名

使用停止 年 月 日

改善命令等 年 月 日

停止解除 年 月 日

関係条項

そ の 他 年 月 日

1. 文書 2. 口頭

33 定 期 点 検 等

定期・自主点検 年 月 日

気密試験等 年 月 日

保 安 検 査 年 月 日

34 当該施設に係る
法令違反の有無

有・無

内容：

35 今後の対策
や所見

従業員教育の徹底を指導。

令和5年

1 事故名		移動貯蔵タンクからホームタンクへ注入中、ホースの亀裂により灯油約10Lが漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		12月 22日 15時 00分				推定・ 確定		4 発 見		12月 22日 15時 00分			
5 覚 知		12月 22日 16時 15分				6 鎮 圧 応急処置完了				12月 22日 15時 30分			
7 鎮火・処理完了		12月 22日 15時 30分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：雪 風向：北北東 風速：2.7m/s 気温：3.8℃ 湿度：											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍											
		倍数の合計： 1.9倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		名 称：給油(注油)ホース 番 号 (908)											
能 力：容量 1,900L		材 質：ゴム											
13 機 器 等		15 発 生 時											
温 度 圧 力：		運 転 状 況：払出中 番 号 (10)											
名 称：その他 番 号 (999)		作 業 状 況：小分け・詰替中 番 号 (13)											
規 模：単一車 容量 1,900L		17 物 質 の 区 分											
		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(10L)											
		18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所からホームタンクへ注油作業中、注入ホースの亀裂部分から灯油約10Lが流出したもの。事故発生時、従業員にて吸着マット及び中和剤にて処理を実施し流出拡大はなし。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

原因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 事故発生の4ヶ月前から注入ホースの亀裂を確認していた。ホースの適正な維持管理がなされていなかった。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	設備	監理・保守	点検・整備	異常事態の放置				
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所の注入ホースの亀裂部より灯油約10Lが流出。 流出範囲は、敷地内コンクリート舗装面のみ。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油約10L流出。	
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (4) 注入ホース亀裂部分より少量の灯油が流出する可能性があるため、油粘土及び吸着マットにて処理する。					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策や所見		設備等の適切な維持管理、従業員の毎日点検の実施						

令和5年

1 事故名		ローリーにて移送中の硫黄漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		5月 8日 6時 35分				[推定]・確定		4 発生見		5月 8日 6時 41分			
5 覚知		5月 8日 9時 42分				6 鎮圧 応急処置完了				5月 8日 14時 40分			
7 鎮火・処理完了		5月 8日 14時 40分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：北北東 風速：9m/s 気温：12℃ 湿度：100%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 道路貨物運送業 特定番号 (4421) 貨物自動車運送業 特定貨物自動車運送業		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類硫黄 硫黄 13,080kg 130.8倍											
12 施設装置		倍数の合計：130.8倍 設置の完成：平成 23年 3月 10日 直近の完成：平成 23年 4月 12日											
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)													
能力：許可容量 13,080kg													
13 機器等		温度圧力：100℃											
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分類：第2類硫黄 名称：溶融硫黄(210kg)											
規模：第2類 硫黄 最大積載13,080kg													
14 発生箇所													
名称：安全弁 番号 (301)		18 取扱者の概要 経験年数5年											
材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：移送中 番号 (18)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
作業状況：運転操作中 番号 (1)													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から溶融硫黄(危険物第2類)が防護枠内から吹いた様相で道路上に漏えいしたものの。貯蔵タンク本体に破損はない。 6時35分頃、事業所に移送中、道路上約200mに掛けて漏えい。漏えい量に関しては約210kg、負傷者なし。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原因	25	主 原 因 監視不十分				着火原因				番号 ()																																				
	関 連 原 因																																													
	発生原因の状況： 雨水が入っているタンクに高温の溶融硫黄を積込んだことにより、蒸気が充満し、内圧が安全弁の規定値を超えた。 安全弁が開放状態になり、蒸気と硫黄が安全弁から吹出し漏えいに至った。																																													
	主原因の詳細																																													
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																				
	人			本人の意識			思慮			不注意																																				
	関連原因の詳細																																													
因																																														
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																														
27 人 的 被 害								28 物的被害																																						
<table><tr><td>被害内容等</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は職名</td></tr><tr><td>区分</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>当 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>防災活動従事者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 三 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>								被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 道路上約200mにかけて硫黄を漏えい。			
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																								
区分																																														
当 事 者	0	0	0	0																																										
防災活動従事者	0	0	0	0																																										
第 三 者	0	0	0	0																																										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								施設等の被害状況： 特になし。																																						
消 防 機 関						1 台 0 隻 0 機 3 人						自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人																																
消 防 団						0 台 0 隻 0 機 0 人						共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人																																
海上保安部						0 台 0 隻 0 機 0 人						応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人																																
その他の機関						0 台 0 隻 0 機 0 人		その他		1 台 0 隻 0 機 2 人		損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)																																		
30 実施した防災活動の状況																																														
公設消防機関：番号 (99) 現着時、硫黄は既に固化しており、火災予防上危険性がないため、回収を業者に任せ、情報収集を行った。								自衛防災・消防組織等 番号 ()																																						
31 防災活動上の問題点 発見から覚知までに2時間程経過しており、今回漏えい物が硫黄であったため、大事には至らなかったが、危険物の性質上、2次災害に発展することが考慮されることから、発生、発見を確認したら直ぐに、管轄消防、指令センターへ通報すべきである。																																														
行政措置	32	施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他																																	
	行	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検		令和 5 年 5 月 6 日		年 月 日																															
		改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等		令和 3 年 3 月 12 日		年 月 日																															
		停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査		年 月 日		年 月 日																															
	措	関係条項									34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無 内容：																																	
		そ の 他	年 月 日				年 月 日																																							
置		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭																																								
35		今後の対策 や所見										防護枠内に溜まった雨水が注入口からタンク内に入った可能性が非常に高く、注入口にシール用パッキンを取付け防止策を実施。																																		

令和5年

1 事故名		一般取扱所において、充填中であった移動タンク貯蔵所のコンテナ緊急遮断弁接続部分からの危険物の流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		7月 4日 13時 47分 推定・ 確定					4 発生見		7月 4日 13時 47分				
5 覚知		7月 4日 14時 40分					6 鎮圧 応急処置完了		7月 4日 15時 58分				
7 鎮火・処理完了		7月 4日 15時 58分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：東北東 風速：3m/s 気温：30℃ 湿度：49%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト 、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業(一貫して生産される誘導品を含む)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、 荷 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) ジ`シクロヘ`ンタジ`エン 24,000L 24倍											
		倍数の合計：24倍											
		設置の完成：平成 27年 5月 20日 直近の完成：年 月 日											
12 施設装置		17 物質の区分											
名称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
能力：		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
13 機器等		(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)											
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		(低温、 常温 [0-40℃]、高温)											
規模：容量24,000L		分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： ジ`シクロヘ`ンタジ`エン (100cc)											
14 発生箇所		18 取扱者の概要											
名称：緊急遮断弁 番 号 (207)													
材質：ステンレス													
15 発生時													
運 転 状 況：荷積中 番 号 (12)													
作 業 状 況： 番 号 ()													
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要			20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要			21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 危険物一般取扱所(オリゴマー充填場)において、充填中であった移動タンク貯蔵所のISO国際コンテナ緊急遮断弁接続部分からH- DCP(危険物第4類第2石油類)が漏えいしたものの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 緊急遮断弁グランド部からの漏えいを確認した。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設外への流出なし
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： ジシクロペンタジエン 100cc漏えい	
消 防 機 関	8 台 0 隻 0 機 25 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 4 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 2 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 情報収集					自衛防災・消防組織等 番号 (4) 流出防止措置			
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施 設 名			33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭						
35	今後の対策 や所見 緊急遮断弁の再点検を実施した。							

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所において、走行中に重油が3L流出した事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		4月 20日 12時 36分				推定・確定		4 発生見		4月 20日 13時 30分	
5 覚知		4月 20日 13時 40分				6 鎮圧 応急処置完了				4月 20日 13時 40分	
7 鎮火・処理完了		4月 20日 13時 40分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南南東 風速：1.4m/s 気温：25.1℃ 湿度：									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 4,500L 2.25倍									
		倍数の合計：2.25倍									
12 施設装置		設置の完成：平成 28年 8月 9日 直近の完成：年 月 日									
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)		17 物質の区分									
能力：容量4,500L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(3L)									
13 機器等		18 取扱者の概要									
温度圧力：		経験年数23年									
名称：その他 番号 (999)		19 危険物保安統括管理者									
規模：タンクの注入口		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要									
14 発生箇所		20 危険物保安監督者									
名称：タンクの注入口 番号 (905)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要									
材質：鋼鉄		21 危険物取扱者の取扱・立会い									
15 発生時		①. 有 2. 無									
運転状況：移送中 番号 (18)											
作業状況：その他 番号 (99)											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 事業所で重油1,000Lをタンクに注入後、注入口のふたを閉め忘れたまま自社へ向かって走行したため、重油3Lを流出させたもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

25

主原因

操作確認不十分

着火原因

番号（ ）

原因

関連原因

発生原因の状況：
通常は注入後、注入ホースを抜き注入口を閉鎖したことを確認した後に次の作業へ移るが、事故当日はその工程を失念し、注入口を閉鎖せずに車上からおり、また、運転前にも注入口の閉鎖を確認しなかった。

主原因の詳細

第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層
人	本人の意識	思慮	配慮不足

関連原因の詳細

26 被害の状況

1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から

27 人的被害

被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名
当 事 者	0	0	0	0		
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		

28 物的被害

被災影響範囲及び拡大の状況：
道路上最大幅1.3m、長さ168mにわたり、重油3L程度流出した。

施設等の被害状況：
防護枠内及び雨水排出ホース並びにホース先端付近にあるバッテリー固定場所付近に重油が溜まった。

29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況

消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人

物質の被害状況：
第4類第3石油類(非水溶性)重油3L程度流出。

損害額 1万円未満、1万円以上（ ）万円

30 実施した防災活動の状況

公設消防機関：番号（ 99 ）
調査出向

自衛防災・消防組織等 番号（ ）

31 防災活動上の問題点

流出に気づくまでに時間を要しており、通報に時間を要している。毎朝の朝礼で社長が事故防止等の保安教育を実施しているところであるが、その確認について従業員個々に任せている。

32 施設名

移動タンク貯蔵所

33 定期点検等

消 防 法

そ の 他

使用停止

年 月 日

年 月 日

改善命令等

年 月 日

年 月 日

停止解除

年 月 日

年 月 日

保安検査

年 月 日

年 月 日

関係条項

法第13条の2第6項

34 当該施設に係る

有・無

法令違反の有無

法令違反の有無

その他

令和 5 年 4 月 20 日

年 月 日

①. 文書 2. 口頭

1. 文書 2. 口頭

35 今後の対策
や所見

持続的な保安教育の実施。注意喚起のためのシールをハンドル脇の確認しやすい場所に貼る。

令和5年

1 事 故 名		移動タンク貯蔵所のタンク注入口蓋のロックを閉め忘れたため、走行中に軽油が流出											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		5月 23日 18時 00分				[推定]・確定		4 発 見		5月 23日 18時 20分			
5 覚 知		5月 23日 18時 38分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了				5月 23日 19時 35分			
7 鎮火・処理完了		5月 23日 19時 35分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：雨 風向：北 風速：2.6m/s 気温：13.6℃ 湿度：92%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソ リンスタンドを除く)		区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 2,400L 2.4倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,200L 1.2倍											
		倍数の合計：3.6倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		名 称：マンホール 番 号 (305)											
能 力：許可倍数3.6倍		材 質：鋼鉄											
13 機 器 等		15 発 生 時											
温 度 圧 力：		運 転 状 況：移送中 番 号 (18)											
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)											
規 模：2,400L×1、1,200L×1		18 取扱者の概要											
		経験年数30年											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 事業所の従業員は、タンク注入口蓋のロックを閉め忘れ、防護枠配管ドレンを開いたままタンクローリーを運行したため、道路上約300mにわたり軽油約20Lが流出したものの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原 因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 従業員は、タンク注入口蓋のロックを閉め忘れ、防護枠配管ドレンを開いたままタンクローリーを運行した。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		不注意	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害							28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 道路上約300mにわたり軽油が約20L流出したもの。
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 危険物施設への被害はなし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	3 台 0 隻 0 機 13 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油約20L流出
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)
公設消防機関：番号 (5) 油処理剤4袋を活用し、路上に流出していた軽油約20Lを回収した。							自衛防災・消防組織等 番号 ()	
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施 設 名			33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		年 月 日		年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日		年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査		年 月 日		年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭 危険物の規制に関する政令第30条の2第1号に定める点検について、適切に実施すること。						

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所の吐出口のバタフライ弁破損によるガソリンの流出事故														
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()														
3 発 生		10月 25日 11時 15分 推定・ 確定					4 発 見		10月 25日 11時 15分							
5 覚 知		10月 25日 11時 15分					6 鎮 圧 応急処置完了		10月 25日 12時 50分							
7 鎮火・処理完了		10月 25日 12時 50分														
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (消防職員立会い時に流出を現認)														
9 気 象 状 況		天気：快晴 風向：北北西 風速：3m/s 気温：20.6℃ 湿度：62%														
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソ リンスタンドを除く)					11 発 生 場 所					区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 4,000L 20倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,000L 4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 4,000L 2倍 倍数の合計： 26倍 設置の完成：平成 15年 11月 20日 直近の完成：平成 17年 4月 20日				
12 施 設 装 置							17 物 質 の 区 分									
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)							①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(1L)									
能 力：タンク容量(2kL×1基、1kL×2基)																
13 機 器 等 温 度 圧 力：																
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		18 取扱者の概要					19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
規 模：径180mm																
14 発 生 箇 所		名 称：制御弁 番 号 (205)					材 質：ゴム									
15 発 生 時		運 転 状 況：移送中 番 号 (18)					作 業 状 況：その他 番 号 (99)									
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無														
23 事故の概要：		ガソリン4,000Lを積載し移送状態の移動タンク貯蔵所が、荷卸し場である事業所の敷地内に入り荷卸しをしようとした際、移動タンク貯蔵所が走行してきた場所及び周囲に危険物の流出が認められたもの。														
24 緊急処置の状況		有 番号 () 無														

25

主 原 因

腐食疲労等劣化

着火原因

番号 ()

原

関 連 原 因

発生原因の状況：
バタフライ弁の使用年数は約19年11カ月であり、設置許可されてから一度も交換等はされていない。消防法に基づく定期点検及び
運行前の日常点検において異常は確認されなかった。

主原因の詳細

第Ⅰ層

第Ⅱ層

第Ⅲ層

第Ⅳ層

疲労・劣化

素材等の劣化

長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）

関連原因の詳細

因

26 被害の状況

1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から

27 人 的 被 害

28 物的被害

被害内容等

区分

死亡

重症

中等症

軽症

死傷原因

職業又は職名

被災影響範囲及び拡大の状況：
荷卸し先の事業所の敷地内にガソリンが流出した。

当 事 者

0

0

0

0

防災活動従事者

0

0

0

0

第 三 者

0

0

0

0

29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況

消 防 機 関

2 台

0 隻

0 機

9 人

自 衛

0 台

0 隻

0 機

0 人

物質の被害状況：
第4類第1石油類(非水溶性)1Lが流出

消 防 団

0 台

0 隻

0 機

0 人

共 同

0 台

0 隻

0 機

0 人

海上保安部

0 台

0 隻

0 機

0 人

応 援

0 台

0 隻

0 機

0 人

その他の機関

0 台

0 隻

0 機

0 人

その他

0 台

0 隻

0 機

0 人

損害額

1 万円未満

、1 万円以上 () 万円

30 実施した防災活動の状況

公設消防機関：番号 (99)

自衛防災・消防組織等 番号 ()

火災発生に備え警戒ホースを延長するとともに、消防警戒区域を設定し関係者以外の立ち入りを制限するなどした。

31 防災活動上の問題点

32 施 設 名

使用停止

年 月 日

年 月 日

改善命令等

年 月 日

年 月 日

停止解除

年 月 日

年 月 日

関係条項

そ の 他

年 月 日

年 月 日

1. 文書 2. 口頭

1. 文書 2. 口頭

33 定 期 点 検 等

定期・自主点検

令和 5 年 4 月 1 日

年 月 日

気密試験等

令和 元 年 6 月 22 日

年 月 日

保 安 検 査

年 月 日

年 月 日

34 当該施設に係る法令違反の有無

有・無

内容：
消防法第10条第3項、製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反

35 今後の対策や所見

バタフライ弁交換工事に伴い、移動タンク貯蔵所の常置場所を管轄する消防署に変更許可申請をするとともに、当該申請に係る完成検査を実施する。

令和5年

1 事故名		交通事故により移動タンク貯蔵所のタンクからガソリン流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		10月 20日 12時 30分 推定・ 確定					4 発生見		10月 20日 12時 30分				
5 覚知		10月 20日 12時 33分					6 鎮圧 応急処置完了		10月 20日 13時 56分				
7 鎮火・処理完了		10月 20日 13時 56分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南南西 風速：7.8m/s 気温：26.1℃ 湿度：61%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 その他) 業態：運輸業 道路貨物運送業 特定番号 (4421) 貨物自動車運送業 特定貨物自動車運送業		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 16,000L 80倍											
12 施設装置		設置の完成：令和 4年 11月 26日 直近の完成：令和 4年 11月 26日											
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303) 能力：最大数量16kL													
13 機器等													
温度圧力：		倍数の合計：80倍											
名称：貯槽(タンク) 番号 (107) 規模：短径1,400mm、長径2,450mm、胴長5,920mm													
14 発生箇所													
名称：タンク側板 番号 (101) 材質：アルミニウム		17 物質の区分											
15 発生時		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(100L)											
		18 取扱者の概要											
		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 16kLローリーの6室全室にガソリンを荷積みした後、道路を走行していたところ、右車線でUターンしようとしていた大型トラックが突然バックしたことにより、左車線を走行していたローリーのタンク本体右側面と大型トラックの右後方が接触し、4室目(2kL)の積荷のガソリンが流出したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 交通事故						着火原因				番号 ()	
	関 連 原 因 破損											
	発生原因の状況： 右車線でUターンしようとしていた大型トラックが突然バックしたことにより、左車線を走行していたローリーのタンク本体右側面と大型トラックの右後方部が接触し、破損したものの。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	交通事故			その他			追突を受ける					
	関連原因の詳細											
	破損			定常運転時			車両等の接触					
因												
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害								28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所のタンク側面から道路上に、ガソリンが幅約3m、長さ約10mにわたり流出した				
区分												
当 事 者	0	0	0	0								
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 移動貯蔵タンク本体右側面部破損				
第 三 者	0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	6 台	0 隻	0 機	22 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ガソリン約100L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (2,000 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99、4、5) ・警戒筒先配備 ・検知活動 ・情報収集						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点												
32	施 設 名	移動タンク貯蔵所				33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他		
	使用停止	令和 5 年 10 月 20 日				年 月 日		令和 4 年 11 月 7 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日		年 月 日		年 月 日		
	関係条項	消防法第12条の3				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有 ・無 内容： 法第10条第3項				
	そ の 他	年 月 日				年 月 日						
		①. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭						
35		今後の対策 や所見 周囲を注視する。										

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所から灯油ホームタンクに注油後、注油ホースが破損し、灯油が流出した事故							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発 生		2月 28日 11時 00分		[推定]・確定		4 発 見		2月 28日 11時 00分	
5 覚 知		2月 28日 11時 54分		6 鎮 圧 応急処置完了		2月 28日 12時 40分			
7 鎮火・処理完了		2月 28日 12時 40分							
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()							
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 南西 風速： 4m/s 気温： 14℃ 湿度： 67%							
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソ リンスタンドを除く)				11 発 生 場 所		区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,700L 3.7倍 倍数の合計： 3.7倍 設 置 の 完 成： 平成 13年 3月 5日 直 近 の 完 成： 年 月 日	
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分			
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
能 力： 3,700L						5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
13 機 器 等						温度圧力：			
名 称： 運搬車 番 号 (602)		模 式： 3,700L		18 取扱者の概要		経験年数27年			
14 発 生 箇 所		名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908)		材 質： 鋳鉄		19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
15 発 生 時		運 転 状 況： その他 番 号 (99)		作 業 状 況： 小分け・詰替中 番 号 (13)		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無							
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無									
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から家庭用ホームタンクへ灯油を注油後、注油ホースを接続したまま車両を発進させたため注入ホースが破損、敷 地内及び県道上に灯油約188Lが流出。									
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]									

原 因	25 主 原 因	操作確認不十分				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因	操作未実施											
	発生原因の状況： 注入ホース等を収納せずにその場を離れてしまい、収納未実施なのを失念し作業が終わったと勘違いしてしまった。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	人			本人の意識			思慮			思い込み			
	関連原因の詳細												
26 被害の状況	1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人 的 被 害									28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 自宅敷地から県道に至るまでの私道への漏れいは幅約1m、長さ約5m、県道上には幅約1m長さ約200mに流出。					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 注入ホースエルボが破損して離脱					
	第 三 者	0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油188L流出									
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人										
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人										
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 1 人	そ の 他	1 台 0 隻 0 機 3 人										
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (5) 油中和剤の散布及び油吸着マットにて回収								自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点													
32 施設名	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和4年 9月 30日		年 月 日			
		年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和3年 3月 10日		年 月 日			
		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無 内容：					
	そ の 他	年 月 日		年 月 日									
35 今後の対策や所見													
当該事業所に対し、従業員への安全教育を徹底するよう指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。													

令和5年

1 事 故 名		ホームタンクに注油ノズルを入れたまま移動タンクを発進させ、灯油が漏えいしたもの											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		3月 28日 10時 30分				[推定]・確定		4 発 見		3月 28日 10時 37分			
5 覚 知		3月 28日 10時 40分				6 鎮 圧 応急処置完了				3月 28日 12時 41分			
7 鎮火・処理完了		3月 28日 12時 41分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北北東 風速：4m/s 気温：8.6℃ 湿度：52.7%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソ リンスタンドを除く)		区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,940L 1.94倍											
		倍数の合計：1.94倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		名 称：給油(注油)ホース 番 号 (908)											
能 力：		材 質：アルミニウム											
13 機 器 等		15 発 生 時											
温 度 圧 力：		運 転 状 況：その他 番 号 (99)											
名 称：その他 番 号 (999)		作 業 状 況：その他 番 号 (99)											
規 模：注油ホースの結合金具が破損漏えい		18 取扱者の概要											
		経験年数19年											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所の注入ノズルをホームタンクに差し込んだことを失念し、車両を発進させたことによりホームタンクが引き倒され、灯油約250Lが敷地及び側溝に流出するとともに、注入ホースの結合金具が破損し灯油約100Lが道路、側溝に流出したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

25	主 原 因 監視不十分				着火原因				番号 ()				
原因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 灯油配達員がホームタンクの上部注油口に移動タンク貯蔵所(1,940L)の注油ノズルを差し込み、注油をせずに移動タンク貯蔵所に 戻り伝票を整理したところ、注入ホースを入れたことを失念し移動タンクを発進、ホームタンクが引き倒され、灯油(250L)が流出す るとともに移動タンク貯蔵所のホースの結合金具が破損し灯油(100L)が流出したものの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	人			本人の意識			思慮			配慮不足			
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27	人 的 被 害							28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油が側溝、道路に流れ出たもの。					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： ホース結合金具破損。					
	第 三 者	0	0	0	0								
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 9 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 350L流出。									
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同										0 台 0 隻 0 機 0 人
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援										0 台 0 隻 0 機 0 人
	その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他										0 台 0 隻 0 機 0 人
30	実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (5) 回収作業							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31	防災活動上の問題点 通報せずにその場を離れる。												
32 施設名	移動タンク貯蔵所					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他					
	使用停止	令和 5 年 3 月 28 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日					
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		令和 3 年 11 月 1 日	年 月 日					
	停止解除	令和 5 年 4 月 12 日	年 月 日		保 安 検 査		年 月 日	年 月 日					
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第11条第1項 製造所等、設備(注入ノズル) の無許可変更						
	そ の 他	年 月 日		年 月 日									
35	今後の対策 や所見 作業前、作業後の確実な安全確認による人為的過失の防止の為、他の社員も含めた全社員に対する安全教育の徹底。												

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所から移動タンク(少量危険物)へ不適当な操作で移し替えたことによる灯油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		1月 12日 7時 00分				[推定]・確定		4 発 見		1月 12日 9時 40分	
5 覚 知		1月 12日 9時 42分				6 鎮 圧 応急処置完了				1月 12日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了		1月 12日 11時 06分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 南南西 風速： 2.2m/s 気温： 11.5℃ 湿度： 41%									
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所									
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソ リンスタンドを除く)		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,500L 2.5倍									
12 施 設 装 置		設置の完成： 平成 28年 10月 27日 直近の完成： 平成 28年 10月 27日									
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)											
能 力： 容量2,500L											
13 機 器 等		温度圧力：									
名 称： その他 番 号 (999)		倍数の合計： 2.5倍									
規 模： 吐出量 毎分60L											
14 発 生 箇 所											
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)		17 物 質 の 区 分									
材 質： その他		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (50L)									
15 発 生 時		18 取扱者の概要 経験年数10年									
運 転 状 況： 払出中 番 号 (10)		19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事 故 の 概 要： 従業員Aが灯油を移し替えるために移動タンク貯蔵所の注入ノズルを移動タンク(少量危険物)のマンホールに挿入し、従業員Bに監視を依頼したが、Bが監視を怠ったため満量となった移動タンクのマンホールから約50Lが漏えいしたもの。なお、移動タンク貯蔵所の注入ノズルにはレバーを開放状態で固定できるように器具が挟まれていた。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

25	主 原 因 監視不十分				着火原因				番号 ()																														
原 因	関 連 原 因																																						
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所の注入ノズルにはレバーを開放状態で固定できるように器具が挟まれていた。 注入ノズルの満量停止装置は作動しなかった。																																						
	主原因の詳細																																						
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																													
	人			本人の意識			違反(故意)			問題意識の不足																													
因	関連原因の詳細																																						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																							
27 人的被害								28 物的被害																															
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンクから灯油約50Lが漏えいし、一部が施設外の側溝を經由して100m以上離れた河川に流出した。			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																	
当 事 者	0	0	0	0																																			
防災活動従事者	0	0	0	0																																			
第 三 者	0	0	0	0																																			
								施設等の被害状況： なし																															
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																							
消 防 機 関		2 台 0 隻 0 機 7 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油50L流出																															
消 防 団		1 台 0 隻 0 機 7 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人																																	
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人																																	
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		そ の 他		0 台 0 隻 0 機 0 人																																	
								損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																															
30 実施した防災活動の状況																																							
公設消防機関：番号 (5、99) 吸着マットによる除去 調査活動								自衛防災・消防組織等 番号 (5) ウェスによる除去																															
31 防災活動上の問題点 漏えい時、通報を怠った。付近民から通報を受けて出動した消防隊に漏えいの事実を申し出た。																																							
32 行政措置	施設名							33 定期点検等	消 防 法	そ の 他																													
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日	年 月 日																													
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日																													
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日																													
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 法10条3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 法14条の3の2 点検記録の作成及び保存の義務違反																														
	そ の 他	警告 令和 5 年 1 月 18 日 ①. 文書 2. 口頭			年 月 日 1. 文書 2. 口頭																																		
35 今後の対策 や所見		敷地内は複数の移動タンク貯蔵所の常置場所となっているが、従業員の供述によれば、このような不適切な方法(ノズルを開放状態で固定、ドロップパイプを用いない)による貯蔵所間での危険物の移し替えは常態として行われていた。また、従業員らは今回の事故に至った行為が取扱いの基準に抵触する違反行為であることを認識しており、会社側もこれらの行為が日常的に行われていることを認識しながら放置していて危機意識が著しく欠如した状況であった。 従業員が違反であることを認識しながら行っていたもので、取扱いの基準を教育するだけでは不十分であり会社として違反を行わない体制を構築する必要がある。																																					

令和5年

1 事故名		移動タンク車両と2tトラックとの接触による流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		12月 25日 12時 46分				[推定]・確定		4 発生見		12月 25日 12時 47分			
5 覚知		12月 25日 12時 47分				6 鎮圧 応急処置完了				12月 25日 13時 10分			
7 鎮火・処理完了		12月 25日 14時 00分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東北東 風速：0.8m/s 気温：7.9℃ 湿度：30.2%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 運輸に附帯するサービス番号 (4899) ス業 その他の運輸に附帯するサービス業 他に分類されない運輸に附帯するサービス業		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 2,400L 2.4倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,000L 1倍											
		倍数の合計：3.4倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)		設置の完成：令和4年12月6日 直近の完成：令和5年1月17日											
能力：3,400L		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(4L)											
温度圧力：		18 取扱者の概要											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要											
規模：配管損傷		20 危険物保安監督者 ③. 不要											
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要											
名称：その他の附属配管等 番号 (299)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
材質：鋼鉄		23 事故の概要： 移動タンク車両と2tトラックによる接触事故。移動タンク車両の配管部分に接触し配管より灯油が流出したもの。											
15 発生時		24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]											
運転状況：運搬中 番号 (11)													
作業状況：運転操作中 番号 (1)													

原 因	25 主 原 因		交通事故		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因		交通事故							
	発生原因の状況：									
	2tトラックが白線をはみ出し接触。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	交通事故		運転操作		その他運転操作ミス					
因	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害							28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク車両配管部分より約5m程度に渡り灯油が約4L流出している状態。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管の損傷		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 配管より約4Lの灯油が流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況									損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)	
公設消防機関：番号 (4、5、99)							自衛防災・消防組織等 番号 ()			
流出防止措置、回収作業										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	令和 5 年 7 月 3 日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
	そ の 他	年 月 日		年 月 日			内容：			
	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
	35 今後の対策 や所見		今回の接触流出事故で配管部分の損傷により灯油が4L流出したが今後は事故等により破損流出した場合は速やかに流出防止措置を行うよう指導する。							

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所からの灯油流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		11月 1日 8時 30分				[推定]・確定		4 発 見		11月 1日 8時 30分			
5 覚 知		11月 1日 10時 30分				6 鎮 圧 応急処置完了				11月 1日 11時 30分			
7 鎮火・処理完了		11月 1日 11時 30分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 東 風速： 1m/s 気温： 10℃ 湿度： 98%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソ リンスタンドを除く)		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍											
		倍数の合計： 20倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		名 称： マンホール 番 号 (305)											
能 力：		材 質： ステンレス											
13 機 器 等		温 度 圧 力：											
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)		17 物 質 の 区 分											
規 模： 全長8,260mm、幅2,490mm、容量20kL		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (4L)											
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要											
名 称： マンホール 番 号 (305)		経験年数29年											
材 質： ステンレス		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要											
15 発 生 時		21 危険物取扱者の取扱・立会い											
運 転 状 況： 運搬中 番 号 (11)		①. 有 2. 無											
作 業 状 況： その他 番 号 (99)													
19 危険物保安統括管理者		20 危険物保安監督者											
1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 地下タンクへの送油のためタンク上部の注入口を開け確認。その後送油を終え車両を動かしたところ注入口のマンホールが完全にロックされておらず車両の揺れにより灯油約4Lが給油取扱所敷地内に流出した。運転者が吸着マットを使用し応急措置を実施した。河川への流出なし。また、死傷者は発生していない。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

原 因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： タンク内確認後マンホールのロックを確認しないまま車両を走行させたためマンホールから流出した。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
	人		本人の意識		思慮		不注意						
	人		本人の意識		思慮		配慮不足						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害						28 物的被害							
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク内から流出したが給油取扱所敷地内にとどまっている。また、吸着マットにて処理が完了した。					
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0								
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) 灯油約4L流出							
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛				0 台	0 隻	0 機	0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同				0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援				0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 河川等への流出の有無及び流出量について確認を実施。また、流出処理を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
31 防災活動上の問題点													
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他					
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日						
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日						
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日						
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：						
	そ の 他	年 月 日	年 月 日										
35 今後の対策 や所見		従業員への安全教育の実施。											

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所において移送中の安全管理不十分により停車中の車両に接触したことによる灯油の流出事故										
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()										
3 発生		12月	12日	12時	20分	[推定]・確定		4 発生見	12月	12日	12時	20分
5 覚知		12月	12日	12時	29分			6 鎮圧 応急処置完了	12月	12日	12時	40分
7 鎮火・処理完了		12月	12日	12時	40分							
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (近くをたまたま消防職員が通ったため消防職員が通報した)										
9 気象状況		天気：曇			風向：東北東			風速：5m/s		気温：11℃		湿度：87%
10 発生事業所		11 発生場所										
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6099) 他に分類されない小売業 他に 分類されないその他の小売業	区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名：											
	16 発生施設規制区分等											
	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000L 4倍											
	倍数の合計：4倍											
12 施設装置		14 発生箇所										
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)		設置の完成：平成 28年 7月 25日 直近の完成：平成 28年 7月 26日										
能力：灯油最大数量4,000L		17 物質の区分										
13 機器等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (5L)										
温度圧力：		18 取扱者の概要										
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要										
規模：胴長2,850mm、幅2,000mm、高さ1,000mm、容量4,000L		20 危険物保安監督者 ③. 不要										
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要										
名称：給油管等 番号 (907)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無										
材質：鋼鉄		23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所で灯油を移送中、路肩に停車していた車両を避けようとハンドルを切ったがうまく避けきれず停車中の車両と移動タンク貯蔵所の左側面が接触したもの。その際、タンク底弁が開放状態だったため、損傷した配管から灯油約5Lが道路上に流出した。										
15 発生時		24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止										
運転状況：移送中 番号 (18)												
作業状況：運転操作中 番号 (1)												

原 因	25 主 原 因		交通事故		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 危険物取扱者の周囲の安全確認の確認不足によるもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	交通事故		運転操作		ハンドル操作ミス			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害						28 物的被害		
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 路上に停車していた車両の一部破損
当 事 者		0	0	0	0			
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所の配管及びタンクの一部損傷
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関		3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 灯油約5Lが道路上へ流出
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関		1 台	0 隻	0 機	1 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (100 万円)
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (5) 油吸着材による吸着						自衛防災・消防組織等 番号 ()		
31 防災活動上の問題点 速やかに通報している。再発防止計画の作成。								
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保 安 検 査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有 ・無 内容： 消防法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反	
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				
35 今後の対策 や所見		事故を起こした危険物取扱者に法第10条第3項貯蔵及び取り扱いの基準違反(4点)、法第16条の2第2項移動タンク貯蔵所の基準義務違反(3点)、事故加点(2点)また、事故のほかに消防法違反があったため、危険物取扱者に対し法第11条第1項製造所等の無許可変更(その他もの)(3点)、法第12条第1項製造所等の位置、構造及び設備の違反(その他もの)(3点)合計15点を減点した。						

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所の上部マンホールの閉止が不完全であったため、走行中に危険物が流出したもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		1月 18日 12時 30分 推定・ 確定					4 発生見		1月 18日 12時 45分		
5 覚知		1月 18日 14時 30分					6 鎮圧 応急処置完了		1月 18日 14時 30分		
7 鎮火・処理完了		1月 18日 19時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北北西 風速：0.3m/s 気温：10.5℃ 湿度：70.4%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 道路貨物運送業 一般番号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) プロスルホカルブ 原体 26,000L 13倍									
		倍数の合計：13倍									
12 施設装置		名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303) 能力：26,000L									
13 機器等		温度圧力：									
名称：貯槽(タンク)		番号 (107)									
規模：国際輸送用タンクコンテナ(26,000L)											
14 発生箇所		設置の完成：平成 30年 12月 7日 直近の完成：年 月 日									
名称：マンホール		番号 (305)									
材質：鋼鉄		17 物質の区分									
15 発生時		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： プロスルホカルブ 原体(10L)									
運転状況：移送中		番号 (18)									
作業状況：運転操作中		番号 (1)									
18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所に第4類第3石油類(非水溶性)プロスルホカルブ原体を荷積みし、上部マンホールを閉止したものの、ボルトの締め付けが不十分であった。移送のために敷地外へ出発後、車体の揺れにより上部マンホールの隙間から同危険物が漏れ、マンホール枠内に設置された雨水排出用のドレンホースを伝い道路へと漏えいしたものの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

原因	25 主 原 因	施工不良				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因	操作確認不十分											
	発生原因の状況：	上部マンホールのボルトを締め付けたものの、6か所中2か所が緩んでおり、その後の点検でも発見することができなかった。											
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層	第Ⅱ層			第Ⅲ層				第Ⅳ層				
	施工不良	施工			ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）								
	関連原因の詳細												
	人	本人の意識			思慮				思い込み				
	因												
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害								28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 事業所から目的地までの走行ルート約2kmに渡って、約10Lの危険物が道路上に漏えいした。走行中であつたため道路上に線状に漏えいしており、液だまり等はなかった。					
区分													
当 事 者	0	0	0	0									
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0									
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)プロスルホカルブ原体10L流出								
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人									
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人									
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他		0 台 0 隻 0 機 0 人									
30 実施した防災活動の状況								損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)					
公設消防機関：番号 ()								自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 4 年 9 月 25 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		平成 30 年 1 月 1 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保 安 検 査		年 月 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		☒ 有・無 内容： 危政令第26条第1項第9号 完成検査済証等の車両積載義務違反 危政令第30条の2第1項第1号 移送前点検義務違反					
	そ の 他	年 月 日		年 月 日									
35	今後の対策や所見	マンホール閉止作業後にタンク内を窒素加圧し、気密テストにて漏えいがないことを確認する工程を手順リストに追加する。											

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所から給油取扱所へ荷卸する際に吐出口の閉鎖を失念したことによるガソリンの流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		2月 11日 14時 02分				推定・ 確定		4 発生見		2月 11日 14時 03分	
5 覚知		2月 11日 14時 04分				6 鎮圧 応急処置完了				2月 11日 14時 05分	
7 鎮火・処理完了		2月 11日 16時 40分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北北西 風速：2.6m/s 気温：13.6℃ 湿度：27.4%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 道路貨物運送業 一般番号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 12,000L 60倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 2,000L 2倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,000L 2倍									
		倍数の合計：64倍									
12 施設装置		14 発生箇所									
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303) 能力：16,000L		名称：開閉弁 番号 (204) 材質：鋼鉄									
13 機器等		温度圧力：									
名称：その他 番号 (999) 規模：タンク容量16,000L		設置の完成：平成 29年 7月 14日 直近の完成：平成 29年 7月 14日									
14 発生箇所		17 物質の区分									
名称：開閉弁 番号 (204) 材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(250L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：荷卸中 番号 (13) 作業状況：その他 番号 (99)		経験年数13年									
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 顧客自ら給油等をさせる給油取扱所において、移動タンク貯蔵所が荷卸しをしていたところ、吐出口の閉鎖を失念し、ガソリン250Lが流出したものの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他											

25	主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()				
原 因	関 連 原 因 操作確認不十分、監視不十分										
	発生原因の状況： 軽油の荷卸し後に灯油の荷卸しを行い、配管内に残った灯油を排出するために、車両左前方の吐出口を開放したが、閉鎖することを失念し車両右側の吐出口からガソリンの荷卸しを行ったため、ガソリンを漏えいさせたもの。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
	人		本人の意識		思慮		思い込み				
	管理		監督		監視		監視が実施されない/不足				
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害							28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出したガソリンが雨水管に入り約400mにわたり汚染した。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 給油取扱所復旧までの間の営業停止			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	5 台 0 隻 0 機 15 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶)ガソリン250L流出							
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人								
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人								
その他の機関	4 台 0 隻 0 機 5 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人								
損害額		1万円未満、1万円以上 (万円)									
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4、5) ・化学車から50mmホースを2本延長し警戒筒先の配備 ・油水分離槽内のガソリンの除去 ・雨水管内へオイルメディアの散布及びタンク水による希釈						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 雨水管の配管経路の把握が困難であった。											
32 施設名	移動タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		令和 4 年 5 月 31 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		平成 30 年 3 月 29 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項	法第11条の5第2項				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無			
	そ の 他	警告						内容：			
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策や所見		荷卸時、双方の確認を徹底させる。(令和5年4月13日に訓練実施済)									

令和5年

1 事故名		廃油回収作業中の移動タンク貯蔵所からの漏えい事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		3月 31日 13時 20分				推定・ 確定		4 発生見		3月 31日 13時 20分	
5 覚知		3月 31日 14時 50分				6 鎮圧 応急処置完了		3月 31日 16時 30分			
7 鎮火・処理完了		3月 31日 16時 30分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北東 風速： 気温： 湿度：									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 その他) 業態：運輸業 道路貨物運送業 一般番号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 廃油 6,000L 1倍									
		設置の完成：平成 27年 10月 13日 直近の完成：平成 27年 10月 13日 倍数の合計：1倍									
12 施設装置		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：廃油 (100L)									
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)											
能力：											
13 機器等											
温度圧力：0.7Mpa		18 取扱者の概要									
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)											
規模：6,000L											
14 発生箇所											
名称：マンホール 番号 (305)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
材質：鋼鉄											
15 発生時											
運転状況：受入中 番号 (9)											
作業状況：監視中 番号 (10)											
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無									
23 事故の概要：		廃油タンクから移動タンク貯蔵所へ廃油(エンジンオイル)600Lの回収作業を行っていたところ、タンク上部のハッチから漏えいした。1室が最大容量2,000Lのところに、1,500Lの廃油が既に入っている状態で廃油600Lの回収作業を行ったためオーバーフローし、駐車場内へ100L程度漏えいしたものの。									
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原 因	25 主 原 因	監視不十分				着火原因				番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分														
	発生原因の状況： 最大容量2,000Lの移動タンク貯蔵所に、あらかじめ1,500Lの廃油が入っており、600Lの廃油を入れればオーバーフローすることが分かっているのにも関わらず、作業途中の液面監視作業を怠った。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	人			本人の意識			違反(故意)			問題意識の不足					
	管理			組織			人員配置(役割・責任)			人の配置が不適切					
	制度			規則・手順			内容・周知			規則・手順がない/文書化されない					
	関連原因の詳細														
	環境			社会的環境			雰囲気			安全に対する意識が低い					
因															
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人的被害								28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内駐車場に廃油100Lが流出							
区分															
当 事 者	0	0	0	0											
防災活動従事者	0	0	0	0											
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 駐車場約4㎡へ流出							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻					0 機	0 人	物質の被害状況： 廃油100L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻					0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)					
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 ()								自衛防災・消防組織等 番号 ()							
31 防災活動上の問題点															
32 施設名									33 定期点検等	消 防 法		そ の 他			
	使用停止				年 月 日					年 月 日		年 月 日			
	改善命令等				年 月 日					年 月 日		年 月 日			
	停止解除				年 月 日					年 月 日		年 月 日			
	関係条項								34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：					
	そ の 他				年 月 日										
1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭											
35 今後の対策や所見															
作業前に、排出事業者と移動タンク貯蔵所の乗務員により、回収する廃油の量及びタンクの空き容量をダブルチェックする。															

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所から軽油が道路上に流出した事故												
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()												
3 発 生		11月 30日 6時 00分				推定・確定		4 発 見		11月 30日 6時 00分				
5 覚 知		11月 30日 9時 07分				6 鎮 圧 応急処置完了				11月 30日 10時 00分				
7 鎮火・処理完了		11月 30日 10時 00分												
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()												
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北東 風速：2m/s 気温：11℃ 湿度：64%												
10 発 生 事 業 所					11 発 生 場 所									
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業					区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他)					特別防災地区名：				
					16 発生施設規制区分等									
					施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他									
					貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所									
					類・品名・名称・数量・倍数：									
					第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 3,000L 15倍									
					第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 3,000L 3倍									
					第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,000L 1.5倍									
12 施 設 装 置														
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)														
能 力：														
13 機 器 等					温 度 圧 力：常温、常圧									
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)														
規 模：容量3,000L														
14 発 生 箇 所														
名 称：タンクの注入口 番 号 (905)														
材 質：鋼鉄														
15 発 生 時														
運 転 状 況：移送中 番 号 (18)														
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)														
					設置の完成：平成 13年 1月 31日									
					直近の完成：平成 13年 1月 31日									
					17 物質の区分									
					①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス									
					5. 毒物 6. 劇物 7. その他									
					(固相、液相、気相) (常圧、加圧)									
					(低温、常温 [0-40℃]、高温)									
					分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油									
					18 取扱者の概要									
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要			20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要			21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無														
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所に軽油を充填後、敷地内から道路上に出る時にブレーキをかけた際に、タンクの注入口を閉め忘れていたため、道路上に軽油が流出する。直ちに中和剤にて漏油処理を実施するも、消防機関には通報せず。														
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他														

原 因	25 主 原 因		操作未実施		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 危険物取扱者が配達の準備を急いでいたため、移動タンク貯蔵所の注入口を閉め忘れたことが流出事故に繋がった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人 的 被 害						28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 軽油が敷地外(道路上)に幅約4m、長さ約14mにわたり流出する。			
当 事 者		0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 無し。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関		2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 軽油の流出。(流出量は不明。)
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5) 吸着マットにて、漏油処理を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 危険物取扱者が漏油処理を実施しているものの、軽油が道路上に流出しており、後に119番通報されていることから、危険物取扱者自身が消防機関へ通報すべきであった。											
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	平成 30 年 11 月 19 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保 安 検 査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
	そ の 他	年 月 日									
35 今後の対策 や所見		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭 操作確認の徹底。									

1 事故名		移動タンク貯蔵所の注入ホースが破断したことによる灯油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		12月 22日 11時 00分				推定・ 確定		4 発生見		12月 22日 11時 20分	
5 覚知		12月 22日 11時 30分				6 鎮圧 応急処置完了				12月 22日 11時 47分	
7 鎮火・処理完了		12月 22日 12時 05分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：西 風速：7.9m/s 気温： 湿度：									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,350L 1.35倍									
		倍数の合計： 1.35倍									
12 施設装置		名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303) 能力：1,350L									
13 機器等		温度圧力： 名称：その他 番号 (999) 規模：ホース長さ30m、内径φ22									
14 発生箇所		設置の完成：平成 22年 11月 22日 直近の完成：令和 5年 4月 19日									
名称：ホース(給油、注油及び注入ホースを除く) 番号 (211) 材質：ゴム		17 物質の区分									
		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(9.4L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：定常運転中 番号 (1) 作業状況：運転操作中 番号 (1)		経験年数42年									
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事故の概要： 事業所の従業員が移動タンク貯蔵所で配達先に到着した際に、注入ホースが根本から破断しており、ホースがないことを発見する。その後、通ってきた道に戻ると信号機付交差点の西30m付近において道路上に油が流出しており、交差点のガードレール付近に注入ホースが落ちているのを発見する。流出は道路上のみで河川等には流れておらず、道路上には数カ所油溜まりが認められた。車両に積載してあった油分散洗浄剤(OSD-500W)で応急処置を実施した。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

原因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況：										
	灯油を注油後、注油ノズルをノズル掛けに正しく掛けていない状態であった。その状態で交差点においてスピードを出したまま曲がったため注入ノズルがノズル掛けから外れガードレールに引っかかった。										
	運転者はそれに気が付かず運転したため、注入ホースが伸びきり根元部分で破断することとなる。運転者はそれでも気が付かず次の配送先で発見したものである。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	人		本人の意識		思慮		配慮不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人 的 被 害							28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 破断した注入ホースから内部に留まっていた灯油約9.4Lが事故車両の周囲の道路上約4㎡流出した。			
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類 灯油 9.4L流出				
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台			0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台			0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台			0 隻	0 機	0 人
その他の機関							0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (19 万円)
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
移動タンク貯蔵所に積載してあった油分離洗浄剤を用いて道路上に流出した灯油の処理を実施した。											
31 防災活動上の問題点											
消防に連絡する前に、事業所上司に連絡を行い上司と共に、油の処理にあたっていた。											
行政措置	32 施設名	移動タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 2 年 12 月 1 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無 内容：				
	そ の 他	令和 5 年 12 月 22 日		年 月 日							
35 今後の対策や所見		作業者がながら作業や、慣れによる注意不足を生じないように指差し確認等を取り入れる必要がある。									

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所の後部吐出口フランジからグリセリンが流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		9月 6日 13時 00分 推定・ 確定					4 発生見		9月 6日 13時 00分				
5 覚知		9月 6日 13時 30分					6 鎮圧 応急処置完了		9月 6日 15時 30分				
7 鎮火・処理完了		9月 6日 15時 30分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：北北東 風速：7.1m/s 気温：29.3℃ 湿度：73.2%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 道路貨物運送業 一般番号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(水溶性液体) グリセリン 10,000L 2.5倍											
		倍数の合計：2.5倍											
12 施設装置		設置の完成：令和 3年 1月 6日 直近の完成：令和 3年 1月 6日											
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)		17 物質の区分											
能力：10kL		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(水溶性液体) 名称：グリセリン(100L)											
13 機器等		温度圧力：											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		18 取扱者の概要											
規模：フランジ													
14 発生箇所													
名称：その他の附属配管等 番号 (299)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要											
材質：合成樹脂		20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要											
15 発生時		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
運転状況：移送中 番号 (18)													
作業状況： 番号 ()													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から屋外タンク貯蔵所へ危険物の荷卸し作業を行う際に、移動タンク貯蔵所の後部吐出口のフランジ部分から漏えいを確認。車両停車位置付近の地盤面に流出(敷地外への流出なし)。 吸着マット及びオイルフェンスで危険物を回収しバケツにて保管。 漏えい箇所のガasketの破損が認められたため、部品交換をしたもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 破 損						着火原因						番 号 ()		
原 因	関 連 原 因														
	発生原因の状況： 部品取替業者によると、ボルトの増締めが不十分であったため、走行中の振動等により破損したものと推測される。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	破損			点検時			点検時の処置の不備								
	関連原因の詳細														
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27	人 的 被 害										28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から約100Lのグリセリンが流出。流出範囲は敷地境界線からの流出はなく、移動タンク貯蔵所から半径2m程度で収まっている。							
	当 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所の後部吐出口フランジ部のガスケットが破損。							
	防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0										
	第 三 者	0	0	0	0										
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(水溶性)グリセリン 100L流出。 損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (50 万円)					
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人						
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人						
30	実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99) 是正報告書の作成及び再発防止策を講じるよう指示。						自衛防災・消防組織等 番号 (4、6) 消防機関到着までの間に、事業所職員による吸着マット及びオイルフェンスで拡散防止処置を実施。									
31	防災活動上の問題点 回収作業中にゲリラ豪雨が降り水溶性の危険物が水に溶けて回収が困難になった。														
32	施 設 名	移動タンク貯蔵所				33 定 期 点 検 等				消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検		令和4年 5月 12日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等		令和4年 5月 12日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保 安 検 査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無		☒ ・無		内容： 消防法第12条第1項違反	
	そ の 他	令和5年 9月 6日 1. 文書 ②. 口頭				令和5年 9月 12日 1. 文書 2. 口頭									
35	今後の対策 や所見 当該ローリーは、作業性の改善目的で配管とバルブの間に短管を接続している。これにより短管がない場合よりも走行時の振動が影響しやすい可能性が高いと推測されるため、短管使用を廃止しパッキンへの負荷を軽減させる。														

令和5年

1 事 故 名		移動タンク貯蔵所の注入口の蓋を閉め忘れて移送したことによる灯油の流出									
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		2月 8日 20時 05分		[推定]・確定		4 発 見		2月 8日 20時 07分			
5 覚 知		2月 8日 20時 18分		6 鎮 圧 応急処置完了		2月 8日 22時 02分					
7 鎮火・処理完了		2月 8日 22時 11分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：北北東		風速：1.9m/s		気温：5℃ 湿度：73%			
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソ リンスタンドを除く)				11 発 生 場 所		区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,700L 3.7倍 倍数の合計： 3.7倍 設置の完成：平成 11年 10月 12日 直近の完成：令和 3年 5月 31日			
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分					
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)						①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス					
能 力：容量3,700L						5. 毒物 6. 劇物 7. その他					
13 機 器 等						温度圧力：					
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		18 取扱者の概要		経験年数19年							
規 模：容量3,700L、胴長2,770mm、内径1,600×1,100											
14 発 生 箇 所											
名 称：マンホール 番 号 (305)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無					
材 質：ステンレス											
15 発 生 時											
運 転 状 況：移送中 番 号 (18)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無					
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 給油取扱所内で、灯油用固定注油設備から移動タンク貯蔵所内に灯油3,700Lを注油後に、マンホールの蓋を閉鎖しないで常置場所へ移送したため、マンホールから溢れた約100Lの灯油が防護枠のドレンより漏えいし、約2kmにわたり路上に流出したもの。流出した灯油にあっては、消防隊及び関係者が油吸着材等により除去した。消防隊が常置場所において当該移動タンク貯蔵所を確認し、マンホールの蓋・ドレンの開放が確認できたが、それ以外の異常は確認できなかった。消防機関への覚知は、付近住民が管轄警察署に対して通報し、警察署からの通報で覚知したもの。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他											

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()																								
	関 連 原 因																												
	発生原因の状況： 給油取扱所内で、灯油用固定注油設備から移動タンク貯蔵所内注油後に、マンホールの蓋を閉鎖しないで常置場所へ移送したため、マンホールから溢れた灯油が防護柵のドレンから路上に流出した。																												
	主原因の詳細																												
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層																									
	人	本人の意識	思慮	不注意																									
	人	本人の体調	肉体的	肉体的疲労																									
	管理	組織	勤務体制	超過勤務が多い																									
	関連原因の詳細																												
	<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																												
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																													
27 人 的 被 害					28 物的被害																								
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所から移動タンク貯蔵所の常置場所に至るまでの 道路約2kmにわたり、灯油約100L流出。																					
	当 事 者	0	0	0	0																								
	防災活動従事者	0	0	0	0																								
	第 三 者	0	0	0	0																								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																													
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 11 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油、約100Lが流出。																									
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人																										
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人																										
その他の機関	2 台 0 隻 0 機 3 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人																										
30 実施した防災活動の状況																													
公設消防機関：番号 (5) 消防車両4台が、出動し油吸着材7袋を使用し除去した。					自衛防災・消防組織等 番号 (99)																								
31 防災活動上の問題点																													
政 策 措 置	32 施 設 名	移動タンク貯蔵所		33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他																							
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検 気密試験等 保安検査	平成 29 年 9 月 20 日	年 月 日																							
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		年 月 日	年 月 日																							
	停止解除	年 月 日	年 月 日		年 月 日	年 月 日																							
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：																								
	そ の 他	指導 令和 5 年 2 月 10 日 ①. 文書 2. 口頭	年 月 日 1. 文書 2. 口頭																										
35 今後の対策 や所見		従業員の安全対策の実施。																											

1 事故名		危険物移動タンク貯蔵所から危険物地下タンク貯蔵所への荷卸し中の誤操作による灯油流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		7月 26日 11時 40分 推定・ 確定					4 発生見		7月 26日 11時 40分				
5 覚知		7月 26日 12時 20分					6 鎮圧 応急処置完了		7月 26日 12時 50分				
7 鎮火・処理完了		7月 26日 13時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向： 西南西 風速： 2.2m/s 気温： 33℃ 湿度： 55%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 医療・福祉 社会保険・社会福 番号 (7541) 祉・介護事業 老人福祉・介護事 業(訪問介護事業を除く) 特別 養護老人ホーム		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 16,000L 16倍											
		倍数の合計： 16倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称： 移動貯蔵タンク 番号 (1303)		設置の完成： 平成 24年 11月 30日 直近の完成： 平成 24年 11月 30日											
能力： 移動貯蔵タンク16,000L		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (500L)											
名称： 貯槽(タンク) 番号 (107)		18 取扱者の概要											
規模： 16,000L		経験年数0年											
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者											
名称： マンホール 番号 (305)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					20 危険物保安監督者						
材質： 鋼鉄		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					21 危険物取扱者の取扱・立会い						
15 発生時		①. 有 2. 無											
運転状況： 荷卸中 番号 (13)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
作業状況： 運転操作中 番号 (1)		23 事故の概要： 灯油の荷卸しのため、請負いの危険物移動タンク貯蔵所から危険物地下タンク貯蔵所への荷卸しを行うにあたり、運転者が移動タンク貯蔵所を傾斜地に停車させて、荷卸し作業に入り、給油ホースを地下タンク貯蔵所の注入口に緊結。同移動タンク貯蔵所の全6室あるタンク室のうち、2室から6室のマンホールの開閉ハンドルを緩め、底弁バルブを開放し、荷卸しを開始したところ、低位のタンク室のマンホールから灯油が噴出。防護枠内に溢れた灯油が雨水排出用配管を流下し構内道路上へ流出した。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

原因	25	主 原 因 誤操作				着火原因				番号 ()																																																
	関 連 原 因																																																									
	発生原因の状況： 傾斜地に停車させたローリータンクから灯油を荷卸しする際、あらかじめ2室から6室のマンホールの開閉ハンドルを緩め、同各室の底弁バルブを開放したため、落差のついたタンク室内の灯油が下位側タンク室へ流下して、マンホールから灯油が噴出する。防護枠内に溢れ出した灯油が開放状態となっていた雨水排出用配管を流れ、構内道路へ流出したものの。																																																									
	主原因の詳細																																																									
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																																
	管理			リスクアセスメント			危険意識			危険に対する認識がない/不足																																																
	関連原因の詳細																																																									
因																																																										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																										
27 人的被害												28 物的被害																																														
<table><tr><td>被害内容等</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は職名</td></tr><tr><td>区分</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>当 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>防災活動従事者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 三 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>												被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から灯油(約500L)が流出した。流出範囲は約15㎡で敷地境界線内に収まっている。											
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																																				
区分																																																										
当 事 者	0	0	0	0																																																						
防災活動従事者	0	0	0	0																																																						
第 三 者	0	0	0	0																																																						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												施設等の被害状況： 被害なし。																																														
消 防 機 関 3 台 0 隻 0 機 12 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																										
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																										
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																										
その他の機関 3 台 0 隻 0 機 5 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人												物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油500Lが流出した。																																														
30 実施した防災活動の状況												損害額 1万円未満、 1万円以上 (4 万円)																																														
公設消防機関：番号 (99) 流出範囲の確認及び調査活動に従事した。												自衛防災・消防組織等 番号 ()																																														
31 防災活動上の問題点																																																										
行政措置	32	施設名									33	定期点検等	消 防 法				そ の 他																																									
	行	使用停止	年 月 日				年 月 日				政	定期・自主点検	年 月 日				年 月 日																																									
		改善命令等	年 月 日				年 月 日					気密試験等	令和 2 年 2 月 28 日				年 月 日																																									
		停止解除	年 月 日				年 月 日					保安検査	年 月 日				年 月 日																																									
	措	関係条項									置	34 当該施設に係る 法令違反の有無	有 ・無 内容： 法第10条第3項 危険物取扱い義務違反 法第16条の3第2項違反 事故発生時の通報義務違反																																													
		そ の 他	年 月 日				年 月 日																																																			
35		今後の対策 や所見	当該関係者に対し、危険物の取扱い及び事故対応の徹底について指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。																																																							

令和5年

1 事 故 名		移動タンク貯蔵所の注油ノズルが破損し、路上に油が漏れ出たもの									
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		11月 14日 11時 40分				推定 ・確定		4 発 見		11月 14日 11時 45分	
5 覚 知		11月 14日 12時 02分				6 鎮 圧 応急処置完了				11月 14日 12時 50分	
7 鎮火・処理完了		11月 14日 17時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南西 風速：3.1m/s 気温：14.1℃ 湿度：60%									
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所									
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業		区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍									
		設置の完成：平成 8年 3月 19日 直近の完成：平成 8年 3月 19日									
12 施 設 装 置		17 物 質 の 区 分									
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス									
能 力：1,900L		5. 毒物 6. 劇物 7. その他									
13 機 器 等		温度圧力：									
名 称：固定給油(注油)設備 番 号 (911)		(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)									
規 模：長さ780mm、幅1,510mm		(低温、 常温 [0-40℃]、高温)									
14 発 生 箇 所		分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (10L)									
名 称：給油(注油)ノズル 番 号 (909)		18 取扱者の概要									
材 質：アルミニウム											
15 発 生 時											
運 転 状 況：移送中 番 号 (18)											
作 業 状 況：その他 番 号 (99)											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所を運行中に注油ノズルが落下し、注油ノズルを引きずりながら移動タンク貯蔵所の運行した結果、注油ノズルが縁石に激突したことにより破損(注油ホースから注油ノズルのスイベル部分から先がずれる)し、さらに運行を継続したため、路上に油が溢れ出たもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

25	主 原 因 破 損						着火原因				番号 ()		
原 因	関 連 原 因 操作確認不十分												
	発生原因の状況： 注油ノズルを注油ノズル収納場所に収納後、落下防止用固定器具で固定したつもりが、固定がされていなかったため、注油ノズルが落下したものの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	破損			定常運転時			機器そのものが落下						
	関連原因の詳細												
	人		本人の意識				思慮				思い込み		
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 注油ノズルが破損し、灯油約10Lが県道上に約150mの範囲で線上に漏れ出てたもの。					
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 注油ノズルを破損					
防災活動従事者		0	0	0	0								
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 第4類第2石油類の灯油約10L流出					
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻					0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻					0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻					0 機	0 人
その他の機関		2 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5 万円)		
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 現場確認							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点													
32 行政措置	施設名	移動タンク貯蔵所				33 定期点検等				消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等				年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保安検査				年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第14条の3の2				34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無 内容： 法第14条の3の2 定期点検の未実施等			
	そ の 他	指導											
		年 月 日		年 月 日									
		1. 文書 ②. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見		注油ノズルの改修及び教育の徹底											

1 事故名		移動タンク貯蔵所のマンホール閉め忘れによる軽油の流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		1月 6日 14時 10分 推定・ 確定					4 発生見		1月 6日 17時 17分				
5 覚知		1月 6日 17時 19分					6 鎮圧 応急処置完了		1月 6日 19時 21分				
7 鎮火・処理完了		1月 6日 19時 21分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：南 風速：2.4m/s 気温：10℃ 湿度：51%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000L 4倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,000L 4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 4,000L 2倍											
12 施設装置		13 機器等											
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)		温度圧力：											
能力：タンク容量 4000L		名称：貯槽(タンク) 番号 (107)											
規模：タンク構造・形状 だ円型横置・容量 4,400L・長さ 3,190mm(内測寸法)・幅 2,000mm(内測寸法)・高さ 1,000mm(内測寸法)		倍数の合計：4倍											
14 発生箇所		設置の完成：平成24年 11月 28日 直近の完成：年 月 日											
名称：マンホール 番号 (305)		17 物質の区分											
材質：特殊合金		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(50L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：運搬中 番号 (11)		経験年数0年											
作業状況：その他 番号 (99)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 給油取扱所で移動タンク貯蔵所のタンクに軽油を注油後、マンホールを閉め忘れ開放状態のまま走行したことにより軽油があふれ、防護枠内の水抜き用ドレンから路上に流出したものの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無													

原因	25	主 原 因 操作未実施				着火原因				番号 ()																																						
	関 連 原 因 操作確認不十分																																															
	発生原因の状況： 注油後のマンホール閉鎖し忘れた。																																															
	主原因の詳細																																															
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層																																									
	人		本人の意識		思慮		不注意																																									
因	関連原因の詳細																																															
	人		本人の意識		思慮		思い込み																																									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																
27 人 的 被 害							28 物的被害																																									
<table><tr><td>被害内容等</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は職名</td></tr><tr><td>区分</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>当 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>防災活動従事者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 三 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>							被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 注油した場所から、覚知した場所まで約20キロメートルに渡り約30Lが流出したと思われるが痕跡は認められなかった。なお、覚知した場所には約20Lが流出しているのが確認されており、当該場所の職員により吸着マット等により応急措置が行われた。						
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																										
区分																																																
当 事 者	0	0	0	0																																												
防災活動従事者	0	0	0	0																																												
第 三 者	0	0	0	0																																												
							施設等の被害状況： 覚知した場所(工事現場)で約20Lの軽油の流出																																									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																
消 防 機 関 4 台 0 隻 0 機 14 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人							物質の被害状況：																																									
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人							第4類 第2石油類(非水溶性)軽油 50Lの流出																																									
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																
その他の機関 2 台 0 隻 0 機 4 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人							損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)																																									
30 実施した防災活動の状況																																																
公設消防機関：番号 (8、99)										自衛防災・消防組織等 番号 ()																																						
情報収集活動																																																
31 防災活動上の問題点																																																
行政措置	32	施設名					33	定期点検等	消 防 法				そ の 他																																			
	行	使用停止	年 月 日				政	定期・自主点検	令和 4 年 11 月 17 日				年 月 日																																			
		改善命令等	年 月 日					気密試験等	年 月 日				年 月 日																																			
		停止解除	年 月 日					保安検査	年 月 日				年 月 日																																			
	措	関係条項					置	34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無																																							
		そ の 他	年 月 日						内容： 法第16条の2第2項 危険物の移送基準違反																																							
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭																																												
35		今後の対策 や所見																																														
		・点検の強化(出発前点検、日常点検の強化及び11月に定期点検を実施) ・基本作業の徹底(積み込みや荷卸し等の手順の徹底) ・ローリー積み込み、荷卸し手順及びマグネットシートの作成 ・社員教育の充実(定期会議にて危険物の法令等の勉強会を実施、事例検討会の実施)																																														

令和5年

1 事 故 名		移動タンクの注油ホースを収納せず走行し、大型トラックに接触、破損したことによる灯油の流出													
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()													
3 発 生		1月 16日 11時 30分 推定・ 確定					4 発 見		1月 16日 11時 30分						
5 覚 知		1月 16日 11時 33分					6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		1月 16日 12時 14分						
7 鎮火・処理完了		1月 16日 12時 14分													
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()													
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：西 風速：0.7m/s 気温：8.7℃ 湿度：95.5%													
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の卸売業 番 号 (5499) 他に分類されない卸売業 他に 分類されないその他の卸売業					11 発 生 場 所								
12 施 設 装 置							区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名：								
							16 発生施設規制区分等								
							施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(水溶性液体) 灯油 1L 0倍								
							倍数の合計：0倍								
13 機 器 等		温度圧力：					設置の完成：令和 元年 7月 10日 直近の完成： 年 月 日								
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		14 発 生 箇 所					17 物 質 の 区 分								
能 力：移動タンク貯蔵所							①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (25L)								
13 機 器 等							18 取扱者の概要								
名 称：その他 番 号 (999)		規模：移動タンク備え付けのホース					19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無	
14 発 生 箇 所		名 称：給油(注油)ホース 番 号 (908) 材 質：ゴム					22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無								
15 発 生 時		運 転 状 況：運搬中 番 号 (11) 作 業 状 況：その他 番 号 (99)					23 事 故 の 概 要： 移動タンクに備え付けの注油ホースが適正に収納されていない状態で走行していたところ、10t大型トラックと注油ホースが接触、破損し、灯油25Lが県道上に流出したもの。								
19 危険物保安統括管理者		20 危険物保安監督者					24 緊急処置の状況 有 番号 () 無								

原因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 出発前の確認不足、忙しい時期であることからの焦り、慣れ。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	人		本人の意識		思慮		不注意					
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人 的 被 害						28 物的被害						
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 県道上約20mに渡って流出				
当 事 者		0	0	0	0							
防災活動従事者		0	0	0	0							
第 三 者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4類第2石油類(水溶性)灯油25L流出						
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛				0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同				0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援				0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関		1 台	0 隻	0 機	1 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)	
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (4) 油流出処理剤の散布						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報義務を忘れていた。												
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和4年 3月 16日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日		年 月 日			年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日		年 月 日			年 月 日	年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 消防法第16条の2第2項(移動タンク貯蔵所の移送基準違反) 消防法第16条の3第2項(事故発生時の通報義務違反)					
	そ の 他	年 月 日		年 月 日								
35 今後の対策 や所見		対策については、管轄の広島市消防局へ提出。										

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所において、走行中に注油ホースノズルが落下、破損したことによる灯油の漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		12月 27日 18時 40分 推定・ 確定					4 発生見		12月 27日 18時 50分		
5 覚知		12月 27日 19時 00分					6 鎮圧 応急処置完了		12月 27日 20時 30分		
7 鎮火・処理完了		12月 27日 20時 30分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北北東 風速：0.6m/s 気温：10℃ 湿度：59%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,500L 3.5倍									
		倍数の合計：3.5倍									
12 施設装置		設置の完成：平成 17年 10月 18日 直近の完成：平成 29年 7月 12日									
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)		17 物質の区分									
能力：タンク容量 3,500L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (50L)									
13 機器等		温度圧力：									
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)		18 取扱者の概要									
規模：長さ 3,020mm幅 1,650mm高さ 970mm		経験年数1年									
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者									
名称：給油(注油)ノズル 番号 (909)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					20 危険物保安監督者				
材質：その他		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					21 危険物取扱者の取扱・立会い				
15 発生時		③. 不要					①. 有 2. 無				
運転状況：運搬中 番号 (11)		22 設備・機器等の概要：									
作業状況： 番号 ()		オンラインファイル無									
23 事故の概要：		移動タンク貯蔵所が、巡回販売のため道路を走行中、何らかの理由によりノズルかけからノズルが外れ、道路上へ落下し、しばらく走行。当該ノズルの一部が破損したことにより、貯蔵していた危険物約50Lが道路上へ漏えいしたもの。 運行者により閉止弁を閉め、ノズルをノズルかけへ戻したことにより、漏えいは止められた。 運行者は警察へ通報し、そこから消防へ通報された。									
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

25	主 原 因 破 損						着火原因						番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分																	
	発生原因の状況： ノズルをノズルかけに収めたものと思ったが、適正に収まっておらず、移動タンク貯蔵所の走行中にノズルが落下し、そのまま走行したため破損したものの。																	
	主原因の詳細																	
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層					
	破損				定常運転時				機器そのものが落下									
	関連原因の詳細																	
	人				本人の意識				思慮				思い込み					
因																		
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																		
27 人的被害																		
28 物的被害																		
被害内容等										被災影響範囲及び拡大の状況：								
区分										漏えい発生場所から移動タンク貯蔵所の停車場所までの、約100mにわたり漏えい。								
当 事 者										0 0 0 0								
防 災 活 動 従 事 者										0 0 0 0								
第 三 者										0 0 0 0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		
消 防 機 関										5 台 0 隻 0 機 17 人								
消 防 団										0 台 0 隻 0 機 0 人								
海上保安部										0 台 0 隻 0 機 0 人								
その他の機関										4 台 0 隻 0 機 15 人								
自 衛										0 台 0 隻 0 機 0 人								
共 同										0 台 0 隻 0 機 0 人								
応 援										0 台 0 隻 0 機 0 人								
その他										0 台 0 隻 0 機 0 人								
物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:1,000 第2石油類 灯油 50L漏えい																		
損害額 1万円未満、1万円以上(4 万円)																		
30 実施した防災活動の状況																		
公設消防機関：番号 (4)																		
流出油処理剤散布																		
自衛防災・消防組織等 番号 ()																		
31 防災活動上の問題点																		
32 施設名																		
使用停止 年 月 日 年 月 日																		
改善命令等 年 月 日 年 月 日																		
停止解除 年 月 日 年 月 日																		
関係条項																		
そ の 他 年 月 日 年 月 日																		
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭																		
33 定期点検等																		
定期・自主点検 令和 5 年 8 月 30 日 年 月 日																		
気密試験等 令和 2 年 9 月 25 日 年 月 日																		
保安検査 年 月 日 年 月 日																		
34 当該施設に係る法令違反の有無																		
有・無																		
内容： 法第12条第1項 製造所等の位置、構造及び設備の技術上の基準適合維持違反(ノズル破損)																		
35 今後の対策や所見																		
ノズル落下防止のバンドを自主設置しているため、これを有効に使用すること。 消防機関として、類似事故防止のため、立入検査等の機会に、関係者へ本件を踏まえた指導をする。																		

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所の交通事故により、移送中の灯油が流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		5月 1日 14時 15分 推定・ ☒ 確定					4 発生見		5月 1日 14時 15分				
5 覚知		5月 1日 16時 00分					6 鎮圧 応急処置完了		5月 1日 21時 15分				
7 鎮火・処理完了		5月 1日 21時 15分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：北西 風速：6.4m/s 気温：21℃ 湿度：23%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (☒ 陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍											
		倍数の合計：1.9倍											
12 施設装置		名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303) 能力：タンク容量:1,900L											
13 機器等		温度圧力： 名称：貯槽(タンク) 番号 (107) 規模：タンク容量:1,900L											
14 発生箇所		設置の完成：平成 29年 2月 16日 直近の完成：令和 5年 3月 30日											
名称：安全弁 番号 (301) 材質：特殊合金		17 物質の区分											
		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 ☒ 液相、気相) (☒ 常圧、加圧) (低温、 ☒ 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (1L)											
		18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 危険物移動タンク貯蔵所における灯油の移送中、道路から約10m下に転落し横転状態で止まった。当該交通事故により、タンク上部の安全装置が破損し、積み荷の灯油が流出、吸着マットにより拡大防止措置を行いながら、タンク内の残油をドラム缶及び他の移動タンク貯蔵所に全量緊急移送した。													
24 緊急処置の状況 ☒ 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送													

原因	25	主 原 因 交通事故				着火原因				番号 ()																																				
	関 連 原 因																																													
	発生原因の状況： 危険物移動タンク貯蔵所における灯油の配達業務で、配達を早く終わらせようと近道である狭隘な道路を走行中、路肩にハンドルを取られ、道路から約10m下に転落し横転状態で止まった。当該交通事故により、タンク上部の安全装置が破損し、積み荷の灯油が流出した。																																													
	主原因の詳細																																													
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																				
	交通事故			運転操作			路肩に寄りすぎ																																							
	関連原因の詳細																																													
因																																														
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																														
27 人 的 被 害							28 物的被害																																							
<table><tr><td>被害内容等</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は職名</td></tr><tr><td>区分</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>当 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td></td><td>ガソリンスタンド従業員</td></tr><tr><td>防災活動従事者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 三 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>							被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							当 事 者	0	0	0	1		ガソリンスタンド従業員	防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 転落した移動タンク貯蔵所から灯油が約1L流出し、油吸着マットにより処理した。				
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																								
区分																																														
当 事 者	0	0	0	1		ガソリンスタンド従業員																																								
防災活動従事者	0	0	0	0																																										
第 三 者	0	0	0	0																																										
							施設等の被害状況： 交通事故により車両が全損。																																							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																														
消 防 機 関 7 台 0 隻 0 機 20 人 自 衛 5 台 0 隻 0 機 9 人							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油が約1L流出。																																							
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																														
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																														
その他の機関 0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人																																														
							損害額 1万円未満、 1万円以上 (45 万円)																																							
30 実施した防災活動の状況																																														
公設消防機関：番号 (3、99) 負傷者の救急搬送、警戒、調査							自衛防災・消防組織等 番号 (3、5) 拡散防止措置、回収作業																																							
31 防災活動上の問題点 携帯電話の不感地帯であり、負傷者が自力で移動して電話連絡したため、発生場所の特定及び流出状況の確認に時間を要した。																																														
行政措置	32	施設名			33	定期点検等	消 防 法	そ の 他																																						
	行	使用停止	年 月 日	年 月 日	政	定期・自主点検	令和4年11月10日	令和5年5月1日																																						
		改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	令和3年12月15日	年 月 日																																						
		停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日																																						
	措	関係条項			置	34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：																																							
		そ の 他	年 月 日	年 月 日																																										
35		今後の対策 や所見																																												
		配達手順書兼チェックリスト表に配送ルールを記載(配送ルートの確認・共有、初走行ルートの事前調査、ルートを外れる際は連絡し許可を受ける等)し、配達業務開始前にSS責任者と運転者が確認後業務に取り掛かることとした。 業務効率を優先し、ハイリスクな選択を行ったことで事故に繋がっており、取扱い時に限らず、危険物を積載した車両を運転しているということをしっかりと自覚し、安全第一の行動を選択する必要がある。																																												

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所から屋外タンク貯蔵所へ荷卸し中に、フレキシブルホースの破損による流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		6月 9日 8時 35分				[推定]・確定		4 発 見		6月 9日 8時 35分			
5 覚 知		6月 9日 8時 36分						6 鎮 圧		6月 9日 8時 40分			
7 鎮火・処理完了		6月 9日 8時 40分						6 応急処置完了					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：東北東 風速：0.4m/s 気温：21℃ 湿度：81%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業(脂肪族系溶剤を含む)		区 分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 周南地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 10,000L 50倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 10,000L 25倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) キシレン 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) α-メチルスチレン 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレンモノマー 10,000L 10倍 第4類第3石油類(水溶性液体) トリエタノールアミン 10,000L 2.5倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計： 107.5倍											
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		設置の完成：昭和 61年 5月 26日 直近の完成：平成 18年 5月 26日											
能 力：容量 10,000L(第1室、3室 3,500L、第2室 3,000L)		17 物 質 の 区 分											
13 機 器 等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(水溶性液体) 名称： トリエタノールアミン(25L)											
名 称：運搬車 番 号 (602)		18 取扱者の概要											
規 模：容量 10,000L(第1室、3室 3,500L、第2室 3,000L)													
14 発 生 箇 所													
名 称：フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番 号 (202)													
材 質：ゴム													
15 発 生 時													
運 転 状 況：荷卸中 番 号 (13)													
作 業 状 況：充填中 番 号 (12)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から屋外タンク貯蔵所への荷卸し中、移動タンク貯蔵所のフレキシブルホースが破損し、トリエタノールアミン約25Lが漏えいした。これにより、作業員3名が被液した。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所積載のフレキシブルホースを使用して、移動タンク貯蔵所から屋外タンク貯蔵所への荷卸しを行っていたが、ホースの曲げ応力が大きくなっていてことでホースフランジ部付近に負荷がかかり、蓄積した疲労により劣化し、破損したと考えられる。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	疲労・劣化	環境	荷重による疲労（車両や周囲の重量物等の影響）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいしたトリエタノールアミンは全て施設内に留まっており、外部への流出なし。
	当 事 者	0	0	0	3		運転手、監督者、作業員	
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 11 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 20 人	物質の被害状況： トリエタノールアミン約25L漏えい。				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	3 台 0 隻 0 機 10 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (9) 負傷者の救急搬送待機、調査活動。					自衛防災・消防組織等 番号 (5) 漏えいした危険物の回収作業。			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名	移動タンク貯蔵所		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 3 月 3 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 4 年 12 月 17 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	令和 5 年 6 月 20 日 ①. 文書 2. 口頭	年 月 日 1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策や所見 今回の漏えいの原因は、ホースの疲労劣化による破損と考えられる。今後は、ホースへの負荷軽減のため、積み込み、荷卸し時にはホース支持治具を使用したり、ホースの使用頻度に合わせて定期的に交換を実施する等の対策を実施予定である。								

令和5年

1 事故名		移動タンク貯蔵所の上部マンホールからスチレンモノマーが噴出し地盤面へ漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		11月 20日 11時 45分				推定・ 確定		4 発生見		11月 20日 11時 45分	
5 覚知		11月 20日 11時 55分				6 鎮圧 応急処置完了				11月 20日 12時 07分	
7 鎮火・処理完了		11月 20日 12時 07分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気： 風向： 北北東 風速： 4.4m/s 気温： 16℃ 湿度： 57%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 製造業 化学工業 その他の化 番号 (1799) 学工業 他に分類されない化学 工業製品製造業		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレンモノマー 24,000L 24倍									
12 施設装置		設置の完成： 平成 10年 5月 14日 直近の完成： 平成 10年 8月 14日									
名称： 移動貯蔵タンク 番号 (1303)											
能力： 24,000L											
13 機器等		温度圧力：									
名称： 貯槽(タンク) 番号 (107)		倍数の合計： 24倍									
規模： 容量24,000L											
14 発生箇所											
名称： マンホール 番号 (305)		17 物質の区分									
材質： 鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： スチレンモノマー(0.1L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況： 荷卸中 番号 (13)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
作業状況： 番号 ()											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 国際輸送コンテナから屋外タンク貯蔵所へ荷卸作業をする際に、タンク上部のマンホールを開けたところ内容物(危険物)が吹き出して雨水排水用ホース内に流れ込み、地盤面へ0.05Lから0.1L程度漏えいしたもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

原因	25 主 原 因 不明					着火原因					番号 ()						
	関 連 原 因 不明																
	発生原因の状況： 発生の原因は不明である。移動タンク貯蔵所に乗車していた危険物取扱者の作業手順に日頃と変わりはなく、過去に同様の現象はなかった。ただし、タンク上部のマンホールを開ける際に空気を吸い込むような音がして、その後、内容物が噴出したという供述があったことから事故時にはタンク内に負圧が生じていたことが予想される。																
	主原因の詳細																
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層				
	関連原因の詳細																
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																	
27 人 的 被 害										28 物的被害							
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 被害なし									
当 事 者		0	0	0	0												
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし									
第 三 者		0	0	0	0												
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																	
消 防 機 関		0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： スチレンモノマー						
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人							
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人							
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)						
30 実施した防災活動の状況																	
公設消防機関：番号 ()										自衛防災・消防組織等 番号 ()							
31 防災活動上の問題点																	
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法				そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検				令和 5 年 10 月 26 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等				年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査				年 月 日		年 月 日	
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日				年 月 日											
35 今後の対策 や所見		漏えいを起こした移動タンク貯蔵所は事故発生場所事業所に所属する車両ではないが定期的に荷卸し作業で出入りするため、両事業所が連絡を密にし、特異現象が発生した際には情報共有を図り必要な対応を随時検討し事故防止に取り組むこと必要である。															

令和5年

1 事 故 名		移動タンク貯蔵所から船舶に給油中、給油口から重油が流出したもの											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		12月 5日 11時 45分				[推定]・確定		4 発 見		12月 5日 11時 45分			
5 覚 知		12月 5日 12時 55分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了				12月 5日 12時 30分			
7 鎮火・処理完了		12月 5日 17時 30分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：東北東 風速：2m/s 気温：12℃ 湿度：76%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソ リンスタンドを除く)		区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 2,000L 1倍											
12 施 設 装 置		設置の完成：平成 15年 12月 18日 直近の完成：平成 15年 12月 18日											
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)													
能 力：貯蔵量 2,000L													
13 機 器 等		温度圧力：											
名 称：運搬車 番 号 (602)		倍数の合計：1倍											
規 模：長さ4,660 幅1,695 高さ1,990(単位mm)													
14 発 生 箇 所													
名 称：車両の給油口 番 号 (906)		17 物 質 の 区 分											
材 質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (1L)											
15 発 生 時		18 取扱者の概要 経験年数45年											
運 転 状 況：給油中 番 号 (8)													
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所から船舶の設計容量6,100Lの燃料タンクへの給油作業を実施。また、燃料タンクの油量計に目盛りがないため、200L毎に目盛りを打つ作業を並行して実施。6,000Lまで給油する計画で、目盛り打ちをしていた作業員が5,400Lの目盛りを付けた後に、船舶の給油口から重油約1Lが吹きこぼれ、船内の給油口付近の排水口をつたって海上に設置されたオイルフェンス内に50m×10mの範囲で流出したもの。なお、吸着マットを使用し、応急処置が実施されていた。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 監視不十分				着火原因				番号 ()					
原 因	関 連 原 因													
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所から岸壁に停泊中の船舶への給油作業であったが、船体の水平を考慮せずに給油を実施したため、燃料の重量により船体が岸壁側へ傾き、燃料タンク内のエア抜き配管が塞がったことにより給油口から重油が吹きこぼれたもの。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層				
	人			本人の意識			思慮			配慮不足				
	関連原因の詳細													
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27	人 的 被 害								28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 燃料タンクの給油口から重油約1Lが海上に設置されたオイルフェンス内に50m×10mの範囲で流出した。						
	当 事 者	0	0	0	0									
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：						
	第 三 者	0	0	0	0			なし						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性) 重油約1L流出										
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人											
海上保安部	2 台 0 隻 0 機 6 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人											
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人											
30	実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (7) 油回収(海上)								
31	防災活動上の問題点													
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等				消 防 法		そ の 他		
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				令和 5 年 5 月 12 日		年 月 日	
		改善命令等	年 月 日				気密試験等				令和 元 年 6 月 24 日		年 月 日	
		停止解除	年 月 日				保 安 検 査				年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無				
	そ の 他	年 月 日								内容： 法第10条第1項、3項 指定数量以上の危険物の無許可貯蔵・取扱い、製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 法第16条の2第3項 危険物取扱者免状携帯義務違反				
35	今後の対策 や所見 危険物取扱者及び船舶の事業所に対し、法令遵守の必要性を理解させ、船舶に給油する際は、吹きこぼれを防止するため船体の水平をしっかりと保つこと、万が一燃料が漏れた場合に、流出が拡大することが無いように必要な措置を講じさせることを指導する。 また、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努めたい。													

1 事故名		移動タンク貯蔵所横転による軽油流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		12月 14日 6時 45分				推定・ 確定		4 発生見		12月 14日 6時 45分			
5 覚知		12月 14日 6時 47分				6 鎮圧 応急処置完了				12月 14日 15時 48分			
7 鎮火・処理完了		12月 14日 15時 48分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南南西 風速：1.2m/s 気温：6.2℃ 湿度：88%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 道路貨物運送業 一般番号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 8,000L 40倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 8,000L 8倍											
12 施設装置		倍数の合計：48倍											
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)													
能力：													
13 機器等		温度圧力：											
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)													
規模：16,000L													
14 発生箇所		設置の完成：平成 30年 12月 5日 直近の完成：平成 30年 12月 5日											
名称：タンク側板 番号 (101)		17 物質の区分											
材質：アルミニウム		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (4,000L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：移送中 番号 (18)													
作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所が高速道路を走行中、ガードレールに接触し、単独で横転。移動貯蔵タンク後方第6室破損により、積載していた軽油4,000Lが、高速道路上、一般道路及び用水路に流出したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送													

原 因	25 主 原 因	交通事故				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 移動貯蔵タンク貯蔵所乗務員が、急ハンドルを切ったため、タンク内部の危険物が揺動し、ガードレールに接触、単独で横転したもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	交通事故			運転操作			急ハンドル						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 高速道路上、一般道路及び用水路に軽油流出。事故現場から約200mの範囲に流出。					
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所廃止					
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	32 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 積載していたガソリン・軽油廃棄			
消 防 団	1 台	0 隻	0 機	12 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (464 万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (4) 現場周辺に吸着材設定								自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点													
32 施 設 名	移動タンク貯蔵所				33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他				
	使用停止	令和 5 年 12 月 14 日	年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 10 月 2 日		年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		令和 4 年 1 月 24 日		年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保 安 検 査		年 月 日		年 月 日				
	関係条項	消防法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有 ・無 内容： 交通事故により移動貯蔵タンク破損					
	そ の 他	年 月 日		年 月 日									
		①. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見		当消防本部ホームページ上で移動タンク貯蔵所に対する事故防止対策の徹底について注意喚起を行った。											

令和5年

1 事 故 名		移送中に移動タンク貯蔵所の上部マンホールから軽油が漏えい							
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発 生		3月 29日 8時 30分		推定・確定		4 発 見		3月 29日 9時 30分	
5 覚 知		3月 29日 12時 40分		6 鎮 圧 応急処置完了		3月 29日 11時 30分			
7 鎮火・処理完了		3月 29日 15時 00分							
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()							
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：北北東		風速：2m/s		気温：15.9℃ 湿度：44%	
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6099) 他に分類されない小売業 他に 分類されないその他の小売業				11 発 生 場 所		区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍 倍数の合計：1.9倍 設置の完成：平成 25年 11月 18日 直近の完成：平成 30年 4月 6日	
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分			
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
能 力：1.9kL						5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
13 機 器 等						温度圧力：			
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		模 式：長さ2,094mm、幅1,500mm、高さ880mm		18 取扱者の概要		経験年数20年			
14 発 生 箇 所		名 称：タンクの注入口 番 号 (905)		材 質：鋼鉄		19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
15 発 生 時		運 転 状 況：移送中 番 号 (18)		作 業 状 況：その他 番 号 (99)		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
21 危険物取扱者の 取扱・立会い		1. 有 ②. 無		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		23 事 故 の 概 要： 一般取扱所から移動タンク貯蔵所のタンク上部マンホールを開け軽油を注油後、上部マンホールの閉鎖不十分で移送し、上部マンホールから軽油が約10L漏えいしたもの。		24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他	

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所のタンク上部マンホールを開け軽油を注油後、上部マンホールの閉鎖不十分。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	違反(故意)	怠慢				
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： タンク注入用ハッチの未完全閉鎖により、移送経路の国道、県道、市道、配送先敷地内の5か所に軽油を合計約10L漏えいさせた。流出範囲は5か所合算しても100m未満。河川・側溝等に漏えいなし。漏えい箇所については、事業所関係者が吸着マットにて回収作業実施。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 軽油約10L				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
調査活動								
31 防災活動上の問題点 通報の遅れ、応急措置後の立ち去り。								
政 策 措 置	32 施 設 名			33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 消防法第10条第3項(品名(化学名)以外の危険物及びこれらの許可若しくは届出に係る数量以上の貯蔵・取扱い。) 消防法第14の3の2(定期点検未実施)			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35	今後の対策 や所見	通報の遅延や貯蔵取扱いの不備、定期点検未実施等の管理不良があり防災体制や管理体制マニュアルの見直しを行うことが必要。						

6 屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所

令和5年

1 事故名		屋内タンクからボイラーへの埋設配管の腐食による重油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		1月 20日 10時 00分	
5 覚 知		1月 20日 13時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了		1月 20日 13時 00分	
7 鎮火・処理完了		4月 28日 12時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：西 風速：7m/s 気温：-10.5℃ 湿度：48.6%					
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5212) 金属材料等卸売業 建築材料卸 売業 セメント卸売業				11 発 生 場 所	
12 施 設 装 置						区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 8,000L 8倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 8,000L 4倍	
						倍数の合計： 12倍	
13 機 器 等		温度圧力：		設置の完成： 昭和 49年 5月 22日 直近の完成： 年 月 日		17 物 質 の 区 分	
名 称： 屋内タンク 番 号 (1208)		力：		18 取扱者の概要		経験年数2年	
14 発 生 箇 所		名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い	
材 質： 鋼鉄		規 模： 50A 配管用炭素鋼鋼管		20 危険物 保安監督者		①. 有 2. 無	
15 発 生 時		運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		22 設備・機器等の概要：			
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)				オンラインファイル無			
				23 事故の概要：			
				屋内タンク貯蔵所に隣接する用水路に重油が浮いているのを発見し、地中と接する送油配管の部分に亀裂が生じており重油約500Lが漏えいした。なお、吸着マットを使用し応急措置を実施した。			
24 緊急処置の状況		[有] 番号 (1) 無					
装置の緊急停止							

原因	25	主 原 因		腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因		維持管理不十分												
	発生原因の状況：														
	経年により送油配管の腐食が蓄積し、亀裂が生じたと思われる。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層				第Ⅳ層						
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）										
因	関連原因の詳細														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人 的 被 害															
28 物的被害															
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：							
区分								屋内タンクから重油約500Lが漏えいし、うち数量は不明であるが隣接する用水路に流出した。流出範囲は20m程度の範囲で収まっている。							
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況：							
防災活動従事者		0	0	0	0			施設被害は亀裂が見つかった送油配管のみ							
第 三 者		0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：					
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	第4類第3石油類(非水溶性)重油約500L漏えい					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (30 万円)					
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99)															
調査活動															
自衛防災・消防組織等 番号 ()															
31 防災活動上の問題点															
発見から消防機関への通報までに時間を要している。															
行政措置	32	施設名	屋内タンク貯蔵所				33	定期点検等	消 防 法		そ の 他				
	行	使用停止	令和 5 年 1 月 20 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日		年 月 日					
		改善命令等	年 月 日		年 月 日			年 月 日		年 月 日					
		停止解除	令和 5 年 3 月 1 日		年 月 日			年 月 日		年 月 日					
		関係条項	法第12条の3第1項												
	措	そ の 他	年 月 日		年 月 日		34	当該施設に係る法令違反の有無	有 ・無 内容： 掲示板の記入誤りを改修すること。						
			1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭										
	35		今後の対策や所見												
			日常点検及び残油管理の重要性。												

令和5年

1 事故名		屋内タンク貯蔵所において、ガソリン油送ポンプの経年劣化によりガソリンが流出した事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		2月 1日 18時 30分				[推定]・確定		4 発生見		2月 1日 19時 00分	
5 覚知		2月 1日 19時 48分				6 鎮圧 応急処置完了				2月 1日 20時 51分	
7 鎮火・処理完了		2月 1日 20時 51分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：西北西 風速：2m/s 気温：8℃ 湿度：77%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 電気機械器具製造業 番号 (2719) 発電用・送電用・配電用・産業用 電気機械器具製造業 その他の 産業用電気機械器具製造業(車両用, 船舶用を含む)		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 600L 3倍 第4類第4石油類 エンジンオイル 4,000L 0.67倍									
		倍数の合計： 3.67倍									
12 施設装置		設置の完成：平成 9年 4月 7日 直近の完成：平成 9年 12月 19日									
名称： 屋内タンク 番号 (1208)		17 物質の区分									
能力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(110L)									
13 機器等		18 取扱者の概要									
名称： ポンプ 番号 (501)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
規模： エアー駆動ダイヤフラムポンプ		21 危険物取扱者の の取扱・立会い									
14 発生箇所		①. 有 2. 無									
名称： 容器本体 番号 (108)											
材質： 鋼鉄											
15 発生時											
運転状況： 定常運転中 番号 (1)											
作業状況： 運転操作中 番号 (1)											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 屋内タンク貯蔵所内に設置されているガソリン油送ポンプの経年劣化によりガソリンが漏えい。 ガソリンは経年劣化した床面に染み出し、貯蔵所外の調整池に漏えいした。 なお、敷地外への漏えいはなし。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他											

1 事故名		屋内タンク貯蔵所における移動タンク貯蔵所からの荷受中の重油流出事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		8月 23日 11時 20分 推定・ 確定					4 発生見		8月 23日 11時 30分		
5 覚知		8月 23日 13時 35分					6 鎮圧 応急処置完了		8月 23日 14時 30分		
7 鎮火・処理完了		8月 23日 14時 30分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：南東 風速：4.6m/s 気温：29℃ 湿度：79%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 水 番 号 (3632) 道業 下水道業 下水道管路施設維持管理業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,000L 2.5倍									
		倍数の合計：2.5倍									
12 施設装置		14 発生箇所									
名称：屋内タンク 番 号 (1208)		名称：タンク屋根板 番 号 (103)									
能力：容量5,000L		材質：鋼鉄									
13 機器等		温度圧力：									
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		17 物質の区分									
規模：胴長3,618mm、鏡出181mm、内径1,350mm、容量5,000L		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(53L)									
14 発生箇所		18 取扱者の概要									
名称：タンク屋根板 番 号 (103)		1. 選任有 2. 選任無									
材質：鋼鉄		20 危険物保安監督者 ③. 不要									
15 発生時		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
運転状況：受入中 番 号 (9)											
作業状況： 番 号 ()											
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から屋内貯蔵タンク(容量5,000L)への荷卸し立会い中、屋内貯蔵タンク上部開口部から50L、通気管から3Lの重油が流出した。荷卸し前の液面計(屋外注入口付近)の値は約2,900L、荷卸し後のタンクローリー給油メーターの値は2,000Lであった。荷卸し後、立会者がタンク室を確認したところ、重油50Lの防油堤内溜枳への流出を発見した後、通気管先端からも同様に重油3Lの流出を発見した。その後報告を受けた上司が消防署へ通報した。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

原因	25 主 原 因 故障					着火原因					番号 ()																															
	関 連 原 因																																									
	発生原因の状況： 屋内貯蔵タンク液面計の不具合により実際より低い値を示していたためと推定されるが、現在調査中。																																									
	主原因の詳細																																									
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																													
	故障				機能				機器の異常動作																																	
	関連原因の詳細																																									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																										
27 人 的 被 害										28 物的被害																																
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 屋内タンク貯蔵所の防油堤内に重油53L流出し、屋外の通気管の先端から3L漏えい。通気管先端の地盤面半径約1m範囲まで重油が拡散。事業所敷地外への流出なし。				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																				
当 事 者	0	0	0	0																																						
防災活動従事者	0	0	0	0																																						
第 三 者	0	0	0	0																																						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										施設等の被害状況： 液面計が正常な数値を記していない。																																
消防機関 2台 0隻 0機 7人 自 衛 0台 0隻 0機 4人										物質の被害状況： 重油53L流出																																
消防団 0台 0隻 0機 0人 共 同 0台 0隻 0機 0人																																										
海上保安部 0台 0隻 0機 0人 応 援 0台 0隻 0機 0人																																										
その他の機関 0台 0隻 0機 0人 その他 0台 0隻 0機 0人										損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)																																
30 実施した防災活動の状況																																										
公設消防機関：番号 (5) 屋内貯蔵タンク上部から流出した防油堤溜枒内の重油50Lを油吸着マット等により処理した。										自衛防災・消防組織等 番号 (5) 屋内貯蔵タンク上部から流出した防油堤溜枒内の重油50Lを油吸着マット等により処理した。 通気管先端から流出した重油3Lをウエスにより処理後、周囲の除草を行った。																																
31 防災活動上の問題点 覚知から通報までに約2時間を要した。																																										
行政措置	32 施設名	屋内タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他																																
	使用停止	年 月 日				年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		令和5年6月5日																														
	改善命令等	令和5年8月23日				年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日																														
	停止解除	年 月 日				年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日																														
	関係条項	法第16条の3第3項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：																																		
	そ の 他	令和5年8月23日 ①. 文書 2. 口頭				年 月 日 1. 文書 2. 口頭																																				
35 今後の対策 や所見		・計器類の更新 ・危険物施設における事故発生時の迅速な通報について、従業員に対し安全教育を実施し周知徹底した。 ・今後荷卸しの際には、給油口付近での立会者1名に加えて重油タンク前にも1名配置し、給油口付近の油量計指示値と重油タンクの現場液面計を確認しながら作業を実施する。																																								

7 屋 外 貯 蔵 所

令和5年

1 事故名		屋外貯蔵所に保管のドラム缶底部開孔による軽油流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		4月 18日 10時 40分	
5 覚 知		4月 18日 14時 10分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		4月 18日 14時 30分	
7 鎮火・処理完了		4月 18日 14時 30分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：雨 風向：南東 風速：1m/s 気温：10℃ 湿度：82%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番 号 (4211) 道業				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 200L 0.2倍			
12 施 設 装 置				設置の完成：昭和 49年 12月 17日 直近の完成：年 月 日		倍数の合計：0.2倍	
名 称： 番 号 ()							
能 力：							
13 機 器 等		温 度 圧 力：		17 物 質 の 区 分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(200L)	
名 称：ドラム等容器 番 号 (201)							
規 模：200Lドラム缶1本							
14 発 生 箇 所				18 取扱者の概要			
名 称：容器本体 番 号 (108)				①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い	
材 質：鋼鉄							
15 発 生 時				20 危険物 保 安 監 督 者		①. 有 2. 無	
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 屋外貯蔵所(第4類 第2石油類 軽油 指定数量4.8倍)に貯蔵していた軽油(200Lドラム缶)が漏れ出たもの。貯蔵状況は200Lのドラム缶を令和5年1月20日に15本(3,000L)搬入し、4月18日に保線車両(線路補修)に給油をしていたところ、封印がしてあるにもかかわらず空になったドラム缶を発見。空になったドラム缶の底部に僅かな穴(約2mm程度)が空いており、屋外貯蔵所の地盤面(コンクリート枕木敷詰)に漏れ出ていたもの。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

25	主 原 因 破 損						着火原因				番号 ()		
	関 連 原 因 破 損、不明												
	発生原因の状況： 不明												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	破損			定常運転時			その他						
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
	27 人 的 被 害						28 物的被害						
	被害内容等						被災影響範囲及び拡大の状況：						
	区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	長時間かけ徐々に土壌へ浸透したものと推測される。発見時は異臭等なし。					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：					
	第 三 者	0	0	0	0			空になったドラム缶の底部に僅かな穴(約2mm程度)が空いており、屋外貯蔵所の地盤面(コンクリート枕木敷詰)に漏れ出ていたもの。					
	29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況：						
	消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	第4類第2石油類(非水溶性)軽油 200L流出。		
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (2 万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
地面ににじんでいた油膜を油吸着マットで回収した。													
31 防災活動上の問題点													
現場で作業をしていた職員の発見から、事業所責任者(保線技術センター副長)へ報告。事業所から現地へ出向き現地確認を行った後、事業者責任者(保線技術センター副長)が主体となり消防へ通報。													
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・ 無			
	そ の 他	年 月 日				年 月 日				内容：			
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭													
35 今後の対策 や所見													
ドラム缶底部の開孔については外部から何らかの圧力が加わり損傷したものと推定される。 棚卸時に現場確認と管理及び取り扱いの注意を徹底する。													

1 事故名		屋外貯蔵所におけるタンクコンテナからの漏えい事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		6月 8日 8時 30分	
5 覚知		6月 9日 13時 55分		6 鎮圧 応急処置完了		6月 8日 13時 00分	
7 鎮火・処理完了		6月 8日 17時 00分					
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：晴 風向：西北西 風速：1.7m/s 気温：21.7℃ 湿度：85.9%					
10 発生事業所		種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 分類不能の産業 分類不能の産 番 号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能の産業				11 発生場所	
12 施設装置						区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) コスモネットT-80 2,400,000L 1,200倍 第4類第4石油類 その他の第4石油類, 208,000L 368倍	
						倍数の合計： 1,568倍	
13 機器等		温度圧力：		設置の完成： 平成 18年 7月 21日 直近の完成： 令和 2年 12月 1日		17 物質の区分	
名称： その他のタンク 番 号 (1299)		能力： 貯蔵量:17.5kL		18 取扱者の概要		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： コスモネットT-80 (0.2L)	
14 発生箇所		名称： ドラム等容器 番 号 (201)		19 危険物保安統括管理者		20 危険物保安監督者	
15 発生時		規模： 全長:6m、幅:2.4m、高さ:2.4m		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い	
名称： 開閉弁 番 号 (204)		材質： FRP		①. 有 2. 無			
16 発生時		運転状況： 荷卸中 番 号 (13)					
作業状況： その他 番 号 (99)							
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無					
23 事故の概要：		屋外貯蔵所内において、令和5年4月7日から保管していた危険物第4類第3石油類を貯蔵するISOタンクコンテナを出荷する際、ゲート搬出時に排出バルブ付近からの漏えいを発見したもの。 原因については、関係者の回答及び現場の状況から、ISOコンテナの排出バルブの不具合により第3石油類約0.2L漏えいしたもの。なお、事業所外への漏えいはなかったもの。					
24 緊急処置の状況		[有] 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 屋外貯蔵所において、危険物第4類第3石油類を貯蔵するISOタンクコンテナを出荷する際、ゲート搬出時に排出バルブ付近からの漏えいを発見したもの。 発見時、漏えいは止まっていたが、バルブ付近の固着物を除去すると、にじみが確認された。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした油は危険物施設内のみで、施設外への漏えいはなしである。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(コスモネートT-80) 200mL流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 2 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
28 物的被害								
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
情報収集								
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報の遅れ。応急処置の不備。消防機関の現地確認前に、当該コンテナを転出した。								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 4 月 7 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 4 年 12 月 22 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	内容：				
35 今後の対策や所見		日常点検で当該コンテナの異常を発見できなかったことについて、関係事業所全体で点検項目、点検箇所及び範囲などコンテナの管理体制について協議を行う必要がある。また、事故発生時における消防機関への通報の遅れなど、初動対応についても再検討し、予防規程の見直しを行い、再発防止に努めるよう指導した。						

8 給 油 取 扱 所

令和5年

1 事故名		地上式固定注油設備から少量危険物移動タンクへの注油中における流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		1月 2日 9時 45分				推定・確定		4 発 見		1月 2日 9時 45分			
5 覚 知		1月 2日 9時 47分				6 鎮 圧 応急処置完了				1月 2日 11時 20分			
7 鎮火・処理完了		1月 2日 11時 20分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向： 西北西 風速： 2.9m/s 気温： -6℃ 湿度： 67%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 30,000L 30倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 30,000L 30倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 10,000L 5倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計： 315倍											
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)		設置の完成： 令和 2年 8月 6日 直近の完成： 令和 3年 10月 15日											
能 力： 給油取扱所 ガソリン50,000L 軽油30,000L 灯油30,000L 廃油10,000L		17 物 質 の 区 分											
13 機 器 等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (250L)											
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)		18 取扱者の概要 経験年数1年											
規 模： 寸法1490H914W530D(mm)、使用最大流量180L/min、 ノズル35mm二重弁式オートノズル、専用タンク(灯油)30,000L													
14 発 生 箇 所													
名 称： タンクの注入口 番 号 (905)													
材 質： アルミニウム													
15 発 生 時													
運 転 状 況： 荷積中 番 号 (12)													
作 業 状 況： その他 番 号 (99)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 地上式固定注油設備から積載式少量危険物移動タンクに灯油を注油中、オートストップガンノズルを開放状態で固定しその場を離れ、タンク上部の注油口から灯油が溢れ、地盤面に流出したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

原因	25	主 原 因 監視不十分				着火原因				番号 ()																																				
	関 連 原 因 故障、調査中																																													
	発生原因の状況： 地上式固定注油設備から積載式少量危険物移動タンクに灯油を注油中、注入管を使用せずオートストップガンノズルを開放状態で固定しその場を離れ、オートストップガンノズルのオートストップ機能が作動しなかったところにより、タンク上部の注油口から灯油が溢れ、地盤面に流出したものの。																																													
	主原因の詳細																																													
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																				
	人			本人の意識			違反(故意)			問題意識の不足																																				
因	関連原因の詳細																																													
	故障			機能			機器の機能の停止																																							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																														
27 人的被害								28 物的被害																																						
<table><tr><td>被害内容等</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は職名</td></tr><tr><td>区分</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>当 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>防災活動従事者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 三 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>								被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： スタンド敷地外の町道及び歩道に流出跡が認められ、そこから地上式固定注油設備付近まで、南北22m、東西約7mに灯油流出跡が認められた。			
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																								
区分																																														
当 事 者	0	0	0	0																																										
防災活動従事者	0	0	0	0																																										
第 三 者	0	0	0	0																																										
								施設等の被害状況： スタンド敷地外の町道及び歩道に流出跡が認められ、そこから地上式固定注油設備付近まで、南北22m、東西約7mに灯油流出跡が認められた。																																						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) 灯油 250L流出																																						
消 防 機 関		2 台 0 隻 0 機 5 人				自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人																																						
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人				共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人																																						
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人				応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人																																						
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人				その他		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 1万円未満、 1万円以上 (3 万円)																																				
30 実施した防災活動の状況																																														
公設消防機関：番号 (4、5) 水切りワイパー及び吸着マットで集めた漏えい物を油分離槽に移し汲み上げ、地盤面に残った漏えい物を油処理剤で処理する。								自衛防災・消防組織等 番号 ()																																						
31 防災活動上の問題点																																														
行政措置	32	施設名					33	定期点検等	消 防 法	そ の 他																																				
	行	使用停止	年 月 日				政	定期・自主点検	年 月 日		年 月 日																																			
		改善命令等	年 月 日					気密試験等	年 月 日		年 月 日																																			
		停止解除	年 月 日					保安検査	年 月 日		年 月 日																																			
		関係条項						34 当該施設に係る 法令違反の有無	有 ・無 内容： ・法第10条3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 ・法第12条1項 製造所等の維持、管理違反																																					
	そ の 他	年 月 日																																												
		1. 文書 2. 口頭																																												
35		今後の対策 や所見																																												
		注意書を発行するとともに、法令遵守を徹底し、危険物の取扱いには細心の注意を払うよう指導する。																																												

令和5年

1 事 故 名		船舶給油取扱所の埋設配管が腐食により穿孔し、重油が土壌及び海上へ流出したもの											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		5月 13日 0時 00分				[推定]・確定		4 発 見		5月 13日 10時 00分			
5 覚 知		5月 15日 9時 22分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了				5月 15日 9時 30分			
7 鎮火・処理完了		5月 17日 13時 30分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南南西 風速：4.7m/s 気温：12℃ 湿度：不明%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：複合サービス業 協同組合(他 番 号 (7912) に分類されないもの) 農林水 産業協同組合(他に分類されな いもの) 漁業協同組合(他に分 類されないもの)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 102,000L 51倍											
12 施 設 装 置		設置の完成：昭和 52年 8月 2日 直近の完成：令和 5年 6月 2日 17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(200L) 18 取扱者の概要											
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力：A重油貯蔵 100kL容量タンク													
13 機 器 等 温 度 圧 力：													
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：80A、10.4m													
14 発 生 箇 所													
名 称：給油管等 番 号 (907) 材 質：鋼鉄													
15 発 生 時													
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7) 作 業 状 況： 番 号 ()													
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 港内岸壁の排水口から重油が海へ漏えいしていたため、漁組職員による中和剤散布及び吸着マット使用。屋外タンクから船舶給油取扱所への送油のバルブ閉止。漁組職員より報告を受け海上確認するも流出がない事を確認。以後経過観察。業者確認するも流出箇所特定出来ず。後日気密検査実施し、腐食による穿孔箇所を発見。配管取替作業を実施。6月7日に工事完了。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

原因	25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 穿孔した配管は沿岸近傍及び粘土層に埋没されており、配管の防食被覆が経年により剥離した為、腐食により穿孔したもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			防食			防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)						
	関連原因の詳細												
因													
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害							28 物的被害						
被害内容等 区分							被災影響範囲及び拡大の状況： 母材部(配管)から流出した重油200Lが排水溝から、敷地境界線より2m程度流出した。						
当 事 者							死亡 0 重症 0 中等症 0 軽症 0 死傷原因 職業又は職名						
防 災 活 動 従 事 者							0 0 0 0 0 施設等の被害状況： 船舶給油取扱所埋設配管の穿孔(1か所 30mm)						
第 三 者							0 0 0 0 0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関							1 台 0 隻 0 機 1 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人						
消 防 団							0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人						
海上保安部							0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人						
その他の機関							0 台 0 隻 0 機 2 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人						
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (4、5) 港内岸壁の排水口から重油が海へ漏えいしていた為、中和剤散布及び吸着マット使用。確認出来る油膜排水口付近岸壁に処理剤散布し拡大防止に努めた。 屋外タンクから船舶給油取扱所への送油バルブ閉止。							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点 事後聞知となっており、発見から消防機関への通報が丸二日経過している。													
行政措置	32	施 設 名			33	定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他					
	行	使用停止	年 月 日	年 月 日	政	定期・自主点検	年 月 日	令和 4 年 9 月 1 日					
		改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日					
		停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日					
	措	関係条項			置	34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：						
		そ の 他	年 月 日	年 月 日									
35		今後の対策 や所見 事故等を発見した場合、すぐに消防機関へ通報する様に指導。											

令和5年

1 事故名		給油取扱所における暖房用露出被覆銅管の破損及び灯油約960L流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		6月 15日 11時 30分				[推定]・確定		4 発生見		6月 16日 8時 20分	
5 覚知		6月 16日 10時 52分				6 鎮圧 応急処置完了				6月 16日 8時 30分	
7 鎮火・処理完了		6月 16日 12時 30分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北東 風速：2m/s 気温：24℃ 湿度：33%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 39,200L 196倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 29,400L 29.4倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,950L 1.95倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 1,950L 0.98倍									
		倍数の合計： 228.33倍									
12 施設装置		14 発生箇所									
名称： その他【分類なし】 番号 (9999)		設置の完成： 平成 6年 4月 19日 直近の完成：									
能力： 給油取扱所 10kL		17 物質の区分									
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(960L)									
名称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606)		18 取扱者の概要									
規模： 直径10mm											
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者									
名称： その他の附属配管等 番号 (299)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
材質： 銅											
15 発生時											
運転状況： 停止中 番号 (5)											
作業状況： 番号 ()											
22 設備・機器等の概要：		23 事故の概要：									
オンラインファイル無		市内の給油取扱所において、従業員が敷地西面の草刈りを実施した際、壁面を貫通して露出されている暖房用の被覆銅管を誤って切断。事故に気づかずその日の業務を終え、翌日出勤した際に他従業員から油面計のレシートの在庫量に異常があることを伝えられ、油面計を確認したところ異常が見られた。前日の草刈りを思い出し、敷地西面に移動し、漏えいを発見。その場に居合わせた配送業者の従業員と共に被覆銅管の修復作業を実施。修復完了後、市内の統括責任者及び本社に連絡して事故を報告したところ、消防機関に連絡するよう指示があり通報に至ったもの。油面計の数値から約960Lの漏えいと推定。									
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因 破 損					着火原因					番号 ()				
	関 連 原 因 維持管理不十分														
	発生原因の状況： 事故当該従業員は草刈り機を使用しての草刈りは今回が初めてであった。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層		
	破損				定常運転時				その他						
	関連原因の詳細														
	人				本人の意識				思慮				不注意		
因															
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人 的 被 害										28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			被災影響範囲及び拡大の状況： 草刈りにより暖房用被覆銅管一本を切断、灯油を約960Lが被覆銅管周辺及び付近水道管点検口に流出したもの。流出範囲は敷地境界線より100m程度に収まっている。					
区分															
当 事 者	0	0	0	0											
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0											
第 三 者	0	0	0	0					施設等の被害状況： 暖房用被覆銅管一本						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 14 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 灯油約960L漏えい											
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人												
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人												
その他の機関	5 台 0 隻 0 機 11 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人												
30 実施した防災活動の状況										損害額 1万円未満、 1万円以上 (280 万円)					
公設消防機関：番号 (99) 付近汚水桝及び雨水桝の確認。										自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 事故発生時から約2時間半後に一般加入にて覚知となった。															
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				年 月 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等				年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保 安 検 査				年 月 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有 ・無 内容： 消防法第16条の3第2項 製造所等についての応急措置及びその通報並びに措置命令					
	そ の 他	年 月 日													
35 今後の対策 や所見		火災や流出等の事故を発見した際は速やかに消防機関へ通報する。													

令和5年

1 事故名		屋内給油取扱所(鉄道)において、給油配管と給油ホース結合部から軽油が漏えいしたもの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		7月 4日 10時 30分	
5 覚 知		7月 4日 11時 22分		6 鎮 圧 応急処置完了		7月 4日 13時 10分	
7 鎮火・処理完了		7月 4日 13時 10分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北 風速：2.8m/s 気温：22.8℃ 湿度：58%					
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番 号 (4211) 道業				11 発 生 場 所	
12 施 設 装 置						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,500L 9.5倍	
						倍数の合計： 9.5倍	
14 発 生 箇 所		設 置 の 完 成：平成 13年 7月 2日 直 近 の 完 成：令和 4年 3月 11日		17 物 質 の 区 分			
名 称：給油(注油)ホース 番 号 (908)		材 質：ゴム		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (15L)			
15 発 生 時		運 転 状 況：停止中 番 号 (5)		作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要	
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 屋内給油取扱所(鉄道)において、給油配管と給油ホースの接続部(ねじ接合)から、軽油が流出した事故。 敷地外への流出はなく、油水分離槽の第1槽内に留まっていた。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因		維持管理不十分									
	発生原因の状況：											
	原因は給油ホース接手パッキンの劣化により流出したもの。令和5年7月3日に実施した毎月点検時に流出はみられなかった。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）							
	関連原因の詳細											
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切					
	因											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人 的 被 害							28 物的被害					
区分 \ 被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油道床外への流出はなし。油水分離槽内の第1槽で留まった。				
		当 事 者	0	0	0	0						
		防災活動従事者	0	0	0	0						
		第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油が約15L流出。					
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台				0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台				0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台				0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台				0 隻	0 機	0 人
							損害額 1万円未満 、1万円以上 (万円)					
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99)							自衛防災・消防組織等 番号 ()					
現地の状況確認												
31 防災活動上の問題点												
行政措置	32	施 設 名					33	定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	年 月 日		令和5年7月3日		
		改善命令等	年 月 日		年 月 日			年 月 日		年 月 日		
		停止解除	年 月 日		年 月 日			年 月 日		年 月 日		
		関係条項										
	そ の 他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：					
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35		今後の対策や所見										
		自所社員と下請け業者に対し、今回の事案と油流出の対応について周知。屋内給油取扱所の同種設備の接手パッキンの交換を実施。毎月点検の点検表に「給油ホース接手部分」を追加。定期点検の重点項目として、類似の事故防止を図る必要がある。										

令和5年

1 事故名		屋内給油取扱所(鉄道)において、懸垂式固定給油設備の給油ホースから軽油が漏えいしたもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 3日 13時 25分				[推定]・確定		4 発生見		8月 3日 13時 25分			
5 覚知		8月 3日 13時 35分				6 鎮圧 応急処置完了				8月 3日 15時 10分			
7 鎮火・処理完了		8月 3日 15時 10分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：雨 風向：南南東 風速：6.9m/s 気温：25.6℃ 湿度：91%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番号 (4211) 道業		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,500L 9.5倍											
12 施設装置		倍数の合計： 9.5倍											
名称： その他【分類なし】 番号 (9999)		設置の完成： 平成 13年 7月 2日 直近の完成： 令和 4年 3月 11日											
能力： 鉄道給油取扱所 タンク容量 軽油50kL		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
温度圧力： 0.98Mpa		(固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (10mL)											
名称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606)		18 取扱者の概要											
規模： 給油ホース1本(内径25φ、外径37φ及び長さ20m)		経験年数5年											
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者											
名称： 給油(注油)ホース 番号 (908)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
材質： ゴム													
15 発生時													
運転状況： 給油中 番号 (8)													
作業状況： 番号 ()													
22 設備・機器等の概要：		23 事故の概要：											
オンラインファイル無		懸垂式固定給油設備の給油ホースに亀裂(ピンホール程度)が生じ、軽油が流出したもの。流出量はごくわずかであり、敷地外への流出はなく、油水分離槽内への滞留もなかったものである。人的被害はなし。											
24 緊急処置の状況		24 緊急処置の状況											
[有] 番号 (1) 無		装置の緊急停止											

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因		維持管理不十分					
	発生原因の状況： 給油ホースの劣化。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細							
	設備	監理・保守	点検・整備			点検内容が不適切		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害							28 物的被害	
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油道床外への流出はなし。油水分離槽への流出なし。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 7 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油が約10mL流出
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
							損害額 1万円未満、 1万円以上 (13 万円)	
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()		
現地の状況確認								
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		年 月 日	令和5年8月1日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ 無		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日			内容：		
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策や所見		自所社員と下請け業者に対し、今回の事案と油流出の対応について周知。屋内給油取扱所の同種設備の点検を実施し異常がないことを確認。古い給油ホース3本を交換。毎月点検の点検表に「給油ホースの状態」を追加。定期点検の重点項目として、類似の事故防止を図る必要がある。						

令和5年

1 事 故 名		屋内給油取扱所(鉄道)において、給油ノズルのレバーを引いた状態でバルブを開放したため、流出したもの											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		8月 31日 11時 10分				[推定]・確定		4 発 見		8月 31日 11時 10分			
5 覚 知		8月 31日 11時 23分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了				8月 31日 12時 07分			
7 鎮火・処理完了		8月 31日 12時 07分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南南東 風速：7.2m/s 気温：29.7℃ 湿度：63%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番 号 (4211) 道業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,500L 9.5倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計： 9.5倍 設 置 の 完 成： 平成 13年 7月 2日 直 近 の 完 成： 令和 4年 3月 11日											
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)													
能 力： 鉄道給油取扱所 タンク容量 軽油50kL													
13 機 器 等		温 度 圧 力： 0.98Mpa											
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (2L)											
規 模： 給油ノズル(ピストルノズル)1か所													
14 発 生 箇 所													
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)		18 取扱者の概要 経験年数5年											
材 質： アルミニウム													
15 発 生 時													
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
作 業 状 況： 点検中 番 号 (5)													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 給油ホースを交換作業後、給油ノズルのレバーを引いた状態で固定したまま収納。 元バルブを開放したところ、給油ノズルから軽油が流出したもの。 直ちに元バルブを閉鎖したため、流出量は約2L。油水分離槽への流出はなし。人的被害はなし。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

令和5年

1 事故名		給油取扱所における固定給油設備給油ホースの破損による軽油の流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		9月 1日 17時 37分 推定・ 確定					4 発生見		9月 1日 17時 37分				
5 覚知		9月 1日 18時 35分					6 鎮圧 応急処置完了		9月 1日 20時 00分				
7 鎮火・処理完了		9月 1日 20時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：雨 風向：南南東 風速：3m/s 気温：22.5℃ 湿度：92.3%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 30,000L 150倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 30,000L 30倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 30,000L 30倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍											
		倍数の合計： 211倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称： その他【分類なし】 番号 (9999)		設置の完成： 昭和 34年 12月 24日 直近の完成： 平成 7年 5月 24日											
能力： 給油取扱所 30kL×3基、2kL×1基		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (60L)											
名称： 固定給油(注油)設備 番号 (911)		18 取扱者の概要											
規模： 吐出量70l/min		経験年数38年											
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者											
名称： 給油(注油)ホース 番号 (908)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					20 危険物保安監督者						
材質： ゴム		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					21 危険物取扱者の取扱・立会い						
15 発生時		①. 有 2. 無											
運転状況： 定常運転中 番号 (1)		22 設備・機器等の概要：											
作業状況： 運転操作中 番号 (1)		オンラインファイル無											
23 事故の概要：		固定給油設備でダンプ車へ軽油を給油後、伝票を処理するため事務所へ向かったところ、給油ノズルが給油口に差し込まれたままの状態 でダンプ車が発進し、固定給油設備のホースが取付部付近で断裂したもの。従業員がポンプを停止させたが、軽油約60Lが油分離槽 内に流出したため、回収するまで全計量器の使用を停止した。負傷者等の発生はなし。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無		装置の緊急停止、その他											

原因	25	主 原 因		監視不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因										
	破 損										
	発生原因の状況：										
	従業員が給油ノズルを給油口に差し込まれた状態でその場を離れたため、給油が完了したと勘違いしたダンプ車の運転手が発進させたため、固定給油設備のホースを破損したものの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		配慮不足				
因	関連原因の詳細										
	破損		定常運転時		その他						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人 的 被 害							28 物的被害				
区分 \ 被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：			
		固定給油設備から軽油60Lが油分離槽内に流出したが、従業員により回収した。									
		施設等の被害状況：									
		固定給油設備のホース1本破損									
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
							物質の被害状況：				
							第4類第2石油類(非水溶性)軽油60Lが油分離槽内に流出				
							損害額 1万円未満、 1万円以上 (18 万円)				
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)							自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
調査活動							回収作業				
31 防災活動上の問題点											
流出防止措置を優先したため、消防への通報が事故発生から1時間後となった。											
行政措置	32	施 設 名					33	定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他	
	行	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和 5 年 6 月 1 日	年 月 日
		改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和 3 年 9 月 24 日	年 月 日
		停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	措	関係条項					34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無	内容：	
		そ の 他	年 月 日	年 月 日							
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35		今後の対策 や所見									
		・従業員へ給油後の車両移動のタイミングの再徹底を図る等の安全教育の実施 ・消防機関への通報の迅速化の指導									

令和5年

1 事故名		鉄道給油取扱所で車両に給油中、取扱者の注意不足により燃料タンク給油口から軽油が溢れた流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		9月 5日 10時 28分				推定・確定		4 発 見		9月 5日 10時 29分			
5 覚 知		9月 5日 10時 45分				6 鎮 圧 応急処置完了				9月 5日 10時 29分			
7 鎮火・処理完了		9月 5日 12時 03分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南南東 風速：2m/s 気温：26℃ 湿度：81%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番 号 (4211) 道業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 130,000L 130倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計： 130倍 設置の完成： 昭和 33年 7月 3日 直近の完成： 令和 5年 6月 7日											
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)													
能 力： タンク容量の合計 130,000L													
13 機 器 等		温度圧力：											
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)													
規 模： 容量 1,127.6L													
14 発 生 箇 所		17 物 質 の 区 分											
名 称： 車両の給油口 番 号 (906)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材 質： ステンレス		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発 生 時		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)											
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)		(低温、常温 [0-40℃]、高温)											
作 業 状 況： その他 番 号 (99)		分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (71.4L)											
18 取扱者の概要		経験年数0年											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 危険物取扱者が鉄道車両の燃料タンクに軽油を給油中、当該給油ノズル(オートストップ機能なし)のレバーにストッパーを掛けて開放状態で固定後、その場を離れ別の作業をしていたところ、燃料タンクの給油口から軽油71.4Lが流出したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 操作確認不十分				着火原因				番号 ()				
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 危険物取扱者が鉄道車両の燃料タンクに軽油を給油中、当該給油ノズル(オートストップ機能なし)のレバーにストッパーを掛けて開放状態で固定後、その場を離れ別の作業をしていたところ、燃料タンクの給油口から軽油71.4Lが流出したものの。												
	主要原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	人			本人の意識			思慮			不注意			
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27	人 的 被 害							28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 軽油71.4L流出					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし					
	第 三 者	0	0	0	0								
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 軽油71.4L流出									
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人										
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人										
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 2 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人										
30	実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 () 警戒筒先、油吸着マット及び流出油処理剤による処理活動							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31	防災活動上の問題点												
32	施 設 名							33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他		
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 4 年 9 月 21 日		年 月 日	
		改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	令和 5 年 7 月 20 日		年 月 日	
		停止解除	年 月 日			年 月 日			保 安 検 査	年 月 日		年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反				
	そ の 他	年 月 日			年 月 日								
35	今後の対策 や所見	・全給油ノズルからストッパーを撤去 ・従業員の給油中の事故防止教育の実施											

令和5年

1 事故名		サービスタンクからボイラーへ燃料供給してるゴム配管の亀裂部から灯油が流出した事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		9月 21日 7時 45分	
5 覚 知		9月 23日 10時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了		9月 23日 10時 20分	
7 鎮火・処理完了		9月 23日 10時 20分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：西 風速：0.9m/s 気温：13℃ 湿度：71%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他			
				貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所			
				類・品名・名称・数量・倍数：			
				第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 28,000L 140倍			
				第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 19,200L 19.2倍			
				第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,800L 9.8倍			
				第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 1,950L 0.98倍			
12 施 設 装 置							
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)							
能 力： ガソリン 28,000L、軽油 19,200L、灯油 9,800L、廃油 1,950L							
13 機 器 等		温 度 圧 力：					
名 称： ボイラー 番 号 (404)							
規 模： 冬季のみ使用しているロードヒーティング、洗濯機及び洗車機用暖房機器に燃料供給しているボイラーに接続されているゴム配管							
14 発 生 箇 所				設 置 の 完 成： 昭和 51年 12月 27日		倍数の合計： 169.98倍	
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)				直 近 の 完 成： 令和 5年 3月 13日			
材 質： ゴム				17 物 質 の 区 分			
15 発 生 時				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
運 転 状 況： 休止中 番 号 (6)				5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
作 業 状 況： 番 号 ()				(固相、液相、気相) (常圧、加圧)			
				(低温、常温 [0-40℃]、高温)			
				分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(830L)			
				18 取扱者の概要			
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 給油取扱所敷地内において、サービスタンクからボイラー燃料を供給するためのゴム配管に亀裂が入り、亀裂部分から灯油約830Lが流出したもの。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他							

原因	25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因 維持管理不十分												
	発生原因の状況： 令和5年9月21日7時45分頃、出勤した従業員が事務所内で異臭を確認。同日18時頃、未使用であるはずの灯油残量が本来の貯蔵量より約500L少ない状況であったが、従業員が店長への報告を失念し翌日に至る。 令和5年9月22日16時頃、灯油残量が前日より約300L減っていることを店長が発見。流出を疑い、同日18時頃に施設内を点検したところ、事務所に併設されているボイラー室内で灯油が流出。設備業者に電話連絡し、修理を依頼する。設備業者が確認したところ、サービスタンクからボイラーに繋がっているゴム配管が経年劣化によりひび割れを起こし、そこから灯油が漏れていたとのこと。同日ゴム配管の交換が完了する。 令和5年9月23日10時頃、灯油の残油量に変化なし。灯油流出の対処後に消防署に従業員が駆け付け覚知に至る。灯油の総流出量は約830L。ボイラー室内の灯油は油吸着マットで吸着し産業廃棄物として処理し、油分離槽内に溜まった灯油は専門業者に回収依頼と聴取。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）								
	関連原因の詳細												
	設備		監理・保守		点検・整備			確認不足					
因	26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
	27 人的被害							28 物的被害					
区分		被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油はボイラー室内に漏れ、室外に漏れ出たものは油分離槽に貯留していた。			
		当 事 者		0	0	0	0						
		防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：			
		第 三 者		0	0	0	0			サービスタンクからボイラーに繋がっているゴム配管が経年劣化によりひび割れていた。その他の被害はなし。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関		0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 約830L流出		
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人			
30 実施した防災活動の状況										損害額 1万円未満、 1万円以上 (26 万円)			
公設消防機関：番号 ()										自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 従業員により、油吸着マットによる灯油の流出拡大防止措置がとられていた。流出部分は設備業者に依頼し、流出部分の特定とゴム配管の交換がされていた。			
31 防災活動上の問題点 流出を確認してから消防署への通報までに約16時間を要しており、早期に通報すべきであった。													
行政措置	32	施設名					33	定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	行	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和4年 7月 6日	年 月 日		
		改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和5年 4月 21日	年 月 日		
		停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	措	関係条項					34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：				
		そ の 他	年 月 日	年 月 日	1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭								
35		今後の対策 や所見	事故発生原因として、燃料供給しているゴム配管が劣化し、亀裂部から燃料が流出している。施設の自主点検や定期点検で劣化、破損を早期に発見することで、事故を未然に防ぐよう対策する。										

令和5年

1 事故名		給油取扱所において、固定注油設備の注油ノズルで移動タンク貯蔵所に荷積み中、軽油約125L流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		12月 1日 16時 20分 推定・ 確定					4 発生見		12月 1日 16時 20分				
5 覚知		12月 2日 8時 10分					6 鎮圧 応急処置完了		12月 2日 8時 40分				
7 鎮火・処理完了		12月 2日 13時 10分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：北北東 風速：1.9m/s 気温：3℃ 湿度：90%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：建設業 総合工事業 一般土木 番号 (611) 建築工事業 一般土木建築工事業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 48,000L 48倍											
		倍数の合計：48倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 28年 5月 19日 直近の完成：平成 28年 5月 19日											
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)		17 物質の区分											
能力：自家用給油取扱所 軽油48,000L貯蔵		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (125L)											
13 機器等		18 取扱者の概要											
温度圧力：		経験年数10年											
名称：その他 番号 (999)		19 危険物保安統括管理者											
規模：タンク容積4,300L(空間容積含む)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要											
14 発生箇所		20 危険物保安監督者											
名称：タンクの注入口 番号 (905)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
材質：鋼鉄		21 危険物取扱者の取扱・立会い											
15 発生時		①. 有 2. 無											
運転状況：荷積み中 番号 (12)		22 設備・機器等の概要：											
作業状況：運転操作中 番号 (1)		オンラインファイル無											
23 事故の概要：		24 緊急処置の状況											
令和5年12月1日(金)16時20分頃、自家用給油取扱所において固定注油設備を用いて4キロローリー積載タンクに上部マンホールより軽油を荷積み中、その場を離れ監視を怠ったため軽油125Lを流出させた。流出油は、当該施設の油分離槽に留まり、敷地外への流出は無し。同日18時40分までに当社従業員により応急措置を済ませ、翌12月2日(土)8時10分、管轄消防署へ通報した。		有 番号 () 無											

25	主 原 因 監視不十分				着火原因				番号 ()			
原 因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 本来使用すべき注入管を使用しなかったためノズルのオートストップ機能が正常に作動しなかった。ノズルのオートストップ機能を過信し、注油中であるにも係わらず、その場を離れ監視を怠った。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	人			本人の意識			思慮			過信		
	人			本人の知識・能力			知識			知識不足		
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人 的 被 害								28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した軽油は当該施設の油分離槽内で留まった。				
	当 事 者	0	0	0	0							
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 当該施設の被害は無し。				
	第 三 者	0	0	0	0							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類 第2石油類(非水溶性)軽油125L流出								
	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人									
	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人									
	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (1 万円)								
30	実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 現場確認、事故発生原因の調査						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31	防災活動上の問題点 流出油の応急処置に忙殺され消防機関への通報が遅れた。事故発生時の連絡体制が従業員間で徹底されていない。危険物取扱い業務に対する危険性の認識が薄い。注入管の不使用や監視不十分など取扱い上の注意事項が周知徹底されていない。											
32	施 設 名	自家用給油取扱所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 5 年 9 月 5 日		年 月 日		
		改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	令和 4 年 5 月 20 日		年 月 日		
		停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有 ・無				
	そ の 他	指導 令和 5 年 12 月 2 日 ①. 文書 2. 口頭		年 月 日 1. 文書 2. 口頭		内容： ①法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 ②法13条第1項 保安監督業務不履行 ③法16条の3第2項 通報義務違反						
35	今後の対策 や所見 ①全従業員に対する安全教育の実施 ②危険物取扱い時の監視の徹底 ③事故発生時の緊急連絡先の掲示 ④随時危険物施設の点検の実施 ⑤危険物取扱い手順の掲示 ⑥安全管理マニュアルの作成及び周知徹底 ⑦吸着マット、乾燥砂等防災資器材の常備 ⑧荷積み中における立会いの徹底 ⑨注入管を使用し安全で確実な荷積みへの徹底											

令和5年

1 事 故 名		船舶給油取扱所において、点検後バルブを完全閉鎖しなかったことによる重油の海上流出事故											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		9月 15日 22時 00分				[推定]・確定		4 発 見		9月 15日 23時 27分			
5 覚 知		9月 15日 23時 27分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了				9月 16日 1時 50分			
7 鎮火・処理完了		9月 16日 2時 29分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南東 風速：2m/s 気温：24℃ 湿度：88%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 漁業 漁業 海面漁業 その他の番 号 (319) 海面漁業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 20,000L 10倍											
12 施 設 装 置		設置の完成： 昭和 55年 12月 22日 直近の完成： 平成 23年 3月 3日											
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)													
能 力： 給油取扱所20kL×1基													
13 機 器 等		温度圧力：											
名 称： その他 番 号 (999)		倍数の合計： 10倍											
規 模： 普通													
14 発 生 箇 所													
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)		17 物 質 の 区 分											
材 質： 鋼鉄		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(20L)											
15 発 生 時		18 取扱者の概要											
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無											
作 業 状 況： その他 番 号 (99)													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 点検後バルブを完全閉鎖しなかったため、またノズルの弁に不具合があったため。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原因	25 主 原 因	操作確認不十分				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因	腐食疲労等劣化											
	発生原因の状況： ノズルが屋外に放置。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	人			本人の意識			思慮			思い込み			
	関連原因の詳細												
	因	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害								28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 埠頭上ノズル位置から半径約3m、及び海上(埠頭から約1m×3m)へ流出					
区分													
当 事 者	0	0	0	0									
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ノズルが手を離れた状態でも、重油がノズルから少量出る					
第 三 者	0	0	0	0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 重油20L流出			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人				
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (4) 流出防止措置								自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 釣り人から、夜間のため連絡つかず。													
行政措置	32 施設名	船舶給油取扱所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 6 月 9 日		令和 5 年 9 月 15 日			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日			
	関係条項	消防法第13条第1項関係、消防法第14条の2第4項関係				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無					
	その他	令和 5 年 9 月 15 日		年 月 日				内容： 係員以外の出入り禁止措置不適、油分離装置(サビ、割れ、分離機能なし)、ノズル漏れあり					
35	今後の対策や所見 危険物取扱者の立ち会い、予防規程の遵守、施設維持管理												

令和5年

1 事故名		給油取扱所の地下タンクよりレギュラーガソリンが流出したもの							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発 生		2月 5日 19時 00分		[推定]・確定		4 発 見		2月 5日 19時 00分	
5 覚 知		2月 5日 20時 08分		6 鎮 圧 応急処置完了		2月 6日 0時 00分			
7 鎮火・処理完了		2月 6日 16時 00分							
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()							
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北 風速：1.5m/s 気温：5.5℃ 湿度：56%							
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド				11 発 生 場 所		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 19,000L 95倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,500L 9.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,500L 9.5倍 倍数の合計： 114倍 設置の完成：昭和 46年 7月 31日 直近の完成：令和 5年 3月 7日	
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分			
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
能 力：給油取扱所 9,500L×4基						5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
13 機 器 等						温度圧力：			
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧)							
規 模：9,500L		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)							
14 発 生 箇 所		分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(3,300L)							
名 称：タンク側板 番 号 (101)		18 取扱者の概要							
材 質：鋼鉄		①. 選任有 2. 選任無							
15 発 生 時		3. 不要							
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)		21 危険物取扱者の取扱・立会い							
作 業 状 況：その他 番 号 (99)		1. 有							
19 危険物保安統括管理者		2. 無							
1. 選任有 2. 選任無		20 危険物保安監督者							
③. 不要		①. 選任有 2. 選任無							
22 設備・機器等の概要：		3. 不要							
オンラインファイル無		21 危険物取扱者の取扱・立会い							
23 事故の概要：		1. 有							
地下タンクの穿孔によりガソリンが地下に流出したもの。		②. 無							
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無									
その他									

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()		
	関 連 原 因		破損										
	発生原因の状況：		経年劣化										
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層				第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）								
	関連原因の詳細												
	破損		自然現象		その他								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油所敷地外の周囲に異常無し。					
区分													
当 事 者		0	0	0	0								
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 地下タンクの穿孔のみ。					
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 地下タンクからガソリンが3,300L漏えいしたものである。					
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻					0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻					0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻					0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻					0 機	0 人
								損害額 1万円未満、 1万円以上 (50 万円)					
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (4)						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
排水溝に吸着マットにより多方面への漏えい拡散防止を実施したものの。													
31 防災活動上の問題点													
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法		そ の 他				
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和4年 5月 30日	年 月 日			
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和5年 2月 6日	年 月 日			
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：						
	そ の 他	年 月 日		年 月 日									
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見		全タンクにFRPライニング施工実施済み。											

令和5年

1 事故名		鉄道自家用給油所において給油中、配管のフレキシブル管継手から軽油流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		3月 19日 14時 45分				[推定]・確定		4 発生見		3月 19日 14時 45分			
5 覚知		3月 19日 16時 40分				6 鎮圧 応急処置完了				3月 19日 18時 05分			
7 鎮火・処理完了		3月 19日 18時 10分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南南東 風速：3.2m/s 気温：11.8℃ 湿度：42.7%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番号 (4211) 道業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 30,000L 30倍											
12 施設装置		倍数の合計：30倍 設置の完成：平成 元年 12月 6日 直近の完成：令和 元年 11月 25日											
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)													
能力：給油取扱所 タンク容量30,000L													
13 機器等		温度圧力：											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)													
規模：フレキシブル管継手													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番号 (202)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材質：ステンレス		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発生時		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧)											
運転状況：給油中 番号 (8)		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)											
作業状況：その他 番号 (99)		分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(100L)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 鉄道給油作業中、配管ピット部で漏油がみられたため、作業を停止し詳細確認したところ、フレキシブル管継手から漏油していた。 この事故で軽油約100Lが配管ピット内に流出した。なお、ピット内の油を吸引ポンプと油吸着材で回収するとともに、中和剤を散布して応急処置を実施した。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

令和5年

1 事故名		給油取扱所において給油口に給油ノズルを挿したまま発進したことによる給油ホースの破損事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		12月 6日 12時 30分 推定・ 確定					4 発生見		12月 6日 12時 31分		
5 覚知		12月 6日 12時 40分					6 鎮圧 応急処置完了		12月 6日 13時 00分		
7 鎮火・処理完了		12月 6日 13時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：北北東 風速：3.4m/s 気温：14.5℃ 湿度：68.8%									
10 発生事業所		種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド					11 発生場所				
12 施設装置							区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
							16 発生施設規制区分等				
							施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 70,000L 350倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 90,000L 90倍				
							倍数の合計：460倍				
名称：その他【分類なし】 番号 (9999) 能力：給油取扱所30,000L		14 発生箇所					設置の完成：平成 8年 6月 24日 直近の完成：令和 3年 2月 3日				
13 機器等		温度圧力：					17 物質の区分				
名称：固定給油(注油)設備 番号 (911) 規模：内径2,100mm、胴長9,184mm、容量30,000L											
15 発生時		運転状況：給油中 番号 (8) 作業状況：監視中 番号 (10)					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(1L)				
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要			20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 顧客が大型ダンプに給油(軽油)した後、給油口にノズルを挿したまま発進したため、給油ホースが計量機から分離し、さらに給油ノズル取付け部が切断したもの。ホース内に残っていた軽油が約1L流出したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 従業員の監視不十分により、大型ダンプが給油ノズルを固定給油設備に戻す行為を見落としたことが原因である。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	思慮	配慮不足				
	人	本人の意識	思慮	不注意				
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 固定給油設備周囲に流出した軽油を約1L回収した。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油が約1L流出	
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (14 万円)	
公設消防機関：番号 (99) 予防課 保安係員2名にて調査業務を実施する。					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年 9月 9日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和4年 9月 9日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見		従業員の監視体制の強化及び安全教育の実施						

令和5年

1 事故名		給油取扱所において、定量給油機内部の電磁弁固定金具が破損したことによる軽油の流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）											
3 発生		3月 20日 14時 30分				推定・確定		4 発生見		3月 20日 14時 30分			
5 覚知		3月 20日 17時 00分				6 鎮圧 応急処置完了				3月 20日 17時 30分			
7 鎮火・処理完了		3月 20日 17時 30分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他（ ）											
9 気象状況		天気：晴 風向：西南西 風速：1.2m/s 気温：12℃ 湿度：43%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番号 (4211) 道業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍											
12 施設装置		倍数の合計： 10倍 設置の完成：昭和 57年 3月 18日 直近の完成：令和 5年 2月 28日											
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)													
能力：地下タンク貯蔵所 10,000L基													
13 機器等		温度圧力：0.7Mpa											
名称：その他 番号 (999)		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (9L)											
規模：幅490mm、奥行394mm、高さ893mm													
14 発生箇所													
名称：制御弁 番号 (205)		18 取扱者の概要											
材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：停止中 番号 (5)		19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
作業状況： 番号 ()													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 一次側の地下タンク貯蔵所の送油ポンプ更新のため、バルブを閉めていた。ポンプ更新完了後にバルブを開け送油試験した際、定量給油機内部から軽油約9Lが流出した。施設外への流出はない。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因 破 損						着火原因						番号 ()	
	関 連 原 因 操作確認不十分													
	発生原因の状況： 3月17日8時30分から一次側の地下タンク貯蔵所の送油ポンプ更新に伴い、ポンプから先のパルプを閉め、二次側の給油取扱所の計量装置電磁弁まで配管を液封状態にしたことで、外気温の変化に伴い、液体の膨張によって配管内の圧力が上昇し電磁弁固定金具が破損。ポンプ更新完了後にパルプを開け送油試験したため、破損部分から軽油約9Lが流出した。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層				
	破損			点検時			点検時の処置の不備							
	関連原因の詳細													
	設備			監理・保守			監理			施工監理が不適切				
因														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人 的 被 害										28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内の油分離槽内で停滞。						
区分														
当 事 者	0	0	0	0										
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0										
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 電磁弁固定金具の破損。						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類軽油(非水溶性)約9L流出。				
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人					
30 実施した防災活動の状況										損害額 1万円未満、 1万円以上 (70 万円)				
公設消防機関：番号 (99)										自衛防災・消防組織等 番号 ()				
事故状況の確認を行う。														
31 防災活動上の問題点 送油ポンプの停止、給油機器の使用停止及び流出した油の回収、消防機関への通報を行う。														
32 施設名							33 定期点検等			消 防 法			そ の 他	
	使用停止			年 月 日			年 月 日			年 月 日			年 月 日	
	改善命令等			年 月 日			年 月 日			年 月 日			年 月 日	
	停止解除			年 月 日			年 月 日			年 月 日			年 月 日	
	関係条項													
	そ の 他			年 月 日			年 月 日			年 月 日			年 月 日	
1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭			34 当該施設に係る法令違反の有無			有・ 無 内容：					
35 今後の対策や所見 配管工事やメンテナンス時に長時間液封状態にしないために、施工内容の確認及び指導を行う。														

1 事故名		給油取扱所において、車両に給油ノズルを入れたまま車両を発進したことによりガソリンが流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		4月 27日 18時 39分 推定・ 確定					4 発生見		4月 27日 18時 39分				
5 覚知		4月 27日 18時 50分					6 鎮圧 応急処置完了		4月 27日 19時 00分				
7 鎮火・処理完了		4月 27日 19時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東北東 風速：1.3m/s 気温：19.2℃ 湿度：32.4%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 80,000L 80倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 倍数の合計： 341倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 9年 11月 18日 直近の完成：令和 4年 11月 24日											
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)		17 物質の区分											
能力：タンク容量 142,000L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(1L)											
13 機器等		18 取扱者の概要											
温度圧力：		経験年数11年											
名称：固定給油(注油)設備 番号 (911)		19 危険物保安統括管理者											
規模：1基 軽油 吐出量75L毎分		20 危険物保安監督者											
14 発生箇所		21 危険物取扱者の取扱・立会い											
名称：その他 番号 (999)		①. 有 2. 無											
材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：定常運転中 番号 (1)													
作業状況：その他 番号 (99)													
22 設備・機器等の概要：													
オンラインファイル有													
23 事故の概要：													
フルサービスレーンでトラックに給油中、燃料タンク、燃料サブタンクにノズルがある状態で顧客が発進してしまい、ノズルとホースを破損した。従業員は車両の見える範囲で給油作業以外の作業(ごみ捨て)を実施していた。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無													
装置の緊急停止													

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 管理が不十分だった為、顧客が車を発進させたもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	管理	監督	監視	監視が実施されない/不足				
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害				28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油中に車両を発進させたため、ノズル内の軽油 が少量滴下した。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油1L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
32 施 設 名					33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		令和4年 6月 1日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等		令和4年 6月 1日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ ☐ 無		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日			内容：		
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策 や所見								
給油作業中の監視体制の見直し、顧客への注意喚起。								

令和5年

1 事故名		給油取扱所における、移動タンク貯蔵所注油中の灯油約100L漏えい事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		12月 19日 16時 16分 推定・ 確定					4 発生見		12月 19日 16時 16分				
5 覚知		12月 19日 16時 24分					6 鎮圧 応急処置完了		12月 19日 16時 54分				
7 鎮火・処理完了		12月 19日 18時 10分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東 風速：3.4m/s 気温：7.4℃ 湿度：49.4%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：公務(他に分類されないもの) 番号 (9621) 地方公務 市町村機関 市町村 機関		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 30,000L 30倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍											
12 施設装置		13 機器等											
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)		温度圧力：0.3Mpa											
能力：屋外給油取扱所(地下貯蔵タンク30kL×3基、2kL×1基)		14 発生箇所											
名称：タンクの注入口 番号 (905)		材質：アルミニウム											
15 発生時		17 物質の区分											
運転状況：払出中 番号 (10)		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(100L)											
作業状況：その他 番号 (99)		18 取扱者の概要											
		経験年数18年											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 令和5年12月19日(火)16時16分頃、給油取扱所にて店員が移動タンク貯蔵所(灯油1,900L)のタンクに当日配達分の灯油を注油中、事務作業のためにマンホールの蓋で注油ノズルを固定し、現場を離れたところ、オートストップ機能が作動せず、オーバーフローにより灯油約100Lが、地面、排水路、集水桝を経由し油水分離槽第1層まで漏えい。オーバーフロー後は注油ノズルを停止させ、本社へ連絡し、消防機関へ一般加入にて通報したもの。 なお、オートストップ機能については事故後に作動確認を行ったところ正常に作動。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 監視不十分				着火原因				番号 ()				
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 灯油をタンクへ注油中、伝票整理のためにマンホールの蓋で注油ノズルを挟んで固定し、運転席へ移動したところ、約5分後にオーバーフローとなり、排水路、集水桝を経由し油水分離槽第1層まで漏えいしたものの。												
	主要原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	人			本人の意識			思慮			思い込み			
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27	人 的 被 害							28 物的被害					
	被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 被害なし				
	当 事 者		0	0	0	0							
	防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし				
	第 三 者		0	0	0	0							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
	消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 灯油約100Lの漏えい		
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)		
30	実施した防災活動の状況												
	公設消防機関：番号 (4) 地面、排水路、集水桝及び油水分離槽にオイルマットを設置し、施設外への流失防止を実施。							自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31	防災活動上の問題点												
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等				消 防 法		そ の 他	
行 政 措 置	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				令和 5 年 10 月 1 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				気密試験等				令和 5 年 9 月 14 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				保 安 検 査				年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日				年 月 日							
35	今後の対策 や所見												
	予防規程を遵守した注油作業を行う。												

1 事故名		給油取扱所内で発生した車両との接触による計量器等の破損											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		2月 10日 7時 15分 推定・ 確定					4 発生見		2月 10日 7時 16分				
5 覚知		2月 10日 7時 23分					6 鎮圧 応急処置完了		2月 10日 7時 55分				
7 鎮火・処理完了		2月 10日 7時 55分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：雪 風向：北北西 風速：2.4m/s 気温：1.9℃ 湿度：52.7%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 120,000L 600倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 30,000L 30倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 30,000L 30倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍											
		倍数の合計：661倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 19年 1月 11日 直近の完成：令和 3年 1月 19日											
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)		17 物質の区分											
能力：給油取扱所 30,000L×6基 2,000L×1基		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (2L)											
13 機器等		温度圧力：											
名称：固定給油(注油)設備 番号 (911)		18 取扱者の概要											
規模：固定注油設備		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
14 発生箇所		21 危険物取扱者の取扱・立会い											
名称：その他 番号 (999)		1. 有 ②. 無											
材質：合成樹脂		22 設備・機器等の概要：											
15 発生時		オンラインファイル無											
運転状況：給油中 番号 (8)		23 事故の概要：											
作業状況：小分け・詰替中 番号 (13)		灯油を注油するため、車両を後退し注油設備前に移動したところ、固定注油設備の一部を破損。注油中の女性1名が負傷したもの。なお、事故の際に注油していた灯油缶が転倒し灯油約2Lが漏えい。											
19 危険物保安統括管理者		24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											
1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要													
20 危険物保安監督者													

25	主 原 因 破 損						着火原因				番号 ()	
原 因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 灯油を注油するため、車両を後退し注油設備前に移動したところ、固定注油設備の一部を破損。注油中の女性1名が負傷したものの。なお、事故の際に注油していた灯油缶が転倒し灯油約2Lが漏えい。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	破損			定常運転時			車両等の接触					
	交通事故			運転操作			その他運転操作ミス					
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人 的 被 害						28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 固定注油設備、精算機、インターホンを破損				
	当 事 者	0	0	0	0							
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 固定注油設備、精算機、インターホンを破損				
	第 三 者	0	0	0	1	転倒等	備後隊					
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 灯油2L流出								
	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人									
	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人									
	その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	2 台 0 隻 0 機 4 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (540 万円)							
30	実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4, 99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
乾燥砂を使用し、敷地外への流出防止及び負傷者1名を医療機関へ搬送する。												
31	防災活動上の問題点 給油取扱所従業員が発見し通報。固定注油設備を使用不可とする。											
32 行政措置	施設名					33 定期点検等	消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 5 年 2 月 9 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無 内容：					
	そ の 他	年 月 日		年 月 日								
35	今後の対策や所見 給油取扱所内の監視業務を徹底し、同様の事故防止に務める。											

令和5年

1 事 故 名		オートストップ装置の不具合により給油が停止されず、軽油約450Lが漏えいしたもの											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		2月 17日 10時 50分				推定・確定		4 発 見		2月 17日 10時 55分			
5 覚 知		2月 17日 11時 15分				6 鎮 圧 応急処置完了				2月 17日 13時 35分			
7 鎮火・処理完了		2月 17日 13時 35分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 北 風速： 0.9m/s 気温： 7.3℃ 湿度： 53%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 運輸に附帯するサービ 番 号 (4821) ス業 貨物運送取扱業(集配利 用運送業を除く) 利用運送業 (集配利用運送業を除く)		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 19,000L 19倍											
12 施 設 装 置		17 物 質 の 区 分											
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
能 力： 自家用給油取扱所(9.5kL×2基)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
13 機 器 等		温度圧力：											
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)											
規 模： 幅880mm×高さ1,440mm×奥行510mm 吐出量 50L/min以下(標準) 90L/min以下(高吐出)設定圧力0.28Mpa以下		(低温、常温 [0-40℃]、高温)											
14 発 生 箇 所		分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(450L)											
名 称： その他 番 号 (999)		18 取扱者の概要											
材 質： アルミニウム		①. 選任有 2. 選任無											
15 発 生 時		21 危険物取扱者の取扱・立会い											
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		1. 有											
作 業 状 況： 番 号 ()		②. 無											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 自家用給油取扱所にて、トラックに軽油を給油していたところ、オートストップ装置の不具合により給油が停止されず軽油約450Lが漏えいしたもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因 故障					着火原因					番号 ()																															
	関 連 原 因																																									
	発生原因の状況： オートストップ装置の不具合により給油が停止されなかったもの。																																									
	主原因の詳細																																									
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																													
	故障				機能				機器の異常動作																																	
	関連原因の詳細																																									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																										
27 人 的 被 害										28 物的被害																																
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防 災 活 動 従 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	当 事 者	0	0	0	0			防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 自家用給油取扱所から、軽油約450Lが漏えい、うち約100Lが隣接する側溝へ流出。流出範囲は、敷地境界線より100m以内に収まっている。				
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																				
当 事 者	0	0	0	0																																						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0																																						
第 三 者	0	0	0	0																																						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										施設等の被害状況： オートストップ装置の故障																																
消 防 機 関 2 台 0 隻 0 機 5 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人										物質の被害状況： 第4類危険物第2石油類(非水溶性)軽油 450L流出																																
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																										
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																										
その他の機関 1 台 0 隻 0 機 2 人 その他 1 台 0 隻 0 機 2 人										損害額 1万円未満、 1万円以上 (500 万円)																																
30 実施した防災活動の状況																																										
公設消防機関：番号 (4) 吸着マットにて流出した軽油を吸着し拡散を防止										自衛防災・消防組織等 番号 (5) 専門業者が流出した軽油を回収																																
31 防災活動上の問題点																																										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法				そ の 他																												
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検				令和 4 年 10 月 3 日				年 月 日																								
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等				令和 4 年 3 月 7 日				年 月 日																								
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査				年 月 日				年 月 日																								
	関係条項									34 当該施設に係る法令違反の有無				有・ 無				内容：																								
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																				
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭																																										
35 今後の対策や所見 オートストップ装置の改修、危険物保安監督者の立ち会いによる取り扱いの徹底。																																										

1 事 故 名		給油取扱所において移動タンクの荷卸し中、地下タンクの計量器のエア－抜きからのガソリン流出事故											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		9月 10日 11時 40分 推定・ 確定					4 発 見		9月 10日 11時 40分				
5 覚 知		9月 10日 11時 47分					6 鎮 圧 応急処置完了		9月 10日 12時 23分				
7 鎮火・処理完了		9月 10日 14時 20分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：東南東 風速：0.5m/s 気温：30.5℃ 湿度：2.2%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 80,000L 400倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍											
		倍数の合計： 440倍											
12 施 設 装 置		設置の完成：平成 18年 3月 23日 直近の完成：令和 元年 10月 8日											
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)		17 物 質 の 区 分											
能 力：給油取扱所80,000L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0－40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(20L)											
13 機 器 等 温 度 圧 力：		18 取扱者の概要 経験年数1年											
名 称：固定給油(注油)設備 番 号 (911)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
規 模：1,285mm×2,240mm×533mm		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
14 発 生 箇 所		23 事 故 の 概 要： 移動タンクの単独荷卸しで、車載のペーパーリカバリーホースの金具脱落に気付かず使用したため、ペーパーが移動タンクに回収されず、地下タンクの内圧が上昇したことにより、計量機のエア－抜きホースからガソリンが漏えいしたもの。											
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											
材 質：合成樹脂													
15 発 生 時													
運 転 状 況：荷卸中 番 号 (13)													
作 業 状 況：監視中 番 号 (10)													

25	主 原 因 操作確認不十分				着火原因				番号 ()				
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： ペーパーリカバリーホースの金具脱落により移動タンク側の抜気弁が作動せず、通気管からペーパーが廃棄できず地下貯蔵タンク内が陽圧になったため。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	人			本人の意識			思慮			不注意			
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27	人 的 被 害							28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 計量機のエア－抜きホースからガソリンが漏れいたのに気が付きすぐに給油取扱所を閉鎖し漏油処理を行った。					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0								
	第 三 者	0	0	0	0								
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 漏れいたガソリンを吸着マットで吸い取り廃棄した。									
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同										0 台 0 隻 0 機 0 人
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援										0 台 0 隻 0 機 0 人
	その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他										0 台 0 隻 0 機 0 人
30	実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 ()							自衛防災・消防組織等 番号 (4) 吸着マットを使用し漏れいたガソリンを処理する。						
31	防災活動上の問題点												
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 3 年 2 月 15 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保 安 検 査		年 月 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無					
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				内容：					
35	今後の対策や所見												
従業員に周知し、随時点検を行う。													

1 事 故 名		固定給油設備の給油ホースけん引によりホースが破損し、軽油が飛散した流出事故											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		9月 12日 20時 53分 推定・ 確定					4 発 見		9月 12日 20時 53分				
5 覚 知		9月 12日 20時 53分					6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		9月 12日 21時 40分				
7 鎮火・処理完了		9月 12日 21時 40分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南南西 風速：3.4m/s 気温：25.3℃ 湿度：											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 15,000L 15倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 15,000L 15倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 倍数の合計： 281倍											
12 施 設 装 置		設 置 の 完 成： 平成 7年 10月 11日 直 近 の 完 成： 平成 8年 4月 12日											
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)		17 物 質 の 区 分											
能 力： 給油取扱所 30kL×2基、20kL×1基、2kL×1基		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (1L)											
13 機 器 等 温 度 圧 力：		18 取扱者の概要											
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
規 模： W1,226mm×H2,300mm×D493mm		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
14 発 生 箇 所		23 事 故 の 概 要： 固定給油設備の給油ホースけん引によりホースが破損し、軽油が飛散したもの。											
名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908)		24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											
材 質： ゴム													
15 発 生 時													
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)													
作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)													

原 因	25 主 原 因 破損						着火原因				番号 ()	
	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 給油のため移動した際に発生したものである。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	破損			定常運転時			車両等の接触					
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人 的 被 害								28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 固定給油設備の給油ホースが脱落し、同ホース内の軽油が飛散したものである。				
当 事 者		0	0	0	0							
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 固定給油設備1台(給油ホース1本)				
第 三 者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関		2 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 1L流出	
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)	
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (4、99) 固定給油設備の使用停止の継続及び飛散した軽油の処理							自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点												
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 4 月 1 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等		令和 4 年 4 月 30 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日		保安検査		年 月 日		
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
	そ の 他	年 月 日				年 月 日						
35 今後の対策 や所見		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭 事故発生から通報までが迅速であった。										

令和5年

1 事故名		航空機給油取扱所において航空機からJET A-1が漏えいし給油取扱所の敷地外へ流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		3月 25日 21時 00分				推定・ 確定		4 発生見		3月 25日 21時 00分	
5 覚知		3月 25日 21時 31分				6 鎮圧 応急処置完了				3月 25日 23時 30分	
7 鎮火・処理完了		3月 25日 23時 35分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：雨 風向：北 風速：1m/s 気温：10℃ 湿度：100%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 航空運輸業 航空運送 番号 (4611) 業 航空運送業		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) JET A-1 11,400,000L 11,400倍									
12 施設装置		倍数の合計： 11,400倍 設置の完成：平成 3年 12月 25日 直近の完成：令和 5年 2月 24日									
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)											
能力：											
13 機器等		温度圧力：									
名称：その他 番号 (999)		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： JET A-1 (1,370L)									
規模：燃料タンク容量90kL											
14 発生箇所											
名称：その他 番号 (999)		18 取扱者の概要 経験年数0年									
材質：アルミニウム											
15 発生時											
運転状況：定常運転中 番号 (1)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無									
作業状況：運転操作中 番号 (1)											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 空港内のスポット(給油取扱所内)において、整備士が駐機している航空機の左翼燃料ポンプを交換整備していたところ、パッキンの固着と整備士の作業ミスにより少量の航空燃料が漏えいする。その後、漏えいを止めようとしたがさらに漏えいが拡大させてしまい、航空燃料1,370Lが航空機から漏えいした。直ちに航空会社により吸着マットを設置し応急処置を実施したが、降雨が激しく、漏えいした航空燃料の一部が雨とともに側溝へ流出、給油取扱所を超え、空港敷地内の放水路(給油取扱所外)まで流出する。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原因	25	主 原 因 誤操作				着火原因				番号 ()				
	関 連 原 因													
	発生原因の状況： 左翼燃料ポンプを交換しようとしていたところ、ポンプ周囲のパッキンが固着しており、通常より過度の力を加えてポンプを引き抜く。引き抜いたことにより、ポンプと遮断弁の結合が外れ、遮断弁が少し開いた状態になってしまい、少量の航空燃料が漏れ始める。漏れを止めようと再度ポンプを元の位置に戻そうとしたところ、固着して動きが悪く遮断弁の開度がさらに広がり、航空燃料1, 370Lが航空機から漏えいしたものの。													
	主要原因の詳細													
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層							
	人		本人の意識		思慮		不注意							
因	関連原因の詳細													
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害														
28 物的被害														
被災影響範囲及び拡大の状況： 航空機からJET A-1が1, 370L漏えい、エプロンに約30m×40mの範囲で広がり、一部が側溝から空港敷地内の放水路(給油取扱所外)まで流出。														
施設等の被害状況： 施設等の被害無し														
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
物質の被害状況： 第4類 引火性液体(非水溶性)1, 370L汚損														
損害額 1万円未満、1万円以上(9 万円)														
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (4) 現場到着時には漏えいしたJET A-1は吸着マットにより処置されており、他への漏えいの有無の確認と可燃性ガス測定器による測定等調査を実施する。														
自衛防災・消防組織等 番号 (5) 吸着マットによる回収作業と他への漏えいの有無の確認														
31 防災活動上の問題点 事故発生から消防が覚知するまでに30分以上を要した。降雨の影響により側溝に流出したJET A-1の回収に苦慮した。														
行政措置	32	施設名						33	定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	行	使用停止	年 月 日		年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
		改善命令等	年 月 日		年 月 日				気密試験等	年 月 日		令和 5 年 3 月 23 日		
		停止解除	年 月 日		年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
		関係条項												
	措							34	当該施設に係る 法令違反の有無		有・無		内容：	
	置	そ の 他	年 月 日		年 月 日									
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭										
	35 今後の対策や所見 燃料漏えい等の緊急時における初動対応(流出防止措置や通報要領等)の見直しと再教育													

令和5年

1 事故名		給油取扱所において、利用客が給油中に給油ノズルを給油口から外してしまい床面にガソリンが流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		2月 10日 15時 44分 推定・ 確定					4 発生見		2月 10日 15時 44分				
5 覚知		2月 10日 15時 48分					6 鎮圧 応急処置完了		2月 10日 15時 50分				
7 鎮火・処理完了		2月 10日 15時 50分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：雨 風向：北北西 風速：4m/s 気温：1.4℃ 湿度：97%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 48,000L 240倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 18,000L 18倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 第3石油類 200L 0.1倍											
		倍数の合計： 268.1倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 19年 8月 3日 直近の完成：令和 4年 3月 24日											
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)		17 物質の区分											
能力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(1L)											
13 機器等		18 取扱者の概要											
温度圧力：		経験年数0年											
名称：固定給油(注油)設備 番号 (911)		19 危険物保安統括管理者											
規模：高さ2.3m×幅1.8m×奥行0.8m		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い			①. 有 2. 無	
14 発生箇所		22 設備・機器等の概要：											
名称：給油(注油)ノズル 番号 (909)		オンラインファイル無											
材質：鋼鉄		23 事故の概要：											
15 発生時		利用客が給油中に従業員に話しかけられ振り向いた際に、車両の給油口から給油ノズルが抜け、床面にガソリン1Lが流出したもの。											
運転状況：定常運転中 番号 (1)		24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無											
作業状況：運転操作中 番号 (1)		その他											

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 利用客が給油中に従業員に話しかけられ振り向いた際に、車両の給油口から給油ノズルが抜け、床面にガソリン1Lが流出したものの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	思慮	不注意				
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 床面にガソリン1Lが流出
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： ガソリン1L	
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 8 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 1 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (5) 回収作業					自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和4年11月10日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見		事業所の初動対応に問題はない。引き続き保安管理に努めていく。						

令和5年

1 事故名		営業用給油取扱所において、利用客がポリタンクへ注油中にノズル操作を誤り床面に灯油が流出したもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		2月 14日 9時 35分				推定・ 確定		4 発生見		2月 14日 9時 40分	
5 覚知		2月 14日 9時 48分				6 鎮圧 応急処置完了		2月 14日 9時 45分			
7 鎮火・処理完了		2月 14日 9時 45分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北 風速：5m/s 気温：5.7℃ 湿度：69%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 48,000L 240倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 38,000L 38倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 倍数の合計：289倍 設置の完成：令和 2年 10月 22日 直近の完成：令和 4年 10月 22日									
12 施設装置		名称：その他【分類なし】 番号 (9999) 能力：48,000L×2、20,000L×1									
13 機器等		温度圧力： 名称：固定給油(注油)設備 番号 (911) 規模：吐出量40L/分以下									
14 発生箇所		名称：給油(注油)ノズル 番号 (909) 材質：ステンレス									
15 発生時		運転状況：定常運転中 番号 (1) 作業状況：運転操作中 番号 (1)									
17 物質の区分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (1L)									
18 取扱者の概要		経験年数0年									
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 利用客がポリタンクへ注油中にノズル操作を誤り床面に約1L灯油が流出したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原 因	25 主 原 因		誤操作		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 不注意によりノズル操作を誤ったもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		不注意	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害							28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 床面に60cm×50cmの範囲で灯油が流出
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし
第 三 者		0	0	0	1	灯油かかり目の痛み	無職	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 7 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 1 人	物質の被害状況： 灯油約1L				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (9) 灯油が顔面にかかり、目の痛みを訴えた利用客の搬送						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業		
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施 設 名	給油取扱所		33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：		
	そ の 他	防災安全指導 令和 5 年 2 月 14 日 1. 文書 ②. 口頭	年 月 日 1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見		利用客に対し、注油設備を適切に使用するよう注意喚起を行う必要がある。						

令和5年

1 事故名		自家用給油取扱所への荷卸し中の軽油が流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		3月 17日 9時 35分				推定・確定		4 発生見		3月 17日 9時 35分	
5 覚知		3月 17日 9時 47分				6 鎮圧 応急処置完了		3月 17日 9時 40分			
7 鎮火・処理完了		3月 17日 10時 10分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (発見)									
9 気象状況		天気：曇 風向：北北東 風速：3m/s 気温：13.2℃ 湿度：82%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：分類不能の産業 分類不能の産 番 号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能の産業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 7,000L 35倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍									
		倍数の合計：45倍									
12 施設装置		設置の完成：平成 9年 6月 3日 直近の完成：平成 31年 2月 27日									
名称：その他【分類なし】 番 号 (9999)		17 物質の区分									
能力：給油取扱所、タンク容量(7kL×1基、10kL×1基)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(61L)									
13 機器等		18 取扱者の概要									
温度圧力：		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
規模：軽油タンク、容量10kL											
14 発生箇所											
名称：タンクの注入口 番 号 (905)											
材質：鋼鉄											
15 発生時											
運転状況：受入中 番 号 (9)											
作業状況：運転操作中 番 号 (1)											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 自家用給油取扱所において、荷卸し作業中に軽油約61Lが流出したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

令和5年

1 事故名		給油取扱所の注入口ボックスからガソリンが流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		3月 22日 14時 00分				[推定]・確定		4 発生見		3月 22日 14時 00分			
5 覚知		3月 22日 17時 27分				6 鎮圧 応急処置完了				3月 22日 17時 27分			
7 鎮火・処理完了		3月 22日 20時 10分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気： 風向： 風速： 気温： 湿度：											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 70,000L 350倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍											
12 施設装置		名称： その他【分類なし】 番号 (9999) 能力： 給油取扱所、タンク容量(70kL×1基、20kL×2基、2kL×1基)											
13 機器等		温度圧力：											
名称： 貯槽(タンク)		番号 (107)											
規模： タンク容量(70kL×1基、20kL×2基、2kL×1基)		倍数の合計： 391倍											
14 発生箇所		設置の完成： 昭和 42年 9月 12日 直近の完成： 平成 30年 3月 28日											
名称： タンクの注入口		番号 (905)											
材質： 鋼鉄		17 物質の区分											
15 発生時		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(30L)											
運転状況： 定常運転中		番号 (1)											
作業状況： 運転操作中		番号 (1)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 給油取扱所内の注入口ボックス下部からガソリンと雨水が混ざった液体約30Lがにじみ出ていたもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原 因	主 原 因										維持管理不十分										着火原因										番 号 （ ）																																				
	関 連 原 因																																																																		
	発生原因の状況： 注入口ボックス下部の継ぎ目からの漏れがあったことから、日常点検の怠り及び施設の維持管理不適と思われる。																																																																		
	主原因の詳細																																																																		
	第Ⅰ層					第Ⅱ層					第Ⅲ層					第Ⅳ層																																																			
	設備					監理・保守					点検・整備					点検内容が不適切																																																			
因	関連原因の詳細																																																																		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																																			
27 人 的 被 害										28 物的被害																																																									
<table><tr><td>被害内容等 区分</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は 職名</td></tr><tr><td>当 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>防災活動従事者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 三 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>										被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			<table><tr><td colspan="10">被災影響範囲及び拡大の状況： ガソリンが注入口ボックスから3m70cm、幅1m20cmにわたり流出した。</td></tr><tr><td colspan="10">施設等の被害状況： なし</td></tr></table>										被災影響範囲及び拡大の状況： ガソリンが注入口ボックスから3m70cm、幅1m20cmにわたり流出した。										施設等の被害状況： なし									
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																																													
当 事 者	0	0	0	0																																																															
防災活動従事者	0	0	0	0																																																															
第 三 者	0	0	0	0																																																															
被災影響範囲及び拡大の状況： ガソリンが注入口ボックスから3m70cm、幅1m20cmにわたり流出した。																																																																			
施設等の被害状況： なし																																																																			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																																			
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン30L流出																																																									
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																										
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																										
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																										
30 実施した防災活動の状況										損害額 1万円未満 、1万円以上（ 万円）																																																									
公設消防機関：番号（ ）										自衛防災・消防組織等 番号 （ ）																																																									
31 防災活動上の問題点																																																																			
32 行政措置	施 設 名									33 定 期 点 検 等	消 防 法				そ の 他																																																				
	使用停止	年 月 日				年 月 日					定期・自主点検	年 月 日				年 月 日																																																			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日						気密試験等	年 月 日				年 月 日																																																		
	停止解除	年 月 日				年 月 日					保 安 検 査		年 月 日				年 月 日																																																		
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：																																																							
	そ の 他																																																																		
		年 月 日				年 月 日																																																													
35 今後の対策 や所見		施設の適正な維持管理を指導した。また、常日頃から従業員への防災教育を徹底し、事故発生時の連絡体制及び対応要領を十分理解させる。																																																																	

令和5年

1 事 故 名		営業用給油取扱所(セルフ)において、給油中にガソリンが流出した事故											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		4月 20日 17時 56分 推定・ 確定					4 発 見		4月 20日 17時 56分				
5 覚 知		4月 20日 18時 00分					6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		4月 20日 17時 59分				
7 鎮火・処理完了		4月 20日 17時 59分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南 風速：4.8m/s 気温：21.6℃ 湿度：72%											
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド					11 発 生 場 所		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 48,000L 240倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 11,000L 11倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 11,000L 11倍 倍数の合計： 262倍 設 置 の 完 成： 平成 18年 7月 14日 直 近 の 完 成： 平成 30年 2月 26日				
12 施 設 装 置							17 物 質 の 区 分						
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)							①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(1L)						
能 力： ガソリン48,000L、軽油11,000L、灯油11,000L													
13 機 器 等 温 度 圧 力：													
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)		18 取扱者の概要											
規 模： 幅1,300mm×高さ2,300mm×奥行き824mm		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
14 発 生 箇 所													
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)													
材 質： ステンレス		21 危険物取扱者の の取扱・立会い											
15 発 生 時		①. 有 2. 無											
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)													
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)													
19 危険物保安 統括管理者		20 危険物 保安監督者											
1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 給油取扱所(セルフ)において、利用客は給油後、給油口からノズルを引き抜いた際にレバーを握っていたため、給油ノズルからガソリンを約1L流出させたもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

原因	25 主 原 因 誤操作				着火原因				番号 ()				
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 利用客が自家用車の給油を完了し、給油口からノズルを引き抜いた際ノズルレバーを握ったままであったため、ガソリンがノズルから流出した。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	人			本人の意識			思慮			不注意			
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 計量器付近の床にガソリンが1L程度流出した。					
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 危険物施設の被害はない。					
防災活動従事者		0	0	0	0								
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン1L程度流出。					
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻					0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻					0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻					0 機	0 人
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 流出調査							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点 危険物が流出したが、消防機関への通報がなかったこと。													
行政措置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検		令和 5 年 4 月 4 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等		令和 4 年 6 月 10 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保安検査		年 月 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：					
	そ の 他	年 月 日											
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見		危険物が流出した際は消防機関に通報するよう指導した。											

令和5年

1 事故名		給油取扱所において、給油口に給油ノズルが挿入された状態で車両を発進させたことによる軽油流出事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		6月 17日 20時 00分 推定・ 確定				4 発生見		6月 17日 20時 00分			
5 覚知		6月 17日 20時 32分				6 鎮圧 応急処置完了		6月 17日 21時 10分			
7 鎮火・処理完了		6月 17日 21時 10分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：1m/s 気温：24.2℃ 湿度：83%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 倍数の合計： 281倍									
12 施設装置		設置の完成： 平成 6年 12月 27日 直近の完成： 平成 30年 10月 29日									
名称： その他【分類なし】 番号 (9999)		17 物質の区分									
能力： ガソリン50kL、軽油20kL、灯油10kL、廃油2kL		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (1L)									
13 機器等		18 取扱者の概要									
名称： 固定給油(注油)設備 番号 (911)		経験年数4年									
規模： 標準吐出量40L/分		19 危険物保安統括管理者									
14 発生箇所		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
名称： 給油(注油)ホース 番号 (908)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無									
材質： ゴム		23 事故の概要： 給油行為が終了し、従業員が車両の窓を拭こうと目を離した際、他の従業員が別の利用客に送った合図を当該利用客が自身に向けられたものと認識し車両を誤発進させたため、給油口に挿入されたままの給油ノズルが引っ張られることにより、緊急離脱カプラーが作動し、給油ホースが離脱するとともに内部の軽油が約1L流出した。									
15 発生時		24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他									
運転状況： 給油中 番号 (8)											
作業状況： その他 番号 (99)											

原因	25 主 原 因	操作確認不十分				着火原因				番号 ()																													
	関 連 原 因																																						
	発生原因の状況： 利用客は、他の従業員が別の利用客に送った合図を、自身に向けられたものだと認識し車両を誤発進させた。																																						
	主原因の詳細																																						
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																													
	人			本人の意識			思慮			思い込み																													
	関連原因の詳細																																						
26 被害の状況 ①. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																							
27 人 的 被 害								28 物的被害																															
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 給油ノズルが差し込まれた状態で車両が発進したことにより、固定給油設備に負荷がかかることで緊急離脱カブラーが保全機能として作動し、給油ホースが離脱した。また、その際給油ホース内の軽油約1Lが施設内に流出した。			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																	
当 事 者	0	0	0	0																																			
防災活動従事者	0	0	0	0																																			
第 三 者	0	0	0	0																																			
								施設等の被害状況： 懸垂式固定給油設備1が破損																															
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																							
消 防 機 関		1 台 0 隻 0 機 4 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油が約1L流出した。																															
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人																																	
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人																																	
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		そ の 他		0 台 0 隻 0 機 0 人																																	
								損害額 1万円未満、 1万円以上 (10 万円)																															
30 実施した防災活動の状況																																							
公設消防機関：番号 (99) 流出調査								自衛防災・消防組織等 番号 ()																															
31 防災活動上の問題点 消防機関は警察電話により覚知した。流出防止措置をしなかった。																																							
行政措置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他																													
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 4 月 27 日		年 月 日																													
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和 4 年 5 月 9 日		年 月 日																													
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保 安 検 査		年 月 日		年 月 日																													
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有 ・無 内容： 法第12条第1項 製造所等の位置、構造又は設備に関する基準違反																															
	そ の 他	年 月 日		年 月 日																																			
35 今後の対策 や所見		保安管理体制の不適並びに予防規程に基づく事故発生時の対応が出来ておらず、消防機関への通報が未実施であった。 事故防止対策や事故発生時の対応要領、従業員の教育状況等について、機会をとらえてしていく必要がある。																																					

1 事故名		給油取扱所において、計量機の給油ホースが脱落したことにより軽油が流出したもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		7月 31日 0時 03分				推定・ 確定		4 発生見		7月 31日 0時 03分	
5 覚知		7月 31日 0時 16分				6 鎮圧 応急処置完了		7月 31日 0時 09分			
7 鎮火・処理完了		7月 31日 0時 45分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：快晴 風向：南 風速：5m/s 気温：28.4℃ 湿度：66%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 16,000L 80倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 104,000L 104倍									
12 施設装置		倍数の合計： 184倍 設置の完成： 平成 28年 2月 15日 直近の完成： 令和 5年 3月 15日									
名称： その他【分類なし】 番号 (9999)											
能力： 給油取扱所(タンク容量16kL×1基、104kL×1基)											
13 機器等		温度圧力：									
名称： 固定給油(注油)設備 番号 (911)		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (2L)									
規模： 幅1,280mm、長さ1,490mm、奥行き833mm											
14 発生箇所											
名称： 給油(注油)ノズル 番号 (909)		18 取扱者の概要									
材質： 鋼鉄											
15 発生時											
運転状況： 定常運転中 番号 (1)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
作業状況： その他 番号 (99)											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： セルフの給油取扱所において、利用客が給油ノズルを給油口に差したままトラックを発進させたため、給油ホースに設置された安全接手の緊急離脱カバーが作動し、給油ホースが脱落した。利用客が脱落した給油ホースを計量器に接続し復旧を試みたところ、給油ホース機器内の軽油が流出したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

25	主 原 因 監視不十分				着火原因				番号 ()			
原因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 利用客は給油終了後に、給油ノズルをトラックの給油口に差したままの状態での場を離れた。その後、給油ノズルが給油口に差さったままであることを失念し、トラックを発進させたため、給油ホースが引っ張られ、安全接手の緊急離脱カプラーが作動し給油ホースが脱落した。利用客は店員に知らせず、利用客単独で脱落した給油ホースの復旧作業を試みたため、給油ホース内の軽油が流出したもの。											
	主要原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	人			本人の意識			思慮			配慮不足		
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人 的 被 害								28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油空地内に軽油が流出した。				
	当 事 者	0	0	0	0							
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 緊急離脱カプラー1破損				
	第 三 者	0	0	0	0							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 9 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油2Lが流出								
	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人									
	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人									
	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5 万円)								
30	実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (3) 油処理剤を使用し、流出した軽油を回収した。						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 中和剤(界面活性剤)を使用し、流出した軽油を分散させた。						
31	防災活動上の問題点 従業員は警察機関への通報のみで、消防機関への通報をしなかった。											
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他			
行政措置	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	令和 5 年 3 月 10 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 出入口が解放状態であり、自動閉鎖式ではない(危政令第17条第1項第18号、危規則第25条の4第5項)					
35	今後の対策 や所見	通報マニュアルにとらわれず施設内での危険物の流出事故を発見した場合は、流出の規模によらず消防機関へ通報すること。給油後に顧客がその場を離れるなどの危険な行為を現認した場合、監視員はインターホン等で注意喚起するようにする。 本件は、給油ホース脱落時に従業員が現場に駆け付け、適切に給油ホース内の残留軽油を抜取ることによって流出事故を防ぐことができた。また、事故発生直前に顧客が給油中に計量機から離れるなど、不適切な行為をしていたにもかかわらず注意喚起をしなかった。 このことから、本事故の問題点は従業員の監視が不十分であった点であり、セルフスタンドでは従業員の監視が各種事故防止の重要な要素であるといえる。										

令和5年

1 事故名		給油取扱所において、懸垂式給油設備の給油ノズルからガソリンが流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		8月 11日 9時 30分				推定・ 確定		4 発 見		8月 11日 13時 40分			
5 覚 知		8月 11日 14時 33分				6 鎮 圧 応急処置完了		8月 12日 10時 00分					
7 鎮火・処理完了		8月 12日 13時 40分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北東 風速：3.5m/s 気温：32.1℃ 湿度：60%											
10 発 生 事 業 所					11 発 生 場 所								
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：								
					16 発生施設規制区分等								
					施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 40,000L 200倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍								
12 施 設 装 置					17 物 質 の 区 分								
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス								
能 力： 給油取扱所、タンク容量(40kL×1基、10kL×2基、2kL×1基)					5. 毒物 6. 劇物 7. その他								
13 機 器 等					18 取扱者の概要								
温度圧力：					経験年数21年								
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)					①. 選任有 2. 選任無								
規 模： 吐出量40L/分					21 危険物取扱者の取扱・立会い								
14 発 生 箇 所					①. 有								
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)					2. 無								
材 質： アルミニウム													
15 発 生 時													
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)													
作 業 状 況： その他 番 号 (99)													
19 危険物保安統括管理者					20 危険物保安監督者								
1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					①. 選任有 2. 選任無 3. 不要								
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 給油作業中、利用客は従業員からクレジットカードを返却されたため、給油作業が全て終わったものと勘違いし車両を発進させたことで、給油ホース及びノズルが引っ張られ、安全装置が作動し、使用が出来なくなった。その後給油ノズルの持ち手部分からガソリンが流出したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 給油ノズルにオートロック機能が備わっていることから、従業員はオーバーフローしないだろうと思い、別のレーンに入ってきた他の利用客の対応のためその場を離れた。これにより、当該利用客が給油作業が終わり、車を発進させたことにより事故が発生した。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	思慮	過信				
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所施設内にガソリンが流出した。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 2 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)1Lが流出した。				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (4, 99) 従業員は、給油ノズルの下部にオイルパンを設置し流出防止措置をするとともに、当該給油ノズルを使用する給油レーンにロードコーンを設置し使用停止とした。			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 7 月 12 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 5 年 7 月 12 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策や所見 利用客に給油作業中であることを記載したカードを渡すとともに、自主保安体制の再徹底を図る。 また、事故発生時の初動対応マニュアルが事務所内の他の掲示物と同化して発見しづらく、必要な情報を得ることが難しくなっていた。								

令和5年

1 事故名		船舶給油取扱所において、荷卸し中に軽油が流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		9月 6日 10時 05分 推定・ 確定					4 発生見		9月 6日 10時 05分				
5 覚知		9月 6日 11時 51分					6 鎮圧 応急処置完了		9月 6日 10時 20分				
7 鎮火・処理完了		9月 6日 12時 47分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：南 風速：9m/s 気温：29℃ 湿度：79%											
10 発生事業所		種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 公務(他に分類されないもの) 番号 (9611) 地方公務 都道府県機関 都道府県機関					11 発生場所		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 9,000L 45倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 27,000L 27倍 倍数の合計： 72倍 設置の完成： 平成 4年 2月 21日 直近の完成： 令和 5年 3月 29日				
12 施設装置													
名称： その他【分類なし】 番号 (9999)													
能力： 給油取扱所、タンク容量(9kL×1基、27kL×1基)													
13 機器等													
温度圧力：		17 物質の区分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(20L)									
名称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606)													
規模： 径50A													
14 発生箇所		18 取扱者の概要		経験年数1年									
名称： その他の附属配管等 番号 (299)		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の 取扱・立会い		①. 有 2. 無					
材質： アルミニウム													
15 発生時		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		23 事故の概要： 船舶給油取扱所において、軽油の荷卸し作業の際に誤って別の注入口に荷卸ししたことから、タンクの容量を超えた軽油がベーパーリカバリーホースの接続部分から流出したもの。その後、荷卸しを停止し、注入ホースを離脱した際に軽油約20Lが流出した。									
運転状況： 受入中 番号 (9)													
作業状況： 運転操作中 番号 (1)													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の 取扱・立会い		①. 有 2. 無			
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 操作確認不十分				着火原因				番号 ()				
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 事前に施設従業員から荷卸し先の注入口を指示されていたが、軽油の注入口は2か所あることから、荷卸し作業を行った者はどちらの注入口に接続しても大丈夫だろうと思い込み、荷卸し作業を実施した。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	人			本人の意識			思慮			取り違い			
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27	人 的 被 害							28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 船舶給油取扱所内で軽油約20Lが流出					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし					
	第 三 者	0	0	0	0								
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 10 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油が20L流出									
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同										0 台 0 隻 0 機 0 人
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援										0 台 0 隻 0 機 0 人
	その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他										0 台 0 隻 0 機 0 人
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)													
30	実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (5、99) 油処理剤を使用し、流出した軽油を除去した。 また、危険排除後、調査活動を実施した。							自衛防災・消防組織等 番号 (4) 油吸着マットを使用し、流出した軽油を除去した。						
31	防災活動上の問題点												
32 施設名							33 定期点検等	消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	平成 28 年 11 月 10 日			年 月 日					
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	平成 28 年 12 月 6 日		年 月 日					
	停止解除	年 月 日	年 月 日			保安検査		年 月 日		年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容： 危険物取扱者による立会いなし						
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35	今後の対策 や所見 荷卸しをした石油販売会社に対しては、作業内容(注入口の確認、緊結の実施状況など)を作業実施前に確認し、流出事故の防止を図ること。また、給油取扱所側に対しては、荷卸しの際、危険物取扱者1名以上が必ず立会いをする。												

1 事 故 名		給油取扱所において、固定給油設備の給油ノズルから誤ってガソリンを流出させたもの										
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()										
3 発 生		11月 19日 19時 55分 推定・確定					4 発 見		11月 19日 19時 57分			
5 覚 知		11月 19日 20時 10分					6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		11月 19日 19時 57分			
7 鎮火・処理完了		11月 19日 19時 57分										
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()										
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南 風速：1.8m/s 気温：11.9℃ 湿度：60%										
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所										
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：										
		16 発生施設規制区分等										
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数：										
		第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 52,000L 260倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍										
		12 施 設 装 置										
名 称：その他【分類なし】		番 号 (9999)										
能 力：給油取扱所【タンク容量52kL×1基、10kL×1基、2kL×1基】												
13 機 器 等		温 度 圧 力：										
名 称：固定給油(注油)設備		番 号 (911)										
規 模：最大吐出量50/min以下		倍数の合計：271倍										
14 発 生 箇 所		設 置 の 完 成：平成 20年 3月 24日 直 近 の 完 成：令和 5年 3月 3日										
名 称：給油(注油)ノズル		番 号 (909)								17 物 質 の 区 分		
材 質：アルミニウム		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0－40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(1L)										
15 発 生 時		18 取扱者の概要										
運 転 状 況：定常運転中		番 号 (1)								19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		
作 業 状 況：運転操作中		番 号 (1)								20 危 険 物 保 安 監 督 者		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				20 危 険 物 保 安 監 督 者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		
22 設備・機器等の概要：		①. 有 2. 無										
23 事 故 の 概 要：		第4レーンで給油していた乗用車が、給油完了後、車両の給油口から給油ノズルを引き出した際、ガソリンが流出していたことを監視カメラ映像により確認した。										
24 緊急処置の状況		有 番号 (10) 無 その他										

原 因	25 主 原 因		誤操作		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 乗用車の運転手が、安易に車両への注ぎ足し給油を行ったためと考えられる。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		配慮不足	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害						28 物的被害		
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内にガソリンが流出した。
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：
第 三 者		0	0	0	0			なし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 1 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン1Lが流出した。
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況								損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (3) 流出した危険物を雑巾で拭き取った。		
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 11 月 1 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 5 年 11 月 1 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：	
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日			
35 今後の対策 や所見		監視体制の強化を実施する。						

1 事故名	航空機給油取扱所において、給油中のサービサーから危険物が流出した事故										
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()										
3 発生	12月	3日	21時	35分	推定・確定	4 発生見	12月	3日	21時	35分	
5 覚知	12月	3日	21時	54分		6 鎮圧 応急処置完了	12月	3日	22時	30分	
7 鎮火・処理完了	12月	3日	22時	30分							
8 覚知別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()										
9 気象状況	天気：晴 風向：北西 風速：3m/s 気温：7.9℃ 湿度：56%										
10 発生事業所	種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)					11 発生場所	区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 東京国際空港 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) Jet A-1 5,000,000L 5,000倍 倍数の合計： 5,000倍 設置の完成：平成 22年 8月 30日 直近の完成：平成 26年 10月 3日				
12 施設装置						17 物質の区分					
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)						①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス					
能力：給油取扱所、5,000kL						5. 毒物 6. 劇物 7. その他					
13 機器等						(固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： Jet A-1(2L)					
名称：その他の移送機器 番号 (699)	18 取扱者の概要					21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無					
規模：サービサー、EF-30号車											
14 発生箇所	名称：フィルター 番号 (910)					①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					
材質：ステンレス											
15 発生時	運転状況：定常運転中 番号 (1)					24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1、9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送					
作業状況：運転操作中 番号 (1)											
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 110番スポットに駐機した航空機の左翼にサービサーから2本の給油ホースを接続し、給油を開始した。石油連合の航空機燃料の給油に関する指針にあるとおり、給油量が1,000Lとなったことから給油を停止し、1回目の設備の目視点検の際に、スロップタンクのエアブリーザーから、燃料が漏れていることを発見した。											
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1、9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送											

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： エリミネーターのフロート内に航空機燃料が入ってきたため、浮き子として作動しなかったことから流出したもの。フロート表面には目視で確認できる傷は確認できないが、ステンレス製のフロート溶接部から、内部に入った燃料が滴り落ちることから、溶接部が劣化して微細な損傷が発生したと思われる。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	疲労・劣化	環境	想定内の応力下で疲労(応力腐食割れ)					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 溢れた航空機燃料が土間約2㎡(1.3m×1.7m)流出した。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							施設等の被害状況： 給油ホース車のエアエリミネーターのフロート1基が破損した。	
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	第四類第2石油類(非水溶性)Jet A-1が約2L流出した。				
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 1 人	その他	0 台 0 隻 0 機 1 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (2 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 流出した危険物を除去するとともに、消防機関に通報並びに同種業務事業所に情報提供した。			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 2 月 25 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策や所見	事業所の対応として、20年以上運用している給油ホース車のフロート(4台)を、自主的に交換するとのことである。							

令和5年

1 事故名		空港軽減区域内スポットにおいて、給油中のサービスのジョイント部から危険物が流出した事故							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発生		12月 30日 6時 30分		[推定]・確定		4 発生見		12月 30日 6時 30分	
5 覚知		12月 30日 6時 45分		6 鎮圧 応急処置完了		12月 30日 7時 00分			
7 鎮火・処理完了		12月 30日 7時 00分							
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()							
9 気象状況		天気：晴		風向：北		風速：2m/s		気温：4.9℃ 湿度：55%	
10 発生事業所		種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：分類不能の産業 分類不能の産 番 号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能の産業				11 発生場所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) Jet A-1 4,000,000L 4,000倍 倍数の合計：4,000倍 設置の完成：平成 22年 8月 30日 直近の完成：平成 26年 10月 3日	
12 施設装置						17 物質の区分			
名称：その他【分類なし】 番 号 (9999)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
能力：給油取扱所 4,000kL						5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
13 機器等						温度圧力：			
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：Jet A-1(2L)							
規模：2.5インチ配管									
14 発生箇所									
名称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)		18 取扱者の概要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
材質：ゴム		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要							
15 発生時		20 危険物保安監督者							
運転状況：停止中 番 号 (5)									
作業状況：その他 番 号 (99)									
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要							
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無									
23 事故の概要： 当日の朝、運行前の点検及び1回目の給油作業は異常なく終了した。5時48分ごろから2回目の給油作業を開始し、4,000L程度給油を実施した。2回目の給油中及び給油点検では異常がなかったが、撤収作業時にハイドランドピットの閉鎖確認時に地盤面に燃料漏れによる汚損を確認した。									
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (8、9) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等、緊急排出、緊急移送									

25

主 原 因

腐食疲労等劣化

着火原因

番号 ()

原

関 連 原 因

発生原因の状況：
オスクイックディスクコネクタは、ハイドランドのバルブと接続のためにインテークカプラーと高圧導管とを接続する金具であり、同高圧導管の捻じれを受け止める設備である。

主原因の詳細

第Ⅰ層

第Ⅱ層

第Ⅲ層

第Ⅳ層

疲労・劣化

環境

常に高圧力下で疲労（想定内の圧力であるが、材料が継続した疲労により損傷等）

関連原因の詳細

因

26

被害の状況

1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から

27

人 的 被 害

被害内容等

死亡

重症

中等症

軽症

死傷原因

職業又は職名

被災影響範囲及び拡大の状況：
漏れた航空機燃料が土間に約30×50cm広がった。

当 事 者

0

0

0

0

防 災 活 動 従 事 者

0

0

0

0

第 三 者

0

0

0

0

28

物的被害

被災影響範囲及び拡大の状況：
漏れた航空機燃料が土間に約30×50cm広がった。

施設等の被害状況：
オスクイックディスクコネクタ内のOリング

29

関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況

消 防 機 関

1 台

0 隻

0 機

5 人

自 衛

0 台

0 隻

0 機

0 人

消 防 団

0 台

0 隻

0 機

0 人

共 同

0 台

0 隻

0 機

0 人

海上保安部

0 台

0 隻

0 機

0 人

応 援

0 台

0 隻

0 機

0 人

その他の機関

0 台

0 隻

0 機

1 人

その他

0 台

0 隻

0 機

0 人

物質の被害状況：
第4類第2石油類(非水溶性)Jet A-1約2L

損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)

30

実施した防災活動の状況

公設消防機関：番号 (99)
調査活動

自衛防災・消防組織等 番号 (4、5)
漏油防止及び漏えい燃料の除去を実施した。

31

防災活動上の問題点

32

施 設 名

使用停止

改善命令等

停止解除

関係条項

そ の 他

1. 文書 2. 口頭

33

定 期 点 検 等

定期・自主点検

気密試験等

保 安 検 査

当該施設に係る法令違反の有無

消 防 法

令和 5 年 9 月 5 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

そ の 他

年 月 日

年 月 日

年 月 日

有・無

内容：

35

今後の対策
や所見

自主対策で、26台管理している給油ホース車に対し、Oリングを順次更新する。また、更新基準を機能点検から使用年数(1年)で管理することに変更する。

令和5年

1 事故名		特定屋外タンク附属配管が腐食し穿孔したことにより重油が流出したもの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		4月 11日 17時 05分	
5 覚 知		4月 11日 17時 19分		6 鎮 圧 応急処置完了		4月 11日 18時 09分	
7 鎮火・処理完了		4月 13日 15時 10分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 南東 風速： 3.9m/s 気温： 20℃ 湿度： 65%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (「レイアウト」、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 根岸臨海地区		16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他			
				貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所			
				類・品名・名称・数量・倍数：			
				第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 46,186,000L 23,093倍			
12 施 設 装 置							
名 称： 固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)							
能 力： 46,186,000L							
13 機 器 等		温 度 圧 力： 80℃、0.1Mpa					
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)							
規 模： 配管口径 6インチ							
14 発 生 箇 所				設置の完成： 昭和 44年 3月 8日			
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)				直近の完成： 令和 4年 5月 17日			
材 質： 鋼鉄				17 物 質 の 区 分			
15 発 生 時				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
運 転 状 況： 移送中 番 号 (18)				5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)				(固相、液相、気相) (常圧、加圧)			
				(低温、常温 [0-40℃]、高温)			
				分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(8.4L)			
				18 取扱者の概要			
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 製油所職員が作業終了に伴い自転車で構内を移動していた際に、配管から重油が漏えいしているのを発見。直ちに自衛消防組織へ連絡。自衛消防組織から公設消防へ通報。現着した公設消防により調査活動を実施。製油所職員は漏えい拡大防止のため排水ゲート閉鎖及び土嚢積みを実施。公設消防の調査活動の結果、配管内には約10kLの滞油があり、回収まで漏えいは継続することが考えられるため、当該配管に対し使用制限命令。滞油回収終了までに1日を要し、12.3kLを回収。公設消防により現地にて漏えい停止が確認できたため使用制限命令を解除した。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()		
原因	関 連 原 因								
	発生原因の状況：								
	当該発災箇所は、流動接触分解装置にて製造された重油を特定屋外タンクへ移送するための保温材を巻いた配管である。配管の敷設状況としては、上部ラックと地上側の架台に敷設され上下に分かれており、漏えいした配管は地上側の架台上に敷設されているものである。発災箇所の上部にはフランジ接続配管が敷設されており、フランジ真下の保温材に変色を認めた。このことからフランジ部分を伝った雨水が保温材の隙間を経由して浸入し、保温内に湿潤環境を形成。水分により腐食した配管が穿孔したことで重油が漏えいしたものと推定する。								
	主要原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）				
	関連原因の詳細								
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27	人 的 被 害						28 物的被害		
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管ラック下に縦3.5m、横6mの範囲で漏えい。	
	当 事 者	0	0	0	0				
	防災活動従事者	0	0	0	0				
	第 三 者	0	0	0	0				
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	3 台 0 隻 0 機 12 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 110 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類非水溶性 重油 8.4L漏えい					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人						
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人						
その他の機関	2 台 0 隻 0 機 3 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人						
30	実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (3)			
調査活動						拡散防止処置			
31	防災活動上の問題点								
32	施 設 名	特定屋外タンク附属配管			33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他	
	行 政 措 置	使用停止	令和 5 年 4 月 12 日			年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 3 月 23 日	年 月 日
		改善命令等	年 月 日			年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
		停止解除	令和 5 年 4 月 13 日			年 月 日	保安検査	平成 29 年 1 月 11 日	年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無		
	そ の 他	年 月 日			年 月 日		内容：		
		①. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭				
35	今後の対策や所見								
当該発災箇所の配管取替工事を実施。当該発災箇所の配管全長に保温解体及び上段ラックの再確認を行い類似箇所に対しても同様の検査を実施予定。今後、外面腐食点検抽出基準に当該事故事例を反映させ、一次検査として目視点検を実施し類似箇所の抽出を行い、二次検査にて保温解体を行い高所カメラやドローンを使用しての配管点検を実施。									

令和5年

1 事故名		給油取扱所において、容器運搬中に転倒したことによる流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		11月 22日 21時 40分 推定・ 確定					4 発生見		11月 22日 21時 40分				
5 覚知		11月 22日 21時 45分					6 鎮圧 応急処置完了		11月 22日 22時 10分				
7 鎮火・処理完了		11月 22日 22時 20分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：北 風速：1.7m/s 気温：17℃ 湿度：89%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 48,000L 240倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 96,000L 96倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍											
12 施設装置		13 機器等											
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)		温度圧力：											
能力：給油取扱所(タンク48kL×3基、2kL×1基)		名称：その他 番号 (999)											
13 機器等		規模：容器											
14 発生箇所		設置の完成：令和 5年 9月 5日 直近の完成：令和 5年 9月 5日											
名称：その他 番号 (999)		17 物質の区分											
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(15L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：定常運転中 番号 (1)		経験年数6年											
作業状況：小分け・詰替中 番号 (13)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 給油取扱所内において従業員が廃棄用のガソリンを携行缶にて移動させていた際に転倒し携行缶の中のガソリンが約15Lこぼれ一部歩道に流出したもの。流出した原因は、ガソリン携行缶の蓋が閉まっていない状態で運んでいたことによる。流出後の対応は、油吸着マットにて漏えいしたガソリンの回収及び消防署への通報を実施した。到着した消防隊は油回収材により油を回収した。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

原 因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 運搬容器の蓋を閉め忘れたこと及び容器搬送時に容器蓋の閉鎖状況の確認を怠ったことによるもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		配慮不足	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害						28 物的被害		
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ガソリンが一部歩道まで流出(漏えい範囲は不明)
当 事 者		0	0	0	0			
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類 第1石油類 ガソリン 15L
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (5、99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 ()		
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保 安 検 査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：	
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				
35 今後の対策 や所見		今回の流出については、移動させる容器の蓋が完全に閉鎖されていないことが起因となっている。抜油を行った人も、運搬を行った人も、作業前には確実に閉鎖確認を行うことが必要だと考える。						

令和5年

1 事 故 名		船舶給油取扱所で移動タンク貯蔵所に注油作業中、その場を離れ軽油が流出									
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		4月 28日 14時 00分 推定・ 確定				4 発 見		4月 30日 6時 30分			
5 覚 知		4月 30日 9時 15分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		4月 30日 17時 00分			
7 鎮火・処理完了		4月 30日 17時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北 風速：3m/s 気温：24℃ 湿度：33%									
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所									
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油、軽油 4,000L 4倍									
		倍数の合計： 4倍									
12 施 設 装 置		名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力：軽油:30,000L									
13 機 器 等		温 度 圧 力： 名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：移動タンク貯蔵所 容量4,000L									
14 発 生 箇 所		名 称：マンホール 番 号 (305) 材 質：鋼鉄									
15 発 生 時		運 転 状 況：荷積中 番 号 (12) 作 業 状 況：充填中 番 号 (12)									
17 物 質 の 区 分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (25L)									
18 取扱者の概要		経験年数2年									
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 船舶給油取扱所で移動タンク貯蔵所に軽油を注油中、その場を離れたため、軽油25Lがあふれ、側溝を伝い海上へ流出したもの。 死傷者なし。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 注油作業中にその場を離れたため、過剰注油となったもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	思慮	不注意				
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が側溝から海上に流出し、約240mにわたり拡大した。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 軽油25L流出	
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	1 台 0 隻 0 機 2 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関		3 台 0 隻 0 機 4 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)			
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (5、7) 移動タンク貯蔵所の周囲に油吸着材の散布、側溝及び出口付近の海上の油膜を油吸着マットで処理した。					自衛防災・消防組織等 番号 (5、6) 中和剤の散布及びオイルフェンスを展開した。			
31 防災活動上の問題点 注油行為者は、事故直後、漏れた量が25Lであり、近くの給油取扱所の従業員と中和剤を散布して処理し、天気が良いので揮発して自然になくなると判断して通報しなかった。 2日後の30日(日曜日)朝起きると雨だったため、心配になり見に行ったところ、海上に油膜を発見したため会社に連絡し、上司が与板消防署寺泊出張所に向かい駆け付け通報したものである。								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容： ・移動タンク貯蔵所に注油作業中、その場を離れて危険物を漏えいさせた。(法第10条第3項 危険物取扱者の責務違反) ・事故発生時にすぐに通報しなかった。(法第16条の3第2項 事故発生時の通報義務違反)			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策や所見		事業所では、従業員に安全教育を実施し、法令遵守を徹底させる。						

令和5年

1 事故名		鉄道用給油取扱所において設備点検中に配管の接続部より軽油が漏えい							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発生		5月 18日 11時 30分		[推定]・確定		4 発生見		5月 18日 11時 30分	
5 覚知		5月 18日 14時 50分		6 鎮圧 応急処置完了		5月 18日 18時 00分			
7 鎮火・処理完了		5月 19日 8時 00分							
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()							
9 気象状況		天気：曇 風向：北 風速：2.4m/s 気温：24.4℃ 湿度：							
10 発生事業所		種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番号 (4211) 道業				11 発生場所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍 倍数の合計： 20倍 設置の完成：平成 22年 2月 18日 直近の完成：平成 22年 2月 18日	
12 施設装置						17 物質の区分			
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
能力：給油取扱所 タンク容量：						5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
13 機器等						温度圧力：			
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		18 取扱者の概要		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
規模：50A									
14 発生箇所		名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201)		材質：鋼鉄		19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
15 発生時		運転状況：その他 番号 (99)		作業状況：点検中 番号 (5)		20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者の の取扱・立会い	
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無						23 事故の概要：	
24 緊急処置の状況		[有] 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()							
	関 連 原 因													
	発生原因の状況： 送油配管のエルボー、継手部分の腐食により内容液がにじむ程度漏れたもの。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層							
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）									
	関連原因の詳細													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人 的 被 害							28 物的被害							
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： オイルパンにより回収されている。						
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし						
防災活動従事者		0	0	0	0									
第 三 者		0	0	0	0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 第2石油類(非水溶性) 軽油 ごく微量漏えい			
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人				
		損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)												
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99) 現場の状況確認。						自衛防災・消防組織等 番号 ()								
31 防災活動上の問題点 午前11時30分頃に、微量の油漏れを確認。その後、約3時間後に通報。微量の漏れであるが早期に通報する。役所環境生活課、建設課交通政策係へ情報提供(消防覚知後連絡)。														
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他						
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和3年4月21日	年	月	日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：							
	そ の 他	年	月	日	年					月	日			
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策 や所見		配管の漏えい箇所の修理、改善。												

令和5年

1 事 故 名		給油取扱所で固定給油設備のホースの亀裂からレギュラーガソリンが流出											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		6月 23日 17時 10分				[推定]・確定		4 発 見		6月 23日 17時 10分			
5 覚 知		6月 23日 18時 00分				6 鎮 圧 応急処置完了				6月 23日 19時 30分			
7 鎮火・処理完了		6月 23日 19時 30分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 南西 風速： 4m/s 気温： 22℃ 湿度： 89%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 45,000L 225倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 30,000L 30倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 15,000L 15倍											
		倍数の合計： 270倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)		設 置 の 完 成： 平成 18年 4月 21日 直 近 の 完 成： 令和 3年 2月 12日											
能 力： 給油取扱所タンク容量ガソリン用:30kLガソリン・軽油用:30kL灯油用:30kL		17 物 質 の 区 分											
13 機 器 等 温 度 圧 力： 0.2Mpa		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.1L)											
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)		18 取扱者の概要											
規 模： 幅1,300mm、高さ2,300mm、奥行824mm吐出量:30L/分		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無											
14 発 生 箇 所		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908)		23 事 故 の 概 要： 屋外給油取扱所において顧客が自家用車に給油を開始した直後、給油ホースからレギュラーガソリンが噴出し、顧客の車両、衣服及び給油空地の地盤面に約0.1L漏えいしたもの。人的被害なし。											
材 質： ゴム													
15 発 生 時													
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)													
作 業 状 況： 番 号 ()													
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無									
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 屋外給油取扱所において顧客が自家用車に給油を開始した直後、給油ホースからレギュラーガソリンが噴出し、顧客の車両、衣服及び給油空地の地盤面に約0.1L漏えいしたもの。人的被害なし。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

原因	25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 長期間の使用により給油ホースが劣化し、亀裂が入ったことにより、給油時に亀裂部分からレギュラーガソリンが流出し、事故に至ったもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	疲労・劣化			素材等の劣化			長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油空地の地盤面にレギュラーガソリン約0.1L漏えい					
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 給油ホース約3cm亀裂					
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： レギュラーガソリン約0.1L漏えい					
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人						
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人						
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満 、1万円以上 (万円)					
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 調査活動							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点 今回は、顧客が消防に通報したことで事案を覚知したもので危険物取扱者からの通報はなかった。施設の破損や危険物が流出した場合に、消防への通知が必要という教育がされていなかった。													
行政措置	32	施設名							33	定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	行	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和 5 年 4 月 3 日	年 月 日		
		改善命令等	年 月 日			年 月 日				令和 3 年 5 月 6 日	年 月 日		
		停止解除	年 月 日			年 月 日				年 月 日	年 月 日		
	措	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
		そ の 他	年 月 日			年 月 日							
35		今後の対策 や所見	今後の対策 ・各種点検の徹底及び消耗品の耐用年数確認 ・事故発生時の速やかな通報										

令和5年

1 事故名		給油取扱所において固定給油設備アイランドビット内の配管が腐食等劣化によりガソリンが流出した事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		9月 19日 17時 00分					
5 覚 知		9月 19日 17時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了		9月 19日 17時 00分					
7 鎮火・処理完了		9月 19日 17時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (村上市環境課からの連絡)									
9 気 象 状 況		天気：		風向：		風速：		気温：		湿度：	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数：									
		第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 5,397L 26.99倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 5,700L 5.7倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,600L 9.6倍									
12 施 設 装 置											
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)											
能 力： 第4類第1石油類4,800L、第2石油類軽油5,700L、灯油9,600L、 その他簡易タンク第4類第1石油類597L											
13 機 器 等		温 度 圧 力：									
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)											
規 模： 送油管 亜鉛メッキガス管											
14 発 生 箇 所				設置の完成： 昭和 49年 9月 28日 直近の完成： 平成 26年 11月 4日							
名 称： 給油管等 番 号 (907)											
材 質： 鋼鉄											
15 発 生 時				17 物 質 の 区 分							
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(2,000L)									
		18 取扱者の概要		経験年数42年							
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 市役所より、当該給油取扱所周辺の住宅等の井戸水から基準値を超えるベンゼンが検出された旨連絡を受け、消防職員による調査を実施する。ガソリン固定給油設備直下に埋設されている灯油専用タンクの検知管4本のうち2本から黒色の油及びガソリン臭を確認する。調査の結果、ガソリン固定給油設備アイランドビット内の配管が腐食等劣化し、ガソリンが漏えいしていることを確認する。 ガソリンの漏えいを確認した時点で、施設に緊急使用停止命令を口頭で発令し、漏えい箇所の改修と気密試験を行うよう依頼する。その他のタンク及び配管についても気密試験を行うよう依頼する。 定期点検目視の点検の最終は、令和4年8月20日で異常なし。最終の漏れの点検は、令和4年4月24日で異常なし。 調査の結果、流出は、令和4年10月4日から令和4年12月15日までの間に発生し、発覚の令和5年9月19日まで流出したもの。流出量は、合計約2,000Lと推定する。 また、ベンゼンが検出された井戸は、当該給油取扱所敷地外であり、最長で敷地境界線から25mの位置である。											
24 緊急処置の状況 ☒ 有 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 維持管理不十分							
	発生原因の状況：							
	長期間配管を交換しなかったことによる腐食等劣化による。 点検内容に不足があり、払出したガソリンと、タンクの在庫との誤差がわからず、漏えいしていたことに気が付かなかった。また、在庫管理計画届出がされていたが、週1回以上の在庫確認と検知管の点検をしておらず、漏えいに気が付かなかった。							
	主要原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細							
	設備	監理・保守	点検・整備	点検していない/不足				
因								
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ガソリン固定給油設備アイランドビット内配管が腐食したもの。灯油専用タンク外面保護材の損傷の恐れ。地中汚染の可能性あり。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	3 台 0 隻 0 機 8 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類ガソリンの流出。流出量約2,000L。				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 1 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99、4) 現場調査活動。漏えい防止措置活動。				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 施設側で適切な在庫量の確認がされておらず、漏えいに気づいていなかったため、施設側からの通報はなかった。調査日以前に井戸水からシンナー臭がする等の通報が、他機関に入っていたとのことで、その時点で消防に報告があれば、もっと早期に調査は実施できた。								
行政措置	32 施設名	給油取扱所		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 5 年 9 月 19 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 4 年 8 月 20 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 4 年 4 月 24 日	年 月 日		
	停止解除	令和 5 年 9 月 29 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	消防法第12条の3		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第14条の3の2定期点検未実施 危政令第31条危険物取扱者の責務違反			
	そ の 他	緊急使用停止命令						
35 今後の対策 や所見		腐食等劣化が発生した配管の交換や改修をするとともに、他タンク及び配管の気密試験を実施し、異常がなくなり公共の安全の確保及び災害発生のおそれが無くなったと確認されてからの緊急使用停止命令の解除。また、環境汚染の観点から関係機関との連携を密にすること。 施設側は、日常点検の強化、在庫管理計画通りの在庫管理と点検を実施する。また、定期点検の不足部分を改善する必要がある。						

1 事故名		給油取扱所において、地上式固定給油設備及び給油ホースが破損し、ガソリン約1Lが敷地内に流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		11月 28日 14時 30分				[推定]・確定		4 発生見		11月 28日 14時 30分			
5 覚知		11月 28日 14時 40分				6 鎮圧 応急処置完了				11月 28日 18時 00分			
7 鎮火・処理完了		11月 29日 10時 30分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：雨 風向：北 風速：15m/s 気温：6℃ 湿度：											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 40,000L 200倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍											
12 施設装置		倍数の合計：221倍											
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)		設置の完成：平成 10年 10月 1日 直近の完成：令和 3年 10月 29日											
能力：給油取扱所タンク容量30kL 2基10kL 1基2kL 1基		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0ー40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(1L)											
名称：固定給油(注油)設備 番号 (911)		18 取扱者の概要											
規模：幅1,650mm、高さ2,955mm、吐出量40L/分		経験年数1年											
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者											
名称：給油(注油)ホース 番号 (908)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い			
材質：アルミニウム										①. 有 2. 無			
15 発生時													
運転状況：給油中 番号 (8)													
作業状況： 番号 ()													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 危険物取扱者が3番レーンでガソリンを給油していたところその場を離れ、別の従業員がその車両のタイヤ交換を行うために給油ノズルが挿さったままの車両を誤って移動させ、ガソリンの給油ホースの安全継手が錆の固着により作動せず、結合部で破断しホース内の残油約1Lが漏えいしたもの。 その直後、隣の4番レーンで給油中だった車両の運転手が、結合部が破断した計量器が倒れてくると思い車両を発進させたが、3番レーンの車両と同様にホースを引っ張り、この4番レーンの計量器の安全接手も錆の固着により作動せず、4番レーン側の固定給油設備が転倒した。その後、危険物保安監督者と危険物取扱者は4番レーンの車両にかかったガソリンをふき取り、危険物保安監督者が消防に加入電話で通報した。危険物取扱者は給油作業、従業員はタイヤ交換を実施していた。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況：									
	地上式固定給油設備の安全継手が著しく腐食して固着していたため、作動せず結合部でホースが破断し、ホース内のガソリンが流出。その後、反対側で給油中だった車両の運転手が突然、車両を前進させ、ホースが引っ張られ、安全継手が錆の固着により作動せず、地上式固定給油設備を引っ張って転倒させたもの。									
	事故発生日の日常点検も安全継手に著しい腐食があるにも関わらず良好であると判断していた。									
	また、固定給油設備をアイランドに固定する箇所にも著しい腐食が確認でき、強度が低下していたものと思われる。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	因	関連原因の詳細								
設備		監理・保守		点検・整備		整備していない				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ガソリン約1Lが給油空地内に2m×9mの範囲で流出したもの		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 地上式固定給油設備1基		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ガソリン約1L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況								損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)		
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
事故発生時、危険物保安監督者及び危険物取扱者がいたが、事故の認識がなく、応急措置をしていなかった。保安教育が実施されていなかった。										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 5 年 9 月 4 日	令和 5 年 11 月 24 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	令和 4 年 9 月 4 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容： 危政令第31条 危険物保安監督者保安監督業務不履行 (法第13条第1項関係)			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策や所見		・従業員に対する保安教育の徹底 ・設備の維持管理に関する知識の習熟 ・老朽した設備の速やかな更新 ・当該事業所に対し再発防止策の提出を求めるとともに、類似事案の防止のため、固定給油設備製造メーカーに対して安全継手が作動しなかった理由と腐食した原因を究明するよう協力を求めた。 また、管内の給油取扱所に対して文書にて情報提供を行い、維持管理の徹底を促した。								

令和5年

1 事故名		船舶給油取扱所の屋外タンクから給油設備への埋設配管腐食による重油の流出							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		5月 22日 10時 00分			
5 覚知		6月 6日 11時 17分		6 鎮圧 応急処置完了		6月 6日 12時 31分			
7 鎮火・処理完了		6月 6日 12時 31分							
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()							
9 気象状況		天気：曇 風向：南南西 風速：6.1m/s 気温：25.9℃ 湿度：39.9%							
10 発生事業所		種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：複合サービス業 協同組合(他 番号 (7912) に分類されないもの) 農林水産業協同組合(他に分類されないもの) 漁業協同組合(他に分類されないもの)		11 発生場所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 30,000L 15倍 倍数の合計：35倍 設置の完成：昭和 58年 7月 9日 直近の完成：平成 29年 3月 30日			
12 施設装置				17 物質の区分					
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス					
能力：船舶給油取扱所 重油30L・軽油20L				5. 毒物 6. 劇物 7. その他					
13 機器等				温度圧力：					
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油							
規模：屋外タンク2基(縦置円筒型重油30kL・横置円筒型軽油20kL)									
14 発生箇所		18 取扱者の概要		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
名称：給油管等 番号 (907)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要							
材質：鋼鉄		20 危険物 保安監督者							
15 発生時									
運転状況：貯蔵・保管中 番号 (7)									
作業状況： 番号 ()									
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要							
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無									
23 事故の概要： 事業所職員が5月22日に港内に油と思われるものが浮いているのを確認。港内を調べると、船舶給油取扱所の屋外タンクから給油設備への埋設配管部分から重油が漏えいして海面に流出したことが判明する。5月31日に事業所が長さ約20mのオイルフェンスで海面流出部分を囲う。流出量は不明。港岸壁地中にも漏れている可能性もあるが港内への流出は少量で収まっている。消防への通報は措置完了後の事後通報となる。海洋に流出した箇所を見分したところ、緊急性、危険性はほぼ無しと判断した。									
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他									

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 設置から年数も経過し埋設配管部が腐食。定期点検不要の施設で点検が未実施。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		塩分の影響			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 港内海面上は約20mのオイルフェンスで囲んだ部分の中で十分流出阻止ができていない状況。岸壁地中内の流出量は不明。
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						施設等の被害状況： 事業所が手配した業者が埋設配管部分を機密検査をしたところ漏えいを確認する。		
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 流出量は不明。				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	1 台 0 隻 0 機 2 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 2 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 関係者からの事情聴取と被害状況の確認。						自衛防災・消防組織等 番号 (6、4) オイルフェンスの展張、流出防止措置		
31 防災活動上の問題点 発見から港湾を管轄する県土木事務所に報告し、現場確認から原因を調べ、措置した後に消防に連絡してきたことから、通報まで数日の遅延があった。海上保安庁や警察にも通報に遅延あり。								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見		日常点検の強化。埋設配管部分の定期的な自主点検の実施。漏えい等発見した場合速やかに消防に通報。						

1 事故名		給油取扱所において、懸垂式固定給油設備のホースの亀裂から給油空地にガソリンが流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		7月 6日 15時 00分				推定・ 確定		4 発生見		7月 6日 15時 00分	
5 覚知		7月 7日 10時 08分				6 鎮圧 応急処置完了		7月 7日 12時 32分			
7 鎮火・処理完了		7月 7日 12時 32分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (消防車両の給油時に現認)									
9 気象状況		天気：曇 風向：南西 風速：1m/s 気温：33℃ 湿度：39%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 28,800L 144倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,600L 9.6倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,600L 9.6倍									
12 施設装置		13 機器等									
名称： その他【分類なし】 番号 (9999)		温度圧力：									
能力： 給油取扱所 タンク容量48,000L		名称： 固定給油(注油)設備 番号 (911)									
規模： 吐出量45L/分		倍数の合計： 163.2倍									
14 発生箇所		設置の完成： 昭和 61年 1月 14日 直近の完成： 平成 29年 11月 10日									
名称： 給油(注油)ホース 番号 (908)		17 物質の区分									
材質： ゴム		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(20L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況： その他 番号 (99)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
作業状況： 番号 ()		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有									
23 事故の概要：		給油取扱所において、給油作業後、懸垂式固定給油設備のホース巻取りをしたところ、数滴のガソリンの流出を確認したため、当該機器の使用を停止し、専門業者の点検を受ける。専門業者の点検で流出箇所の特定に至らなかったため、送油ポンプの停止及び送油配管のバルブを閉止する。なお、消防機関への通報はなされていない。発生翌日、気温の上昇とともに再び懸垂式固定給油設備のホースからガソリンが流出したため、専門業者に依頼し到着を待っていたところ、消防車両へ給油するため訪れた救急隊が、懸垂式固定給油設備のホースから給油空地内にガソリンが流出している状況を現認する。									
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無		装置の緊急停止、その他									

原 因	25 主 原 因 破損		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 懸垂式固定給油設備のホースの長期継続使用により、ホース部に亀裂が入り、ガソリンが流出したと考えられる。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油空地内に約20Lのガソリンが流出
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 7 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン 20L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
28 損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (5) 回収作業					自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業			
31 防災活動上の問題点 事故発生時における消防署への通報なし。予防規程における教育の未実施。								
32 施 設 名					33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 4 月 1 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 5 年 4 月 1 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容： 法第16条の3第2項 事故発生時の通報義務違反		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見		当該事業所に対し、予防規程における従業員への教育及び通報体制の見直しを行うよう指導する。併せて、同種事故防止のため、管内の他の事業所に対し、立入検査等の機会に指導を行う必要がある。						

1 事故名		給油取扱所において、ポンプ室内に設置されたポンプの空気ドレインの故障により軽油が流出したもの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		10月 6日 10時 28分	
5 覚 知		10月 6日 10時 36分		6 鎮 圧 応急処置完了		10月 6日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了		10月 6日 11時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北北西 風速：1m/s 気温：16℃ 湿度：96%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		特別防災地区名：	
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 28,800L 144倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,600L 9.6倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,600L 9.6倍			
12 施 設 装 置				設置の完成： 昭和 61年 1月 14日 直近の完成： 平成 29年 11月 10日		倍数の合計： 163.2倍	
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)				17 物 質 の 区 分			
能 力： 給油取扱所 48,000L				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (50L)			
13 機 器 等		温 度 圧 力：		18 取扱者の概要			
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)				①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無	
規 模： 吐出量45L/分							
14 発 生 箇 所							
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)							
材 質： 鋼鉄							
15 発 生 時							
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)							
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)							
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事故の概要： 従業員が給油作業中にノズル吐出量に異変を感じポンプ室内を確認したところ、計量ユニットのポンプのフロート式空気ドレンの故障により、エアー抜き配管から軽油が約50L流出した。なお、流出範囲はポンプ室内のみであり、貯留設備からの汲み上げ及び吸着マットを使用し応急処置を行った。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原 因	25 主 原 因 破損		着火原因				番号 ()		
	関 連 原 因								
	発生原因の状況： フロート式空気ドレン内のフロート部品が破損したことでフロートが機能せず、エアー抜き配管内に燃料が流れたもの。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	破損		定常運転時		その他				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人 的 被 害						28 物的被害			
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出範囲はポンプ室内のみ	
当 事 者		0	0	0	0				
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： ポンプユニット1基	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油50L流出	
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人		
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人		
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)	
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) ポンプユニットの緊急停止。営業の停止措置。貯留設備からの回収措置。			
31 防災活動上の問題点									
32 行 政 措 置	施 設 名					33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 4 月 1 日	令和 5 年 10 月 2 日
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和 5 年 4 月 1 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保 安 検 査		年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：	
	そ の 他	年 月 日		年 月 日					
35 今後の対策 や所見		同種事故防止のため、管内の同種事業所に対し、事故事例として広報を行いたい。							

令和5年

1 事故名		給油取扱所において、顧客が自家用車に給油後、車両下部から軽油約5Lが流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		10月 16日 10時 36分				推定・ 確定		4 発生見		10月 16日 10時 36分			
5 覚知		10月 16日 12時 01分				6 鎮圧 応急処置完了				10月 16日 12時 45分			
7 鎮火・処理完了		10月 16日 12時 45分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東南東 風速：1m/s 気温：18℃ 湿度：95%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ハイオク、ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油、灯油 120,000L 120倍											
		倍数の合計： 370倍											
12 施設装置		設置の完成： 平成 13年 9月 19日 直近の完成： 令和 5年 11月 21日											
名称： その他【分類なし】		番号 (9999)											
能力： 給油取扱所 (30kL×5基、20kL×1基)													
13 機器等		温度圧力：											
名称： その他		番号 (999)											
規模： 普通乗用車													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称： その他		番号 (999)											
材質： その他		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (5L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況： 停止中		番号 (5)											
作業状況：		番号 ()											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 給油取扱所において、顧客が自家用車(キャンピングカー)に軽油31Lを給油後、車両下部の燃料タンクから給油空地内に軽油約5Lが流出したもの。顧客から連絡を受けた従業員が車両下部を確認したところ流出はすでに止まっていた。消防隊現場到着時、運転手はすでに立ち去っており、レーン停止及び吸着マットの応急処置が実施済みであった。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他													

原 因	25 主 原 因 不明		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 行為者がすでに現場を立ち去っており、従業員の説明及び監視カメラの映像から、車両燃料タンクからの流出と考える。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害					28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 車両が停車していた箇所から、軽油が長さ7m、幅2mに渡り 漏えいした。漏えい範囲は給油空地内である。		
	当 事 者	0	0	0	0					
	防災活動従事者	0	0	0	0					
	第 三 者	0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 軽油5L			
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台		0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台		0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台		0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台		0 隻	0 機	0 人
30 実施した防災活動の状況							損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)			
公設消防機関：番号 (99) 調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業					
31 防災活動上の問題点 流出発生から消防通報まで1時間以上の遅れがある。										
政 策 措 置	32 施 設 名				33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 5 年 4 月 1 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	令和 3 年 4 月 30 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保 安 検 査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
	そ の 他	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策 や所見		従業員への教育・訓練の中で、通報に対する再徹底を指導する。同種事業所に対しても立入検査を通して広報を実施する。								

1 事 故 名		給油取扱所において、移動タンク貯蔵所から地下タンクへの荷卸し作業中、誤操作によるガソリンの流出									
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		11月 8日 10時 37分 推定・ 確定					4 発 見		11月 8日 10時 37分		
5 覚 知		11月 8日 10時 54分					6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		11月 8日 11時 30分		
7 鎮火・処理完了		11月 8日 11時 30分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 東北東 風速： 4m/s 気温： 18℃ 湿度： 55%									
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド					11 発 生 場 所				
12 施 設 装 置							区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
							16 発生施設規制区分等				
							施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 120,000L 600倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 48,000L 48倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 24,000L 24倍				
							倍数の合計： 672倍				
13 機 器 等		温 度 圧 力：					設 置 の 完 成： 平成 31年 4月 16日 直 近 の 完 成： 令和 4年 6月 29日				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)		14 発 生 箇 所					17 物 質 の 区 分				
能 力： 給油取扱所 タンク容量192,000L							①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(70L)				
13 機 器 等											
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)		15 発 生 時					18 取扱者の概要				
規 模： 直径2,460mm、全長8,490mm、容量24,000L							経験年数17年				
14 発 生 箇 所		19 危険物保安統括管理者					20 危険物保安監督者				
名 称： 開閉弁 番 号 (204)							①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
材 質： 鋳鉄		21 危険物取扱者の取扱・立会い					①. 有 2. 無				
15 発 生 時											
運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					23 事 故 の 概 要： 給油取扱所において、移動タンク貯蔵所の荷卸し作業前に配管内の残液を抜くため4系統すべての前絞り作業を実施する。前絞り作業実施後、荷卸しで使用しない1系統の吐出バルブを閉め忘れ、その状態で底弁を開放したため、開放状態の吐出バルブからガソリン70Lが流出する。				
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因 操作確認不十分					
	発生原因の状況： 荷卸し前に吐出口のバルブの確認を怠ったため、底弁操作時に解放されている吐出バルブからガソリンが漏えいする。					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層		
	人	本人の意識	違反(故意)	怠慢		
	関連原因の詳細					
	人	本人の意識	思慮	思い込み		
因						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人 的 被 害				28 物的被害		
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
28 物的被害 被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所の給油口付近でガソリン70Lが流出し、油水分離層の1層目まで到達する。						
28 物的被害 施設等の被害状況： 無						
物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性) ガソリン 70L						
損害額 1万円未満、 1万円以上 (1 万円)						
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (5) 回収作業				自衛防災・消防組織等 番号 (3、5) 拡散防止処置及び回収作業		
31 防災活動上の問題点						
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 6 月 7 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：	
	そ の 他	年 月 日	年 月 日			
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策 や所見 当該事業所に対し、荷卸し時における安全対策の徹底及び教育の実施をするよう指導する。併せて、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。						

令和5年

1 事 故 名		給油取扱所の固定給油設備ノズル掛けカバー付近でのノズル誤操作により流出したもの														
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()														
3 発 生		1月 17日 13時 57分 推定・ 確定					4 発 見		1月 17日 13時 57分							
5 覚 知		1月 17日 14時 02分					6 鎮 圧 応急処置完了		1月 17日 13時 58分							
7 鎮火・処理完了		1月 18日 8時 18分														
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (非番職員により予防課個人携帯へ)														
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北北東 風速：2.2m/s 気温：6.7℃ 湿度：62.4%														
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド					11 発 生 場 所									
12 施 設 装 置							区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
							16 発生施設規制区分等									
							施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍									
							倍数の合計：280倍									
13 機 器 等		温度圧力：					設置の完成：平成 23年 4月 15日 直近の完成：年 月 日									
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)		14 発 生 箇 所					17 物 質 の 区 分									
能 力：給油取扱所(50kL×1基、20kL×1基、10kL×1基)							①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(35L)									
13 機 器 等												18 取扱者の概要				
名 称：固定給油(注油)設備 番 号 (911)																
規 模：BL26W-A																
14 発 生 箇 所		名 称：その他 番 号 (999)					21 危険物取扱者の取扱・立会い									
材 質：合成樹脂		15 発 生 時					①. 有 2. 無									
運 転 状 況：給油中 番 号 (8)		20 危険物保安監督者					①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
作 業 状 況：監視中 番 号 (10)																
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要														
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無																
23 事 故 の 概 要： 給油取扱所の固定給油設備ノズル掛けカバー付近において、顧客の不可解なノズル操作により、ノズル掛けカバー破損部から反対側レーンに流出した事故。給油空地床面及び油分離槽、アイランド地下ピット内の油を回収をしたもの。																
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止																

原因	25 主 原 因	誤操作				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因 破損、腐食疲労等劣化												
	発生原因の状況： 顧客によるノズル誤操作(ノズル掛けカバーにノズルがかかった状態でレバーを握る)により、穴が空いていたノズル掛けカバーより、ガソリンが固定給油設備内に噴射され、反対側レーンに流出したものの。												
	主要原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	人			本人の体調			精神的			その他			
	関連原因の詳細												
	因	疲労・劣化			素材等の劣化			長期使用による素材等の劣化(腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化)					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：					
区分								固定給油設備地下ピット内と給油空地から油分離槽までの流出範囲。油分離槽は1槽と2槽まで油を確認。他への流出なし。					
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：					
第 三 者		0	0	0	0			なし					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：									
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	ガソリン流出量約35L。									
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人										
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)									
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (4)						自衛防災・消防組織等 番号 (5、99)							
流出防止措置						吸水マットにより給油空地及び油分離槽内の油を回収。職員による地下ピット内の油回収。							
31 防災活動上の問題点													
事故発生事業所から通報がなかった。(給油に訪れた消防職員により発見し通報に至る)・顧客の給油作業等を事務所内のモニターで監視していたが、顧客の不可解な行動等への注視の徹底など適切に監視することの再教育。 ・ノズル掛けカバーの破損部分から固定給油設備内へ危険物が流入し給油空地内反対側レーンから油分離槽への流出に至ったことから、危険物の漏れ、あふれ、飛散防止することができる構造を維持管理するための点検等の徹底。 ・事故発生事業所から通報がないことによる、災害発生時の消防機関への速やかな通報の徹底と再教育。													
行政措置	32 施設名	給油取扱所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日		年 月 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日		年 月 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無					
	そ の 他	指導				法令違反の有無		内容：					
		令和 5 年 1 月 23 日				年 月 日							
		①. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策や所見		・危険物の漏れ、あふれ、飛散防止することができる構造を維持管理するための点検等の徹底。 ・顧客の不可解な行動等への注視の徹底など適切に監視することの再教育。 ・災害発生時の消防機関への速やかな通報の徹底と再教育。											

令和5年

1 事 故 名		給油取扱所において、固定給油設備の故障に気付かず給油を続けたことによる流出事故											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		7月 15日 15時 10分				[推定]・確定		4 発 見		7月 15日 15時 13分			
5 覚 知		7月 18日 16時 31分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了				7月 15日 17時 00分			
7 鎮火・処理完了		7月 15日 17時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北東 風速：3m/s 気温：31℃ 湿度：63%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番 号 (4211) 道業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 3,000L 3倍											
		倍数の合計： 3倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称： 自動車等の点検、整備作業場 番 号 (1704)		名 称： 車両の給油口 番 号 (906)											
能 力：		材 質： 特殊合金											
13 機 器 等		温 度 圧 力：											
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)		17 物 質 の 区 分											
規 模： 固定給油設備		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (157L)											
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要											
名 称： 車両の給油口 番 号 (906)		①. 選任有 2. 選任無											
材 質： 特殊合金		3. 不要											
15 発 生 時		21 危険物取扱者の の取扱・立会い											
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		①. 有											
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		2. 無											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 固定給油設備の故障に気づかず給油を続けたため満量になっても止まらずオーバーフローしたもの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 何らかの原因で固定給油設備の電磁弁が故障したもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の機能の停止					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害						28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内に軽油約157Lが流出		
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 固定給油設備1基故障		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関		3 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類軽油157Lが流出		
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人			
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人			
その他の機関		1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) オイルマットの設置						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 速やかに通報していない、速やかに通報していない、設置なし、油吸着材による吸着										
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
	そ の 他	年	月	日	年					月
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見										

令和5年

1 事故名		給油取扱所において、計量器のボタン操作を誤りその場を放れたため、軽油約100Lが流出した事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 21日 13時 30分				[推定]・確定		4 発生見		8月 21日 13時 32分			
5 覚知		8月 21日 13時 54分				6 鎮圧 応急処置完了				8月 21日 15時 30分			
7 鎮火・処理完了		8月 21日 15時 30分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：南南西 風速：2m/s 気温：36℃ 湿度：46%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番号 (4211) 道業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 3,000L 3倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 41年 9月 30日 直近の完成：昭和 41年 9月 30日											
名称：自動車等の点検、整備作業場 番号 (1704) 能力：													
13 機器等													
温度圧力：		倍数の合計：3倍											
名称：充てん機 番号 (901) 規模：固定給油設備													
14 発生箇所													
名称：車両の給油口 番号 (906) 材質：特殊合金		17 物質の区分											
15 発生時		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(100L)											
運転状況：定常運転中 番号 (1) 作業状況：運転操作中 番号 (1)		18 取扱者の概要 経験年数3年											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 計量器を何らかの理由でボタン操作を誤りその場を離れたため、軽油約100Lが敷地内の側溝に流出した。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 不明						着火原因						番号 ()									
	関 連 原 因 監視不十分																					
	発生原因の状況： 何らかの理由でボタン操作を誤ったもの。																					
	主原因の詳細																					
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層									
	関連原因の詳細																					
	環境				社会的環境				雰囲気				安全に対する意識が低い									
因																						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																						
27 人 的 被 害												28 物的被害										
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内に軽油約100Lが流出														
当 事 者		0	0	0	0																	
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし														
第 三 者		0	0	0	0																	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																						
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類軽油約100Lが流出												
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人													
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人													
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)												
30 実施した防災活動の状況																						
公設消防機関：番号 (4) オイルマットの設置												自衛防災・消防組織等 番号 ()										
31 防災活動上の問題点 速やかに通報している、速やかに通報している。油吸着材による吸着。																						
32	施 設 名									33 定 期 点 検 等				消 防 法				そ の 他				
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検				年 月 日				年 月 日			
		改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等				年 月 日				年 月 日			
		停止解除	年 月 日				年 月 日				保 安 検 査				年 月 日				年 月 日			
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無				☒ 有・無 内容： 法第10条第3項貯蔵及び取り扱いの基準違反(4点)事故加点(2点)計6点								
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																
35		今回の危険物取扱者違反にあつては、法第10条第3項貯蔵及び取り扱いの基準違反(4点)事故加点(2点)計6点が違反点数として算定された。																				
今後の対策 や所見																						

令和5年

1 事故名	給油取扱所(セルフ)において、顧客が自動車に給油していたところ自動車底部からガソリンが流出したもの										
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()										
3 発生	5月	23日	10時	45分	推定・ 確定	4 発生見	5月	23日	10時	45分	
5 覚知	5月	23日	12時	00分		6 鎮圧 応急処置完了	5月	23日	12時	15分	
7 鎮火・処理完了	5月	23日	12時	15分							
8 覚知別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()										
9 気象状況	天気：曇 風向：南西 風速：1.2m/s 気温：20℃ 湿度：56%										
10 発生事業所	種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド					11 発生場所	区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 55,000L 275倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 15,000L 15倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 倍数の合計： 301倍 設置の完成：平成 24年 8月 17日 直近の完成： 年 月 日				
12 施設装置						17 物質の区分					
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)						①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス					
能力：第4類 第1石油類 55,000L、第2石油類 25,000L、第3石油類 2,000L						5. 毒物 6. 劇物 7. その他					
13 機器等						(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)					
名称：その他 番号 (999)	(低温、 常温 [0-40℃]、高温)										
規模：セルフマルチ計量器 6本ホース 4m 吐出量 35L/min	分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(58.3L)										
14 発生箇所	18 取扱者の概要					21 危険物取扱者の の取扱・立会い					
名称：その他 番号 (999)											
材質：コンクリート	19 危険物保安 統括管理者					20 危険物 保安監督者					
15 発生時											
運転状況：給油中 番号 (8)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					①. 有 2. 無					
作業状況： 番号 ()											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 顧客に自ら給油等をさせる給油取扱所において、顧客が自動車に給油していたところガソリンが破損していた自動車底部からコンクリートの給油空地に58.3L流出したもの。店員が流出したガソリンを油吸着材で処理し、カラーコーン及びバーで流出場所への立入を安全が確保できるまで禁止する。また、給油取扱所周辺への流出及び死傷者はなし。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原 因	25 主 原 因 破 損						着火原因				番号 ()				
	関 連 原 因														
	発生原因の状況： 底部が破損した自動車に給油したところ、燃料タンク外に流出したもの。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	破損			定常運転時			物質の落下・ぶつかりによる破損								
	関連原因の詳細														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人 的 被 害								28 物的被害							
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出したガソリンは給油空地内で処理し、給油取扱所周辺への拡大はなし。							
当 事 者		0	0	0	0										
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：							
第 三 者		0	0	0	0			なし							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：					
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン58.3L流出					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)					
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 ()								自衛防災・消防組織等 番号 ()							
31 防災活動上の問題点															
32 行 政 措 置	施 設 名					33 定 期 点 検 等				消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検		令和4年 3月 10日		令和3年 9月 15日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無		内容：	
	そ の 他	年 月 日				年 月 日									
35 今後の対策 や所見															
事故後速やかに通報、流出防止措置及び警戒消火器の設置が行われていた。															

令和5年

1 事故名		給油取扱所で計量機に穴を開けたことによる軽油の流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		7月 13日 19時 20分 推定・ 確定					4 発生見		7月 13日 19時 20分				
5 覚知		7月 14日 19時 30分					6 鎮圧 応急処置完了		7月 14日 19時 30分				
7 鎮火・処理完了		7月 14日 19時 30分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：西 風速：1.3m/s 気温：25℃ 湿度：89%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 49,600L 248倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 39,200L 39.2倍 第4類第4石油類 エンジンオイル 2,000L 0.33倍											
12 施設装置		倍数の合計：287.53倍											
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)		設置の完成：平成 3年 5月 28日 直近の完成：令和 3年 10月 12日											
能力：給油取扱所 30kL		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
名称：固定給油(注油)設備 番号 (911)		(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温)											
規模：計量器寸法 幅1,280 高さ1,560		分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油											
14 発生箇所		18 取扱者の概要											
名称：給油管等 番号 (907)													
材質：アルミニウム													
15 発生時													
運転状況：給油中 番号 (8)													
作業状況：監視中 番号 (10)													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 給油取扱所の従業員が、計量機に利用者への注意事項等を周知するための看板を取り付けるため、ドリルを使って穴を開け、利用者からノズルから油がほとんど出ず、計量機から油が漏れているとの報告を受けたもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 破 損				着火原因				番号 ()				
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 給油取扱所の従業員が、計量機に利用者への注意事項等を周知するための看板を取り付けるため、ドリルを使って穴を空け、利用者からノズルから油がほとんど出ず、計量機から油が漏れているとの報告を受けたもの。												
	主要原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	破損			工事時			工事資機材による損傷						
	施工不良			施工時の損傷			施工時に周囲の設備等を損傷したのに気付かず使用						
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27	人 的 被 害							28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 計量器付近					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 固定給油設備6台(6台ともベント管交換で対応)					
	第 三 者	0	0	0	0								
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 軽油が計量機付近に流出。流出量にあっては不明。 損害額 1万円未満、 1万円以上 (81 万円)									
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同										0 台 0 隻 0 機 0 人
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援										0 台 0 隻 0 機 0 人
	その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他										0 台 0 隻 0 機 0 人
30	実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 ()							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31	防災活動上の問題点												
32 行政措置	施設名							33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検 気密試験等	令和4年11月21日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日			年 月 日				令和4年6月10日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項								34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日			年 月 日								
35	今後の対策 や所見	計量器にドリルで穴を開ける行為は、計量器の改造にあたるため、たとえ軽微な工事であっても、事前に消防への報告が必要である。											

令和5年

1 事故名		給油取扱所(セルフスタンド)における計量機給油ノズルの誤操作に伴う軽油の流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		5月 18日 17時 27分				[推定]・確定		4 発生見		5月 18日 17時 27分			
5 覚知		5月 18日 17時 54分				6 鎮圧 応急処置完了				5月 18日 18時 36分			
7 鎮火・処理完了		5月 18日 18時 36分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東北東 風速：1.2m/s 気温：24.7℃ 湿度：54.7%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 40,000L 200倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 30,000L 30倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍											
12 施設装置		17 物質の区分											
名称： その他【分類なし】 番号 (9999)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
能力： 給油取扱所 10kL×5基、30kL×1基		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
13 機器等		温度圧力：											
名称： 固定給油(注油)設備 番号 (911)		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧)											
規模： 計量機(ガソリン30L/min、軽油40L/min)		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)											
14 発生箇所		倍数の合計： 240倍											
名称： 給油(注油)ノズル 番号 (909)		設置の完成： 昭和 42年 3月 3日											
材質： 鋳鉄		直近の完成： 令和 2年 7月 29日											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況： 定常運転中 番号 (1)		①. 選任有 2. 選任無											
作業状況： その他 番号 (99)		3. 不要											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 顧客がラフター車に軽油を給油した際に、給油ノズルが給油口に完全に差さっていない状態で給油したため軽油が給油空地に漏えいしたもの。人的被害なし。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 監視不十分						着火原因				番号 ()		
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 顧客がラフター車に軽油を給油した際に、給油ノズルが給油口に完全に差さっていない状態で給油したため軽油が給油空地に漏えいしたもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	人			本人の意識			思慮			配慮不足			
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
	27 人的被害						28 物的被害						
	被害内容等						被災影響範囲及び拡大の状況：						
	区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	給油取扱所において、軽油が約3㎡の範囲に約40L漏えいしたもの。					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：					
	第 三 者	0	0	0	0			漏えいによる被害なし					
	29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
	消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：		
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	軽油(第4類第2石油類非水溶性)約40L		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
調査活動													
31 防災活動上の問題点													
32	施設名 給油取扱所												
	行政措置	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
		改善命令等	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 4 月 6 日		年 月 日		
		停止解除	年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和 4 年 5 月 8 日		年 月 日		
		関係条項					保安検査		年 月 日		年 月 日		
	措置	再発防止対策を指導					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無				
		そ の 他	令和 5 年 5 月 18 日		年 月 日				内容：				
			1. 文書 ②. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
	35 今後の対策や所見												
	監視人は、顧客が給油口に給油ノズルをしっかりと挿入したのか監視する必要がある。												

令和5年

1 事故名		鉄道給油取扱所の定量給油機のホース部分から軽油が約0.5L流出した事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		6月 5日 21時 50分 推定・ ☒ 確定					4 発生見		6月 5日 21時 50分				
5 覚知		6月 5日 23時 18分					6 鎮圧 応急処置完了		6月 5日 21時 50分				
7 鎮火・処理完了		6月 5日 21時 55分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：北北西 風速：0.9m/s 気温：20℃ 湿度：65%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番号 (4211) 道業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 15,000L 15倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 36年 9月 26日 直近の完成：平成 29年 2月 15日 17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 ☒ 液相、気相) (☒ 常圧、加圧) (低温、 ☒ 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (0.5L)											
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)													
能力：定量給油機 542W×850H×352D(mm)×35基													
13 機器等		温度圧力：常温、常圧											
名称：その他 番号 (999)		倍数の合計：15倍											
規模：542w×850H×352D(mm)													
14 発生箇所													
名称：給油(注油)ホース 番号 (908)		18 取扱者の概要 経験年数23年											
材質：ゴム													
15 発生時													
運転状況：定常運転中 番号 (1)													
作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： JR職員から、給油設備のホースが破損し、軽油が漏えいしたため、確認に来てほしいと通報があった。本件、危険物取扱者のJR職員が鉄道用車両へ給油作業を行っていた際に給油ホースから燃料である軽油が噴霧状に吹き出した。その際に、緊急措置として、給油設備の運転停止を実施。吸着マットを使用し噴出箇所及び流出した軽油を処理した。													
24 緊急処置の状況 ☒ 有 番号 (10) 無 その他													

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 維持管理不十分							
	発生原因の状況： 屋外に設置されているホースが経年劣化及び取扱い時に引きずられ、亀裂が生じ給油作業中に軽油が噴霧状に吹き出したもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細							
	設備	監理・保守	点検・整備		整備していない			
	因							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 定量給油機の周囲に軽油が流出した以外に被害はなかった。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 軽油約500mLが流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 () 現場到着時には給油機は停止されており、漏えいしていた軽油も吸着マットで処理されていた。これ以上の被害拡大はないと判断し、危険物流出等の事故調査を実施した。					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策や所見	直ちに亀裂の入ったホースは交換した。また、現在設置されている各ホースの劣化状況の確認をするよう指導し、適切な交換スケジュールを策定するよう指導した。給油ホースの取扱いについての注意喚起としてホースの長さや取り扱い上のリスクについて、関係者に対して適切な教養を行い、ホースの慎重な取り扱いを促すよう指導した。							

令和5年

1 事故名		給油取扱所におけるトレーラー燃料タンクのドレンバルブからの軽油漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		7月 12日 12時 53分				[推定]・確定		4 発生見		7月 12日 12時 53分			
5 覚知		7月 12日 13時 05分				6 鎮圧 応急処置完了				7月 12日 13時 00分			
7 鎮火・処理完了		7月 12日 16時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西 風速：2.1m/s 気温：30.7℃ 湿度：77%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 40,000L 200倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 50,000L 50倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) オイル(油庫) 1,000L 0.5倍 第4類第4石油類 オイル(油庫) 1,800L 0.3倍											
12 施設装置		倍数の合計：261.8倍											
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)		設置の完成：平成 3年 11月 26日 直近の完成：令和 5年 5月 12日											
能力：10kL×10基、2kL×1基		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (60L)											
名称：その他 番号 (999)		18 取扱者の概要											
規模：トレーラー(燃料タンク約370L)		経験年数9年											
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者											
名称：ドレンバルブ 番号 (210)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
材質：その他													
15 発生時													
運転状況：給油中 番号 (8)													
作業状況：充填中 番号 (12)													
22 設備・機器等の概要：		23 事故の概要：											
オンラインファイル無		当該給油取扱所内(大型車はフルサービス)において、燃料タンク約370Lのトレーラーに従業員が軽油を給油していたところ、燃料タンクのドレンバルブが外れ、軽油約60Lが漏えいしたものの。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無													
装置の緊急停止													

原因	25	主 原 因		維持管理不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： トレーラーの燃料タンクのドレンバルブの整備不良により、給油中にドレンバルブが外れ漏えいしたものの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	設備		監理・保守		点検・整備		整備していない				
	人		本人の意識		思慮		過信				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人 的 被 害							28 物的被害				
区分		被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況：	
										給油空地内に軽油約60Lが漏えいした後、漏えい中和剤、吸着剤を使用し、2ヶ所の油水分離層に流し、処理業者の車2台により油水分離層の軽油の吸引を実施し、産業廃棄物処理を依頼したもの。	
当 事 者				0	0	0	0			施設等の被害状況：	
防災活動従事者				0	0	0	0			施設への被害なし。	
第 三 者				0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関		1 台 0 隻 0 機 2 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況：			
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人		軽油約60L漏えい。			
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)							自衛防災・消防組織等 番号 ()				
応急処置の処理方法について確認を実施。											
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32	施設名					33	定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	行	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 5 年 6 月 17 日	年 月 日		
		改善命令等	年 月 日		年 月 日			気密試験等	令和 3 年 11 月 21 日	年 月 日	
		停止解除	年 月 日		年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日	
	措	関係条項					34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>		
		そ の 他	年 月 日		年 月 日				内容：		
35		今後の対策 や所見		(対策)災害発生時に備え、予防規程に基づく保安教育を継続すること。また、使用した処理剤等の資器材を増強すること。 (所見)今回の漏えい事故は車の整備不良が原因と思われ、偶然にも給油取扱所内で発生し、従業員迅速かつ的確な対応により被害を最小限に留めた。このような事故は走行中に発生することも想定し、それに備えた対応を再確認する必要があると思慮する。							

令和5年

1 事故名		鉄道給油取扱所にて誤ってエア抜き用バルブを開放したため、軽油が流出した事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		11月 19日 11時 20分				推定・ 確定		4 発生見		11月 19日 11時 20分	
5 覚知		11月 19日 14時 00分				6 鎮圧 応急処置完了				11月 19日 13時 40分	
7 鎮火・処理完了		11月 19日 13時 40分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：5.4m/s 気温：15℃ 湿度：41.1%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番号 (4211) 道業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 8,000L 8倍									
12 施設装置		設置の完成：昭和 40年 3月 3日 直近の完成：令和 5年 10月 20日									
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)											
能力：8,000L											
13 機器等		温度圧力：									
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		倍数の合計：8倍									
規模：計量器											
14 発生箇所											
名称：給油管等 番号 (907)		17 物質の区分									
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (4.5L)									
15 発生時		18 取扱者の概要 経験年数3年									
運転状況：給油中 番号 (8)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
作業状況：充填中 番号 (12)											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事故の概要： 鉄道保守基地内の鉄道給油取扱所にて保守用車に給油を行う際、誤って開放すべきでないエア抜き用バルブを開放し給油作業を行ったため、給油空地内に軽油約4.5Lが漏えいし流出したもの。施設作業員により、油吸着マットで応急措置を実施。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 「常時閉」の札があるエア抜き用バルブであるにも関わらず、使用時は開けると思い込み給油を開始すると、給油ノズルからではなくバルブ配管から流れ出たもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の知識・能力	知識	知識不足				
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当給油取扱所外への危険物流出はなし。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油4.5L流出	
消 防 機 関	3 台 0 隻 0 機 6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)	
31 防災活動上の問題点								
公設消防機関：番号 (99) 危険物流出箇所を現認、処理は完了しており被害拡大のおそれがないため調査活動のみを実施する。								
自衛防災・消防組織等 番号 ()								
32 施設名								
行政措置	使用停止	年 月 日	年 月 日	33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 1 月 25 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 5 年 1 月 25 日	年 月 日		
	関係条項			保安検査	年 月 日	年 月 日		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無 内容：		
35 今後の対策や所見								
社内教育を拡充し、誤操作がないよう分かりやすい標識作成を依頼する。								

令和5年

1 事故名		鉄道給油取扱所の固定給油設備のノズルとホースの結合部分が外れ軽油約24.6Lが流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		9月 16日 8時 50分				推定・ 確定		4 発生見		9月 16日 8時 50分	
5 覚知		9月 16日 10時 31分				6 鎮圧 応急処置完了		9月 16日 11時 40分			
7 鎮火・処理完了		9月 16日 11時 40分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：東北東 風速：2m/s 気温：28℃ 湿度：77%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番号 (4211) 道業		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 8,000L 8倍									
12 施設装置		設置の完成： 平成 16年 3月 9日 直近の完成： 年 月 日									
名称： その他【分類なし】 番号 (9999) 能力： 8,000L×1基											
13 機器等											
温度圧力：		倍数の合計： 8倍									
名称： 固定給油(注油)設備 番号 (911) 規模： 最大吐出量(90L/分)											
14 発生箇所											
名称： 給油(注油)ノズル 番号 (909) 材質： ステンレス		17 物質の区分									
15 発生時		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(24.6L)									
		18 取扱者の概要									
		経験年数6年									
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 令和5年9月16日8時50分頃、新幹線保守基地の給油設備において作業用の軌道モーターカーに給油を行う際に給油ガンとホースの接続部が外れたため、軽油約24.6Lが漏えい。関係者により吸着マットによる応急処置を行い、部外への流出がないことを確認、その後関係機関に報告した。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他											

原因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因	維持管理不十分											
	発生原因の状況： 給油ガンとホースとの接合部の固定器具が、長期の使用により緩み外れたことで接合部から軽油が漏えいしたもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	疲労・劣化			素材等の劣化			長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）						
	関連原因の詳細												
	設備			監理・保守			点検・整備			点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した軽油は溜橋内に流れたため部外への流出はなく、吸着マットにて応急処置を実施					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 給油器具の接続部が長期間の使用により緩み外れている					
	第 三 者	0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 3 人	物質の被害状況： 第4類 第2石油類 非水溶性 軽油24.6L流出 損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)									
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人										
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人										
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人										
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 ()							自衛防災・消防組織等 番号 (5) 吸着マットによる油処置、ポンプの停止						
31 防災活動上の問題点 流出した油を回収後、しばらくした後に消防機関に通報。													
行政措置	32 施 設 名	鉄道給油取扱所				33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日			
	関係条項	消防法第12条第1項、消防法第16条の3第2項				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無					
	そ の 他	令和 5 年 9 月 20 日 ①. 文書 2. 口頭				年 月 日 1. 文書 2. 口頭		内容： 消防法第12条第1項 設備の維持管理不足 消防法第16条の3第2項 通報の遅れ					
35 今後の対策や所見		使用前には設備の状態を確認することを従業員等に周知し、日常から設備の維持管理に努めるよう指導。また、流出した油の応急処置は行われていたが、通報が速やかに行なえていなかったため通知書にて指導した。破損した設備については後日改修を確認している。 日常点検による設備の維持管理不良が原因で起こった事案と考えられ、その教訓を活かし、他の事業所等に指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。											

1 事 故 名		給油取扱所において、給油ノズルを挿入した車両が発進し、給油ノズルが破断したことによるガソリンの流出											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		1月 29日 9時 50分				推定・ 確定		4 発 見		1月 29日 9時 50分			
5 覚 知		1月 29日 12時 15分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了				1月 29日 10時 30分			
7 鎮火・処理完了		2月 10日 16時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南西 風速：5.8m/s 気温：0.8℃ 湿度：86%											
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド				11 発 生 場 所		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 25,400L 127倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,550L 9.55倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,550L 9.55倍 倍数の合計： 146.1倍 設 置 の 完 成： 昭和 45年 12月 14日 直 近 の 完 成： 令和 2年 11月 12日					
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分							
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(1L)							
能 力： 屋外給油取扱所 6kL×1基、9.5kL×2基、9.7kL×2基													
13 機 器 等 温 度 圧 力：													
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)		18 取扱者の概要		経験年数3年									
規 模： ホース4本マルチ型 吐出量40L/分		19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
14 発 生 箇 所		名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908)		材 質： ゴム		15 発 生 時		運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)		作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)			
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要：		ガソリンを給油中の顧客が、サービスルーム内で別件の支払いを終えた後乗車。顧客は給油作業が完了していると思い込み、給油口に満量停止状態の給油ノズルを挿入したままで車両を発進させた。そのため固定給油設備が転倒、給油ホース接続部及びノズル接続部が破断。給油ホース内の残油約1Lが給油所敷地内に流出したもの。 給油所は給油中である旨をドアミラーに掲示するサインを保有しているが、この流出事故時には使用されていなかった。 この事故による負傷等は発生していない。											
24 緊急処置の状況		有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

25	主 原 因		監視不十分		着火原因		番号 ()	
原 因	関 連 原 因 操作未実施、維持管理不十分							
	発生原因の状況： 給油作業が完了していると思い込んだ顧客が、給油口に満量停止状態の給油ノズルを挿入したままで車両を発進させ、固定給油設備が転倒、給油ホース接続部及びノズル接続部が破断したもの。給油所は給油中である旨をドアミラーに掲示するサインを保有しているが、この流出事故時には使用されていなかった。 また、アンカー部分の腐食が激しかったため、通常よりも小さい力で転倒する状況であったと考えられる。							
	主要原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		その他	
	関連原因の詳細							
	管理		リスクアセスメント		危険意識		安全装置・標示等が提供/使用されない/不適切	
	因	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害							28 物的被害	
被害内容等 区分							被災影響範囲及び拡大の状況：	
死亡 重症 中等症 軽症 死傷原因 職業又は職名							固定給油設備が転倒、給油ホース接続部及びノズル接続部が破断。給油ホース内の残油約1Lが給油所敷地内に流出。	
当 事 者 0 0 0 0								
防災活動従事者 0 0 0 0							施設等の被害状況：	
第 三 者 0 0 0 0							固定給油設備1基の破損	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関		1 台 0 隻 0 機 4 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 2 人		物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン約1L流出
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人		
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人		
その他の機関		1 台 0 隻 0 機 2 人		そ の 他		0 台 0 隻 0 機 0 人		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 漏えい確認、二次災害の防止							自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業	
31 防災活動上の問題点 消防機関の覚知までに時間を要した。								
32 行政措置	施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 4 年 11 月 4 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	令和 2 年 11 月 4 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：	
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策 や所見		給油中である旨をドアミラーに掲示するサインの活用。従業員間の伝達の徹底。						

令和5年

1 事故名		給油取扱所内懸垂式固定給油設備の配管から油漏えい事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		2月 6日 10時 30分	
5 覚 知		2月 6日 10時 50分		6 鎮 壓 応 急 処 置 完 了		2月 6日 19時 00分	
7 鎮火・処理完了		2月 17日 9時 40分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北東 風速：1.6m/s 気温：10.2℃ 湿度：52%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： ① 特別防災区域内 ② 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他			
				貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所			
				類・品名・名称・数量・倍数：			
12 施 設 装 置				第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 40,000L 200倍			
				第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油・灯油 20,000L 20倍			
				第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 1,900L 0.95倍			
				第4類第4石油類 エンジンオイル 4,000L 0.67倍			
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)							
能 力： 給油取扱所 30kL×2基							
13 機 器 等		温 度 圧 力：					
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)							
規 模： 最大吐出量 毎分50Lを超え60L							
14 発 生 箇 所				設 置 の 完 成： 平成 元年 12月 15日			
				直 近 の 完 成： 令和 3年 12月 3日			
名 称： 給油管等 番 号 (907)				17 物 質 の 区 分			
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
15 発 生 時				5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)				(固相、液相、気相) (常圧、加圧)			
作 業 状 況： 番 号 ()				(低温、常温 [0-40℃]、高温)			
				分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油			
				18 取扱者の概要		経験年数22年	
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事故の概要： 市の担当者から河川への油流出連絡を受け現場に向かう。側溝から河川への油流出を確認するも流出元は不明。側溝から河川への流入場所に油処理材を使用し油流出防止措置を取る。 流出元を検索するため、直近に位置している営業中の給油取扱所の油分離装置を確認したところ、当該給油取扱所からの油流出を確認する。すぐに油分離装置に油処理材を使用し、給油取扱所からの油流出防止措置を取る。 給油取扱所の設備を確認し、懸垂式固定給油設備(軽油)の地上設置油配管(ルーフデッキ、キャノピーに敷設)の断熱材が剥がれ、露出した部分から漏えいしていることが確認できたため、懸垂式固定給油設備を使用停止指示する。 けが人はなし。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化					着火原因					番号 ()					
原因	関 連 原 因 維持管理不十分															
	発生原因の状況： 原因は給油取扱所の設備である懸垂式の固定給油設備(軽油)の地上設置油配管(ルーフデッキ、キャノピーに敷設)に断熱材が設けられていたが、経年劣化によりエルボ部分(2箇所)の油配管の断熱材が剥がれ、露出した配管が腐食し、腐食箇所から油が漏えいしたものの。															
	主原因の詳細															
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層			
	腐食				防食				防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)							
	関連原因の詳細															
	設備				監理・保守				点検・整備				点検していない/不足			
	因															
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27	人 的 被 害										28 物的被害					
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が事業所側溝から河川へ流れ込み、事業所敷地境界線から約1kmに渡り拡散した。					
	当 事 者		0	0	0	0										
	防災活動従事者		0	0	0	0					施設等の被害状況： 懸垂式固定給油設備の地上設置油配管の断熱材が剥がれ、油配管の一部が腐食により破損。					
	第 三 者		0	0	0	0										
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	3 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 流出量については不明。						
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機							0 人
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機							0 人
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機							8 人
30	実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (3、99) 河川に油吸着マット設置 調査活動										自衛防災・消防組織等 番号 (3、4、99) 敷地内に油吸着マット設置 油漏えい配管流出防止措置 敷地外側溝に中和剤散布						
31	防災活動上の問題点															
32	施 設 名	給油取扱所								33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他			
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	令和 4 年 4 月 1 日		令和 4 年 9 月 30 日		
		改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	令和 3 年 11 月 17 日		年 月 日		
		停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
		関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：				
	そ の 他	令和 5 年 2 月 6 日				年 月 日										
35	今後の対策 や所見 今回の油流出事故は、油配管の腐食が原因により事故が発生し、漏えいした油が雨水排水管を流れ油分離槽の5槽目に流入し敷地外の側溝に流れ、河川に流出した事故である。また、危険物保安監督者による定期点検を実施し記録を保管しているが、今回事故があった配管の存在を知りつつも、定期点検では確認を怠ったために、腐食の発見が出来なかったものである。 事業者には下記の事項について対策をするよう指導した。 1 懸垂式固定給油設備の油配管の点検が定期的に点検できるよう対策を講じること。(対策例として梯子の購入。高所作業車を用いての点検。) 2 全従業員に対し、今回の事故を教訓に安全教育と各機器の点検の実施すること。 3 再発防止策として雨水排水経路を改修し、油分離槽1槽目に流し込む経路に変更すること。															

令和5年

1 事故名		自家用給油取扱所において、移動タンク貯蔵所への注油後のバルブ閉止不十分による軽油の流出事故							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発 生		5月 14日 12時 00分		推定・確定		4 発 見		5月 14日 15時 00分	
5 覚 知		5月 14日 21時 37分		6 鎮 圧 応急処置完了		5月 15日 0時 37分			
7 鎮火・処理完了		5月 15日 0時 37分							
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()							
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：北北東 風速：0.3m/s 気温：16.3℃ 湿度：93.6%							
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所					
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：鉱業 鉱業 採石業、砂・砂利・玉 番 号 (546) 石採取業 砂岩採石業				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：					
				16 発生施設規制区分等					
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 12,000L 12倍					
12 施 設 装 置				設置の完成：平成13年 2月 27日 直近の完成：平成13年 5月 1日 倍数の合計：12倍					
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力：自家用給油取扱所 12kL									
13 機 器 等 温 度 圧 力：									
名 称：その他 番 号 (999) 規 模：長さ300mm				17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (200L)					
14 発 生 箇 所									
名 称：給油(注油)ホース 番 号 (908) 材 質：ゴム									
15 発 生 時				18 取扱者の概要 経験年数7年					
運 転 状 況：その他 番 号 (99)									
作 業 状 況：その他 番 号 (99)									
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
								①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無									
23 事故の概要： 自家用給油取扱所で従業員2名により、移動タンク貯蔵所への注油を実施。注油終了後、閉止バルブ2箇所を閉止したが不十分であったため、吐出ホースから給油取扱所の防油堤内へ軽油約200Lが流出したもの。また、雨天であったため、防油堤の水抜きバルブを開放しており、排水溝、油分離層から水路を流れ河川へ流出した。なお、吸着マットを使用し、応急処置を実施した。									
24 緊急処置の状況 有 番号 (8) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等									

原 因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 23「事故の概要」のとおり。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		思い込み				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人 的 被 害						28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した軽油が事業所内の水路から河川へ流出し、さらに1 km下流の一級河川に流入した。			
当 事 者		0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関		3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 第2石油類(非水溶性)軽油約200L
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関		1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5) 流出した軽油を吸着マットで回収した。						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 保安管理意識を職場全体で高めていく必要がある。											
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 3 月 16 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日		保 安 検 査		年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：	
	そ の 他	年 月 日				年 月 日					
35 今後の対策 や所見		当該事業所に対し、従業員への教育及び在庫管理を徹底するよう指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に 対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。									

1 事故名		顧客が給油した際に操作を誤り、アイランド周辺の土間にガソリンが漏れたもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		1月 8日 21時 12分 推定・ ☒ 確定					4 発生見		1月 8日 21時 45分		
5 覚知		1月 8日 21時 54分					6 鎮圧 応急処置完了		1月 8日 22時 10分		
7 鎮火・処理完了		1月 8日 22時 10分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：東南東 風速：1.3m/s 気温：1.1℃ 湿度：									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン・ハイオク 40,000L 200倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油・灯油 30,000L 30倍									
12 施設装置		倍数の合計：230倍 設置の完成：平成 17年 3月 14日 直近の完成：令和 元年 6月 26日									
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)											
能力：40kL×1基、30kL×1基											
13 機器等		温度圧力：									
名称：固定給油(注油)設備 番号 (911)		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 ☒ 液相、気相) (☒ 常圧、加圧) (低温、 ☒ 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(3L)									
規模：ガソリン3L											
14 発生箇所											
名称：給油(注油)ノズル 番号 (909)		18 取扱者の概要									
材質：アルミニウム											
15 発生時											
運転状況：給油中 番号 (8)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
作業状況：監視中 番号 (10)											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 顧客が給油した際に操作を誤り、アイランド周辺の土間にガソリンが漏れたもの。											
24 緊急処置の状況 ☒ 有 番号 (10) 無 その他											

原 因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 給油施設のメーターの方を見ており、漏えいに気が付かない。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		配慮不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害						28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 土間にガソリンが3L漏えい		
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： ガソリンの漏えい		
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関		2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 土間にガソリンが3L漏えい		
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人			
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人			
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5、99) 吸着マットにより、漏えい物の回収処理を行い、状況確認を行う。						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年	月	日	年		月	日		
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策 や所見		漏えい事故の早期発見ができるよう巡回を行う。								

令和5年

1 事故名		給油取扱所における車両衝突による固定給油設備の破損											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		2月 5日 14時 56分				推定・確定		4 発生見		2月 5日 14時 56分			
5 覚知		2月 5日 14時 57分				6 鎮圧 応急処置完了		2月 5日 16時 30分					
7 鎮火・処理完了		2月 5日 16時 30分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西南西 風速： 気温： 湿度：											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 38,000L 190倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 19,000L 19倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,500L 9.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 1,000L 0.5倍 第4類第4石油類 エンジンオイル 1,800L 0.3倍 倍数の合計： 219.3倍											
12 施設装置		設置の完成： 昭和 48年 3月 27日 直近の完成： 平成 27年 1月 30日											
名称： その他【分類なし】 番号 (9999)		17 物質の区分											
能力： 給油取扱所 タンク容量(9.5kL×7基)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.1L)											
13 機器等		18 取扱者の概要											
温度圧力：													
名称： 固定給油(注油)設備 番号 (911)													
規模： 幅1,500mm、奥行700mm、高さ2,100mm													
14 発生箇所													
名称： その他の機器等本体 番号 (199)													
材質： その他													
15 発生時													
運転状況： 定常運転中 番号 (1)													
作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 給油取扱所の固定給油設備に自動車が発生した事故により、当該固定給油設備が破損し、危険物が漏えいした。ガソリン約0.1Lが漏えいしていたため、油処理剤を使用し、漏えい処理を実施した。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 破 損						着火原因				番号 ()		
原 因	関 連 原 因 交通事故												
	発生原因の状況： 給油取扱所の固定給油設備に自動車が発生した事故により、当該固定給油設備が転倒、配管が破断し、固定給油設備内に残留したガソリン約0.1Lが漏えいしたものの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	破損			定常運転時			車両等の接触						
	関連原因の詳細												
	交通事故			その他			運転操作を誤った車両の侵入						
	因												
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27	人 的 被 害						28 物的被害						
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 転倒した固定給油設備から、内部に残留したガソリン約100mLが給油取扱所に漏えいしたものの。				
	当 事 者		0	0	0	0							
	防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 固定給油設備が1台破損				
	第 三 者		0	0	0	0							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン約100mL流出			
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機				0 人
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機				0 人
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機				0 人
30	実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) ガソリン約100mLが漏えいしていたため、油処理剤を使用し、漏えい処理を実施した。						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
31	防災活動上の問題点												
32	施 設 名	給油取扱所					33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他			
	行 政 措 置	使用停止	令和 5 年 2 月 5 日	年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	年 月 日		年 月 日				
		改善命令等	令和 5 年 2 月 5 日	年 月 日			平成 29 年 12 月 16 日		年 月 日				
		停止解除	令和 5 年 2 月 21 日	年 月 日			年 月 日		年 月 日				
	関係条項	消防法第12条の3第1項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： (法第12条の3第1項：製造所等の緊急使用停止命令)危険物製造所等を引き続き使用することにより、更なる危険物の漏えいが発生するおそれがあり、災害拡大の防止上、即時に緊急使用停止命令を発動すべきと判断、命令を発動したものです。					
	そ の 他	年 月 日	年 月 日										
35	今後の対策や所見 固定給油設備の周囲にバリカーを設置するよう指導												

令和5年

1 事 故 名		船舶給油取扱所にて、船舶の給油時に給油口から軽油が溢れ、海上に流出											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		7月 1日 9時 35分				[推定]・確定		4 発 見		7月 1日 9時 35分			
5 覚 知		7月 1日 10時 40分				6 鎮 圧 応急処置完了				7月 1日 18時 30分			
7 鎮火・処理完了		7月 1日 18時 30分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：雨 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：23℃ 湿度：98%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 150,000L 150倍											
		倍数の合計： 150倍											
12 施 設 装 置		設置の完成：平成 17年 11月 16日 直近の完成：平成 29年 5月 1日											
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)		17 物 質 の 区 分											
能 力：タンク容量75,000L×2基		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (400L)											
13 機 器 等		18 取扱者の概要 経験年数2年											
名 称：固定給油(注油)設備 番 号 (911)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無											
規 模：エバラFSS型ステンレス製渦巻ポンプ(型式50X40FSS4J63.7)・30mホース 内蔵電動ホースリール(型式OR-5010EDTS1)・OPW社製(アメリカ製)給油ノズル		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
14 発 生 箇 所		23 事 故 の 概 要： 船舶給油取扱所の従業員が高速船の2つの燃料タンクに給油する際、右舷側の給油口に給油後、ノズルの差し替えを失念し、右舷側の給油口に左舷側の給油口に給油する予定であった軽油を誤って注いだことにより溢れ、約400Lの軽油が海上に流出したもの。なお従業員は無資格者であり、危険物取扱者の立会いはなかった。											
15 発 生 時		24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他											
名 称：給油(注油)ノズル 番 号 (909)													
材 質：アルミニウム													
15 発 生 時													
運 転 状 況：給油中 番 号 (8)													
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)													

原因	25	主 原 因 操作確認不十分				着火原因				番号 ()																																									
	関 連 原 因 監視不十分																																																		
	発生原因の状況： 従業員が給油作業中に他の船舶を迎える業務を行ったため、ノズルを差し替えることを失念した。 ノズルの機能に満量防止装置があったが、木の歯止めを使って給油ノズルのレバーを固定した状態で給油を行っていたため、満了防止装置が働かず軽油が給油口から溢れた。 給油時、ノズルから離れて操作盤に表示されている給油量を確認しながらポンプ停止装置を用いて給油をしていたため流出に気づくのが大幅に遅れてしまった。																																																		
	主要原因の詳細																																																		
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																									
	人			本人の意識			思慮			不注意																																									
	人			本人の意識			思慮			思い込み																																									
	関連原因の詳細																																																		
	管理			監督			監視			監視が実施されない/不足																																									
因																																																			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																			
27 人的被害								28 物的被害																																											
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 係留している船舶の給油口から海上へ軽油約400L がおよそ230m×270mの範囲に流出した。															
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																													
当 事 者	0	0	0	0																																															
防災活動従事者	0	0	0	0																																															
第 三 者	0	0	0	0																																															
								施設等の被害状況： 特になし。																																											
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																			
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>5 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>20 人</td> <td>自 衛</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>1 隻</td> <td>0 機</td> <td>3 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>2 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>4 人</td> <td>その他</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> </table>								消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	20 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	1 隻	0 機	3 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) 軽油 400 L流出			
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	20 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人																																										
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																										
海上保安部	0 台	1 隻	0 機	3 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																										
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																										
								損害額 1万円未満、 1万円以上 (4 万円)																																											
30 実施した防災活動の状況																																																			
公設消防機関：番号 (99) 消防隊は警戒出動し、現場指揮及び情報収集を行った。予防係は事故についての調査活動を実施した。								自衛防災・消防組織等 番号 (4、7) 流出防止措置、油回収(海上)																																											
31 防災活動上の問題点																																																			
行政措置	32	施設名	給油取扱所(設置者)		33	定期点検等	消 防 法	そ の 他																																											
	行	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 6 月 10 日	年 月 日																																												
		改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	令和 3 年 7 月 21 日	年 月 日																																											
		停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日																																											
		関係条項																																																	
	置	そ の 他	指導		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有 ・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 法第13条第1項 危険物保安監督者の選任義務違反 法第13条第3項 製造所等における危険物取扱者以外の者の危険物の取扱い																																													
		令和 5 年 8 月 16 日	年 月 日																																																
35		今後の対策 や所見 1 乙種4類を所持している危険物取扱者が立会し、作業の監督及び指示を行う。給油作業中の監視を怠らず、船舶関係者の立会を厳守する。 2 危険物の適正な取り扱いを行い、事故等発生時には応急措置を講じ速やかに消防機関等へ連絡を行う。 3 危険物に従事する全ての従業員への安全教育及び予防規程を遵守するよう徹底し、給油所の保安に努める。 上記の対策を実施し、危険物施設の安全性を高め、再発防止に努めていただきたい。																																																	

令和5年

1 事故名		鉄道用給油取扱所において、保守用車に給油中、監視を怠ったことにより軽油が流出したもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		9月 20日 10時 55分				推定・ 確定		4 発生見		9月 20日 10時 55分	
5 覚知		9月 20日 11時 28分				6 鎮圧 応急処置完了		9月 20日 11時 44分			
7 鎮火・処理完了		9月 20日 12時 30分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：東南東 風速：3.1m/s 気温：28℃ 湿度：80%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番号 (4211) 道業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍									
12 施設装置		設置の完成：昭和 50年 3月 28日 直近の完成：令和 2年 1月 21日 17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(5L) 18 取扱者の概要 経験年数7年									
名称：その他【分類なし】 番号 (9999) 能力：タンク容量 10,000L											
13 機器等 温度圧力：											
名称：貯槽(タンク) 番号 (107) 規模：鉄道保守用車の燃料タンク:容量1,100L		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
14 発生箇所											
名称：タンクの注入口 番号 (905) 材質：鋼鉄											
15 発生時		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有 23 事故の概要： 鉄道保守用車の燃料タンク(全量1,100L)に定量給油装置を400Lに設定して給油を行ったところ、タンクから軽油5Lがオーバーフローしたものである。給油ノズル(オートストップ機能なし)から手を離れたことで漏えいは停止、吸着マットにて油の回収を行った。なお、発災現場は車両が走行する軌道上ではなく、鉄道保守用車が待機する場所に設置された給油所である。									
運転状況：給油中 番号 (8)											
作業状況：その他 番号 (99)											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因 故障						
	発生原因の状況： 事故の直接原因は、取扱者が給油に際し、保守用車のタンク残量を確認した後、定量給油装置にて給油量を決定してから、燃料タンクへ給油を行うため、オーバーフローすることはないと過信し、給油中の監視を行ったことである。関連原因としては、定量給油装置のメーターと実際に排出される油量に誤差があったことである。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		
	人		本人の意識		思慮		
因	関連原因の詳細						
	故障		機能		機器の機能の停止		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害					28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	
区分						職業又は職名	
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 8 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
28 物的被害 被災影響範囲及び拡大の状況： 施設外への拡大なし。							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況 物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油5L流出							
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)							
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (99) 調査					自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 吸着マットにて油回収するとともに、油のついた道床バラストの回収をおこなった。		
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報に33分かかっている。協力会社から連絡を受けた者が通報するようになっているため、直ちに通報できる体制に見直しを行うよう指導した。							
行政措置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 7 月 20 日	令和 5 年 9 月 20 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：	
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日			
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策 や所見		・定量給油装置の改修をおこなった。 ・全取扱者に対して、燃料タンクの量を確認しながら、常に監視しておくことを教育した。 ・給油ノズルのオートストップ機能付きへの変更を検討することとした。					

令和5年

1 事故名		給油取扱所(セルフ)で車両の不備による給油中のガソリン漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		5月 16日 0時 50分				推定・確定		4 発生見		5月 16日 0時 50分			
5 覚知		5月 16日 0時 55分				6 鎮圧 応急処置完了				5月 16日 3時 03分			
7 鎮火・処理完了		5月 16日 3時 10分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南東 風速：2.6m/s 気温：16.8℃ 湿度：66%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号(5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業		区分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数：											
		第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 30,000L 150倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 1,800L 0.9倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍											
		倍数の合計：171.9倍											
12 施設装置		名称：その他【分類なし】 番号(9999) 能力：給油取扱所(30kL×1基, 20kL×1基, 2kL×1基)											
13 機器等		温度圧力：											
名称：充てん機		番号(901)											
規模：固定給油設備													
14 発生箇所		設置の完成：昭和42年4月14日 直近の完成：令和2年1月9日											
名称：給油管等		番号(907)											
材質：鋼鉄		17 物質の区分											
15 発生時		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(7L)											
運転状況：給油中		番号(8)											
作業状況：運転操作中		番号(1)											
18 取扱者の概要		経験年数0年											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 顧客がレギュラーガソリンを給油中、車両の下部へガソリンが約7L漏えいしたもの。 給油所外への流出なし、死傷者等なし。													
24 緊急処置の状況 有 番号() 無													

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 誤操作							
	発生原因の状況： 給油車両の給油配管に設置された逆流防止弁の異常により、給油されたレギュラーガソリンが逆流し、漏えいしたものの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	故障	機能	機器の異常動作					
	関連原因の詳細							
	人	本人の意識	違反(故意)	問題意識の不足				
因								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油車両の下部から幅2m、長さ6mの範囲にレギュラーガソリン約7Lが漏えいした。 給油所外への流出はなし。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	7 台 0 隻 0 機 20 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン約7Lの漏えい。				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 2 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
28 損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (4) 漏えいした給油配管に受け皿の設置及び吸着マットでの漏えい防止措置					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点								
32 施設名	使用停止	年 月 日	年 月 日	33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		令和 5 年 4 月 30 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	気密試験等		令和 4 年 12 月 20 日	年 月 日	
	関係条項			保 安 検 査		年 月 日	年 月 日	
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：		
	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		・給油ノズルの滴量停止装置の点検を行う ・顧客の給油作業の監視、制御及び顧客に対し必要な指示を行う						

令和5年

1 事故名		自家用給油取扱所の計量器から軽油流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		12月 5日 7時 00分				[推定]・確定		4 発生見		12月 5日 16時 30分			
5 覚知		12月 5日 16時 30分				6 鎮圧 応急処置完了				12月 5日 17時 00分			
7 鎮火・処理完了		1月 0日 0時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：東北東 風速：3.6m/s 気温：10.8℃ 湿度：81%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 道路貨物運送業 一般番号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,600L 9.6倍											
12 施設装置		倍数の合計： 9.6倍 設置の完成：昭和 59年 8月 17日 直近の完成：平成 9年 1月 14日											
名称： 番号 () 能力：													
13 機器等		温度圧力：											
名称：固定給油(注油)設備		番号 (911)											
規模：シングル計量器													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：給油管等		番号 (907)											
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：給油中		番号 (8)											
作業状況：		番号 ()											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 施設付近の川に油が流れていることにより、自家用給油取扱所からの流出と判明。後日の聞き取りにより、トラックの軽油タンクからの漏れや給油ミスであると考えられたが、少量の流出が継続。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因	維持管理不十分、監視不十分											
	発生原因の状況：	関係者への聞き取りにより、トラックの軽油タンクからの漏えいや給油中の流出と考えられたが、排水溝や分離槽への流れ込みが継続。計量器を確認すると計量器からの漏れが確認された。											
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層	第Ⅱ層			第Ⅲ層				第Ⅳ層				
	疲労・劣化	素材等の劣化			長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）								
	関連原因の詳細												
	設備	監理・保守			点検・整備				点検していない/不足				
	人	本人の意識			思慮				配慮不足				
	管理	組織			人員配置(役割・責任)				人の配置が不適切				
因													
26 被害の状況	1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害									28 物的被害				
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：						
区分							油が事業所側溝から河川に流れ込み、下流へ流出						
当 事 者	0	0	0	0									
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：						
第 三 者	0	0	0	0			なし						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	なし			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (6)	自衛防災・消防組織等 番号 ()												
オイルフェンスの展張													
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32 施設名	(南)スクスイトランスポート				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他				
	使用停止	令和 6 年 3 月 8 日				年 月 日	年 月 日		年 月 日				
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	年 月 日		年 月 日				
	停止解除	年 月 日				年 月 日	年 月 日		年 月 日				
	関係条項	消防法第12条第1項				34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無						
	違反箇所通知 改善報告の提出					内容：							
	その 他	令和 6 年 1 月 16 日				年 月 日	法第11条第1項 製造所等の無許可設置、位置・構造及び設備の無許可変更 法第13条第1項 危険物保安監督者の選解任届出義務違反 法第14条の3の2 点検記録の作成及び保存の義務違反						
35 今後の対策や所見	危険物関連業者による施設整備 施設運営管理の改善												

1 事故名		給油取扱所の油分離槽から市道の側溝へ廃油が流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		6月 13日 10時 00分	
5 覚知		6月 13日 10時 26分		6 鎮 壓 応急処置完了		6月 13日 12時 00分	
7 鎮火・処理完了		6月 13日 12時 00分					
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (定期査察実施時に確認)					
9 気象状況		天気：曇 風向：東 風速：1.5m/s 気温：26℃ 湿度：72%					
10 発生事業所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発生場所		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 30,000L 150倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 1,900L 0.95倍 倍数の合計： 190.95倍 設置の完成： 昭和 42年 4月 26日 直近の完成： 令和 元年 7月 22日	
12 施設装置				17 物質の区分			
名称： その他【分類なし】 番 号 (9999)				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
能力： 油分離槽 400L				5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
13 機器等				温度圧力：			
名称： 抽出塔、槽 番 号 (103)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)					
規模： 油分離槽 縦、横500mm、深さ400mm、 1槽の容量 100Lが4槽で容量は400L		(低温、常温 [0-40℃]、高温)					
14 発生箇所		分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 廃油					
名称： その他 番 号 (999)		18 取扱者の概要					
材質： コンクリート		経験年数15年					
15 発生時		19 危険物保安統括管理者					
運転状況： その他 番 号 (99)		20 危険物保安監督者					
作業状況： その他 番 号 (99)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					
22 設備・機器等の概要：		21 危険物取扱者の取扱・立会い					
オンラインファイル無		①. 有 2. 無					
23 事故の概要：							
給油取扱所の定期査察中に敷地外の市道の側溝を確認したところ、側溝に約2mの範囲で油が流出していた。 発見日から1週間ほど前にリフト下のピットを水で洗浄していた。また、事故前から油分離槽内のパイプが外れており、側溝に廃油が流出したものであった。 緊急措置として、油分離槽内の油と側溝の土砂の除去を立会者と協力して行い、また、吸着マットを使用して流出拡大防止を行った。							
24 緊急処置の状況		有 番号 () 無					

25	主 原 因 維持管理不十分				着火原因				番号 ()			
原 因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 発見日から1週間ほど前にリフト下のピットを水で洗浄していた。また、事故前から油分離槽内の「ハーフ」が外れており、側溝に廃油が流出したもの。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	人			本人の知識・能力			知識			知識不足		
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人 的 被 害						28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 市道の側溝に約2mの範囲で油が流出していた				
	当 事 者	0	0	0	0							
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし				
	第 三 者	0	0	0	0							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性) 廃油 流出量不明								
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人									
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人									
その他の機関	4 台 0 隻 0 機 10 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人									
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (5) 油分離槽内の油と側溝の土砂の除去を立会者と協力して行い、また、吸着マットを使用して流出拡大防止を行った。						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点												
32	施 設 名	給油取扱所				33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他				
行 政 措 置	使用停止	年 月 日	年 月 日			定期・自主点検	令和 4 年 7 月 11 日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日			気密試験等	令和 2 年 2 月 6 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日			保 安 検 査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項	指導				34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 法第13条第3項 営業時間内において、危険物取扱者の不在時間があった。 法第14条の3の2 圧力検査の未実施(前回:令和2年2月)					
そ の 他	令和 5 年 6 月 15 日	年 月 日										
35	今後の対策や所見 当該事業所の保安監督者に対し、従業員への教育の徹底を指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種の事故防止に努める必要がある。											

1 事 故 名		給油取扱所において、給油中にノズルを挿したまま車両を動かしたことによるガソリン流出事故											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		3月 31日 17時 56分				[推定]・確定		4 発 見		3月 31日 17時 56分			
5 覚 知		3月 31日 17時 58分				6 鎮 圧 応急処置完了				3月 31日 18時 10分			
7 鎮火・処理完了		4月 1日 12時 35分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：快晴 風向：西南西 風速：3m/s 気温：19℃ 湿度：54%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：サービス業(他に分類されない 番 号 (8841) もの) 物品貸貸業 自動車賃貸 業 自動車賃貸業		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 576L 2.88倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 574L 0.57倍											
		倍数の合計： 3.45倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)		設置の完成：平成 28年 11月 30日 直近の完成：令和 4年 2月 24日											
能 力：給油取扱所(576L×2基)		17 物 質 の 区 分											
13 機 器 等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(330L)											
名 称：固定給油(注油)設備 番 号 (911)		18 取扱者の概要											
規 模：1基													
14 発 生 箇 所		19 危険物保安統括管理者											
名 称：給油(注油)ホース 番 号 (908)		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要				20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
材 質：合成樹脂													
15 発 生 時													
運 転 状 況：給油中 番 号 (8)													
作 業 状 況：その他 番 号 (99)													
22 設備・機器等の概要：		23 事 故 の 概 要：											
オンラインファイル無		ガソリンを給油中にノズルを挿したまま車両を動かしたため、給油ホースが破損し、ガソリン330Lが流出したもの。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()				
原 因	関 連 原 因		施工不良								
	発生原因の状況：										
	固定給油設備の安全継手を取り替えた際に、モーメント荷重方式ではなく引張り荷重方式のものが取り付けられていたことから、当該事故の際に安全継手が正常に離断せず、給油機側の取付金具が破損し危険物が流出。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
	施工不良		施工		施工内容の間違い						
因											
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人 的 被 害						28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ガソリン約330Lが敷地内で流出。油分離槽で流出は止まり、敷地外への流出なし。			
	当 事 者	0	0	0	0						
	防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ガソリン約330Lの流出	
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機		0 人
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機		0 人
	その他の機関	2 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機		0 人
30	実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
警戒区域の設定及び緊急使用停止の命令。											
31	防災活動上の問題点 「給油機からガソリンが噴出している。」と従業員からの通報。市及び警察に情報提供。油分離槽の危険物の回収。										
32	施 設 名	自家給油取扱所				33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他			
	行 政 措 置	使用停止	令和 5 年 3 月 31 日	年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保 安 検 査	年 月 日	年 月 日			
		改善命令等	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日			
		停止解除	令和 5 年 4 月 1 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日			
		関係条項	消防法第12条の3								
	そ の 他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無 有・無 内容： 消防法第10条第3項違反(取扱いの基準違反) 消防法第13条第1項違反(危険物保安監督者の業務不履行)					
1. 文書 ②. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
35	今後の対策 や所見 危険物保安監督者及び施設従業員に対する安全教育の徹底。 危険物の貯蔵・取扱いに係る技術上の基準の遵守について指導。										

1 事故名		給油取扱所における専用タンクからの灯油漏えい事故							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発生		1月 30日 19時 00分		[推定]・確定		4 発生見		1月 31日 8時 00分	
5 覚知		2月 3日 9時 00分		6 鎮圧 応急処置完了		2月 3日 9時 00分			
7 鎮火・処理完了		2月 3日 9時 00分							
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()							
9 気象状況		天気：曇 風向：東北東 風速：1m/s 気温：5.8℃ 湿度：72%							
10 発生事業所		種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド				11 発生場所		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 12,480L 62.4倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 16,320L 16.32倍 倍数の合計： 78.72倍 設置の完成： 昭和 48年 12月 25日 直近の完成： 平成 31年 1月 17日	
12 施設装置						17 物質の区分			
名称： その他【分類なし】 番号 (9999)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (176L)			
能力： 給油取扱所 9.6kL×1基									
13 機器等									
温度圧力：		18 取扱者の概要							
名称： 貯槽(タンク) 番号 (107)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
規模： 横置円筒型、直径14,700mm×全長6,500mm、直埋設一重殻鋼製 タンク(厚6mm、アスファルト被覆)板									
14 発生箇所									
名称： 容器本体 番号 (108)									
材質： 鋼鉄									
15 発生時									
運転状況： 休止中 番号 (6)									
作業状況： 番号 ()									
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有									
23 事故の概要： 注油設備(灯油)の不良により、令和4年8月から当該設備の利用を停止し、毎日に在庫量を確認していた。令和5年1月30日及び翌日の在庫量の差異を確認したため、直ちにタンク内の灯油を全量抜き取り、専門業者に専用タンク及び配管の加圧検査を実施したところ、専用タンクの圧力低下を確認した。 なお、漏えい検知管による検査及び周辺の側溝及び河川への灯油の流出及び異臭は確認できなかった。本事故による死傷者はなし。									
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送									

25	主 原 因 不明										着火原因										番 号 （ ）																																																
	関 連 原 因 不明																																																																				
	発生原因の状況： 灯油用の地下タンクは休止中であり、タンク内灯油量の増減のみを確認していたものであったが、1月30日19時00分頃、地下タンクの在庫確認時に増減量の異常を認識し様子をみていたが、1月31日になり増減量の異常が再度確認されたため、タンク内の灯油の抜き取り作業を行い、埋設配管及び地下タンクの圧力検査を実施するも圧力が一定に保たれなかった。 更に、埋設配管と地下タンクを切り離し地下タンクのみで圧力検査を行うと10kpa以上にはならなかったことから、地下タンクからの漏えいと思われる消防へ通報したもの。																																																																				
	主原因の詳細																																																																				
	第Ⅰ層										第Ⅱ層										第Ⅲ層										第Ⅳ層																																						
原																																																																					
因	関連原因の詳細																																																																				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																																					
27 人 的 被 害																				28 物的被害																																																	
被害内容等 区分										死亡 重症 中等症 軽症 死傷原因 職業又は 職名										被災影響範囲及び拡大の状況： 路上及び周辺や河川への流出は認められず																																																	
当 事 者										0										0										0										0																													
防災活動従事者										0										0										0										0																				施設等の被害状況：									
第 三 者										0										0										0										0																				地下タンクからの危険物漏えい。被害状況は不明。水保全課にあっては、タンク掘上時に土壌の調査を行うことを検討中。									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																																					
消 防 機 関										1 台 0 隻 0 機 2 人										自 衛										0 台 0 隻 0 機 0 人										物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油176L流出																													
消 防 団										0 台 0 隻 0 機 0 人										共 同										0 台 0 隻 0 機 0 人																																							
海上保安部										0 台 0 隻 0 機 0 人										応 援										0 台 0 隻 0 機 0 人																																							
その他の機関										0 台 0 隻 0 機 0 人										そ の 他										0 台 0 隻 0 機 0 人										損害額 1万円未満、1万円以上（ 万円）																													
30 実施した防災活動の状況																																																																					
公設消防機関：番号（ 99 ）																				自衛防災・消防組織等 番号 （ ）																																																	
調査活動(周辺の側溝及び河川等の流出調査)																																																																					
31 防災活動上の問題点																																																																					
32	施 設 名																				33 定 期 点 検 等										消 防 法										そ の 他																												
	使用停止										年 月 日										年 月 日										定期・自主点検										令和 4 年 4 月 30 日										年 月 日																		
	改善命令等										年 月 日										年 月 日																				気密試験等										令和 2 年 9 月 15 日										年 月 日								
	停止解除										年 月 日										年 月 日										保 安 検 査										年 月 日										年 月 日																		
	関係条項																				34 当該施設に係る 法令違反の有無										有・ ☐ 無 内容：																																						
	そ の 他										年 月 日																														年 月 日																												
1. 文書 2. 口頭										1. 文書 2. 口頭																																																											
35 今後の対策 や所見										休止中の地下タンクのため、内部に残留していた危険物を全量抜き取りを行った。当該給油所の他の地下タンクについても腐食のおそれが特に高いタンクに該当するため、計画的な流出防止対策を行うよう指導すると共に管内の他施設についても同種事故防止に努める必要がある。																																																											

1 事 故 名		地下貯蔵タンクからガソリンが地中に漏えい											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		4月 20日 21時 00分				推定・確定		4 発 見		4月 20日 21時 00分			
5 覚 知		5月 25日 15時 00分				6 鎮 圧 応急処置完了		6月 12日 14時 45分					
7 鎮火・処理完了		1月 0日 0時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南南東 風速：2.5m/s 気温：20.6℃ 湿度：65%											
10 発 生 事 業 所						11 発 生 場 所							
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
						16 発生施設規制区分等							
						施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) レギュラー・ハイオク 39,200L 196倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 19,600L 19.6倍 第4類第4石油類 潤滑油 4,000L 0.67倍							
						倍数の合計： 216.27倍							
12 施 設 装 置						設置の完成：平成 5年 12月 2日 直近の完成：平成 30年 12月 12日							
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)						17 物 質 の 区 分							
能 力：給油取扱所タンク容量9,800L×4						①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(レギュラー・ハイオク)							
13 機 器 等 温 度 圧 力：						18 取扱者の概要							
名 称：その他の塔槽類 番 号 (199)						①. 選任有 2. 選任無		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
規 模：直径1,872mm 全長4,176mm 容量9,800L						3. 不要							
14 発 生 箇 所													
名 称：塔槽類本体 番 号 (105)													
材 質：鋼鉄													
15 発 生 時													
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)													
作 業 状 況： 番 号 ()													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 4月20日地下貯蔵タンク定期気密検査時、漏えい検知管の1つから油膜を確認。なお、微加圧検査・高精度液面計・在庫管理表は異常なし。タンク内残油抜取りの6月12日まで1日3回漏えい検知管の点検異常なし、高精度液面計・在庫管理表も異常なし。6月7日～6月20日に土壌・ガス調査実施しベンゼン・油種を検出。地下水・土壌分析結果はガソリンを検出。(漏えい量及び地下貯蔵タンクの漏えい箇所不明。)													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 腐食疲労等劣化					着火原因					番号 ()				
原因	関 連 原 因														
	発生原因の状況： 漏えい検知管にて油膜を発見。土壌・ガス調査を実施しガソリンを検出したもの。事業所としては既存地下貯蔵タンク及び埋設配管を掘り起こして新しい地下貯蔵タンク及び配管を設置するので漏えい原因漏えい箇所の特定は行わない方針。土壌・ガス調査でガソリンが検出されたこと、定期点検(漏れ点検)時の漏えい検知管内に油膜を発見し地下貯蔵タンクと埋設配管の加圧試験を行うも異常なし、高精度液面計も異常なしの状況から事業所としては埋設配管からの漏えいではなくレギュラーかハイオクの地下貯蔵タンクから腐食により地中に漏えいと推定している。敷地外への漏えいなし。														
	主要原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）								
	関連原因の詳細														
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27	人 的 被 害										28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所の敷地内のみガソリンが漏えい。							
	当 事 者	0	0	0	0										
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 地下貯蔵タンク・埋設配管、地下水・土壌汚染。							
	第 三 者	0	0	0	0										
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 地中にガソリン(レギュラーかハイオク)が漏えい。漏えい量不明。					
	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人						
	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
	0 台	0 隻	0 機	2 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (16,591 万円)					
30	実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99)										自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動															
31	防災活動上の問題点 報告の遅れ														
32	施 設 名							33 定 期 点 検 等	消 防 法			そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和 5 年 4 月 20 日			年 月 日			
	改善命令等	年	月	日	年	月	日		令和 5 年 4 月 20 日			年 月 日			
	停止解除	年	月	日	年	月	日		年 月 日			年 月 日			
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：						
	そ の 他	年 月 日			年 月 日										
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭										
35	今後の対策 や所見 対策:土壌調査実施、感染土壌・水の除去。既存タンク・配管の交換。所見:漏れ点検や高精度液面計等異常がないにもかかわらず漏えいしたこと、原因を追究し、今後の教訓として生かしてもらいたい。														

令和5年

1 事故名		給油取扱所の注入管からの軽油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		10月 22日 10時 00分	
5 覚 知		10月 25日 16時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了		10月 25日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了		12月 8日 14時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南西 風速：5m/s 気温：23℃ 湿度：42%					
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド				11 発 生 場 所	
12 施 設 装 置						区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 12,480L 62.4倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 7,000L 7倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,320L 9.32倍	
						倍数の合計： 78.72倍	
14 発 生 箇 所		設 置 の 完 成： 昭和 38年 11月 11日 直 近 の 完 成： 令和 3年 3月 17日					
13 機 器 等		17 物 質 の 区 分					
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス					
能 力： 10kL×3		5. 毒物 6. 劇物 7. その他					
15 発 生 時		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)					
運 転 状 況： 受入中 番 号 (9)		(低温、常温 [0-40℃]、高温)					
作 業 状 況： 番 号 ()		分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (1L)					
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 店長が10月初旬に地下タンクの漏えい検知管から油がにじんでいるのを確認。10月25日に地下タンクの漏れ点検業者が注入管からの漏れを確認。その後消防に報告。軽油の注入口使用停止を指示。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因 不明					着火原因					番号 ()				
	関 連 原 因 不明														
	発生原因の状況： 注油管に何らかの原因で穴が開き、そこから漏れた油が漏えい検知管内に入った可能性があるが、確たる証拠がないため原因については不明とする。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層		
	関連原因の詳細														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人 的 被 害										28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし							
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 軽油用注油管							
防災活動従事者		0	0	0	0										
第 三 者		0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										物質の被害状況： 第4類 第2石油類(非水溶性液体)軽油 約1L流出					
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人						
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人						
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 ()										自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 油漏えいを確認した際は、直ちに拡散防止及び応急措置を実施し、消防へ通報するよう指示する。															
行政措置	32 施設名	給油取扱所								33 定期点検等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	令和 5 年 10 月 12 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	令和 5 年 10 月 22 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項	法第16条の3								34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
	そ の 他	令和 5 年 10 月 25 日				年 月 日									
		①. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見		毎日点検の励行													

9 移 送 取 扱 所

令和5年

1 事故名	移送取扱所計量設備室内の空気分離器ブロー配管が減肉したことによりピンホールが生じ重油が漏えいしたものの										
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()										
3 発 生	5月	4日	8時	35分	推定 ・確定	4 発 見	5月	4日	8時	35分	
5 覚 知	5月	4日	8時	52分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月	4日	9時	15分	
7 鎮火・処理完了	5月	4日	10時	51分							
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()										
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西 風速：7.4m/s 気温：18℃ 湿度：58%										
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所					11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 知内地区 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,000,000L 5,000倍 倍数の合計： 5,000倍 設 置 の 完 成：昭和 57年 12月 8日 直 近 の 完 成：令和 4年 7月 15日				
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分					
名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス					
能 力：空気分離器 1,500m ³ /h						5. 毒物 6. 劇物 7. その他					
13 機 器 等						(固相、 液相 , 気相) (常圧 , 加圧)					
名 称：その他 番 号 (999)	(低温、常温 [0-40℃]、 高温)										
規 模：容量:7.3L、寸法:直径1.512mm、高さ:4.884mm	分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (70L)										
14 発 生 箇 所	18 取扱者の概要										
名 称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303)	①. 選任有 2. 選任無										
材 質：鋼鉄	3. 不要										
15 発 生 時	20 危 険 物 保 安 監 督 者		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		①. 有 2. 無						
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)											
作 業 状 況： 番 号 ()											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 定例パトロール中に移送取扱所計量設備室の防油堤内で重油が漏えいしているのを発見したため漏えい箇所を確認すると、1号機用空気分離器ブロー弁の保温内からであった。漏えいは防油場内に溜まり推定70L。消防へ通報すると同時に重油を固化させるために1号機燃料受入配管蒸気トレースを停止させた。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原因	25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 当該ドレン弁は通常閉止運用となっており母管より弁が上部にある位置関係となっている。母管内を重油が通ることによってブロー弁2次側の空気だまり部に空気及び水分が滞留しやすい状況となり腐食したと推測される。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細												
因													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害							28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：					
区分								漏えいした重油は防油堤内に留まっている。					
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：					
第 三 者		0	0	0	0			移送取扱所計量設備室内空気ドレン配管及びドレン弁と重油が浸透した保温材の取替					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	14 人	物質の被害状況：			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	第4類第3石油類(非水溶性)重油70L流出			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	3 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 現場状況把握のため。						自衛防災・消防組織等 番号 (5) ウエスでの漏えい油拭き取り及び漏えい油の回収が行われ、別系統から配管内の残油拭き取り作業も並行して実施。							
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32	施設名				33	定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	行	使用停止	年 月 日	年 月 日		政	定期・自主点検	令和 2 年 5 月 1 日	年 月 日				
		改善命令等	年 月 日	年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日				
		停止解除	年 月 日	年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日				
	措	関係条項				置	34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無					
		そ の 他	年 月 日	年 月 日	内容：								
		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭											
35		今後の対策や所見 事業所からの再発防止策については、空気溜まりを極力無くすようブロー弁の操作により油張りを実施し、今回取替を行った配管については、令和6年度に肉厚測定を実施するとの報告があった。また、類似箇所配管点検(11箇所)を行ったところ、全てにおいて極端な減肉は確認されなかったとのこと。											

1 事故名		移送取扱所:5号B栈橋23バース軽油出荷配管末端フランジ油にじみ事故							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発生		4月 10日 11時 00分		[推定]・確定		4 発生見		4月 10日 11時 00分	
5 覚知		4月 10日 12時 28分		6 鎮圧 応急処置完了		4月 10日 13時 08分			
7 鎮火・処理完了		4月 10日 13時 08分							
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()							
9 気象状況		天気: 晴 風向: 西南西 風速: 3m/s 気温: 20℃ 湿度: 36%							
10 発生事業所		種別: ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態: 製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番号 (1811)				11 発生場所		区分: 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名: 京葉臨海中部地区 16 発生施設規制区分等 施設区分: ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別: 取扱所 施設別: 移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数: 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 34,800,000L 34,800倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 29,800,000L 149,000倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 51,800,000L 25,900倍 倍数の合計: 209,700倍 設置の完成: 昭和 47年 7月 1日 直近の完成: 令和 5年 3月 22日	
12 施設装置									
名称: その他【分類なし】 番号 (9999) 能力: 5号栈橋・第1石油類 29,800kL・第2石油類 34,800kL・第3石油類 51,800kL									
13 機器等									
温度圧力: 名称: その他 番号 (999) 規模: 外径:457.2mm、厚さ:11.1mm、材質:SGP38 SCH30									
14 発生箇所		17 物質の区分							
名称: その他の附属配管等 番号 (299)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス							
材質: その他		5. 毒物 6. 劇物 7. その他							
15 発生時		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)							
運転状況: 受入中 番号 (9)		(低温、常温 [0-40℃]、高温)							
作業状況: 充填中 番号 (12)		分類: 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称: 軽油 (1L)							
18 取扱者の概要		19 危険物保安統括管理者		20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要: オンラインファイル無									
23 事故の概要: 5号B栈橋 23バースで船の荷役中(A重油/LSA重油)、海上に薄い油膜があることを栈橋係員が発見。近傍配管の点検をした結果、軽油出荷配管末端エンドフランジより油にじみがあることを確認した為、にじみ箇所へ受け缶を設置し、海上漏えいを防止した。									
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他									

25	主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()	
原因	関 連 原 因							
	発生原因の状況：							
	エンドフランジからの油漏えいの発生原因は以下の通りと断定する。 4月9日(日)に軽油タンク(T-8313)から陸上出荷用軽油タンク(T-6258、6259)へシフトを実施したが、通常はシフト終了後に流量計上流にある中間バルブ2箇所(RVGOA01、RVGOA02)が開放されるが、今回はプログラミングのミスにより閉止状態のままであった。その結果、中間バルブから棧橋間が締め切りとなり、外気温上昇と共に配管圧力が上昇し当該部位からの油にじみが発生したものと推測する。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	設備		監理・保守		点検・整備		確認不足	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害							28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 海上へ1L程漏えいしたが、直ぐに漏れ箇所を受け缶を設置し漏えいを防止した。
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 軽油 1L				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 2 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満 、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()		
災害の状況聴取								
31 防災活動上の問題点								
32 施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策 や所見		バルブ閉止状況になった場合、DCSガイダンスメッセージを発報するようにシステム変更し、配管内が異常圧力にならないよう改善した。						

令和5年

1 事故名		硫黄出荷作業中にローディングアーム接続フランジからの硫黄噴出による流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		7月 24日 10時 44分				推定・確定		4 発生見		7月 24日 10時 44分			
5 覚知		7月 24日 10時 46分				6 鎮圧 応急処置完了				7月 24日 15時 53分			
7 鎮火・処理完了		7月 24日 15時 53分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西南西 風速：2.8m/s 気温：30℃ 湿度：59%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 番 号 (1811)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類硫黄 硫黄 17,200,000kg 172,000倍											
		倍数の合計：172,000倍											
12 施設装置		名称：海上入出荷施設 番 号 (1401) 能力：栈橋硫黄出荷所 17,200t/日											
13 機器等		温度圧力：143℃、0.18Mpa 名称：ローディングアーム 番 号 (604) 規模：8インチ(溶融硫黄)/10インチ(蒸気)の二重管											
14 発生箇所		名称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201) 材質：鋳鉄											
15 発生時		運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：充填中 番 号 (12)											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 第3栈橋硫黄出荷所のローディングアームより船舶へ溶融硫黄の積み込み作業を終え、当該ローディングアームに残留する溶融硫黄を窒素ガスで船舶へ押し込むための準備作業をしていた。 この時、荷役管理責任者(被災者)の指示で船舶作業員がマニホールド弁(船舶側バルブ)を閉止した。 本来、同マニホールド弁は開放状態であるべきところ、荷役管理責任者(被災者)の誤った閉止指示により、定量弁(陸側)からマニホールド弁に至る配管内が液封状態となった。 また、貨物物性上、配管はヒータリングが継続されていることから、液封状態となった配管内の溶融硫黄がさらに温度上昇し、膨張していたものと考えられる。 その後、窒素ガスにて残留する溶融硫黄を押し込む前に、荷役管理責任者(被災者)の指示で、請負作業員(荷役作業責任者)から計器室に連絡し、遠隔操作で定量弁を開放したところ、圧力が高かった定量弁上流と圧力が低かった定量弁下流との差圧解消により定量弁下流の圧力が一気に高まり、当該ローディングアームと船舶の接続フランジ部のガスケットが破断し、溶融硫黄が放射状に噴出した。 その結果、当該接続部付近にいた荷役管理責任者(被災者)へ溶融硫黄が飛散し熱傷を負った。 なお、荷役工程としては船舶への溶融硫黄積み込みが完了し、当該ローディングアームに残留する溶融硫黄を船舶へ押し込む作業工程であったため、噴出は一時的であった。 溶融硫黄漏えい量(計算値):約330L ※消防法:第2類危険物 可燃性固体													
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無													

原因	25	主 原 因 操作確認不十分				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因 施工不良												
	発生原因の状況：												
	船舶への溶融硫黄積み込み作業を終了後、本来開放状態であるべきマニホールド弁を荷役管理責任者(被災者)の誤ったタイミングの指示でマニホールド弁を閉止したことにより、配管内の溶融硫黄が閉じ込まれ、更にジャケットスチームによる加熱が継続していたため熱膨張を引き起こした。その後に定量弁を開としたことにより、ローディングアームから船舶との接続フランジまでの圧力が出荷作業時圧力の3倍以上である0.65Mpaまで上昇した。												
	シートガスケット破断に関しては、出荷前に0.3Mpaにて気密テストを実施し、洩れがないことを確認していたが、接続フランジが視認できないわずかな片締めであったために、内圧が急激に0.65Mpaまで上昇したことにより、当該シートガスケットが外径方向へ押し出されて、ボルトに接触し破断し、溶解硫黄が噴出したと推測する。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	人			本人の意識			思慮			その他			
因	関連原因の詳細												
	施工不良		施工		ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）								
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害								28 物的被害					
被害内容等								被災影響範囲及び拡大の状況：					
区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	フランジ部から飛散した溶融硫黄の一部が船舶と桟橋との間の海面に飛散し、0.5mm程度の粒上の硫黄が海底(14m×2mの範囲、概算で0.5L程度)に沈んだ。(大半が船舶上へ漏れいし、119℃以下で固化し、SDS上、環境に対する有害性は「区分外」。)					
当 事 者		0	1	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：					
第 三 者		0	0	0	0			ガスケットの破断及び船舶並びに桟橋上への硫黄付着					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関		8 台	0 隻	0 機	19 人	自 衛	5 台	0 隻	0 機	37 人	物質の被害状況：		
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	第2類 可燃性固体 硫黄 溶解硫黄として約330L噴出		
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	大半が船舶上へ漏れいし、固化		
その他の機関		4 台	0 隻	0 機	10 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1,320 万円)		
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99)								自衛防災・消防組織等 番号 ()					
被災者の救護活動を実施。 その後、公設消防機関立会いの下、ローディングアームと船舶との取合いフランジを開放し、各々にエンドフランジを取付けた。硫黄の漏れいに備えて消火ホースを準備した上で操作したが、漏れいすることはなかったため消火活動は実施しなかった。なお、噴出は一時的であり、自衛消防及び公設消防機関が現場到着時には既に噴出は止まっていた。													
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32	施 設 名					33	定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他			
	行	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日		年 月 日			
		改善命令等	年 月 日		年 月 日			気密試験等	年 月 日		年 月 日		
		停止解除	年 月 日		年 月 日				保 安 検 査	年 月 日		年 月 日	
	措	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>		内容：			
		そ の 他	年 月 日		年 月 日								
35		今後の対策 や所見	・荷役管理責任者を含む荷役作業員への荷役手順再教育 - 取扱各油種の荷役作業手順について、新任教育のほか、現作業員に対しても再教育を実施する。 - 特に溶融硫黄の窒素バージの手順については、原油等の油物と手順は同様であるものの、ヒーティングによる配管内熱膨張の危険性等について注意が必要であることを理解させる。 ・荷役要領書の見直し - 要領書の各項目に新たにチェック欄を設け、荷役の都度、荷役管理責任者及び荷役作業責任者等で相互に確認を実施する。また、荷役管理責任者等の確認状況について、計器室においても履行状況の確認を実施する。 - 荷役管理責任者及び荷役作業責任者により手順・操作のダブルチェックをする。 ・ガスケット形式の変更 - 片締りを防止するため、ステンレス製内外輪付うずまき型ガスケットを使用する。 - 接続フランジの締付方法について、再教育を実施する。										

令和5年

1 事故名		第7バース着舷船からの甲板上へのC重油漏えい事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		9月 5日 12時 02分				推定・ 確定		4 発生見		9月 5日 12時 02分	
5 覚知		9月 5日 12時 15分				6 鎮圧 応急処置完了		9月 5日 13時 55分			
7 鎮火・処理完了		9月 5日 13時 55分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：6.7m/s 気温：34℃ 湿度：49%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、 荷 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 危険物(C重油) 1,152,000L 5,760倍									
12 施設装置		倍数の合計：5,760倍 設置の完成：昭和 55年 3月 20日 直近の完成：令和 元年 9月 5日									
名称：海上入出荷施設 番 号 (1401)											
能力：第4類第3石油類 重油(非) 11,520kL											
13 機器等		温度圧力：									
名称：その他 番 号 (999)		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：危険物(C重油)(112L)									
規模：エアー抜きベント管:2B											
14 発生箇所											
名称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303)		18 取扱者の概要									
材質：鋼鉄											
15 発生時											
運転状況：その他 番 号 (99)		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
作業状況：充填中 番 号 (12)											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 第7バースに着舷中の船舶にC重油を荷役していたところ、N0.3ハッチからオーバーフローし、エアー抜きベントからC重油が甲板上に漏えいたため、N0.3ハッチ監視員が栈橋作業員に緊急停止依頼し、それを受けた栈橋作業員が荷役を緊急停止した。 荷役の緊急停止、甲板上の漏えいの情報を聞いた操油係長が現場に駆け付け漏えいを覚知、操油グループ員が防災センターへ非常体制発令の連絡を行った。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原 因	25 主 原 因 調 査 中						着火原因						番号 ()					
	関 連 原 因																	
	発生原因の状況： 調査中																	
	主原因の詳細																	
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層					
	関連原因の詳細																	
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																		
27 人 的 被 害												28 物的被害						
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 着舷中の船舶のNo. 3ハッチからオーバーフローし、エア 抜きベントからC重油が甲板上に漏えい										
当 事 者		0	0	0	0													
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：										
第 三 者		0	0	0	0			なし										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		
消 防 機 関		4 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	11 人	物質の被害状況： C重油 112L							
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	1 台	0 隻	0 機	5 人								
海上保安部		1 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人								
その他の機関		3 台	0 隻	0 機	10 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)							
30 実施した防災活動の状況																		
公設消防機関：番号 () 現場待機												自衛防災・消防組織等 番号 () 自衛の大化高より漏えい箇所へ警戒体制						
31 防災活動上の問題点 ホットライン通報																		
政 策 措 置	32 施 設 名									33 定 期 点 検 等	消 防 法				そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	年 月 日				年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日				年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保 安 検 査	年 月 日				年 月 日			
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：							
	そ の 他	年 月 日				年 月 日												
35 今後の対策 や所見		船舶会社と発生原因を船舶会社と調査、検討して原因究明していく。																

令和5年

1 事故名		3号栈橋向け灯油出荷配管にじみ漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		10月 25日 14時 40分				推定・ 確定		4 発生見		10月 25日 14時 40分	
5 覚知		10月 25日 15時 21分				6 鎮圧 応急処置完了		10月 25日 15時 05分			
7 鎮火・処理完了		10月 25日 17時 00分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北北東 風速：1.8m/s 気温：22℃ 湿度：49%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、 他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類硫黄 硫黄 10,800,000kg 108,000倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ、ガソリン 72,000,000L 360,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 7,200,000L 7,200倍									
		倍数の合計：475,200倍									
12 施設装置		14 発生箇所									
名称：海上入出荷施設 番 号 (1401)		名称：その他の附属配管等 番 号 (299)									
能力：3号栈橋第2類 10,800t/日 第4類 72,000L/日		材質：ステンレス									
13 機器等		温度圧力：0.37Mpa									
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		15 発生時									
規模：8インチ		運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)									
14 発生箇所		作業状況： 番 号 ()									
		17 物質の区分									
15 発生時		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(水溶性液体) 名称：灯油 (1L)									
		18 取扱者の概要									
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 3号栈橋向け灯油(WK)出荷配管(FS6422 CV 下流、流量計ダイク内)の外表面腐食が進行し配管開孔、油にじみ漏えい発生(1L程度)。ブロッキング及び脱圧実施にて油漏れ停止。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原因	25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 令和5年10月27日に撮影した放射線透過試験(RT)の結果で内面腐食が認められないこと、配管外面に著しい錆コブが発生していた状況から、塗膜の劣化部から水分が浸入したことによる外面腐食(塗膜下腐食)と推定する。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			防食			防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)						
	関連原因の詳細												
因													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害							28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に灯油1L漏えい。破損、損傷無し。					
区分													
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 塗膜の劣化部から水分が浸入したことによる外面腐食で配管にピンホール発生。					
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	7 台 0 隻 0 機 15 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					物質の被害状況： 第4類 第2石油類 灯油 約1L流出					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人										
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人										
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 1 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)					
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 漏えい箇所である、配管周囲等をガス検知器を活用し環境測定を実施した。							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32	施設名				33	定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年 月 日	年 月 日			定期・自主点検	令和 5 年 5 月 31 日	年 月 日					
	改善命令等	年 月 日	年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日					
	停止解除	年 月 日	年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日					
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：						
	そ の 他	年 月 日	年 月 日										
35		漏えい箇所の配管更新済。当該事例を周知し外面腐食点検強化を図る。											
今後の対策や所見													

令和5年

1 事故名		移送取扱所において重油が流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		1月 6日 8時 05分 推定・確定					4 発生見		1月 6日 8時 05分				
5 覚知		1月 6日 8時 16分					6 鎮圧 応急処置完了		1月 6日 8時 34分				
7 鎮火・処理完了		1月 6日 15時 30分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：3℃ 湿度：40%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5000, 000L 2, 500倍											
12 施設装置		倍数の合計：2, 500倍 設置の完成：昭和 39年 4月 2日 直近の完成：年 月 日											
名称：海上入出荷施設 番 号 (1401) 能力：不明													
13 機器等													
温度圧力：		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (1. 5L)											
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規模：不明													
14 発生箇所													
名称：その他 番 号 (999) 材質：ステンレス		18 取扱者の概要											
15 発生時													
運転状況：停止中 番 号 (5) 作業状況：点検中 番 号 (5)													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： タンカーへ荷卸し作業を行う前段階として、配管内の滞油(C重油)に圧力をかけて、タンク内に戻す作業を行っていたところ、栈橋に設置してある圧力計下部の保温部分の隙間からC重油が噴出し、海上に約1. 5L流出したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 圧力を逃がすためのベントプラグのプラグネジが適切な位置までねじ込まれおらず(ネジ山が見えている状態)、圧力を加えたときに、プラグネジの隙間から油が噴出したもの。 プラグネジが適切な位置までねじ込まれていなかった原因としては、シールテープが剥がれたものがネジ山に挟まっていて、十分にねじ込めない状態であった。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	施工不良	施工	取り付け不良					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 海上へC重油約1.5L流出。オイルフェンスを展開した。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	3 台 0 隻 0 機 13 人	自 衛	7 台 0 隻 0 機 54 人	物質の被害状況： C重油1.5L流出。				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
調査活動								
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年12月1日	令和4年12月9日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策や所見 事故の直接的な原因は、ベントプラグのプラグネジが適正な位置までねじ込まれていなかったことによる。 間接的な原因は、ねじ込み位置の確認不足である。 これらを踏まえ、再発防止策としては、プラグの締付位置を確認するチェックポイントを点検手順書へ追記することと、点検業務者への教育を再度徹底する。								

1 事故名		移送取扱所において湿潤環境により配管が穿孔し重油が流出したもの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		3月 10日 15時 30分	
5 覚知		3月 10日 15時 47分		6 鎮圧 応急処置完了		3月 10日 15時 40分	
7 鎮火・処理完了		3月 10日 18時 35分					
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：1m/s 気温：22℃ 湿度：47%					
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u> 、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)				11 発生場所	
12 施設装置						区分：①. 事業所内 (製、貯、 <u>荷</u> 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) <u>ガソリン</u> 13,700,000L 68,500倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) <u>軽油</u> 13,700,000L 13,700倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) <u>重油</u> 6,850,000L 3,425倍	
						倍数の合計：85,625倍	
13 機器等		温度圧力：		設置の完成：昭和 43年 6月 26日 直近の完成：令和 元年 6月 6日		17 物質の区分	
名称：海上入出荷施設 番 号 (1401)		能力：1日 13,700kL		名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(20L)	
規模：口径 10インチ		14 発生箇所		名称：その他の附属配管等 番 号 (299)		18 取扱者の概要	
材質：鋼鉄		15 発生時		運転状況：定常運転中 番 号 (1)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
作業状況： 番 号 ()		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い	
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 栈橋の基礎杭工事のために現場の確認をしていた協力会社社員が、現場の引き上げ途中で臭気を感じ、周囲を確認すると海上に油が浮いているのを発見。直ちに製油所職員へ連絡。製油所職員から公設消防へ通報。公設消防現着後、現場調査実施するも、その場での漏えい停止確認できず。製油所職員は海上流出の拡大防止のためオイルフェンスを展開。先端バルブよりバキュームローリーと接続し滞油抜きを実施。滞油抜きが終了したことにより漏えいは停止した。その後、配管フランジ部分に仕切弁を挿入し配管の縁切りを実施した。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化					着火原因					番号 ()				
原因	関 連 原 因														
	発生原因の状況： 当該漏えい配管は、タンクから送液した重油をローディングアームを介して船舶へ出荷するための配管である。海上配管のため防食措置として防食テープを巻いており、劣化状況を目視点検にて確認し交換時期を判断している。漏えい原因として、目視点検にて異常なしと判断した防食テープだったが、実際は海水により劣化しており、それにより湿潤環境となったことで配管に外面腐食を形成。腐食箇所が穿孔し漏えいしたものと推定する。														
	主要原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）								
	関連原因の詳細														
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27	人 的 被 害										28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 海上漏えい範囲 縦10m、横30mの範囲で漏えい。 梁上漏えい範囲 縦0.3m、横0.6mの範囲で漏えい。							
	当 事 者	0	0	0	0										
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管穿孔部 0.5mm							
	第 三 者	0	0	0	0										
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	62 人	物質の被害状況： 第4類 第3石油類非水溶性 重油 20L漏えい					
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人						
海上保安部	2 台	0 隻	0 機	6 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人						
30	実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99) 調査活動										自衛防災・消防組織等 番号 (7、6) オイルフェンスの展張及び油回収(海上)					
31	防災活動上の問題点														
32 行政措置	施設名									33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	令和 4 年 3 月 18 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：				
	そ の 他	年 月 日				年 月 日									
35	今後の対策 や所見 配管の取替工事を実施。なお、防食措置についてはテープではなくアルミ塗装に変更。当該発災箇所との類似配管にあっては侵食度が高い配管とし、検査または補修計画の立案を実施。配管補修に時間を要す場合は、減肉の進展検査を実施。														

令和5年

1 事故名		移送取扱所において外面腐食により配管が穿孔し重油が流出したもの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		8月 20日 17時 20分	
5 覚知		8月 20日 17時 33分		6 鎮圧 応急処置完了		8月 20日 19時 28分	
7 鎮火・処理完了		8月 20日 20時 35分					
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：2m/s 気温：32.2℃ 湿度：67%					
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		11 発生場所		区分：①. 事業所内 (製、貯、 <u>荷</u> 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区	
12 施設装置				16 発生施設規制区分等		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 48,000,0000L 2,400,000倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 0L 0倍	
名称：海上入出荷施設 番 号 (1401) 能力：480,000,000L/日				設置の完成：昭和 39年 2月 20日 直近の完成：令和 4年 2月 8日 倍数の合計：2,400,000倍			
13 機器等						17 物質の区分	
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規模：12B						①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油	
14 発生箇所		名称：その他の機器等本体 番 号 (199) 材質：鋼鉄		18 取扱者の概要			
15 発生時		運転状況：払出中 番 号 (10) 作業状況：運転操作中 番 号 (1)		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
21 危険物取扱者の取扱・立会い		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		23 事故の概要： 重油を船へ荷役中に配管からの漏えいしているものを発見したもの。海上にも一部流出した。		24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1) 無 装置の緊急停止	

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 配管の保温材を撤去して配管を確認したところ、外面腐食による穿孔があった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人 的 被 害							28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 重油が配管下の海上に流出。流出範囲は約30mに収まった。			
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関		3 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	52 人	物質の被害状況： 重油(第3石油類)流出量不明
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部		1 台	0 隻	0 機	3 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (1,400 万円)
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動							自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業				
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：				
	そ の 他	年 月 日									
35 今後の対策 や所見		当該配管の撤去。点検頻度の見直しを行う。									

令和5年

1 事故名		移送取扱所においてローディングアームの溶接部からC重油が漏えいしたもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 21日 14時 17分 推定・ 確定					4 発生見		8月 21日 14時 17分				
5 覚知		8月 21日 14時 38分					6 鎮圧 応急処置完了		8月 21日 15時 31分				
7 鎮火・処理完了		8月 21日 16時 40分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東北東 風速：2.6m/s 気温：33℃ 湿度：64.1%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、 荷 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,000,000L 2,500倍											
12 施設装置		倍数の合計：2,500倍 設置の完成：昭和 39年 4月 2日 直近の完成：平成 27年 4月 9日											
名称：海上入出荷施設 番 号 (1401)													
能力：5,000,000L/日													
13 機器等		温度圧力：0.2Mpa											
名称：ローディングアーム 番 号 (604)		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(12.2L)											
規模：8B×10.5m													
14 発生箇所													
名称：その他の機器等本体 番 号 (199)		18 取扱者の概要											
材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：払出中 番 号 (10)		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
作業状況：運転操作中 番 号 (1)													
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： ローディングアームを使用してタンカーに出荷していたところ、ローディングアームの溶接部から重油が漏えいし、一部海上漏えいした。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因		操作確認不十分							
	発生原因の状況：		過去に外面腐食による減肉が発生、その当時に錆が残った状態で上乗り塗装を実施していた結果、塗膜内での腐食が進行し、貫孔に至ったと推定。							
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	腐食	防食	防食措置が悪いために腐食発生							
	関連原因の詳細									
	人	本人の意識	思慮		配慮不足					
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
	27 人的被害						28 物的被害			
	被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： タンカー内24㎡と海上60㎡に漏えい		
	当 事 者	0	0	0	0					
	防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： ローディングアームの溶接部に割れ		
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	73 人	物質の被害状況： 第3石油類 重油 12.2L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	1 台	0 隻	0 機	3 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業				
31 防災活動上の問題点										
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保 安 検 査	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策 や所見										
目視検査に見落としがないよう手順書の改訂を行う。定期点検実施者に対する教育の強化を行う。										

1 事故名		保温材を被った移送取扱所の配管が多湿環境形成により外面腐食を形成し重油が流出したもの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		9月 1日 14時 34分	
5 覚知		9月 1日 14時 54分		6 鎮圧 応急処置完了		9月 1日 15時 15分	
7 鎮火・処理完了		9月 1日 19時 10分					
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：3.8m/s 気温：34℃ 湿度：51%					
10 発生事業所				11 発生場所			
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区分：①. 事業所内 (製、貯、[荷]、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区		16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他			
				貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所			
				類・品名・名称・数量・倍数：			
				第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 33,000,000L 16,500倍			
12 施設装置							
名称：海上入出荷施設		番 号 (1401)					
能力：5,000kL/日							
13 機器等		温度圧力：70℃、0.1Mpa					
名称：配管(送油、注入管等)		番 号 (606)					
規模：配管口径 16インチ							
14 発生箇所				設置の完成：昭和 46年 4月 21日		倍数の合計：16,500倍	
名称：その他の附属配管等		番 号 (299)		直近の完成：令和 5年 1月 19日			
材質：鋼鉄				17 物質の区分			
15 発生時				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
運転状況：停止中		番 号 (5)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
作業状況：		番 号 ()		(固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧])			
				(低温、常温 [0-40℃]、[高温])			
				分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (49. 1L)			
				18 取扱者の概要			
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 協力会社社員が棧橋巡回中に、移送取扱所防油堤内に油が漏えいしているのを発見。防油堤附属の排水バルブが閉止していること及び海上へ流出していないことを確認。協力会社社員は製油所職員へ連絡。製油所職員から自衛防災組織へ連絡し、自衛防災組織は公設消防へ通報を実施した。製油所職員により附属配管の仕切弁を閉止。ドレンノズルから配管内の圧抜きを行った。現着した公設消防により現場調査活動を実施。配管からの漏えい停止を確認。防油堤内に漏えいした油及び配管内の滞油についてはバキュームローリーにて回収を実施した。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 当該発災箇所は、重油を船に出荷するための棧橋上に敷設された保温材を被った出荷用配管である。 保温材の中には重油の固化を防ぐため加温用のスチーム配管が抱線として敷設されており、発災後に保温材を解体したところ、抱線に腐食、穿孔した箇所を発見。穿孔箇所からスチームが漏れ出し、保温材内部が湿潤環境となり、移送配管に外面腐食を形成したことで重油が漏えいしたものと推定する。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内81.7㎡の範囲に漏えい。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							施設等の被害状況： 穿孔箇所 移送管 4mm	
消 防 機 関	3 台 0 隻 0 機 10 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 97 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類非水溶性 重油 49.1L				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (600 万円)	
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 3 月 17 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		従来は目視のみで点検を実施していたが、棧橋上の配管は海上敷設という事もあり保温板金にシールがされているためスチーム漏れの目視確認が困難である。今後の対策として、超音波カメラを活用した点検を年1回以上実施するものとする。						

1 事故名		移送取扱所においてストレーナの上部カバーから潤滑油が流出したもの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		10月 5日 8時 20分	
5 覚知		10月 5日 10時 10分		6 鎮圧 応急処置完了		10月 5日 8時 30分	
7 鎮火・処理完了		10月 5日 10時 30分					
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：曇 風向：南南東 風速：1m/s 気温：-21℃ 湿度：83%					
10 発生事業所				11 発生場所			
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵倉庫番号(4711) 倉庫業を除く) 倉庫業(冷蔵倉庫業を除く)				区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 根岸臨海地区			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 1,300,000L 6,500倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 0L 0倍			
12 施設装置							
名称：海上入出荷施設		番号 (1401)					
能力：1,300kL/日							
13 機器等		温度圧力：0.6Mpa					
名称：配管(送油、注入管等)		番号 (606)					
規模：直径165.2mm							
14 発生箇所				設置の完成：昭和 50年 7月 31日 直近の完成：令和 4年 2月 25日		倍数の合計：6,500倍	
名称：ストレーナー		番号 (209)		17 物質の区分			
材質：ステンレス				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：潤滑油(5L)			
15 発生時				18 取扱者の概要		経験年数2年	
運転状況：定常運転中		番号 (1)					
作業状況：監視中		番号 (10)					
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 8時20分頃、屋外タンク貯蔵所から船舶へ潤滑油(第4類第3石油類)を出荷中、移送取扱所(栈橋上)の配管途中に設置されたバスケット型ストレーナの上部カバー(ブラインドタイプのフランジ接続式)の接続部から潤滑油が溢れ出し、直下の危険物流出防止囲いの水抜き口を介して海上に流出している(開閉弁が開放状態であった)のを現場作業者が発見した。直ちに危険物の出荷を停止、油吸着マットにて拡散防止を図るとともに、海上保安庁へ通報した。なお、消防機関への通報は事故発見から1時間50分後に管轄消防署へ加入電話によりなされた。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25	主 原 因		施工不良		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因		維持管理不十分							
	発生原因の状況：		ストレーナ上部カバーのボルトが緩んでいたこと、棧橋上に設置された危険物流出防止囲いの水抜き口の開閉弁が開放状態になっていた(雨水排水のため開閉弁が開放のままになっていた)ことにより、海上に流出したもの。							
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	施工不良		施工		ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		整備内容が不適切			
因										
26 被害の状況 ①. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害										
28 物的被害										
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：		
区分								海上流出したが、範囲は不明		
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況：		
第 三 者	0	0	0	0				なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	1 台	1 隻	0 機	5 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	1 台	0 隻	0 機	5 人	
物質の被害状況：										
第4類第3石油類潤滑油5L流出										
損害額 1万円未満、1万円以上 (60 万円)										
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (7、5)				
調査活動						油回収(海上)				
31 防災活動上の問題点										
発見次第通報するべきであった。										
行政措置	32	施設名			33	定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	行	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 7 月 12 日	年 月 日			
		改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
		停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
		関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	内容：						
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭							
	35		今後の対策や所見 法令等技術上の基準では、液体危険物の流出(漏えい)及び飛散防止として防油堤等の設置が規定され、当該堤等には雨水等の滞水を排水するための水抜き口が設けられる。水抜き口の開閉バルブが適切に管理されないと危険物の大量流出が起こり得るため、ハード面としてバルブの開閉状態が客観的に把握し得るモニタリング機能を持たせた設備の導入を、またソフト面として、バルブ操作等を行う作業員に対する安全教育等を充実させることが求められる。							

令和5年

1 事故名		栈橋上の移送取扱所配管より重油が流出した事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		7月 10日 7時 58分				[推定]・確定		4 発 見		7月 10日 8時 00分			
5 覚 知		7月 10日 9時 10分				6 鎮 圧 応急処置完了				7月 10日 10時 21分			
7 鎮火・処理完了		7月 10日 10時 21分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 南西 風速： 2m/s 気温： 27℃ 湿度： 100%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、[荷]、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 名古屋港臨海地区特別防災区域											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) スロップ 7,000,000L 35,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スロップ 7,000,000L 7,000倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) スロップ 7,000,000L 3,500倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 45,000,000L 22,500倍											
		倍数の合計： 68,000倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称： 海上入出荷施設 番 号 (1401)		名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)											
能 力： 1回あたり平均860kLを月に5回出荷		材 質： その他											
13 機 器 等		温 度 圧 力： 0.28Mpa											
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		15 発 生 時											
規 模： 配管直径14インチ		運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)											
		作 業 状 況： 番 号 ()											
		17 物 質 の 区 分											
		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(2.1L)											
		18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 定期巡回中に栈橋海上に油膜を発見したもの。配管サポート近傍に外面腐食が密在し、複数箇所に開口が見られる。栈橋上の配管と配管サポートの接触部近傍が海水飛沫の塩害により腐食が発生し、腐食部が開口、重油が流出してしまったと推定される。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

原因	25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()																																				
	関 連 原 因																																													
	発生原因の状況： 当該配管は2019年の点検にて外面腐食を認めたものであり、FRP補強による漏えいリスク緩和を実施した上で、2025年に配管取替を計画していたものである。腐食が配管サポートに近接しており、構造不連続部でFRP補強に空隙が発生し、空隙部分が海水飛沫の塩害により腐食が進行、開口に至ったと推定される。																																													
	主要原因の詳細																																													
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																				
	腐食			環境			塩分の影響																																							
	関連原因の詳細																																													
因																																														
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																														
27 人的被害								28 物的被害																																						
<table><tr><td>被害内容等</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は職名</td></tr><tr><td>区分</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>当 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>防災活動従事者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 三 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>								被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： A重油が棧橋上から海上約7m四方に流出			
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																								
区分																																														
当 事 者	0	0	0	0																																										
防災活動従事者	0	0	0	0																																										
第 三 者	0	0	0	0																																										
								施設等の被害状況： 14インチ配管に1～3mm程の開口が3か所あり																																						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																														
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： A重油が約2.1L流出																																			
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																				
海上保安部		1 台	0 隻	0 機	2 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																				
その他の機関		1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	30 人																																				
								損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)																																						
30 実施した防災活動の状況																																														
公設消防機関：番号 (99) 調査活動を実施。								自衛防災・消防組織等 番号 (4、6、5) 流出防止措置、回収作業																																						
31 防災活動上の問題点																																														
行政措置	32	施設名					33	定期点検等	消 防 法	そ の 他																																				
	行	使用停止	年 月 日				政	定期・自主点検	令和 5 年 3 月 31 日	年 月 日																																				
		改善命令等	年 月 日					気密試験等	年 月 日	年 月 日																																				
		停止解除	年 月 日					保安検査	年 月 日	年 月 日																																				
		関係条項						34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：																																				
	措	そ の 他	年 月 日																																											
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭																																								
	35		今後の対策 や所見																																											
			・外面腐食環境が厳しい棧橋配管及び構造不連続部でのFRP補強の有効性について社内にて検討。 ・水平展開として、内湾棧橋配管の同状況で使用されているFRP箇所抽出と健全性の確認。																																											

令和5年

1 事故名		No.2トンネルにおけるAD0(軽油)出荷配管からの漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		7月 21日 16時 11分 推定・確定					4 発生見		7月 21日 16時 30分				
5 覚知		7月 21日 16時 51分					6 鎮圧 応急処置完了		7月 21日 19時 19分				
7 鎮火・処理完了		7月 21日 20時 25分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：3.8m/s 気温：31℃ 湿度：61%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、[荷]、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：和歌山県北部臨海南部											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 72,500L 72.5倍											
12 施設装置		倍数の合計：72.5倍 設置の完成：昭和 35年 7月 28日 直近の完成：令和 3年 12月 17日											
名称：海上入出荷施設 番 号 (1401)													
能力：E-1栈橋最大着船能力:70.000t													
13 機 器 等		温度圧力：1.37Mpa											
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		#326(輸出:AD0)タンクより出荷ポンプにてE-1栈橋から出荷時に、流量低下が発生し、直ちに荷役を中断、原因追及と現場確認を実施した所、No.2トンネル内にて油漏えいを発見した。											
規 模：													
14 発生箇所													
名称：その他の附属配管等 番 号 (299)		17 物質の区分											
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(50L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：移送中 番 号 (18)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
作業状況： 番 号 ()													
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： #326(輸出:AD0)タンクより出荷ポンプにてE-1栈橋から出荷時に急に流量低下が発生した。直ちに荷役を中断し、原因追及と現場確認実施した所、No.2トンネル内にて油漏えいを発見した。出荷中のハッチ切替操作不備によって流量急低下/圧力上昇によって、トンネル内の漏水により減肉していた配管下部が穿孔し漏えいしたと推測した。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 腐食疲労等劣化					着火原因					番号 ()				
原因	関 連 原 因 維持管理不十分														
	発生原因の状況：														
	#326(輸出:AD0)タンクより出荷ポンプにてE-1栈橋から出荷時に、流量低下が発生し、直ちに荷役を中断、原因追及と現場確認を実施した所、No.2トンネル内にて油漏えいを発見した。出荷中のハッチ切替操作不備によって流量急低下/圧力上昇によって、トンネル内の漏水により減肉※していた配管下部が穿孔し漏えいしたと推測する。 ※トンネル内の漏水が壁面を伝わり当該配管に飛散していたことが認められ、また、配管下部の近傍に排水溝があり湿潤環境となり易いことで、配管下部で外面腐食が発生していた。当該配管取り外し後の外観目視検査結果より、配管下部に外面減肉を認め、前回検査を実施した令和5年3月から大きな減肉の進行はないものの、大変狭いため完全に錆コブを落とし切れておらず、また目視が困難であったため最小値を捉えられていなかった可能性がある。														
	主要原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）								
	関連原因の詳細														
	設備			監理・保守			点検・整備			確認不足					
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27	人的被害										28 物的被害				
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況：					
										#326(輸出:AD0)タンクより出荷ポンプにてE-1栈橋から出荷時に、流量低下が発生し、直ちに荷役を中断、原因追及と現場確認を実施した所、No.2トンネル内に油漏えいが発生した。漏えい量50L					
	当 事 者		0	0	0	0				施設等の被害状況：					
	防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0				No.2トンネル内AD0出荷配管下部が穿孔し油の漏えいが発生した。油漏えい50L					
第 三 者		0	0	0	0										
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関		4 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	41 人	物質の被害状況：				
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	#326(輸出:AD0)タンクより出荷ポンプにてE-1栈橋から出荷時に、流量低下が発生し、直ちに荷役を中断、原因追及と現場確認を実施した所、No.2トンネル内に油漏えいが発生した。漏えい量50L				
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	2 台	0 隻	0 機	3 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)				
30	実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99)										自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
化学車1台、軽積載車1台、広報車2台で出動し、現場の確認及び警戒配置を実施。 指揮支援隊にあたっては情報収集活動を実施。										防災本部を立ち上げた。また漏えいした油の回収作業を実施した。バルブの縁切り及びバンド当てを実施し、漏えいを停止した。					
31	防災活動上の問題点 覚知から通報まで迅速化が望まれる。														
行政措置	32	施 設 名				33	定 期 点 検 等	消 防 法			そ の 他				
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日			34	定期・自主点検	年 月 日			年 月 日				
		改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日			年 月 日				
		停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日			年 月 日				
		関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無			有・無 内容：					
	そ の 他	年 月 日			年 月 日										
35	今後の対策や所見														
(1)当該配管に対する処置 ・穿孔箇所周辺の当該配管約5.5mの取替を実施した。 ・当該配管の外面腐食発生部5箇所×約6.3mについて、腐食進展防止のため塗装より信頼性の高いFRPを施工した。 ・漏水箇所周辺の当該配管以外の配管についても目視検査を実施し、外面腐食発生部の残肉厚に問題ないことを確認した。 (2)再発防止策 ・当該配管のように場所が狭い箇所においても、確実な肉厚評価を実施するために、体をしっかり狭い所に入れ、錆コブがある場合は錆コブを完全に落とした上で、手鏡や深さゲージ等を使用して最小残肉厚を特定するよう検査手順を見直し、その点について検査員への教育を実施した。 ・一時的に全てのハッチ受入弁が閉止された疑念があったため、当該船舶に対して次の対応を行うことを外航船運行責任者(パスマスター)経由で合意し、7月25日から26日の間で別系統配管により荷役を再開した。 ＜対応＞ ①荷役中のハッチ(油槽)の受入弁操作時は、必ず他ハッチの受入弁を開放してから行うこと。 ②Aハッチの切替え時は、パスマスターもしくは船側安全監督へ事前連絡を実施する。															

令和5年

1 事故名		E-2栈橋行き配管内の滞油回収時における漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		9月 12日 10時 40分				推定・確定		4 発生見		9月 12日 11時 40分			
5 覚知		9月 12日 12時 08分				6 鎮圧 応急処置完了				9月 12日 11時 40分			
7 鎮火・処理完了		9月 12日 17時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西南西 風速：1.6m/s 気温：30℃ 湿度：69%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：和歌山県北部臨海南部											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 8,000,000L 4,000倍											
		倍数の合計：4,000倍											
12 施設装置		名称：海上入出荷施設 番 号 (1401) 能力：E-2栈橋最大着船能力:5,000t											
13 機器等		温度圧力：1.04Mpa											
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規模：E-2栈橋行き重油出荷配管(FCC BTM)港湾エリア陸上配管から重油漏えい、配管内の滞油処理回収作業中にゆるめたフランジ部分から誤って重油約50Lが漏えい。		設置の完成：昭和 33年 5月 28日 直近の完成：令和 3年 12月 21日											
		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(50L)											
14 発生箇所		名称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材質：鋼鉄											
15 発生時		運転状況：停止中 番 号 (5) 作業状況：不定期修理中 番 号 (3)											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： E-2栈橋行き重油出荷配管(FCC BTM)港湾エリア陸上配管から重油漏えい、配管内の滞油処理回収作業中にゆるめていたフランジ部分から誤って重油約50Lが漏えい。 当該配管は前日に滞油回収を実施していたが、配管の低所に残っていた油が2箇所目のフランジ開放作業でエアーを吸い込み配管内の液面に変動を与え、最初に開放していたフランジから滞油が流出し漏えいした。最初に開放していたフランジはその作業の間監視をしていなかった。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 操作確認不十分					着火原因					番号 ()					
原因	関 連 原 因 操作確認不十分															
	発生原因の状況：															
	E-2栈橋行き重油出荷配管(FCC BTM)港湾エリア陸上配管から重油漏えい。作業員は配管内の滞油処理回収作業を行うために関連する弁を閉止し回収する配管に設置されたベン ト弁を開放しエアを吸い込ませながら1か所目の低所フランジをゆるめ油回収を行った。フランジ部からの油回収が止まったのでフランジを緩めたままで、2か所目のフラン ジを緩めるため場所を移動し2箇所目のフランジを開放しそこから油を回収しようとしていた所、1か所目のフランジ部から重油が漏れ出し約50Lが地面に漏えいした。 配管が長く高低差もあるためエア押ししても配管に油が残る可能性があったものの、滞油回収後に開放した1箇所目フランジからの油流出はなく、また配管サイズを誤認 (10Bを8Bと認識)していたことから滞油回収量より十分に回収出来たと誤判断したことから、1箇所目フランジを開放状態のまま監視せずに他の作業に着手した。															
	主要原因の詳細															
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層			
	人				本人の意識				思慮				思い込み			
	関連原因の詳細															
	人				本人の意識				違反(故意)				問題意識の不足			
因																
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27	人的被害										28 物的被害					
区分	被害内容等										被災影響範囲及び拡大の状況：					
	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名					E-2栈橋行き重油出荷配管 M-1栈橋前陸上部で50L 漏えい、海上への漏えいなし					
	当 事 者	0	0	0	0											
	防災活動従事者	0	0	0	0							施設等の被害状況：				
第 三 者	0	0	0	0							E-2栈橋行き重油出荷配管 M-1栈橋前陸上部で地上部に50L 漏えい、海上への漏えいなし					
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	26 人	物質の被害状況： 重油 50L漏えい						
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人							
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人							
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	1 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)						
30	実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99) 広報車1台で出動し、現場の確認を実施。										自衛防災・消防組織等 番号 (5) 事業所は防災本部を立ち上げなかった。漏えいした油の回収作 業を実施した。バルブの縁切り及びフランジ部閉止により、漏 えいは停止した。						
31	防災活動上の問題点 覚知から通報まで迅速化が望まれる。															
32	施 設 名									33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日			
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：					
	そ の 他	年 月 日				年 月 日										
35	今後の対策 や所見				(1)油漏えいに対する対策 配管の設置状況から完全に滞油回収できたか確認出来ない場合、当該開放箇所を離れる際には回収設備と監視者を配置 するか、またはフランジは閉止することとする。本対策を運転マニュアルへ反映し、運転グループ員へ周知教育を行 う。 (2)通報方法の不備に対する対策 通報に関する以下の方針を全従業員へ再周知する。(9月13日の製油所朝会にて周知したが、令和5年度下期従業員 フォーラムにて改めて再教育を実施する。)・所轄消防への通報はホットラインによる通報が基本であること・漏えい量及 び通報要否は現場判断すること・判断出来ず相談する場合は的確な情報を説明すること(控えめな表現としないこと)・迷っ たら通報すること											

令和5年

1 事故名		No.2トンネルにおけるAD0(軽油)出荷配管からの漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		9月 25日 15時 30分				推定・確定		4 発生見		9月 25日 15時 55分			
5 覚知		9月 25日 16時 13分				6 鎮圧 応急処置完了				9月 25日 21時 40分			
7 鎮火・処理完了		9月 28日 16時 20分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西南西 風速：1.7m/s 気温：28℃ 湿度：58%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製 番号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区分：①. 事業所内 (製、貯、[荷]、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 和歌山県北部臨海南部											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 320,000,000L 1,600,000倍											
12 施設装置		倍数の合計： 1,600,000倍 設置の完成：昭和 39年 5月 28日 直近の完成：平成 27年 6月 12日											
名称：海上入出荷施設 番号 (1401)													
能力：0-1栈橋最大着船能力:314,250t													
13 機器等		温度圧力：1.04Mpa											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		原油廃棄配管内で閉塞部分が発生したため移送ポンプを運転して昇圧による貫通作業を実施したところ、圧のかかる範囲内の原油揚荷配管(16B配管(設計板厚7.9mm))から約1,000Lの原油が漏えいした。											
規模：													
14 発生箇所													
名称：その他の附属配管等 番号 (299)		17 物質の区分											
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(1,000L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：移送中 番号 (18)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
作業状況： 番号 ()													
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 原油配管内閉塞部分に移送ポンプを運転して昇圧による貫通作業を実施したところ、圧のかかる範囲内の配管から約1,000Lの原油が漏えいした。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因	維持管理不十分											
	発生原因の状況：												
	原油配管内閉塞部分に移送ポンプを運転して昇圧による貫通作業を実施したところ、圧のかかる範囲内の配管から約1,000Lの原油が漏えいした。当該配管は制約原油(ミナス原油)処理のため平成18年に設置し平成29年まで約11年間使用していた。平成29年に使用終了しそれ以降は内部に原油が滞留した状態(デッドレグ)で保管していた。制約原油(ミナス原油)中に含まれる遊離水、塩化物、硫化物等腐食因子等が流れのない配管最下部周辺に沈降し局所的な腐食が予想以上に進行していたと推定。当日実施した移送配管閉塞確認のための運転操作で当該デッド部にもポンプ圧力がかかり減肉部で漏えいに至ったと推定。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			デポジット腐食(堆積物下腐食、付着物下腐食)						
	関連原因の詳細												
	因	設備		監理・保守				点検・整備				点検していない/不足	
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害								28 物的被害					
区分		被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
		当 事 者		0	0	0	0						
		防災活動従事者		0	0	0	0						
		第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関		3 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	50 人	物質の被害状況： 原油 約1,000L 漏えい		
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関		2 台	0 隻	0 機	4 人	そ の 他	3 台	0 隻	0 機	3 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (8 万円)		
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 化学車1台、軽積載車1台、広報車1台で出動し、現場の確認及び警戒配置を実施。 指揮支援隊にあたっては、情報収集活動を実施。								自衛防災・消防組織等 番号 (5) 防災本部を立ち上げた。また漏えいした油の回収作業を実施した。バルブの縁切り及びパテ埋めを実施し、漏えいを停止した。					
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32 施設名	移送取扱所附属配管				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	令和 5 年 9 月 25 日				年 月 日		年 月 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日		年 月 日		年 月 日			
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ 無		内容：			
	そ の 他	令和 5 年 10 月 3 日				年 月 日							
35 今後の対策や所見													
原因：原油中に含まれる水分等により配管下部で内面腐食が発生し穿孔に至った。 要因：当該配管は平成29年までミナス原油の揚荷配管として使用していたがそれ以降は未使用(デッド)となっていた。 対策：1)当該配管は今後使用予定がないことから無害化工事を実施する。また清掃まで時間を要する場合は肉厚検査を実施し設備の健全性を確認する。2)製造所化以降、再使用する配管で内面腐食が懸念される配管について検査計画を立案する。3)原油滞油部の腐食は低所で局部的に進行することを検査手順書に今回の実例を含め記載し、検査時は水平配管であっても最下部を測定箇所を含めるよう追記する。 3)油漏えい時の回収作業等を円滑に進められるように、所内要領書：流出油事故対策要領を修正・追記する。4)11月1日付の組織変更に伴い一部自衛防災組織の変更を行うが活動に支障をきたさない様に、業務分担を修正した上で、自衛防災隊組織員への教育を行う。													

令和5年

1 事故名		移送取扱所において、海上出荷設備のガスケット締め付け面圧不足により、硫黄が漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		3月 7日 11時 05分	
5 覚知		3月 7日 11時 15分		6 鎮圧 応急処置完了		3月 7日 12時 04分	
7 鎮火・処理完了		3月 7日 12時 04分					
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：晴		風向：西		風速：2m/s 気温：14℃ 湿度：55%	
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番号 (1811)				11 発生場所	
12 施設装置						区分：①. 事業所内 (製、貯、 <u>荷</u> 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：水島臨海地区	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類硫黄 硫黄 7,200,000kg 72,000倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ等 33,600,000L 168,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 12,000,000L 12,000倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 33,600,000L 16,800倍 第4類第4石油類 潤滑油 14,400,000L 2,400倍 倍数の合計：271,200倍	
						設置の完成：昭和 47年 10月 14日 直近の完成：令和 4年 10月 18日	
名称：海上入出荷施設 番号 (1401) 能力：出荷4号栈橋 7,200kg/日		13 機器等		温度圧力：140℃、1.18Mpa		14 発生箇所	
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規模：圧力配管用炭素鋼鋼管STPG370 216.3mm 渦巻きガスケット 厚み4.5mm スチームトレース保温あり		名称：その他の附属配管等 番号 (299) 材質：鋼鉄		15 発生時		17 物質の区分	
運転状況：定常運転中 番号 (1) 作業状況： 番号 ()		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 2月28日に、フランジ部ガスケット交換工事を行い、フランジ面の確認と面間の隙間確認を実施した。異常がないことを確認して、仮保温を施工した。事故当日、硫黄海上出荷開始のための点検時に異常がないことを確認し、硫黄を617kLの出荷を開始した。その後、協力会社員が構内を移動中に当該配管から漏えいを確認し、統合計器室に連絡した。連絡を受けた統合計器室職員は出荷を緊急停止し、119番通報を実施した。							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25 主 原 因 施工不良					着火原因					番号 ()																																											
	関 連 原 因 操作確認不十分																																																					
	発生原因の状況： フランジ座の減肉により、硫黄配管のガスケットを交換した後に、フランジに締め付け不足があったため、ガスケット交換後の実液による漏れ試験で硫黄が漏えい。また、保温材を付けた状態で漏れ試験を目視により行ったため、微量の漏えいの段階での対応ができなかったもの。																																																					
	主原因の詳細																																																					
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																									
	施工不良				施工				ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）																																													
	関連原因の詳細																																																					
	設備				監理・保守				点検・整備				点検内容が不適切																																									
	因																																																					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																						
27 人 的 被 害										28 物的被害																																												
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えい箇所の周囲(1,500mm×200mm、2,500mm×2,000mm)に硫黄が漏えいした。																
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																																
当 事 者	0	0	0	0																																																		
防災活動従事者	0	0	0	0																																																		
第 三 者	0	0	0	0																																																		
										施設等の被害状況： なし																																												
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																						
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>3 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>8 人</td> <td>自 衛</td> <td>2 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>130 人</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>2 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>4 人</td> <td>その他</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> </table>										消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	130 人	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第2類 可燃性固体 硫黄 35kg				
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	130 人																																													
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																													
										損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																																												
30 実施した防災活動の状況																																																						
公設消防機関：番号 (99) ガス検知、警戒待機										自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒待機																																												
31 防災活動上の問題点																																																						
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他																																										
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				年 月 日		年 月 日																																										
	改善命令等	年 月 日				気密試験等				年 月 日		年 月 日																																										
	停止解除	年 月 日				保安検査				年 月 日		年 月 日																																										
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・ <u>無</u> 内容：																																												
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																																
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭																																																						
35 今後の対策 や所見 ガスケット挿入の前後でフランジの隙間寸法を測定し、ガスケットの圧縮量を測定することで、必要な締め付けがなされているか確認する。また、漏れ試験時には保温を取り外し、フランジ面の隙間からの漏えい有無を直接視認して確認することを、チェックリストに明記する。																																																						

1 事故名		移送取扱所における荷役中船舶の甲板上及び海上へ重油が流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		1月 11日 13時 48分				[推定]・確定		4 発生見		1月 11日 13時 48分			
5 覚知		1月 11日 14時 05分				6 鎮圧 応急処置完了				1月 11日 17時 00分			
7 鎮火・処理完了		1月 11日 17時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東 風速：1.7m/s 気温：11℃ 湿度：61%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番号 (1811)		区分：①. 事業所内 (製、貯、[荷]、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 菊間地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 4,000,000L 20,000倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン 4,000,000L 20,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000,000L 4,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 2,000,000L 2,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) キレン 4,000,000L 4,000倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 18,800,000L 9,400倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) その他 3,200,000L 1600倍 第2類硫黄 硫黄 1,170,000kg 11,700倍 倍数の合計： 72,700倍											
12 施設装置		名称：海上入出荷施設 番号 (1401) 能力：500kL/時											
13 機器等		温度圧力：											
名称：貯槽(タンク)		番号 (107)											
規模：容量99.176kL													
14 発生箇所		設置の完成：昭和 46年 11月 1日 直近の完成：令和 4年 10月 13日											
名称：マンホール		番号 (305)											
材質：鋼鉄		17 物質の区分											
15 発生時		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (13L)											
運転状況：荷積中		番号 (12)											
作業状況：運転操作中		番号 (1)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 移送取扱所から船舶に重油の積み込み作業をしていた。船舶の貯槽は4つに分かれており、それぞれの貯槽が配管で接続され、積み込みは各貯槽に送油する切り替えバルブを操作し、貯槽上部のハッチを開放し内部を確認しながら重油の積み込みをする。漏えい時、3槽への充填が完了したので、切り替えバルブを操作し4槽に充填しようとした時に、配管内の空気が3槽に入り吹き上がったため甲板に重油が約13L漏えいした。船舶の甲板には排水口が設けられており、積み込み中は木栓をしていたがしっかり差し込みができていなかったため海上部に約3L漏えいした。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 操作未実施				着火原因				番号 ()			
原 因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 漏えいした貯槽に重油を多く充填していたため、配管内に滞留していた空気が吹き上がり、開放していたハッチから重油が甲板に漏えいし、甲板上の排水口の止水がしっかりとできていなかったため海上部に漏えいした。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	人			本人の意識			思慮			配慮不足		
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人 的 被 害							28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 重油が船舶の甲板に約13L漏えいし、うち約3Lが海上部に漏えい、薄い油膜が事業所から100mを超えて広がった。				
	当 事 者	0	0	0	0							
	防災活動従事者	0	0	0	0							
	第 三 者	0	0	0	0							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 7 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 重油約13L								
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同						0 台 0 隻 0 機 0 人			
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援						0 台 0 隻 0 機 0 人			
	その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他						0 台 6 隻 0 機 79 人			
30	実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動							自衛防災・消防組織等 番号 (5、6) 漏えいが発生した栈橋と船舶の周囲にオイルフェンス及び吸着マットを設定し油膜の拡散防止及び船舶のスクリューで油の拡散作業を行った。					
31	防災活動上の問題点											
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検		年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無 内容：				
	そ の 他	年 月 日										
35	今後の対策や所見 貯槽への油の充填量を多くしないこと。貯槽内を確認する時以外はハッチを常時閉鎖すること及び甲板の排水口の止水を確実にする等手順を徹底すると共に、社内教育をして同種事故防止に努めるよう指導する。											

1 事故名		移送取扱所原油配管からの漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		2月 10日 10時 33分				[推定]・確定		4 発生見		2月 10日 10時 50分			
5 覚知		2月 10日 10時 51分				6 鎮圧 応急処置完了				2月 10日 11時 53分			
7 鎮火・処理完了		2月 10日 12時 16分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：北東 風速：7m/s 気温：7℃ 湿度：84%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区分：①. 事業所内 (製、貯、[荷]、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 菊間地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 89,000,000L 445,000倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 6,400,000L 32,000倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 10,400,000L 52,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000,000L 4,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) ジェット 28,000,000L 28,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 6,000,000L 6,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) キロレン 4,000,000L 4,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) クマリン 3,120L 3.12倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 800,000L 400倍 倍数の合計： 571,403.12倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 49年 9月 26日 直近の完成：令和 4年 12月 26日											
名称：海上入出荷施設 番 号 (1401)		17 物質の区分											
能力：1,000kL/時		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： 原油 (5mL)											
13 機器等		温度圧力：1.7Mpa											
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		18 取扱者の概要											
規模：24B(609.6mm)用フランジ、炭素鋼(SF40A)		経験年数0年											
14 発生箇所		①. 選任有 2. 選任無											
名称：パッキング 番 号 (213)		20 危険物保安監督者											
材質：鋼鉄		①. 選任有 2. 選任無											
15 発生時		3. 不要											
運転状況：定常運転中 番 号 (1)		21 危険物取扱者の取扱・立会い											
作業状況：運転操作中 番 号 (1)		①. 有 2. 無											
19 危険物保安統括管理者		22 設備・機器等の概要：											
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		オンラインファイル無											
23 事故の概要：		24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、10) 無											
事故発生時、船舶からタンクへ原油の揚げ荷作業中であった。その際、原油受け入れに必要な手動バルブを閉鎖させたままオペレーターがポンプを作動させたため、配管内圧が上昇し、移送取扱所附帯配管のフランジから原油が漏えいし、海上へ流出。		装置の緊急停止、その他											

原因	25 主 原 因	操作未実施				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因	操作確認不十分											
	発生原因の状況：	オペレーターは、移送に必要な手動バルブが開放されていると思い込み、タンク手動バルブ開閉を行う担当者へ現場確認依頼をせずにポンプを作動させたところ、締め切り状態となっている配管内に設計圧力を超える内圧がかかり、フランジ部から原油が漏えいしたものの。											
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層	第Ⅱ層			第Ⅲ層				第Ⅳ層				
	人	本人の意識			思慮				思い込み				
	関連原因の詳細												
	人	本人の意識			違反(故意)				怠慢				
因													
26 被害の状況	1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害									28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：					
								海上へ約1㎡の範囲で原油が流出					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：					
第 三 者	0	0	0	0			被害なし						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	原油約5mL			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	4 隻	0 機	130 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5、6)							
調査活動						漏えい発生場所付近の海域にオイルフェンス展張及び海域パトロールの実施							
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				令和 4 年 11 月 30 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				気密試験等				年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				保安検査				年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無				有・無			
	そ の 他	年 月 日								内容：			
35 今後の対策や所見	今回の漏えい発生の原因は、オペレーターによる思い込み及び操作確認未実施によるものである。作業マニュアル等については作成されているため、オペレーターの教育を徹底するよう指導する。												

令和5年

1 事故名		ダイク内にジェット燃料が漏えいした事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		12月 5日 13時 40分	
5 覚 知		12月 5日 13時 52分		6 鎮 壓 応 急 処 置 完 了		12月 5日 13時 52分	
7 鎮火・処理完了		12月 5日 15時 40分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南南東 風速：1.1m/s 気温：10℃ 湿度：83%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：	①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (<u>レイアウト</u> 、第1種、第2種、その他)			区 分：①. 事業所内 (製、貯、 <u>荷</u> 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)			
	業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業			特別防災地区名： 菊間地区			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 8,9000,000L 445,000倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 6,400,000L 32,000倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 10,400,000L 52,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000,000L 4,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) ジェット燃料 28,000,000L 28,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 6,000,000L 6,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) キシレン 4,000,000L 4,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) クマリン 3,120L 3.12倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 800,000L 400倍 倍数の合計： 571,403.12倍			
12 施 設 装 置				設置の完成：昭和 49年 9月 26日 直近の完成：令和 5年 10月 4日			
名 称：海上入出荷施設		番 号 (1401)		17 物 質 の 区 分			
能 力：ジェット燃料28,000kL/日				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： ジェット燃料(800L)			
13 機 器 等		温 度 圧 力：0.3Mpa		18 取扱者の概要			
名 称：フィルター		番 号 (908)					
規 模：直径1,010mm、高さ3,370mm							
14 発 生 箇 所							
名 称：安全弁		番 号 (301)					
材 質：鋼鉄							
15 発 生 時							
運 転 状 況：定常運転中		番 号 (1)					
作 業 状 況：		番 号 ()					
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事故の概要： 令和5年12月5日9時15分から移送取扱所附帯のマイクロフィルターを含む配管からジェット燃料を船舶に運転圧力約0.3MPaの圧力で出荷して、12時50分に出荷を終えていた。令和5年12月5日(火)13時40分頃、従業員が事務所の屋外階段を下りていた時にマイクロフィルターを設置しているダイク(囲い)内に水が溜まっていることを確認した。水を抜きに行ったところ異臭を感じ水だと思っていたものがジェット燃料であることが分かった。漏えい量は約800Lで引き続く漏えいは無かった。上司に報告し上司が消防機関に通報した。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>							

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： マイクロフィルター(FIL-5307)の安全弁を分解開放検査した結果、当該安全弁の弁座に打痕キズを確認した。一方、弁パネ折損等の安全弁の作動不良を示す異常は確認されなかったことから、出荷開始時に瞬間的に圧力が上昇し、安全弁が作動した後、当該安全弁のシート面へのごみの噛み込み等により弁座にキズがつき、安全弁が閉止しなかったことから油が流出し続けたと推定する。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	破損	定常運転時	異常圧力上昇等					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ダイク内にジェット燃料が約800L漏えいした。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 3 人	物質の被害状況： ジェット燃料約800L(全量回収し再処理を行った。)				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) ポンプ車を配備及び調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 大型高所放水車を配備			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名	移送取扱所		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 4 年 11 月 8 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	令和 5 年 12 月 5 日 1. 文書 ②. 口頭	年 月 日 1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見 急激な圧力上昇を防止するためバルブの開閉の手順を見直し同種事故防止に努めるよう指導する。								

令和5年

1 事故名		シーバースの配管が外面腐食により開口し軽油が海上に流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		10月 16日 8時 30分				[推定]・確定		4 発生見		10月 16日 9時 27分	
5 覚知		10月 16日 9時 50分				6 鎮圧 応急処置完了		10月 16日 14時 31分			
7 鎮火・処理完了		10月 16日 16時 52分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北北西 風速：2.7m/s 気温：21.8℃ 湿度：58.3%									
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)				11 発生場所		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、[海上]、その他) 特別防災地区名：大分地区石油コンビナート等特別防災区域 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 36,000,000L 36,000倍 倍数の合計：36,000倍 設置の完成：昭和 44年 4月 25日 直近の完成：令和 2年 8月 12日			
12 施設装置											
名称：海上入出荷施設 番 号 (1401)											
能力：10,000kL/H											
13 機器等											
温度圧力：											
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)											
規模：サイズ8B、元厚5.8mm(加圧・保温なし)											
14 発生箇所											
名称：その他の附属配管等 番 号 (299)											
材質：鋼鉄											
15 発生時											
運転状況：定常運転中 番 号 (1)											
作業状況：運転操作中 番 号 (1)											
18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 協力会社社員がシーバースへ船舶着桟前の巡回点検中に軽油の海上漏えいを発見した。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他											

原因	25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 裸配管がサポート直置きとなっており、接触部の隙間に雨水が浸入し外面腐食が進行した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
人的被害	27 人 的 被 害							28 物的被害		
	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 海上オイルフェンス内に約30㎡の範囲で軽油が漏えいした。（敷地境界から100m以内）	
	当 事 者		0	0	0	0				
	防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 当該配管に1mmΦの開口部が認められた。	
	第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	3 台	1 隻	0 機	30 人	物質の被害状況： 腐食配管（軽油が約7.1L海上漏えい）
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	1 隻	0 機	5 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動							自衛防災・消防組織等 番号 (6、7) 流出防止措置(バンド巻き応急処置)、船舶による拡散、			
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32	施 設 名				33	定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他	
	行	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和 5 年 4 月 20 日	年 月 日		
		改善命令等	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日		
		停止解除	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日		
	措	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ ☐ 無 内容：			
		そ の 他	年 月 日	年 月 日						
35		不具合部の配管取替える（約1m）、全数吊り上げ点検の結果、取替基準肉厚10か所の配管取替える。外面腐食の緩和措置として、全サポート接触部に丸棒を設置する。所見：今回の漏えい箇所は海上に直に流出し環境汚染につながるため今後点検の重要度の見直しや、不良箇所を見つけた際の修繕計画の見直しをする必要がある。								
		今後の対策や所見								

10 一般取扱所

令和5年

1 事故名		一般取扱所(充てん)のローディングアーム先端スイベル部分から、灯油が流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		2月 15日 8時 55分				[推定]・確定		4 発生見		2月 15日 8時 56分			
5 覚知		2月 15日 9時 00分				6 鎮圧 応急処置完了				2月 15日 11時 10分			
7 鎮火・処理完了		2月 15日 11時 10分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：北北西 風速：5.5m/s 気温：-10℃ 湿度：37%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 40,000L 40倍											
12 施設装置		設置の完成： 昭和 54年 10月 26日 直近の完成： 平成 21年 9月 17日 倍数の合計： 40倍											
名称： ローリー充てん施設 番号 (1402)													
能力： 充てん量40,000L/日													
13 機器等		温度圧力：											
名称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606)													
規模： 口径80mm													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称： 逆止弁 番号 (206)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材質： ステンレス		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発生時		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧)											
運転状況： 払出中 番号 (10)		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)											
作業状況： 番号 ()		分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (5L)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 充てんの一般取扱所において、移動タンク貯蔵所に灯油を充てんしようとポンプを起動したところ、ローディングアームの接手上にあるニップルから灯油が流出したもの。人被害等はない。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

令和5年

1 事故名		一般取扱所(ボイラー等消費)において、ボイラーの噴燃ポンプカバーの破損による重油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		4月 18日 10時 30分				[推定]・確定		4 発生見		4月 18日 11時 05分	
5 覚知		4月 18日 14時 48分				6 鎮圧 応急処置完了				4月 18日 17時 00分	
7 鎮火・処理完了		4月 18日 17時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：2.7m/s 気温：11℃ 湿度：33%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 食料品製造業 調味料 番号 (949) 製造業 その他の調味料製造業		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 9,000L 4.5倍									
		倍数の合計： 4.5倍									
12 施設装置		14 発生箇所									
名称：ボイラー施設 番号 (1505)		設置の完成：昭和 56年 7月 20日 直近の完成：令和 3年 3月 22日									
能力：・ボイラー施設 337L/時		17 物質の区分									
13 機器等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(241L)									
名称：ボイラー 番号 (404)		18 取扱者の概要									
規模：幅1,023mm、奥行2,572mm、高さ2,650mm		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要									
14 発生箇所		20 危険物保安監督者									
名称：その他の部品 番号 (499)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要									
材質：鋳鉄		21 危険物取扱者の取扱・立会い									
15 発生時		①. 有 2. 無									
運転状況：定常運転中 番号 (1)											
作業状況： 番号 ()											
19 危険物保安統括管理者		2. 選任有 3. 選任無 ③. 不要									
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 事故発生日朝8時00分より当該一般取扱所である5号ボイラーの立ち上げを行い、稼働開始。その後、11時05分に従業員がボイラー室点検を実施した際に重油臭気を感じ、危険物取扱者へ報告、11時10分に危険物取扱者が現地確認したところ、室内床面に重油の漏えいを確認。直ちにボイラー室内ボイラーの稼働を停止し、事業所作成の漏えい作業マニュアルに準じた漏えい危険物回収作業、ボイラー点検業者、漏えい物回収業者及び消防署へ電話で通報した。鋳物製の噴燃ポンプカバーが破損しておりその部分からの漏えいと判明したものの、破損原因については不明。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25	主 原 因 不明					着火原因					番号 ()				
	関 連 原 因															
	発生原因の状況： ボイラー運転中、鋳物製の噴燃ポンプカバーが破損しその部分から重油が流出したもの。															
	主原因の詳細															
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層			
因	関連原因の詳細															
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																
27 人 的 被 害																
28 物的被害																
被災影響範囲及び拡大の状況： 稼働中のボイラー噴燃ポンプカバーの破損によりその部分から重油が流出した。流出量は241L、流出範囲は施設内に収まっており、外部への流出は無し。																
施設等の被害状況： ボイラー噴燃ポンプカバー破損。																
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																
物質の被害状況： 第4類 第3石油類(非水溶性)A重油 241L流出。																
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)																
30 実施した防災活動の状況																
公設消防機関：番号 (99) 原因調査活動実施																
自衛防災・消防組織等 番号 ()																
31 防災活動上の問題点																
行政措置	32	施設名									33	定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	行	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和4年 5月 30日	年 月 日			
		改善命令等	年 月 日				年 月 日					年 月 日	年 月 日			
		停止解除	年 月 日				年 月 日					年 月 日	年 月 日			
	措	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：				
		そ の 他	年 月 日				年 月 日									
置			1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭									
35		今後の対策 や所見														
		・日常点検の徹底。 ・定期点検の確実な遂行。 ・従業員等関係者へ初動体制の再確認。														

1 事故名		共同住宅等の燃料供給の一般取扱所において、戸別タンクからの灯油の流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		5月 26日 22時 48分				[推定]・確定		4 発生見		5月 26日 22時 48分			
5 覚知		5月 26日 22時 58分				6 鎮圧 応急処置完了				5月 26日 23時 28分			
7 鎮火・処理完了		5月 26日 23時 28分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：東南東 風速：3.1m/s 気温：16℃ 湿度：72%											
10 発生事業所						11 発生場所							
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 分類不能の産業 分類不能の産 番 号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能 の産業						区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
						16 発生施設規制区分等							
						施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍							
						倍数の合計： 3倍							
12 施設装置						設置の完成： 平成 7年 9月 27日 直近の完成： 年 月 日							
名称： その他【分類なし】 番 号 (9999)													
能力： 専用タンク 容量3,000L													
13 機器等 温度圧力：													
名称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)						17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(480L)							
規模： 容積30L、容量27L													
14 発生箇所													
名称： 容器本体 番 号 (108)													
材質： 鋼鉄						18 取扱者の概要							
15 発生時													
運転状況： 定常運転中 番 号 (1)													
作業状況： 番 号 ()													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 当該一般取扱所において、定常運転中に1階戸別タンクの上蓋から灯油が流出しているのを居住者が発見し、その知らせを受けた管理人が119番通報した。流出原因について、当該タンクのボールタップの不具合等の推定原因を考察及び検証するも、確証が得られず原因不明。到着した消防隊及び管理会社の社員により、送油バルブを閉止し、緊急停止装置を作動させ、バケツ及び吸着マットを使用し、応急措置を実施した。合計流出量は約480L。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25	主 原 因 不 明				着火原因				番号 ()																																				
	関 連 原 因																																													
	発生原因の状況： 流出事故については、最上階付近に中継タンクを設け、落差にて各階戸別タンクへと供給する共同住宅等の燃料供給施設において、その1階に設置された戸別タンクから、灯油が漏えいしたものである。当該戸別タンクのボールタップの不具合等の推定原因について、事故発生後に考察及び検証するも、確証が得られず原因不明と判断したもの。																																													
	主原因の詳細																																													
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																				
	関連原因の詳細																																													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																														
27 人 的 被 害								28 物的被害																																						
<table><tr><td>被害内容等</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は職名</td></tr><tr><td>区分</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>当 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>防災活動従事者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 三 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>								被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 施設のパイプシャフト内及び共用部へ灯油が約480Lが流出			
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																								
区分																																														
当 事 者	0	0	0	0																																										
防災活動従事者	0	0	0	0																																										
第 三 者	0	0	0	0																																										
								施設等の被害状況： なし																																						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																														
消 防 機 関		3 台 0 隻 0 機 13 人				自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 約480L流出																																				
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人				共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人																																						
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人				応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人																																						
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人				その他		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 1万円未満、 1万円以上 (5 万円)																																				
30 実施した防災活動の状況																																														
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、流出油処理								自衛防災・消防組織等 番号 ()																																						
31 防災活動上の問題点																																														
行政措置	32	施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他																																			
	行	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 4 月 28 日		年 月 日																																			
		改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和 5 年 4 月 28 日		年 月 日																																			
		停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日																																			
	措	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ 無 内容：																																					
		そ の 他	年 月 日		年 月 日																																									
35		今後の対策や所見 ・居住者や管理人に対し、事故発生時の応急措置及び関係機関への通報の必要性について指導した。																																												

1 事 故 名		共同住宅等の燃料供給の一般取扱所において、地下埋設配管から灯油の流出							
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		6月 15日 9時 45分			
5 覚 知		6月 15日 9時 54分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		6月 15日 9時 50分			
7 鎮火・処理完了		6月 15日 9時 50分							
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()							
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：東南東 風速：3.9m/s 気温：23℃ 湿度：68%							
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 分類不能の産業 分類不能の産 番 号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能 の産業				11 発 生 場 所		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,900L 4.9倍 倍数の合計： 4.9倍 設 置 の 完 成： 平成 元年 11月 9日 直 近 の 完 成： 令和 3年 10月 25日	
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分			
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)						①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
能 力： 専用タンク 容量4,900L						5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
13 機 器 等						温度圧力：			
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)							
規 模： 25A 鋼管		(低温、常温 [0-40℃]、高温)							
14 発 生 箇 所		分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油		18 取扱者の概要					
名 称： 給油管等 番 号 (907)		材 質： 鋼鉄		19 危険物保安統括管理者		20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い	
15 発 生 時		運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		作業状況： 番 号 ()		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要：		当該事故は、共同住宅等の燃料供給の一般取扱所にて、地下埋設配管の取替工事中、工事関係者が地下埋設配管から灯油が流出しているのを発見し、消防署へ通報したもの。埋設配管の劣化によりピンホールが発生し灯油が流出したもので、流出量については不明である。							
24 緊急処置の状況		有 番号 () 無							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 埋設配管の長期間使用に伴う劣化により発生したピンホールからの灯油漏えい							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内の土中に灯油が漏えい
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 灯油の漏えい(流出量不明)				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
情報収集								
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年 7月 31日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和4年 7月 31日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策や所見		原因調査中であり、消防機関により精査中						

1 事故名		一般取扱所の配管の腐食による重油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		8月 28日 4時 30分	
5 覚知		8月 28日 11時 08分		6 鎮圧 応急処置完了		8月 28日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了		9月 6日 9時 30分					
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：晴 風向：北西 風速：4.4m/s 気温：26.9℃ 湿度：83%					
10 発生事業所		種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 パルプ・紙・紙加工品製 番 号 (1521) 造業 紙製造業 洋紙製造業		11 発生場所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 160,900L 80.45倍 第4類第4石油類 潤滑油 14,700L 2.45倍 倍数の合計： 82.9倍 設置の完成：昭和 52年 9月 6日 直近の完成：令和 5年 7月 25日	
12 施設装置				17 物質の区分			
名称：ボイラー施設 番 号 (1505)				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
能力：ボイラー6基 52.7kL/日				5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
13 機器等 温度圧力：				(固相、液相、気相) (常圧、加圧)			
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		(低温、常温 [0-40℃]、高温)					
規模：配管直径125A		分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(20L)					
14 発生箇所		18 取扱者の概要		19 危険物保安統括管理者		20 危険物保安監督者	
名称：その他の附属配管等 番 号 (299)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
材質：鋼鉄							
15 発生時							
運転状況：定常運転中 番 号 (1)							
作業状況：運転操作中 番 号 (1)							
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル有					
23 事故の概要：		屋外タンク貯蔵所から一般取扱所の供給配管において重油の流出があったもの。流出箇所にあつては、加温設備の内部へ雨水が流出したことにより配管が腐食したものと思料される。流出時は、生産ラインの調整でボイラーの稼働を停止、ポンプは稼働している状態であった。配管内の圧力については通常使用の範囲内であったもの。流出については、施設内のケーブル配線のビット内であったため、土壌や河川等への流出はなし。流出量については約20L。なお、吸着マットを使用し応急措置を実施した。 配管は保温材で覆われているため目視で確認できず、保温材を撤去し流出範囲を確認したもの。					
24 緊急処置の状況		[有] 番号 (10) 無 その他					

原因	25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 加温設備内に雨水が入り配管を腐食させたもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地外及び河川等への流出はなし。					
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： ピンホールのあった配管及び周囲の保温材					
防災活動従事者		0	0	0	0								
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 重油約20L 損害額 1万円未満、 1万円以上 (61 万円)					
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻					0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻					0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻					0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻					0 機	0 人
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 情報収集及び調査活動								自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32	施設名							33	定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	行	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和 5 年 4 月 21 日	年 月 日		
		改善命令等	年 月 日			年 月 日				年 月 日	年 月 日		
		停止解除	年 月 日			年 月 日				年 月 日	年 月 日		
	措	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
		そ の 他	年 月 日			年 月 日							
置		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭								
35		今後の対策 や所見	流出した箇所と同様の雨水がたまりやすい経路を調査したところ、施設内に4カ所あり、保温材を撤去し確認する予定。 保温材の箇所の定期点検の方法について検討し、流出危険のある箇所をランク付けし、定期点検を実施する。										

令和5年

1 事故名		共同住宅ポンプ室内における灯油の漏えい事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		9月 18日 15時 57分					
5 覚 知		9月 18日 16時 36分		6 鎮 壓 応 急 処 置 完 了		9月 18日 17時 25分					
7 鎮火・処理完了		9月 18日 17時 25分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南西 風速：3m/s 気温：26℃ 湿度：77%									
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：0 番 号 (99)				11 発 生 場 所					
12 施 設 装 置						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：					
						16 発生施設規制区分等					
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍					
						倍数の合計：10倍					
14 発 生 箇 所		設置の完成：平成 11年 11月 4日 直近の完成：平成 11年 11月 4日		17 物 質 の 区 分							
13 機 器 等		温度圧力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (151L)							
15 発 生 時		運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		18 取扱者の概要							
作業状況：		番 号 ()									
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事故の概要： 共同住宅の居住者から灯油の臭いがすると灯油業者に連絡があり、業者が確認したところ、中継タンクからの漏油を発見し消防に通報したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原因	25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 経年劣化によるもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 被災影響なし。					
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 中継ポンプの油量計接続部から漏油したもの。					
防災活動従事者		0	0	0	0								
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 灯油約151Lが流出した。 損害額 1万円未満、 1万円以上 (8 万円)					
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻					0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻					0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻					0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻					0 機	0 人
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (5) 流出した油を油吸着マットで回収する。								自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点													
32 行政措置 置	施設名					33 定期点検等				消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				令和 5 年 7 月 22 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等				令和 4 年 12 月 22 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保安検査				年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日											
35 今後の対策 や所見		設置から20年以上経過しているため、今後も経年劣化による各部位からの漏油が起り得る。劣化が顕著な部位は早急に交換等を実施することが望ましい。											

令和5年

1 事故名		刈払機で一般取扱所の灯油配管を破損させ、灯油が流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		9月 18日 11時 50分				[推定]・確定		4 発生見		9月 19日 19時 35分			
5 覚知		9月 19日 21時 02分				6 鎮圧 応急処置完了				9月 19日 21時 00分			
7 鎮火・処理完了		9月 19日 22時 35分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：南南西 風速：1.3m/s 気温：19℃ 湿度：71%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 運輸に附帯するサービス業 運輸施設提供業 道路運送固定施設業 番号 (4852)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 7年 6月 23日 直近の完成：平成 23年 1月 27日 倍数の合計：3倍											
名称：ボイラー施設 番号 (1505)													
能力：消費量 930L/時													
13 機器等		温度圧力：											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)													
規模：直径 40mm													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：その他の附属配管等 番号 (299)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材質：その他		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発生時		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧)											
運転状況：定常運転中 番号 (1)		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)											
作業状況：運転操作中 番号 (1)		分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (1,400L)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 草刈作業をしていた作業員が、誤って刈払機の刃を接触させ灯油配管が破損し、灯油約1,400Lを流出したもの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因 破 損					着火原因					番号 ()				
	関 連 原 因 操作確認不十分														
	発生原因の状況： 令和5年9月18日10時から12時の間、建物北側を草刈作業しており、サービスタンクから同一敷地内にある別建物内の暖房機器に繋がる灯油配管に誤って刈払機の刃を接触させ、配管に亀裂が入ったもの。 作業員は亀裂に気付いておらず、亀裂の入った配管を放置した状態でその場を離れた。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	破損			定常運転時			物質の落下・ぶつかりによる破損								
	関連原因の詳細														
	人		本人の意識			思慮			不注意						
因															
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人 的 被 害										28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油によって、敷地内の土壌及び雨水樹内が汚染された。							
当 事 者		0	0	0	0										
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： サービスタンクから暖房機器までの灯油配管に亀裂が入った。							
第 三 者		0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 1,400L流出											
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人												
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人												
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (1,400 万円)											
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (4、3) 消防隊により、周囲側溝及び河川への流出状況調査、サービスタンクから破損した屋外露出配管への仕切弁を閉鎖する。また、亀裂箇所吸着マットを設置し拡散防止措置を実施する。										自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 事業所職員により、サービスタンクのオイルポンプの停止、周囲側溝及び河川への流出状況調査及び漏えい箇所付近に中和剤(アースガイアクリン溶液100L)の散布を実施する。					
31 防災活動上の問題点 危険物漏えいを発見してから消防署への通報までに約1時間30分要しており、早期に通報すべきであった。															
行政措置	32 施設名							33 定期点検等	消 防 法			そ の 他			
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 5 年 7 月 5 日			年 月 日			
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	令和 5 年 7 月 5 日			年 月 日			
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日			年 月 日			
	関係条項							34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無 内容：						
	そ の 他	年 月 日			年 月 日										
35 今後の対策や所見		事故発生原因として、草刈作業の実施者は、灯油配管を認識しないまま作業をしており、刈払機で配管に接触し亀裂を入れたことも認識していなかった。作業前に作業する範囲にある危険物質等を把握し、作業する全てのものに周知し安全管理の徹底を図る。													

1 事故名		一般取扱所内の第2再生溶剤取扱設備にて液張り作業中満液に気づかず漏えい										
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()										
3 発生		10月	20日	14時	15分	推定・ 確定		4 発生見	10月	20日	14時	20分
5 覚知		10月	20日	14時	50分			6 鎮圧 応急処置完了	10月	20日	15時	00分
7 鎮火・処理完了		10月	20日	15時	00分							
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()										
9 気象状況		天気：雨 風向：東北東 風速：2.4m/s 気温：11.1℃ 湿度：95%										
10 発生事業所		11 発生場所										
種別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 第2種 、その他) 業態：サービス業(他に分類されない番号(8599)もの) 廃棄物処理業 その他の 廃棄物処理業 他に分類されない 廃棄物処理業	区分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：室蘭地区											
	16 発生施設規制区分等											
	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) PCB 121,400L 60.7倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 洗浄溶剤 331,740L 165.87倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) スラバ油 25,320L 12.66倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 金属ナリウム 58,570L 29.29倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 4,000L 2倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 熱媒油 69,600L 34.8倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) トリクロロベンゼン 8,300L 4.15倍 第4類アルコール類 イソプロピルアルコール 4,200L 10.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 処理剤油 131,970L 131.97倍 第4類第4石油類 油圧オイル 4,769L 0.79倍 倍数の合計：452.73倍											
12 施設装置		設置の完成：平成19年5月28日 直近の完成：令和5年10月19日										
名称：その他【分類なし】		番号(9999)										
能力：												
13 機器等		温度圧力：										
名称：蒸留、精留塔(スタビライザー、ストリップバー)		番号(101)										
規模：79L												
14 発生箇所		17 物質の区分										
名称：給油(注油)ホース		番号(908)										
材質：ゴム		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：洗浄溶剤(12.8L)										
15 発生時		18 取扱者の概要										
運転状況：停止中		番号(5)										
作業状況：充填中		番号(12)										
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無												
23 事故の概要： 定期点検後の設備立ち上げのため、個液分離器及び連結したオートストレーナーの液張り作業を実施していた。オートストレーナーのバントにエア抜き用のブレードホースを接続し、ブレードホース出側はポリタンクで液受けとしていた。送液作業時にオートストレーナーが満液となりブレードホースを通じてポリタンクも満液となったことから、ホースが外れホースから床に第2再生溶剤が漏えいした。漏えい範囲は周囲2㎡、漏えい量は12.8Lであった。吸着マット及びキムタオルでの回収、拭き取りを実施。死傷者は無し。												
24 緊急処置の状況 有 番号(1) 無 装置の緊急停止												

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 作業員2名、作業監督者1名で作業を実施していた。直前にも別場所で同様の作業を実施していたが、作業監督者は作業員2名に対し作業方法及び注意点等について十分に認識させなかった。直前に同様の作業を行ったことで、作業員2名に任せても大丈夫だと思いい作業監督者は監視から離れた。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の知識・能力	知識	知識不足				
	管理	監督	監視	監視が実施されない/不足				
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 第2再生溶剤取扱設備の周囲2㎡
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第2再生溶剤(洗浄溶剤)の漏えい				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
28 物的被害								
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
事故原因調査活動								
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 10 月 20 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	内容：				
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策や所見								
作業方法の見直し及びOJT教育用教材の作成、OJT教育の実施、現場指揮監督者の能力向上教育								

1 事故名		共同住宅等の燃料供給施設の一般取扱所において、返油管から戸別タンクへ灯油が逆流し流出した事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		10月 19日 13時 00分				[推定]・確定		4 発生見		10月 19日 13時 30分	
5 覚知		10月 26日 10時 30分				6 鎮圧 応急処置完了				10月 19日 13時 35分	
7 鎮火・処理完了		10月 26日 11時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：南東 風速：3.3m/s 気温：17℃ 湿度：88%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：分類不能の産業 分類不能の産番号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能の産業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 7,000L 7倍									
12 施設装置		設置の完成：昭和 58年 11月 8日 直近の完成：平成 7年 12月 5日									
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)											
能力：専用タンク 容量7,000L											
13 機器等		温度圧力：									
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)		倍数の合計：7倍									
規模：容量 15L											
14 発生箇所											
名称：容器本体 番号 (108)		17 物質の区分									
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (10L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：その他 番号 (99)		経験年数3年									
作業状況：充填中 番号 (12)											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： マンションの一室でストーブが点かない事象が発生し、連絡を受けた業者が調べたところ、戸別タンク及び中継タンクが空になっていた。送油ポンプが稼働していなかったため、同業者が試験運転に切り替え、連続的に中継タンクに送油した。中継タンクの液量を確認せず送油し続けた結果、中継タンクから多量の灯油が返油管へ流れ込み、返油管から戸別タンクへ逆流し、施設内計8か所の戸別タンクから灯油計10Lが流出した。直ちにポンプの送油を停止し、流出した灯油の処理を実施した。その後の調査で、事故前にポンプが稼働していなかった原因は、令和5年10月10日に当該ポンプ機能を含む動力制御盤の取替工事誤結線であることが判明した。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 業者が送油ポンプの設定を試験運転に切り替え、連続的に中継タンクに送油した。中継タンクの液量を確認せず送油し続けた結果、中継タンクから多量の灯油が返油管へ流れ込み、専用タンクへ戻りきらなかった灯油が戸別タンクへ逆流し、施設内計8か所の戸別タンクから灯油が流出した。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	制度	規則・手順	内容・周知	周知不足				
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 戸別タンク8か所から飛散し、当該戸別タンク室前の共用部に流出した。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 灯油計10Lが流出した。				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 4 年 10 月 19 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 4 年 10 月 19 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 法第13条第3項 製造所等における危険物取扱者以外の者の危険物の取扱い 法第16条の3第2項 事故発生時の通報義務違反			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見	工事業者及び危険物施設の管理者に対し、下記事項を指導した。 ・ポンプを「手動」で送油する場合は、中継タンク液量の確認を徹底すること。 ・危険物施設における危険物の取扱いは、危険物取扱者の資格を有する者が実施すること。 ・事故発生時は直ちに通報すること。							

令和5年

1 事故名		一般取扱所からバージ船積込時、船上及び海上へのA重油流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		10月 27日 11時 13分 推定・ 確定					4 発生見		10月 27日 11時 13分				
5 覚知		10月 27日 11時 35分					6 鎮圧 応急処置完了		10月 27日 11時 40分				
7 鎮火・処理完了		10月 27日 11時 40分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西北西 風速：0.9m/s 気温：12.6℃ 湿度：97.4%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、 海上 、その他) 特別防災地区名：釧路											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 1,400,000L 700倍 第4類第4石油類 潤滑油 3,000L 0.5倍											
12 施設装置		倍数の合計：700.5倍											
名称：海上入出荷施設 番号 (1401)													
能力：													
13 機器等		温度圧力：0.4Mpa											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)													
規模：配管径6B 全長約860m													
14 発生箇所		設置の完成：昭和 52年 12月 7日 直近の完成：令和 5年 8月 25日											
名称：給油管等 番号 (907)		17 物質の区分											
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(8L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：荷積中 番号 (12)		経験年数5年											
作業状況：充填中 番号 (12)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 一般取扱所(海上出荷設備)からバージ船へA重油の積込作業開始直後、船側受入配管フランジ部分からA重油が流出したもの。送油を緊急停止したが、海上に3L、船上に5Lの合計8Lが流出した。直ちに吸着マット等により緊急措置作業を行うとともに、流出拡大防止処置のためオイルフェンス展張及び海上保安庁、消防への通報を行った。死傷者は無し。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他													

原因	25	主 原 因		操作未実施		着火原因		番号 ()																									
	関 連 原 因																																
	発生原因の状況： 上司から部下へバルブを開く操作を指示したが、伝わっておらず操作を未実施のまま送油を開始した。また、弁の開閉状況がバルブの停止位置から判断できる構造ではない。そのため、開閉状態が外観で視認できず、誰も気が付くことができなかった。																																
	主原因の詳細																																
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層																										
	設備		設計		マン・マシンインターフェース		その他																										
	人		本人の意識		思慮		思い込み																										
	管理		組織		コミュニケーション		重要情報が伝達されない																										
	関連原因の詳細																																
	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																																
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																	
27 人 的 被 害							28 物的被害																										
<table><tr><td rowspan="2">区分</td><td>被害内容等</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は職名</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>							区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名								被災影響範囲及び拡大の状況： 流出範囲は危険物施設から10m以内程度で船上と海上。海上はオイルフェンスを展開したため、広範囲への流出には至らず。											
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因		職業又は職名																									
当 事 者 0 0 0 0																																	
防 災 活 動 従 事 者 0 0 0 0																																	
第 三 者 0 0 0 0							施設等の被害状況： A重油8Lの流出。(船上に5L、海上に3L)																										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																	
消 防 機 関		1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 6 人	物質の被害状況： A重油8L(1L単価 100円)																												
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人																													
海上保安部		3 台 0 隻 0 機 10 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人																													
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	1 台 1 隻 0 機 10 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (1 万円)																												
30 実施した防災活動の状況																																	
公設消防機関：番号 (99) 情報収集作業							自衛防災・消防組織等 番号 (4、6、7) オイルフェンスの展張、油回収(海上)																										
31 防災活動上の問題点																																	
行政措置	32	施 設 名			33	定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他																									
	行	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 10 月 30 日	令和 5 年 5 月 30 日																										
		改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日																									
		停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日																									
	措	関係条項			34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：																										
		そ の 他	年 月 日	年 月 日																													
35		今後の対策 や所見																															
		弁の開閉状態がバルブの停止位置等で視認できるものへの交換や、指示伝達系統及び伝達状況の確認方法の見直しが必要である。																															

令和5年

1 事 故 名		固定注油設備から移動貯蔵タンクへの注油中の流出事故											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		11月 26日 11時 20分				推定・確定		4 発 見		11月 26日 11時 22分			
5 覚 知		11月 26日 11時 30分				6 鎮 圧 応急処置完了				11月 26日 11時 40分			
7 鎮火・処理完了		11月 26日 11時 40分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 西南西 風速： 5.9m/s 気温： 1℃ 湿度： 43%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソ リンスタンドを除く)		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,600L 9.6倍											
12 施 設 装 置		設置の完成： 昭和 47年 11月 11日 直近の完成： 平成 25年 3月 25日 倍数の合計： 9.6倍											
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)													
能 力： 一般取扱所灯油 9,600L													
13 機 器 等		温度圧力：											
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)													
規 模： 寸法 1,490H 914W 530D使用最大流量 180L/minノズル35 mm二重弁付オートノズル専用タンク 灯油 9,600L													
14 発 生 箇 所		17 物 質 の 区 分											
名 称： タンクの注入口 番 号 (905)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材 質： 鋼鉄		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発 生 時		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)											
運 転 状 況： 荷積中 番 号 (12)		(低温、常温 [0-40℃]、高温)											
作 業 状 況： その他 番 号 (99)		分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (71.3L)											
		18 取扱者の概要 経験年数20年											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 固定注油設備から灯油を移動貯蔵タンクへ注油するため、タンク上部の第2室のマンホールの蓋で注油ノズルを固定し、手動開閉装置を開放状態で作業員がその場を離れていたところ、過剰注油となり地盤面に流出する。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

原因	25	主 原 因		監視不十分		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因		故障、不明						
	発生原因の状況：								
	固定注油設備から灯油を移動貯蔵タンクへ注油するため、タンク上部の第2室のマンホールの蓋で注油ノズルを固定し、手動開閉装置を開放状態で作業員がその場を離れていたところ、注油ノズルの満量停止装置が故障していたため、移動貯蔵タンクが満量になっても注油が停止されることがなく、過剰注油となり地盤面に流出する。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	人		本人の意識		違反(故意)		問題意識の不足		
因	関連原因の詳細								
	故障		機能		機器の機能の停止				
26 被害の状況		1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症	
区分		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況：			
当 事 者		0		0		0		0	
防 災 活 動 従 事 者		0		0		0		0	
第 三 者		0		0		0		0	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関		1 台		0 隻		0 機		2 人	
消 防 団		0 台		0 隻		0 機		0 人	
海上保安部		0 台		0 隻		0 機		0 人	
その他の機関		0 台		0 隻		0 機		0 人	
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()			
原因調査活動実施									
31 防災活動上の問題点									
行政措置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 3 月 10 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和 3 年 11 月 25 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保 安 検 査		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無	
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				内容：	
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						危政令第31条(法第10条第3項)違反 危険物取扱者の責務違反(貯蔵及び取扱いの基準違反) 消防法第12条第1項違反 製造所等の位置、構造及び設備の技術上の基準維持義務違反	
35 今後の対策や所見		注意書の発行。機器修繕を含めた再発防止を指導する。							

令和5年

1 事 故 名		固定注油設備のノズルが解放状態で地面に放置され灯油が流出した事故									
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		12月 1日 12時 30分				[推定]・確定		4 発 見		12月 1日 12時 45分	
5 覚 知		12月 1日 13時 06分				6 鎮 圧 応急処置完了		12月 1日 13時 20分			
7 鎮火・処理完了		12月 1日 13時 30分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：曇 風向： 西北西 風速： 3m/s 気温： -1℃ 湿度：									
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所									
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソ リンスタンドを除く)		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,500L 9.5倍									
12 施 設 装 置		17 物 質 の 区 分									
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)		設置の完成： 昭和 45年 10月 26日 直近の完成： 平成 22年 7月 13日 倍数の合計： 9.5倍									
能 力： 一般取扱所灯油 9,500L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (1,000L)									
13 機 器 等		18 取扱者の概要									
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
規 模： 寸法 1,400H 740W 470D使用最大流量 85L/min専 用タンク 灯油 9,500L		21 危険物取扱者の の取扱・立会い									
14 発 生 箇 所		1. 有 2. 無									
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)											
材 質： アルミニウム											
15 発 生 時											
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)											
作 業 状 況： その他 番 号 (99)											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		1. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 固定注油設備が設置された一般取扱所を無施錠で無人状態としている間に、何者かが侵入しラッチオープンノズルを開放状態で地面に置き立ち去り、町道及び隣接敷地内の約126㎡の範囲に約1,000L灯油が流出した。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 悪戯						着火原因				番号 ()	
	関 連 原 因 維持管理不十分											
	発生原因の状況： 固定注油設備の設置された一般取扱所を無施錠で無人状態としている間に、何者かが侵入しノズルを開放状態で地面に置き立ち去り灯油が流出した。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	悪戯			環境			容易に侵入可能					
	関連原因の詳細											
	制度		規則・手順		内容・周知				規則・手順がない/文書化されない			
因												
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人 的 被 害								28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油が施設敷地内及び隣接敷地、道路に貯留する。				
区分												
当 事 者	0	0	0	0								
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0								
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 流出した灯油が施設敷地内及び溜枳に貯留する。				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) 灯油 1,000L流出								
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人									
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人									
その他の機関	2 台 0 隻 0 機 3 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人									
30 実施した防災活動の状況								損害額 1万円未満、 1万円以上 (200 万円)				
公設消防機関：番号 (99) 原因調査活動実施								自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点												
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 5 年 3 月 10 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	令和 3 年 11 月 25 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有 ・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反					
	そ の 他	年 月 日		年 月 日								
35 今後の対策 や所見		口頭指導。監視の実施、施錠を含めた再発防止を指導する。										

令和5年

1 事故名		一般取扱所(充てん)施設からの灯油漏えい事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		2月 10日 14時 35分	
5 覚知		2月 10日 14時 40分		6 鎮圧 応急処置完了		2月 10日 16時 36分	
7 鎮火・処理完了		2月 10日 17時 30分					
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：曇 風向：東 風速：1.1m/s 気温：0.1℃ 湿度：66.9%					
10 発生事業所		種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)				11 発生場所	
12 施設装置						区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 30,000L 30倍	
						倍数の合計：30倍	
14 発生箇所		設置の完成：昭和 62年 10月 2日 直近の完成：平成 25年 7月 12日					
13 機器等		温度圧力：		17 物質の区分			
名称：ローリー充てん施設 番号 (1402) 能力：		名称：充てん機 番号 (901) 規模：30,000L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油			
				18 取扱者の概要			
				19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事故の概要： 一般取扱所(充てん)施設の油分離槽内のコンクリート部分のクラックによる灯油漏えい事故。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因								
	発生原因の状況： 分離槽内のコンクリート部分のクラックによるもの。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人 的 被 害							28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 側溝から流出したであろう灯油が、側溝伝いに流れたと思われる。近隣側溝及び河川に油膜は確認されたが、すべて吸い上げた。	
区分									
当 事 者	0	0	0	0					
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 分離槽内のコンクリート部分のクラック	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 13 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人						
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人						
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	1 台 0 隻 0 機 3 人						
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (6、3、4) オイルフェンスの展張、流出防止措置						自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点									
32 施 設 名					33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保 安 検 査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無 内容： 定期点検未実施	
	そ の 他	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策や所見		クラック補修済み。							

令和5年

1 事故名		一般取扱所において、屋内配管継手部分のメンテナンス中における潤滑油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		10月 26日 13時 47分				推定・ 確定		4 発生見		10月 26日 13時 47分	
5 覚知		10月 26日 14時 25分				6 鎮圧 応急処置完了		10月 26日 15時 00分			
7 鎮火・処理完了		11月 7日 11時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北 風速：3.9m/s 気温：20.5℃ 湿度：47%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 電番号 (3311) 気業 電気業 発電所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 潤滑油 17,450L 2.91倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 52,000L 26倍									
12 施設装置		倍数の合計：28.91倍									
名称：発電装置 番号 (4101)											
能力：											
13 機器等		温度圧力：14.6Mpa									
名称：タービン 番号 (504)		設置の完成：令和4年10月18日 直近の完成：令和4年10月18日									
規模：架台EL+6.01m高さ7.003m幅25.2m											
14 発生箇所											
名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201)		17 物質の区分									
材質：ステンレス		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：潤滑油(300L)									
15 発生時		18 取扱者の概要 経験年数4年									
運転状況：試運転中 番号 (14)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無									
作業状況：不定期修理中 番号 (3)											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事故の概要： アクチュエーターに制御油(潤滑油)を供給する油圧配管継手部に油のにじみが発生していたため、漏れ補修作業を実施するために継手部分のナットを緩めたところ、油圧配管内が脱圧されておらず高圧(14.6MPa)の潤滑油が噴出し、タービン建屋内に潤滑油約300Lが漏えいした。なお、吸着マットを使用し、潤滑油の回収及び拡大防止措置を実施した。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他											

25	主 原 因 操作確認不十分					着火原因					番号 ()				
原 因	関 連 原 因														
	発生原因の状況： 油圧配管継手部の補修作業開始前に現場監督者の誤認識により、油圧配管の脱圧を別系統の圧力計にて確認したため、制御油ポンプを停止せず脱圧されていない油圧配管の補修作業を開始したことにより発生したもの。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層		
	管理				監督				監視				監視が実施されない/不足		
	関連原因の詳細														
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27	人 的 被 害										28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 油圧配管継手部から噴出した潤滑油300Lがタービン建屋内の天井部、設備類へ飛散及び地盤面(RC)へ漏えいした							
	当 事 者	0	0	0	0										
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 低圧タービン車室本体及び附属配管の保温材11m ³							
	第 三 者	0	0	0	0										
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類 潤滑油 300L流出					
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人						
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	4 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人						
30	実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99) 消防機関発着時に漏えいした潤滑油の拡大防止措置が完了し回収作業を実施していたため、保温材を含めた潤滑油の完全回収及び機器の点検を指示した。										自衛防災・消防組織等 番号 (5、4) 中央操作室にて制御油ポンプの停止、吸着マットによるタービン建屋からの拡大防止措置及び潤滑油の回収作業を実施。					
31	防災活動上の問題点 予防規程内において消防機関への通報は発見者が行うこととされていたが、保安監督者への連絡が事故発生から23分後となっており、連絡を受けた保安監督者が被害状況の確認及び従業員への対応指示を行った後に消防機関への通報となったため、事故発生から通報までに時間を要した。														
32	施 設 名	一般取扱所				33 定 期 点 検 等					消 防 法		そ の 他		
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日				定期・自主点検					令和 5 年 8 月 16 日		令和 5 年 10 月 26 日	
		改善命令等	年 月 日				気密試験等					年 月 日		年 月 日	
		停止解除	年 月 日				保 安 検 査					年 月 日		年 月 日	
		関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無					有・無 内容：			
	そ の 他	令和 5 年 10 月 26 日				年 月 日									
35	今後の対策 や所見 今回の流出事故は危険物施設のメンテナンス中に作業手順の不適により発生したものであり、覚知後に現場確認したところ、漏えいした潤滑油の拡大防止措置が適正に行われていたため、被害はタービン建屋内で収まっていた。今後、同様の事故を防ぐため、再発防止策に示された作業体制の確立及び作業手順の確認を徹底、予防規程に基づく緊急時の連絡体制の周知及び今回の事故を教訓とした教育・訓練を実施するよう事業者へ指導した。														

令和5年

1 事故名		屋外タンク貯蔵所から一般取扱所(ボイラー)に供給される配管の腐食による重油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		12月 5日 7時 00分				[推定]・確定		4 発生見		12月 5日 10時 00分	
5 覚知		12月 5日 10時 30分				6 鎮圧 応急処置完了				12月 5日 11時 30分	
7 鎮火・処理完了		12月 5日 15時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：0m/s 気温：1℃ 湿度：92%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 製造業 飲料・たばこ・飼料製造 番 号 (1011) 業 清涼飲料製造業 清涼飲料 製造業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 10,350L 5.18倍									
12 施設装置		設置の完成： 平成 24年 6月 25日 直近の完成： 年 月 日									
名称： ボイラー施設 番 号 (1505)											
能力： ボイラー施設 10,350L/日											
13 機器等		温度圧力：									
名称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		倍数の合計： 5.18倍									
規模： 呼び径40A											
14 発生箇所											
名称： その他の附属配管等 番 号 (299)		17 物質の区分									
材質： その他		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況： 定常運転中 番 号 (1)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
作業状況： 番 号 ()											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所から一般取扱所(ボイラー施設)へ供給するビット配管から重油が漏えいし、併設された側溝へ流出したもの。1級河川への流出はなし。なお、吸着マットを使用し、応急措置を実施した。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 配管の腐食老朽化によるもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害							28 物的被害			
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況：		
当 事 者		0	0	0	0			流出した油が事業所側溝から河川に流れ込み、拡散。		
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：		
第 三 者		0	0	0	0			配管が腐食老朽化し、3mmの穿孔が発生。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 流出量は不明。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	5 台	0 隻	0 機	7 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)										
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) 水路に吸着マットを設置し拡散防止措置を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) 油の供給バルブを閉鎖し、事業所内側溝へ吸着マットを設置。 また、ビット内の油を含んだ地下水をドラム缶へ汲み取り実施。				
31 防災活動上の問題点 油の臭気を感じた時点で消防機関へ一報入れるべきである。										
政 策 措 置	32 施 設 名	一般取扱所						33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日	令和 5 年 12 月 4 日
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：	
	そ の 他	令和 5 年 12 月 5 日 ①. 文書 2. 口頭			年 月 日 1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見		従業員への安全教育の実施。								

令和5年

1 事故名		一般取扱所内の20号タンクからA重油が1,170Lが防油堤内に漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		3月 30日 18時 03分				推定・ 確定		4 発生見		3月 30日 18時 07分	
5 覚知		3月 30日 18時 40分				6 鎮圧 応急処置完了				3月 30日 20時 00分	
7 鎮火・処理完了		4月 3日 13時 10分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：1.8m/s 気温：14℃ 湿度：83%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 電話番号 (3311) 気業 電気業 発電所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： いわき地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 362,460L 181.23倍 第4類第4石油類 潤滑油 1,520L 0.25倍									
12 施設装置		倍数の合計： 181.48倍									
名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)											
能力：重油サービスタンク 230kL/年											
13 機器等		温度圧力：									
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)		設置の完成：平成 16年 4月 15日 直近の完成：平成 19年 7月 2日									
規模：直径2,410mm、高さ3,550mm、容量1.5kL											
14 発生箇所											
名称：ベント管、ブロー管、放出管 番号 (303)		17 物質の区分									
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(1,170L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：停止中 番号 (5)		経験年数19年									
作業状況： 番号 ()											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 10時31分、点検のため20号タンクの下部に設置されているレベル発信器の元弁を「閉」にした。その際、レベル指示が3.26mから4.6mへ上昇したが、操作室にいた運転員は、指示変化は元弁の操作で指示が変化したと判断した。18時03分、気温の変化により、閉め切られたレベル発信器内部の重油が収縮し体積が変化、0.84mを指示し、移送ポンプが自動起動、タンクの許容量を超えて移送が継続し、エアベント部からA重油が流出した。 緊急措置として、自動起動した移送ポンプの手動停止、事業所内の側溝への土嚢及び吸着マットの設置、事業所外への排水の停止を行った。18時40分、一般加入電話にて小名浜消防署へ通報した。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因	設計不良				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因	監視不十分											
	発生原因の状況：												
	10時31分、点検のため20号タンクの下部に設置されているレベル発信器の元弁を「閉」にした。その際、レベル指示が3.26mから4.6mへ上昇したが、操作室にいた運転員は、指示変化は元弁の操作で指示が変化したと判断した。18時03分、気温の変化により、閉め切られたレベル発信器内部の重油が収縮し体積が変化、0.84mを指示し、移送ポンプが自動起動、タンクの許容量を超えて移送が継続し、エアバント部からA重油が流出した。												
	主要原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	設計不良			能力			想定を越えた圧力の発生						
因	関連原因の詳細												
	人		本人の意識				思慮				思い込み		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害								28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：					
区分								A重油が20号タンクから防油堤内へ1,170L流出及び防油堤外へミスト状により若干の飛散。					
当 事 者		0	0	0	0								
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況：					
第 三 者		0	0	0	0			なし。					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	8 台 0 隻 0 機 25 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：									
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	第4類第3石油類(非水溶性)重油1,170L流出									
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人										
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	3 台 0 隻 0 機 6 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (9 万円)									
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (4)							自衛防災・消防組織等 番号 (3)						
オイルマット及を用いて流出防止措置をとるとともに情報収集にあたった。													
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法		そ の 他				
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日				
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日				
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：						
	そ の 他	年 月 日											
35 今後の対策や所見		設備運用方法を見直し、現場設備へ注意喚起等の貼り付けを行う。											

令和5年

1 事故名		一般取扱所(燃料供給施設)の送油配管のプラグ(エンドキャップ)が外れ、灯油約3,000Lが流出したもの					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		11月 27日 7時 30分	
5 覚 知		11月 27日 13時 25分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		11月 27日 8時 30分	
7 鎮火・処理完了		11月 27日 8時 30分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 北北東 風速： 0.9m/s 気温： 13℃ 湿度： 69.4%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 教育・学習支援業 学校教育 高 番 号 (7631) 等学校, 中等教育学校 高等学 校			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
			16 発生施設規制区分等				
			施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 8,000L 8倍				
12 施 設 装 置				倍数の合計： 8倍 設置の完成： 昭和 47年 11月 27日 直近の完成： 令和 3年 10月 12日			
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)							
能 力： 8,000L貯蔵							
13 機 器 等		温 度 圧 力：					
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)							
規 模： 直径40A							
14 発 生 箇 所				17 物 質 の 区 分			
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)							
材 質： ステンレス							
15 発 生 時				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (3,000L)			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)							
作 業 状 況： その他 番 号 (99)							
18 取扱者の概要							
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所に貯蔵された灯油をオイルポンプにて屋上に設置された中継タンクにポンプアップされ、各戸別タンクに送油され暖房機に使用する一般取扱所。送油配管のプラグ(エンドキャップ)が何らかの理由で外れ灯油約3,000Lが流出したもの。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因 不明	着火原因				番号 ()		
	関 連 原 因 不明							
	発生原因の状況： 配管に取り付けられたプラグ(エンドキャップ)何らかの理由で外れたものだが、外れた原因の特定までは至らず。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
人的被害	27 人的被害						28 物的被害	
	被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油が配管下部の地面(土)に浸透したもの。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管のねじ込み式のプラグが外れたもので、破損等はなし。
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人				物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 約3,000L流出	
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	3 台 0 隻 0 機 8 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況							損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)	
公設消防機関：番号 (99) 流出状況の調査。						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 脱落したプラグ(エンドキャップ)の取り付け。		
31 防災活動上の問題点 漏えい発見時間から消防通報時間まで時間を要した。市役所、警察署に連絡。 建設事務所、県振興局には、学校側から連絡済み。								
行政措置	32 施 設 名	一般取扱所		33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他	
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検 気密試験等 保 安 検 査	令和 3 年 10 月 12 日	年 月 日	
		改善命令等	年 月 日	年 月 日		令和 3 年 10 月 12 日	年 月 日	
		停止解除	年 月 日	年 月 日		年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 消防法第14条の3の2(定期点検未実施) 消防法第16条の3第2項(通報遅延)			
	そ の 他	施設立入検査を実施 令和 5 年 11 月 28 日 ①. 文書 2. 口頭	年 月 日 1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見		事故発生後、施設の立入検査を実施、定期点検の実施と通報体制の徹底を通知書で指示する。 また、今年中に今回漏えいのあった配管については、交換予定であったが、施設調査中に建屋にアスベストが発見され 工事がストップしている状態だった。今後、アスベスト対策が済次第、配管交換を実施予定。						

令和5年

1 事故名		一般取扱所(暖房用)配管のエア抜きバルブ(締め付け不良)から灯油が流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		12月 7日 13時 00分				[推定]・確定		4 発生見		12月 11日 7時 30分			
5 覚知		12月 11日 9時 20分				6 鎮圧 応急処置完了				12月 11日 13時 00分			
7 鎮火・処理完了		12月 11日 17時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気： 風向： 風速： 気温： 湿度：											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 教育・学習支援業 学校教育 高 番 号 (7631) 等学校, 中等教育学校 高等学校		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 5,000L 5倍											
		倍数の合計： 5倍											
12 施設装置		名称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能力： 暖房出力最大7.41kw											
13 機器等		温度圧力：											
名称： ボイラー 番 号 (404) 規模： FF式ボイラー：高さ594mm、幅830mm、奥行420mm暖房出力最大7.41kw 地下埋設タンク(灯油)内径1,300mm、全長4,346mm、容量5,000L		設置の完成： 平成 11年 8月 26日 直近の完成： 年 月 日											
		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油 (1,500L)											
14 発生箇所		18 取扱者の概要											
名称： その他の附属配管等 番 号 (299) 材質： その他													
15 発生時													
運転状況： 定常運転中 番 号 (1) 作業状況： その他 番 号 (99)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 12月7日の10時頃、施設確認のため関係者が屋上にある空気抜きバルブの開閉操作を実施。その際、わずかに緩んでいた可能性があり、その後の暖房使用にて、この箇所から灯油が漏えいしたもの。 関係者が漏えいを発見したのは、12月11日の7時30分頃で、地下埋設タンクの油量計が減少しているのを確認。施設内を巡視後、屋上の空気抜きバルブ付近の漏えいを発見。バルブの閉鎖を実施。同日9時20分頃に消防署へ通報したもの。 現地確認した結果、漏えいはとまっていたが、屋上及び施設内に漏えい跡があり、関係者が同日油処理を実施した。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 施工不良				着火原因				番号 ()																														
原 因	関 連 原 因 操作確認不十分																																						
	発生原因の状況： 12月7日の10時頃、施設確認のため関係者が屋上にある空気抜きバルブの開閉操作を実施。その際、わずかに緩んでいた可能性があり、その後の暖房使用にて、この箇所から灯油が漏えいしたものの。																																						
	主原因の詳細																																						
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																													
	施工不良			施工			工事時の措置不良																																
	関連原因の詳細																																						
	人			本人の意識			思慮			思い込み																													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																							
27 人的被害								28 物的被害																															
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいが及んだ範囲は、屋上及び建屋中庭の側溝付近のみ。 側溝には土砂がたまっており、施設外への流出はなし。			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																	
当 事 者	0	0	0	0																																			
防災活動従事者	0	0	0	0																																			
第 三 者	0	0	0	0																																			
								施設等の被害状況： 施設被害なし																															
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																							
消 防 機 関		1 台 0 隻 0 機 3 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:1,000 第2石油類 灯油約1,500L漏えい 損害額 1万円未満、 1万円以上 (15 万円)																															
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人																																	
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人																																	
その他の機関		1 台 0 隻 0 機 2 人		そ の 他		0 台 0 隻 0 機 0 人																																	
30 実施した防災活動の状況																																							
公設消防機関：番号 (99) 調査活動								自衛防災・消防組織等 番号 ()																															
31 防災活動上の問題点 事故の対応に追われ、消防機関への通報が遅れた。																																							
32 行 政 措 置	施 設 名							33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他																													
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日																														
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日																														
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保 安 検 査	年 月 日																														
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：																														
	そ の 他	年 月 日			年 月 日																																		
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭																																		
35 今後の対策 や所見		・施設確認のために空気抜きバルブの開閉操作を実施する際は、締め付けを確認する。 ・漏えいを発見した際には早急に消防機関へ通報する。																																					

1 事故名		廃溶剤の送液中に1次受槽の通気管からオーバーフローし防液堤内に流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		2月 15日 11時 07分				推定・ 確定		4 発生見		2月 15日 13時 30分	
5 覚知		2月 15日 14時 00分				6 鎮圧 応急処置完了				2月 15日 14時 18分	
7 鎮火・処理完了		2月 15日 16時 08分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北北西 風速：13m/s 気温：6℃ 湿度：38%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 製造業 化学工業 有機化学工業 番号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 PF廃溶剤 29L 0.07倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) メタノール 3,330L 8.33倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) イソブタノール 1,200L 1.2倍 第4類第2石油類(水溶性液体) TES 663L 0.66倍									
		倍数の合計： 10.26倍									
12 施設装置		設置の完成： 令和 元年 5月 28日 直近の完成： 年 月 日									
名称： その他【有機化学工業】 番号 (5999)		17 物質の区分									
能力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(水溶性液体) 名称： PF廃溶剤(190L)									
13 機器等		温度圧力： 常温、常圧									
名称： 貯槽(タンク) 番号 (107)		18 取扱者の概要									
規模： 容量 2,700L		経験年数10年									
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者									
名称： 通気管 番号 (304)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
材質： ステンレス											
15 発生時											
運転状況： 受入中 番号 (9)											
作業状況： 運転操作中 番号 (1)											
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無									
23 事故の概要：		廃液受槽の通気管から廃溶剤がオーバーフローし流出したもの。移送ポンプを停止し漏えい停止。									
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無		装置の緊急停止									

令和5年

1 事故名		受け入れタンク下部ドレンノズルフランジ部のボルトナット締め付け不良によりメタノールが流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		3月 28日 14時 25分				推定・確定		4 発生見		3月 28日 14時 25分			
5 覚知		3月 28日 15時 13分				6 鎮圧 応急処置完了				3月 28日 15時 45分			
7 鎮火・処理完了		3月 28日 19時 54分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：北北東 風速：9m/s 気温：13℃ 湿度：67%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 無機化学工 番 号 (1721) 業製品製造業 ソーダ工業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) BE 3,640L 18.2倍 第4類アルコール類 メチルアルコール 1,900L 4.75倍 第4類第3石油類(水溶性液体) ジエチリングリコール 482L 0.12倍 第4類第4石油類 オイル 3,000L 0.5倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959)		名称：ドレンノズル 番 号 (208)											
能力：新フッ素樹脂受け入れ 2,400L/日		材質：ステンレス											
13 機器等		温度圧力：											
名称：その他の塔槽類 番 号 (199)		17 物質の区分											
規模：容量 950L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類アルコール類 名称：メタノール(22.7L)											
14 発生箇所		18 取扱者の概要											
名称：ドレンノズル 番 号 (208)		設置の完成：平成 元年 5月 24日 直近の完成： 年 月 日											
15 発生時		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
運転状況：受入中 番 号 (9)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
作業状況： 番 号 ()		23 事故の概要： 洗浄前、洗浄後のメタノール受け入れタンク下部の拔出側ドレンノズルからメタノールが流出したもの。フランジの増し締めにより漏えい停止。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無													

令和5年

1 事故名		ボールバルブを操作した際に、ノルマルヘキサンが流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		6月 23日 15時 30分 推定・ 確定					4 発生見		6月 23日 15時 30分				
5 覚知		6月 23日 16時 00分					6 鎮圧 応急処置完了		6月 23日 16時 45分				
7 鎮火・処理完了		6月 23日 16時 45分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：東北東 風速：1.9m/s 気温：21℃ 湿度：90%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1736) 業製品製造業 合成ゴム製造業	区分：①. 事業所内 (製 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区												
	16 発生施設規制区分等												
	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第3類 アルカリ 金属(カリウム及びナトリウムを除く。)及び アルカリ 土類金属(第1種自然発火性物質及び禁水性物質) トリイソブチルアルミニウム 366.4kg 36.64倍 第4類特殊引火物 イソブレン 194,481L 3,889.62倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) シクロヘキサン 24,200L 121倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ノルマルヘキサン 762,596L 3,812.98倍 第4類 アルコール 類 メチルアルコール 7,820L 19.55倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) ジブチルエーテル 227L 0.23倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) トランスオイル 14,195L 7.1倍 第4類第4石油類 潤滑油 3,600L 0.6倍												
	倍数の合計： 7,887.72倍												
12 施設装置		設置の完成：昭和 46年 9月 25日 直近の完成：令和 5年 6月 16日											
名称：ホトリソブレン・ラバー(IR)製造装置 番号 (5307)		17 物質の区分											
能力：		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ノルマルヘキサン											
13 機器等		温度圧力：											
名称：反応塔、槽 番号 (102)		18 取扱者の概要											
規模：容量16m ³		経験年数3年											
14 発生箇所		①. 選任有 2. 選任無											
名称：ドレンバルブ 番号 (210)		20 危険物保安監督者											
材質：鋼鉄		①. 選任有 2. 選任無											
15 発生時		3. 不要											
運転状況：スタートアップ中 番号 (2)		21 危険物取扱者の取扱・立会い											
作業状況：不定期修理中 番号 (3)		①. 有 2. 無											
19 危険物保安統括管理者		22 設備・機器等の概要：											
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		オンラインファイル無											
23 事故の概要：		触媒調整タンクにノルマルヘキサンを7m ³ を張り込み、タンク底部のノズル内部にある遊離水分除去を目的として、液回収を行うためノズル先端のブラインドフランジを外しフレキシブルホースを接続できるノズル付きフランジの取り換え作業を行おうとしていたところ、ブラインドフランジの取付ボルトを緩めた際、ノルマルヘキサンが少量にじみ出てきたので、ボールバルブを閉止しようとしたところ、ストッパーが欠落しており全閉位置で止まることなく回りすぎて開となってしまう、タンク内部のノルマルヘキサンが流出したもの。流出した際、1名が被液したが直ちにバルブを閉止し流出は停止した。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因		維持管理不十分		着火原因		番号 ()				
原 因	関 連 原 因 故障										
	発生原因の状況： ブラインドフランジの取付ボルトを緩めた際、ノルマルヘキサンが少量にじみ出てきたので、ボールバルブを閉止しようとしたところ、ストッパーが欠落しており全閉位置で止まることなく回りすぎて開となってしまう、ノルマルヘキサンが流出した。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	設備		監理・保守		点検・整備		異常事態の放置				
	管理		リスクアセスメント		危険意識		危険に対する認識がない/不足				
	管理		リスクアセスメント		危険意識		安全装置・標示等が提供/使用されない/不適切				
	関連原因の詳細										
	故障		機能		機器の機能の停止						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人 的 被 害							28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし			
区分											
当 事 者	0	0	0	1	被液	軽症					
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0				施設等の被害状況：			
第 三 者	0	0	0	0				なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	14 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	10 人		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
物質の被害状況： ノルマルヘキサン数L流出											
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)											
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 救急活動、情報収集及び安全確認を実施						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 情報収集、安全管理					
31 防災活動上の問題点											
32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無			
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				内容：			
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 や所見		ボールバルブの点検実施 運転準備手順書の改善 非正常作業手順の作成、管理方法の改善									

1 事故名		フロン圧縮機の油差圧圧力スイッチ継手付近から潤滑油の漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 17日 16時 00分 推定・確定					4 発生見		8月 17日 16時 45分				
5 覚知		8月 17日 17時 41分					6 鎮圧 応急処置完了		8月 17日 18時 09分				
7 鎮火・処理完了		8月 17日 18時 09分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：南 風速：4.5m/s 気温：32℃ 湿度：65%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1736) 業製品製造業 合成ゴム製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区											
		16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) シクロヘキサン 532, 884L 2, 664. 42倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) セカンダリーブチルリチウム溶剤 44, 743L 223. 72倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ノルマルヘキサン 28, 453L 142. 27倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) メチルシクロシラン 267L 1. 34倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) ジェトキセタン 25L 0. 03倍 第4類特殊引火物 イソレン 206, 335L 4, 126. 7倍 第4類特殊引火物 イソペンタン 438, 886L 8, 777. 72倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレン 37, 257L 37. 26倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) γブチロキシプロピルトリメチル 250L 0. 13倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) オルシメチルベンゼン 2L 0倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) エチレングリコール 226L 0. 11倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ジエチルジエーイト 250L 0. 13倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ナフテン系潤滑油 1, 000L 0. 5倍 第4類アルコール類 メチルアルコール 1, 588L 3. 97倍 第4類第4石油類 作動油 100L 0. 02倍 第4類第4石油類 伸展油 2, 000L 0. 33倍 第4類第4石油類 IRGANOX1520L 4, 830L 0. 81倍 倍数の合計： 15, 979. 46倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：その他の合成ゴム系製造装置 番号 (5399)		名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201)											
能力：生産能力 31,000t/年		材質：鋼鉄											
13 機器等		温度圧力：60℃、1.25Mpa											
名称：圧縮機 番号 (502)		17 物質の区分											
規模：出力:310kW 回転数:2,965r/m		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：潤滑油(6.5L)											
14 発生箇所		18 取扱者の概要											
名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201)		経験年数14年											
15 発生時		19 危険物保安統括管理者											
運転状況：定常運転中 番号 (1)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					20 危険物保安監督者						
作業状況：運転操作中 番号 (1)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					21 危険物取扱者の取扱・立会い						
22 設備・機器等の概要：		①. 有 2. 無											
オンラインファイル無													
23 事故の概要：													
フロン圧縮機の高ス吐出圧力と潤滑油供給圧力との差圧を監視している、油差圧圧力スイッチの継手付近から潤滑油が漏えいしたもの。													
24 緊急処置の状況		有 番号 (9) 無											
緊急排出、緊急急送													

25	主 原 因 誤操作				着火原因				番号 ()			
原 因	関 連 原 因 破損											
	発生原因の状況： 令和5年6月の気密試験の際に、作業者が圧力スイッチ受圧部の継手部がネジ構造になっているものと誤認し、締め付けを行ったことにより、圧力スイッチの受圧部に亀裂が生じ潤滑油が漏えいしたものの。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	人			本人の知識・能力			知識			知識不足		
	関連原因の詳細											
	施工不良			施工			ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人 的 被 害								28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：				
区分								なし				
当 事 者		0	0	0	0							
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：				
第 三 者		0	0	0	0			圧力スイッチの受圧部の亀裂				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	7 台 0 隻 0 機 22 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 5 人					物質の被害状況：				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					潤滑油6.5L流出				
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人									
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					損害額 1万円未満、 1万円以上 (10 万円)				
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) 情報収集及び安全確認を実施							自衛防災・消防組織等 番号 (99) 情報収集、安全管理					
31 防災活動上の問題点												
32 施設名							33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ 無		
	そ の 他	年 月 日		年 月 日		年 月 日				内容：		
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭												
35 今後の対策や所見	圧力スイッチ受圧部の締め付けによる点検実施 作業手順書の作成及び現場への掲示											

令和5年

1 事故名		非常用発電機の燃料配管から灯油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		8月 24日 15時 55分	
5 覚知		8月 24日 16時 05分		6 鎮圧 応急処置完了		8月 24日 19時 15分	
7 鎮火・処理完了		8月 24日 19時 15分					
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：4.1m/s 気温：33℃ 湿度：55%					
10 発生事業所				11 発生場所			
種別： 業態：	1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) サービス業(他に分類されない番号(8099)もの) 専門サービス業(他に分類されないもの) その他の専門サービス業 他に分類されない専門サービス業		区分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		16 発生施設規制区分等		
					施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,000L 9倍 第4類第4石油類 潤滑油 440L 0.07倍		
12 施設装置				設置の完成：平成14年 2月 25日 直近の完成：令和2年 3月 11日		倍数の合計：9.07倍	
名称：自家発電施設 番号(1503)		能力：発電容量500KVA					
13 機器等		温度圧力：常温、常圧		17 物質の区分		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(0.6L)	
名称：配管(送油、注入管等) 番号(606)		規模：直径25mm					
14 発生箇所				18 取扱者の概要		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
名称：その他の附属配管等 番号(299)		材質：鋼鉄					
15 発生時				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
運転状況：改造中 番号(16)		作業状況： 番号()					
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 非常用発電機の改造工事中、燃料配管撤去状況を確認した際に、配管ピット内の一部で油染みを確認したため調査したところ、燃料配管2か所より灯油の微量漏れを発見したものの。							
24 緊急処置の状況 有 番号(1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
原 因	関 連 原 因		維持管理不十分								
	発生原因の状況：										
	燃料配管立下部の塗装塗膜が劣化し、雨水が配管剤と塗膜間に溜まり外面腐食が進行し灯油が漏えいしたものの。また、点検についても、配管上部のみの確認であり腐食状況を発見できず腐食が進行し続けた。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切				
	因										
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人 的 被 害						28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 影響なし			
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 燃料配管にピンホール			
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 灯油（第4類第2石油類） 0.6L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)											
30	実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (99)					
情報収集						情報収集、回収作業					
31	防災活動上の問題点										
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：				
	そ の 他	年 月 日		年 月 日							
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭										
35	今後の対策 や所見										
配管の材質変更(SGPからステンレス鋼管) 点検内容の変更及び教育											

1 事故名		AIプラント内のR1103(20号タンク)通気管よりテトラヒドロフランが漏えいしたもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		10月 4日 9時 00分				推定・確定		4 発生見		10月 4日 9時 00分	
5 覚知		10月 4日 9時 17分				6 鎮圧 応急処置完了				10月 4日 11時 45分	
7 鎮火・処理完了		10月 4日 11時 45分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：雨 風向：西南西 風速：1.6m/s 気温：17℃ 湿度：89%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工業 番号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 メタノール 761L 1.9倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 高压絶縁油T 417L 0.21倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸エチル 894L 4.47倍 第4類第2石油類(水溶性液体) N,N-ジメチルホルム 152L 0.08倍 アミド (DMF) 第4類第4石油類 JOMOハイドラックス32 30L 0.01倍									
		倍数の合計： 6.67倍									
12 施設装置		設置の完成：平成 19年 5月 9日 直近の完成：平成 31年 3月 22日									
名称：その他【有機化学工業】 番号 (5999)		17 物質の区分									
能力：		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(水溶性液体) 名称：テトラヒドロフラン(0.2L)									
13 機器等		温度圧力：0.19Mpa									
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)		18 取扱者の概要									
規模：容量1,640L		経験年数2年									
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者									
名称：通気管 番号 (304)		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
材質：鋼鉄											
15 発生時											
運転状況：定常運転中 番号 (1)											
作業状況：運転操作中 番号 (1)											
22 設備・機器等の概要：		オンラインファイル無									
23 事故の概要：		AIプラントにて医薬品原体製造工程を実施中、R-1103(20号タンク)残圧解除のためベントバルブを全開放した際、配管内残液がプッシュされ通気管より流出、風気流によりプラント東側にテトラヒドロフランが降霧し構内道路をフォークリフトにて通過中の作業員が被液したもの。									
24 緊急処置の状況		有 番号 () 無									

原 因	25 主 原 因	誤操作				着火原因				番号 ()																													
	関 連 原 因																																						
	発生原因の状況： 作業員の知識不足により安定脱圧ルートを使用しなかったことから、R-1103(20号タンク)残圧解除のためベントバルブを全開放した際、配管内残液がプッシュされ通気管より流出したもの。また、安定脱圧ルートのについて口伝のみで、教育不足であった。																																						
	主原因の詳細																																						
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																													
	人			本人の知識・能力			知識			知識不足																													
	制度			規則・手順			内容・周知			規則・手順がない/文書化されない																													
	制度			規則・手順			内容・周知			周知不足																													
	関連原因の詳細																																						
	<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																																						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																							
27 人 的 被 害								28 物的被害																															
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>被液</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防 災 活 動 従 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	1	被液		防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 影響なし			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																	
当 事 者	0	0	0	1	被液																																		
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0																																			
第 三 者	0	0	0	0																																			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況：																															
消 防 機 関 1 台 0 隻 0 機 2 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人								テトラヒドロフラン(第4類第1石油類) 0.2L流出																															
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																							
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																							
その他の機関 0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人								損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)																															
30 実施した防災活動の状況																																							
公設消防機関：番号 (99) 情報収集								自衛防災・消防組織等 番号 (99) 情報収集、回収作業																															
31 防災活動上の問題点																																							
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他																														
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日		年 月 日																														
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日		年 月 日																														
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日																														
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：																																
	そ の 他	年 月 日		年 月 日																																			
35 今後の対策 や所見		安定脱圧ルートのマニュアル整備及び教育																																					

令和5年

1 事故名		試験通液時、ボルト締結が完了していない配管フランジから、ミネラルスピリットがミスト状に流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		11月 13日 16時 05分				推定・確定		4 発生見		11月 13日 16時 05分			
5 覚知		11月 13日 16時 29分				6 鎮圧 応急処置完了				11月 13日 16時 06分			
7 鎮火・処理完了		11月 13日 16時 06分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：北北西 風速：5.2m/s 気温：11.3℃ 湿度：48.6%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 金属製品製造業 その番号 (2599) 他の金属製品製造業 他に分類 されない金属製品製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) ミネラルスピリット 19, 200L 19.2倍											
		倍数の合計：19.2倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和48年7月9日 直近の完成：令和5年11月1日											
名称：廃液、排水処理施設		番号 (1602)											
能力：													
13 機器等		温度圧力：0.25Mpa											
名称：その他		番号 (999)											
規模：バルブ：口径25mm、長さ127mm													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：管継手(ダクトを含む)		番号 (201)											
材質：ステンレス		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：ミネラルスピリット(100mL)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：試運転中		番号 (14)											
作業状況：定期修理中		番号 (2)											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： バルブ交換工事後の試運転通液作業の際、作業員同士の申し送り不十分により、ボルト締結が完了していないフランジ部からミネラルスピリットが噴出し、作業員が被液したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 施工不良						着火原因						番号 ()						
原因	関 連 原 因 操作確認不十分																		
	発生原因の状況： 試運転作業等は本来途中で申し送る作業ではないが、作業途中で交代時間になってしまいやむなく引き継いだこと、ペアで作業していた作業員によるボルト締結が完了したと思い込み、次の作業班に申し送ってしまったことなどが発生原因の状況である。																		
	主原因の詳細																		
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層						
	施工不良				施工				ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）										
	関連原因の詳細																		
	人				本人の意識				思慮				思い込み						
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																		
27	人 的 被 害												28 物的被害						
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： バルブフランジ部から噴出した約100mLのミネラルスピリットが、防油堤内床面約0.01㎡に付着した。										
	当 事 者		0	0	0	1	被液	サブリーダー											
	防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設等の被害無し。										
	第 三 者		0	0	0	0													
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)ミネラルスピリット 100mL噴出									
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機										0 人
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機										0 人
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機										0 人
30	実施した防災活動の状況																		
公設消防機関：番号 (99) 救急隊による救護及び病院搬送												自衛防災・消防組織等 番号 ()							
31	防災活動上の問題点																		
32	施 設 名	蒸留回収1								33 定 期 点 検 等	消 防 法				そ の 他				
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和 5 年 6 月 16 日				年 月 日			
		改善命令等	年 月 日				年 月 日					年 月 日				年 月 日			
		停止解除	年 月 日				年 月 日					年 月 日				年 月 日			
		関係条項																	
	そ の 他	再発防止策を講ずるよう指導								34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：								
令和 5 年 11 月 15 日				年 月 日															
35	今後の対策や所見 今後の対策として、申し送り基準書の見直しと作業員への再教育を実施するとの提案があったので、再発防止に向けて周知徹底するよう指導した。																		

令和5年

1 事故名		一般取扱所のサービスタンク通気管から酢酸エチルが流出したもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		8月 4日 4時 50分				推定・確定		4 発生見		8月 4日 6時 00分	
5 覚知		8月 4日 18時 30分				6 鎮圧 応急処置完了		8月 5日 13時 00分			
7 鎮火・処理完了		8月 5日 13時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北北西 風速：0.4m/s 気温：27.9℃ 湿度：88.3%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 印刷・同関連業 印刷業 番号 (1611) 印刷業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸エチル 10,400L 52倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) クレブディンキ 14,610L 73.05倍 第4類アルコール類 IPA 1,500L 3.75倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 電解液 50L 0.05倍 第4類第4石油類 減速機用油 1,200L 0.2倍 倍数の合計： 129.05倍									
12 施設装置		名称：その他【分類なし】 番号 (9999) 能力：									
13 機器等		温度圧力：									
名称：印刷機		番号 (903)									
規模：サービスタンク39L											
14 発生箇所		設置の完成：平成 元年 9月 9日 直近の完成：令和 5年 5月 8日									
名称：通気管		番号 (304)									
材質：ステンレス		17 物質の区分									
15 発生時		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：酢酸エチル(200L)									
運転状況：定常運転中		番号 (1)									
作業状況：運転操作中		番号 (1)									
18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 一般取扱所2階のサービスタンクにおいて、一定量になった場合にタンクへの供給を停止するための電磁弁のパネが破損していたことにより、地下タンク貯蔵所からポンプにて送油される酢酸エチルがサービスタンクに送油され続け、サービスタンクの容量39Lを超え、通気管を通りヘッド部分から約200Lが漏えいしたもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25	主 原 因 故障					着火原因					番号 ()																																																														
	関 連 原 因																																																																									
	発生原因の状況： 電磁弁のパネの破損。																																																																									
	主要原因の詳細																																																																									
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																																													
	故障				機能				機器の機能の停止																																																																	
	関連原因の詳細																																																																									
因																																																																										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																																										
27 人 的 被 害															28 物的被害																																																											
被害内容等															被災影響範囲及び拡大の状況：																																																											
区分															一般取扱所北側外壁の通気管ヘッドから酢酸エチル約200Lが流出し、保有空地内の地盤(土)に浸透した。																																																											
当 事 者															0 0 0 0																																																											
防災活動従事者															0 0 0 0																																																											
第 三 者															0 0 0 0																																																											
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																																										
消 防 機 関															0 台 0 隻 0 機 0 人															自 衛															0 台 0 隻 0 機 0 人															物質の被害状況：														
消 防 団															0 台 0 隻 0 機 0 人															共 同															0 台 0 隻 0 機 0 人															第4類第1石油類(非水溶性)酢酸エチル 約200L流出。														
海上保安部															0 台 0 隻 0 機 0 人															応 援															0 台 0 隻 0 機 0 人																													
その他の機関															0 台 0 隻 0 機 0 人															そ の 他															0 台 0 隻 0 機 0 人															損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)														
30 実施した防災活動の状況																																																																										
公設消防機関：番号 ()															自衛防災・消防組織等 番号 ()																																																											
31 防災活動上の問題点																																																																										
流出事故発見から、消防機関へのまでに約12時間半を要した。 (発見:6時 通報:18時30分)、流出事故発見から連絡までに約10時間40分を要した。 (発見:6時 連絡:16時40分)流出事故発見からポンプ停止を判断を下したのは、7時30分に現場に臨場・確認した工場長であった。現場責任者が緊急時の措置を速やかに実行できるような教育・訓練が必要である。																																																																										
行政措置	32	施設名	一般取扱所										33	定期点検等	消 防 法					そ の 他																																																						
	行	使用停止	年 月 日					年 月 日					政	定期・自主点検	令和 4 年 12 月 29 日					年 月 日																																																						
		改善命令等	年 月 日					年 月 日						気密試験等	令和 4 年 12 月 29 日					年 月 日																																																						
		停止解除	年 月 日					年 月 日						保安検査	年 月 日					年 月 日																																																						
	措	関係条項											置	34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無																																																											
そ の 他		令和 5 年 8 月 8 日					年 月 日					内容：																																																														
				①. 文書 2. 口頭					1. 文書 2. 口頭																																																																	
35		今後の対策 や所見		ソフト面として、流出事故発見からポンプ停止までに時間を要していることから、緊急時の保安体制の見直し及び保安教育の徹底を図る必要がある。 ハード面として、サービスタンクに電磁弁等を設けるだけでなく、地下タンク貯蔵所への返油管を設ける等、更なる安全対策を実施する。																																																																						

令和5年

1 事故名		地下ピット(21-V1214)から排水タンク(T-903)への含油排水移送配管漏えい事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		3月 19日 12時 40分				推定・ 確定		4 発生見		3月 19日 12時 40分	
5 覚知		3月 19日 13時 00分				6 鎮圧 応急処置完了		3月 19日 15時 06分			
7 鎮火・処理完了		3月 19日 15時 06分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北 風速：0.8m/s 気温：15℃ 湿度：20%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト 、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、 貯 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油(非) 253L 1.27倍									
12 施設装置		倍数の合計：1.27倍 設置の完成：昭和 49年 10月 14日 直近の完成：平成 31年 2月 15日									
名称：その他【石油精製工業】 番 号 (2999)											
能力：第4類第1石油類 原油(非)0.253 kL											
13 機器等		温度圧力：									
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(非) (14L)									
規模：3B											
14 発生箇所											
名称：その他の附属配管等 番 号 (299)		18 取扱者の概要									
材質：鋼鉄											
15 発生時											
運転状況：定常運転中 番 号 (1)		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無									
作業状況： 番 号 ()											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 3月19日12時40分頃、操油グループ運転員がT-112付近を巡回点検中に配管から油が漏えいしているのを発見した。直ちに班長に報告を行い、現場確認を行った班長より直課長へ所内連絡をし、連絡を受けた直課長は、13時12分に119通報、非常体制を発令するとともにバルブブロック及び応急措置としてバンド当て(2か所)を行い漏えいは停止した。 また、漏えい箇所周辺への土嚢構築を行い雨水、配水系への流入がないことを確認した。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 放射線透過試験の結果、配管内面に減肉を認め、配管外面は腐食軽微であった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		防食		エロージョン・コロージョン					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害						28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況：		
当 事 者		0	0	0	0			なし		
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：		
第 三 者		0	0	0	0			配管の開孔		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	8 人	物質の被害状況： 原油 14L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	7 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 大型化学消防車1台より警戒体制： 漏えい箇所周辺への警戒放水・発砲体制/手広め1線2口				
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日		年 月 日						
35 今後の対策 や所見		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭 検討中								

令和5年

1 事 故 名		一般取扱所(充填)から移動タンク貯蔵所に充填中、作業現場を離れて重油が河川へ流出した事故											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		12月 15日 17時 10分				[推定]・確定		4 発 見		12月 15日 17時 20分			
5 覚 知		12月 15日 20時 10分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了				12月 15日 22時 02分			
7 鎮火・処理完了		12月 16日 6時 30分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南西 風速：3m/s 気温：20℃ 湿度：85%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,000L 5倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計：5倍 設置の完成：昭和 61年 9月 7日 直近の完成：年 月 日											
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力：10,000L													
13 機 器 等 温度圧力：													
名 称：ポンプ 番 号 (501) 規 模：70～200L/m		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0－40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(200L)											
14 発 生 箇 所													
名 称：タンクの注入口 番 号 (905) 材 質：その他													
15 発 生 時		18 取扱者の概要 経験年数45年											
運 転 状 況：荷積中 番 号 (12)													
作 業 状 況：充填中 番 号 (12)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所の重油用固定注油設備から移動タンク貯蔵所に充填中に他の業務でその場を離れたうえ、充填中であることも失念した。 時間経過とともに移動タンク貯蔵所のマンホールから重油200Lが溢れだし、施設外の河川に流出した。 なお、充填ノズルのオートストップ機能が故障しており、タンク満杯時に作動しなかった。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 監視不十分				着火原因				番号 ()			
原因	関 連 原 因 操作確認不十分、故障											
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所に重油を充填中、その場を離れた。 オートストップ機能が故障中で作動しなかった。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	人			本人の意識			違反(故意)			問題意識の不足		
	関連原因の詳細											
	人			本人の意識			違反(故意)			怠慢		
	因	故障			機能			機器の機能の停止				
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人 的 被 害								28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所に充填する一般取扱所のポンプ設備から重油が200L漏えいし、公共下水道(雨水)から河川まで流れ込んだ。流出範囲は敷地境界線より500m程度に収まっている。				
	当 事 者	0	0	0	0							
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：				
	第 三 者	0	0	0	0			なし				
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 重油200L流出								
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同									0 台 0 隻 0 機 0 人
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援									0 台 0 隻 0 機 0 人
	その他の機関	0 台 0 隻 0 機 4 人	そ の 他									0 台 0 隻 0 機 0 人
30	実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5) 吸着マットを使用し、重油を回収した。								自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31	防災活動上の問題点 流出事故発見から通報が約3時間後であった。											
行政措置	32	施設名	一般取扱所		33	定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検 気密試験等 保 安 検 査	令和 5 年 10 月 1 日	年 月 日					
		改善命令等	年 月 日	年 月 日		令和 3 年 7 月 27 日	年 月 日					
		停止解除	年 月 日	年 月 日		年 月 日	年 月 日					
		関係条項				34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・無				
	そ の 他	令和 5 年 12 月 16 日	年 月 日	内容： 充填ノズルオートストップ機能不備 消防法第12条 構造及び設備が技術上の基準に適合するように維持しなければならない。								
35	今後の対策 や所見 危険物の貯蔵、取扱いについて関係法令の再教育 充填ノズルの改修											

令和5年

1 事 故 名	一般取扱所であるトラックターミナルにおいて、フォークリフトからドラム缶が落下し軽油若干が流出したもの										
2 事 故 種 別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()										
3 発 生	1月	18日	12時	35分	推定・確定	4 発 見	1月	18日	12時	35分	
5 覚 知	1月	18日	13時	10分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了	1月	18日	12時	45分	
7 鎮火・処理完了	1月	18日	13時	11分							
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()										
9 気 象 状 況	天気： 晴 風向： 東 風速： 1m/s 気温： 10.9℃ 湿度：										
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一般 番 号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自 動車運送業(特別積合せ貨物運 送業を除く)					11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 第1石油類 10,000L 50倍 倍数の合計： 50倍 設 置 の 完 成： 昭和 59年 10月 31日 直 近 の 完 成： 令和 元年 7月 26日				
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分					
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス					
能 力： 装置なし						5. 毒物 6. 劇物 7. その他					
13 機 器 等						(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)					
名 称： その他 番 号 (999)	(低温、 常温 [0-40℃]、高温)										
規 模： 機器なし	分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (10L)										
14 発 生 箇 所	18 取扱者の概要	経験年数4年									
名 称： その他 番 号 (999)	①. 選任有 2. 選任無										
材 質： 鋼鉄	3. 不要										
15 発 生 時	20 危 険 物 保 安 監 督 者										
運 転 状 況： 運搬中 番 号 (11)	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無									
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)											
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要										
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： フォークリフトの燃料である軽油をドラム缶に入れ運搬中に、運搬に使用していたパレットが荷捌場の淵にあたりドラム缶が倒れ軽油約10Lが流出したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

25	主 原 因 操作確認不十分				着火原因				番号 ()								
原 因	関 連 原 因																
	発生原因の状況： フォークリフトの燃料である軽油をドラム缶に入れ運搬中に、運搬に使用していたパレットが荷捌場の淵にあたりドラム缶が倒れ軽油約10Lが流出したもの。																
	主原因の詳細																
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層							
	人			本人の意識			思慮			配慮不足							
	関連原因の詳細																
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																	
27 人 的 被 害								28 物的被害									
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： トラックターミナルの荷捌場床面2m四方に軽油が流出した。									
区分																	
当 事 者	0	0	0	0													
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0													
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																	
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻						0 機	2 人	物質の被害状況： 軽油10L		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻						0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人								
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)							
30 実施した防災活動の状況																	
公設消防機関：番号 ()								自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業									
31 防災活動上の問題点																	
32 施設名									33 定期点検等	消 防 法		そ の 他					
	使用停止				年 月 日					年 月 日		年 月 日					
	改善命令等				年 月 日					年 月 日		年 月 日					
	停止解除				年 月 日					年 月 日		年 月 日					
	関係条項								34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：							
	そ の 他				年 月 日												
1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭													
35 今後の対策や所見		運搬作業時は予期せぬ事態が発生しやすいので、複数人で監視する等の対策を行う。荷捌場の他の事業所でも同様の作業が行われることから事業所に対してリーフレット等で注意喚起していく。															

令和5年

1 事故名		屋上の一般取扱所である非常用発電機において、配管の溶接部からの危険物が漏えいしたもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		5月 10日 11時 00分		[推定]・確定		4 発生見		5月 11日 11時 30分			
5 覚知		5月 11日 14時 30分		6 鎮圧 応急処置完了		5月 11日 11時 30分					
7 鎮火・処理完了		5月 11日 14時 30分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：雨 風向：南南東 風速：4.1m/s 気温：13.3℃ 湿度：94%									
10 発生事業所		種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：情報通信業 情報サービス業 番号 (3922) 情報処理・提供サービス業 情報提供サービス業				11 発生場所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 9,672L 4.84倍 第4類第4石油類 潤滑油 120L 0.02倍 倍数の合計： 4.86倍 設置の完成：平成 14年 8月 22日 直近の完成：令和 5年 3月 23日			
12 施設装置						17 物質の区分					
名称：自家発電施設 番号 (1503)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス					
能力：許可倍数4.8倍						5. 毒物 6. 劇物 7. その他					
13 機器等						温度圧力：					
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(1L)									
規模：直径27.2mm、厚さ2.8mm、長さ300mm											
14 発生箇所				18 取扱者の概要							
名称：給油管等 番号 (907)		1. 選任有 2. 選任無		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無					
材質：ステンレス		20 危険物保安監督者		③. 不要							
15 発生時		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無					
運転状況：停止中 番号 (5)		20 危険物保安監督者		③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
作業状況：点検中 番号 (5)		20 危険物保安監督者		③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 午前11時頃、目視点検を実施したところ、燃料小出し槽から発電機へと接続されている燃料送油管の溶接部分から、重油が漏えいしていた。なお、前日同時刻に実施した目視点検の際には、異常がなかった。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原 因	25 主 原 因		その他の地震等災害		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 令和5年5月11日4時16分ころに震源地を千葉県南部とする、最大震度5強、事業所の所在地域では最大震度3の地震が発生したことにより、配管の溶接部分から重油が流出したものと考えられる。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人 的 被 害						28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋上にある燃料小出し槽から発電機へと接続される送油管の溶接部から、重油が1L程度流出した。			
当 事 者		0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管若干			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	2 人	物質の被害状況： 重油が1L程度
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 流出調査						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 送油管をバルブにより閉鎖するとともに、流出した危険物をウエスで拭き取った。					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保 安 検 査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：				
	そ の 他	年 月 日		年 月 日							
35 今後の対策 や所見		早急に配管等を交換し、必要な書類を消防署へ提出することと、地震発生時の点検項目に配管がないことから、配管の項目を付け足すように指導した。									

令和5年

1 事 故 名		一般取扱所において、発電設備手前に接続されるフレキシブル配管から重油が流出したもの											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		8月 14日 14時 30分				推定・ 確定		4 発 見		8月 14日 14時 30分			
5 覚 知		8月 14日 16時 10分				6 鎮 圧 応急処置完了		8月 14日 15時 30分					
7 鎮火・処理完了		8月 14日 15時 30分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：東南東 風速：6m/s 気温：32℃ 湿度：80%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番 号 (9611) 地方公務 都道府県機関 都道 府県機関		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,598L 2.8倍 第4類第4石油類 潤滑油 1,378L 0.23倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計： 3.03倍 設 置 の 完 成：昭和 61年 11月 5日 直 近 の 完 成：令和 3年 1月 29日											
名 称：自家発電施設 番 号 (1503)													
能 力：燃料消費量219L/時													
13 機 器 等		温 度 圧 力：											
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(1L)											
規 模：ステンレス													
14 発 生 箇 所													
名 称：フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番 号 (202)		18 取扱者の概要											
材 質：ステンレス													
15 発 生 時													
運 転 状 況：試運転中 番 号 (14)		21 危険物取扱者の の取扱・立会い											
作 業 状 況：点検中 番 号 (5)													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 毎月実施している試運転の際に、発電設備の直近に設置されているフレキシブル配管から、重油が約1L流出したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原 因	25 主 原 因 破 損										着火原因										番 号 ()																																														
	関 連 原 因																																																																		
	発生原因の状況： 振動によるフレキシブル配管の揺動などの影響を受けた燃料の乱流等様々な振動により共振が発生することにより、小さな亀裂が発生し、その箇所から重油が流出したもの。																																																																		
	主原因の詳細																																																																		
	第Ⅰ層					第Ⅱ層					第Ⅲ層					第Ⅳ層																																																			
	疲労・劣化					環境					常に振動する環境下で疲労（想定内の振動であるが、材料が継続した疲労により損傷等）																																																								
	関連原因の詳細																																																																		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																																			
27 人 的 被 害										28 物的被害																																																									
<table><tr><td>被害内容等 区分</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は 職名</td></tr><tr><td>当 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>防 災 活 動 従 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 三 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>										被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			<table><tr><td colspan="10">被災影響範囲及び拡大の状況： 燃料小出し槽から発電設備に接続される送油管におけるフレキシブル配管が破損し、重油が流出したもの。</td></tr><tr><td colspan="10">施設等の被害状況： フレキシブル配管1が破損</td></tr></table>										被災影響範囲及び拡大の状況： 燃料小出し槽から発電設備に接続される送油管におけるフレキシブル配管が破損し、重油が流出したもの。										施設等の被害状況： フレキシブル配管1が破損									
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																																													
当 事 者	0	0	0	0																																																															
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0																																																															
第 三 者	0	0	0	0																																																															
被災影響範囲及び拡大の状況： 燃料小出し槽から発電設備に接続される送油管におけるフレキシブル配管が破損し、重油が流出したもの。																																																																			
施設等の被害状況： フレキシブル配管1が破損																																																																			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																																																			
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛		0 台	0 隻	0 機	2 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油が1L流出																																																							
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同		0 台	0 隻	0 機	0 人																																																								
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援		0 台	0 隻	0 機	0 人																																																								
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他		0 台	0 隻	0 機	0 人																																																								
30 実施した防災活動の状況										損害額 1万円未満、 1万円以上 (23 万円)																																																									
公設消防機関：番号 (99) 調査活動										自衛防災・消防組織等 番号 (4) 燃料配管の弁を閉鎖した。また、流出箇所の下部に容器を設置した。																																																									
31 防災活動上の問題点																																																																			
32 行 政 措 置	施 設 名									33 定 期 点 検 等				消 防 法				そ の 他																																																	
	使用停止	年 月 日				年 月 日								定期・自主点検				年 月 日				年 月 日																																													
	改善命令等	年 月 日				年 月 日								気密試験等				年 月 日				年 月 日																																													
	停止解除	年 月 日				年 月 日								保 安 検 査				年 月 日				年 月 日																																													
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無				有 ・無 内容： 消防法第13条の23 保安講習未受講																																																					
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																																													
35 今後の対策 や所見		流出した危険物の適正な処理をすること。また、危険物施設の復旧工事をする際は、事前に消防署へ相談するよう指導した。事故が発生した詳細な原因は調査中のため、具体的な問題点を挙げることは難しいが、試運転時の目視点検により早期発見につながったことから、今後も継続していく必要がある。																																																																	

1 事 故 名		一般取扱所において、鉄分圧縮機油圧配管の点検作業中に作動油が流出した事故														
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()														
3 発 生		11月 20日 11時 00分 推定・ 確定					4 発 見		11月 20日 11時 00分							
5 覚 知		11月 20日 11時 08分					6 鎮 圧 応急処置完了		11月 20日 12時 15分							
7 鎮火・処理完了		11月 20日 12時 15分														
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()														
9 気 象 状 況		天気：快晴 風向：北西 風速：3m/s 気温：12.4℃ 湿度：56%														
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：サービス業(他に分類されない 番 号 (8516) もの) 廃棄物処理業 一般廃棄物処理業 ごみ処分量					11 発 生 場 所									
12 施 設 装 置							区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
							16 発生施設規制区分等									
							施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 シリンダー油 8,448L 1.41倍									
							倍数の合計： 1.41倍									
14 発 生 箇 所		名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力：ゴミ処理施設					設置の完成：平成 7年 1月 30日 直近の完成：平成 8年 6月 14日									
13 機 器 等		温 度 圧 力：20Mpa					17 物 質 の 区 分									
15 発 生 時		名 称：圧縮機 番 号 (502) 規 模：寸法4,850mm×2,850mm×10,831mm					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称：シリンダー油(180L)									
		18 取扱者の概要					経験年数7年									
		19 危険物保安統括管理者					20 危険物保安監督者					21 危険物取扱者の取扱・立会い				
22 設備・機器等の概要：		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要										1. 有 ②. 無				
23 事 故 の 概 要：		点検者3名がD系鉄分圧縮機の補修点検を実施中、シリンダーのロッド側のカバーの取り外し作業を行っていたところ、油圧シリンダーに残圧が残っていたため、ロッド側のカバーが不意に漏れ、危険物が流出したもの。														
24 緊急処置の状況		有 番号 (10) 無 その他														

25	主 原 因 誤操作				着火原因				番号 ()			
原 因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 点検作業において、ロッド側のフランジのボルトを数本外した際に油が漏れなかったことから、残油がないものと思い込みフランジのボルトをすべて外したところ、油圧シリンダ内の残圧によりロッド側カバーが不意に外れ、危険物が流出した。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	人			本人の意識			思慮			思い込み		
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人 的 被 害							28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： シリンダー油がD系鉄分圧縮機の油圧シリンダ株の床面約10㎡の範囲に流出した。				
	当 事 者	0	0	0	0							
	防災活動従事者	0	0	0	0							
	第 三 者	0	0	0	2	爆風圧等の衝撃	機械工					
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	17 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	4 人	物質の被害状況： 第四類第4石油類シリンダー油約180Lが流出した。		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人			
30	実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) ポンプ隊は警戒線1線を延長し、火災警戒活動を実施した。							自衛防災・消防組織等 番号 (3) 事業所員は吸水マットやウエス等により流出防止を行った。					
31	防災活動上の問題点											
32 行政措置	施設名							33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日			
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日			
	関係条項							34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日			年 月 日							
35	今後の対策や所見 作業中は危険物取扱者が立会いをするよう指導した。											

令和5年

1 事故名		ドラム・缶充填所における配管フィルター取り外し部からエタノール流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		3月 23日 14時 20分				[推定]・確定		4 発生見		3月 23日 14時 20分			
5 覚知		3月 23日 15時 10分				6 鎮圧 応急処置完了				3月 23日 15時 35分			
7 鎮火・処理完了		3月 23日 15時 35分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：雨 風向：西北西 風速：1.2m/s 気温：17.6℃ 湿度：98%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵倉 番号 (4711) 庫業を除く) 倉庫業(冷蔵倉庫業を除く)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) アイソブール200 72,000L 360倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトニトリル 20,000L 50倍 第4類アルコール類 メタノール 40,000L 100倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) イブゾール150 150,000L 150倍 第4類第2石油類(水溶性液体) タブイアセトンアルコール 28,000L 14倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) アルキルベンゼン 60,000L 30倍 第4類第3石油類(水溶性液体) ブチルグリセリコール (BTG) 60,000L 15倍 第4類第4石油類 テトラリン164 54,000L 9倍 倍数の合計： 728倍											
12 施設装置		名称：ドラム充てん施設 番号 (1403) 能力： 13 機器等 温度圧力： 名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規模：SGP、2B、3.8mm											
14 発生箇所		名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201) 材質：鋼鉄											
15 発生時		運転状況：停止中 番号 (5) 作業状況：点検中 番号 (5)											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 危険物一般取扱所(ローリー充填所)において、ローリーへの充填を開始したところ、配管がつながっていた別の危険物一般取扱所(ドラム・缶充填所)の配管フランジ部にフィルターを挿入する作業のため、配管を一部取り外していた配管フランジ部分からエタノールが流出したものの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他													

原因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況：									
	・発災日は充填作業が無いとされており、ドラム・缶充填所においてフィルターの交換作業が実施されていた。 ・そこに、突発的にローリー充填依頼があり、ローリーへの充填作業を行うこととなった。 ・フィルター作業部署とローリー充填する部署間の情報共有が不足しており、配管を一時的に取り外していたところに、エタノールが送油されることとなった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	制度		規則・手順		内容・周知		周知不足			
因	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害							28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内にエタノール流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類アルコール類エタノール約60L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況									損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)	
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
・情報収集						回収作業				
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反			
	そ の 他	年 月 日		年 月 日						
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 や所見		・作業に対する関係部署間の情報共有を徹底することとした。 ・出荷ポンプ使用時以外は電源を遮断し、ブレーカーに施錠を実施。併せて、作業中である旨の表示を掲示することとした。								

令和5年

1 事故名		一般取扱所において、ローリー出荷時にローディングアームを抑えなかったことにより重油が流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		4月 4日 5時 35分				推定・確定		4 発生見		4月 4日 5時 35分			
5 覚知		4月 4日 5時 53分				6 鎮圧 応急処置完了				4月 4日 9時 25分			
7 鎮火・処理完了		4月 4日 13時 52分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西 風速：1.5m/s 気温：9.3℃ 湿度：72.4%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区											
		16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 9,073,700L 45,368.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,430,000L 4,430倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 21,000L 21倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) その他 5,428,220L 5,428.22倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,300,000L 1,650倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) その他 24,780L 12.39倍 倍数の合計：56,910.11倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：ローリー充てん施設 番 号 (1402) 能力：22,277kL/日		名称：その他 番 号 (999) 材質：鋼鉄											
13 機器等		温度圧力：70℃、0.98Mpa											
名称：ローディングアーム 番 号 (604) 規模：不明		設置の完成：昭和 39年 5月 25日 直近の完成：平成 30年 9月 13日											
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：その他 番 号 (999) 材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(水溶性液体) 名称：重油 (21L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：払出中 番 号 (10) 作業状況：運転操作中 番 号 (1)		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： タンクローリーに重油を出荷中にローディングアームからタンクローリーの天板上に重油が漏えいしたもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 作業員は重油の出荷作業中に、流量が安定したらローディングアームから手を離しても構わないと思い、手を離れたところ、ハッチからローディングアームが抜け、ローリーの天板上に重油が流出した。事業所の手順では、積み込み時は、ローディングアームを手で抑えることを明記していた。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	違反(故意)	問題意識の不足				
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ローリーの天板に漏えい
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第3石油類非水溶性 重油 21L	
消 防 機 関	3 台 0 隻 0 機 12 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 50 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	2 台 0 隻 0 機 3 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (5)			
調査活動					回収作業			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 3 月 1 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策や所見		出入のあるローリー運転手に対し、再度教育を実施。また、ローリー運転手を少なくすることにより、作業の習熟度を高める。						

令和5年

1 事故名		20号タンク温度計取付け部からノルマルヘキサン流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		4月 12日 9時 44分				[推定]・確定		4 発 見		4月 12日 10時 20分			
5 覚 知		4月 12日 11時 26分				6 鎮 圧 応急処置完了				4月 12日 12時 15分			
7 鎮火・処理完了		4月 12日 12時 15分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南南西 風速：9.5m/s 気温：22℃ 湿度：59%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化 学工業製品製造業		区 分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類引火性固体 ボリマー 500kg 0.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) シクロヘキサン 933,332L 4,666.66倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 機械油 1,079L 0.54倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 熱媒(ベンジ ^ル 系) 5,000L 2.5倍 第4類第4石油類 油圧作動油 500L 0.08倍 第4類第4石油類 界面活性剤(SAX-8) 41L 0.01倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ノルマルヘキサン 1,986,168L 9,930.84倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 熱媒(7 ^ル キ ^ル 付 ^ル タリン系) 2,100L 1.05倍 第4類第4石油類 潤滑油 52L 0.01倍											
		倍数の合計： 14,602.19倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称：その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959)		名 称：指示計器 番 号 (307)											
能 力：484kL/日		材 質：ステンレス											
13 機 器 等		15 発 生 時											
温 度 圧 力：0.35Mpa		運 転 状 況：移送中 番 号 (18)											
名 称：混合、溶解槽 番 号 (106)		作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)											
規 模：胴長7,670mm、上下鑑出1,000mm、容量:117.3m ³		設 置 の 完 成：昭和 39年 11月 5日 直 近 の 完 成：令和 5年 3月 10日											
14 発 生 箇 所		17 物 質 の 区 分											
名 称：指示計器 番 号 (307)		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材 質：ステンレス		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発 生 時		(固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧])											
運 転 状 況：移送中 番 号 (18)		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)											
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ノルマルヘキサン(1L)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 当該20号タンクに貯蔵したノルマルヘキサンを別の20号タンクへタンク間移送するため、当該20号タンクを窒素加圧し、移送準備のため作業員が当該20号タンク近傍に移動したところ、当該20号タンク底部のフランジ付近からノルマルヘキサンが滴下していることを発見したもの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (9、10) 無 緊急排出、緊急移送、その他													

原因	25 主 原 因	施工不良					着火原因					番号 ()																																															
	関 連 原 因 維持管理不十分																																																										
	発生原因の状況： 20号タンク胴板に設置された温度計用保護管と本体ノズルとの締め付け不足により漏えいが発生したもの。																																																										
	主原因の詳細																																																										
	第Ⅰ層					第Ⅱ層					第Ⅲ層					第Ⅳ層																																											
	施工不良					施工					ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）																																																
	関連原因の詳細																																																										
	設備					監理・保守					点検・整備					整備内容が不適切																																											
	因																																																										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																											
27 人 的 被 害										28 物的被害																																																	
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防 災 活 動 従 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 20号防油堤内にノルマルヘキサン微量流出																					
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																																					
当 事 者	0	0	0	0																																																							
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0																																																							
第 三 者	0	0	0	0																																																							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										施設等の被害状況： なし																																																	
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>4 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>16 人</td> <td>自 衛</td> <td>1 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>7 人</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>そ の 他</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> </table>										消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	7 人	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類ノルマルヘキサン約1L流出									
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	7 人																																																		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																		
その他の機関										損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																																																	
30 実施した防災活動の状況																																																											
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集										自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業																																																	
31 防災活動上の問題点																																																											
行政措置	32 施 設 名	合成ゴム製造設備(2)区域					33 定 期 点 検 等					消 防 法					そ の 他																																										
	使用停止	令和 5 年 4 月 12 日					年 月 日					定期・自主点検					年 月 日					年 月 日																																					
	改善命令等	年 月 日					年 月 日					気密試験等					年 月 日					年 月 日																																					
	停止解除	令和 5 年 5 月 31 日					年 月 日					保 安 検 査					年 月 日					年 月 日																																					
	関係条項	法第12条の3第1項										34 当該施設に係る 法令違反の有無					☒ ・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反																																										
	そ の 他	年 月 日					年 月 日																																																				
		1. 文書 2. 口頭					1. 文書 2. 口頭																																																				
35 今後の対策 や所見																																																											
・保護管の緩みがないことを合いマークで確認。 ・20号タンクの断熱材を加工し、工具が入るよう作業スペースを確保。																																																											

1 事故名		ガスタービン発電所のネジ部から潤滑油流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		7月 9日 21時 20分				[推定]・確定		4 発生見		7月 9日 21時 20分			
5 覚知		7月 9日 21時 46分				6 鎮圧 応急処置完了				7月 9日 23時 00分			
7 鎮火・処理完了		7月 9日 23時 00分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西南西 風速：5.1m/s 気温：27.2℃ 湿度：81.9%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 潤滑油 12,800L 2.13倍											
12 施設装置		倍数の合計： 2.13倍 設置の完成：平成 6年 4月 20日 直近の完成：平成 22年 4月 20日											
名称：発電装置 番 号 (4101)													
能力：36.7MW/日													
13 機器等		温度圧力：60℃、9Mpa											
名称：その他の電源、計測機器 番 号 (799)													
規模：3/8インチ													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：指示計器 番 号 (307)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材質：ゴム		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発生時		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧)											
運転状況：定常運転中 番 号 (1)		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)											
作業状況： 番 号 ()		分 類： 第4類第4石油類 名称：潤滑油 (20L)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 作業員が巡回点検でタービンの潤滑油タンク及びポンプが設置されている補機室に入ったところ、タービン計器を集約させた集約盤下部の床面に潤滑油が流出していることを発見したもの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因		施工不良		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 差圧計のゼロ調整ねじを取外し点検したところOリングが破断しており、またOリングの一部がロックナットに噛みこまれていることが確認された。 点検整備時の各ボルトの増し締め時に、内圧を持った状態で、差圧計のゼロ調整ねじを増し締めたことで、Oリングがロックナットに噛みこみ、その状態で約1年使用し続けたことでOリングが破断し、漏えいに至ったもの。							
	主要原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	施工不良		施工		ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害							28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内に潤滑油が流出
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 差圧計のゼロ調整ネジ部のOリングが破損
第 三 者	0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	5 台 0 隻 0 機 20 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 6 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類潤滑油 20L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集 ・検知活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5)		
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施 設 名			33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和4年 6 月 1 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 法第10条第3項製造所における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見	・契約しているガスタービン保守業者へ本事案を周知し、再発防止対策を講じるよう指導する。 ・本事案について定修教育資料に追記し、補修業者が変更となった場合には教育を行う。							

令和5年

1 事故名		一般取扱所においてバルブを誤閉止したことによりガソリンが流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		7月 31日 14時 10分				推定・確定		4 発生見		7月 31日 14時 10分			
5 覚知		7月 31日 14時 22分				6 鎮圧 応急処置完了		7月 31日 14時 40分					
7 鎮火・処理完了		7月 31日 14時 40分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西南西 風速：2m/s 気温：32℃ 湿度：67%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 番号 (1811)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 4,800,000L 24,000倍											
12 施設装置		13 機器等											
名称：ローリー充てん施設 番号 (1402)		温度圧力：0.5Mpa											
能力：		名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)											
13 機器等		規模：不明											
14 発生箇所		15 発生時											
名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201)		材料：鋼鉄											
15 発生時		16 発生時											
運転状況：払出中 番号 (10)		作業状況：運転操作中 番号 (1)											
17 物質の区分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(3.3L)											
18 取扱者の概要		19 危険物保安統括管理者											
1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： ガソリンをタンクローリーに出荷している最中に可とう管からガソリンが漏えいした。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因 破損					
	発生原因の状況： 流量計点検時にレベル計を確認する手順が無く、レベルが上がっても気づかなかった。 圧力が上昇し、可とう管にピンホールがあき、漏えいしたと推定する。					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	制度		規則・手順		内容・周知	
					規則・手順がない/文書化されない	
	関連原因の詳細					
因	破損		定常運転時		異常圧力上昇等	
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人 的 被 害					28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は 職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人
					物質の被害状況： 第4類第1石油類 ガソリン 3.3L	
					損害額 1万円未満、 1万円以上 (30 万円)	
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()	
調査活動						
31 防災活動上の問題点						
行政措置	32 施設名			33 定期点検等		消 防 法
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	そ の 他
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無
	そ の 他	年 月 日	年 月 日			内容：
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策 や所見		出荷時にレベル計を確認する手順を手順書に加える必要がある。				

1 事故名		ポンプメカニカルシール部からの熱媒油流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		9月 25日 11時 05分 推定・ 確定					4 発生見		9月 25日 11時 20分				
5 覚知		9月 25日 12時 08分					6 鎮圧 応急処置完了		9月 25日 12時 58分				
7 鎮火・処理完了		9月 25日 12時 58分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：北 風速：3m/s 気温：25.6℃ 湿度：50%											
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業(一貫して生産され る誘導品を含む)					11 発生場所		区分：①. 事業所内 (製 、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 京浜臨海地区 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) ダウサム 8,300L 4.15倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) R油(脂肪酸) 11,600L 5.8倍 倍数の合計： 9.95倍 設置の完成：昭和 47年 7月 14日 直近の完成：昭和 47年 7月 14日				
12 施設装置							17 物質の区分						
名称：ボイラー施設 番 号 (1505)							①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： ダウサム (220L)						
能力：													
13 機器等													
温度圧力：92℃、0.4Mpa		18 取扱者の概要											
名称：ポンプ 番 号 (501)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無							
規模：350m ³ /h													
14 発生箇所													
名称：その他の機器等本体 番 号 (199)													
材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：定常運転中 番 号 (1)													
作業状況： 番 号 ()													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者									
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 構内オイルセパレーターに設置された油膜検知器が発報したため、構内施設を確認したところ、熱媒油(ダウサム)を加熱炉に送液するポンプのメカニカルシール部及び蒸気ドレンポットからの熱媒油の流出を発見したもの。なお、排水系統の油膜検知器と連動した遮断弁は閉止しなかったが、海上への流出はなかった。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 破 損										着火原因										番号 ()																																																
原 因	関 連 原 因 維持管理不十分																																																																				
	発生原因の状況： ポンプの水冷ジャケットが経年的な鉄錆等により閉塞気味となったことで、メカニカルシール摺動面での発熱量が増加し、潤滑油不足となったため、摺動部の微振動がベローズに伝播したことで、ベローズに割れが発生したもの。																																																																				
	主原因の詳細																																																																				
	第Ⅰ層										第Ⅱ層										第Ⅲ層										第Ⅳ層																																						
	破損										定常運転時										その他																																																
	関連原因の詳細																																																																				
	設備										監視・保守										点検・整備										整備していない																																						
	因																																																																				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																																					
27 人的被害															28 物的被害																																																						
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>															被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： なし																										
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																																															
当 事 者	0	0	0	0																																																																	
防災活動従事者	0	0	0	0																																																																	
第 三 者	0	0	0	0																																																																	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															施設等の被害状況： ベローズに割れが発生																																																						
<table border="1"> <tr> <td>消 防 機 関</td> <td>4 台</td> <td>1 隻</td> <td>1 機</td> <td>27 人</td> <td>自 衛</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>消 防 団</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>共 同</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>海上保安部</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>応 援</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> <td>そ の 他</td> <td>0 台</td> <td>0 隻</td> <td>0 機</td> <td>0 人</td> </tr> </table>															消 防 機 関	4 台	1 隻	1 機	27 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(ダウサム)220L														
消 防 機 関	4 台	1 隻	1 機	27 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																												
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																												
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																												
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																																												
30 実施した防災活動の状況															損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																																																						
公設消防機関：番号 (99) ・情報収集															自衛防災・消防組織等 番号 ()																																																						
31 防災活動上の問題点																																																																					
32 行政措置	施設名	ダウサムボイラー(B-5050)										33 定期点検等										消 防 法										そ の 他																																					
	使用停止	令和 5 年 9 月 25 日										年 月 日										定期・自主点検										年 月 日										年 月 日																											
	改善命令等	年 月 日										年 月 日										気密試験等										年 月 日										年 月 日																											
	停止解除	年 月 日										年 月 日										保安検査										年 月 日										年 月 日																											
	関係条項	法第12条の3第1項										34 当該施設に係る法令違反の有無										有・無										内容：																																					
	そ の 他	年 月 日										年 月 日																				消防法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反																																					
35 今後の対策や所見										・メカニカルシールの交換を実施 ・蒸気ドレンポット下流に、分離槽、油面検知器及び油面検知器と連動した遮断弁の設置 ・その他同系統のポンプ2基のメカニカルシール部についても、今回の原因に対する水平展開の対策を実施 ・2週間に1回で冷却水の温度及び流量を確認し、また、4年に1回で水冷ジャケット内部の清掃を実施																																																											

1 事故名		一般取扱所配管の経年劣化腐食部が寒波によって破断し、20%アセトン水溶液が流出した事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		2月 14日 11時 50分				推定・ 確定		4 発生見		2月 14日 11時 50分	
5 覚知		2月 15日 9時 40分				6 鎮圧 応急処置完了				2月 14日 11時 52分	
7 鎮火・処理完了		2月 14日 11時 52分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：雪 風向：北西 風速：8.3m/s 気温：2.3℃ 湿度：59.1%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) シビニルアセチレン 4,235L 21.18倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 37,187L 92.97倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) C重油 83L 0.04倍									
		倍数の合計： 114.19倍									
12 施設装置		設置の完成： 昭和 42年 9月 18日 直近の完成： 令和 2年 3月 12日									
名称： 常圧蒸留装置 番 号 (2101)		17 物質の区分									
能力： 360kL/日											
13 機器等											
温度圧力： 25℃、0.3Mpa		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(水溶性液体) 名称： アセトン(10L)									
名称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)											
規模： 40A											
14 発生箇所		18 取扱者の概要									
名称： その他の附属配管等 番 号 (299)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
材質： 鋼鉄											
15 発生時											
運転状況： その他 番 号 (99)		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無									
作業状況： 洗浄中 番 号 (11)											
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要							
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： アセトン蒸留塔を洗浄したときの排出液であるアセトン水溶液をポンプにて圧送中、腐食と直近の寒波の影響で凍破していた配管に圧力がかかったことにより破断し20%アセトン水溶液が噴出したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 寒波の影響で配管の腐食部分が内部凍結による膨張応力がかかっていたところにアセトン水溶液を圧送したことにより破断し、噴出したもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	破損	自然現象	凍結					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害						28 物的被害		
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 排水溝に流入したアセトン水溶液は、さらに水希釈され工場内の集中分離層を経て約550m先の海洋に流出したもの。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(水溶性)アセトン				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4) ポンプを緊急停止して送液を中止。 配管内残油については、仮設の配管でタンクへ回収。		
31 防災活動上の問題点 翌日になってからの通報。圧送していたポンプの緊急停止。								
行政措置	32 施設名	一般取扱所		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	令和 5 年 2 月 15 日 1. 文書 ②. 口頭	年 月 日 1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見		・長期間の地上配管の未点検が腐食原因と考えられるため、社内にて定期点検のルール化を図る。 ・通報に遅れがあるため、即時通報の徹底。 ・危機管理意識の向上及び保安教育を徹底する。						

令和5年

1 事 故 名		一般取扱所において、移動タンクへ灯油を充填中、その場を離れオートストップが働かず漏えいさせた事故									
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		2月 20日 16時 40分				[推定]・確定		4 発 見		2月 20日 17時 05分	
5 覚 知		2月 20日 17時 10分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了				2月 20日 18時 09分	
7 鎮火・処理完了		4月 7日 9時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：雪 風向：北 風速：6m/s 気温：-1℃ 湿度：98%									
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所									
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソ リンスタンドを除く)		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類その他 灯油 4,500L 4.5倍									
		倍数の合計： 4.5倍									
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所									
名 称： ローリー充てん施設 番 号 (1402)		名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)									
能 力：		材 質： 鋼鉄									
13 機 器 等		15 発 生 時									
温 度 圧 力：		運 転 状 況： 払出中 番 号 (10)									
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)		作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)									
規 模： H1,600mm W930mm D530mm 吐出量160L/分		18 取扱者の概要									
14 発 生 箇 所		17 物 質 の 区 分									
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス									
材 質： 鋼鉄		5. 毒物 6. 劇物 7. その他									
15 発 生 時		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧)									
運 転 状 況： 払出中 番 号 (10)		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)									
作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)		分 類： 第4類その他 名称： 灯油 (3,700L)									
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 灯油販売業者の配送担当者が一般取扱所において、ほぼ空状態の移動タンク貯蔵所(1,940L)の注入口から注入管を用いずに灯油の充填作業を開始し、その場を離れ25分後に充填作業が終了したと思い一般取扱所まで戻ると、移動タンク貯蔵所上部より灯油(3,700L)が漏えいし、付近排水路に流出したものの。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

25	主 原 因		監視不十分		着火原因		番号 ()					
原 因	関 連 原 因		監視不十分									
	発生原因の状況：											
	一般取扱所の固定注油設備から移動タンク貯蔵所に注油する際、注入管を使用せず注入口にノズルを差し込み注油を開始し、その場を離れてしまいノズルのオートストップ機能が働かなかった為、移動タンク貯蔵所注入口から灯油があふれたもの。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層							
	人	本人の意識	思慮		不注意							
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人 的 被 害						28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油(3,700L)が敷地脇の排水路へ流出し、下流約100mの水田に流入するとともに、下流の排水路(約2km)に渡り流れ込んだもの。				
	当 事 者	0	0	0	0							
	防災活動従事者	0	0	0	0							
	第 三 者	0	0	0	0							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油 3,700L流出					
消 防 機 関	6 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	0 台			0 隻	0 機	0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台			0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台			0 隻	0 機	0 人	
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (33 万円)	
30	実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5、6) 回収作業、オイルフェンスの展開						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31	防災活動上の問題点 降雪により、排水路等に油臭はする目視による確認が困難であった。											
32 行政措置	施設名	一般取扱所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	令和 5 年 2 月 20 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	令和 5 年 3 月 20 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第10条第3項 危険物取扱者の責務違反					
	そ の 他	年 月 日		年 月 日								
35	今後の対策 や所見		灯油配送業者から再発防止策が提出され、管内のスタッフに移動タンク貯蔵所へ充填作業を行う場合は、必ず注入管を使用するよう指示するとともに、注油作業中はその場からは練れることなく、オートストップ機能を過信せず細心の注意を払い作業するよう徹底する。また、漏えい事故が発生した一般取扱所及び接続される地下タンク貯蔵所は廃止する。									

令和5年

1 事故名		地下タンク注入口から地下タンクへの埋設配管が開孔し破損による灯油の漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		3月 17日 15時 15分				[推定]・確定		4 発生見		3月 17日 15時 20分			
5 覚知		3月 17日 15時 40分				6 鎮圧 応急処置完了				3月 17日 20時 45分			
7 鎮火・処理完了		3月 20日 17時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：北東 風速：4.9m/s 気温：10℃ 湿度：49%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：教育・学習支援業 学校教育 高 番 号 (7631) 等学校, 中等教育学校 高等学校		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：その他【分類なし】 番 号 (9999)		設置の完成：昭和 55年 3月 11日 直近の完成：令和 3年 9月 21日											
能力：最大数量第4類第2石油類灯油タンク 10,000L×1		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(100L)											
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		18 取扱者の概要											
規模：配管口径65A		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無											
14 発生箇所		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
名称：給油管等 番 号 (907)		23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から、一般取扱所の地下タンクへ注油中に、遠方注入口から地下タンクへの埋設配管が腐食により開孔したことで、当該箇所から注油中の灯油が約100L流出したものと、当該箇所から注油中の灯油が約100L流出したもの。											
材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：受入中 番 号 (9)													
作業状況： 番 号 ()													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 腐食疲労等劣化						着火原因						番号 ()								
	関 連 原 因																				
	発生原因の状況： 昭和55年3月完成検査を受けてから43年経過している地下埋設配管で、移動タンク貯蔵所から、一般取扱所の地下タンクへ注油中に、遠方注入口から地下タンクへの埋設配管が腐食により開孔したことで、当該箇所から注油中の灯油が流出したものと。																				
	主原因の詳細																				
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層								
	腐食				防食				防食塗装・被覆剥離(経年による剥離)												
	関連原因の詳細																				
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																				
	27 人的被害										28 物的被害										
	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が校内側溝に流れ込み約60mにわたり拡散、隣接する事業所の貯めます内にも拡散した。												
	当 事 者		0	0	0	0															
	防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 地下埋設配管の腐食(ピンホール)												
	第 三 者		0	0	0	0															
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																					
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油約100L流出											
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人												
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人												
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)											
30 実施した防災活動の状況																					
公設消防機関：番号 (99) 調査活動										自衛防災・消防組織等 番号 ()											
31 防災活動上の問題点																					
32	施 設 名									33 定 期 点 検 等				消 防 法				そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検				令和4年 9月 2日				年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等				令和4年 9月 2日				年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保 安 検 査				年 月 日				年 月 日			
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無 内容：							
	そ の 他	年 月 日				年 月 日															
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭															
35 今後の対策 や所見		当該事業所に対して、事故事案を従業員に周知し保安体制を強化するとともに、改修については、類似の事故が発生しないよう改修計画を立てるよう指導した。																			

令和5年

1 事故名		一般取扱所のローリー充填用配管からメタクリル酸メチルが漏えいした事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		5月 12日 9時 20分				[推定]・確定		4 発生見		5月 12日 9時 35分	
5 覚知		5月 12日 9時 44分				6 鎮圧 応急処置完了		5月 12日 11時 40分			
7 鎮火・処理完了		5月 12日 13時 30分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：北 風速：1.9m/s 気温：16℃ 湿度：44%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、[荷]、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新潟西港地区特別防災区域									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) メタクリル酸メチル 132,000L 660倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) MAA7°レント®GE-170 10,000L 10倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 2-ヒト°ロキシイ酪 176,200L 88.1倍 酸メチル 第4類第3石油類(水溶性液体) メタクリル酸 122,000L 30.5倍 第4類第3石油類(水溶性液体) ホルムアミト® 3,6000L 9倍 倍数の合計： 797.6倍									
12 施設装置		名称：ローリー充てん施設 番号 (1402) 能力：充てん施設:476,200L/日									
13 機器等		温度圧力：30℃、0.3Mpa									
名称：配管(送油、注入管等)		番号 (606)									
規模：総延長 約180m フランジ間長 8m 配管径 50A											
14 発生箇所		設置の完成：平成 8年 12月 26日 直近の完成：令和 5年 4月 19日									
名称：その他の附属配管等		番号 (299)									
材質：ステンレス		17 物質の区分									
15 発生時		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：メタクリル酸メチル(5mL)									
運転状況：荷積中		番号 (12)									
作業状況：		番号 ()									
18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 一般取扱所におけるMMAローリー充てんが終了後、ローリー充てん用配管下部の床面が濡れていることを作業員が発見した。配管の遮断弁及び手動弁は閉鎖されており、配管からの液だれは確認できなかったが、調査の結果、配管母材部分のピンホールからメタクリル酸メチルが約0.005L漏えいしていたことを確認した。 なお、当該災害による死傷者は発生していない。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 通常、ステンレス配管は空気中の酸素に触れていれば不動態皮膜が形成されるが、当該一般取扱所は屋根の一部が開放されており、そこから海風が入ってきてステンレス配管に塩化物イオン(塩)が付着したことで皮膜が形成されず錆こぶが発生し、そこに天井の結露から垂れてきた水が付着して濡れ渴きを繰り返したことにより錆の進行が進み、ピンホールが生じたことでそこから漏えいしたと推定される。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		塩分の影響					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ローリー充てん用配管からメタクリル酸メチル【第4類第一石油類(非水溶性)】が約5mL漏えいしたが、施設外への流出はなし。 施設等の被害状況： 配管母材部分にピンホールが生じた。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況						物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性) メタクリル酸メチル 約5mL漏えい				
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無			
	そ の 他	年	月	日	年		月	日	内容：	
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策や所見		・ピンホールが生じた配管は取替を行い、ステンレス配管用の塗装を実施した。 同施設内の配管についても全数点検を行い、孔食が酷い箇所について順次取替を実施。塗装による防食についても検討する。 ・折板屋根が結露するため、対策を検討する。 ・昨年度発生した漏えい事故の事故調査小委員会答申結果に基づき、再発防止対策を展開予定。								

令和5年

1 事 故 名		一般取扱所から移動タンク貯蔵所への荷積み中にメタノールが防護枠内に漏えいした事故											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		7月 10日 14時 45分 推定・ 確定					4 発 見		7月 10日 14時 45分				
5 覚 知		7月 10日 14時 58分					6 鎮 圧 応急処置完了		7月 10日 16時 00分				
7 鎮火・処理完了		7月 10日 16時 45分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南西 風速：4.6m/s 気温：30℃ 湿度：80%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5229) 金属材料等卸売業 化学製品卸売業 その他の化学製品卸売業		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新潟東港地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 メタノール 16,000L 40倍											
12 施 設 装 置		設置の完成：平成 27年 4月 17日 直近の完成：平成 27年 4月 17日											
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)													
能 力：タンク容量 16,000L													
13 機 器 等		温度圧力：											
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		倍数の合計：40倍											
規 模：全長 6,290mm、胴長 5,880mm、長径 2,470mm、 短径 1,370mm、鏡打ち出し 205mm、容量 16,000mL													
14 発 生 箇 所													
名 称：マンホール 番 号 (305)		17 物 質 の 区 分											
材 質：ステンレス		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類アルコール類 名称：メタノール(60L)											
15 発 生 時		18 取扱者の概要 経験年数5年											
運 転 状 況：荷積み中 番 号 (12)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
作 業 状 況：監視中 番 号 (10)													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所において、事業所所有の移動タンク貯蔵所が荷積み中に、作業員が一時的に目を離したことで、第1室のマンホールからメタノールがあふれ、防護枠内に約60L漏えいしたもの。一般取扱所の機器の破損及び敷地部分への漏えいはなし。 なお、死傷者は発生していない。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送													

原因	25	主 原 因		監視不十分		着火原因		番号 ()																																				
	関 連 原 因																																											
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所の荷積み監視中、作業員が周囲を飛んでいた蜂に気をとられ一時的に目を離したことで、マンホールからメタノールがオーバーフローした。																																											
	主原因の詳細																																											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層																																					
	人		本人の意識		思慮		配慮不足																																					
	環境		物理的環境		温熱・騒音		その他																																					
	関連原因の詳細																																											
因																																												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																												
27 人 的 被 害							28 物的被害																																					
<table><tr><td>被害内容等</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は職名</td></tr><tr><td>区分</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>当 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>防災活動従事者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 三 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>							被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所の防護枠内に漏えいした。		
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																						
区分																																												
当 事 者	0	0	0	0																																								
防災活動従事者	0	0	0	0																																								
第 三 者	0	0	0	0																																								
							施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所の破損なし。一般取扱所の破損なし及び敷地内への漏えいなし。																																					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																												
消 防 機 関		3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： メタノール約60L漏えい																																	
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																																		
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																																		
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人																																		
							損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																																					
30 実施した防災活動の状況																																												
公設消防機関：番号 (99) 事故調査、安全管理							自衛防災・消防組織等 番号 ()																																					
31 防災活動上の問題点																																												
行政措置	32	施設名					33	定期点検等	消 防 法	そ の 他																																		
	行	使用停止	年 月 日		年 月 日		政	定期・自主点検	令和 5 年 5 月 6 日	年 月 日																																		
		改善命令等	年 月 日		年 月 日			気密試験等	令和 2 年 4 月 15 日	年 月 日																																		
		停止解除	年 月 日		年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日																																		
	措	関係条項					置	34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：																																			
		そ の 他	年 月 日		年 月 日																																							
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭																																								
35		今後の対策 や所見		・積込作業中に阻害要因が発生した場合は、速やかに緊急停止ボタンを押して作業を一時中断することを徹底させる。 ・監視作業を行うときは、緊急停止ボタンを近くに移動させ、異常発生時は直ちに押せるようにする。 ・事故防止対策を遵守するよう社内周知する。																																								

1 事故名		一般取扱所でポンプの始動後にバルブを閉め忘れたことによる流出事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		7月 31日 10時 45分 推定・ 確定					4 発生見		7月 31日 11時 30分		
5 覚知		7月 31日 12時 00分					6 鎮圧 応急処置完了		7月 31日 11時 45分		
7 鎮火・処理完了		7月 31日 14時 30分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：西北西 風速：4.1m/s 気温：30.3℃ 湿度：71.1%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業(脂肪族系溶剤を含む)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(水溶性液体) KI酢酸 471,170L 1,177.93倍 第4類アルコール類 メタノール 378,211L 945.53倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 第2石油類 12,000L 12倍									
		倍数の合計：2,135.46倍									
12 施設装置		14 発生箇所									
名称：その他の合成樹脂製造装置 番号 (5959)		設置の完成：昭和 37年 4月 5日 直近の完成：令和 5年 7月 21日									
能力：処理能力 28,000t/年		17 物質の区分									
13 機器等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類アルコール類 名称：メタノール苛性溶液(820L)									
名称：ポンプ 番号 (501)		18 取扱者の概要									
規模：送液能力 1,200L/H 1.1KW		経験年数6年									
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者									
名称：開閉弁 番号 (204)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					20 危険物保安監督者				
材質：鋼鉄		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					21 危険物取扱者の取扱・立会い				
15 発生時		①. 有 2. 無									
運転状況：スタートアップ中 番号 (2)		22 設備・機器等の概要：									
作業状況：運転操作中 番号 (1)		オンラインファイル有									
23 事故の概要：		24 緊急処置の状況 有 番号 (1, 8) 無 装置の緊急停止、防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等									
運転立ち上げ準備のため、危険物送液ポンプの循環運転を開始したが、循環系と洗浄排水系を連結するバルブが開放していたため排水経路へメタノールと水、苛性ソーダの混合液約820Lが流出したもの。発見後バルブを閉鎖、更に敷地内の放流バルブも閉鎖し敷地内の排水路内で収まったもの。ダクト内で危険物を汲み上げドラム缶及びタンクに回収する。この事故による火災危険及び負傷者等はなし。											

25	主 原 因 操作未実施				着火原因				番号 ()				
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 立ち上げ準備の際、閉止状態でなければならないバルブの確認操作を怠り、ポンプを始動したため流出したもの。また、1人で確認を実施していたため、他の者も閉止状態を確認していなかった。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	人			本人の知識・能力			知識			忘れる			
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27	人 的 被 害								28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内の排水路に滞留する。					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0								
	第 三 者	0	0	0	0								
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類アルコール類 メタノール苛性溶液 約820L 流出 損害額 1万円未満、 1万円以上 (3 万円)			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人				
30	実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
調査													
31	防災活動上の問題点												
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				令和 4 年 10 月 31 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				気密試験等				年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				保 安 検 査				年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日											
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭							
35	今後の対策 や所見												
①ポンプ起動時に、送液系のバルブのへ開閉状態を確認する。②作業現場と計器室とで連絡を取りながら実施する。連結バルブに開閉の表示札を設ける。④洗浄排水系配管の途中で仕切り板を設ける。													

令和5年

1 事故名		地下タンク貯蔵所から一般取扱所へつながる地上配管より灯油が流出した事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		8月 22日 17時 00分		[推定]・確定		4 発 見		8月 24日 7時 00分			
5 覚 知		8月 24日 8時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了		8月 24日 12時 00分					
7 鎮火・処理完了		10月 16日 10時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：北北西		風速：3m/s		気温：36℃ 湿度：49%			
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：農業 農業 農業サービス業(園 番 号 (131) 芸サービス業を除く) 穀作 サービス業				11 発 生 場 所		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2, 203L 2. 2倍 倍数の合計： 2. 2倍 設置の完成：昭和 60年 8月 26日 直近の完成：昭和 60年 8月 26日			
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (13, 500L)					
名 称：ボイラー施設 番 号 (1505)											
能 力：乾燥設備93L/時											
13 機 器 等 温 度 圧 力：											
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		18 取扱者の概要		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
14 発 生 箇 所		名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)		材 質：鋼鉄		15 発 生 時		運 転 状 況：停止中 番 号 (5)			
15 発 生 時		作 業 状 況： 番 号 ()		20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所からサービスタンクへポンプ設備で送油し、サービスタンクから一般取扱所の乾燥設備につながる地上配管が、経年劣化により折損したことにより、灯油約13,500Lが敷地内に漏えいし、一級河川に流出したもの(河川への流出量は不明)											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

主 原 因	腐食疲労等劣化										着火原因										番号（ ）																																								
	関 連 原 因																																																												
	発生原因の状況： 設置から38年経過しており、地上配管で雨ざらしとなっているため腐食が進んだもの																																																												
	主原因の詳細																																																												
	第Ⅰ層					第Ⅱ層					第Ⅲ層					第Ⅳ層																																													
腐食					環境					多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）																																																			
因	関連原因の詳細																																																												
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																													
27 人 的 被 害										28 物的被害																																																			
<table><tr><td>被害内容等 区分</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は 職名</td></tr><tr><td>当 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>防災活動従事者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 三 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>										被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			<table><tr><td colspan="7">被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が事業所側溝から河川に流れ込み、流出量は不明であるが、河川2.5kmにわたり油膜が確認された。</td></tr><tr><td colspan="7">施設等の被害状況： 地上配管とL型継手のネジ部分折損</td></tr></table>										被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が事業所側溝から河川に流れ込み、流出量は不明であるが、河川2.5kmにわたり油膜が確認された。							施設等の被害状況： 地上配管とL型継手のネジ部分折損						
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																																							
当 事 者	0	0	0	0																																																									
防災活動従事者	0	0	0	0																																																									
第 三 者	0	0	0	0																																																									
被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が事業所側溝から河川に流れ込み、流出量は不明であるが、河川2.5kmにわたり油膜が確認された。																																																													
施設等の被害状況： 地上配管とL型継手のネジ部分折損																																																													
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										物質の被害状況：																																																			
消 防 機 関		2 台		0 隻		0 機		6 人		自 衛		0 台		0 隻		0 機		0 人		第4類第1石油類(非水溶性)灯油13, 500L流出																																									
消 防 団		0 台		0 隻		0 機		0 人		共 同		0 台		0 隻		0 機		0 人																																											
海上保安部		0 台		0 隻		0 機		0 人		応 援		0 台		0 隻		0 機		0 人																																											
その他の機関		5 台		0 隻		0 機		10 人		その他		0 台		0 隻		0 機		0 人		損害額 1万円未満、 1万円以上 (150 万円)																																									
30 実施した防災活動の状況																																																													
公設消防機関：番号（ 6、99 ） 調査活動										自衛防災・消防組織等 番号（ 4、5、6 ） オイルフェンス展張、回収作業																																																			
31 防災活動上の問題点																																																													
32 行 政 措 置	施 設 名									33 定 期 点 検 等	消 防 法				そ の 他																																														
	使用停止	年 月 日				年 月 日					定期・自主点検 気密試験等 保 安 検 査	令和 5 年 6 月 16 日				年 月 日																																													
	改善命令等	年 月 日				年 月 日						年 月 日				年 月 日																																													
	停止解除	年 月 日				年 月 日						年 月 日				年 月 日																																													
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：																																																		
そ の 他	年 月 日				年 月 日																																																								
35 今後の対策 や所見		・従業員の安全教育の徹底・日常的な点検の徹底																																																											

令和5年

1 事故名		一般取扱所の充填所へ送液する架構上の配管のフランジ部分からメタクリル酸が漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		11月 16日 9時 20分				[推定]・確定		4 発生見		11月 16日 9時 20分	
5 覚知		11月 16日 9時 58分				6 鎮圧 応急処置完了		11月 16日 11時 31分			
7 鎮火・処理完了		11月 20日 15時 55分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：西南西 風速：0.5m/s 気温：14℃ 湿度：65%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、[荷]、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新潟西港地区特別防災区域									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) メタクリル酸メチル 132,000L 660倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) MAA7°レント®GE-170 10,000L 10倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 2-ヒト°ロキシノ酪酸 176,200L 88.1倍 メチル 第4類第3石油類(水溶性液体) メタクリル酸 122,000L 30.5倍 第4類第3石油類(水溶性液体) ホルムアミト® 36,000L 9倍 倍数の合計： 797.6倍									
12 施設装置		設置の完成：平成 8年 12月 26日 直近の完成：令和 5年 8月 4日									
名称：ローリー充てん施設 番号 (1402)		17 物質の区分									
能力：充てん施設:476,200L/日											
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(水溶性液体) 名称：メタクリル酸(0.5L)									
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		18 取扱者の概要									
規模：配管径:内管80A(SUS304TP-S)、外管100A(SGP)、保温あり											
14 発生箇所		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201)		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
材質：ステンレス											
15 発生時											
運転状況：停止中 番号 (5)											
作業状況： 番号 ()											
19 危険物保安統括管理者											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 当該事業所の協力会社社員がパトロール中、屋外タンク貯蔵所(V-106)から一般取扱所(MMA充填所)へ送液する架構上の配管からメタクリル酸(第4類第3石油類(水溶性))が約0.5L漏えいしていたのを発見したもの。 当該配管内の残油を抜液し、内部水洗作業により安全化を完了した。 なお、当該災害による死傷者は発生していない。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送											

1 事故名		一般取扱所において運転立ち上げ準備の為、洗浄用危険物を別の回収缶に入れたことによる流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		11月 30日 3時 30分				[推定]・確定		4 発 見		11月 30日 5時 20分			
5 覚 知		12月 7日 11時 05分				6 鎮 圧 応急処置完了				11月 30日 5時 40分			
7 鎮火・処理完了		11月 30日 7時 05分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：雨 風向：南 風速：3.4m/s 気温：4.5℃ 湿度：98%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業(脂肪族系溶剤を含む)		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(水溶性液体) 酢酸メチル 471,170L 1,177.93倍 第4類アルコール類 メタノール 378,211L 945.53倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 第2石油類 12,000L 12倍											
		倍数の合計： 2,135.46倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称： その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959)		名 称： ホース(給油、注油及び注入ホースを除く) 番 号 (211)											
能 力： 処理能力 28,000t/年		材 質： 合成樹脂											
13 機 器 等		15 発 生 時											
名 称： その他の塔槽類 番 号 (199)		運 転 状 況： スタートアップ中 番 号 (2)											
規 模： 長さ12.2m、幅1.5m、高さ0.95m、容積15.5L		作 業 状 況： 洗浄中 番 号 (11)											
14 発 生 箇 所		17 物 質 の 区 分											
名 称： ホース(給油、注油及び注入ホースを除く) 番 号 (211)		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(水溶性液体) 名称： 酢酸メチル(110L) 第4類アルコール類 メタノール(90L)											
15 発 生 時		18 取扱者の概要											
運 転 状 況： スタートアップ中 番 号 (2)		経験年数12年											
作 業 状 況： 洗浄中 番 号 (11)		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 運転立ち上げ準備のため、温水を通したベルト酸化機及び配管の水分を除去するためメタノールと酢酸メチルを置換中、排出用のゴムホースと別なホースを回収用ドラム缶に入れたため、施設外に危険物約200Lが流出したものの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1, 8) 無 装置の緊急停止、防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等													

令和5年

1 事故名		一般取扱所内油清浄装置のレベルスイッチの動作不良調査中に弁が閉になり放出管よりタービン油が流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		3月 23日 7時 20分				推定・ 確定		4 発生見		3月 23日 7時 20分	
5 覚知		3月 23日 7時 55分				6 鎮圧 応急処置完了		3月 23日 7時 20分			
7 鎮火・処理完了		3月 23日 12時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：北北東 風速：3.6m/s 気温：14.5℃ 湿度：74.4%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新湊									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 5,994,000L 29,970倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 126,000L 126倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,767,000L 2,883.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 燃料添加剤 1,000L 0.5倍 第4類第4石油類 タービン油 170,000L 28.33倍									
		倍数の合計：33,008.33倍									
12 施設装置		13 機器等									
名称：発電装置 番 号 (4101)		温度圧力：23℃、0.34Mpa									
能力：10,000L/h		名称：その他 番 号 (999)									
規模：3,468mm×2,868mm, 高さ1,494mm容量14,286L		設置の完成：昭和 49年 3月 27日 直近の完成：令和 元年 6月 27日									
14 発生箇所		17 物質の区分									
名称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303)		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス									
材質：その他		5. 毒物 6. 劇物 7. その他									
15 発生時		(固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：タービン油 (200L)									
運転状況：定常運転中 番 号 (1)		18 取扱者の概要									
作業状況： 番 号 ()		経験年数12年									
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 油清浄装置油レベル調整弁制御用レベルスイッチの動作不良が疑われたため、主油タンクオーバーフロー弁を「開閉」して、油清浄装置レベル変動による調査を実施していた。調査中に油清浄装置レベルが上昇したため、主油タンクオーバーフロー弁を「閉」としたが、油移送ポンプ「自動起動」により更に油清浄装置油レベルが上昇し、油レベル調整弁が「閉」となり、タービン油200Lが大気放出管より漏えいした。なお、油受け容器の設置及び構外流出防止処置として排水ポンプを「切」とし、応急措置を実施した。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他											

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 操作確認不十分										
	発生原因の状況： 油レベル調整弁制御用レベルスイッチの動作不良の調査中に誤って漏えいしたもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	故障	機能		その他							
	関連原因の詳細										
	設備	監理・保守		点検・整備		確認不足					
因											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人 的 被 害					28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	被災影響範囲及び拡大の状況： 油清浄装置約200L流出(構外への流出なし)				
区分						職業又は 職名					
当 事 者	0	0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類タービン油 約200L流出(構外への流出なし)	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
							損害額 1万円未満、 1万円以上 (5 万円)				
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保 安 検 査	令和 4 年 11 月 3 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日			年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日			年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：				
	そ の 他	年 月 日		年 月 日							
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 や所見		今回の事象を下記の場所に掲示し、潤滑油系統操作時における注意喚起を行う。 ・主油タンクオーバーフロースイッチ弁 ・油清浄装置 操作スイッチ									

令和5年

1 事故名		一般取扱所のサービスタンク通気管からのA重油漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		5月 16日 16時 15分 推定・ 確定					4 発生見		5月 16日 16時 16分				
5 覚知		5月 16日 16時 21分					6 鎮圧 応急処置完了		5月 16日 17時 03分				
7 鎮火・処理完了		5月 16日 17時 03分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：北北東 風速：2.4m/s 気温：17.8℃ 湿度：84.9%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：分類不能の産業 分類不能の産 番 号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能 の産業		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 41,688L 20.84倍											
		設置の完成：平成 14年 4月 26日 直近の完成：平成 14年 4月 26日											
12 施設装置		17 物質の区分											
名称：その他のタンク 番 号 (1299)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
能力：		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
13 機器等		(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)											
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		(低温、 常温 [0-40℃]、高温)											
規模：容量2,430L、内径1,300mm、高さ2,035mm		分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(60L)											
14 発生箇所		18 取扱者の概要											
名称：通気管 番 号 (304)		①. 選任有 2. 選任無											
材質：鋼鉄		21 危険物取扱者の の取扱・立会い											
15 発生時		①. 有 2. 無											
運転状況：定常運転中 番 号 (1)													
作業状況：点検中 番 号 (5)													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 5月15日(月)から23日(火)までの予定で地下オイルタンク1〜3号機及び埋設配管の漏えい検査作業を行っていた。 作業2日目の16日は埋設配管の漏えい検査の作業中で、9時30分頃よりエネルギーセンター2階に設置されたサービスタンクを介して地下オイルタンク2号機から1号機へ重油を移送する作業を開始。同日、12時頃にサービスタンク上部より油漏れがあるのを発見し、移送を一時停止し、蓋の増し締めなどの調整を行い、16時頃より再度移送作業を再開したが、16時15分頃にサービスタンク通気口より重油が漏出しているのを職員が発見したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 維持管理不十分				着火原因				番号 ()			
原 因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 配管漏えい検査中、バルブ操作をしていた際に、返油管(鳥居形になっている箇所)にエアが混入し、重油が落差だけでは返油できず通気管より漏れ出たと推察する。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	人			本人の意識			思慮			過信		
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人 的 被 害							28 物的被害				
	被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 建物外部へ漏えい(長さ約10m、幅約0.6m)			
	当 事 者		0	0	0	0						
	防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 特になし			
	第 三 者		0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
	消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)A重油約50～60L漏えい。	
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)	
30	実施した防災活動の状況											
	公設消防機関：番号 (5) おがくずに漏えいした重油を吸着し回収。							自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31	防災活動上の問題点											
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等				消 防 法	そ の 他	
行 政 措 置	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				令和 2 年 10 月 27 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				気密試験等				令和 2 年 10 月 27 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日				保 安 検 査				年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無 内容：		
	そ の 他	年 月 日				1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭		
35	今後の対策 や所見 業者へ委託し、油ローリーを用意して移送ポンプにて地下タンクから地下タンクへ移送する作業を行う。											

令和5年

1 事故名		一般取扱所内の非常用ディーゼル発電設備の燃料油配管からの漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 8日 15時 34分				推定・ 確定		4 発生見		8月 8日 15時 34分			
5 覚知		8月 8日 16時 08分				6 鎮圧 応急処置完了				8月 8日 16時 07分			
7 鎮火・処理完了		8月 8日 17時 20分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：北西 風速：4m/s 気温：33℃ 湿度：66%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 15,000L 15倍 第4類第4石油類 潤滑油 3,900L 0.65倍											
12 施設装置		倍数の合計： 15.65倍 設置の完成：平成 4年 4月 14日 直近の完成：平成 4年 4月 14日											
名称：自家発電施設 番 号 (1503)													
能力：													
13 機器等		温度圧力：											
名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)													
規模：4,700kW													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：パッキング 番 号 (213)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材質：ゴム		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発生時		(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)											
運転状況：試運転中 番 号 (14)		(低温、 常温 [0-40℃]、高温)											
作業状況：点検中 番 号 (5)		分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (27L)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 非常用ディーゼル発電設備の月1回の定例試験の際、発電設備の燃料油配管の接続部付近から燃料(軽油)が漏えいしたもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因													
	発生原因の状況： 発電設備の燃料油配管の接続部のガスケットが割れ、接続部付近から燃料(軽油)が漏えいしたもの。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層				第Ⅳ層					
	疲労・劣化		環境		常に振動する環境下で疲労(想定内の振動であるが、材料が継続した疲労により損傷等)									
	関連原因の詳細													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人 的 被 害										28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 被害なし、一般取扱所内外への流出なし。					
当 事 者		0	0	0	0				施設等の被害状況： 接続部のガスケットの割れ					
防災活動従事者		0	0	0	0									
第 三 者		0	0	0	0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関		3 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 軽油27L			
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)			
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (5) 回収作業										自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点														
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等				消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				年 月 日				令和 4 年 6 月 16 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日		
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
	そ の 他	年 月 日				年 月 日								
35 今後の対策 や所見		再発防止対策(応急処置、早期通報の要領)の作成を指導。												

令和5年

1 事 故 名		ホームセンターに設置されている一般取扱所からの灯油の流出									
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		1月 25日 8時 30分				推定・ 確定		4 発 見		1月 25日 8時 30分	
5 覚 知		1月 25日 12時 30分				6 鎮 圧 応急処置完了				1月 25日 8時 30分	
7 鎮火・処理完了		1月 25日 8時 30分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：西北西 風速：1.6m/s 気温：-9.2℃ 湿度：60%									
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所									
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 各種商品小売業 番 号 (5599) その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの) その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,800L 9.8倍									
12 施 設 装 置		倍数の合計： 9.8倍 設置の完成：平成 21年 3月 24日 直近の完成：平成 21年 3月 24日									
名 称：販売店舗等 番 号 (1706)											
能 力：9,800L											
13 機 器 等		温 度 圧 力：									
名 称：固定給油(注油)設備 番 号 (911)											
規 模：最大取扱量 9,800L/日											
14 発 生 箇 所		17 物 質 の 区 分									
名 称：給油(注油)ノズル 番 号 (909)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス									
材 質：合成樹脂		5. 毒物 6. 劇物 7. その他									
15 発 生 時		(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)									
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		(低温、 常温 [0-40℃]、高温)									
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (1L)									
18 取扱者の概要											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： ホームセンター敷地内の一般取扱所で灯油を販売していたところ、灯油計量機から灯油が噴出したもの。灯油の噴出に気が付いた従業員が機器の停止ボタンを押したことにより、灯油の流出は止まった。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因								
	発生原因の状況： 灯油計量機のホースとノズルの接続部で使用しているパッキンが劣化して亀裂が生じたことにより、その亀裂部分から灯油が噴出したもの。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人 的 被 害							28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 霧状に噴出した灯油1Lが風で拡散したが、施設周囲に灯油による汚染は確認出来なかった。	
区分									
当 事 者	0	0	0	0					
防災活動従事者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 地上式の灯油計量機1基を破損	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油1L流出		
							損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99) 施設外への灯油の流出が無いことを確認。						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 破損した機器の緊急停止。			
31 防災活動上の問題点 事故発生時から通報時まで時間を要した。									
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	令和4年9月5日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 消防法第13条第3項 製造所等における危険物取扱者以外の者の危険物の取扱い		
	そ の 他	年	月	日	年				月
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見		事故が起きていない灯油計量機についても点検を実施するよう指導した。また、危険物取扱者以外の者が危険物を取り扱う際は必ず危険物取扱者が立ち会うこと及び事故発生時は直ちに消防機関その他関係のある者に通報するよう指導した。							

令和5年

1 事故名		一般取扱所における重油の漏えい事故							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発 生		5月 8日 9時 00分		[推定]・確定		4 発 見		5月 8日 10時 42分	
5 覚 知		5月 8日 10時 47分		6 鎮 圧 応急処置完了		5月 8日 11時 47分			
7 鎮火・処理完了		5月 8日 16時 21分							
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()							
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：北西		風速：4.6m/s		気温：13.6℃ 湿度：61.1%	
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル				11 発 生 場 所		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 3,200L 1.6倍 倍数の合計： 1.6倍 設置の完成：昭和 59年 5月 17日 直近の完成：昭和 59年 5月 28日	
12 施 設 装 置						17 物 質 の 区 分			
名 称：自家発電施設 番 号 (1503)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
能 力：燃料槽 A重油150L						5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
13 機 器 等						温度圧力：			
名 称：発電機 番 号 (704)		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(290L)							
規 模：オイルギアポンプ性能 29L/分									
14 発 生 箇 所									
名 称：その他 番 号 (999)		18 取扱者の概要		経験年数11年					
材 質：その他		19 危険物保安 統括管理者		20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
15 発 生 時									
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		1. 有 ②. 無			
作 業 状 況：その他 番 号 (99)									
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無									
23 事 故 の 概 要： 地下タンク貯蔵所から1階のボイラー室に設置されたサービスタnkを経由し、同室ボイラー設備及び3階屋上の非常発電機で重油を消費していた一般取扱所において、非常用発電機のギアポンプを手動に切り替えたことにより重油が強制的に送油され、非常用発電機の燃料タンクから重油がオーバーフローし3階の屋上に漏えい。漏油した重油が施設の雨水配管に流れ施設の地下にある湧水槽内へ流入。湧水槽で重油が混入した汚染水が雨等により一定量となり、湧水槽の排水ポンプが作動し汚染水が側溝に漏えい。 ※施設内の流出事故は令和5年3月上旬であり日時については不明。施設内流出時の事故報告なし。									
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]									

原因	25	主 原 因 誤操作				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因 維持管理不十分												
	発生原因の状況： 非常用発電機については、通常は停止状態。停電等の非常時に作動し燃料が減ると自動で燃料を供給するようギアポンプの制御盤スイッチは常時、自動に設定されていたが、令和5年3月初旬にスイッチが手動に切り替えられていた経過があり、重油が非常用発電機に送油され、過剰に送油された重油が燃料タンクからオーバーフローし、3階の屋上に漏えい。同階の雨水配管に流れた重油が湧水槽に流入し、重油が混入した汚染水が湧水槽で一定量になり湧水槽の排出ポンプが自動で作動したことにより汚染水がホテル東側側溝に流入した。												
	主要原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
	設備		監理・保守		監理		その他						
	管理		組織		人員配置(役割・責任)		人の配置が不適切						
	管理		監督		監視		監視がない						
	関連原因の詳細												
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足						
因	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害								28 物的被害					
区分 \ 被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋上3階の非常用発電機の燃料タンクからオーバーフロー。屋上雨水配管をつたい、施設湧水槽内へ流入。施設屋外東側側溝に排出され、付近の河川約200mに流出したもの。湖への流出は確認できず。					
		当 事 者	0	0	0	0							
		防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設湧水槽内の汚染				
		第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関		3 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： A重油 290L		
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関		2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (3 万円)		
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (6) 東側側溝に流入した重油が河川へ流入。湖への流入を防ぐため、万国旗型のオイルマットを設定したもの。							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32	施設名							33	定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	行	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和 5 年 6 月 19 日	年 月 日		
		改善命令等	年 月 日			年 月 日				令和 5 年 6 月 19 日	年 月 日		
		停止解除	年 月 日			年 月 日				年 月 日	年 月 日		
	措	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有 ・無 内容： 点検未実施 危険物無資格者による取扱い			
		そ の 他	年 月 日			年 月 日							
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭								
35		今後の対策 や所見 施設屋外東側の側溝の洗浄実施。 施設の湧水槽内の洗浄を実施。今後バクテリアを入れ長期にわたり洗浄をしていく。 危険物取扱者の選任。次回試験後、選任予定。											

1 事故名		一般取扱所での送油ポンプの配管の不良により配管から灯油約1100Lが流出した事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		9月 7日 12時 20分	
5 覚 知		9月 7日 12時 27分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		9月 7日 18時 25分	
7 鎮火・処理完了		9月 7日 18時 25分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北東 風速：5m/s 気温：28℃ 湿度：53%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：教育・学習支援業 学校教育 小 番 号 (7611) 学校 小学校				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000L 4倍			
12 施 設 装 置							
名 称：ボイラー施設		番 号 (1505)					
能 力：暖房機用ボイラー							
13 機 器 等		温 度 圧 力：					
名 称：ポンプ		番 号 (501)					
規 模：ボイラー設備							
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成 29年 10月 24日 直近の完成：平成 29年 10月 24日		倍数の合計： 4倍	
名 称：その他の附属配管等		番 号 (299)		17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (1,100L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運 転 状 況：定常運転中		番 号 (1)					
作 業 状 況：運転操作中		番 号 (1)					
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 一般取扱所のサービスタンクへ送る配管のバルブが閉じられた状態で送油ポンプが稼働し続けたため、送油ポンプと配管の結合部のパッキン部分から灯油が噴出したもの。							
24 緊急処置の状況 ☒ 有 番号 (10) 無 その他							

原 因	25 主 原 因 不明	着火原因				番号 ()		
	関 連 原 因 不明							
	発生原因の状況： 何らかの理由でパッキン部分から灯油が噴出したもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害						28 物的被害		
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内に灯油約1, 100Lが流出
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							施設等の被害状況： 一般取扱所に常置されていた収容物(書類、備品) に付着	
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油灯油約1, 100Lが流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	2 台 0 隻 0 機 4 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況							損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)	
31 防災活動上の問題点 速やかに通報している。								
政 策 措 置	32 施 設 名			33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭						

令和5年

1 事故名		反応釜からトルエンを送液した際に同一の配管系統上にあった通気ラインから噴出し、河川へ漏えいした事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		1月 29日 19時 32分				[推定]・確定		4 発生見		1月 29日 20時 00分	
5 覚知		1月 30日 0時 29分				6 鎮圧 応急処置完了				1月 30日 1時 53分	
7 鎮火・処理完了		1月 30日 1時 53分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北 風速：0.5m/s 気温：1.4℃ 湿度：61%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 医薬品製造 番号 (1761) 業 医薬品原薬製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン、ド`リジ`ン、 11,940L 59.7倍 酢酸`エチル、ノルマルヘキサン、トリエチル`アミン、イソブ`ロピ`ルエー`ラル									
12 施設装置		14 発生箇所									
名称：屋内タンク 番号 (1208)		設置の完成：昭和 53年 2月 2日 直近の完成：令和 4年 10月 28日									
能力：5,000L		17 物質の区分									
13 機器等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：トルエン(1,000L)									
温度圧力：		倍数の合計： 59.7倍									
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)		18 取扱者の概要									
規模：5,000L		経験年数4年									
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者									
名称：通気管 番号 (304)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
材質：ステンレス											
15 発生時											
運転状況：定常運転中 番号 (1)											
作業状況：運転操作中 番号 (1)											
22 設備・機器等の概要：		23 事故の概要：									
オンラインファイル無		反応釜からトルエンを送液した際に送液速度を大きく設定してしまい、同一の配管系統上にあった通気ラインから屋外へ噴出し、敷地内排水溝から河川へ漏えいした事故									
24 緊急処置の状況		[有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止									

原因	25	主 原 因 操作確認不十分				着火原因				番号 ()																																								
	関 連 原 因																																																	
	発生原因の状況： 反応釜からトルエンを送液した際に送液速度を大きく設定してしまい、同一の配管系統上にあった通気ラインから屋外へ噴出し、敷地内排水溝から河川へ漏えいした。																																																	
	主原因の詳細																																																	
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																								
	人			本人の知識・能力			知識			知識不足																																								
	関連原因の詳細																																																	
因																																																		
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																		
27 人 的 被 害												28 物的被害																																						
<table><tr><td>被害内容等</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は職名</td></tr><tr><td>区分</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>当 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>防災活動従事者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 三 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>												被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が事業所の排水溝から河川に流れ込み、650L程度流出した。流出範囲は敷地境界線より川下200m～300m地点でオイルマットで回収実施したため推定200～300mとする。 350L程度は事業所内で回収済み。			
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																												
区分																																																		
当 事 者	0	0	0	0																																														
防災活動従事者	0	0	0	0																																														
第 三 者	0	0	0	0																																														
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												物質の被害状況： 廃棄処理予定のトルエン 1,000L																																						
消 防 機 関 3 台 0 隻 0 機 6 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																		
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																		
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																		
その他の機関 2 台 0 隻 0 機 4 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人												損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)																																						
30 実施した防災活動の状況																																																		
公設消防機関：番号 (99)												自衛防災・消防組織等 番号 (4、5)																																						
調査活動												流出防止措置、回収作業																																						
31 防災活動上の問題点 連絡を受けて駆け付けた県事務所の職員が消防機関へ通報している。危険物漏えい事故の場合は通報の必要がないと認識していたため、速やかに通報するよう指導した。																																																		
行政措置	32	施設名				33	定期点検等	消 防 法	そ の 他																																									
	行	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和4年 7 月 1 日	年 月 日																																										
		改善命令等	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日																																										
		停止解除	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日																																										
		関係条項																																																
	措	そ の 他	年 月 日	年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：																																											
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭																																																
35		今後の対策 や所見 同一の配管系統上にある通気ラインと送液ラインを別系統とさせることで誤送液を防ぐこと。 火災事故だけでなく、漏えい事故であっても消防機関へ通報するよう従業員に周知徹底すること。																																																

[illegible]

原因	25 主 原 因	誤操作				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 予備フィルターに圧縮空気を流し込み、残存しているEGを回収EG受槽に押し流して、予備フィルター内のEGを排出しようとしたが、誤って隣接している冷却水のバルブに接続し作業を継続、回収EG槽バルブから想定を超える液が流れ、もう一方のドレンバルブから漏れたと思いバルブを操作した。実際には閉まっていたバルブを開けてしまい、冷却水配管へ逆流したもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	人			本人の意識			思慮			不注意			
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害								28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： パッファ槽及び場外に流出					
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設の被害は無し					
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(水溶性)エチレングリコール92L(内34Lが場外へ)流出。 場外への流出範囲は不明。付近河川の魚類への影響はなし。		
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 調査活動							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報が直後ではなく、2日後の事後となった。													
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：	
	そ の 他	年 月 日				年 月 日							
35 今後の対策 や所見		隣接している圧縮空気と冷却水のバルブの形状・サイズを異なるものに替え、誤って接続しないように改修を実施。また、冷却水の配管に逆止弁を導入。(令和5年5月1日改修確認済み)											

1 事故名		一般取扱所において、容器内にて材料の調合中、化学反応により容器内圧力が耐圧を超過し危険物が流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		7月 19日 14時 10分				[推定]・確定		4 発 見		7月 19日 14時 10分			
5 覚 知		7月 28日 9時 43分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了				7月 19日 16時 00分			
7 鎮火・処理完了		8月 16日 9時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 西南西 風速： 0.7m/s 気温： 31.9℃ 湿度： 57.4%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： ① 特別防災区域内 ② 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 精密機械器具製造業 番 号 (3161) 眼鏡製造業(枠を含む) 眼鏡製造業(枠を含む)		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第1類硝酸塩類(第1種酸化性固体) 硝酸カリウム 50kg 1倍 第2類硫黄 硫黄 158kg 1.58倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 144L 0.36倍 第4類第1石油類(水溶性液体) チタニアゾール 77L 0.19倍 第4類第1石油類(水溶性液体) シリコン溶液 90L 0.23倍 第4類7Lアルコール類 メタノール 307L 0.77倍 第4類7Lアルコール類 イソプロピルアルコール 939L 2.35倍 第4類7Lアルコール類 エチルアルコール 136.5L 0.34倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) フタール 456L 0.46倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) イソフタール 36L 0.04倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スクリーンインキ類 29.1L 0.03倍 第4類第2石油類(水溶性液体) プロピレングリコールモノメチルエーテル 632L 0.32倍 第4類第2石油類(水溶性液体) ジアセトンアルコール 599L 0.3倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) スルフト 1,022L 0.51倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) メルカプタン 93L 0.05倍 第4類第3石油類(水溶性液体) N-メチルピロリドン 116L 0.03倍 第4類第4石油類 石油系炭化水素及び添加剤 1,148L 0.19倍 倍数の合計： 8.75倍											
12 施 設 装 置		13 機 器 等											
名 称： 配合室 番 号 (1707)		温度圧力：											
能 力：		14 発 生 箇 所											
名 称： 容器本体 番 号 (108)		15 発 生 時											
材 質： ステンレス		運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)											
15 発 生 時		作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 一般取扱所内にて、プラスチック材料の調合作業を行った際、工程にある化学物質の冷却を怠ったため、金属容器内で調合していた化学物質の化学反応が急激に進行し容器内圧が高まり、容器上蓋及びタンク内物質が飛散した。作業員1名背部を受傷。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 操作未実施				着火原因				番号 ()																														
原 因	関 連 原 因 故障																																						
	発生原因の状況： 通常時、温度及び屈折率を測定する機械により調整していたが、機械が故障したことにより作業者の体感で温度管理を行ったため。																																						
	主原因の詳細																																						
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																													
	人			本人の意識			思慮			思い込み																													
	関連原因の詳細																																						
	故障			機能			機器の機能の停止																																
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																							
27 人的被害								28 物的被害																															
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>飛散した容器上蓋に接触</td> <td>作業員</td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	1	飛散した容器上蓋に接触	作業員	防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： キャスト調合室25㎡内に化学物質が飛散した。			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																	
当 事 者	0	0	0	1	飛散した容器上蓋に接触	作業員																																	
防災活動従事者	0	0	0	0																																			
第 三 者	0	0	0	0																																			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								施設等の被害状況： 容器(ステンレスベッセル)破損。キャスト調合室壁張替え。																															
消防機関 2台 0隻 0機 7人 自衛 0台 0隻 0機 0人								物質の被害状況：																															
消防団 0台 0隻 0機 0人 共同 0台 0隻 0機 0人								第2類第1種可燃性固体硫黄5.8kg、第4類第3石油類(非水溶性)スフィード類17.71kg、第4類第3石油類(非水溶性)メルカブタン1.5kgの飛散																															
海上保安部 0台 0隻 0機 0人 応援 0台 0隻 0機 0人																																							
その他の機関 0台 0隻 0機 0人 その他 0台 0隻 0機 0人								損害額 1万円未満、 1万円以上 (1,253 万円)																															
30 実施した防災活動の状況																																							
公設消防機関：番号 (99) 調査活動を実施する。								自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業																															
31 防災活動上の問題点 事故発生から10日後の通報。危険物の取扱い、危険性の認識教育不足。																																							
32 行政措置	施設名	一般取扱所						33 定期点検等	消 防 法		そ の 他																												
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日		年 月 日																												
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日		年 月 日																												
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日		年 月 日																												
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 法第10条第3項 危険物等における危険物の貯蔵、取扱いの基準違反																														
	その他	令和5年8月3日 ①. 文書 2. 口頭			年 月 日 1. 文書 2. 口頭																																		
35	今後の対策や所見 温度監視を行う屈折率計が使用できない場合、調査を行わない。冷却水による冷却は、手動で行っていたが自動で流れるようにする。																																						

令和5年

1 事故名		一般取扱所において、固定給油(注油)設備から移動タンク貯蔵所へ軽油を充填中に流出したもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		11月 30日 5時 25分				[推定]・確定		4 発生見		11月 30日 5時 30分	
5 覚知		11月 30日 9時 07分				6 鎮圧 応急処置完了				11月 30日 9時 15分	
7 鎮火・処理完了		11月 30日 9時 15分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：北東 風速：2m/s 気温：11℃ 湿度：64%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号(5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業		区分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 7,000L 7倍									
		倍数の合計：10倍									
12 施設装置		設置の完成：平成8年9月20日 直近の完成：平成8年9月20日									
名称：番号()											
能力：											
13 機器等		温度圧力：常温、常圧									
名称：固定給油(注油)設備		番号(911)									
規模：幅800mm、高さ1,450mm、奥行360mm											
14 発生箇所		17 物質の区分									
名称：給油(注油)ノズル		番号(909)									
材質：アルミニウム		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温][0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：荷積中		番号(12)									
作業状況：充填中		番号(12)									
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 一般取扱所において、危険物取扱者が固定給油(注油)設備からラッチ式ノズルにて移動タンク貯蔵所へ軽油を充填中に目を離したところ、タンクの注入口から溢れ出しているのを発見する。直ちに固定給油(注油)設備を停止し、中和剤にて施設内(屋外)の漏油処理を実施する。なお、この時は、消防機関等には通報せず。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号(1) 無 装置の緊急停止											

25	主 原 因 操作確認不十分				着火原因				番号 ()				
原 因	関 連 原 因 監視不十分												
	発生原因の状況： 危険物取扱者がラッチ式ノズルの自動停止機能の構造と仕組みを十分に理解しておらず、操作確認が不十分であったこと。また、その後の監視が不十分であったことが、流出事故に繋がった。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	人			本人の知識・能力			知識			知識不足			
	関連原因の詳細												
	人			本人の意識			違反(故意)			怠慢			
	因												
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27	人 的 被 害							28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 軽油が施設内(屋外)に幅約3m、長さ約3mにわたり 流出する。					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0								
	第 三 者	0	0	0	0								
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 軽油の流出。(流出量は不明。)			
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機				0 人
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機				0 人
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機				0 人
30	実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 ()							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31	防災活動上の問題点												
32	施 設 名							33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他		
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日		年 月 日	
		改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日		年 月 日	
		停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日		年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：				
	そ の 他	年 月 日			年 月 日								
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭								
35	今後の対策 や所見												
ラッチ式ノズルで充填する際の操作確認と監視の徹底。													

1 事故名		一般取扱所の20号タンクにおいて、液移送時に短管を復旧せずに操作したため、C9留分が流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		6月 26日 16時 54分				推定・ 確定		4 発生見		6月 26日 17時 00分	
5 覚知		6月 26日 17時 53分				6 鎮圧 応急処置完了				6月 28日 16時 45分	
7 鎮火・処理完了		6月 28日 16時 45分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南南西 風速：0.5m/s 気温：24.5℃ 湿度：88%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 第2種 、その他) 業態：製造業 化学工業 油脂加工製 番 号 (1753) 品・石けん・合成洗剤・界面活性 剤・塗料製造業 界面活性剤製 造業(石けん、合成洗剤を除く)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 四日市臨海									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) C9留分 261,356L 261.36倍 第4類7アルコール類 メタノール 575L 1.44倍									
12 施設装置		設置の完成：昭和 42年 10月 31日 直近の完成：平成 30年 6月 29日									
名称：屋内タンク 番 号 (1208)											
能力：											
13 機器等		温度圧力：27.23℃									
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		倍数の合計：262.8倍									
規模：直径1,900mm、高さ2,790mm、容量5,000L											
14 発生箇所											
名称：開閉弁 番 号 (204)		17 物質の区分									
材質：ステンレス		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：C9留分(4,000L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：スタートアップ中 番 号 (2)		経験年数10年									
作業状況：抜取中 番 号 (14)											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事故の概要： スタートアップのためC9留分をタンク間で移送する際に、定期修理中に取り外していたタンク底の短管を復旧しないまま液移送を開始したため、タンクからC9留分が4,000L漏えいし、その内構内の暗渠を通じて河川へ300L流出したものと。 死傷者なし。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因		維持管理不十分						
	発生原因の状況：								
	・定期修理中に取り外した短管についての情報共有及び引継ぎができていなかった。 ・取り外した短管の復旧状況の点検がされていなかった。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	人		本人の意識		思慮		思い込み		
因	関連原因の詳細								
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順の内容が不適切		
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足		
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいしたC9留分が暗渠を通じて河川へ流出した。(約2.0km)	
区分									
当 事 者	0	0	0	0					
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 被害なし。	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	22 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	1 台	0 隻	0 機	1 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	10 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
物質の被害状況：						第4類 第2石油類(非水溶性液体)名称:C9留分 4,000L流出			
その他の機関						損害額 1万円未満、 1万円以上 (3 万円)			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (4、8)						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5、6)			
・河川上の油回収のため、吸着マットにより拡散防止措置を実施 ・消防車両1台で付近住民への広報活動実施						・構内に漏えいした油を吸着マットにて回収 ・雨水用排水溝内に土嚢を設置 ・雨水排水溝内の油を水中ポンプにて回収 ・河川へ通ずる暗渠と雨水排水溝間のゲートバルブ閉鎖			
31 防災活動上の問題点									
通報の遅れが生じたもの。(発生から通報まで約1時間かかっている)。・河川へ通ずる暗渠と雨水排水溝間のゲートバルブ閉鎖時、ゲートが不作動であった。									
行政措置	32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 6 月 9 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	☒ 有・無 内容： 消防法第13条の23 危険物取扱者講習の未受講		
	そ の 他	再発防止について		令和 5 年 7 月 19 日					
35 今後の対策や所見		・作業指示書及びチェックリストの改訂 ・定期修理中及びスタートアップ時の運用方法の変更							

1 事 故 名		無許可工事に伴う配管からの灯油の流出											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		10月 2日 17時 00分				推定・確定		4 発 見		10月 2日 17時 00分			
5 覚 知		10月 3日 15時 33分				6 鎮 圧 応急処置完了				10月 3日 18時 10分			
7 鎮火・処理完了		10月 3日 18時 10分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：東北東 風速：1.7m/s 気温：24.2℃ 湿度：48%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 輸送用機械器具製造業 番 号 (3013) 自動車・同附属品製造業 自動 車部分品・附属品製造業		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 洗浄油、廃油 156, 100L 156. 1倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 防錆油、潤滑油 30, 500L 15. 25倍 第4類第4石油類 防錆油、作動油 11, 900L 1. 98倍											
		倍数の合計： 173. 33倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称：洗浄装置 番 号 (6105)		名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)											
能 力：		材 質：鋼鉄											
13 機 器 等		温 度 圧 力：											
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		17 物 質 の 区 分											
規 模：100A		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (4, 000L)											
14 発 生 箇 所		18 取扱者の概要											
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		経験年数7年											
材 質：鋼鉄		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
15 発 生 時		21 危険物取扱者の の取扱・立会い											
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		①. 有 2. 無											
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所において無許可工事が行われ、接続配管の確認を怠ったため開放されたフランジからビット内に灯油が4, 000L漏えいしたものの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 施工不良						着火原因						番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分																	
	発生原因の状況： 一般取扱所において無許可工事が行われ、接続配管の確認を怠ったため開放されたフランジからピット内に灯油が4,000L漏えいしたもの。																	
	主原因の詳細																	
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層					
	施工不良				施工				施工内容の間違い									
	関連原因の詳細																	
	人				本人の意識				違反(故意)				問題意識の不足					
因																		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																		
27 人的被害																		
28 物的被害																		
被害内容等										被災影響範囲及び拡大の状況：								
区分										一般取扱所ピット内において灯油が4,000L漏えいしたもの。								
当 事 者										死亡 0 重症 0 中等症 0 軽症 0 死傷原因 職業又は職名								
防災活動従事者										施設等の被害状況：								
第 三 者										漏えいによる物的被害なし。								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		
消 防 機 関										物質の被害状況：								
消 防 団										灯油(第4類第2石油類)4,000L								
海上保安部																		
その他の機関										損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (70 万円)								
30 実施した防災活動の状況																		
公設消防機関：番号 (99)										自衛防災・消防組織等 番号 ()								
調査活動																		
31 防災活動上の問題点 事故発生時の消防機関への通報の遅延。																		
32	施設名 一般取扱所																	
	使用停止 令和5年10月3日 年 月 日																	
	改善命令等 年 月 日 年 月 日																	
	停止解除 令和5年10月25日 年 月 日																	
	関係条項 消防法第12条の3第1項																	
	そ の 他 年 月 日 年 月 日																	
33	定期点検等																	
	定期・自主点検 令和5年6月8日 年 月 日																	
	気密試験等 令和5年6月8日 年 月 日																	
34	保安検査 年 月 日 年 月 日																	
	当該施設に係る法令違反の有無																	
	有・無 内容： 消防法第11条第1項違反(無許可工事)																	
35 今後の対策や所見 ・法令の遵守及び社内教育の実施・予防規程の見直し・事故発生時の消防機関への早期通報																		

1 事故名		ローリー充填場でのA重油漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 8日 12時 00分				推定・確定		4 発生見		8月 8日 12時 00分			
5 覚知		8月 8日 12時 18分				6 鎮圧 応急処置完了				8月 8日 12時 45分			
7 鎮火・処理完了		8月 8日 12時 45分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東 風速：2m/s 気温：36℃ 湿度：											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番号 (1811)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 堺・泉北臨海地区特別防災区域											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 400,000L 2,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,400,000L 1,400倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 2,000,000L 1,000倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 70,000L 35倍 第4類第4石油類 シンター油 50,000L 8.33倍 倍数の合計： 4,443.33倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 24年 12月 7日 直近の完成：令和 3年 6月 24日											
名称：ローリー充てん施設 番号 (1402) 能力：48レーン140口設置		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(40L)											
名称：ローディングアーム 番号 (604) 規模：アーム長さ3,600mm 口径100mm		18 取扱者の概要											
14 発生箇所		経験年数35年											
名称：マンホール 番号 (305) 材質：鋼鉄		19 危険物保安統括管理者											
15 発生時		20 危険物保安監督者											
運転状況：荷積中 番号 (12) 作業状況：充填中 番号 (12)		21 危険物取扱者の取扱・立会い											
22 設備・機器等の概要：		①. 有 2. 無											
オンラインファイル無													
23 事故の概要：													
ローリー充填場において、充填中の強制的な先端弁の開閉及び固定器具による固定を行わないローディングアームの出し入れにより、ローリー上部のシェルター内にA重油約40L漏えいしたものの。													
24 緊急処置の状況		有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因		誤操作		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因		維持管理不十分					
	発生原因の状況：		ローリー底弁の閉止確認不足及び積込み作業時の不適切な作業のため。					
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人	本人の意識	違反(故意)		問題意識の不足			
	関連原因の詳細							
	人	本人の意識	違反(故意)		怠慢			
因								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害							28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし
区分								
当 事 者	0	0	0	0		従業員		
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	6 台 0 隻 0 機 17 人	自 衛	3 台 0 隻 0 機 11 人	物質の被害状況： A重油40L漏えい				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
						損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、警戒体制						自衛防災・消防組織等 番号 (5) ドレンホースからペール缶による油回収		
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 3 年 7 月 2 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	危険物の規制に関する政令第31条		34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無			
	そ の 他	令和 5 年 9 月 26 日 1. 文書 2. 口頭		年 月 日 1. 文書 2. 口頭		内容：		
35 今後の対策や所見		発災事業所により、当該陸運会社と運転手に対して、再発防止のため手順書の遵守、安全作業の徹底を指導。						

令和5年

1 事故名		発電機の小出槽のフロートスイッチ端子台の誤配線により、地下タンクからの給油が止まることなく油が流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 10日 9時 48分				[推定]・確定		4 発生見		8月 10日 9時 48分			
5 覚知		8月 10日 10時 24分				6 鎮圧 応急処置完了				8月 10日 9時 49分			
7 鎮火・処理完了		8月 10日 13時 30分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東 風速：7.1m/s 気温：29.2℃ 湿度：54.7%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：分類不能の産業 分類不能の産業 番号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能の産業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 24,938.4L 12.47倍											
12 施設装置		設置の完成：令和3年10月27日 直近の完成：令和5年8月10日											
名称：自家発電施設 番号 (1503)													
能力：発電機 消費量(1,039.1L/時)													
13 機器等		温度圧力：											
名称：計測装置 番号 (703)		倍数の合計：12.47倍											
規模：小出槽 寸法(幅1,260mm、奥行640mm、高さ840mm、容量615L)													
14 発生箇所													
名称：配線、スイッチ類 番号 (402)		17 物質の区分											
材質：銅		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温][0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(150L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：スタートアップ中 番号 (2)		経験年数9年											
作業状況：その他 番号 (99)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 変更許可申請をしていた発電機の小出槽の完成検査済証が発行されたため、空の小出槽に給油をしようと工事前に離線していたフロートスイッチ端子台の結線作業をしていたところ、突然A重油の給油が開始された。フロートスイッチが反応せず給油が続き、返油ポンプを起動させたが給油量が上回ったため、半開き状態であった点検口よりA重油が飛散し流出した。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他													

原 因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因 操作確認不十分					
	発生原因の状況： フロートスイッチ端子台のマークチューブの番号間違いが竣工時に是正されておらず、また、今回の作業時に離線前の端子接続写真の確認を怠り、間違ったままのマークチューブの番号で接続したため。					
	主要原因の詳細					
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層		
	施工不良	施工	工事時の措置不良			
	関連原因の詳細					
	設備	監理・保守	監理	施工監理が不適切		
因						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人 的 被 害				28 物的被害		
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名
当 事 者	0	0	0	0		
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
28 物的被害 被災影響範囲及び拡大の状況： 小出槽の点検口よりA重油150Lが飛散し流出。飛散したA重油が小出槽周辺の壁2面の表面に貼られた防音材に横巾3mと2.1m、高さそれぞれ1.5mの範囲及び小出槽近位に設置の返油ポンプ1基に付着したことにより損壊、A重油は防油堤内に留まる。						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況 物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)A重油 150L流出						
30 実施した防災活動の状況 公設消防機関：番号 (99) 警戒活動						
自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業						
31 防災活動上の問題点 事故発生後、速やかに通報していない。						
政 策 措 置	32 施 設 名	一般取扱所		33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	令和 5 年 8 月 10 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 4 年 9 月 20 日	令和 5 年 8 月 6 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	令和 5 年 9 月 4 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：	
	そ の 他	年 月 日	年 月 日			
35 今後の対策 や所見 (対策) ・作業マニュアルの作成 ・従業員の安全教育の実施 (所見) ・当該事業所に対し、作業マニュアルの作成及び従業員への教育で安全管理を徹底するように指導したところですが、 今後は、管内の他の事業所に対しても同様事故の発生防止のため注意喚起及び指導等を行う必要がある。						

令和5年

1 事故名		一般取扱所において、硫黄出荷ラインの弁から気密不良により硫黄漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		8月 16日 13時 10分	
5 覚 知		8月 16日 13時 33分		6 鎮 圧 応急処置完了		8月 16日 14時 25分	
7 鎮火・処理完了		8月 16日 17時 32分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南西 風速：5m/s 気温：31.4℃ 湿度：77.1%					
10 発 生 事 業 所		種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所	
12 施 設 装 置						区 分：①. 事業所内 (製、貯、 荷 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 堺・泉北臨海特別防災区域	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類硫黄 硫黄 4,993,000kg 49,930倍	
						倍数の合計： 49,930倍	
14 発 生 箇 所		設 置 の 完 成：昭和 46年 8月 11日 直 近 の 完 成：年 月 日		17 物 質 の 区 分			
名 称：ローリー充てん施設 番 号 (1402)		15 発 生 時		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類： 第2類硫黄 名称： 硫黄 (0.5L)			
能 力：200t/日							
13 機 器 等							
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)		18 取扱者の概要		19 危険物保安統括管理者			
規 模：4,993t		20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い			
14 発 生 箇 所		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		①. 有 2. 無			
名 称：開閉弁 番 号 (204)							
材 質：鋳鉄							
15 発 生 時							
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)							
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)							
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 作業員がパトロール中に出荷ラインのバルブ付近から白煙のようなものを発見し、確認したところ微量の二酸化硫黄ガスを検出したことから硫黄の漏えいが判明したもの。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化					着火原因					番号 ()						
原因	関 連 原 因 維持管理不十分																
	発生原因の状況：																
	出荷ラインの弁のグランド部において、弁が摩耗劣化しグランド漏れが生じたもの。 また白煙については、硫黄の微量漏えいにより硫黄が固着しており、弁を覆う保温板金内に硫黄のペーパーが充満し、酸素と反応したことで二酸化硫黄が発生した。次に板金内で二酸化硫黄が生成されることで板金内が酸素欠乏状態となり、硫黄のペーパーが弁体の鉄と結合し、硫化鉄が生成された。さらに板金の一部が破損し穴が開いていたことで、事故発生前日の台風の影響により板金内に多くの空気(酸素)が流入し、硫化鉄と空気が反応したことにより、酸化鉄が発生、くすぶりに至ったもの。																
	主要原因の詳細																
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層							
	疲労・劣化			素材等の劣化			長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）										
	関連原因の詳細																
	設備			監理・保守			点検・整備			点検内容が不適切							
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																
27	人 的 被 害										28 物的被害						
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：								
									漏えい箇所(弁)及び下部配管に硫黄が付着								
	当 事 者		0	0	0	0											
	防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：								
第 三 者		0	0	0	0			漏えい箇所(弁)									
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																
消 防 機 関	15 台	0 隻	0 機	39 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	9 人	物質の被害状況：							
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人								
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人								
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人								
損害額 1万円未満、1万円以上(55 万円)																	
30	実施した防災活動の状況																
公設消防機関：番号 (99)										自衛防災・消防組織等 番号 (99)							
警戒筒先配備										警戒筒先配備							
31	防災活動上の問題点																
二酸化硫黄ガスが発生していたので、空気呼吸器着装など進入統制されており、漏えい箇所の確認が困難であった。弁本体に保温材及び錆が強く固着していたため、弁の増し締めなど応急措置をとることに時間を要した。																	
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等				消 防 法				そ の 他			
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				令和 5 年 5 月 3 日				年 月 日		
		改善命令等	年 月 日				気密試験等				令和 5 年 5 月 3 日				年 月 日		
		停止解除	年 月 日				保 安 検 査				年 月 日				年 月 日		
		関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無				有・無				内容：		
	そ の 他	年 月 日				年 月 日											
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭															
35	今後の対策や所見																
・漏えい部である弁を撤去し、新たに配管を設置した。 ・漏えい箇所であるグランド部については、保温板金に覆われていたことから、漏えい状況の確認がしにくい環境であった。今後は類似箇所(弁部)について保温板金からグランド部が露出するように改造することで、より正確に点検ができるようになり、またグランド部が露出することで、硫化鉄が生成される可能性がなくなる。																	

令和5年

1 事故名		歯研機の誤操作に伴う附属タンクからの切削油流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 24日 19時 10分 推定・ 確定					4 発生見		8月 24日 19時 10分				
5 覚知		8月 24日 19時 20分					6 鎮圧 応急処置完了		8月 24日 20時 15分				
7 鎮火・処理完了		8月 24日 20時 15分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：北北東 風速：2m/s 気温： 湿度：											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 輸送用機械器具製造業 番号 (3013) 自動車・同附属品製造業 自動車部分品・附属品製造業		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) テクリンN16 72L 0.07倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 切削油 25,305L 12.65倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 36L 0.02倍 第4類第4石油類 潤滑油 2,547L 0.42倍											
		倍数の合計： 13.16倍											
12 施設装置		設置の完成：平成 20年 2月 1日 直近の完成：令和 5年 8月 8日											
名称：その他【鉄鋼・非金属工業】 番号 (6199)		17 物質の区分											
能力：1日にギア94万7千個製造		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 切削油(シロコットアーク sBZ214) (140L)											
13 機器等		18 取扱者の概要											
温度圧力：													
名称：その他 番号 (999)													
規模：歯研機の切削油タンク容量(550L、900L)													
14 発生箇所													
名称：タンク屋根板 番号 (103)													
材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：停止中 番号 (5)													
作業状況：不定期修理中 番号 (3)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 機器調整の際に、緊急停止措置が必要であったが、措置を行わずに作業を開始したため、ポンプが稼働状態のままとなり切削油(140L)がタンクからオーバーフローしたものの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原 因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 工作機械設置メーカーの担当者が、機器調整の際に工作機械の全停止を行わなかったため。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
	制度		教育・訓練		内容		教育・訓練がない/不足						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害						28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 歯研機の附属タンク周辺に切削油140Lオーバーフ ロー。					
区分													
当 事 者	0	0	0	0									
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 歯研機の附属タンク周辺床上の汚損。					
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4類第3石油類切削油140L流出。							
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	31 人	自 衛				0 台	0 隻	0 機	10 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同				0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援				0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (4、5) 漏えいした危険物(切削油約140L)が回収されたことを確認後、関係者へ事故防止に努めるよう指導を行い、警戒用の消火器を漏えい機器の周囲に配置するよう指示。						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 漏えいした危険物を吸着マット等で吸い取り、ドラム缶に回収。							
31 防災活動上の問題点 守衛室から災害発生現場までの消防隊の案内、及び現場に貯蔵・取り扱いされている危険物の性状に関する情報提供をスムーズに実施する体制を構築する必要がある。													
政 策 措 置	32 施 設 名	一般取扱所				33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他					
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保 安 検 査	令和 5 年 8 月 26 日	年 月 日					
	改善命令等	年 月 日		年 月 日			年 月 日	年 月 日					
	停止解除	年 月 日		年 月 日			年 月 日	年 月 日					
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第13条第3項 製造所等における危険物取扱者以外の者の危険者の取扱い						
	そ の 他	警告 令和 5 年 9 月 27 日 ①. 文書 2. 口頭		年 月 日 1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見		甲種危険物取扱者又は第4類の危険物を貯蔵、取り扱うことができる乙種危険物取扱者を立ち会わせること。											

1 事故名		樹脂製造プラントでのモノマー重合器の下部配管から締結不良によるヘキサン漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		9月 19日 13時 10分				[推定]・確定		4 発生見		9月 19日 13時 15分			
5 覚知		9月 19日 13時 42分				6 鎮圧 応急処置完了				9月 19日 14時 30分			
7 鎮火・処理完了		9月 19日 14時 30分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西 風速：4.8m/s 気温：31.3℃ 湿度：66.9%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業(一貫して生産される誘導品を含む)		区分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 堺・泉北臨海地区特別防災区域											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ヘキサン 156,856L 784.28倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) テトラシクロデセン 52L 0.03倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) シェルオイル 2,034L 1.02倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 10L 0.01倍 第4類第4石油類 潤滑油 700L 0.12倍 第4類第4石油類 熱媒油 4,500L 0.75倍 第4類アルコール類 メタノール 3,200L 8倍 第4類アルコール類 エタノール 900L 2.25倍											
12 施設装置		倍数の合計： 796.46倍											
名称：その他の合成樹脂製造装置 番号 (5959)		設置の完成：令和 4年 2月 25日 直近の完成：令和 5年 7月 27日											
能力：停滞量 合計倍数796.5倍		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ヘキサン(5L)											
温度圧力：0.3Mpa		18 取扱者の概要											
名称：反応塔、槽 番号 (102)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
規模：高さ2,866mm、能力14,400 kg/日		21 危険物取扱者の の取扱・立会い											
14 発生箇所		①. 有 2. 無											
名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201)													
材質：ステンレス													
15 発生時													
運転状況：スタートアップ中 番号 (2)													
作業状況：運転操作中 番号 (1)													
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： スタート準備のため重合器に溶媒ヘキサン約5,000L張り込んだ後、循環開始約15分後に、現場確認中の従業員が配管の保温の隙間からヘキサンの滴下を発見したもの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送													

原因	25	主 原 因 施工不良				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因 維持管理不十分												
	発生原因の状況： フランジ部よりカニ泡を発見しており、原因としてはフランジ上部のボルトの締め付けが弱かったことで漏えいが発生したもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
	施工不良		施工		ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）								
	関連原因の詳細												
	設備		監理・保守		点検・整備		整備内容が不適切						
	因												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害							28 物的被害						
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管下部のステージに漏出					
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：					
第 三 者		0	0	0	0			なし					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関		5 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	5 台	0 隻	0 機	22 人	物質の被害状況： ヘキサン5L		
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)		
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 情報収集活動							自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) オイルマット設置による吸着作業とドラムへの移液作業						
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32	施設名					33	定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	行	使用停止	年 月 日		年 月 日		政	定期・自主点検	令和 5 年 6 月 13 日	年 月 日			
		改善命令等	年 月 日		年 月 日			気密試験等	令和 5 年 7 月 30 日	年 月 日			
		停止解除	年 月 日		年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日			
	措	関係条項					置	34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
		そ の 他	年 月 日		年 月 日								
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
35		今後の対策 や所見 ・適正なボルト締め付けトルクにて、フランジ締結を実施する。 ・生産開始直前に保温材は外しての気密試験を実施する。特に今回の発生箇所である斜めに設置している配管のフランジ部分は、テープを巻き石鹼水を使用して漏れを確認することを徹底する。											

令和5年

1 事故名		No.3ローリー充填場での軽油漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		10月 7日 6時 54分				推定・確定		4 発生見		10月 7日 6時 54分			
5 覚知		10月 7日 7時 16分				6 鎮圧 応急処置完了				10月 7日 8時 15分			
7 鎮火・処理完了		10月 7日 8時 15分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：北北西 風速：2.5m/s 気温：19.2℃ 湿度：56.8%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：堺・泉北臨海地区特別防災区域											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 400,000L 2,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,400,000L 1,400倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 2,000,000L 1,000倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 70,000L 35倍 第4類第4石油類 シンター油 50,000L 8.33倍 倍数の合計：4,443.33倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 58年 5月 2日 直近の完成：令和 3年 6月 24日											
名称：ローリー充てん施設 番 号 (1402)		17 物質の区分											
能力：48レーン140口設置		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (27L)											
13 機器等		18 取扱者の概要											
温度圧力：		経験年数32年											
名称：ローディングアーム 番 号 (604)		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
規模：アーム長さ3,600mm、口径100mm		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
14 発生箇所		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
名称：マンホール 番 号 (305)													
材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：荷積中 番 号 (12)													
作業状況：充填中 番 号 (12)													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： No.3ローリー充填場36番車線において、流量計の不具合が原因で、ローリー上部のシェルター内に軽油約27Lが漏えいしたものの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 故障					着火原因					番号 ()				
原因	関 連 原 因 誤操作														
	発生原因の状況：														
	満タンの2kL直前まで積込み完了しオーバーフローセンサーが感知したが、流量計は不調であったため1.6kL表示であった。計器室員は現地確認せずにモニターの流量計値のみ確認のうえ、積込み継続を運転手に指示した。本来、積込みが残り僅かの場合は充填流速が低くなるが、流量計不調により充填流速が定常流速のまま再開された。その結果、勢いよく放出されたので慌てた運転手が咄嗟にローディングアームを持ち上げたことにより、シェルター内に漏えいしたものの。														
	主要原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	故障			機能			機器の機能の停止								
	関連原因の詳細														
	設備		設計			マン・マシンインターフェース			その他						
因															
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27	人 的 被 害										28 物的被害				
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：						
									なし						
	当 事 者		0	0	0	0									
	防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：						
第 三 者		0	0	0	0			なし							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	11 人	物質の被害状況：					
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人						
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満 、1万円以上 (万円)					
30	実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99) 警戒筒先態勢、情報収集活動										自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒筒先態勢					
31	防災活動上の問題点														
32	施 設 名									33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	令和 5 年 10 月 4 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日					気密試験等	年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項										34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日				年 月 日									
35	今後の対策 や所見		3年に一度の流量計の分解整備時には必ずOリング交換を実施。 オーバーフローセンサー感知時は、計器室員は必ず現場確認を行うこと。												

令和5年

1 事故名		排油20号タンクのオーバーフローによる第4石油類の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		10月 29日 23時 40分	
5 覚 知		10月 30日 2時 21分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		10月 30日 4時 30分	
7 鎮火・処理完了		10月 30日 4時 30分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：快晴 風向：東南東 風速：1m/s 気温：14℃ 湿度：66%					
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所				11 発 生 場 所	
12 施 設 装 置						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(水溶性液体) モノ - n - プチルアミン 6L 0.02倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 850L 0.85倍 第4類第4石油類 潤滑油 376,000L 62.67倍	
						倍数の合計： 63.54倍	
13 機 器 等		温度圧力：		設置の完成：平成 元年 12月 22日 直近の完成：平成 26年 4月 1日		17 物 質 の 区 分	
名 称：その他【電力事業】 番 号 (4999)		能 力：1,100L		18 取扱者の概要		経験年数1年	
14 発 生 箇 所		名 称：マンホール 番 号 (305)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い	
15 発 生 時		材 質：鋼鉄		20 危険物 保安監督者		①. 有 2. 無	
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		23 事故の概要： 排油回収タンクの液面計が危険物回収量に至っても回収しなかったことにより、タンク上部マンホールから危険物がオーバーフローしたものの。	
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		24 緊急処置の状況 有 番号 () 無			

25	主 原 因		維持管理不十分		着火原因		番号 ()		
原 因	関 連 原 因								
	監視不十分								
	発生原因の状況： ボイラーからタービンに至る配管の弁のシート漏れにより排油回収タンクに想定外の水が入り込み、排油回収タンクに5年にわたり蓄積された危険物が上部に浮き出て流出したもの。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足		
	関連原因の詳細								
	管理		リスクアセスメント		危険意識		危険に対する認識がない/不足		
因									
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27	人 的 被 害						28 物的被害		
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に危険物流出	
	当 事 者	0	0	0	0				
	防災活動従事者	0	0	0	0				
	第 三 者	0	0	0	0				
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類潤滑油の流出40L					
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同						0 台 0 隻 0 機 0 人
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援						0 台 0 隻 0 機 0 人
	その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他						0 台 0 隻 0 機 0 人
30	実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31	防災活動上の問題点 ガスホルダーの外に流出していた量がわずかだったため、消防機関への通報が必要ないと判断し消防機関への連絡が遅れた。								
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和 5 年 3 月 29 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：		
	そ の 他	年 月 日	年 月 日						
35	今後の対策 や所見	・現地レベル計に排油処理実施レベルをマーキング ・排油回収タンクへ油を送る作業の都度、タンクブローを行い空保管する。 ・巡視点検表へ油回収タンクを記載する。 ・所内教育資料を作成し、再発防止及び風化防止の教育							

1 事故名		ローリー充填場においてローリーマンホールから軽油が流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		12月 29日 11時 49分				推定・確定		4 発生見		12月 29日 11時 49分			
5 覚知		12月 29日 12時 12分				6 鎮圧 応急処置完了				12月 29日 12時 30分			
7 鎮火・処理完了		12月 29日 12時 30分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東南東 風速：0.9m/s 気温：12.5℃ 湿度：65.2%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 堺・泉北臨海地区特別防災区域											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 3,000,000L 15,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 6,000,000L 6,000倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 700,000L 350倍 倍数の合計： 21,350倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 46年 12月 13日 直近の完成：平成 29年 12月 7日											
名称：ローリー充てん施設 番 号 (1402)		17 物質の区分											
能力：48レーン 140口設置													
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (40L)											
温度圧力：		18 取扱者の概要											
名称：ローディングアーム 番 号 (604)													
規模：アーム全長3,600mm、口径100mm		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
14 発生箇所													
名称：マンホール 番 号 (305)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
材質：鋼鉄													
15 発生時		23 事故の概要： 当該充填場において、ローリーへの積込み中に流量計が故障したことによりハッチから軽油が40Lオーバーフローしたもの。なお、漏えい油は防護枠内で留まり、ドレンホースから回収し、地上への漏えいはないもの。											
運転状況：荷積中 番 号 (12)													
作業状況：充填中 番 号 (12)		24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

25	主 原 因 故障						着火原因						番号 ()							
原因	関 連 原 因 設計不良																			
	発生原因の状況：																			
	流量計の故障による過流速により、軽油がオーバーフローしたもの。 当該レーンで軽油と灯油を混合し、ブレンド出荷できる特殊なレーンであり、軽油と灯油の割合は6:4でローディングアームの手前でブレンドし出荷されるが、事故時は軽油側の流量計の電子部品（パルス発信素子という電気信号を発信するもの）が故障したことにより、通常よりも小さい流量を検知していた。																			
	主原因の詳細																			
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層							
	故障				機能				機器の異常動作											
	関連原因の詳細																			
	設計不良				能力				その他											
因																				
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																			
27	人 的 被 害												28 物的被害							
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：											
									当該ローリー防護枠内に漏えい											
	当 事 者		0	0	0	0														
	防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：											
第 三 者		0	0	0	0			漏えい物による防護枠の汚損												
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																			
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	7 人	物質の被害状況：										
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人											
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人											
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)										
30	実施した防災活動の状況																			
公設消防機関：番号 (99)										自衛防災・消防組織等 番号 (5)										
警戒筒先配備										回収及び警戒筒先配備										
31	防災活動上の問題点																			
32	施 設 名									33 定 期 点 検 等	消 防 法				そ の 他					
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	令和 5 年 12 月 23 日				令和 5 年 12 月 27 日				
		改善命令等	年 月 日				年 月 日					気密試験等	年 月 日				年 月 日			
		停止解除	年 月 日				年 月 日						保安検査	年 月 日				年 月 日		
	関係条項									34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：									
	そ の 他	年 月 日				年 月 日														
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭														
35	今後の対策や所見		・ブレンド出荷レーン(所内3か所)において、流量調節弁の最大開度を絞った。(軽油:80→60%、灯油70→60%)これにより万が一同様の故障が発生しても、背圧が極端に大きくなることはなく、浮き上がり幅を制限できる。 ・流量計について、ブレンド出荷レーンについては今年度中にパルス発信素子を交換する。 ・流量計のメンテナンスについて、これまでCBMとして管理していたが、今後は全レーンにおいてTBMとし、定期交換していくこととした。 ・オーバーフローセンサーの重要性を含めた積込み手順について、当該乗務員の所属会社に再教育を実施した。 ・本事案内容について、入構するすべての陸運会社に周知文書により通知した。 ・これまで乗務員への教育は新規入構時教育のみであったが、更新教育を実施することとした。																	

1 事故名		一般取扱所内のピッチ成形オンレーターの軸封部から危険物(洗浄油)が漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		2月 21日 14時 00分			[推定]・確定		4 発生見		2月 21日 14時 40分		
5 覚知		2月 21日 16時 02分			6 鎮圧 応急処置完了				2月 21日 18時 07分		
7 鎮火・処理完了		2月 21日 18時 07分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北西 風速：5.8m/s 気温：5℃ 湿度：38%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業		区分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：姫路臨海地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 含酸軽油(ALO) 60,000L 300倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 還流灯油(RK) 60,000L 60倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 白灯油(FK) 34,000L 34倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) コーカ油(L02) 38,000L 38倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ナフタリン原料油(ANO) 409,000L 204.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 洗浄油(WO) 144,000L 72倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) クレオソート油(BO) 455,300L 227.65倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 粗製タール 50,000L 25倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) タール原料油(混合油) 24,000L 12倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) サームエス(熱媒体) 3,300L 1.65倍 第4類第4石油類 潤滑油 3,000L 0.5倍 倍数の合計：975.3倍									
12 施設装置		設置の完成：昭和 30年 11月 10日 直近の完成：令和 5年 1月 31日									
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)		17 物質の区分									
能力：ピッチ成形設備 92t/時		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：洗浄油 (WO) (10L)									
13 機器等		18 取扱者の概要									
温度圧力：160℃											
名称：攪拌、混合機(ニーダー) 番号 (508)											
規模：Φ800mm高さ5,595mmSUS304(接液部)電動機30kw											
14 発生箇所											
名称：その他の機器等本体 番号 (199)											
材質：ゴム											
15 発生時											
運転状況：定常運転中 番号 (1)											
作業状況： 番号 ()											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 通常運転中、ピッチ成形用オンレーターの攪拌機軸封部より封液である洗浄油が機外へ約10L漏えいした。漏えい発見後、洗浄油元弁を閉止したことにより漏えいは停止、漏えい範囲は施設内に留まった。 防災センターにすぐに通報を行うも、通報を受けて駆け付けた自衛防災隊員は漏えい量が数L程度であったため消防機関への通報を不要と判断した。しばらくして通報の必要があると再度判断し直したため通報遅延となった。 設備被害及び負傷者はなし。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

25	主 原 因 故障					着火原因					番号 ()									
原因	関 連 原 因 維持管理不十分																			
	発生原因の状況：																			
	オンレーター内のピッチが洗浄油へ経年的に微量混入(正常時も発生している)することにより、メカニカルシール附属部品のスプリングへ経年付着し、スプリングの作動不能が発生。																			
	スプリングの追従機能が阻害され、回転環の押さえが弱くなり固定環との圧着不良が生じ、シール部の面開きが発生、機内側ピッチの洗浄油側への混入が増大した。																			
	洗浄油側へ流入したピッチが洗浄油出側配管で閉塞し、洗浄油室内の圧力が上昇することにより機内側ピッチを含む洗浄油が、上部封軸装置(グランドパッキン)より漏えいした。																			
	主要原因の詳細																			
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層							
	故障				機能				周囲からの異物の作用による機器の動作不良											
因	関連原因の詳細																			
	制度				規則・手順				内容・周知				規則・手順がない/文書化されない							
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																			
27	人的被害										28 物的被害									
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			被災影響範囲及び拡大の状況：									
											防油堤内及び設備周囲側溝にて油紋確認。									
	当 事 者		0	0	0	0														
	防災活動従事者		0	0	0	0					施設等の被害状況：									
第 三 者		0	0	0	0					なし。(ただし、事故後オンレーター軸封装置及びオイルシール・ベアリング等の消耗品を交換)										
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																			
消 防 機 関	12 台	0 隻	0 機	40 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：										
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人											
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人											
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人											
30	実施した防災活動の状況																			
公設消防機関：番号 (99)										自衛防災・消防組織等 番号 (3、5)										
情報収集活動を実施し、災害状況の確認を行った。										拡散防止措置、回収作業										
31	防災活動上の問題点																			
発見後、発見者は通報担当の防災センターにはすぐに通報したが、通報担当者が漏えい量が数L程度であったため一度は消防機関への通報は不要と判断。 その後、やはりホットライン通報の必要があると再度判断し直したため、通報遅延となった。従業員に対し、異常現象の定義等の研修をし、再徹底する。																				
32	施 設 名	オンレーター				33 定 期 点 検 等				消 防 法				そ の 他						
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検				令和 4 年 7 月 2 日				年 月 日		
	改善命令等	令和 5 年 2 月 22 日				年 月 日				気密試験等				年 月 日				年 月 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保 安 検 査				年 月 日				年 月 日		
	関係条項	消防法第12条第2項								34 当該施設に係る				有・無						
	そ の 他	年 月 日				年 月 日				法令違反の有無				内容：						
35	今後の対策や所見				通報遅延が発生したことに関しては、ホットライン通報の基準である、漏えい量数L程度に該当するか否かで通報しないことを一度判断している。対策として、適正な法基準に基づく異常現象の判断ができない場合は公設消防への通報を迅速に行うこと。周知徹底する。 危険物漏えいに対するの対策は(1)配管閉塞防止として、当該設備の洗浄油タンクの定期清掃、洗浄油入替(年1回)実施による、ピッチ混入状態継続を防止する。(2)閉塞状態を早期発見する手段として、見回り点検時における洗浄油戻り量の目視確認する。															

令和5年

1 事故名		一般取扱所における弁の誤操作によりクロトンアルデヒド約30Lが漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		2月 22日 13時 15分				[推定]・確定		4 発生見		2月 22日 15時 30分			
5 覚知		2月 22日 15時 55分				6 鎮圧 応急処置完了				2月 22日 17時 03分			
7 鎮火・処理完了		2月 22日 17時 03分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南南西 風速：2.3m/s 気温：8℃ 湿度：50%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業(脂肪族系溶剤を含む)		区分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：姫路臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(水溶性液体) 酢酸 3,600L 1.8倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) クロトンアルデヒド 144L 0.72倍											
		倍数の合計：2.52倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：焼却装置 番号 (1605)		設置の完成：昭和 55年 1月 31日 直近の完成：令和 3年 6月 21日											
能力：		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：クロトンアルデヒド (30L)											
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)		18 取扱者の概要											
規模：口径20A													
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
名称：ドレンバルブ 番号 (210)		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
材質：ステンレス		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
15 発生時													
運転状況：スタートアップ中 番号 (2)													
作業状況：運転操作中 番号 (1)													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 一般取扱所内の高沸処理装置バーナー部分の取替え作業後、運転再開のためクロトンアルデヒドの送液を実施した。その際に開放するバルブを誤っており、送液から約2時間後に巡回中のオペレーターが異臭を感じ、確認したところクロトンアルデヒドが漏えいしているのを発見しすぐにバルブを閉鎖し通報を行った。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 誤操作				着火原因				番号 ()																														
原 因	関 連 原 因 操作確認不十分																																						
	発生原因の状況： 作業前にチェックリストでの確認は行っていたが、作業時の確認が行われていなかった。また、指差し呼称で確認も未実施だった。																																						
	主原因の詳細																																						
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																													
	人			本人の知識・能力			知識			知識不足																													
	関連原因の詳細																																						
	制度			教育・訓練			内容			教育・訓練がない/不足																													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																							
27 人的被害								28 物的被害																															
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所内に漏えい。なお、当施設外への流出なし。			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																	
当 事 者	0	0	0	0																																			
防災活動従事者	0	0	0	0																																			
第 三 者	0	0	0	0																																			
								施設等の被害状況： 被害なし。																															
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																							
消 防 機 関		11 台	0 隻	0 機	40 人	自 衛		1 台	0 隻	0 機	4 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)クロトンアルデヒド約30L漏えい。																											
消 防 団		2 台	0 隻	0 機	7 人	共 同		0 台	0 隻	0 機	0 人																												
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援		0 台	0 隻	0 機	0 人																												
その他の機関		5 台	0 隻	0 機	13 人	そ の 他		0 台	0 隻	0 機	0 人																												
損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																																							
30 実施した防災活動の状況																																							
公設消防機関：番号 (99) 現地指揮本部にて情報収集実施後、消防隊により警戒筒先体制及び漏えい停止の確認を行った。								自衛防災・消防組織等 番号 (5) 亜硫酸水素ナトリウムを用いて、クロトンアルデヒドの無害化を実施後、大量の水で希釈作業を行った。その後、希釈した液体を安全対策を練った上で回収作業を実施した。																															
31 防災活動上の問題点 漏えい発見から約20分で通報が実施されており、問題なし。通報時の災害点の伝達ミス、誘導員の消防車両の誘導ミスがあった。アクセスポイントでの指揮本部設定位置の説明と現場の指揮本部の位置が異なっていた。																																							
32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他																														
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日																														
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日																														
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日																														
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		☒ ・無																															
	そ の 他	警告(消防法第10条第3項)						内容： 本漏えい事故に対し、当該危険物を取り扱う際、当該危険物が漏れないように必要な措置を講じなかったと認めるため、危険物を貯蔵し、又は取り扱う場合においては、今後、当該措置を必ず講じよう消防法第10条第3項違反として警告した。																															
35	今後の対策 や所見 事故を受けて新たに作成したチェックリストを使用して基本動作の確認を徹底すると共に、定期的に現場で実際にできているか確認を行い指導する。また、各チーム毎でも基本動作の読み合わせと行動の振り返りを実施して指導を行っているように部門の運営方針、課題達成シートへ落とし込む。																																						

1 事故名		一般取扱所内の一次乾燥機から抜き取った、アクリル酸を廃液を入れたドラム缶内における流出事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		2月 24日 1時 55分	
5 覚知		2月 24日 3時 53分		6 鎮圧 応急処置完了		2月 24日 8時 28分	
7 鎮火・処理完了		2月 25日 10時 00分					
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気： 風向： 風速： 1.8m/s 気温： 6℃ 湿度： 83%					
10 発生事業所		11 発生場所					
種別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 姫路臨海地区					
		16 発生施設規制区分等					
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ノルマルヘプタン 597,000L 2,985倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸エチル 11,100L 55.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) STATS SAFE3000 30L 0.15倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ノルマルヘキサン 47,000L 235倍 第4類第2石油類(水溶性液体) アクリル酸 212,000L 106倍 第4類第3石油類(水溶性液体) MEP 460L 0.12倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) PETA 1,100L 0.55倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) n-ラウリルマタクリレート 1,100L 0.55倍 第4類第4石油類 ソルビタンモノラウレート 1,660L 0.28倍 第5類アゾ化合物(第2種自己反応性物質) MAIB 80kg 0.8倍 第5類アゾ化合物(第2種自己反応性物質) アジビスイソブチロニトリル 160kg 1.6倍 第4類第4石油類 潤滑油 420L 0.07倍 倍数の合計： 3,385.62倍					
12 施設装置		設置の完成： 昭和 59年 4月 4日 直近の完成： 令和 5年 3月 23日					
名称： その他【分類なし】 番号 (9999)		17 物質の区分					
能力： 容量:200L		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(水溶性液体) 名称： アクリル酸 第4類第1石油類(水溶性液体) 酢酸エチル 第4類第1石油類(非水溶性液体) ノルマルヘプタン					
13 機器等		18 取扱者の概要					
温度圧力：		①. 選任有 2. 選任無		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無	
名称： ドラム等容器 番号 (201)		3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有	
規模： ドラム缶容量:200L						2. 無	
14 発生箇所		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
名称： 容器本体 番号 (108)		23 事故の概要： 2月18日に、一般取扱所内の常圧乾燥機からアクリル酸を含む未反応成分の廃液をドラム缶に抜き取り、廃棄処分するためにドラム缶4本を保有空地内に仮置きをしていた。 2月24日にシャットダウン中の当該施設を作業員が巡回していたところ、その内の一本が膨張しており、上部から可燃性蒸気及び廃液数Lが漏えいしているのを発見した。排水系統への漏えいがないことを確認した後、水道水による冷却がなされた。負傷者なし。					
材質： 鋼鉄							
15 発生時							
運転状況： シャットダウン中 番号 (3)							
作業状況： 定期修理中 番号 (2)							
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無	
3. 不要						21 危険物取扱者の取扱・立会い	
						①. 有	
						2. 無	
24 緊急処置の状況		有 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 破 損						着火原因						番号 ()																																
原因	関 連 原 因 維持管理不十分																																												
	発生原因の状況： ドラム缶に廃液を抜き出した後、重合禁止剤を添加したが、攪拌を行っていなかったため均一化できていなかった。その結果、ドラム缶内のアクリル酸が重合し、その圧力に耐えきれずドラム缶の天板が変形し、口栓部(小栓)に隙間ができ、口栓部から可燃性蒸気等が噴出した。																																												
	主原因の詳細																																												
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																
	破損				定常運転時				異常圧力上昇等																																				
	関連原因の詳細																																												
	人				本人の知識・能力				知識				知識不足																																
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																													
27 人的被害												28 物的被害																																	
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>												被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 保有空地内に廃油数L漏えい					
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																							
当 事 者	0	0	0	0																																									
防災活動従事者	0	0	0	0																																									
第 三 者	0	0	0	0																																									
												施設等の被害状況： なし。																																	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																													
消 防 機 関		13 台 0 隻 0 機 42 人				自 衛		1 台 0 隻 0 機 157 人				物質の被害状況： アクリル酸、酢酸エチル、ノルマルヘプタン																																	
消 防 団		1 台 0 隻 0 機 3 人				共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人																																					
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人				応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人																																					
その他の機関		3 台 0 隻 0 機 6 人				その他		0 台 0 隻 0 機 0 人				損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																																	
30 実施した防災活動の状況																																													
公設消防機関：番号 (99) 情報収集後、3点セットによる放水体制の設定。												自衛防災・消防組織等 番号 (2) ブリッツファイヤーによる冷却																																	
31 防災活動上の問題点 漏えい量が少量と推定し、確認者が異常現象ではないと判断したため、通報遅延が生じた。従業員等に教育・周知の再徹底。																																													
32 施設名	一般取扱所(昭和59年4月4日第5号) 【2AQ設備】				工場				33 定期点検等	消 防 法				そ の 他																															
	使用停止				年 月 日					定期・自主点検				令和 4 年 4 月 6 日				年 月 日																											
	改善命令等				年 月 日					気密試験等				年 月 日				年 月 日																											
	停止解除				年 月 日					保安検査				年 月 日				年 月 日																											
	関係条項				消防法第10条第3項、第10条第4項				石油コンビナート等災害防止法第23条				34 当該施設に係る 法令違反の有無				☒ 有・無 内容： 消防法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 消防法第10条第4項 製造所等における位置、構造及び設備の技術上の基準違反																												
	警 告				警 告																																								
そ の 他				令和 5 年 2 月 24 日				令和 5 年 3 月 2 日																																					
①. 文書 2. 口頭				①. 文書 2. 口頭																																									
35 今後の対策 や所見 ・アクリル酸を含む廃液の貯蔵及び取扱い場合には、重合禁止剤を攪拌などの操作により均一添加するとともに、万が一、重合反応が発生しても液頭熱で抑えられる量の水で希釈を行う。重合を阻害する措置は内用液によって異なるため、随時リスクアセスメントを実施し、対処法を決定する。 ・非定常作業要領を作成し、全従業員に対して教育・周知を徹底する。また通報の遅延についても、同様に全従業員に対する教育・周知を徹底する。																																													

1 事故名		ガスタービン用燃料ポンプ軸端部からの燃料油漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		5月 11日 13時 30分 推定・ 確定					4 発生見		5月 11日 13時 51分		
5 覚知		5月 11日 14時 09分					6 鎮圧 応急処置完了		5月 11日 15時 09分		
7 鎮火・処理完了		5月 11日 16時 00分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：快晴 風向：北西 風速：1.6m/s 気温：25.2℃ 湿度：25.4%									
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 第2種 、その他) 業態：製造業 一般機械器具製造業 番号 (2612) ボイラ・原動機製造業 蒸気機 関・タービン・水力タービン製造業(船用を除く)					11 発生場所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：東播磨地区特別防災区域 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 850,000L 850倍 倍数の合計：850倍 設置の完成：令和 元年 12月 19日 直近の完成：令和 5年 6月 7日		
12 施設装置											
名称：発電装置 番号 (4101)											
能力：125.3L/h											
13 機器等											
温度圧力：35℃、12.3Mpa		17 物質の区分		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(330L)							
名称：ポンプ 番号 (501)											
規模：長さ1,850mm 幅1,205mm											
14 発生箇所											
名称：パッキング 番号 (213)		18 取扱者の概要			①. 選任有 2. 選任無 3. 不要						
材質：その他											
15 発生時											
運転状況：試運転中 番号 (14)		21 危険物取扱者の取扱・立会い			①. 有 2. 無						
作業状況：運転操作中 番号 (1)											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 実証発電設備にて軽油焚きによるガスタービン検証試験運転を実施。13時51分頃に、ガスタービン用燃料油ポンプから軽油が外部に漏れており、既に防油堤内に多量(後の計測で330Lであったことを確認)の軽油が溜まっている状態であると発見者から中央制御室に電話連絡あり。直ちに責任者が現場を確認、燃料油ポンプの停止が必要と判断し13時59分に停止した。漏えいした軽油の大半はポンプ基礎に設けている防油堤内に留まったが、一部(極少量)の軽油が駆動用モータ冷却空気の流れによって防油堤外の碎石地に飛散した。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 調査中		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 調査中							
	発生原因の状況： 圧力調整弁を閉じたままポンプを起動させたことにより、軽油がポンプ内で循環し、圧力と温度が上昇したことによりメカニカルシールが損傷した。これによりベアリングやシャフトなどの部品が損傷し漏えいした可能性がある。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	関連原因の詳細							
因								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害				28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした軽油は約330Lで、ポンプ基礎に設けられた防油堤内にはば滞留したが、対象ポンプが屋外設置のため、一部(極少量)の軽油が漏油時に風力によって、防油堤北側の碎石地に飛散した。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油330L流出	
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人		
30 実施した防災活動の状況							損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)	
公設消防機関：番号 (99) 漏えいした軽油は事業所がドラム缶に回収しており、それ以上の漏えいがないことを確認する 14時49分に燃料油ポンプ設備の「緊急使用停止命令」を発令する。						自衛防災・消防組織等 番号 (5) ・系統隔離操作・防油堤内の軽油はドラム缶へ回収・軽油が付着した碎石の回収。		
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施 設 名	一般取扱所高消許2533号				33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	令和 5 年 5 月 11 日		年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保 安 検 査	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日		年 月 日			年 月 日	年 月 日
	停止解除	令和 5 年 5 月 30 日		年 月 日			年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 消防法第12条の3 製造所等の緊急使用停止命令 火災予防上の安全が確保されていないため	
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				
	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見		圧力調節弁は燃料ポンプを起動し、圧力がある程度上昇するまでは開かない仕様になっているため、圧力調節弁を閉じたままポンプを起動させたことが原因の場合は、圧力調節弁の改造が必要になる。						

1 事故名		ボイラ給水ポンプ駆動タービン減速機部油漏れ											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 31日 16時 17分 推定・ 確定					4 発生見		8月 31日 16時 17分				
5 覚知		8月 31日 16時 39分					6 鎮圧 応急処置完了		8月 31日 16時 30分				
7 鎮火・処理完了		8月 31日 17時 51分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：4.8m/s 気温：29.6℃ 湿度：72%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 第2種 、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：東播磨地区特別防災区域											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 第2石油類 10,400L 10.4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 第3石油類 691,200L 345.6倍 第4類第4石油類 第4石油類 33,800L 5.63倍											
12 施設装置		13 機器等											
名称：その他【電力事業】 番 号 (4999)		温度圧力：70℃、1Mpa											
能力：		名称：ポンプ 番 号 (501)											
規模：全長約20m、全幅約8m、作動油保有量2,300L		倍数の合計：361.63倍											
14 発生箇所		設置の完成：昭和 44年 5月 25日 直近の完成：平成 26年 6月 25日											
名称：給油管等 番 号 (907)		17 物質の区分											
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分類：第4類第2石油類(水溶性液体) 名称：タービン油32番(90L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：定常運転中 番 号 (1)													
作業状況：運転操作中 番 号 (1)													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 火力発電所で、ボイラへ水を供給するボイラ給水ポンプを運転中、減速機のエアプリーザからの油漏れ(第4類第4石油類 タービン油 約90L流出)を現場保守作業員が発見する。建屋内から構外への流出及び人的被害なし。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無													

25	主 原 因 故障					着火原因					番号 ()				
原因	関 連 原 因 維持管理不十分														
	発生原因の状況： 経年使用により減速機エアブリーザの吸排気穴に埃やミストが蓄積し閉塞する事により、減速機内部の油面が上昇。穴の完全閉塞により減速機内の油面が上昇し、エアブリーザ吸排気穴より油の噴出に至る。														
	主要原因の詳細														
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層		
	故障				機能				周囲からの異物の作用による機器の動作不良						
	関連原因の詳細														
	設備				監理・保守				点検・整備				点検していない/不足		
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27	人 的 被 害										28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 被災影響範囲及び拡大等なし							
	当 事 者	0	0	0	0										
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害等なし							
	第 三 者	0	0	0	0										
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体第2石油類(水溶性液体)タービン油32番90L流出											
	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人												
	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人												
	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)											
30	実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99) 調査活動										自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 流出防止措置、回収作業					
31	防災活動上の問題点														
32 行政措置	施設名	一般取扱所第3193号								33 定期点検等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	令和 5 年 9 月 1 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項	法第12条の3								34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容： 法第12条の3				
	そ の 他	年 月 日				年 月 日									
35	今後の対策や所見 パトロール時に戻り管フローサイト油面の状況を確認を徹底するとともに定検時エアブリーザの清掃を徹底する。(定検仕様書に記載する)														

令和5年

1 事故名		ローリー充填配管の弁の劣化に伴い、タンク通気管からチオグリコール酸が溢れ施設内に約100L流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		10月 26日 7時 30分				[推定]・確定		4 発 見		10月 26日 7時 30分			
5 覚 知		10月 26日 7時 39分				6 鎮 圧 応急処置完了				10月 26日 8時 17分			
7 鎮火・処理完了		10月 26日 8時 17分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 北北東 風速： 2.3m/s 気温： 13℃ 湿度： 80%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業(脂肪族系溶剤を含む)		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、[荷]、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 姫路臨海地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(水溶性液体) チオグリコール酸 39,800L 9.95倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計： 9.95倍 設 置 の 完 成： 昭和 63年 12月 26日 直 近 の 完 成： 平成 31年 3月 29日											
名 称： ローリー充てん施設 番 号 (1402)													
能 力： チオグリコール酸 39,800L/日													
13 機 器 等		温 度 圧 力： 常温、0.36Mpa											
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(水溶性液体) 名称： チオグリコール酸(100L)											
規 模： 直径400mm、全長955mm、容量100L													
14 発 生 箇 所													
名 称： 通気管 番 号 (304)		18 取扱者の概要 経験年数2年											
材 質： ステンレス													
15 発 生 時													
運 転 状 況： 荷積中 番 号 (12)		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
作 業 状 況： 番 号 ()													
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： グループ会社従業員2名でチオグリコール酸の製品を貯蔵している屋外タンク貯蔵所から製品出荷ポンプを起動して、移動タンク貯蔵所に充填を開始したところ、移動タンク貯蔵所の後部に繋いだねじ込み式フレキシブルチューブ接続部分からポタポタと液漏れが生じたため、ポンプ側受入配管途中の手動バルブを閉操作し、そこから二次側の液をオーバーフロー槽に導くための手動バルブを開操作したところ、受入配管途中の手動バルブに内弁漏れがあったためポンプからの液が流れ続け、当該オーバーフロー槽の通気管からチオグリコール酸が施設内の排水溝に流出した。その後、受入配管途中の手動バルブ一次側にある自動弁を閉鎖するとともに、製品出荷ポンプを停止し流出を停止させた。流出量は約100Lで、流出は施設内のコンクリート床面及び排水溝を通じて溜枳内に溜まったため、施設外への流出はなかった。漏えい停止後、速やかに施設内直通電話から防災センターを経由しホットライン通報を行うとともに応急措置として施設内の水道ホースにより希釈を行った。なお、本件による負傷者等はなし。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
原因	関 連 原 因		操作確認不十分、維持管理不十分								
	発生原因の状況：										
	荷積み前の気密テスト方法が自社基準に合わない不適切な方法であったため、フレキシブルホース接続部パッキンの不良を発見出来ず、そのまま荷積みを行ったことで、当該接続部から微量漏れを発生させた。さらに応急措置としてオーバーフロー槽に抜き出しを行うためにポンプ側の送液配管手動バルブを閉操作したところ、長年に渡るチオグリコール酸の取扱いによりダイヤフラム弁のテフロン製ダイヤフラムが硬化し、シール不良を起こしたことで内弁漏れを起こしており、ポンプ側からの送液が止まらなかったため、想定量以上のチオグリコール酸がオーバーフロー槽に流入し、当該槽に接続している通気管から流出に至った。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
	関連原因の詳細										
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切				
	環境		社会的環境		雰囲気		安全に対する意識が低い				
	管理		組織		人員配置(役割・責任)		周知不足				
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人 的 被 害						28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出量は約100Lで、漏えいは施設内の排水溝を通じて溜槽内に溜まったため、施設外への流出はなし。			
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4類第3石油類水溶性液体チオグリコール酸約100L流出。 損害額 1万円未満、 1万円以上 (4 万円)				
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	41 人	自 衛	2 台			0 隻	0 機	110 人
消 防 団	2 台	0 隻	0 機	8 人	共 同	0 台			0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台			0 隻	0 機	0 人
その他の機関	5 台	0 隻	0 機	10 人	そ の 他	0 台			0 隻	0 機	0 人
30	実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
事業所入場口の消防隊集結場所で情報収集実施後、先遣隊が自衛防災隊現地指揮本部まで進入し、再度情報収集を実施、漏えい停止と漏えいした危険物が事業所職員により希釈及び回収されたことを聞き取った後、現場を確認して処理完了とした。						現場従業員により、自動弁を閉操作するとともに、製品出荷ポンプを停止させた後、施設内のホースにより濾過水で希釈作業を実施した。その後、応援に駆け付けた従業員により希釈水で無害化(非危険物化)されたものをドラム缶に回収した。					
31	防災活動上の問題点 問題なし。										
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	令和5年8月7日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：				
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭										
35	今後の対策 や所見	本件に係る再発防止対策として、フレキシブルホース接続部のパッキンセット方法や気密試験の方法、通液時微量漏れが発生した場合の措置に対して手順書に明記する。さらに改定した手順書について現場作業者と管理者が各手順について一致しているか確認検証を行うこととし、改定した手順については、教育を行うとともに定期的に読み合わせを行うことをルール化した。併せて手順書に記載されていない定形外作業についてはリスクアセスメントが必要であることについての教育を都度行うとともに、職制も作業内容の把握とリスクアセスメントの指示を徹底するようにすること。本件はダイヤフラム弁の内弁漏れという物的要因に起因するものだが、その背景にはグループ会社への教育指導不足が大いに関係していると思慮する。例え協力会社が発生させた事故であっても特定事業所の事故となるため、請負契約等の兼ね合いもあると思うが特定事業所の責任で教育指導を進めてもらいたいと指導を行った。今後、他の事業所に対しても同様に指導を行いたい。									

令和5年

1 事故名		屋外タンクからボイラへの送油ポンプ(一般取扱所:屋内)のケーシングドレンより重油が流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		12月 25日 12時 00分				☐ 推定・ ☒ 確定		4 発 見		12月 26日 10時 34分			
5 覚 知		12月 26日 10時 45分				6 鎮 圧 応急処置完了				12月 27日 10時 50分			
7 鎮火・処理完了		1月 0日 0時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：南西 風速：2.1m/s 気温：7.4℃ 湿度：54.9%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、 ☒ 第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 赤穂地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 5,724,000L 28,620倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 12,225,600L 12,225.6倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,137,600L 5,068.8倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称：その他【電力事業】 番 号 (4999)		設置の完成：昭和 61年 9月 24日 直近の完成：昭和 61年 9月 24日											
能 力：ポンプ設備 144L/時(処理能力)		17 物 質 の 区 分											
13 機 器 等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 ☒ 液相、気相) (☒ 常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 ☒ 高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (27,724L)											
名 称：ポンプ 番 号 (501)		18 取扱者の概要											
規 模：容量:重油 144L/時		19 危険物保安 統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
14 発 生 箇 所		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
名 称：その他 番 号 (999)		23 事故の概要： 従業員による巡回点検中、燃料ポンプ室内一面に重油が溜まっているのを発見。ポンプ1基のケーシングドレンより重油が噴出して いることが確認できたため、直ちに系統隔離を行い、室内に溜まった重油の回収、移送作業を行った。施設外部への流出はない。											
材 質：その他		24 緊急処置の状況 ☒ 有 番号 (1、9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送											
15 発 生 時													
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)													
作 業 状 況：その他 番 号 (99)													

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化						着火原因						番号 ()					
	関 連 原 因 故障																	
	発生原因の状況： 配管内に堆積した繊維状の異物がメカニカルシール摺動面に噛み込んだことにより間隙が生じ、重油が流出したもの。																	
	主原因の詳細																	
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層					
	疲労・劣化				素材等の劣化				長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）									
	関連原因の詳細																	
	故障				機能				周囲からの異物の作用による機器の動作不良									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																		
27 人 的 被 害												28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 建屋外への流出は無し										
当 事 者		0	0	0	0													
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 無し										
第 三 者		0	0	0	0													
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		
消 防 機 関	3 台 0 隻 0 機 7 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 57 人	物質の被害状況： 第4類 第3石油類(非水溶性) 名称:重油27, 724L														
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人															
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人															
その他の機関	2 台 0 隻 0 機 5 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (3,400 万円)														
30 実施した防災活動の状況																		
公設消防機関：番号 (99) 調査活動												自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 流出防止措置、回収作業						
31 防災活動上の問題点																		
政 策 措 置	32 施 設 名	関西電力㈱								33 定 期 点 検 等	消 防 法				そ の 他			
	使用停止	令和 5 年 12 月 26 日				年 月 日				定期・自主点検	年 月 日				年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日				年 月 日			
	停止解除	令和 5 年 12 月 27 日				年 月 日				保 安 検 査	年 月 日				年 月 日			
	関係条項	消防法第12条の3第1項								34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：							
	そ の 他	年 月 日				年 月 日												
	1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭													
35 今後の対策 や所見		・オートストレーナーについて、差圧を監視し、その数値によって分解清掃を行っていたが、今回の事故原因を鑑み、定期的な分解清掃を実施する。 ・配管内異物の捕集対策を強化する。 ・事業所内の同様の施設に対しても上記と同様の対策を講じるよう指導を行った。																

令和5年

1 事故名		一般取扱所において重油を手動で送油中、ポンプ切り忘れによるサービスタンクのオーバーフロー管からの流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		2月 18日 17時 00分				[推定]・確定		4 発生見		2月 18日 17時 15分			
5 覚知		2月 27日 16時 00分				6 鎮圧 応急処置完了				2月 18日 17時 15分			
7 鎮火・処理完了		3月 7日 17時 15分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西南西 風速：1m/s 気温：11℃ 湿度：40%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番号 (7211) ホテル 旅館；ホテル		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 4,000L 2倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 55年 6月 5日 直近の完成：昭和 55年 6月 5日 倍数の合計：2倍											
名称：その他のタンク 番号 (1299)													
能力：容量:450L(一日の最大使用量4,000L)													
13 機器等		温度圧力：											
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)													
規模：サービスタンク容量:450L													
14 発生箇所		17 物質の区分											
名称：ベント管、ブロー管、放出管 番号 (303)		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材質：鋼鉄		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発生時		(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧)											
運転状況：定常運転中 番号 (1)		(低温、[常温] [0-40℃]、高温)											
作業状況：運転操作中 番号 (1)		分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(350L)											
18 取扱者の概要		経験年数5年											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 一般取扱所のサービスタンクの附属装置であるギアポンプ設備の制御盤の「自動」が故障により使用できないため、「手動」に切り替えA重油を送油していたところ、サービスタンク庫内からA重油が溢れているのを発見。直ちにボイラーを停止させる。停止後、漏えい等の連絡を実施。連絡後、ボイラー庫内に溜まっているA重油を回収する。また、溢れ出たA重油は、排水溝に流出していた。 翌日、排水溝から流出していたA重油は、施設の浄化槽で留まっているのを確認したが、浄化槽より河川への流出は認められない。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因	維持管理不十分				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因	監視不十分											
	発生原因の状況： 危険物取扱者は、以前からギアポンプの制御盤の自動運転が使用できない旨を認識していた状態で、手動運転により送油作業を継続して実施していた。流出当日も、手動運転を実施後、タイマーをかけようと思ったが、実際はタイマーをかけたつもりと誤認、手動状態で運転を行ったまま、その場を離れており、タイマーが鳴らないことに気が付き、確認に戻った際には既にA重油が流出していたもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	設備			監理・保守			点検・整備			整備していない			
	関連原因の詳細												
因													
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害								28 物的被害					
被害内容等 区分								被災影響範囲及び拡大の状況： サービスタンク庫最直近の排水溝から敷地内の浄化槽まで流出					
当 事 者								死亡 0 重症 0 中等症 0 軽症 0 死傷原因 職業又は職名					
防災活動従事者								死亡 0 重症 0 中等症 0 軽症 0 死傷原因 職業又は職名					
第 三 者								死亡 0 重症 0 中等症 0 軽症 0 死傷原因 職業又は職名					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関								1 台 0 隻 0 機 2 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団								0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部								0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関								0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人					
物質の被害状況： 第4類 第3石油類(非水溶性)A重油 350L流出													
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)													
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 現場到着時、すでに油処理及び清掃済であったため、調査活動を実施した。								自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 流出事故発生日から9日後に通報があったため、当該施設側から発災当日の説明を受けるも、ほぼ清掃された状態で消防機関が現地確認を実施したことから、被害状況の把握が難しい。 流出行為者、当該施設の管理監督的立場の人物、清掃・処理業者が全て、早期に消防機関へ通報しないといけないという認識の欠如が見られた。清掃業者等への連絡・対応等は適切であるとする。設置なし、消火等なし、二次災害なし、教育・訓練実施なし、消火設備の作動なし。													
行政措置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 5 年 2 月 17 日		令和 5 年 3 月 14 日			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無		内容：			
	そ の 他	年 月 日		年 月 日									
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭													
35 今後の対策や所見 今回の流出事故を踏まえ、危険物の取扱いに関するマニュアルを作成した(取扱い方法、遵守事項、事故発生時の対応等)。また、保安講習とは別に、教育・勉強会を定期的に開催し、施設側と委託業者が協力し、事故発生を未然に防ぐよう努める。													

令和5年

1 事故名		自動充填設備附属配管(L6)の保温下腐食による潤滑油漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		7月 13日 12時 20分 推定・ 確定					4 発生見		7月 13日 13時 00分		
5 覚知		7月 13日 13時 10分					6 鎮圧 応急処置完了		7月 13日 19時 00分		
7 鎮火・処理完了		7月 13日 19時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：西南西 風速：2.5m/s 気温：31℃ 湿度：66%									
10 発生事業所		種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製 番号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業					11 発生場所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 和歌山北部臨海中部地区 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 800,000L 400倍 第4類第4石油類 潤滑油 840,000L 140倍 倍数の合計： 540倍 設置の完成：平成 元年 4月 27日 直近の完成：令和 4年 10月 24日		
12 施設装置							名称：ドラム充てん施設 番号 (1403) 能力：建築面積:887㎡延べ面積:1,721㎡ 13 機器等 温度圧力： 名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規模：建築面積:887㎡延べ面積:1,721㎡				
14 発生箇所											
15 発生時											
17 物質の区分											
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 槽に充填された潤滑油基油と添加剤を均一に混合するために、槽にてタンク循環を実施したところ、ポンプの出口配管より油が漏えい。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

1 事故名		1号主タービンA油冷却器下部フランジ部からの潤滑油の流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		12月 3日 22時 00分				[推定]・確定		4 発 見		12月 4日 10時 26分			
5 覚 知		12月 4日 10時 26分				6 鎮 圧 応急処置完了				12月 4日 22時 30分			
7 鎮火・処理完了		12月 4日 22時 30分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 北西 風速： 3m/s 気温： 9.8℃ 湿度： 48%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 御坊地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 10,587,000L 52,935倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 原油 5,411,990L 5,411.99倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,587,000L 5,293.5倍 第4類第4石油類 潤滑油 373,996L 62.33倍											
		倍数の合計： 63,702.82倍											
12 施 設 装 置		設置の完成： 昭和 58年 2月 26日 直近の完成： 平成 25年 11月 21日											
名 称： 発電装置		番 号 (4101)											
能 力：													
13 機 器 等		温 度 圧 力：											
名 称： 熱交換器		番 号 (301)											
規 模： 直径1,500mm、高さ6,043mm													
14 発 生 箇 所		17 物 質 の 区 分											
名 称： その他の機器等本体		番 号 (199)											
材 質： ゴム		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称： ケービング油 (コスモケービングスーパ-32) (300L)											
15 発 生 時		18 取扱者の概要											
運 転 状 況： 停止中		番 号 (5)											
作 業 状 況：		番 号 ()											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 主タービン油冷却器の遊動する管板部のOリング(油側・水側)が経年劣化により、弾性が低下し、漏油検知穴から潤滑油が防油堤内に漏えい(排出)したもの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

25

主 原 因

腐食疲労等劣化

着火原因

番号 ()

原 因

関 連 原 因

発生原因の状況：
主タービン油冷却器の遊動する管板部のOリング(油側・水側)が経年劣化により、弾性が低下し、漏油検知穴から潤滑油が防油堤内に漏えい(排出)したもの。

主原因の詳細

第Ⅰ層

第Ⅱ層

第Ⅲ層

第Ⅳ層

疲労・劣化

素材等の劣化

長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）

関連原因の詳細

26 被害の状況

1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から

27 人 的 被 害

28 物的被害

被害内容等

区分

死亡

重症

中等症

軽症

死傷原因

職業又は職名

被災影響範囲及び拡大の状況：
油冷却器の漏油検知穴から漏えいした潤滑油は、防油堤内に留まっており構外等への流出はない。

当 事 者

0

0

0

0

防 災 活 動 従 事 者

0

0

0

0

第 三 者

0

0

0

0

29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況

消 防 機 関

3 台 0 隻 0 機 8 人

自 衛

2 台 0 隻 0 機 40 人

消 防 団

0 台 0 隻 0 機 0 人

共 同

0 台 0 隻 0 機 0 人

海上保安部

0 台 0 隻 0 機 0 人

応 援

0 台 0 隻 0 機 0 人

その他の機関

3 台 0 隻 0 機 6 人

その他

0 台 0 隻 0 機 0 人

物質の被害状況：
潤滑油(コスモタービンスーパー32)が防油堤に約300L漏えい

損害額 1万円未満、1万円以上(10 万円)

30 実施した防災活動の状況

公設消防機関：番号 (99)

調査活動

自衛防災・消防組織等 番号 (5、99)

回収作業

31 防災活動上の問題点

32 施 設 名

使用停止

年 月 日

年 月 日

改善命令等

年 月 日

年 月 日

停止解除

年 月 日

年 月 日

関係条項

33 定 期 点 検 等

定期・自主点検

年 月 日

年 月 日

気密試験等

年 月 日

年 月 日

保 安 検 査

年 月 日

年 月 日

34 当該施設に係る法令違反の有無

有・無

内容：

35 今後の対策や所見

油冷却器遊動部に漏えい検知穴が加工されている設備については、定期的(8年)にOリング(油側・水側)の取替を行う。

令和5年

1 事故名		一般取扱所(非常用発電設備)から河川に重油が流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		8月 7日 17時 30分				[推定]・確定		4 発 見		8月 7日 17時 50分			
5 覚 知		8月 7日 20時 00分				6 鎮 圧 応急処置完了				8月 8日 11時 00分			
7 鎮火・処理完了		8月 16日 15時 40分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：東南東 風速：1.7m/s 気温：30℃ 湿度：67.2%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 分類不能の産業 分類不能の産 番 号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能 の産業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 4,658L 2.33倍 第4類第4石油類 ギヤー油 40.2L 0.01倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計： 2.34倍											
名 称： 廃液、排水処理施設 番 号 (1602)													
能 力： 62L/時													
13 機 器 等		温 度 圧 力：											
名 称： その他 番 号 (999)													
規 模： 高さ1.515m、長さ2.854m、幅0.72m													
14 発 生 箇 所		設 置 の 完 成： 昭和 40年 6月 25日 直 近 の 完 成： 平成 12年 3月 14日											
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)		17 物 質 の 区 分											
材 質： 鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (100L)											
15 発 生 時		18 取扱者の概要											
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)													
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 排水機を運転中、排水機のディーゼルエンジンに繋がる燃料配管の附属部(燃料濾し器)が破損(ハンドルの脱落)したため、重油が推定100L床に漏れ、さらに漏れた重油が水抜き穴から排水機場の吸水水槽へ流出し、吸水水槽と繋がる河川の合流地点(遊水池)並びに別の河川へ流出したもの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他													

25	主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
原 因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 燃料濾し器の附属部品であるハンドルが経年劣化により脱落したことで、室内に重油が漏れ、さらに室内の床に設置された水抜き穴から河川に流出したものの。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	腐食			環境			多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害								28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 河川に重油が流出(建物から周囲50m程度の範囲)				
当 事 者		0	0	0	0							
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 排水機のディーゼルエンジンの附属部品である燃料濾し器破損				
第 三 者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 推定100Lの重油が流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (400 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (6) オイルフェンスの展張						
31 防災活動上の問題点												
32 行政措置	施設名					33 定期点検等				消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				気密試験等				年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日				保安検査				年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有 ・無		
	そ の 他	年 月 日								内容： 液状の危険物を取り扱う建築物の床は、危険物が浸透しない構造とする必要があり、床面に水が河川に流れ出るよう意図的に水抜き穴が設置されている。		
35	今後の対策 や所見 河川に流出しないように床面に開いていた水抜き穴をコンクリートで塞ぐとともに、全ての排水機のディーゼルエンジンに繋がる燃料配管の附属部(燃料濾し器)を更新した。											

1 事故名		一般取扱所において、バルブの閉め忘れ等により、受槽洗浄中に洗浄液N,N-ジメチルホルムアミドが漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		5月 11日 10時 17分				[推定]・確定		4 発 見		5月 11日 10時 20分			
5 覚 知		5月 11日 10時 28分				6 鎮 圧 応急処置完了				5月 11日 10時 25分			
7 鎮火・処理完了		5月 11日 11時 00分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 東 風速： 1.6m/s 気温： 18℃ 湿度： 43%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 化学繊維製 番 号 (1742) 造業 合成繊維製造業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(水溶性液体) N,N-ジメチルホルムアミド 179, 400L 89.7倍											
		倍数の合計： 89.7倍											
12 施 設 装 置		14 発 生 箇 所											
名 称： 屋内タンク 番 号 (1208)		名 称： ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303)											
能 力：		材 質： 鋼鉄											
13 機 器 等		15 発 生 時											
温 度 圧 力：		運 転 状 況： その他 番 号 (99)											
名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)		作 業 状 況： 洗浄中 番 号 (11)											
規 模： 容量2, 100L		17 物 質 の 区 分											
		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(水溶性液体) 名称： N,N-ジメチルホルムアミド (600L)											
		18 取扱者の概要											
		経験年数5年											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 当日9時45分頃から、ポリウレタン液含侵槽・受槽の洗浄のため、N,N-ジメチルホルムアミド(以下DMFとする)洗浄液を別タンクから送液し、ポリウレタン液含侵槽・受槽及び関係配管の一部をDMFで満たす。10時10分頃、同部位の洗浄のため、同工程内でDMFを循環させていたところ、10時20分頃、当該施設付近を通りがかった作業員がポリウレタン液受槽の上蓋側フロート式液面計のワイヤーパスライン孔及びベントから、液が600Lオーバーフローしているのを発見する。連絡により駆け付けた担当者がバルブを閉鎖し、流出を止める。生産課長が現場確認後、南消防署に連絡する。人的被害はなし。受槽の液面上限警報装置は作動せず。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 故障							
	発生原因の状況： ポリウレタン液含侵槽・受槽及び関係配管の循環洗浄中に、同部位への洗浄液の流入が続き、受槽からオーバーフローしたもの。原因については、次のとおり。 (1) 従業員の手順省略・コックの閉め忘れ (2) 自動弁の作動不良及び従業員の自動弁に対する知識不足 (3) 受槽の液面警報センサーの不作動							
	主要原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	違反(故意)	問題意識の不足				
	人	本人の意識	思慮	思い込み				
	関連原因の詳細							
	故障	機能	機器の機能の停止					
因								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： なし
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 1 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 7 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(水溶性) N、N-ジメチルホルムアミド 600L 流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 現場到着時に漏えいは止まっており、クラー従業員が回収作業済であったことから、現場調査及び安全管理を行う。					自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) バルブ操作により、漏えいを停止し、回収作業を実施する。また、併せて消防機関に通報を行う。			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 1 月 5 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見	従業員への教育として、自動弁のみに頼った閉止リスクを再教育するとともに、手順書に従った動きを徹底し、指差し呼称やコック操作等の基本動作に関わる教育も実施する。また、自動弁のランプ点灯の仕組みについて、部署全員へ周知する。 機器への対応として、他の自動弁について点検を実施し、点検結果を踏まえ、今後の点検計画を策定する。液面警報センサーについては、すでに検出板が左右に振れないよう改造しているが、更に高感度のセンサーに変更予定である。							

1 事故名		一般取扱所において船舶用エンジンの試運転中にフランジ部からエンジンオイルが漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		5月 16日 16時 30分				[推定]・確定		4 発生見		5月 16日 16時 30分			
5 覚知		5月 16日 17時 03分				6 鎮圧 応急処置完了				5月 16日 19時 00分			
7 鎮火・処理完了		5月 16日 19時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：3.3m/s 気温：26℃ 湿度：43.6%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 製造業 輸送用機械器具製造業 番号 (3031) 船舶製造・修理業, 船用機関製造業 船舶製造・修理業		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 防錆油、灯油 2,000L 2倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 199,300L 99.65倍 第4類第4石油類 潤滑油、シリンダー油 588,300L 98.05倍											
		倍数の合計： 199.7倍											
12 施設装置		設置の完成： 平成 3年 5月 28日 直近の完成： 令和 5年 2月 13日											
名称： その他【分類なし】 番号 (9999)		17 物質の区分											
能力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： 潤滑油 (6,000L)											
13 機器等		温度圧力： 0.3Mpa											
名称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606)		18 取扱者の概要											
規模： 潤滑油配管													
14 発生箇所													
名称： 管継手(ダクトを含む) 番号 (201)													
材質： 鋼鉄													
15 発生時													
運転状況： 定常運転中 番号 (1)													
作業状況： 計測作業中 番号 (6)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 一般取扱所である工場内にて、ディーゼルエンジンの試験運転中に附属設備である、電動ポンプの配管フランジから、潤滑油が6,000L噴き出したもの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 維持管理不十分					着火原因					番号 ()																															
原 因	関 連 原 因 設計不良																																									
	発生原因の状況： 配管サポート未設置により、配管フランジを止めているボルトナットが振動で外れたもの。																																									
	主原因の詳細																																									
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																
	設備			監理・保守			監理			施工監理が不適切																																
	関連原因の詳細																																									
	設計不良			機能			必要とされる機能が備わっていない																																			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																										
27 人的被害										28 物的被害																																
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： ディーゼルエンジン周囲床面(約5,800L)及び海上への流出(約200L)。海上への流出範囲は敷地境界線より100m程度に収まっている。				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																				
当 事 者	0	0	0	0																																						
防災活動従事者	0	0	0	0																																						
第 三 者	0	0	0	0																																						
										施設等の被害状況： なし																																
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																										
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛		0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類潤滑油6,000L																														
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同		0 台	0 隻	0 機	0 人																															
海上保安部		1 台	0 隻	0 機	3 人	応 援		0 台	0 隻	0 機	0 人																															
その他の機関		1 台	0 隻	0 機	2 人	その他		0 台	0 隻	0 機	0 人																															
										損害額 1万円未満、 1万円以上 (117 万円)																																
30 実施した防災活動の状況																																										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動、情報収集										自衛防災・消防組織等 番号 (5、6) 海上への流出についてはオイルフェンスを設置。ディーゼルエンジン周囲床面への流出については、ウエス、油吸着シート及びバキュームクリーナーにて回収実施。																																
31 防災活動上の問題点																																										
32 行 政 措 置	施 設 名									33 定 期 点 検 等	消 防 法		そ の 他																													
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	令和 5 年 3 月 16 日		年 月 日																													
	改善命令等	年 月 日				年 月 日					気密試験等	年 月 日		年 月 日																												
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保 安 検 査		年 月 日		年 月 日																												
	関係条項										34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：																														
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																				
35 今後の対策 や所見		対策としては、電動ポンプと基部の取付穴の設計の見直し、また取付ボルトナットに関しては、緩め防止機能付きへ変更。そして、対策型配管サポートを制作し設置。さらに、流れ出たと推測される海水ピットの目地に関しては埋めること。 所見としては、引き続き事故発生時における消防機関等への通報に関して早期徹底するよう指導する。 また当該事業所に対し、従業員への教育を徹底するよう指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に対しても立入検査時に指導を行う。また保安講習などで事故事例としてあげ、同種事故防止のために注意喚起する。																																								

令和5年

1 事故名		一般取扱所に着積している船舶からの重油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		9月 13日 8時 35分				推定・ 確定		4 発生見		9月 13日 8時 35分	
5 覚知		9月 13日 8時 40分				6 鎮圧 応急処置完了		9月 13日 8時 35分			
7 鎮火・処理完了		9月 13日 10時 58分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：北東 風速：1.5m/s 気温：29℃ 湿度：70%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製 番号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、 他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：水島臨海地区									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,500,000L 1,500倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 14,520,000L 7,260倍									
		倍数の合計：8,760倍									
12 施設装置		14 発生箇所									
名称：海上入出荷施設 番号 (1401)		設置の完成：昭和 36年 9月 7日 直近の完成：令和 4年 11月 22日									
能力：重油払出量 14,520kL/日		17 物質の区分									
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (18L)									
名称：その他 番号 (999)		18 取扱者の概要									
規模：総t数:99t、全長:32.4m、全幅:7m		経験年数16年									
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者									
名称：その他 番号 (999)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い	
材質：鋼鉄										①. 有 2. 無	
15 発生時											
運転状況：払出中 番号 (10)											
作業状況：監視中 番号 (10)											
22 設備・機器等の概要：		23 事故の概要：									
オンラインファイル無		一般取扱所である第1栈橋14バースに着積していた船舶に重油の積込をしていたところ、タンクAに予定量の積込が完了したため、バルブを閉止しタンクBに積込していたが、完全に閉止できていなかったためタンクAのハッチから重油がオーバーフローし、甲板上に約18L、海上に約0.001L流出した。重油流出に気づいた船舶乗組員がバルブを閉止方向の増し締めし、栈橋作業員の指示により甲板員が緊急停止ボタンを押下した。機関長は海上への流出防止のため、船舶周辺にオイルフェンスを展開した。									
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無											
装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 監視不十分							
	発生原因の状況： バルブ閉止確認のルールが定まっておらず、毎回の作業の慣れにより、バルブ完全閉止の確認が十分に行われていなかった。また、当該事業所ではタンク切り替えの都度、積み切り終了後のタンクを5分間連続してレベルの上昇がないか確認するルールとなっていたが、船舶の乗組員に徹底されていなかった。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	違反(故意)	怠慢				
	制度	規則・手順	内容・周知	規則・手順がない/文書化されない				
	環境	社会的環境	雰囲気	安全に対する意識が低い				
	関連原因の詳細							
	人	本人の意識	思慮	過信				
因								
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害				28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 船舶甲板上に重油が約18L、海上に約0.001L流出
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 10 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 11 人	物質の被害状況： 重油約18L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	2 台 1 隻 0 機 3 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	3 台 0 隻 0 機 5 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 警戒待機				自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒待機				
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 1 月 25 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 や所見		・バルブの完全閉止確認を当該作業員と別の作業員が行い、ダブルチェックとする。 ・バルブハンドルに閉止位置のペンキ表示を行う。 ・ルール遵守に係る教育を実施し安全意識の徹底を図る。						

1 事 故 名		一般取扱所において船舶用エンジンの試験運転中に清浄機用スラッジタンクから潤滑油が漏えい											
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		10月 2日 12時 00分				推定・確定		4 発 見		10月 2日 13時 05分			
5 覚 知		10月 2日 13時 43分				6 鎮 圧 応急処置完了		10月 2日 14時 30分					
7 鎮火・処理完了		10月 2日 14時 30分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：北北西 風速：1.3m/s 気温：24.8℃ 湿度：38.6%											
10 発 生 事 業 所					11 発 生 場 所								
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 輸送用機械器具製造業 番 号 (3031) 船舶製造・修理業, 船用機関製 造業 船舶製造・修理業					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：								
					16 発生施設規制区分等								
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 防錆油、灯油 2,000L 2倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 199,300L 99.65倍 第4類第4石油類 潤滑油、シリンダー油 588,300L 98.05倍								
					12 施 設 装 置								
名 称：その他のタンク 番 号 (1299)					設置の完成：平成 3年 5月 28日 直近の完成：令和 5年 8月 17日 17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：潤滑油 (8,000L)								
能 力：													
13 機 器 等 温 度 圧 力：													
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)													
規 模：スラッジタンク 容量4,500L					倍数の合計： 199.7倍								
14 発 生 箇 所					設置の完成：平成 3年 5月 28日 直近の完成：令和 5年 8月 17日								
名 称：通気管 番 号 (304)					17 物 質 の 区 分								
材 質：鋼鉄					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：潤滑油 (8,000L)								
15 発 生 時					18 取扱者の概要								
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)					①. 選任有 2. 選任無								
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)					3. 不要								
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要			20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所である工場内にて、ディーゼルエンジンの試験運転中に、潤滑油用清浄機のスラッジタンクから、潤滑油が8,000L漏えいしたもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因	施工不良				着火原因				番号 ()					
	関 連 原 因														
	発生原因の状況： ・清浄機及び清浄機用スラッジタンク液面センサーの配線不備 ・清浄機供給水の水压不足 ・センサー及びアラームの事前作動確認未実施														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	施工不良			施工			取り付け不良								
	関連原因の詳細														
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人 的 被 害								28 物的被害							
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： スラッジタンク周囲及び工場建屋外構内道路床面(約6m×8m)へ約8,000L流出。漏えい範囲はすべて事業所内であり海上流出なし。							
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし							
防災活動従事者		0	0	0	0										
第 三 者		0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 第4類第4石油類潤滑油8,000L							
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻					0 機	0 人		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻					0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻					0 機	0 人		
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (178 万円)				
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99) 調査活動、情報収集							自衛防災・消防組織等 番号 (5) 漏えいした潤滑油はウエス、油吸着シート及びバキュームクリーナーにて回収実施。								
31 防災活動上の問題点															
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検		令和 5 年 9 月 20 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日				年 月 日									
35 今後の対策 や所見		対策としては、配線不備箇所を改善し、供給水の水压低下に関しては別ラインにて水压供給を保ち、センサー及びアラームに関しては今後必ず事前作動確認を実施すること。 所見としては、引き続き事故発生時における消防機関等への通報に関して早期徹底するよう指導する。 また当該事業所に対し、従業員への教育を徹底するよう指導したところであるが、今後、管内の事業所に対しても立入検査時に指導を行う。また保安講習などで事故事例としてあげ、同種事故防止のために注意喚起する。													

1 事故名		一般取扱所において、サービスタンクに燃料受入の際、人為的ミスにより自動停止不作動により重油が流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		6月 2日 15時 05分				[推定]・確定		4 発生見		6月 2日 15時 10分			
5 覚知		6月 2日 16時 00分				6 鎮圧 応急処置完了				6月 2日 19時 10分			
7 鎮火・処理完了		6月 6日 12時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：北北西 風速：2m/s 気温：22℃ 湿度：96%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵倉 番号 (4711) 庫業を除く) 倉庫業(冷蔵倉庫業を除く)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 江田島・能美地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) C重油 19,000L 19倍											
12 施設装置		13 機器等											
名称：ボイラー施設 番号 (1505)		温度圧力：											
能力：ボイラーNo.3 13.2t/時		名称：貯槽(タンク) 番号 (107)											
14 発生箇所		規模：ボイラー燃料用サービスタンク 1,800L											
名称：通気管 番号 (304)		設置の完成：昭和 46年 9月 1日 直近の完成：令和 3年 9月 30日											
材質：鋼鉄		17 物質の区分											
15 発生時		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：C重油(30L)											
運転状況：移送中 番号 (18)		18 取扱者の概要											
作業状況：その他 番号 (99)		経験年数22年											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 一般取扱所のボイラー燃料用サービスタンクへ移送ポンプで重油を受入していたところ、人為的ミスにより、移送ポンプを自動停止するための電源を入れていない状態で運転したことにより、サービスタンクの通気管からオーバーフローし、施設直近にある構内排水溝から排水管を経由して海上にC重油約30L(海上に油膜が20m×5m程度)が流出した。 なお、オイルフェンス展張による漏えい防止措置、吸着マット及びポンプによる応急措置を実施した。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25	主 原 因 誤操作				着火原因				番号 ()																																				
	関 連 原 因																																													
	発生原因の状況： ボイラーの燃料タンクに移送ポンプで送油する際、ポンプ2台のうちNo. 2ポンプを起動させたところ、つまり気味で調子が悪いため、No. 1ポンプに切り替えたが、ポンプ2台の安全装置(自動停止装置)のスイッチは、No. 2ポンプにだけ付いているため、No. 1ポンプ作動時の場合にも、No. 2ポンプの電源を入れておく必要があった。 作業に従事していた従業員は、その仕組みを失念しており、No. 2ポンプの電源を落としたため、安全装置が作動せず、C重油が漏えいしたもの。																																													
	主要原因の詳細																																													
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																				
	人			本人の知識・能力			知識			忘れる																																				
因	関連原因の詳細																																													
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																														
27 人的被害								28 物的被害																																						
<table><tr><td>被害内容等</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は職名</td></tr><tr><td>区分</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>当 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>防災活動従事者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 三 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>								被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した約30LのC重油の一部が、施設直近にある構内排水溝から排水管を経由して海上へ流出した。(海上へは20m×5m程度に油膜が浮く程度)流出範囲は敷地境界線より100m程度に収まっている。			
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																								
区分																																														
当 事 者	0	0	0	0																																										
防災活動従事者	0	0	0	0																																										
第 三 者	0	0	0	0																																										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)C重油約30L流出 損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																																						
消 防 機 関		2 台 0 隻 0 機 4 人		自 衛		2 台 0 隻 0 機 31 人																																								
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人																																								
海上保安部		0 台 1 隻 0 機 4 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人																																								
その他の機関		5 台 0 隻 0 機 9 人		その他		0 台 0 隻 0 機 0 人																																								
30 実施した防災活動の状況																																														
公設消防機関：番号 (99) 調査活動								自衛防災・消防組織等 番号 (5、6、7) オイルフェンスの展張、回収作業、油回収(海上)																																						
31 防災活動上の問題点 発見から消防機関への通報まで50分かかっており、消防機関の初動が遅れた。																																														
行政措置	32	施 設 名					33	定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他																																				
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和 5 年 5 月 24 日	令和 4 年 7 月 28 日																																					
		改善命令等	年 月 日		年 月 日			年 月 日	年 月 日																																					
		停止解除	年 月 日		年 月 日			年 月 日	年 月 日																																					
		関係条項																																												
	そ の 他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：																																							
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭																																										
	35		今後の対策 や所見 対策 ・ポンプの運転連動した自動停止装置への改修 ポンプの自動停止装置をポンプの起動と同時に電源を供給されるように電源回路を改修 ・ポンプの自動停止回路の多様化 現状、ポンプの停止制御装置に不具合が生じた場合は、自動停止が利かないため、センサーから直接ポンプを停止する機能の付加を検討。 所見 当該事業所に対し、事故を覚知した際は、早急に消防機関へ通報すること、作業工程上でヒューマンエラーを起こすおそれのあるハード面への改修対応をするよう指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。																																											

令和5年

1 事故名	木質ペレットを粉砕する機械の油圧配管フランジボルトが、緩み脱落したことによる危険物の漏えい																								
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()																								
3 発生	9月	13日	12時	19分	推定・ 確定	4 発生見	9月	13日	12時	25分															
5 覚知	9月	13日	12時	33分		6 鎮圧 応急処置完了	9月	13日	12時	25分															
7 鎮火・処理完了	9月	14日	12時	00分																					
8 覚知別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()																								
9 気象状況	天気：曇 風向：東 風速：1.2m/s 気温：29.4℃ 湿度：																								
10 発生事業所	種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 電話番号 (3311) 気業 電気業 発電所					11 発生場所	区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 102,000L 102倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油、絶縁油 80,000L 40倍 第4類第4石油類 潤滑油 161,900L 26.98倍 倍数の合計：168.98倍 設置の完成：令和 元年 11月 20日 直近の完成：令和 4年 5月 9日																		
12 施設装置						14 発生箇所																			
名称：ボイラー施設 番号 (1505)						名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201)																			
能力：ボイラー施設 14.5t/時						材質：鋼鉄																			
13 機器等						15 発生時																			
名称：ボイラー 番号 (404)	17 物質の区分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：潤滑油(363L)																							
規模：容量 14.5t/時	18 取扱者の概要																								
14 発生箇所	19 危険物保安統括管理者						20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無															
名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201)	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要																								
材質：鋼鉄																									
15 発生時	運転状況：定常運転中 番号 (1) 作業状況：運転操作中 番号 (1)					18 取扱者の概要																			
17 物質の区分											①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：潤滑油(363L)														
18 取扱者の概要																①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
19 危険物保安統括管理者																					21 危険物取扱者の取扱・立会い				
20 危険物保安監督者																									
21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無																								
22 設備・機器等の概要：						オンラインファイル無																			
23 事故の概要：											木質ペレットを粉砕する機械の油圧配管フランジボルトが、緩み脱落したことによる危険物の漏えい。														
24 緊急処置の状況																有 番号 (1) 無 装置の緊急停止									

原因	25 主 原 因 施工不良						着火原因						番号 ()		
	関 連 原 因														
	発生原因の状況： 木質ペレットを粉砕する機械の油圧配管フランジボルトが、緩み脱落したことによる危険物の漏えい。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層		
	施工不良				施工				ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）						
	関連原因の詳細														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人 的 被 害										28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所内							
当 事 者		0	0	0	0										
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 供給タンク内の潤滑油535Lのうち363Lが漏えい。 施設部品等の破損なし。							
第 三 者		0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類(引火性液体)第4石油類潤滑油363L流出					
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人						
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人						
										損害額 1万円未満、 1万円以上 (40 万円)					
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (5、99) 吸着マットで漏えい処理を行い、フランジ部の状況確認										自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点															
32 施設名									33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
	使用停止				年 月 日				定期・自主点検		年 月 日		年 月 日		
	改善命令等				年 月 日				気密試験等		年 月 日		年 月 日		
	停止解除				年 月 日				保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項								34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：				
	そ の 他				年 月 日										
1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭											
35 今後の対策 や所見		今後の対策として、フランジボルトを適正なトルクで締め付け後に、ボルトにアイマークを記入しパトロール時にボルトの緩みがないことの徹底をする。													

令和5年

1 事故名		予備粉碎機の配管から潤滑油が漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		1月 29日 0時 00分				[推定]・確定		4 発生見		1月 29日 6時 00分	
5 覚知		1月 29日 10時 07分				6 鎮圧 応急処置完了				1月 29日 6時 30分	
7 鎮火・処理完了		1月 29日 15時 20分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：東北東 風速：2m/s 気温：2.5℃ 湿度：88%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、[第2種]、その他) 業態：製造業 窯業・土石製品製造業 番号 (2221) セメント・同製品製造業 セメント製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 宇部・小野田									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(水溶性液体) ジェチレングリコール 6,920L 1.73倍 第4類第4石油類 潤滑油 28,810L 4.8倍									
12 施設装置		倍数の合計： 6.53倍									
名称： 番号 ()											
能力：											
13 機器等		温度圧力：10Mpa									
名称： 粉碎機(ミル、ペルペライザー、アトマイザー) 番号 (509)											
規模：通常運転圧力90～130kg/cm ²											
14 発生箇所		設置の完成：昭和 49年 11月 11日 直近の完成：平成 9年 8月 7日									
名称：その他の附属配管等 番号 (299)		17 物質の区分									
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称：潤滑油(1,000L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：定常運転中 番号 (1)											
作業状況：運転操作中 番号 (1)											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 従業員がパトロール中、予備粉碎機のオイルレベル低下を発見したもの。											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原 因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 予備粉碎機ピット内にある配管が腐食により配管が破損し、潤滑油が漏えいしたもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害							28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした潤滑油は、ローラーミル減速機ピット内に留まる
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管破損
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					物質の被害状況： 潤滑油約1,000L漏えい
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								損害額 1万円未満、 1万円以上 (345 万円)
公設消防機関：番号 (99) 警戒活動							自衛防災・消防組織等 番号 (5) 漏えいした潤滑油をひしゃく等でドラム缶に回収	
31 防災活動上の問題点								
32 施 設 名					33 定 期 点 検 等		消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保 安 検 査		年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ 無 内容：
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策や所見 危険物の定期点検時に、配管下側に腐食がないか鏡を使って行う。								

令和5年

1 事故名		トレンチ内に敷設している配管から重油が漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		3月 21日 0時 00分				[推定]・確定		4 発生見		3月 21日 12時 50分			
5 覚知		3月 21日 13時 10分				6 鎮圧 応急処置完了				3月 21日 12時 50分			
7 鎮火・処理完了		3月 22日 11時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：雨 風向：東南東 風速：7m/s 気温：12℃ 湿度：99%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 宇部・小野田											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 65,760,000L 328,800倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 90,900,000L 90,900倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 106,864,000L 53,432倍											
12 施設装置		13 機器等											
名称：その他【石油精製工業】 番 号 (2999)		温度圧力：120℃											
能力：		名称：その他 番 号 (999)											
13 機器等		規模：ベントノズル											
14 発生箇所		15 発生時											
名称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303)		運 転 状 況：停止中 番 号 (5)											
材質：鋼鉄		作 業 状 況：その他 番 号 (99)											
15 発生時		16 物質の区分											
運 転 状 況：停止中 番 号 (5) 作 業 状 況：その他 番 号 (99)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：C重油(4,500L)											
		18 取扱者の概要											
		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 12時50分ごろ、パトロール中の従業員が臭いに気づきトレンチ内を確認したところ、トレンチ内にC重油が約4,500L漏えいしているのを発見したもの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

25	主 原 因 破 損						着火原因						番号 ()						
原 因	関 連 原 因																		
	発生原因の状況： トレンチ内に敷設している配管(14インチ)の架台が腐食により座屈したことにより、ドレンノズル(3/4インチ)が地面に接触、折損した箇所からC重油が漏えいしたものの。																		
	主要原因の詳細																		
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層						
	破損				定常運転時				機器そのものが落下										
	関連原因の詳細																		
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																		
27	人 的 被 害												28 物的被害						
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： C重油の漏えいは、トレンチ内で留まる。										
	当 事 者		0	0	0	0													
	防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： ドレンノズルの折損										
	第 三 者		0	0	0	0													
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	6 人	物質の被害状況： C重油約4,500L									
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機										0 人
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機										0 人
	その他の機関	2 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台	0 隻	0 機										0 人
30	実施した防災活動の状況																		
公設消防機関：番号 (99) 警戒活動												自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒活動							
31	防災活動上の問題点																		
32 行政措置	施設名									33 定期点検等	消 防 法				そ の 他				
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	年 月 日				年 月 日				
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日				年 月 日				
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日				年 月 日				
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：								
	そ の 他	年 月 日				年 月 日													
35	今後の対策 や所見 他のトレンチ内にある配管架台の腐食状況、健全性の検査を実施する。																		

令和5年

1 事故名		一般取扱所において、灯油配管の圧力計付近から灯油が漏えいしたもの									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		4月 2日 23時 18分 推定・ 確定					4 発 見		4月 3日 8時 00分		
5 覚 知		4月 3日 8時 41分					6 鎮 圧 応急処置完了		4月 3日 8時 05分		
7 鎮火・処理完了		4月 3日 13時 45分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：西 風速：1m/s 気温：15℃ 湿度：47%									
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所									
種 別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 その他) 業 態：製造業 その他の製造業 他に 番 号 (3299) 分類されない製造業 他に分類 されないその他の製造業		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 宇部・小野田									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 13, 104L 13. 1倍									
12 施 設 装 置		設置の完成：平成 28年 11月 22日 直近の完成：平成 28年 11月 22日									
名 称：ボイラー施設 番 号 (1505)											
能 力：											
13 機 器 等		温度圧力：1Mpa									
名 称：ボイラー 番 号 (404)		倍数の合計： 13. 1倍									
規 模：発熱量 43. 5MJ/kg											
14 発 生 箇 所											
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		17 物 質 の 区 分									
材 質：ステンレス		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0－40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (280L)									
15 発 生 時		18 取扱者の概要									
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： ボイラー室(危険物一般取扱所)の防液堤内に灯油(約280L)が漏えいしているのを発見したもの。 灯油配管のバルブを閉止し、漏えいを停止する。 ボイラーの危険物配管(圧力計付近)から灯油が漏えい。危険物施設外への流出なし。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 圧力ゲージを接続している短管ネジ末端部分に亀裂が発生したもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	疲労・劣化	環境	常に振動する環境下で疲労（想定内の振動であるが、材料が継続した疲労により損傷等）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした灯油は施設内の防油堤内におさまり、施設外への流出なし
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 灯油280L				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	3 台 0 隻 0 機 9 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
損害額 1万円未満、 1万円以上 (2 万円)								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 活動なし。					自衛防災・消防組織等 番号 (5) ボイラーのメーカーが給油ポンプで漏えいした灯油をポリ缶(20L×13缶)に回収した。			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策や所見		防油堤内に漏えい検知センサーを設置し、早期発見を図る。 通報の基準を作成し、従業員全体へ教育・周知を行う。						

令和5年

1 事故名		発電設備の試運転中、フランジのパッキンの経年劣化によるタービン油の流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		4月 17日 11時 10分 推定・ 確定					4 発生見		4月 17日 11時 10分				
5 覚知		4月 17日 11時 15分					6 鎮圧 応急処置完了		4月 17日 11時 30分				
7 鎮火・処理完了		4月 17日 21時 30分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西 風速：1.4m/s 気温：17℃ 湿度：53%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 タービン油 8,000L 1.33倍											
12 施設装置		倍数の合計：1.33倍 設置の完成：平成 26年 12月 15日 直近の完成：平成 26年 12月 15日											
名称：その他のタンク 番 号 (1299) 能力：8,000L													
13 機器等													
温度圧力：		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：タービン油 (10L)											
名称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規模：8,000L													
14 発生箇所													
名称：パッキング 番 号 (213) 材質：ゴム		18 取扱者の概要											
15 発生時													
運転状況：試運転中 番 号 (14) 作業状況： 番 号 ()													
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 定期メンテナンスにより、タービン油の入替えが必要となったことで抜取及び受入を実施した。受入完了後、試運転している際にフランジのパッキンが経年劣化により割れて、タービン油が流出したもの。漏えい確認後、油受け缶を準備し対応。消火器は既に近くに準備してあり火災への備えもできていた。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： タービン油の入替え作業が完了し、試運転をしていた際にフランジのパッキンが破損しておりタービン油が流出したもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内に流出したのみ。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第4石油類 タービン油 10L流出	
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)	
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策や所見		・各設備の経年劣化等を考慮し、巡回・目視等での確認に努める。						

1 事故名		一般取扱所における配管破損によるC重油漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		5月 19日 0時 00分				[推定]・確定		4 発 見		5月 19日 13時 29分			
5 覚 知		5月 19日 13時 42分				6 鎮 圧 応急処置完了				5月 19日 13時 53分			
7 鎮火・処理完了		5月 19日 13時 53分											
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：曇 風向： 西南西 風速： 3m/s 気温： 18℃ 湿度： 98%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、[第2種]、その他) 業 態： 製造業 その他の製造業 他に 番 号 (3299) 分類されない製造業 他に分類 されないその他の製造業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 宇部・小野田											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 326, 230L 163. 12倍 第4類第4石油類 潤滑油 1, 534L 0. 26倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計： 163. 38倍											
名 称： 焼却装置 番 号 (1605)													
能 力：													
13 機 器 等		温 度 圧 力： 4Mpa											
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		設置の完成： 平成 8年 3月 29日 直近の完成： 平成 29年 12月 5日											
規 模： 約935m													
14 発 生 箇 所		17 物 質 の 区 分											
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス											
材 質： 鋼鉄		5. 毒物 6. 劇物 7. その他											
15 発 生 時		(固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧])											
運 転 状 況： その他 番 号 (99)		(低温、[常温] [0－40℃]、高温)											
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油 (14L)											
18 取扱者の概要													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 石炭ミルのトラブル対応にて、微粉炭に加えて再生重油混焼をし、再生重油の使用量を増加させていた。その際に、発災箇所周辺で工事を行っていた工事業者が配管からの油漏れを発見し、生産課へ連絡。直ちに現場に急行し重油漏えいを確認及び消防局へ119番通報を実施。その後、配管漏えいを止めるためキルン停止後、重油循環ポンプ運転停止。 漏えいした再生重油(約14L)については、海上への流出がない事を確認後、漏えい流出防止を図ったのち、西工場タワー周辺に流出した油をバキューム車にて全量回収した。 ※西工場タワー周辺側溝に油膜が溜まったため、海上への流出はなし。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他													

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因		維持管理不十分					
	発生原因の状況：		平成8年4月以来、27年が経過しており、経年仕様による腐食が進行し溶接部にピンホールが発生した。また、元々はC重油の配管であり、上記と抱き合わせてラギングで保温してあるため、ラギング表面の外観の点検しかできていなかった。					
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）			
	関連原因の詳細							
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切	
	因							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害							28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 西工場タワー周辺の側溝に油膜が留まったため、海上への流出はなし
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管の腐食によりピンホールが発生
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	3 台 0 隻 0 機 7 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 重油				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	5 台 0 隻 0 機 10 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (76 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 危険性がないことを確認し、事故の経緯、発生状況、原因塔の速報を消防に報告するよう指示し撤収。						自衛防災・消防組織等 番号 (5) バキューム車による回収作業を実施。		
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 や所見	当該配管を新品に取り替える。隣接する戻り配管についてはキルン休転時に取替を実施。類似箇所の抽出及び点検計画を作成する。また、類似の箇所についてはラギングを開放し配管の腐食状況を点検する。 ① 西1号キルン重油配管 配管総延長：約935m 類似対象箇所：24か所 補修対象箇所：3か所 ※その他の類似箇所については、ラギングの開放点検実施後、異常があれば補修を実施 ② スラグ乾燥設備重油配管 配管総延長：約170m 類似対象箇所：7か所 補修対象箇所：ラギング開放点検後、異常があれば補修を実施 ③ タンカル製造設備重油配管 配管総延長：約1,640m 類似対象箇所：13か所 補修対象箇所：ラギング開放点検後、異常があれば補修を実施 ④ 再生石膏設備重油配管 配管総延長：約155m 類似対象箇所：7か所 補修対象箇所：ラギング開放点検後、異常があれば補修を実施							

令和5年

1 事故名		一般取扱所 重油サービスタンクからの漏えい事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		6月 4日 0時 27分 推定・ 確定					4 発生見		6月 4日 0時 30分				
5 覚知		6月 4日 8時 04分					6 鎮圧 応急処置完了		6月 4日 4時 00分				
7 鎮火・処理完了		6月 4日 4時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：0.6m/s 気温：14℃ 湿度：98%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 窯業・土石製品製造業 番号 (2297) その他の窯業・土石製品製造業 石灰製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 104, 400L 52. 2倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 44年 1月 10日 直近の完成： 年 月 日											
名称：その他のタンク 番号 (1299)													
能力：容量15, 000L													
13 機器等		温度圧力：											
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)		倍数の合計： 52. 2倍											
規模：容量15, 000L													
14 発生箇所													
名称：その他の附属配管等 番号 (299)		17 物質の区分											
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0－40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (2, 900L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：定常運転中 番号 (1)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無											
作業状況： 番号 ()													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： サービスタンクの油量上限リミットセンサーの不作動、防油堤内漏えいセンサーの不作動により漏えい。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無													

原因	25 主 原 因 故障					着火原因					番号 ()				
	関 連 原 因														
	発生原因の状況： 漏えいが生じたサービスタンクは屋内に設置してあり、室内は石灰粉塵が舞う状況であり機器には環境負荷が強いため、作動不良を起こしたものと考えられる。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	故障			機能			機器の機能の停止								
	破損			定常運転時			その他								
	関連原因の詳細														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
人的被害	27 人 的 被 害										28 物的被害				
	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 被害なし						
	区分														
	当 事 者	0	0	0	0										
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 油量上限リミットセンサーの不作動、防油堤内漏えいセンサーの不作動							
関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況	29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
	消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油 2,900L サービスタンク防油堤内に流出				
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 ()										自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
31 防災活動上の問題点 通報の遅れ															
行政措置	32 施設名									33 定期点検等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	令和4年10月25日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項									34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：				
今後の対策や所見	その他	年 月 日				年 月 日									
	1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭														
35 各制御装置の点検項目について、目視点検だけでなく作動点検を加える。															

令和5年

1 事故名		一般取扱所 危険物送油管屋外フランジ部分からTNシンナーが漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		6月 15日 10時 30分	
5 覚知		6月 15日 11時 03分		6 鎮圧 応急処置完了		6月 15日 10時 45分	
7 鎮火・処理完了		6月 16日 11時 45分					
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：曇 風向：北 風速：0.9m/s 気温：21℃ 湿度：89%					
10 発生事業所				11 発生場所			
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 電子部品・デバイス製造業 番号 (2919) 造業 電子部品・デバイス製造業 その他の電子部品製造業				区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 混合溶剤(TNシンナー) 1,800L 9倍			
				倍数の合計：9倍			
12 施設装置				設置の完成：平成 5年 12月 9日 直近の完成：年 月 日			
名称：配合室 番号 (1707) 能力：溶剤の充填 1,800L/日				17 物質の区分			
13 機器等				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：混合溶剤(TNシンナー)			
名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規模：直径40mm				18 取扱者の概要			
14 発生箇所				19 危険物保安統括管理者			
名称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201) 材質：鋼鉄				20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い	
15 発生時				①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		1. 有 ②. 無	
運転状況：定常運転中 番号 (1) 作業状況：番号 ()				22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所から一般取扱所へ危険物を送油中に、屋外配管のフランジ部から危険物が滴下していた事故で、付近を移動していた職員がその状況を発見したもの。排水路の水及び河川水草を採取し成分検査を実施したところ、油成分は検出されなかったため、河川への流出はないと考えられる。				24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原因	25 主 原 因	腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()																														
	関 連 原 因																																							
	発生原因の状況： 危険物配管においてフランジボルトの締め付けが不十分であったことに加え、フランジパッキンの経年劣化が進んだことにより危険物が漏えいしたものと考えられる。なお、当該フランジ部に使用してあった鋼製ボルトが経年で腐食して細くなっていたことも漏えいの原因になった可能性がある。																																							
	主原因の詳細																																							
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																														
	施工不良			施工			ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）																																	
	腐食			環境			異種金属間腐食																																	
	関連原因の詳細																																							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																								
因	27 人 的 被 害								28 物的被害																															
	<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 被害なし			
	被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																	
	当 事 者	0	0	0	0																																			
	防災活動従事者	0	0	0	0																																			
	第 三 者	0	0	0	0																																			
									施設等の被害状況： フランジパッキンの経年劣化、鋼製ボルトが経年で腐食して細くなっていた																															
	29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																							
	消 防 機 関		0 台 0 隻 0 機 0 人				自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人																															
	消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人				共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人																															
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人				応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人																																
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人				その他		0 台 0 隻 0 機 0 人																																
								物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)TNシンナー 漏えい量不明(少量)が工場敷地内の土壌中に流出																																
								損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																																
30 実施した防災活動の状況																																								
公設消防機関：番号 ()								自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業																																
31 防災活動上の問題点																																								
行政措置	32 施 設 名	一般取扱所				33 定 期 点 検 等				消 防 法		そ の 他																												
	使用停止	令和 5 年 6 月 15 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日																												
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日																												
	停止解除	令和 5 年 6 月 16 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日																												
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無				☒ ・無																														
	その他	年 月 日				年 月 日				内容： ・消防法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反																														
	1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭																																			
	35 今後の対策や所見																																							
	異種金属で施工する場合には腐食劣化を抑えるような絶縁対策等を行うこと。																																							

令和5年

1 事故名		危険物一般取扱所(発電設備)のボイラーのバーナー取付部から重油が約330L漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 17日 11時 40分				[推定]・確定		4 発生見		8月 17日 13時 40分			
5 覚知		8月 17日 13時 55分				6 鎮圧 応急処置完了				8月 17日 14時 28分			
7 鎮火・処理完了		8月 18日 6時 30分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：南東 風速：4.2m/s 気温：30℃ 湿度：69%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、 <u>用</u> 、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 岩国・大竹											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油、軽油 358,470L 358.47倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 1,408,590L 704.3倍 第4類第4石油類 潤滑油 32,193L 5.37倍 倍数の合計： 1,068.14倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：自家発電施設 番 号 (1503)		設置の完成：平成 15年 9月 26日 直近の完成：令和 4年 2月 24日											
能力：ボイラー施設・重油 840kL/日 ・コークス(指定可燃物)312t/日		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(330L)											
名称：ボイラー 番 号 (404)		18 取扱者の概要											
規模：高さ47,900mm×縦16,500mm×横17,500mm		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要											
14 発生箇所		21 危険物取扱者の取扱・立会い											
名称：パッキング 番 号 (213)		①. 有 2. 無											
材質：その他													
15 発生時													
運転状況：定常運転中 番 号 (1)													
作業状況： 番 号 ()													
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事故の概要： 危険物一般取扱所(発電設備)において、工事に向かっていた協力会社員が漏油を発見、運転員が現場を確認したところ、ボイラーのバーナー取付部から重油が漏えい(約330L)していたものである。燃料供給の遮断により漏えいは停止、漏えいした重油が固化し回収作業に時間を要した。													
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (10) 無 その他													

原因	25	主 原 因 施工不良				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： バーナーはバーナーシリンダー(固定)にバーナーガンを挿入する構造で、バーナーガンに重油の供給ラインがクランプで締結されており、当該締結部にはパッキンが挿入されている。発災当日午前中の巡回点検でバーナーの燃焼不良の兆候を認めたため、バーナーチップの交換作業(日常作業)を行い、点火前漏えい確認テストで蒸気漏れを認めたためパッキンを取替え再テスト後、異常を認めず点火、点火後も異常はなく現場を離れたが、事後調査により、クランプの締め付けすぎにより、パッキンの一部が破損し漏えいに繋がったことを特定した。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層			第Ⅳ層					
	施工不良		施工		ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）								
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害								28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出は施設内に留まっており、他の施設等への影響はない。					
区分													
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： バーナーガンと重油配管を締め付けるクランプに挿入するパッキンが破損。					
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 11 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 5 人					物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油 約330L漏えい。					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人										
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人										
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					損害額 1万円未満、 1万円以上 (2 万円)					
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99) 警戒、調査						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業							
31 防災活動上の問題点 漏えいした重油が固化し回収作業に時間を要した。													
行政措置	32	施設名	危険物一般取扱所			33	定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	行	使用停止	令和 5 年 8 月 17 日	年 月 日		政	定期・自主点検	令和 4 年 10 月 25 日	令和 5 年 8 月 17 日				
		改善命令等	年 月 日	年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日				
		停止解除	令和 5 年 9 月 15 日	年 月 日			保安検査	年 月 日	年 月 日				
	措	関係条項	法第12条の3第1項			置	34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：					
そ の 他		年 月 日	年 月 日										
35		今後の対策 や所見	クリアランスを適正に管理しパッキンの損傷を防止するするために、各バーナーにスペーサーを設置し、運転操作手順等に反映するとともに、周知教育を実施する。										

令和5年

1 事故名		危険物一般取扱所において、充填中の移動タンク貯蔵所の上部マンホールからヘキサンがオーバーフロー									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		9月 14日 9時 00分				推定・ 確定		4 発 見		9月 14日 9時 00分	
5 覚 知		9月 14日 10時 04分				6 鎮 圧 応急処置完了				9月 14日 9時 00分	
7 鎮火・処理完了		9月 14日 10時 15分									
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気： 雨 風向： 北東 風速： 2.4m/s 気温： 25℃ 湿度： 92%									
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所									
種 別： ①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1735) 業製品製造業 プラスチック製 造業		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、 荷 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 岩国・大竹									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ヘキサン等 108, 100L 540. 5倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 29, 000L 72. 5倍 第4類アルコール類 メタノール 3, 000L 7. 5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) キシレン等 102, 400L 102. 4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) メタパラクレゾール等 49, 400L 24. 7倍 第4類第3石油類(水溶性液体) ヘキシレングリコール等 42, 100L 10. 53倍 第4類第4石油類 ルーカント 160, 000L 26. 67倍									
12 施 設 装 置		13 機 器 等									
名 称： ローリー充てん施設 番 号 (1402)		温度圧力：									
能 力： 第4類・第1石油類137, 100L/日、アルコール類3, 000L/日、 第2石油類102, 400L/日、第3石油類91, 500L/日、第4石油類160, 000L/日		名 称： 貯槽(タンク) 番 号 (107)									
		規 模： 移動タンク貯蔵所容量:全5室、14kL									
14 発 生 箇 所		15 発 生 時									
名 称： タンクの注入口 番 号 (905)		材 質： 鋼鉄									
15 発 生 時		運 転 状 況： 荷積中 番 号 (12)									
		作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)									
		17 物 質 の 区 分									
		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ヘキサン(92L)									
		18 取扱者の概要									
		経験年数15年									
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事故の概要： 危険物一般取扱所(ローリー充填設備)において、充填中の移動タンク貯蔵所の上部マンホールからヘキサンが防護枠内にオーバーフロー(92L)し、防護枠の水抜口から漏油の抜き取り回収作業中に床面に2、3L程度漏えいしたものである。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因 誤操作					
	発生原因の状況： 積込責任者が複数の車両を掛け持ちし充填作業の進捗を十分把握できていなかった。また、作業員が交代した際の引継ぎ、チェックリストの適切な運用、積込責任者とドライバーの意思疎通も十分になされておらず、レベル警報器も適切に設置もされていなかったため漏えいに繋がったものである。					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	管理		組織		コミュニケーション	
	関連原因の詳細					
	因	人		本人の意識		思慮
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害						
28 物的被害						
被害内容等						
区分						
死亡						
重症						
中等症						
軽症						
死傷原因						
職業又は職名						
被災影響範囲及び拡大の状況： 施設外への拡大なし。						
当 事 者						
防 災 活 動 従 事 者						
第 三 者						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関						
消 防 団						
海上保安部						
その他の機関						
物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ヘキサン 92L流出。						
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)						
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (99)						
警戒、調査						
自衛防災・消防組織等 番号 (5、99)						
警戒						
31 防災活動上の問題点 移動タンク貯蔵所のマンホールから防護枠内にオーバーフローした時点では危険物の漏えい事故と認識しておらず。回収作業中に床面に漏えいしたことを理由に消防への通報を行ったため通報遅れとなったものである。						
行政措置	32 施 設 名		危険物一般取扱所		33 定 期 点 検 等	
	使用停止		年 月 日		定期・自主点検	
	改善命令等		年 月 日		令和4年10月13日	
	停止解除		年 月 日		年 月 日	
	関係条項				保安検査	
	そ の 他		令和5年9月15日		年 月 日	
	①. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭		34 当該施設に係る 法令違反の有無	
					有・無	
					内容：	
	35 今後の対策 や所見 事故事例を周知しチェックリストの適切な運用について教育を実施する。積込責任者は車両ごとに選任として、充填作業の開始から終了まで監視できるよう作業体制の見直しを実施し、また、レベル計の適切な設置のため、積込責任者とドライバーでダブルチェックを行う。					

令和5年

1 事故名		配管フランジ部からの廃メタノール滴下漏えい							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発生		9月 26日 10時 30分		[推定]・確定		4 発生見		9月 26日 10時 30分	
5 覚知		9月 26日 11時 00分		6 鎮圧 応急処置完了		9月 26日 11時 00分			
7 鎮火・処理完了		10月 23日 0時 00分							
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()							
9 気象状況		天気：曇 風向：北 風速：2.5m/s 気温：27℃ 湿度：75%							
10 発生事業所		種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 製造業 化学工業 医薬品製造 番 号 (1761) 業 医薬品原薬製造業				11 発生場所		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 メタノール・エタノール 36,000L 90倍 倍数の合計： 90倍 設置の完成： 令和 5年 1月 30日 直近の完成： 令和 5年 1月 30日	
12 施設装置						17 物質の区分			
名称： ローリー充てん施設 番 号 (1402) 能力： 36,000L/日						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類アルコール類 名称： メタノール・エタノール (3L)			
13 機器等						18 取扱者の概要			
名称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規模： 外径60.5mm									
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者		20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
名称： パッキング 番 号 (213) 材質： ゴム		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要							
15 発生時		22 設備・機器等の概要：							
運転状況： 停止中 番 号 (5) 作業状況： 番 号 ()		オンラインファイル無							
23 事故の概要：		ローリー充填場に送液する配管のフランジより廃メタノールが3L程度滴下漏えいしたもの。事業所は定修中。							
24 緊急処置の状況		[有] 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 配管両端のバルブが閉であったために液封となり、気温上昇によって内圧が上昇し、フランジ部より漏えいしたもの。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	設計不良	能力	想定を越えた圧力の発生							
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害					28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： フランジ部下部に流出		
	当 事 者	0	0	0	0					
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし		
	第 三 者	0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第四類アルコール類 廃メタノール 3L流出			
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台		0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台		0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台		0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台		0 隻	0 機	0 人
30 実施した防災活動の状況							損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)			
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 9 月 21 日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：					
	そ の 他	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策 や所見		各設備の経年劣化等を考慮し、巡回・目視等での確認に努める。								

令和5年

1 事故名		危険物一般取扱所の反応缶底部のギアポンプからエチレングリコールが約10L漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		12月 12日 10時 05分				推定・ 確定		4 発生見		12月 12日 10時 06分	
5 覚知		12月 12日 10時 20分				6 鎮圧 応急処置完了		12月 12日 10時 30分			
7 鎮火・処理完了		12月 12日 15時 59分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：北北東 風速：1.4m/s 気温：15℃ 湿度：92%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 化学繊維製 番号 (1742) 造業 合成繊維製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 エタノール、メタノール他 4,800L 12倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン、メチルエチルケトン他 15,700L 78.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) アノ他 2,900L 2.9倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 酢酸他 1,300L 0.65倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) サームS700他 95,495L 47.75倍 第4類第3石油類(水溶性液体) エチレングリコール他 191,517L 47.88倍									
12 施設装置		倍数の合計：189.68倍									
名称：その他の合成樹脂製造装置 番号 (5959)		設置の完成：昭和 38年 9月 17日 直近の完成：令和 5年 11月 29日									
能力：約5t/日		17 物質の区分									
13 機器等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分類： 第4類第3石油類(水溶性液体) 名称：エチレングリコール(10L)									
温度圧力：205℃、0.2Mpa		18 取扱者の概要									
名称：ポンプ 番号 (501)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
規模：高さ340mm、長さ680mm		21 危険物取扱者の の取扱・立会い									
14 発生箇所		①. 有 2. 無									
名称：パッキング 番号 (213)											
材質：その他											
15 発生時											
運転状況：その他 番号 (99)											
作業状況： 番号 ()											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事故の概要： 危険物一般取扱所において、反応缶の洗浄作業中に、反応缶底部のギアポンプから洗浄液であるエチレングリコール(第4類第3石油類水溶性)が約10L漏えいしたものである。作業者が漏えいを発見し、直ちに装置を緊急停止させたため漏えいは停止したものである。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 事故原因は、グラント押さえとグラントボックス間の面間に差異が認められたことから、増し締め作業時に片締めが生じ、グラントパッキンの締め付けが不均等となったため漏えいに至ったものと推定される。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	施工不良	施工	ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出は施設床面に留まっており、他の施設等への影響はない。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	5 台 0 隻 0 機 14 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 150 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(水溶性)エチレングリコール約10L漏えい。				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 警戒、調査					自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業			
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名	危険物一般取扱所		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 5 年 12 月 12 日		年 月 日		令和 5 年 6 月 30 日	令和 5 年 12 月 2 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	令和 5 年 12 月 25 日		年 月 日		年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項		34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無 内容：		
	そ の 他	年 月 日		年 月 日				
35 今後の対策や所見 発災箇所は、トルク管理が難しい箇所であることから、均等に締め付けられていることを確認するため、締め付け時にはノギスを使用して面間距離の測定を行い、合否判断におけるチェックリストの運用、測定結果の記録により片締め防止を図ることとした。また、送液前に窒素加圧による気密確認を実施するとともに、監視を2名体制に変更することとした。								

令和5年

1 事故名		危険物一般取扱所のバーナ点火トーチから軽油の漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		8月 4日 9時 05分	
5 覚 知		8月 4日 10時 15分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		8月 4日 9時 10分	
7 鎮火・処理完了		8月 4日 16時 44分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南南東 風速：5.1m/s 気温：29.6℃ 湿度：89.9%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他			
				貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所			
12 施 設 装 置		名 称：ボイラー施設 番 号 (1505) 能 力：点火を行った場合は、平均1,150L/日		類・品名・名称・数量・倍数：			
				第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,498,750L 9,498.75倍			
				第4類第4石油類 潤滑油 243,093L 40.52倍			
13 機 器 等		温 度 圧 力：		倍数の合計： 9,539.27倍			
名 称：燃焼、焼却炉 番 号 (402)							
規 模：長さ約12m							
14 発 生 箇 所				設 置 の 完 成：平成 12年 7月 12日		直 近 の 完 成：平成 12年 7月 12日	
名 称：その他 番 号 (999)				17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
15 発 生 時				5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)				(固相、液相、気相) (常圧、加圧)			
作 業 状 況： 番 号 ()				(低温、常温 [0-40℃]、高温)			
				分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (30L)			
				18 取扱者の概要			
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事故の概要： 巡視点検において、1号ボイラ棟1階フロアに軽油溜まりと上部からの滴下を確認。発生源を調査した結果、4階C-4バーナー点火トーチからの軽油の漏えいを認めたもの。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因		腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因		維持管理不十分											
	発生原因の状況：		経年劣化によりバーナガンが変形し、バーナガンパッキンの押さえが不均一になったと考えられる。											
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層		第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化				長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）							
	関連原因の詳細													
	設備		監理・保守				点検・整備				点検内容が不適切			
	因													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害										28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：						
区分								軽油の漏えいが約30Lであったが、被害なし。						
当 事 者		0	0	0	0									
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：						
第 三 者		0	0	0	0			同上。						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：										
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	同上。										
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人											
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)										
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 ()								自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点														
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検				令和 5 年 1 月 25 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等				年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保安検査				年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無				有・ <u>無</u>				
	そ の 他	年 月 日								内容：				
35 今後の対策や所見		今後の対策として、バーナガンの歪みや変形を計測するための受け側治具を設けた。消防機関の所見として、当該事業所は、昨年12月21日にも軽油漏えい事故(今回とは別の危険物施設)があったため、再発防止策が不十分であることを指導した。この指導を受けて、保安監督者から全所員への保安と安全管理の教育を行った。												

令和5年

1 事故名		ローディングアームから移動貯蔵タンクに積込中に軽油が漏えい事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		10月 25日 7時 21分				推定・確定		4 発生見		10月 25日 7時 21分			
5 覚知		10月 25日 7時 26分				6 鎮圧 応急処置完了		10月 25日 10時 25分					
7 鎮火・処理完了		10月 25日 10時 25分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：西南西 風速：2.4m/s 気温：15℃ 湿度：69%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番号 (1811)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 菊間地区											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 3,028,000L 15,140倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) スロップ 300L 1.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油、軽油、JET 3,535,000L 3,535倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 1,171,000L 585.5倍 倍数の合計： 19,262倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：ローリー充てん施設 番号 (1402)		設置の完成：平成 20年 6月 17日 直近の完成：令和 4年 3月 7日											
能力：		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(235L)											
名称：ローディングアーム 番号 (604)		18 取扱者の概要											
規模：設計圧力0.98MP		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
14 発生箇所		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
名称：その他 番号 (999)		23 事故の概要： ローリー出荷No3レーンで、移動タンク貯蔵所(以下「ローリー」という。)のNo5タンクのマンホールにローディングアームを挿入して軽油を充填する作業をしていたところ警報のアナウンスと共にマンホールから軽油が吹き上がり作業をしていたローリーの運転手(以下「運転手」という。)が軽油を全身に被った。運転手はローディングアームの先端に付いているバルブを閉止して漏えいは停止した。漏えいはローリーの上部防護枠内及びローリーを停車していた付近に約235L漏えいし、事業所の従業員が漏えいした軽油を回収すると共に消防機関に通報した。											
材質：特殊合金		24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											
15 発生時													
運転状況：荷積中 番号 (12)													
作業状況： 番号 ()													

25	主 原 因 故障						着火原因						番号 ()																																																		
原 因	関 連 原 因																																																														
	発生原因の状況： ハッチセンサー及びアームのリモートスイッチ(読み取り機器)の点検をしたが異常は無く誤作動の原因は不明であった。オーバーフロー弁が経年劣化によりダイアフラムの機能に異常が起り作動しなかったことが漏えいの直接の原因である。																																																														
	主原因の詳細																																																														
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																																																		
	故障				機能				機器の異常動作																																																						
	関連原因の詳細																																																														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																																															
27 人 的 被 害																		28 物的被害																																													
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>																		被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： ローリーの保護枠内に約230L、ローリー出荷施設の小溝の内側に約5L軽油が漏えいした。																	
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																																									
当 事 者	0	0	0	0																																																											
防災活動従事者	0	0	0	0																																																											
第 三 者	0	0	0	0																																																											
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		28 物的被害																																													
消 防 機 関 1 台 0 隻 0 機 3 人 自 衛 1 台 0 隻 0 機 5 人																		物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油約235L漏えいしたが、約230Lの軽油は回収し再処理を行った。																																													
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																															
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																															
その他の機関 0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人																																																															
30 実施した防災活動の状況																		損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)																																													
公設消防機関：番号 (99) 調査活動																		自衛防災・消防組織等 番号 (5) 大型化学消防車を配置した。																																													
31 防災活動上の問題点																																																															
32 行政措置	施設名	一般取扱所								33 定期点検等				消 防 法				そ の 他																																													
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検				令和4年11月1日				年 月 日																																													
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等				年 月 日				年 月 日																																													
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査				年 月 日				年 月 日																																													
	関係条項									34 当該施設に係る法令違反の有無				有・無				内容：																																													
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																																									
35 今後の対策 や所見		当該事業所に機器の誤作動を防止する対策を講じること及びオーバーフロー防止弁の点検を指導し、管内の他の事業所に対しても指導を行ない同種事故防止に努める必要がある。																																																													

令和5年

1 事故名		危険物循環用ホースから潤滑油が流出した事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）											
3 発生		6月 12日 8時 15分 推定・ 確定					4 発生見		6月 12日 8時 45分				
5 覚知		6月 12日 9時 30分					6 鎮圧 応急処置完了		6月 12日 9時 30分				
7 鎮火・処理完了		6月 12日 9時 30分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他（ ）											
9 気象状況		天気：曇 風向：東 風速：1.3m/s 気温：25.1℃ 湿度：83.3%											
10 発生事業所		種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 潤滑油・グリース製造業 (石油精製業によらないもの) 潤滑油製造業 番号 (1821)					11 発生場所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 潤滑油 120,000L 20倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 100,000L 50倍 倍数の合計：70倍 設置の完成：昭和 52年 2月 15日 直近の完成：令和 4年 5月 2日				
12 施設装置							17 物質の区分						
名称：潤滑油製造装置 番号 (2114)							①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス						
能力：110kL/日							5. 毒物 6. 劇物 7. その他						
13 機器等							温度圧力：						
名称：混合、溶解槽 番号 (106)		(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)											
規模：ホース長さ6m		(低温、 常温 [0-40℃]、高温)											
14 発生箇所		分類：第4類第4石油類 名称：アボ [®] ロステーションオイ [®] 0W-20 (50L)											
名称：ホース(給油、注油及び注入ホースを除く) 番号 (211)		18 取扱者の概要											
材質：ゴム		経験年数3年											
15 発生時													
運転状況：定常運転中 番号 (1)													
作業状況：運転操作中 番号 (1)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 令和5年6月12日、一般取扱所として許可を受けた危険物施設内で、危険物循環用のホース先端から危険物が漏れ出し、ホースの下に置いていた受皿からあふれ、機器周囲の油溝まで流出したものの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
原因	関 連 原 因		腐食疲労等劣化							
	発生原因の状況：									
	通常、危険物循環用のホースは、使用后元バルブ及びノズル先端のコックを完全に閉鎖して収納している。 作業員は、元バルブ及び先端のコックの閉鎖を確認していたつもりであったが、微開状態となっていたことに気が付かないまま収納したため流出した。 なお、関連する原因として、元バルブは昭和52年に設置されて以降、機器の更新が行われていないことから閉止機能が低下していた可能性がある。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	関連原因の詳細									
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27	人 的 被 害						28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 危険物循環用ホースのノズル先端から潤滑油が50L漏れ出し、受皿からあふれ、機器周囲の油溝まで流出した。		
	当 事 者	0	0	0	0					
	防災活動従事者	0	0	0	0					
	第 三 者	0	0	0	0					
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類(非水溶性)アポロステーションオイルOW-20が50L流出した。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30	実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99) 現地確認のみ実施した。 なお、消防職員現場到着時には、流出停止及び危険物の回収が完了していた。						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 危険物が流出していることを発見した作業員が、直ちに他の作業員へ伝達し、流出の停止及び流出した危険物の回収作業を実施した。				
31	防災活動上の問題点									
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和4年 8 月 22 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日		年 月 日						
35	今後の対策 や所見	事業者より、次の対策をとる旨説明があった。 ・危険物循環用ホースを使用する際には、元バルブやノズル先端のコックの閉止確認及び指差呼称の徹底を図る。 (安全教育の実施) ・元バルブの機器の更新を計画する。(設置から年数が経過しており、バルブ機能が低下している可能性があるため) ・危険物循環用ホースを使用する工程の見直しの計画を行う。								

令和5年

1 事故名		ポンプ場の原動機付き雨水ポンプからの重油流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		7月 9日 10時 30分	
5 覚知		7月 9日 17時 50分		6 鎮圧 応急処置完了		7月 9日 20時 00分	
7 鎮火・処理完了		7月 29日 16時 30分					
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：雨 風向：南 風速：13.2m/s 気温：26.7℃ 湿度：97%					
10 発生事業所		種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 水 番 号 (3611) 道業 上水道業 上水道業				11 発生場所	
12 施設装置						区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 8,150L 4.08倍 第4類第4石油類 その他の第4石油類 12,359L 2.06倍	
						倍数の合計： 6.14倍	
名称： その他【分類なし】 番 号 (9999)		設置の完成： 昭和 57年 10月 27日 直近の完成： 令和 4年 1月 20日		17 物質の区分			
能力： 原動機付き雨水ポンプ 燃料消費量273.3L/時		13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(A重油)(2,100L)			
名称： その他 番 号 (999)		温度圧力：		18 取扱者の概要			
規模： 原動機(ディーゼルエンジン) 燃料消費量273.3L/時		14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者			
15 発生時		名称： 本体に係るボルト、ナット、リベット 番 号 (107)		20 危険物保安監督者			
運転状況： 定常運転中 番 号 (1)		材質： 鋼鉄		21 危険物取扱者の取扱・立会い			
作業状況： 運転操作中 番 号 (1)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 雨天時稼働中の原動機付き雨水ポンプの燃料噴射ポンプ部エア抜き用ボルトの脱落により、燃料の重油約2,100Lが施設内に漏えいし、その一部が床のひび割れ、電気ケーブルルビットの貫通部(貫通処理なし)等からポンプ井に至り、約100Lが河川に流出したもの。なお、応急措置として、油吸着マットやバキューム等により施設内の重油を回収するとともに、河川護岸に設けられた放流ゲートにオイルフェンスを展開した。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 原動機付き雨水ポンプの燃料噴射ポンプ部エア抜き用ボルトの脱落により、ねじ穴から燃料の重油が漏えいしたものの。なお、当該ポンプの製造メーカーからは、機関振動によるエア抜き用ボルトの緩み対策としてワイヤリング施工(回り止め)が示されているが、メンテナンス等を考慮し、その判断は使用者に委ねられている。当時、当該ポンプにワイヤリング施工はなかったが、その後施工済み。							
	主要原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	施工不良	施工	ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 原動機付き雨水ポンプから重油2, 100Lが漏えいし、うち約100Lが施設外の河川に流出した。前日からの降雨により河川の流れが速く、流出範囲は不明。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油約2, 100L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 2 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 現地確認及び情報収集					自衛防災・消防組織等 番号 (5, 6) ・施設内に漏えいした重油を油吸着マットやバキューム等により回収 ・河川護岸に設けられた放流ゲートにオイルフェンスを展張			
31 防災活動上の問題点 関係者が消防法令を理解しておらず、消防機関への通報が著しく遅れた。施設の構造上、地下ピットのポンプ井への進入経路が1か所のみで、ポートを使用しなければならなかった。また、梅雨時期の降雨により、ポンプ井への雨水の流入が続き、回収に危険が伴ったため、作業に着手できず回収完了までに時間を要した。								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 や所見	【対策】①監視体制の強化②事故発生時の対応要領と緊急連絡体制の確立③関係者への保安教育④危険物取扱設備の適正管理など 【所見】関係者に対して、危険物施設に対する認識を深め、事故発生時の初動対応力の向上と迅速化を図るとともに、施設の構造、設備等の適正管理を徹底するよう指導した。今後、市内ポンプ場で同様の事故が発生しないよう消防局内での情報共有と統一的指導が必要である。							

令和5年

1 事故名		一般取扱所で充填中にタンク室から危険物が流出した事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		8月 4日 9時 15分				推定・確定		4 発 見		8月 4日 9時 15分			
5 覚 知		8月 4日 9時 45分				6 鎮 圧 応急処置完了				8月 4日 10時 30分			
7 鎮火・処理完了		8月 4日 10時 30分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：東 風速：2.3m/s 気温：29.5℃ 湿度：86.1%											
10 発 生 事 業 所		11 発 生 場 所											
種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1821) 造業 潤滑油・グリース製造業 (石油精製業によらないもの) 潤滑油製造業		区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 14,000L 7倍 第4類第4石油類 潤滑油 58,000L 9.67倍											
12 施 設 装 置		倍数の合計：16.67倍 設置の完成：平成 11年 6月 22日 直近の完成：平成 30年 11月 5日											
名 称：ローリー充てん施設 番 号 (1402)													
能 力：移動タンク貯蔵所のポンプ能力による													
13 機 器 等		温度圧力：											
名 称：充てん機 番 号 (901)		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称：ウル7G1SJ10W-30 (50L)											
規 模：移動タンク貯蔵所のポンプ機能による													
14 発 生 箇 所													
名 称：タンクの注入口 番 号 (905)		18 取扱者の概要 経験年数40年											
材 質：ステンレス													
15 発 生 時													
運 転 状 況：払出中 番 号 (10)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
作 業 状 況：充填中 番 号 (12)													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事 故 の 概 要： 令和5年8月4日(金)9時15分頃、上記事故発生施設において、協力会社の従業員が、第4類第4石油類の潤滑油を移動タンク貯蔵所へ充填作業中に、誤ってタンク室から危険物を流出させた。 なお、流出した危険物は移動タンク貯蔵所の防護枠内で収まり、周囲への流出はなかった。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他													

原因	25	主 原 因 操作確認不十分				着火原因				番号 ()																																				
	関 連 原 因																																													
	発生原因の状況： 令和5年8月4日(金)9時15分頃、上記事故発生施設において、協力会社の従業員が、製品である第4類第4石油類の潤滑油を移動タンク貯蔵所(最大貯蔵量14kL)へ10kL充填する作業を実施していた。 (協力会社の従業員は、製品の入ったドラム缶を3列に計50本並べた後、タンク室の容量に応じて充填するドラム缶の本数を数え、最後に充填するドラム缶に印をつけ、充填作業を開始した。(空になったドラム缶は直ちに別の場所へ移動させていた。) この時、協力会社の従業員は、ドラム缶を数え間違え誤ったドラム缶に印をつけてしまっており、このことに気が付かないまま移動タンク貯蔵所への充填作業を継続したため、タンク室から流出させることとなった																																													
	主要原因の詳細																																													
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																																				
	人			本人の意識			思慮			思い込み																																				
因	関連原因の詳細																																													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																														
27 人的被害								28 物的被害																																						
<table><tr><td>被害内容等</td><td>死亡</td><td>重症</td><td>中等症</td><td>軽症</td><td>死傷原因</td><td>職業又は職名</td></tr><tr><td>区分</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>当 事 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>防災活動従事者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 三 者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr></table>								被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	区分							当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 充填していた移動タンク貯蔵所のタンク室から第4類第4石油類の潤滑油が約50L流出した。流出は移動タンク貯蔵所の防護枠内で収まった。			
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																																								
区分																																														
当 事 者	0	0	0	0																																										
防災活動従事者	0	0	0	0																																										
第 三 者	0	0	0	0																																										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 第4類第4石油類潤滑油約50L流出																																						
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻					0 機	10 人																																	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻					0 機	0 人																																	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻					0 機	0 人																																	
その他の機関								0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																																		
30 実施した防災活動の状況																																														
公設消防機関：番号 (99) 現地確認及び情報収集								自衛防災・消防組織等 番号 (5) 危険物が流出していることを発見した作業員が、直ちに他の作業員へ伝達し、流出の停止及び回収作業を実施した。																																						
31 防災活動上の問題点																																														
行政措置	32	施設名							33	定期点検等	消 防 法	そ の 他																																		
	行	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和4年 8 月 9 日		年 月 日																																		
		改善命令等	年 月 日			年 月 日				年 月 日		年 月 日																																		
		停止解除	年 月 日			年 月 日				年 月 日		年 月 日																																		
		関係条項																																												
	措	そ の 他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：																																				
			1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭																																								
35		今後の対策 や所見	事業者より、次の対策をとる旨説明があった。 (1)ドラム缶にすべてナンバーを記載し、本数の数え間違いを防止する。 (2)本数の確認は複数人で行う。 (3)空になったドラム缶の整理を行う。(何本充填したか明確にする) (4)作業要領の見直しを行う。																																											

令和5年

1 事故名		ピグ装置の不適切な操作により、一般取扱所のエアバントから潤滑油の流出														
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()														
3 発生		10月 10日 9時 15分 推定・ 確定					4 発生見		10月 10日 9時 15分							
5 覚知		10月 10日 9時 31分					6 鎮圧 応急処置完了		10月 10日 11時 00分							
7 鎮火・処理完了		10月 10日 11時 00分														
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()														
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：1.3m/s 気温：22.2℃ 湿度：73.3%														
10 発生事業所		種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 番号 (1821) 潤滑油・グリース製造業 (石油精製業によらないもの) 潤滑油製造業					11 発生場所					区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 潤滑油 120,000L 20倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 100,000L 50倍 倍数の合計： 70倍 設置の完成： 昭和 52年 2月 15日 直近の完成： 令和 5年 8月 15日				
12 施設装置							17 物質の区分									
名称：潤滑油製造装置 番号 (2114)							①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス									
能力：110kL/日							5. 毒物 6. 劇物 7. その他									
13 機器等							温度圧力：									
名称：ピグ装置 番号 (605)		(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)														
規模：配管直径100mm		(低温、 常温 [0-40℃]、高温)														
14 発生箇所		分類： 第4類第4石油類 名称： IWS9903A GF-6 0W20の中間製品(10L)														
名称：バント管、ブロー管、放出管 番号 (303)		18 取扱者の概要														
材質：ステンレス		経験年数1年														
15 発生時		19 危険物保安統括管理者														
運転状況：緊急操作中 番号 (4)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無						
作業状況：その他 番号 (99)																
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無																
23 事故の概要： 令和5年10月10日(火)9時15分頃、上記事故発生施設において、従業員が、一般取扱所と屋外タンク貯蔵所をつなぐ配管内を清掃する装置(ピグ装置)の清掃用ボール(ピグボール)の位置が誤っていることに気が付き、正しい位置に戻す作業を行ったところ、配管内の危険物が逆流し、一般取扱所のエアバントから危険物が流出した。 なお、流出した危険物により負傷した者はなく、機器の損傷等もなかった。																
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他																

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因					
	発生原因の状況：					
	上記事故発生施設では、一般取扱所から屋外タンク貯蔵所へ危険物を圧送しており、1の危険物の圧送毎に配管内清掃装置であるピグ装置により、ピグボールをエア圧力により一般取扱所側から往復させ、配管内の危険物除去作業を行っている。 令和5年10月10日(火)8時20分頃、危険物の圧送を終え、従業員が次の危険物の圧送準備を行っていたところ、ピグボールが誤った位置にあることに気が付いた。 他のポンプの駆動や現場確認等によって配管内の危険物除去作業を行い、同日9時15分頃、ピグボールを戻す作業を行ったところ、除去作業が完全ではなかったため、危険物が逆流し、一般取扱所のエアベントから危険物が約10L流出した。 なお、ピグ装置操作について操作マニュアル等に具体的な記載はなく、操作が従業員の判断に委ねられた状態であった。					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	制度		規則・手順		内容・周知	
因	関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害					28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (5)	
消防隊到着時、従業員により油処理剤が散布され、安全管理も行われていたことから、消防隊は、火災危険、施設の破損及び環境影響の確認を行った。					危険物が流出していることを発見した作業員が、直ちに他の従業員へ伝達し、操作の停止及び流出した危険物の回収作業を実施した。	
31 防災活動上の問題点						
行政措置	32 施設名			33 定期点検等		消 防 法
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 4 年 8 月 26 日	そ の 他
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無
	そ の 他	年 月 日	年 月 日	内容：		
	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策や所見		事業者より、次の対策をとる旨の説明があった。 (1)ピグ装置操作マニュアルを整備する。 (2)従業員の教育を行う。 (3)非定常状態におけるピグ装置操作を安全に行うため、配管の増設や改造等の検討を行う。				

令和5年

1 事故名		一般取扱所(充填)から移動タンク貯蔵所に充填中、作業現場を離れたため重油が流出した事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		7月 14日 7時 10分				[推定]・確定		4 発生見		7月 14日 7時 30分			
5 覚知		7月 14日 8時 44分				6 鎮圧 応急処置完了				7月 14日 12時 20分			
7 鎮火・処理完了		7月 14日 12時 20分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：南 風速：2.7m/s 気温：27.6℃ 湿度：72.2%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の卸売業 番号 (5499) 他に分類されない卸売業 他に 分類されないその他の卸売業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 6,000L 3倍											
		倍数の合計：6倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：ローリー充てん施設 番号 (1402)		設置の完成：昭和 55年 3月 28日 直近の完成：平成 29年 8月 8日											
能力：歯車式連続器差調整装置 200L/分		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (2,500L)											
温度圧力：		18 取扱者の概要											
名称：その他 番号 (999)		経験年数8年											
規模：410mm×110mmのノズル		19 危険物保安統括管理者											
14 発生箇所		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
名称：給油(注油)ノズル 番号 (909)		22 設備・機器等の概要：											
材質：その他		オンラインファイル有											
15 発生時		23 事故の概要：											
運転状況：払出中 番号 (10)		令和5年7月14日(金)6時50分頃、油槽所にて保安監督者が移動タンク貯蔵所に重油の充填を行っていたが、別業務のためその場を離れ約40分後に戻ったところ、移動タンク貯蔵所の注油口から重油が溢れ出ていたため、固定給油設備の緊急停止スイッチを押下し、重油の充填を停止させた。											
作業状況：その他 番号 (99)		その後、重油の流出状況を確認することなく、隣接する給油取扱所(屋外)で業務にあたっていたところ、給油に来た客から油の臭いがすると言われたため、油槽所に戻り周囲を確認すると、西側用水路に重油が流出していたもの。なお、本事故による死傷者なし。											
24 緊急処置の状況		[有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原因	25 主 原 因 監視不十分					着火原因					番号 ()																															
	関 連 原 因																																									
	発生原因の状況：																																									
	移動タンク貯蔵所は、最大貯蔵数量4,000Lの3室構造となっており、車両前方側から1室1,000L、2室2,000L、3室1,000Lである。保安監督者が重油を充填する際、移動タンク貯蔵所は全室空の状態であり、上部注油口の1室及び2室の蓋と底弁を開放した状態で、2室に充填をしていた。																																									
	上記移動タンク貯蔵所の3室を確認したところ、蓋及び底弁が開放していた1室及び2室が満状態、蓋が閉まっていた3室は空状態であった。																																									
	以上のことから、移動タンク貯蔵所へ重油を充填中にその場を離れていた間に、移動タンクの1室及び2室が満となり、更に防護枠内に溢れた重油が防護枠内の雨水抜きドレンコックが開いていたため、溢れた重油が敷地内に流出したのち隣地境界線を越えて近くの用水路に流出しその後、下流域にオイルフェンス及び吸着マットの使用により現在のところ被害報告はない。																																									
	主要原因の詳細																																									
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層																													
	人				本人の意識				違反(故意)				問題意識の不足																													
	因																																									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																										
27 人的被害										28 物的被害																																
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況：				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																				
当 事 者	0	0	0	0																																						
防災活動従事者	0	0	0	0																																						
第 三 者	0	0	0	0																																						
										一般取扱所の油槽内から重油2,500L流出し、うち用水路への流出は約200L。																																
										施設等の被害状況：																																
										なし。																																
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																										
消 防 機 関 11 台 0 隻 0 機 31 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 0 人										物質の被害状況：																																
消 防 団 0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人																																										
海上保安部 0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人																																										
その他の機関 0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 9 台 0 隻 0 機 14 人										損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)																																
30 実施した防災活動の状況																																										
公設消防機関：番号 (6、5) 回収作業、オイルフェンスの展張										自衛防災・消防組織等 番号 ()																																
31 防災活動上の問題点 関係者に事故発生を確認したら即時通報するよう指導。その他違反事項に対し、必要な指示指導を行った。																																										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法				そ の 他																												
	使用停止	年 月 日				年 月 日				年 月 日				年 月 日																												
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日				年 月 日																												
	停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日				年 月 日																												
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無																												
	そ の 他	年 月 日				年 月 日				内容：				注油ノズルの不具合。標識・掲示板の不掲示。整理及び清掃。																												
35 今後の対策 や所見 指示指導等を給油所関係者に行った。																																										

1 事故名		第1棧橋着舷中の船舶における甲板上でのA重油漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		7月 4日 12時 25分 推定・ 確定					4 発生見		7月 4日 12時 25分				
5 覚知		7月 4日 12時 39分					6 鎮圧 応急処置完了		7月 4日 12時 25分				
7 鎮火・処理完了		7月 4日 14時 20分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：北 風速：3.3m/s 気温：29℃ 湿度：68%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：①特別防災区域内 2 特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 石油精製業 石油精製業 番 号 (1811)		区 分：①. 事業所内 (製、貯、 荷 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 大分地区石油コンビナート特別防災区域											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 4,000,000L 2,000倍											
		倍数の合計： 2,000倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：海上入出荷施設 番 号 (1401)		設置の完成：昭和 39年 12月 9日 直近の完成：令和 元年 12月 26日											
能力：第4類第1・2・3石油類 各4,000kL/D		17 物質の区分											
13 機器等 温度圧力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (326L)											
名称：その他の移送機器 番 号 (699)		18 取扱者の概要											
規模：船舶総トン数99G/t		経験年数8年											
14 発生箇所		19 危険物保安統括管理者											
名称：マンホール 番 号 (305)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					20 危険物保安監督者						
材質：鋼鉄		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					21 危険物取扱者の取扱・立会い						
15 発生時		①. 有 2. 無											
運転状況：受入中 番 号 (9)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
作業状況：運転操作中 番 号 (1)		23 事故の概要： 一般取扱所No.1バースに着舷している船舶へA重油を積み込み荷役中に、船長がNo.4左舷ハッチから甲板上にA重油が漏えいしていることを発見した。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

原因	25 主 原 因 操作確認不十分					着火原因					番号 ()				
	関 連 原 因 監視不十分														
	発生原因の状況： 直接原因:積み込みハッチのバルブの閉止を失念していた。間接原因:積み込みハッチ以外のハッチの油面監視を行っていなかった。ダブルチェックを行っていなかった。作業から離れる際のルールや役割分担が事前に決まっていなかった。十分に声掛けが行われていなかった。														
	主要原因の詳細														
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層				第Ⅳ層				
	人			本人の意識			思慮				不注意				
因	関連原因の詳細														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人 的 被 害										28 物的被害					
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 当該船舶の甲板上にA重油が漏えいした。(船舶甲板上に留まった)						
当 事 者		0	0	0	0										
防災活動従事者		0	0	0	0				施設等の被害状況：						
第 三 者		0	0	0	0				特になし。						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)A重油 約326Lが漏えい				
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満 、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99) 調査活動										自衛防災・消防組織等 番号 (5) 漏えいした範囲のA重油を空き缶に回収し拭き取った。					
31 防災活動上の問題点															
行政措置 置	32 施 設 名									33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				年 月 日						令和 5 年 4 月 20 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日						気密試験等		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日						保 安 検 査		年 月 日	
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：			
	そ の 他														
		年 月 日 1. 文書 2. 口頭				年 月 日 1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 や所見		直接原因の対策:当該船舶会社にて緊張感を持って作業することを改めて教育した。間接原因:ハッチ切替え後の全ハッチ油面監視を実施する。バルブ開閉作業におけるダブルチェックを徹底する。着栈前ミーティングにて作業内容を事前確認して役割分担を明確にする。やむなく持ち場を離れる際の声掛けや引継ぎを徹底する。所見:他の関連船舶に対して今回の事故事例を情報提供し、作業手順・監視体制の再確認を行うことが必要。													

令和5年

1 事故名		一般取扱所において、移動タンクに注油中に発生した漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		11月 21日 8時 15分				推定・ 確定		4 発生見		11月 21日 8時 15分	
5 覚知		11月 21日 8時 58分				6 鎮圧 応急処置完了				12月 21日 11時 30分	
7 鎮火・処理完了		12月 21日 11時 30分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：西南西 風速：0.3m/s 気温：10.3℃ 湿度：74%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：複合サービス業 協同組合(他 番号 (7911) に分類されないもの) 農林水 産業協同組合(他に分類されな いもの) 農業協同組合(他に分 類されないもの)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混合 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 20,000L 10倍									
12 施設装置		設置の完成：昭和 47年 5月 9日 直近の完成：昭和 47年 5月 9日									
名称：ドラム充てん施設 番号 (1403) 能力：											
13 機器等		温度圧力：									
名称：詰替機 番号 (902) 規模：最大取扱量 20,000L		倍数の合計：10倍									
14 発生箇所		17 物質の区分									
名称：給油(注油)ノズル 番号 (909) 材質：その他		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油 (1,100L)									
15 発生時		18 取扱者の概要									
運転状況：給油中 番号 (8) 作業状況：小分け・詰替中 番号 (13)		経験年数20年									
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 一般取扱所において、移動タンクに注油中にその場を離れたためA重油1,100Lを漏えいしたもの											
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 注油作業中にノズルのレバーにロックをしたまま、その場を離れたため漏えいした。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	管理	監督	監視	監視が実施されない/不足				
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害				28 物的被害				
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 重油1, 100Lが流出し、敷地内の土壌及び敷地外の 側溝550mに流出した。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油 1, 100L流出	
消 防 機 関	3 台 0 隻 0 機 6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (14 万円)	
31 実施した防災活動の状況 公設消防機関：番号 (5) 吸着剤による油の回収				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 吸着剤による油の回収				
31 防災活動上の問題点 事故発生から通報まで43分を要している。初期段階で吸着剤の枚数が足りず、回収に困難を極めた。								
政 策 措 置	32 施 設 名	一般取扱所		33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
	そ の 他	警告 令和 5 年 12 月 13 日 ①. 文書 2. 口頭	年 月 日 1. 文書 2. 口頭	内容： 消防法第10条第3項 製造所等における危険物の 貯蔵・取扱いの基準違反				
35 今後の対策 や所見	移動タンク貯蔵所に注油するのに十分な空地が確保されていなかったため、改修工事を行う。							

令和5年

1 事故名		2号機バーナ前重油ストレーナ(A側)清掃作業時に空気抜弁シート面への異物噛み込みによる重油漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		12月 5日 13時 19分				推定・ 確定		4 発生見		12月 5日 13時 19分			
5 覚知		12月 5日 14時 18分				6 鎮圧 応急処置完了				12月 5日 14時 18分			
7 鎮火・処理完了		12月 5日 15時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：北北西 風速：5m/s 気温：20℃ 湿度：70%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) C重油 667,000L 333.5倍											
12 施設装置		14 発生箇所											
名称：発電装置 番 号 (4101)		設置の完成：昭和 55年 4月 17日 直近の完成：平成 28年 12月 14日											
能力：667kL/日		17 物質の区分											
13 機器等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：C重油(40L)											
温度圧力：63.7℃、2.94Mpa		18 取扱者の概要											
名称：燃焼、焼却炉 番 号 (402)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無											
規模：667kL/日		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
14 発生箇所		23 事故の概要： 2号機バーナ前重油ストレーナ(A側)清掃のため、予備ストレーナと入替作業を行った。 重油配管加温後、(A側)重油ストレーナ空気抜き配管排出口から重油漏えいを確認した。 漏えいした重油は、空気抜き配管排出口下部に設置したベール缶から溢れ、フロア(縞鋼板)に広がっているを確認。漏えい量約40L。											
名称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303)		24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											
材質：鋼鉄													
15 発生時													
運転状況：停止中 番 号 (5)													
作業状況：洗浄中 番 号 (11)													

原因	25 主 原 因 故障		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： バーナ前重油ストレーナ(A側) 空気抜弁シート面への異物噛み込みにより、当該弁が全閉せず、系統内圧力により漏えいしたものと推定する。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	故障	機能	周囲からの異物の作用による機器の動作不良					
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害					28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ペール缶及びフロア周辺に計約40L漏えいした。
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油40L				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 危険物の回収指示 ※通報を受けた電話にて漏えい危険物の回収を指示したため、現場への出動はなし。					自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業			
31 防災活動上の問題点 漏えいを発見後、現状把握や漏えい防止措置、回収作業等を優先したため、通報まで時間を要した。								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 5 年 7 月 1 日	令和 5 年 12 月 5 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策 や所見		・バーナ前ストレーナ掃除の際は、事前に配管加温を行い作業開始から終了(リークチェック)まで一連の作業を連続的に行うことで現場に作業関係者が配置される状態とし、同様の事象(弁シートリーク)が発生した場合の漏えい防止を図る。(業務マニュアルを改定する) ・事故を発見した際は状況把握、応急措置作業等と並行した上で、消防機関への通報も早期に行うよう指導した。						

令和5年

1 事故名		一般取扱所において、電気事業法に係る定期点検中にタービン軸受からタービン油が漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		12月 11日 8時 10分				推定・確定		4 発生見		12月 11日 8時 10分			
5 覚知		12月 11日 10時 05分				6 鎮圧 応急処置完了				12月 11日 10時 55分			
7 鎮火・処理完了		12月 11日 10時 55分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南南東 風速：3.3m/s 気温：26℃ 湿度：97%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 電話番号 (3311) 気業 電気業 発電所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 タービン油 25,400L 4.23倍											
12 施設装置		設置の完成：昭和 61年 6月 19日 直近の完成：平成 6年 3月 9日											
名称：発電装置 番号 (4101)													
能力：													
13 機器等		温度圧力：0.23Mpa											
名称：タービン 番号 (504)		倍数の合計：4.23倍											
規模：容量25,400L													
14 発生箇所													
名称：軸受 番号 (903)		17 物質の区分											
材質：その他		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：タービン油 (20L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：試運転中 番号 (14)		経験年数20年											
作業状況：点検中 番号 (5)													
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 一般取扱所内に設置されているタービン設備の電気事業法に係る定期点検中に、タービン油20Lが漏えい。なお、吸着マットを使用し応急処置を実施。人的及び物的被害なし。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止													

25	主 原 因 監視不十分				着火原因				番号 ()			
原因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 定期点検に伴い、油タンクガス抽出機吐出配管下部に設置されている、主油タンクマンホールを開閉する際に油タンクガス抽出機吐出配管が干渉するため当配管を取り外していたにも関わらず、当該場所に監視員を配置していなかったこと及び過去の定期点検と比較し、気温が7℃高いことから潤滑油温度が上昇傾向となりペーパーが発生しやすい状況であったためタービン油の漏えいに気付くのが遅れたもの。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	管理			組織			人員配置(役割・責任)			人の配置が不適切		
	関連原因の詳細											
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27	人 的 被 害								28 物的被害			
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内にタービン油が20L漏えい				
	当 事 者	0	0	0	0							
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設内に被害なし				
	第 三 者	0	0	0	0							
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
	消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 施設内にタービン油が20L漏えい	
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)	
30	実施した防災活動の状況											
	公設消防機関：番号 (99) 現場状況の確認及び回収指示						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 吸着マットにて処理					
31	防災活動上の問題点 漏えいを発見後、現状把握や漏えい防止措置、回収作業などを優先したため、通報まで時間を要した。											
32	施 設 名					33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他		
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
		改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日		年 月 日		
		停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日		
		関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ ☐ 無 内容：				
	そ の 他	年 月 日		年 月 日								
35	今後の対策 や所見	タービン設備油系統総合試運転時における各軸受内部圧力変化に対応するため、油タンクガス抽出機の起動制約となっている配管干渉の改善を行うことで人の配置不十分の対策をとる。 現行のタービン設備油系統総合試運転要領書には、油タンクガス抽出機起動は試験条件となっていないため、油タンクガス抽出機の起動を試験条件として要領書に追記する。事故を発見した際は状況把握、応急措置作業等と並行した上で、消防機関への通報も早期に行うよう指導した。										

11 無 許 可 施 設

1 事故名		水力発電所弁室内からのタービン油流出											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		11月 8日 12時 00分				[推定]・確定		4 発生見		11月 8日 12時 10分			
5 覚知		11月 8日 13時 31分				6 鎮圧 応急処置完了				11月 8日 16時 25分			
7 鎮火・処理完了		11月 29日 14時 24分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：北西 風速：1.5m/s 気温：14.8℃ 湿度：84.9%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：電気・ガス・熱供給・水道業 電番号 (3311) 気業 電気業 発電所		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別：無許可施設 施設別：無許可施設 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 タービン油 21,490L 3.58倍											
12 施設装置		設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日											
名称：開閉装置 番号 (4103)													
能力：鉄管の弁を動かすための圧油装置													
13 機器等		温度圧力：											
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)		倍数の合計： 3.58倍											
規模：10,500L2基、ホームタンク490L1基													
14 発生箇所													
名称：タンク屋根板 番号 (103)		17 物質の区分											
材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：タービン油 (980L)											
15 発生時		18 取扱者の概要											
運転状況：停止中 番号 (5)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無											
作業状況：その他 番号 (99)													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 調整池の排砂作業中、ゲート操作を誤り、送水する予定ではなかった圧力トンネルに大量の水が流入した。 その先にある弁室では、鉄管の工事を行っていたため、鉄管が一部開放されており、その開放部分から圧力トンネルを通ってきた水が弁室内に噴出し、弁室内は一時地盤面から約70cmの高さまで水で満たされた。 弁室には、鉄管の弁を動かすための圧油装置があり、そのタービン油を貯槽するタンクが弁室の地盤面よりも低い位置にあったため、比重差によりタービン油が流れ出て、構内の排水口を経由し、放水路に流入したものの。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

原 因	25 主 原 因	誤操作				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 排砂作業時の誤操作、手順確認不足												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	管理			リスクアセスメント			危険意識			危険性評価がない/不適切			
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害								28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：					
区分								発電所弁室から敷地内の排水溝を経由し、発電所の放水路にタービン油が流出。発電所の放水路は、隣市の調整池まで直通している。調整池の水は、隣市発電所の発電に利用され、河川に放出されるため、タービン油は河川まで拡大したものの。					
当 事 者	0	0	0	0				施設等の被害状況：					
防災活動従事者	0	0	0	0				発電所弁室内は、一時70cm程水没したため、それに伴い床面に置いてあった資機材等が水没したものの。					
第 三 者	0	0	0	0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	タービン油が貯槽されているタンクに水が流入したため、廃油として処理される。			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人				
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
調査活動													
31 防災活動上の問題点													
事故発見から通報まで1時間以上経過しているが、水力発電所弁室内が水没し原因の特定に時間を要したことを考慮し、口頭で今後は速やかに通報するよう注意を行う。													
政 策 措 置	32 施 設 名	水力発電所弁室				33 定 期 点 検 等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日		年 月 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日		年 月 日		年 月 日			
	関係条項	法第16条の5				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無					
	そ の 他	資料提出命令、報告徴収命令				法令違反の有無		内容：					
		令和 5 年 11 月 8 日				年 月 日		法第10条第1項指定数量以上の危険物の無許可貯蔵・取扱い					
35 今後の対策や所見		関係者に今後の水力発電所弁室での危険物の取扱いについて確認したところ、発電所の改修等にあわせ弁室内での危険物の取扱いを廃止することを確認する。また、タービン油が入っていた油槽は空にしている。よって、これ以上の行政措置は行わない。											

令和5年

1 事故名		無許可施設において、フォークリフトの爪でドラム缶に穴をあけたことにより油が流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		8月 9日 8時 42分				推定・ 確定		4 発生見		8月 9日 8時 42分	
5 覚知		8月 9日 8時 47分				6 鎮圧 応急処置完了		8月 9日 12時 59分			
7 鎮火・処理完了		8月 9日 12時 59分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：東北東 風速：7m/s 気温：29℃ 湿度：76%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 運輸業 運輸に附帯するサービス業 貨物運送取扱業(集配利用運送業を除く) 利用運送業 (集配利用運送業を除く)		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 無許可施設 施設別： 無許可施設 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) <i>メチルイソブチルケトン</i> 800L 4倍									
12 施設装置		設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日 倍数の合計： 4倍									
名称： その他【分類なし】 番号 (9999)											
能力：											
13 機器等		温度圧力：									
名称： ドラム等容器 番号 (201)		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： <i>メチルイソブチルケトン</i> (200L)									
規模： 容量200L											
14 発生箇所											
名称： 容器本体 番号 (108)		18 取扱者の概要									
材質： 鋼鉄											
15 発生時											
運転状況： 荷積中 番号 (12)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無									
作業状況： 運転操作中 番号 (1)											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 運送会社のトラックターミナルにおいて、第4類第1石油類「メチルイソブチルケトン」のドラム缶(200L)4本を無許可で貯蔵していた。積込作業中に操作を誤り、そのうちの1本を破損させ油が敷地内に流出したものの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因	誤操作				着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： フォークリフトの爪の高さを誤り、途中で気が付いたがブレーキが間に合わずドラム缶に衝突し破損したもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	人			本人の意識			思慮			不注意			
	関連原因の詳細												
26 被害の状況	1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人 的 被 害								28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油にあつては敷地の地面及び溝に広がり はしたものの敷地内に留まった。					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 特になし					
	第 三 者	0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	17 台	0 隻	0 機	47 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： メチルイソブチルケトン200Lのドラム缶を破損			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	5 台	0 隻	0 機	7 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5 万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (4) 特殊災害隊及び救助隊により危険物の漏えい処置及び測定を実施。 消防隊により警戒筒先及び除染を実施。							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点													
行政措置	32 施設名	その他(運送会社)				33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	令和 5 年 8 月 9 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
	関係条項	法第16条の6				34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無 内容： 法第10条1項 指定数量以上の危険物の無許可 貯蔵・取扱い			
	そ の 他	年 月 日				年 月 日							
35 今後の対策 や所見	事故事例を共有し、改めて慎重なリフト作業を行うよう、支店全従業員に教育、指導を行う。 また事故が発生したのは危険物施設ではない運送会社の敷地内で発生しており、危険物を取り扱う位置、設備、構造の 技術上の基準も適合していないことから、危険物の無許可貯蔵に該当する。事故発生後、危険物の除去命令を行い危険物 の除去を確認するも、後日別の危険物を貯蔵していたため再度命令にて除去させている。												

令和5年

1 事故名		過去に廃止済みの屋外貯蔵タンクに残されていた油が底板の腐食に伴って流出した事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		3月 6日 0時 00分					
5 覚知		3月 9日 15時 50分		6 鎮圧 応急処置完了		3月 10日 10時 30分					
7 鎮火・処理完了		7月 7日 14時 00分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南 風速：8m/s 気温：17℃ 湿度：78%									
10 発生事業所		種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)				11 発生場所					
12 施設装置						区分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、 その他) 特別防災地区名：					
13 機器等						16 発生施設規制区分等					
14 発生箇所						施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 無許可施設 施設別： 無許可施設 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油と推定 140,000L 70倍 (現在分析機関で調査中)					
15 発生時						設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日					
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 本タンクは、昭和34年以前に設置され、昭和34年の消防法改正(昭和34年法律第86号)により、既存特例として危険物の許可施設とみなされていたと推察されるが、施設台帳等が存在しないため確認できない。なお、昭和56年に廃止届が提出されている。当時、残油の処理状況を確認したかは不明であるが、重油(推定)が残存していた。 その後、タンク底板の腐食により、タンク基礎と底板の隙間から重油(推定)が流出し、海岸及び海上へ流出しているのを、漁業関係者が発見したもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他											

25	主 原 因		腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()		
原 因	関 連 原 因								
	発生原因の状況： 本タンクは無人島の海岸沿いに設置され、廃止後40年以上放置されていたため、タンク底板が腐食し、タンク基礎と底板の隙間から重油(推定)が流出したものの。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	腐食		環境		塩分の影響				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害							28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が、海岸の石等に付着し、海上にも流出したが、現在のところ漁業被害等は発生していない。	
区分									
当 事 者	0	0	0	0					
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 被害なし	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	6 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	1 隻	0 機	5 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	14 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:2,000 第3石油類 重油 流出量不明									
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)									
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (5、6) 海上保安庁と協力して、海上にオイルフェンスを展開し、海岸の石等に付着した油を拭取り等によって除去した。						自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点 海岸の石等に付着した油を拭取って除去するのに困難を極め、完全には除去できていない。 タンクが設置されたのが昭和34年以前であり、許可資料等がなく、タンクの詳細な構造等が把握できていない。 また、廃止後40年以上経っているタンクのため、所有している会社が破産しており、所有者等の特定が難航している。									
32 施設名	使用停止	年 月 日	年 月 日	33 定期点検等	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日						
	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策や所見	現在、タンク内の残油の成分分析中であり、重油であると確定すれば、無許可の貯蔵に該当する。 なお、所有していた会社が破産しており、命令の名宛人について、顧問弁護士とも相談をしている最中である。 名宛人が確定すれば、危険物の除去命令を発令し、履行されなければ、行政代執行も検討している。								

12 危 險 物 運 搬 中

令和5年

1 事故名		トラックの荷台に積載されていた運搬容器が転倒し、軽油が路上に流出した事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定		4 発生見		7月 31日 13時 43分	
5 覚知		7月 31日 13時 44分		6 鎮圧 応急処置完了		7月 31日 14時 43分	
7 鎮火・処理完了		7月 31日 14時 43分					
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：雨 風向：南 風速：1.8m/s 気温：26℃ 湿度：					
10 発生事業所		種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：建設業 総合工事業 一般土木 番号 (611) 建築工事業 一般土木建築工事業				11 発生場所	
12 施設装置 名称：その他【分類なし】 番号 (9999) 能力：運搬 軽油60L 13 機器等 名称：ドラム等容器 番号 (201) 規模：容量20L 14 発生箇所 名称：容器本体 番号 (108) 材質：合成樹脂 15 発生時 運転状況：運搬中 番号 (11) 作業状況：その他 番号 (99)						区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
						16 発生施設規制区分等	
						施設区分：1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別：運搬 施設別：運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 60L 0.06倍	
						倍数の合計：0.06倍 設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日	
		17 物質の区分					
		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(3L)					
		18 取扱者の概要					
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： トラックの荷台に積載されていた運搬容器が転倒し、流出した軽油約3Lが荷台から道路上に流出したもの。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原因	25 主 原 因		操作確認不十分		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 運搬容器をトラック荷台に角材で挟むように積載していたが、固定が甘く、トラック走行中に運搬容器が転倒したもの。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		配慮不足	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害							28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： トラックの荷台及び道路上に軽油約3Lが流出、河川等への流出はなし。
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防 災 活 動 従 事 者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 軽油約3Lが流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (5) 1. 警戒筒先を配備 2. 油吸着マットにより軽油を処理 3. 情報収集						自衛防災・消防組織等 番号 ()		
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第16条 危険物の運搬基準違反	
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
35	今後の対策 や所見	危険物運搬時の積載方法の見直し						

1 事故名		運搬中において荷崩れが起きペール缶が荷台に落下し収容物の潤滑油が事業所の構内道路に流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		9月 14日 19時 00分	
5 覚 知		9月 14日 19時 36分		6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		9月 14日 19時 10分	
7 鎮火・処理完了		9月 14日 21時 10分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気： 晴 風向： 南南西 風速： 3.6m/s 気温： 28℃ 湿度： 80%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別 : 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態 : 運輸業 道路貨物運送業 一般 番 号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)			区 分 : ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名:				
			16 発生施設規制区分等				
			施設区分: 1 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別: 運搬 施設別: 運搬 類・品名・名称・数量・倍数:				
			第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 600L 0.3倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) マシンオイル 600L 0.3倍 第4類第4石油類 潤滑油 3,500L 0.58倍				
12 施 設 装 置				14 発 生 箇 所			
名 称 : その他【分類なし】 番 号 (9999)				設 置 の 完 成 : 年 月 日 直 近 の 完 成 : 年 月 日			
能 力 : 最大積載量:20,000kg				17 物 質 の 区 分			
13 機 器 等		温 度 圧 力 :		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類 : 第4類第4石油類 名称: 潤滑油(40L)		倍数の合計: 1.18倍	
名 称 : ドラム等容器 番 号 (201)				18 取扱者の概要		経験年数15年	
規 模 : 20Lペール缶 直径:300mm 高さ:361mm				19 危険物保安統括管理者		20 危険物保安監督者	
14 発 生 箇 所				1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い	
名 称 : 容器本体 番 号 (108)				1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		①. 有 2. 無	
材 質 : 鋼鉄							
15 発 生 時							
運 転 状 況 : 運搬中 番 号 (11)							
作 業 状 況 : その他 番 号 (99)							
22 設備・機器等の概要:		オンラインファイル無					
23 事故の概要:		運搬車の乗務員は、A事業所でドラム及びペール缶(163個 4,160L)を積み込み、追加の荷を積載するためB事業所へ向かった。B事業所へ到着後、追加の荷を受け取るまでに時間があつたため、車両待機場所へ向かい運搬車を停車させた。待機していたところ、後続車両の乗務員から荷台から何かが漏れていることを知らされた。すぐさま運搬車のウィングを開けたところ、パレット上のペール缶に巻かれていたストレッチフィルムが破れ、ペール缶が荷台に落下し、潤滑油が漏えいしていた。乗務員はB事業所の事務室と自社の事務所へ連絡後、運搬車に積載している吸着マットを取り出し潤滑油の拡散防止措置を行った。連絡を受けたB事業所の従業員も加わり漏えいした潤滑油の拡散防止及び回収作業が行われた。連絡を受けたB事業所の当直は、現場を確認してから119番通報を行った。現場到着した公設消防は調査活動を行った。潤滑油は運搬車の停車位置とその手前の構内道路240mに漏えい、事業所外への漏えいはなかった。荷崩れして荷台に落下して変形したペール缶は12缶でそのうちの2缶から収容物である潤滑油が漏えいした。漏えい量は40Lと推定される。					
24 緊急処置の状況		有 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 操作未実施				着火原因				番号 ()																														
	関 連 原 因																																						
	発生原因の状況： 工場から出荷されるもので、1パレットにペール缶が32缶載せられたものが定量パレット、それ未満のものは混載パレットと呼ばれ、それぞれ工場内移動用の養生としてのストレッチフィルムが巻かれている。運送業者は工場から出荷するときにストレッチフィルムが運搬時の荷崩れ防止用として耐えうるかどうかを確認し足りないときは追加でストレッチフィルムを巻くように、工場から指示されている。発災乗務員は、経験が浅いうちはストレッチフィルムの確認・追加作業を行っていたが、経験を積むにつれ定量パレットには比較的ストレッチフィルムが強めに巻かれており、定量パレットは工場内移動用の養生でも運搬時に荷崩れすることはないとの認識に変わっていった。これにより、今回運搬車に積載された定量パレットのストレッチフィルムは、運搬時の荷崩れ防止用としては弱いものであったが、発災乗務員は巻き状況を確認し追加することなく積載し運搬したため、ペール缶が荷崩れを起こし、収容物が流出するに至った。																																						
	主要原因の詳細																																						
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																													
	人			本人の意識			思慮			思い込み																													
関連原因の詳細																																							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																							
27 人的被害								28 物的被害																															
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 運搬車の停車位置及び事業所の構内道路240mの範囲に漏えい			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																	
当 事 者	0	0	0	0																																			
防災活動従事者	0	0	0	0																																			
第 三 者	0	0	0	0																																			
								施設等の被害状況： なし																															
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																							
消 防 機 関		2 台 0 隻 0 機 9 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 57 人		物質の被害状況： 第4類 第4石油類 潤滑油 40L漏えい																															
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人																																	
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人																																	
その他の機関		2 台 0 隻 0 機 3 人		その他		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 1万円未満、 1万円以上 (36 万円)																															
30 実施した防災活動の状況																																							
公設消防機関：番号 (99) 調査活動								自衛防災・消防組織等 番号 (5、3) 拡散防止処置、回収作業																															
31 防災活動上の問題点																																							
行政措置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他																													
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検		年 月 日		年 月 日																													
	改善命令等	年 月 日				気密試験等		年 月 日		年 月 日																													
	停止解除	年 月 日				保安検査		年 月 日		年 月 日																													
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有 ・無 内容： 法第16条 危険物の運搬基準違反																															
	そ の 他	年 月 日																																					
35 今後の対策 や所見		運搬前に、荷崩れ防止措置の確認を行い、荷崩れ防止措置が足りない場合は追加することを確実に行う。急発進、急停止、急なハンドル操作を行わないなど、安全運転の励行を徹底する。 決められたことを遵守しやすいように、手順書やマニュアルにする等明文化する必要がある。																																					

1 事故名		運搬車両荷台上の変圧器から電気絶縁油が流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		9月 22日 16時 30分				[推定]・確定		4 発生見		9月 25日 9時 00分	
5 覚知		9月 25日 9時 11分				6 鎮圧 応急処置完了				9月 25日 17時 00分	
7 鎮火・処理完了		9月 25日 17時 00分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：曇 風向：東南東 風速：1m/s 気温：25℃ 湿度：63%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 分類不能の産業 分類不能の産番号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能の産業		区分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 電気絶縁油 360L 0.18倍									
		倍数の合計： 0.18倍									
12 施設装置											
名称：変圧装置		番号 (4102)									
能力：											
13 機器等		温度圧力：									
名称：変圧器		番号 (702)									
規模：容量360L											
14 発生箇所		設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日									
名称：その他の機器等本体		番号 (199)									
材質：鋼鉄		17 物質の区分									
15 発生時		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 電気絶縁油(300L)									
運転状況：運搬中		番号 (11)									
作業状況：廃止解体工事中		番号 (9)									
18 取扱者の概要		経験年数30年									
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 電気絶縁油が入った変圧器を重機を使用し、解体作業現場から運搬車両の荷台に積み込んだ際、変圧器本体の一部が破損し、荷台上に電気絶縁油が流出する。積み込み後、解体作業現場に3日間駐車する。3日後、運搬車両荷台上の変圧器の状況を確認せずに、運搬先に向けて運搬車両を走行させ、荷台上に流出した電気絶縁油300Lが解体現場敷地内及び路上に流出する。路上に流出した電気絶縁油は、油処理剤を散水車に入れ、散布し中和、流出量が多い箇所は油吸着マットで回収する。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]											

25	主 原 因 破 損						着火原因						番 号 ()						
原 因	関 連 原 因 操作未実施																		
	発生原因の状況： 解体作業現場から変圧器をパワーショベルで吊り移動をした際、変圧器が破損し、電気絶縁油が流出したと考えられ、運搬容器の基準に適合しない容器等を使用し運搬したため。																		
	主原因の詳細																		
	第Ⅰ層				第Ⅱ層				第Ⅲ層				第Ⅳ層						
	破損				工事時				重機等の衝突										
	関連原因の詳細																		
	人				本人の知識・能力				知識				知識不足						
	因																		
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																		
27	人 的 被 害												28 物的被害						
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 解体作業現場から運搬先までの運搬経路約6.5km範囲の一般道路上に点在的に漏えいした。										
	当 事 者		0	0	0	0													
	防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 運搬車両荷台内及び路上に電気絶縁油約300Lが流出。										
	第 三 者		0	0	0	0													
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																		
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)電気絶縁油300L									
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機										0 人
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機										0 人
	その他の機関	2 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台	0 隻	0 機										0 人
30	実施した防災活動の状況																		
公設消防機関：番号 (5) 回収作業										自衛防災・消防組織等 番号 (5) 回収作業									
31	防災活動上の問題点																		
32 行政措置	施設名									33 定期点検等	消 防 法				そ の 他				
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	年 月 日				年 月 日				
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	年 月 日				年 月 日				
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日				年 月 日				
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第16条 危険物の運搬基準違反								
	そ の 他	年 月 日				年 月 日													
35	今後の対策や所見 当該事業所に対し、危険物を運搬する場合は、適切な容器等を使用し、積載状況を確認後、運搬を開始するよう指導する。併せて、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。																		

令和5年

1 事故名		ポリ容器に入った灯油を運搬中にキャップが緩み流出したもの											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		2月 2日 17時 10分 推定・ 確定					4 発生見		2月 2日 17時 20分				
5 覚知		2月 2日 17時 22分					6 鎮圧 応急処置完了		2月 2日 17時 50分				
7 鎮火・処理完了		2月 2日 17時 50分											
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東北東 風速：3m/s 気温：0℃ 湿度：											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 飲食品小売業 番 号 (5791) その他の飲食品小売業 コン ビニエンスストア(飲食品を 中心とするものに限る)		区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別：運搬 施設別：運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2L 0倍											
		倍数の合計：0倍											
12 施設装置		設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日											
名称：その他【分類なし】 番 号 (9999)		17 物質の区分											
能力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油 (2L)											
13 機 器 等		温度圧力：											
名称：その他 番 号 (999)		18 取扱者の概要											
規模：ポリエチレン製容器18L		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要											
14 発生箇所		20 危険物保安監督者											
名称：その他 番 号 (999)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要											
材質：その他		21 危険物取扱者の取扱・立会い											
15 発生時		1. 有 2. 無											
運 転 状 況：運搬中 番 号 (11)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
作 業 状 況：その他 番 号 (99)		23 事故の概要： ガソリンスタンドで購入した灯油15L入ったポリ容器を軽自動車の運転席後部に載せた後、店舗駐車場でポリ容器が倒れ緩んだキャップから灯油が漏れていることに気づき、事業所外へ灯油約2Lが流出した。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無													

原 因	25 主 原 因		維持管理不十分		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因												
	発生原因の状況： ポリ容器のキャップをきちんと締めたか確認を怠ったもの												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
	人		本人の意識		思慮		その他						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から ⑥. 流出に起因、施設外から													
27 人 的 被 害						28 物的被害							
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 店舗駐車場に約2Lの灯油が流出した					
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0								
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 第4類第2石油類非水溶性灯油					
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻		0 機	0 人			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻		0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻		0 機	0 人			
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
油吸着材による回収作業													
31 防災活動上の問題点 事故発生後速やかに消防機関へ通報している。													
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法		そ の 他				
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日				
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日				
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：						
	そ の 他	年 月 日											
35 今後の対策 や所見		灯油タンクのキャップを締めたか確認するように指導											

令和5年

1 事故名		危険物運搬車両に積載された危険物容器が荷台から落下したことにより発生した危険物流出事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		11月 2日 11時 20分				[推定]・確定		4 発生見		11月 2日 11時 27分	
5 覚知		11月 2日 11時 27分				6 鎮圧 応急処置完了				11月 2日 12時 58分	
7 鎮火・処理完了		11月 2日 12時 58分									
8 覚知別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：0.3m/s 気温：21.8℃ 湿度：54.7%									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 道路貨物運送業 一般番号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)		区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分：1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別：運搬 施設別：運搬 類・品名・名称・数量・倍数：									
		第4類第4石油類 コンプレッサオイル 120L 0.02倍									
12 施設装置		設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日 17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称：コンプレッサオイル(120L) 18 取扱者の概要 経験年数12年									
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)											
能力：											
13 機器等 温度圧力：											
名称：運搬車 番号 (602)											
規模：一般貨物自動車											
14 発生箇所											
名称：容器本体 番号 (108)											
材質：合成樹脂											
15 発生時											
運転状況：運搬中 番号 (11)											
作業状況：その他 番号 (99)											
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無							
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： トラックの荷台にコンプレッサオイル(第4類第4石油類)を900L(20L×45缶)積載し運搬中、積み荷のうち16缶が落下しそのうち120Lが流出したもの											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 破損							
	発生原因の状況： 荷台に積載された危険物の固定が弱く、交差点で曲がった際に荷崩れを起こした。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	人	本人の意識	思慮	配慮不足				
	人	本人の意識	思慮	過信				
	関連原因の詳細							
	交通事故	その他	荷崩れ					
因	交通事故	運転操作	急ハンドル					
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人 的 被 害						28 物的被害		
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 危険物が流出した道路上約200㎡
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 11 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類 第4石油類 コンプレッサーオイル 120L				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	3 台 0 隻 0 機 10 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人					
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (4, 99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()		
漏えい防止措置及び情報収集								
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：			
	そ の 他	年 月 日	年 月 日					
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策 や所見		危険物の運搬にかかる積載方法や固定方法の指導						

令和5年

1 事故名		軽油運搬時における漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		5月 25日 10時 20分				[推定]・確定		4 発生見		5月 25日 10時 20分			
5 覚知		5月 25日 12時 40分				6 鎮圧 応急処置完了				5月 25日 12時 00分			
7 鎮火・処理完了		5月 25日 12時 00分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：曇 風向：南 風速：3m/s 気温：26℃ 湿度：53%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：製造業 化学工業 無機化学工 番号 (1729) 業製品製造業 その他の無機化学工業製品製造業		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別：運搬 施設別：運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 60L 0.06倍											
		設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日 倍数の合計： 0.06倍											
12 施設装置		名称：その他【分類なし】 番号 (9999) 能力：											
13 機器等		温度圧力：											
名称：ドラム等容器 番号 (201) 規模：容量20L(3缶)		14 発生箇所											
		名称：その他 番号 (999) 材質：合成樹脂											
15 発生時		17 物質の区分											
運転状況：運搬中 番号 (11) 作業状況：その他 番号 (99)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油 (17L)											
		18 取扱者の概要											
		経験年数22年											
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 工場敷地外の資材置き場において、外周壁工事請負業者の従業員が、ローリーから容量20Lのポリエチレン容器3缶に軽油を詰め替えた。 その後、当該容器をトラックの荷台に積載し、工場敷地に入構した際、段差により容器が転倒した。当該容器が転倒防止措置がなされておらず、エレファントノズルが結合されたままであったため、荷台に流出した。また、流出した状態で構内を走行したため、約300mの範囲に、軽油約17L漏えいした。													
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他													

25	主 原 因 操作未実施				着火原因				番号 ()					
原 因	関 連 原 因 維持管理不十分													
	発生原因の状況： 運搬車両の荷台において、エレファントノズルが結合されたまま(未密封)かつ転倒防止措置がなされていない状態で運搬し、衝撃により転倒漏えいしたものの。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層				
	人			本人の意識			違反(故意)			問題意識の不足				
	管理			リスクアセスメント			危険意識			危険に対する認識がない/不足				
	設備			設計			工程・システム設計			法令・基準違反				
	関連原因の詳細													
	設備			監理・保守			点検・整備			確認不足				
	因													
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27	人 的 被 害								28 物的被害					
区分	被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 構内道路上約300mに渡り約17Lが漏えいしたものの (敷地外への漏えい無し)					
	当 事 者	0	0	0	0									
	防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設等への被害なし						
	第 三 者	0	0	0	0									
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 軽油約17L流出				
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	そ の 他	0 台	0 隻	0 機	0 人					
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99) 漏えい危険物の回収確認。								自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31	防災活動上の問題点 事故発生から2時間20分後の消防署への通報であるため、通報の遅れがあった。													
32	施 設 名	運搬車両				33 定 期 点 検 等				消 防 法		そ の 他		
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
		改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
		停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日	
		関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無 内容： 危政令第28条 運搬容器の材質不適			
	そ の 他	指導 令和 5 年 5 月 25 日 ①. 文書 2. 口頭				年 月 日 1. 文書 2. 口頭								
35	今後の対策 や所見 ・危険物を運搬する際は適合容器を使用することの徹底 ・容器の密封及び転落落下防止の徹底 ・災害発生時には直ちに消防へ通報することの徹底													

令和5年

1 事故名		トラックの荷台に積載したポリタンクから軽油が運搬中に漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		10月 11日 17時 30分				[推定]・確定		4 発生見		10月 11日 17時 30分			
5 覚知		10月 11日 21時 04分				6 鎮圧 応急処置完了				10月 11日 21時 28分			
7 鎮火・処理完了		10月 11日 21時 28分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：南西 風速：2m/s 気温：25℃ 湿度：38%											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：建設業 総合工事業 土木工事 番号 (621) 業(舗装工事業を除く) 土木工 事業(別掲を除く)		区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：運搬 施設別：運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 6L 0.01倍											
12 施設装置		設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日 倍数の合計： 0.01倍											
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)													
能力：													
13 機器等		温度圧力：											
名称：ドラム等容器 番号 (201)		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(6L)											
規模：20Lポリタンク													
14 発生箇所													
名称：容器本体 番号 (108)		18 取扱者の概要											
材質：合成樹脂													
15 発生時													
運転状況：運搬中 番号 (11)		19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い 1. 有 ②. 無											
作業状況：運転操作中 番号 (1)													
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 2tトラックの荷台に、手動ポンプのノズルを取り付けた状態の軽油の入ったポリタンクを転倒防止措置なしで運搬した。事務所到着後に荷台から異臭がしたため確認すると、当該ポリタンクが転倒しており、ノズル口から約6L漏えいしていた。ポリタンクを復旧し、車両を事務所内の常置場所に戻したところ、車両後方にトラックの荷台に溜まっていた軽油が流出した。運転手が回収等の緊急措置を行っておらず、近隣の住人から異臭がする旨の苦情があり、運転手本人が119番通報し、消防機関が覚知したもの。敷地外の道路に漏えいた軽油はすべて揮発しており、運搬車両の荷台上及び事業所敷地内常置場所の漏えいを確認した。死傷者はなし。													
24 緊急処置の状況 有 番号 () [無]													

原 因	25 主 原 因		操作未実施		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： ポリタンクの転倒防止の未措置及び手動ポンプのノズルを取り付けた状態で積載したまま運搬したため。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人 的 被 害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 運搬車両の荷台上、事業所敷地内常置場所に軽油 が合計約6L漏えい		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 軽油が合計約6L漏えい		
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻		0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻		0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻		0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻		0 機	0 人
30 実施した防災活動の状況								損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)		
公設消防機関：番号 (5) 乾燥砂を約2kg使用し、漏えいした軽油を処理したもの。						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 事故発生直後に消防機関へ通報していない。事故発生後の緊急措置として、漏えいした軽油の回収等を行っていない。										
政 策 措 置	32 施 設 名					33 定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
	そ の 他	年	月	日	年			月	日	
35 今後の対策 や所見		危険物を積載する際の危険物容器等の落下・転倒防止措置及び有事の際は迅速に通報をすることを指導。 会社全体で軽油タンクの持ち運びを禁止した。								

令和5年

1 事 故 名		法令上適合しない容器に軽油を入れて、軽トラックにて運搬中、容器が転倒し、破損したことにより軽油が流出													
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()													
3 発 生		4月 5日 14時 30分				推定・確定		4 発 見		4月 5日 15時 47分					
5 覚 知		4月 5日 15時 47分				6 鎮 圧 応 急 処 置 完 了		4月 5日 16時 13分							
7 鎮火・処理完了		4月 5日 16時 13分													
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()													
9 気 象 状 況		天気：曇 風向：西 風速：3.9m/s 気温：20℃ 湿度：43%													
10 発 生 事 業 所		種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：分類不能の産業 分類不能の産 番 号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能の産業				11 発 生 場 所		区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：1 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別：運搬 施設別：運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 14L 0.01倍 倍数の合計：0.01倍 設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日 17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (14L) 18 取扱者の概要							
12 施 設 装 置						名 称： 番 号 () 能 力： 13 機 器 等 温 度 圧 力： 常温、常圧 名 称：ドラム等容器 番 号 (201) 規 模：直径335mm、高さ400mm、容量18L 14 発 生 箇 所 名 称：容器本体 番 号 (108) 材 質：その他 15 発 生 時 運 転 状 況：運搬中 番 号 (11) 作 業 状 況： 番 号 ()									
19 危険物保安統括管理者												20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い	
22 設備・機器等の概要：												23 事故の概要：			
24 緊急処置の状況															

25	主 原 因 破 損				着火原因				番 号 ()				
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 一般消費者が、近隣セルフスタンドにて軽油をポリタンクに注油。その後軽トラックの荷台にポリタンクを積載し運搬。帰宅途中の交差点を曲がった際ポリタンクが転倒し容器が破損、軽油14Lが流出したもの。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	破損			定常運転時			物質の落下・ぶつかりによる破損						
	関連原因の詳細												
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27	人 的 被 害							28 物的被害					
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した軽油は道路上にとどまったもの。					
	当 事 者	0	0	0	0								
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし					
	第 三 者	0	0	0	0								
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 13 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 約14L									
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同										0 台 0 隻 0 機 0 人
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援										0 台 0 隻 0 機 0 人
	その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他										0 台 0 隻 0 機 0 人
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)													
30	実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (5) 警戒筒先及び二次災害防止措置実施							自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31	防災活動上の問題点												
32 行政措置	施設名							33 定期点検等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：				
	そ の 他	年 月 日			年 月 日								
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭													
35	今後の対策 や所見 事故を発生させた本人に対し、運搬の基準及び容器の基準について指導を行った。同種事故防止のため、管内給油取扱所に対し、顧客が危険物を運搬する際は声掛けしてもらうよう指導する。												

令和5年

1 事故名		危険物運搬車両に積載されたペール缶の転倒による作動油の漏えい									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発生		6月 30日 11時 30分				推定・ 確定		4 発生見		6月 30日 11時 30分	
5 覚知		7月 7日 17時 40分				6 鎮圧 応急処置完了				6月 30日 11時 50分	
7 鎮火・処理完了		6月 30日 11時 50分									
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (予防課員が査察時の聴取中に発覚したもの)									
9 気象状況		天気： 風向： 風速： 気温： 湿度：									
10 発生事業所		11 発生場所									
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 製造業 金属製品製造業 建設番号 (2541) 用・建築用金属製品製造業(製 缶板金業を含む) 建設用金属 製品製造業		区分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名：									
		16 発生施設規制区分等									
		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数：									
		第4類第4石油類 作動油 20L 0倍									
12 施設装置		設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日 17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： 作動油 (20L) 18 取扱者の概要 経験年数5年									
名称： その他【分類なし】 番号 (9999)											
能力： 20Lペール缶											
13 機器等 温度圧力：											
名称： その他 番号 (999)											
規模： 20L											
14 発生箇所											
名称： その他 番号 (999)											
材質： その他											
15 発生時											
運転状況： 運搬中 番号 (11)											
作業状況： その他 番号 (99)											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事故の概要： 運送会社の配達担当者が、当該事業所に作動油を納品するため、事業所の駐車場に、駐車させようとしたところ、荷台に2段積みもしていたプラスチックペール缶が荷台内で転倒し、上蓋が外れて作動油が荷台内に漏えいした後、荷台から駐車場に流れ出たもの。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

原因	25 主 原 因	維持管理不十分				着火原因				番号 ()																													
	関 連 原 因																																						
	発生原因の状況： プラスチックペール缶を2段積みしているにもかかわらず、固定具等での転倒防止措置を行っていなかった。																																						
	主原因の詳細																																						
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層																													
	管理			リスクアセスメント			危険意識			危険に対する認識がない/不足																													
	人			本人の意識			思慮			過信																													
	関連原因の詳細																																						
因																																							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																							
27 人 的 被 害								28 物的被害																															
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等 区分</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は 職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 危険物運搬車両荷台に流出後、駐車場内に流出したもの。			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名																																	
当 事 者	0	0	0	0																																			
防災活動従事者	0	0	0	0																																			
第 三 者	0	0	0	0																																			
								施設等の被害状況： 駐車場若干の汚損																															
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																							
消 防 機 関		0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛		0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 作動油20L																											
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同		0 台	0 隻	0 機	0 人																												
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援		0 台	0 隻	0 機	0 人																												
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他		0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <u>1万円未満</u> 、1万円以上 (万円)																											
30 実施した防災活動の状況																																							
公設消防機関：番号 ()								自衛防災・消防組織等 番号 ()																															
31 防災活動上の問題点 危険物漏えいに対して、消防機関への通報の必要性を把握していなかった。当該事業所及び運送会社ともに危険物漏えい時の通報要領未把握。 運送会社のトラックへの積み込み方法及び転倒防止対策の教育不十分。																																							
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他																											
	使用停止	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日																											
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日																											
	停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日																											
	関係条項									34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：																											
	そ の 他	年 月 日				年 月 日																																	
35 今後の対策 や所見		積み荷の転倒防止措置として、固定具の使用。危険物漏えい時の消防機関への通報の徹底。漏えいに備え、油吸着シート の常備化。																																					

令和5年

1 事 故 名		2tトラックでギア油を運搬中、荷台からペール缶1個が落下し たことによる一般道路上での流出															
2 事 故 種 別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()															
3 発 生		5月 16日 10時 39分 推定・ 確定					4 発 見		5月 16日 10時 39分								
5 覚 知		5月 16日 10時 42分					6 鎮 圧 応急処置完了		5月 16日 11時 24分								
7 鎮火・処理完了		5月 16日 11時 24分															
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()															
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南 風速：3.9m/s 気温：21℃ 湿度：69%															
10 発 生 事 業 所		種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一般 番 号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自 動車運送業(特別積合せ貨物運 送業を除く)					11 発 生 場 所		区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上 、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： 1 危険物 2 高压ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 ギア油(シェル オマラ S2 G) 700L 0.12倍 倍数の合計： 0.12倍 設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日 17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称： ギア油(シェル オマラ S2 G) (20L) 18 取扱者の概要								
12 施 設 装 置							名 称： 番 号 () 能 力： 13 機 器 等 温 度 圧 力： 名 称： 運搬車 番 号 (602) 規 模： 2tトラック 荷台3.1m×1.6m 14 発 生 箇 所 名 称： 容器本体 番 号 (108) 材 質： 鋼鉄 15 発 生 時 運 転 状 況： 運搬中 番 号 (11) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)										
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者												20 危 険 物 保 安 監 督 者		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要：												オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要：												2tトラックの荷台に、ギア油(第4類第4石油類)のペール缶をあおりを超える高さまで積載していたにも関わらず、落下防止措置をせずに運搬したためペール缶1個が落下し、危険物約20Lが一般道路上に漏えいした。河川等への流出なし。負傷者なし。発生直後に自身で119番通報を実施。					
24 緊急処置の状況		有 番号 () 無															

原因	25 主 原 因		操作未実施		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因		操作確認不十分						
	発生原因の状況：		トラックの荷台にあおりを超える高さ以上にペール缶を積載したが、ロープ固定等落下防止措置をせずに容易に落下しやすい状況であったため、危険物容器を積み込んだ事業所の敷地から左折して出ていく際にバランスを失い容器が落下した。						
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	人		本人の意識		思慮		配慮不足		
	関連原因の詳細								
	人		本人の意識		思慮		過信		
因	管理		リスクアセスメント		危険意識		危険に対する認識がない/不足		
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人 的 被 害							28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般道路上に漏えい。拡大なし。	
区分									
当 事 者	0	0	0	0					
防災活動従事者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし。	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
物質の被害状況： 第4類第4石油類の危険物が入ったペール缶1個が落下し、危険物が約20L漏えいした。									
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (5) 油吸着材で漏えいした危険物を吸着、回収した。						自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点									
行政措置	32 施設名	運搬車両				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無		
その他	営業所の所長及び運転手に対し、運搬の基準に適合するよう警告した。				内容： 消防法第16条 危険物の運搬の基準 (危険物の規制に関する政令第29条第3号 危険物の積載方法)				
35	今後の対策 や所見	本件事故の再発防止として運転手及び事業所長に対して再発防止策を講じるよう指導したが、他の事業者においても同様に危険物を運搬しているという意識が軽薄になっていないのか懸念される。 事故の未然防止を実現させることが予防行政の責務であると考え、今後も危険物の危険性を市民及び事業者認識させるよう継続的に指導を続ける。							

令和5年

1 事故名		運搬(持ち運び)中における第4石油類潤滑油の漏えい											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発生		8月 29日 9時 30分				推定・ 確定		4 発生見		8月 29日 9時 30分			
5 覚知		8月 29日 10時 00分				6 鎮圧 応急処置完了		8月 29日 9時 40分					
7 鎮火・処理完了		8月 29日 9時 40分											
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気象状況		天気：晴 風向：東 風速：2.5m/s 気温：31℃ 湿度：											
10 発生事業所		11 発生場所											
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態： 0 番 号 (11)		区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：											
		16 発生施設規制区分等											
		施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 潤滑油(タービン油) 1L 0倍											
12 施設装置		13 機器等 温度圧力： 名称：ドラム等容器 番 号 (201) 規 模：一斗缶(JIS規格サイズ、容量18L)											
名称：												番 号 ()	
能力：													
14 発生箇所		15 発生時											
名称：容器本体 番 号 (108)		材質：鋼鉄											
15 発生時		16 発生時											
運転状況：運搬中 番 号 (11)		作業状況：その他 番 号 (99)											
17 物質の区分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称：潤滑油(タービン油) (1L)											
18 取扱者の概要		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 2. 無											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無													
23 事故の概要： 運搬業者が、トラックの荷台から納品物であるタービン油の入った一斗缶を持ち運ぶため、荷台のあおりを下げた際に、一斗缶の角に空いた小さな穴からタービン油が1L程度流れ出て、トラックの荷台を伝って地面に漏えいしたものの。													
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他													

原因	25 主 原 因 破 損						着火原因						番号 ()	
	関 連 原 因 操作未実施													
	発生原因の状況： 積み下ろし時に、荷台のあおりの内側にある突起部(格納式ハンドル)が、一斗缶の角に接触して一斗缶が損傷する。その状態で運搬した後、現場であおりを下げたところ、損傷箇所からタービン油が漏油したもの。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層				
	破損			定常運転時			物質の落下・ぶつかりによる破損							
	関連原因の詳細													
	人		本人の意識				思慮				不注意			
因														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人 的 被 害										28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内の地面に潤滑油が1L程度漏えい。						
区分														
当 事 者	0	0	0	0										
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0										
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 特になし。						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 2 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類潤滑油1L漏えい。										
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人											
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人											
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	そ の 他	0 台 0 隻 0 機 0 人								損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)			
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99) 原因調査等の情報収集を実施する。								自衛防災・消防組織等 番号 (99、5) 通報については、職員が携帯電話により北消防署の受付に電話する。 初期対応及び緊急措置については、職員2名が吸着マットにより漏油処理を実施する。						
31 防災活動上の問題点														
行政措置	32 施設名					33 定期点検等				消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日				年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無				有・無				
	そ の 他	年 月 日				年 月 日				内容：				
35 今後の対策や所見		JRの支所から運搬業者へ、荷台のあおりを扱う際は、納品物に干渉しないように積み下ろしをするよう指導。												